平成２９年２月１６日　開会

平成２９年３月２１日　閉会

平成２９年３月定例会

美 作 市 議 会 会 議 録

平成２９年第２回３月定例会目次

◎　第１日（２月１６日開会）

1.　議　事　日　程……21
2.　出　席　議　員……22
3.　欠　席　議　員……22
4.　会議録署名議員……22
5.　出 席 説 明 員……22
6.　出席事務局職員……23
開　　会……24
散　　会……52

◎　第２日（２月２０日再開）

1.　議　事　日　程……53
2.　出　席　議　員……53
3.　欠　席　議　員……53
4.　出 席 説 明 員……53
5.　出席事務局職員……53
開　　議……54
延　　会…… 100

◎　第３日（２月２１日再開）

1.　議　事　日　程…… 101
2.　出　席　議　員…… 101
3.　欠　席　議　員…… 101
4.　出 席 説 明 員…… 101
5.　出席事務局職員…… 101
開　　議…… 102
延　　会…… 147

◎　第４日（２月２２日再開）

1.　議　事　日　程…… 149
2.　出　席　議　員…… 149
3.　欠　席　議　員…… 149
4.　出 席 説 明 員…… 149
5.　出席事務局職員…… 149
開　　議…… 150
延　　会…… 199

◎　第５日（２月２３日再開）

1. 議　事　日　程…… 201
2. 出　席　議　員…… 201
3. 欠　席　議　員…… 201
4. 出 席 説 明 員…… 201
5. 出席事務局職員…… 201
開　　議…… 202
延　　会…… 253

◎　第６日（２月２４日再開）

1. 議　事　日　程…… 255
2. 出　席　議　員…… 255
3. 欠　席　議　員…… 255
4. 出 席 説 明 員…… 255
5. 出席事務局職員…… 255
開　　議…… 257
散　　会…… 319

◎　第７日（３月２１日再開）

1. 議　事　日　程…… 321
2. 出　席　議　員…… 321
3. 欠　席　議　員…… 321
4. 出 席 説 明 員…… 321
5. 出席事務局職員…… 321
開　　議…… 322
閉　　会…… 373

◎　その他資料

代表質問…… 375
一般質問…… 376

平成２９年２月１６日

（第　　１　　号）

1. 議　事　日　程（初日）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年２月16日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　諸般の報告

日程第４　総務委員会委員長の中間報告について

日程第５　発議第１号　予算審査特別委員会設置について

日程第６　報告第１号　専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定）

日程第７　同意第２号　教育委員会教育長の任命について

同意第３号　教育委員会委員の任命について

日程第８　議案第１号　武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について

議案第２号　美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について

議案第３号　平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）

議案第４号　美作市情報公開条例の一部を改正する条例について

議案第５号　美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について

議案第６号　美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について

議案第７号　美作市広報審議会設置条例の制定について

議案第８号　美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について

議案第９号　美作市特別会計条例の一部を改正する条例について

議案第10号　美作市税条例等の一部を改正する条例について

議案第11号　美作市資金の積立てに関する基金条例の一部を改正する条例について

議案第12号　美作市英田就業改善センター設置条例の廃止について

議案第13号　美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について

議案第14号　美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について

議案第15号　美作市獣肉処理施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について

議案第16号　美作市簡易水道事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について

議案第17号　市道路線の認定について

議案第18号　美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について

議案第19号　美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について

議案第20号　権利擁護事業の事務の委託を受けることについて

議案第21号　相互救済事業の委託について

議案第22号　平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）

議案第23号　平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）

議案第24号　平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）

議案第25号　平成28年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）

議案第26号　平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）
議案第27号　平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）
議案第28号　平成28年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）
議案第29号　平成28年度美作市武蔵の里特別会計補正予算（第１号）
議案第30号　平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）
議案第31号　平成28年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）
議案第32号　平成28年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）
議案第33号　平成29年度美作市一般会計予算
議案第34号　平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算
議案第35号　平成29年度美作市介護保険特別会計予算
議案第36号　平成29年度美作市簡易水道特別会計予算
議案第37号　平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
議案第38号　平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算
議案第39号　平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算
議案第40号　平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算
議案第41号　平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算
議案第42号　平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算
議案第43号　平成29年度美作市水道事業会計予算
議案第44号　平成29年度美作市病院事業会計予算
議案第45号　平成29年度美作市下水道事業会計予算

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	金谷　典子	２番	重平　直樹
３番	安藤　　功	４番	安本　博則
５番	谷本　有造	６番	則本　陽介
７番	萬代　師一	８番	尾髙　誉久
９番	岡﨑　正裕	10番	西元　進一
11番	本城　宏道	12番	鈴木　悦子
13番	岩江　正行	14番	小渕　繁之
15番	万殿　紘行	16番	日笠　一成
17番	山本　重行	18番	山本　雅彦

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 会議録署名議員

17番	山本　重行	１番	金谷　典子

5. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（24名）

市長	萩原　誠司	副市長	安部　　薫
副市長	横山　博光	教育長	大川　泰栄
政策審議監	福原　　覚	総務部長	山本　直人
危機管理監	山本　和毅	企画振興部長	池田　義和
総合戦略監	森分　幸雄	市民部長	安藤　郁雄

環境部長	妹尾昌弘	経済部長	尾崎功三
保健福祉部長	江見勉	建設部長	真野弘紀
教育次長	山名浩二	消防長	山崎正雄
会計管理者	安東弘子	総務課長	春名竜也
秘書課長	春名利亮	産業振興課長	横林義和
市民課長	戸國久美	会計課長	山森和幸
秘書課長	春名利亮	観光振興課長	春名信明

6. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	本田卓治
課長	大佛裕彦
主任	井上大佑

午前10時00分　開会

議長（山本　雅彦君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止をされております。

今定例会中、報道機関より取材のため録音したいとの申し出がありましたので、これを許可いたしております。なお、携帯電話、パソコン、その他電子機器の電源はお切りください。傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

定刻が参りましたので、ただいまより平成29年第２回３月美作市議会定例会を開会いたします。

本日は全員の出席であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

今定例会に説明員が随時出席をいたしますので、これを許可いたしております。

ここで教育長より発言を求められておりますので、これを許可いたします。

教育長。

教育長（大川　泰栄君）

議会の開会に当たり、一言おわびを申し上げたいと思い、発言の許可をおとりさせていただきました。

先週２月12日の日曜日の夕方、美作市内小学校におきまして、個人情報を含むいろいろな情報が車上の盗難に遭うという事態が発生をいたしました。

県を挙げて、市を挙げて不祥事防止に取り組んでいるさなかにこのようなことが起こり、市民の皆様に非常に御心配をかけ、まことに申しわけございません。

今後は研修の徹底等、さらに学校にも指導を十分にいたしまして、再発防止に取り組んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

日程第１　　会議録署名議員の指名

議長（山本　雅彦君）

続いて、日程第１、「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により17番山本重行議員、１番金谷典子議員を指名いたします。

日程第２　　会期の決定

議長（山本　雅彦君）

日程第２、「会期の決定」を議題といたします。

先般、本定例会の運営について議会運営委員会が開催をされておりますので、委員長報告を受けます。

小渕議員。

１４番（小渕　繁之君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

ただいまから議会運営委員会の委員長報告を行います。

去る２月７日午前10時から、また本日９時半から、議長、委員、市長、副市長、政策審議監、担当部長出席のもと、議会運営委員会を開催し、３月定例会の運営について協議をいたしましたので、その結果を報告いたします。

まず、会期につきましては、本日２月16日から３月21日までの34日間とし、会議日程は既にお手元に配付のとおりであります。

次に、市長から送付された議案は、専決処分の報告１件、人事案件２件、指定管理者の指定案２件、条例の制定案２件、廃止案１件、一部改正案10件、市道路線の認定案１件、計画の変更案２件、事業の委託案２件、補正予算12件、当初予算13件の以上48件であります。

議員からの議案は、予算審査特別委員会設置についての１件です。なお、この発議は、議会運営委員会の発議で行います。

本日の１日目は、諸般の報告、総務委員会の委員長報告を経まして、議案上程の後、市長による所信表明、議案の提案説明を受け、即決案件のみ委員会付託を省略し、質疑、討論、採決といたします。

続いて、２日目の２回目の２月20日から２月24日までの５日間を代表質問、一般質問及び議案質疑を予定しております。なお、議案質疑終了後は、各議案を委員会付託といたします。

最終日は３月21日とし、各委員長報告、報告に対する質疑を受けた後、討論、採決といたします。

次に、質問についてでありますが、申し合わせに基づいて行っていただきます。代表質問は、発言の順番は通告順であり、一括質問とし、質問回数は３回までで、質問時間は45分であります。一般質問につきましては、発言の順番は通告順であり、質問の回数は１通告事項で３回までで、質問時間は45分であります。

議案質疑については、通告期限を２月20日午後５時までといたします。

なお、通告をしない者の質疑は、通告した者の後に行うこととし、１議案につき１件といたします。各議案は委員会付託されますので、所属委員会に属する質問は控えていただきますようお願いいたします。

次に、請願・陳情については、２月６日までに受理した請願２件、陳情５件であり、委員会付託し審議いたします。

予備日は、２月17日、27日とし、休会日は、２月28日、３月１日、10日、13日、15日から17日としております。

以上で議会運営委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

議会運営委員長の報告が終わりました。

お諮りをいたします。

ただいま議会運営委員長の報告がありましたように、本定例会の会期を本日16日から３月21日までの34日間と決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。よって、本定例会の会期は本日16日から３月21日までの34日間と決定をいたしました。

日程第３　　諸般の報告

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第３、「諸般の報告」を行います。

例月出納検査の結果報告書、平成28年度定期監査結果報告書（第１次）はお手元に配付しております資料をもって報告にかえます。

次に、一部事務組合議会については、美作養護老人ホーム組合議会、勝英衛生施設組合議会、勝英農業共済事務組合議会の３組合議会からお手元に配付いたしております資料をもとに報告を行います。

まず最初に、美作養護老人ホーム組合議会、小渕繁之議員より報告をいたします。

小渕議員。

１４番（小渕　繁之君）

それでは、平成29年第１回美作養護老人ホーム組合議会の諸般の報告をいたします。

去る２月２日午後２時30分より、作東総合支所委員会室におきまして開催されました平成29年第１回美作養護老人ホーム組合議会定例会について報告させていただきます。

今定例会への出席議員は８名の出席でありました。

上程されました議案は７件で、全て原案のとおり承認、可決いたしました。

主な内容といたしましては、まず承認第１号「専決処分の承認を求めることについて」は、美作養護老人ホーム組合作東寮訪問介護事業所の設置等に関する条例の一部を改正する条例で、これは、指定管理者制度に移行するに当たり、同条例を改正する必要が生じたため、地方自治法第179条第１項の規定により専決処分するものであります。

次に、議案第１号「美作養護老人ホーム組合公益法人等への職員派遣等に関する条例の制定について」は、指定管理者制度に移行するに当たり、組合職員を派遣し、施設運営を円滑に進めるため制定するものです。その内容は、美作市公益的法人への職員の派遣等に関する条例の規定を準用するもので、この場合において、市長とあるのは管理者、美作市とあるのは組合と読みかえるものです。

次に、議案第２号「平成28年度養護老人ホーム会計補正予算（第２号）」では、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ734万8,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１億4,545万4,000円と定めるものです。内訳は、歳入では、サービス収入315万3,000円、市町村支出金419万5,000円を減額し、歳出では、民生費650万円、予備費84万8,000円を減額するものです。

次に、議案第３号「平成28年度訪問介護事業特別会計補正予算（第２号）」では、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ100万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4,468万円と定めるものです。

内訳は、歳入では、事業収入100万円を減額、歳出では、事業費50万円、予備費50万円を減額するものです。

続きまして、議案第４号「平成29年度養護老人ホーム会計」では、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１億4,048万1,000円と定めるものです。内訳は、歳入では、サービス収入5,143万9,000円、分担金及び負担金495万2,000円、市町村支出金7,367万8,000円、繰越金500万円が主なものです。歳出では、民生費１億3,308万8,000円、公債費505万3,000円、予備費200万円が主なものです。

次に、議案第５号「平成29年度特別養護老人ホーム会計予算」では、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１億8,110万4,000円と定めるものです。

勘定別の内訳では、作東寮勘定では、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１億6,343万2,000円と定め

るもので、その内訳は、歳入では、サービス収入１億3,765万6,000円、繰入金1,000万円、繰越金1,500万円が主なもので、歳出では、民生費１億6,193万6,000円、予備費100万円が主なものです。

また、やすらぎ荘勘定では、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,767万2,000円と定めるもので、その内訳は、歳入では、繰入金100万円、繰越金60万円、諸収入1,600万1,000円が主なもので、歳出では、民生費115万7,000円、公債費1,530万5,000円、予備費114万円が主なものです。

次に、議案第６号「平成29年度訪問介護事業特別会計予算」では、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ3,514万9,000円と定めるもので、内訳は、歳入では、事業収入3,360万円、繰越金150万円が主なもので、歳出では、事業費3,408万9,000円、予備費100万円が主なものです。

以上で平成29年第１回美作養護老人ホーム組合議会の定例会の報告とさせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

続きまして、勝英衛生施設組合議会、萬代師一議員より報告をいたします。

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

皆さんおはようございます。

それでは、去る２月６日午前11時より、勝央町役場３階議場におきまして開催をされました平成29年第１回勝英衛生施設組合議会定例会について報告をさせていただきます。

今定例会への出席議員は14名で、２名の欠席でありました。

上程された議案は、平成29年度予算の１件でありました。

冒頭管理者の挨拶があり、施設の管理運営状況として順調に推移しておりますが、勝央町公共下水道使用料金を改定率約21％、１立方メートル当たり税別で30円の値上げにより、下水道使用料が459万4,000円の増額など、当初予算につきまして、対前年比350万円の増額予算でありますが、各市町村への負担を少しでも抑えた予算編成にしているとの挨拶があり、続きまして会議録署名議員の指名、会期の決定を経て議案審議に入りました。

主な審議内容といたしまして、議案第１号「平成29年度勝英衛生施設組合一般会計歳入歳出予算について」でございますが、主な内容は、歳入予算の総額を歳入歳出それぞれ１億1,400万円と定めるものであります。内容につきましては、歳入では、分担金及び負担金１億500万円、財産収入３万5,000円、繰越金893万4,000円、諸収入３万1,000円とするものであります。歳出におきましては、議会費70万2,000円、総務費4,130万6,000円、衛生費7,086万9,000円、公債費10万円、諸支出金２万3,000円、予備費100万円とするものであります。

上程されました議案につきましては、出席議員全員の賛成により原案のとおり可決されました。

以上、平成29年第１回勝英衛生施設組合議会定例会の報告とさせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

続きまして、勝英農業共済事務組合議会、岡﨑正裕議員より報告をお願いいたします。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

皆さん、改めましておはようございます。

勝英農業共済事務組合議会定例会の報告については、前回の平成28年第２回の組合議会定例会について、さきの12月定例会で報告ができていませんでしたので、今定例会では前回と今回の２回分の報告をさせていただきます。

それでは最初に、去る11月22日午後１時より、勝央町役場３階議会議場におきまして開催されました平成28年勝英農業共済事務組合議会第２回定例会について報告をさせていただきます。

定例会への出席議員は１名欠席の15名出席のもと、上程された議案は３件でありました。

主な審議内容といたしまして、議案第７号「専決処分の承認を求めることについて」は、岡山県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び岡山県市町村総合事務組合規約の変更の承認を求めるもので、平成28年３月31日をもって津山圏域東部衛生施設組合及び津山圏域西部衛生施設組合が解散したことに伴い、当該組合が脱退することを承認するとともに、それに伴い、岡山県市町村総合事務組合規約を変更するものでございます。

次に、議案第８号「勝英農業共済事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」は、当組合においては、管理者の自治体の職員給与に関する条例を準用する定めになっており、平成28年３月28日付で公布された勝央町の管理職手当に関する規則の改正で、勝英農業共済事務組合管理職手当に関する規則を平成28年４月20日付で改正したことに伴い、勝英農業共済事務組合職員の給与に関する条例の該当条項を改正するものです。

次に、議案第９号「平成27年度勝英農業共済事務組合農業共済事業会計決算認定について」でございますが、主な内容は、勘定別では、農作物共済勘定では、歳入総額1,372万982円、歳出総額1,363万1,305円となり、歳入歳出差し引き額は８万9,677円でありました。

家畜共済勘定では、歳入総額１億8,568万4,040円、歳出総額１億8,416万3,315円となり、歳入歳出差し引き額は152万725円でありました。

果樹共済勘定では、歳入総額14万4,120円、歳出総額10万1,865円となり、歳入歳出差し引き額４万2,255円でありました。

畑作物共済勘定では、歳入総額が456万731円、歳出総額424万3,580円となり、歳入歳出差し引き額31万7,151円でありました。

園芸施設共済勘定では、歳入総額75万1,085円、歳出総額62万9,826円となり、歳入歳出差し引き額12万1,259円でありました。

業務勘定では、歳入総額１億2,058万3,695円、歳出総額１億2,058万3,695円となり、歳入歳出差し引き額０円でありました。

なお、各勘定における剰余金については、積立金に積み立てられます。

上程されました３議案は、それぞれ原案のとおり承認、可決または認定をされました。

以上が、平成28年勝英農業共済事務組合議会第２回定例会の報告であります。

続きまして、２月６日午後１時より、勝央町役場３階議場におきまして開催されました平成29年勝英農業共済事務組合議会第１回定例会について報告をさせていただきます。

今定例会への出席議員は２名欠席でございまして、14名出席のもと、上程された議案は６件でありました。

主な審議内容といたしまして、議案第１号「勝英農業共済事務組合農業共済条例の一部を改正する条例」については、麦共済細目書は、共済責任期間の開始日、これは発芽期でございますが、提出するものですが、現行の提出期限が発芽期よりも遅く、実情に合わせた提出期限に変更するため改正するもので、同条例第32条第１項中の11月30日を11月10日に改めるものであります。

議案第２号「平成29年度果樹共済無事戻しについて」は、平成25年度から27年度までの３カ年の引き受けた農家の３名が対象となり、総額２万7,354円を交付するものであります。

次に、議案第３号「特別積立金取り崩しについて」は、平成29年度の損害防止事業に係る助成金に充てるため、農作物特別積立金の取り崩し額を921万6,756円以内に設定するものです。

議案第４号「平成29年度勝英農業共済事務組合農業共済事務費の賦課総額及び賦課単価について」は、勝英農業共済事務組合共済条例により、水稲、麦、家畜、果樹、畑作物、園芸施設の事務費の賦課総額を１万8,207円とし、事務費の賦課単価については、平成28年度と変更しない内容でありました。

議案第５号「平成28年度勝英農業共済事務組合農業共済事業会計補正予算（第１号）」については、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1,745万5,000円減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億4,185万4,000円と定めるもので、決算見込みにより各勘定ごとに増減の補正をされておりました。

議案第６号「平成29年度勝英農業共済事務組合農業共済事業会計予算」については、内容は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億7,333万円と定めるもので、予算規模において、前年に比べ約４％の増額予算となっております。

この中で議案質疑が補正予算でありましたので、報告いたします。

補正予算の中で大豆の共済について、天候が不順になったことから、後から被害が出てくるんではないかという質疑がございまして、答弁のほうは、１月の雪の積雪のことだと思いますが、それ以降被害申告は出ていないという答弁でございました。

それから、被害調査の時期ということの質疑がございまして、これは旧大原町あるいは勝央町におきましては、地区の関係でずれてくるというような質問がございまして、調査の時期はどうなっておるのかという質疑がございました。それにつきましては、白大豆が10月の刈り取る前にやっておる、黒大豆につきましては、11月半ばの大体一月おくれであるということでございました。それから、旧大原町と勝央町の関係でございますが旧大原町は勝央町に比べ、評価の時期が若干早いということで、職員がそのように、時期が早いんですけども、ずれるんですけれども、それについては職員が対応しておるということでございました。

上程されました議案については、６議案全てにおいて原案のとおり可決されました。

以上、平成29年勝英農業共済事務組合議会第１回定例会の報告とさせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

以上で諸般の報告を終わります。

次に、市長から送付されております議案の送付書につきましては、お手元に配付しておりますのでごらんください。

日程第４　　総務委員会委員長の中間報告について

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第４、「総務委員会委員長の中間報告について」を議題といたします。

総務委員会委員長より中間報告をしたいとの申し出があります。

お諮りをいたします。

本件は申し出のとおり報告を受けることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。したがって、総務委員会委員長の中間報告を受けることに決定をいたしました。

則本総務委員長。

〔「頑張って」と呼ぶ者あり〕

６番（則本　陽介君）

ただいまから総務委員会委員長の中間報告を行います。

去る２月９日午前10時から、議員控室において、委員全員、副市長、政策審議監、各担当部長、担当職員出席のもと、総務委員会を開催し、２月臨時会において付託された同意第１号について審議いたしましたので、その中間報告をいたします。

まず初めに、執行部からの説明を受け、その後質疑を行いました。

また、同意第１号の審議については、地方自治法第197条の２第１項に基づき、公聴会を開催する必要があるため、公聴会の開催日程等についても協議、決定いたしました。

それでは初めに、質疑の主な内容ですが、委員より、この資料は全て信用できるのか、取り下げなどないのかとの質問に、執行部より、議案として出している部分と参考資料として出している部分ですが、主な内容については、誤字があるとすれば別だが、参考となるものと考えているとの答弁。

委員より、本当にこの時間にアクセスしていることに間違いがあるのかないのかとの質問に、執行部より、資料２の１から２の４までは機械から打ち出したデータなので間違いないと思っているとの答弁。また、詳細について、企画情報課より、２の４のデータは業務用パソコンを管理するサーバーの中に残っていたアクセス記録ですので、年月日、アクセス時刻、接続先のＵＲＬの３つについては機械に残っていたものそのものですから間違いございません、ただ右の継続して閲覧した時間につきましては、下にも書いてありますが、離席した時間30分を超えるものについては、離席の可能性があるとか、このサイトから次の別のサイトへ飛んだ場合の閲覧時間は除外しており、そこが白抜きで継続した閲覧時間と書いてない部分であり、ここは推計値として出しております。資料２の１から２の３については、このデータをもとに当課において分析をしてもので、パソコンの機械的な処理によって人がやっておりますが、その数字等に誤差はありません。ただ、資料の２の２、議会日程や監査日程については事前に公表される日程を入れているので、実際に議会や監査が行われた日とはずれがある可能性があります。棒グラフのアクセスした回数については、残っていたデータを機械的に処理しているので間違いありませんとの答弁。

委員より、曜日ごとのアクセスの中で、10月７日に12回アクセスしているが、私が調べた中では、休まれている。本人に確認しても、休んでいる、これは間違いないのかとの質問に、執行部より、資料２の４の54ページの下から３行目が10月７日のアクセス記録ですが、９時25分から９時30分までの約５分間のみの記録で、これに間違いはありませんとの答弁。

委員より、休んでいるのにそのパソコンからアクセスできるのか、第三者が成りかわってパソコンを開いてアクセスした可能性はないのかとの質問に対し、執行部より、パソコンの立ち上げにはユーザーのＩＤとパスワードが必要であり、第三者が行うことは基本的にはできませんとの答弁。

委員より、ゼロのところと0.1秒の説明をとの質問に、執行部より、資料２の４の１ページで、継続して滞在した時間で表示をしていますが、参考例として、５月30日の12時34分58秒、これから12時33分22秒、その前の直前のアクセス、これを引いた１分36秒を継続して閲覧した時間としております。この間に別のサイトに飛んでいったものは空欄にしています、一番上の11時00分37秒が３つ並んでいる場合は、これについては短時間に１つのホームページの中を３回クリックされたと推測されます。そのため、これについては、引き算をしたらゼロ秒、次に数字が上がってくるのが41秒から37秒を引いた４秒ということですとの答弁。

委員より、クリックしただけでカウントしているのかとの質問に、執行部より、3,880回のカウントについては、左側の２行、日にちとアクセス時刻、ここのデータの数です、こちらは一般にパソコンの左クリッ

クをしてアクセスした回数です、サイト内でクリックした回数が3,880回ですとの答弁。

委員より、3,880は、アクセス時刻が3,880あるのか、それとも右の何秒か出ているのが回数なのかとの質問に、執行部より、回数については、左クリックをした回数ですので、アクセス時刻の左から２行目のデータの数ですとの答弁。

委員より、例えば最初の５月30日11時37秒が２回あるが、この秒数からしたら、閲覧しているのかしていないのかわからないのではないかとの質問に、執行部より、一般的にはマウスをクリックしているときには画面を見ているので、それは閲覧していると考えるのが通常だと思いますとの答弁。

委員より、10月７日の説明をもう一度してほしいとの質問に、執行部より、パスワードを本人に与えていますので、本来本人しか開かないので、休みのときに来られたかどうかまでは監視カメラもないのでわかりませんとの答弁。

委員より、委員会が慎重にやらないとこれは人権問題で、もし間違った判断をした場合、もし証拠を持って訴訟を起こされたときに、この資料を参考に審議して賛成したとなると、この参考資料が覆ったら、資料を十分にチェックしなかった私たちの責任を問われることになる、だから聞いているとの質問に、執行部より、当日は休みだと言われましたが、休みだったから、絶対に来ていないとか来ているとかは監視カメラがあるわけではないのでわかりませんが、来てさわらない限りは開きませんから、そこだけはっきり言っておきますとの答弁。

委員より、本会議の答弁の中で、まず４階からパソコンを調べているということだが、５月30日から11月30日までの分析をするのにどれぐらいの日数がかかったのか、また今現在それ以外のパソコンは何台目の分析をしているのかとの質問に、執行部より、今回の案件を提案するに当たり、調査を行ったのは４階の監査事務局、議会事務局の８台のパソコンの記録を解析しました。私的なサイトへのアクセスが早期に確認でき、それ以降はそのサイト先へのアクセス状況、この膨大な資料を作成するために時間を要していますので、この間他の作業はとまっていましたが、現在は一般の業務用パソコンが395台ありますので、これらについて順次調査を行っている途中でありますとの答弁。

委員より、４階の他の７台について、私的にアクセスしたパソコンはなかったのかとの質問に、執行部より、４階の８台のパソコンのアクセス先を累計でまとめ、その中で当該ブログへのアクセスが異常に多いということが発覚し、どの端末が多いか確認したところ、代表監査委員のアクセス回数が異常に多かったということと、そのサイトは個人が開設しているサイトで、私的なサイトへのアクセスという判断で、その後はその調査、解析に業務を集中させましたとの答弁。

委員より、監査委員が立ち上げているので、ブログで監査委員が情報収集するために見たものもあるかもしれない、職員はそういうブログを見ていないのかとの質問に、執行部より、他の職員は見ています、しかしこちらは執行部側の判断としては、業務上必要な情報収集であると、他の自治、他の情報や監査委員の考え方を見るためなど、公的なアクセスと考えているとの答弁。

委員より、職員が職務上なら、監査委員も職務ではないのか、監査委員が私的だというなら、職員も私的ではないのかとの質問に、執行部より、チェックの立ち位置が職員の場合はものの見方が違う、この関係については、本人が立ち上げているブログの反応のことで、個人の延長線を職場で勤務時間中にしている、これについては、個人的な判断ではなく、機械が全てあらわしている数字が全てであるとの答弁。

委員より、回数そのものはたくさんあるが、これが判明した時期がいつごろだったのか、例えば５回、10回の範囲であれば注意して済む話かもわからないが、そういった時間的な余裕があったのかなかったのかとの質問に、執行部より、11月の末に命を受け、12月の初旬にはある程度の疑問点が見つかっております、

このことについて上の方に相談し、注意するレベルではなかろうと、今回の議案の提案のようなことであるとの判断でありましたとの答弁。

次に、質疑終了後、公聴会の開催について、日程等の事項について決定いたしましたので、それについて報告いたします。

まず、公聴会の開催は３月10日金曜日の午前10時から、場所は美作市民センター３階の大研修室で行います。公述人を公募する公示は、公示に伴う準備ができ次第行い、公述人の申し出の締め切りは２月24日金曜日の午後５時までとし、２月27日月曜日に公述人の決定をいたします。

以上で総務委員会委員長の中間報告といたします。

議長（山本　雅彦君）

以上で総務委員会委員長報告を終わります。

日程第５　　発議第１号「予算審査特別委員会設置について」

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第５、発議第１号「予算審査特別委員会設置について」を議題とし、提案者の説明を求めます。

小渕議員。

１４番（小渕　繁之君）〔登壇〕

発議第１号「予算審査特別委員会設置について」。

〔以下朗読〕

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、質疑を終了いたします。

本件は、美作市議会申し合わせ事項及び会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。よって、発議第１号「予算審査特別委員会設置について」は委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

これより討論を行います。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

発議第１号「予算審査特別委員会設置について」、本案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、発議第１号は原案のとおり可決されました。

ただいま設置されました予算審査特別委員会につきましては、委員の定数が18名となっておりますので、議員全員となります。

続きまして、委員長、副委員長の選任ですが、委員の構成が議員全員ということでございますので、本日議会終了後に予算審査特別委員会を開催し、委員長、副委員長を決定したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。それでは、予算審査特別委員会を本日議会終了後に開催をいたします。委員長、副委員長につきましては、後日報告をいたします。

ただいまから10分間休憩いたします。

午前10時51分　休憩

午前11時01分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続いて会議を開きます。

日程第６　報告第　１号「専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定）」

日程第７　同意第　２号「教育委員会教育長の任命について」

同意第　３号「教育委員会委員の任命について」

日程第８　議案第　１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」

議案第　２号「美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について」

議案第　３号「平成２８年度美作市一般会計補正予算（第５号）」

議案第　４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」

議案第　５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」

議案第　６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」

議案第　７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」

議案第　８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」

議案第　９号「美作市特別会計条例の一部を改正する条例について」
議案第１０号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」
議案第１１号「美作市資金の積立てに関する基金条例の一部を改正する条例について」
議案第１２号「美作市英田就業改善センター設置条例の廃止について」
議案第１３号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」
議案第１４号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」
議案第１５号「美作市獣肉処理施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」
議案第１６号「美作市簡易水道事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」
議案第１７号「市道路線の認定について」
議案第１８号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」
議案第１９号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」
議案第２０号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」
議案第２１号「相互救済事業の委託について」
議案第２２号「平成２８年度美作市一般会計補正予算（第６号）」
議案第２３号「平成２８年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」
議案第２４号「平成２８年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」
議案第２５号「平成２８年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」
議案第２６号「成２８年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」
議案第２７号「平成２８年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」
議案第２８号「平成２８年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」
議案第２９号「平成２８年度美作市武蔵の里特別会計補正予

算（第１号）」
議案第３０号「平成２８年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）」
議案第３１号「平成２８年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」
議案第３２号「平成２８年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」
議案第３３号「平成２９年度美作市一般会計予算」
議案第３４号「平成２９年度美作市国民健康保険特別会計予算」
議案第３５号「平成２９年度美作市介護保険特別会計予算」
議案第３６号「平成２９年度美作市簡易水道特別会計予算」
議案第３７号「平成２９年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」
議案第３８号「平成２９年度美作市公園墓地事業特別会計予算」
議案第３９号「平成２９年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」
議案第４０号「平成２９年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」
議案第４１号「平成２９年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」
議案第４２号「平成２９年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」
議案第４３号「平成２９年度美作市水道事業会計予算」
議案第４４号「平成２９年度美作市病院事業会計予算」
議案第４５号「平成２９年度美作市下水道事業会計予算」

議長（山本　雅彦君）

続いて、日程第６、報告１件、日程第７、同意２件、日程第８、議案45件、報告第１号、同意第２号から第３号、議案第１号から第45号を一括議題といたします。

なお、日程第６から第７につきましては、即決案件としてお諮りをする予定でございます。

この際、市長から所信表明を求めたいと思います。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

皆さん、改めておはようございます。

平成29年３月美作市議会定例会の開催に際しまして、市政の現状に対する認識と今後の市政運営について、所信の一端を申し上げたいと存じます。

まず、当市の人口動態について、住民基本台帳における人口動態では、平成17年３月末の３万4,185人か

ら昨年３月末が２万8,980人と11年間で5,205人が減少いたしました。特に昨年度は624人の減少となり、例年を大きく上回る数値に危惧を抱いておりましたところ、今年度につきましては、１月末時点におきまして324人の減少ということで、減少幅が改善をしているというふうに考えているところでございます。

次に、財政の状況でございますけれども、平成26年から取り組んでいる財政の総点検におきまして、年を重ねるごとに各種の指標の改善が見てとられる状況になってございまして、今後の収支見通しも地方交付税の一本化、いわゆる一本算定が始まる平成32年度においても、収支不足は生じないというふうに見込まれる状況になっておりまして、今後とも頑張ってまいりますが、当面無駄を廃した予算編成に心がけた成果が数字になってあらわれているというふうに報告を申し上げておきたいと存じます。

３点目に、教育につきましては、昨年の全国学力・学習状況調査で、小学校は、全ての科目が全国平均を上回り、調査の始まった平成24年度以降最高の成績となりました。中学校は、全国平均にはもう少し達しておりませんけれども、全体的に正答率の伸びが見られるなど、改善傾向が顕著であります。

また、県の教育委員会が主催をする、いわゆる頑張る学校応援事業におきまして、昨年は大原小学校と江見小学校が選ばれましたけれども、事業開始後３年間で美作市内から５校が選ばれるという県内では飛び抜けたよい状況となっており、学校及び教育委員会など、現場の皆様そして地域の皆さんの思いや努力が実を結びつつあるというふうに心から歓迎をいたしておる次第であります。

それでは、続きまして平成28年度最終補正予算、平成29年度当初予算、その他の予算関連の事項について申し上げたいと存じます。

まず、平成28年度最終補正予算につきましては、歳入歳出それぞれ２億8,933万円を減額をして、予算総額を201億1,669万円といたしまして、歳出において、１月の大雪で除雪費が底をついたことなどに対応しまして1,200万円を上積みをいたしておりますが、全体的には国・県からの資金を獲得しての財源更正等を行った結果、公共施設整備基金に２億9,115万円を積み立てた上での、いわゆる黒字決算型の減額補正とすることができた次第でございます。

次に、平成29年度一般会計予算につきましては、財政状況の好転を背景に、１、行政懇談会、ＰＴＡとの懇談会等で出された市民の皆様方の要望の反映、そして②スポーツ医療看護学校の建設補助、湯郷幼児園建設事業及び最終処分場の建設など、懸案事業が進展するということになりました。こういう理由によりまして、今年度は対前年度比に14億3,100万円増の総額210億4,600万円程度にしたいというふうに考え、御提案をしているわけでございます。

具体的な内容でございますけれども、まず初めに市民アンケートを議会とも御相談の上、昨年とらさせていただきましたけれども、この中で要望の高かった項目に対応する目的で、今年度から新たに開始する美しい里山公園、地方交付税確保等財源の市民還元事業等の中には、いわゆる電気代の節減、その他も入っておるわけでございますけれども、略して里山公園と市民還元事業というふうに申し上げておきますが、これについて詳細をお話をさせていただきたいと存じます。

その中で、子育て世代への支援ということが望まれておりましたが、これに関しましては、出産祝い金支給事業、これを始める、それから電子親子手帳サービス事業等の新たな事業に取り組むとともに、小学校の低学年を対象とした発達支援教室の開催、そして岡山県初になりますけれども、３歳、４歳児からの発達支援のためのスクリーニング検査事業の開始、また幼稚園の預かり保育料の限度額を見直して、利用者の負担を軽減するなど、子どもたちの健全な成長と子育て世代の支援に努めてまいりたいと考えております。

なお、交通関係でございますけれども、これも強い要望がございまして、公共交通空白地帯の交通弱者対策として、タクシー料金の一部補助を来年度から行いたいというふうに考えております。これは、とりあえ

ずは実証実験としての取り組みでございまして、活用状況を十分に把握をし、その後市内全域に一定の工夫をしながら広げ、高齢者の方々の負担軽減あるいは免許返納に対する対応等も考え、さらには障がい者の方々の福祉の向上といった観点からもこの制度の拡充をしていけるように努力をしていきたいというふうに考えるところでございます。

以上がいわゆる市民アンケートということに端を発した事業でございます。そして、この市民アンケートに発した事業、里山公園と市民還元事業の総額は、29年度におきましては約3,000万円弱になると考えております。そして、介護保険料の軽減というものについても強い要望があったわけでございますけれども、本件につきましては、介護保険料の改定が平成30年度に予定をされておりますので、そのタイミングで実施ができるように今後制度の設計をしてまいりたいというふうに考えておりますが、恐らくこちらのほうに相当金額が張るものというふうには見込んでいるところでございます。

なお、美しい里山公園整備の賃貸契約の状況でございますけれども、多数の地権者の皆さんの御賛同をいただきまして、官庁を含めた予定面積は、この原稿をつくった時点でございますと約314ヘクタールということになる見込みでございまして、都市公園による交付税は、平成30年度で１億円程度というふうに想定をしております。一方、29年度の整備費は、前年並みの8,000万円弱を予定してございまして、地域合意が調ったエリアから順次御意見を取り入れながら、地域活動や防災活動にプラスとなるような景観整備を進めていきたいというふうに考えてございます。

それでは、続きまして新たな事業や新年度予算において拡充する事業を中心に、順次お話を進めてまいりたいというふうに思います。

１点目といたしましては、市民の皆様の声なき声を市政に反映するということでございますけれども、昨年市道の維持管理ということについて、市民の方々の御意見を反映をして、増額予算を計上いたしましたけれども、行政懇談会では、引き続き多くの意見がこの市道の維持管理についてございまして、さらにそういうことを考えまして、対前年比で約３割増の１億6,200万円を計上いたしました。あわせて、これも市民の方々の御意見でございますけれども、歩行者並びに自家用車等の安全で円滑な交通環境を確保するために、真っ白い白線事業というものを３カ年計画で行ってまいりたいと存じます。例えば市役所本庁の前の市道につきましても、真ん中の白線はほとんど消えている、路側の白線も余り見えない、こういう状況が各地に点在をしておりまして、安全を確保する上で、美作市に来れば白線が白いというふうにする、そういう意味で真っ白い白線事業という命名がされたわけであります。

また、トイレの新和式化計画につきましては、３年目を迎えまして、小・中学校、体育施設などの７施設を改善をして、成果の検証を行った上で、次年度以降の必要性を検討いたしたいと思っております。

２点目に、安全で安心して暮らせる福祉の充実、これに関する事業についてでございますけれども、まず学校法人大阪滋慶学園の（仮称）美作市スポーツ医療看護専門学校は、看護師等養成学校誘致事業として施設整備の補助を行います。学生用のアパート等の整備など、相談会の開催も予定されてございますが、高齢化している地域に若者の声が響くようになり、経済的にも波及効果が期待をされております。また、新しい学びの場ができることで、市外に流出をしていた若者たちが美作市にとどまってくれることを心から期待をしているところであります。

防災対策でございますけれども、有線の告知放送から無線での対応に変更するため、携帯電話網を利用した屋外拡声器の整備に向けての実施設計、緊急情報のメール配信の開始など、いわゆるＩＰ無線システム整備及び関連事業に取り組み、大規模地震などのいわゆる大災害においても対応できる緊急情報伝達システムの構築を、これは議会とも随分相談をいたしましたけれども、具体的に進めてまいりたいと考えておりま

す。また、昨年の熊本地震あるいは鳥取地震等の被害の状況も踏まえて、大原断層に近接する大原保育園の移転新築の基本計画を29年度で策定をしたいというふうに考えております。

若者のための社会生活力向上、子育てと就労両立の支援として、ニート、ひきこもり等、若者就労支援事業、そして病児・病後児保育事業、要保護児童対策事業など、引き続き実施をしてまいります。また、湯郷に建設中の湯郷幼児園につきましては、今年の秋の開園に向けて、昨年から順調に工事が進んでいるところでございます。

昨年から取り組みました自治創生事業につきましては、国版の地方創生に対応して、市内でのいわゆる自治振単位での創生事業でございますけれども、大変に好評でございまして、そして行政懇談会などにおいても、事業を平成29年度においても継続をしてほしいという要望が強く出ておりますことから、集会所等耐震補強対策補助金、防犯カメラ設置支援事業とともに、引き続き実施をし、新規事業としてこれに加えて、危険空き家等の除去事業補助金を加えて、地域の活性化と安心・安全の支援に努めていきたいと考えております。

３点目でございますが、個性を伸ばす教育、文化、芸術の充実という項目に関しましては、地方創生事業を有効活用して、看護師等養成学校と通信制高校及びサッカースクールの開設支援や、女子ラグビーなどの合宿の補助など、トップアスリートとの交流をまず進めていきたい、そう考えております。

学校関係では、小・中学校特別支援教室エアコン設置事業、そしてスクールバス整備事業及び美作北小学校体育館改修事業など、教育施設の改善を実施させていただきたいと存じますとともに、新たに伝統芸能鑑賞事業は小学校高学年を対象としてやっていきたい、子どもたちが生き生きと個性豊かに育つような環境の充実をこういうことによって進めていきたいと思っております。

これらに加えまして、市民向けの音楽鑑賞事業や英田トレーニングセンターの照明をＬＥＤ化する事業、それから雲海野球場の整備事業といった市民全体に対するさまざまな意味での運動環境、芸術環境の支援に取り組んでいきたいと考えております。

また、岡山湯郷Ｂｅｌｌｅに関しましては、このチームが私どもの市のシンボルというふうにおっしゃる方も多い非常に重要なチームでありまして、市のステータスを上げ、全国に発信をしてくれるそういう意味がある。そこに鑑み、美作市地域振興基金の繰り入れや岡山湯郷Ｂｅｌｌｅの雇用となる監督の人件費補助等追加をして、そしてことし一年で１部リーグへの復帰という、まさにＶ字回復の支援をするために、予算の増額をしていきたいというふうに考えております。

４点目でございますが、地域産業の活性化と観光振興の充実という点でございますけれども、まず市内の産業雇用との場となる企業誘致につきましては、作東産業団地はほぼ完売状況となり、雇用の拡大が期待をできる状況になっておりまして、従いまして今後は新たな産業団地整備に向けて、南部産業団地開発調査事業に取り組んでいきたい、そう考えております。また、ヘルス産業の推進や企業創業の支援等の地場事業の活力創生についても、引き続き取り組んでまいります。

農林業関連では、野菜の栄養評価事業やジビエ関連事業をまとめて美山ブランドとして推進をしておりますけれども、加えて昨年から取り組んでいるモチ麦の栽培普及を進め、美作市の安心・安全で、そして価値の高い特産品としての販売促進を図り、消費者のニーズに貢献をし、よってもって市内の事業者の方々の懐にも貢献できるようにというふうに考えてまいりたいと思います。

次に、観光関係では、武蔵の里そして愛の村パークは、４月からの運営を指定管理者に移行するために、指定管理者の公募及び選定を行い、この議会に候補会社を指定管理者とする議案を提出をさせていただいております。両施設の一括管理により、経営の効率化と地元地域との連携も十分に図っていただくことで、両

施設の魅力アップと地域の活性化につなげたいと心から祈念をいたしております。

また、地域創生事業として、スポーツツーリズムの推進、スポーツと地域文化の融合による新たな国際交流の推進に取り組むとともに、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ベトナムとの国際交流の推進、あるいはラグビーワールドカップ及び東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地としてのチーム誘致ということで、今後具体的に機運というものを高める動きをしてまいりたいと思いますし、またこの点につきましては、ことしぜひとも御期待に沿えるように、今年度中に具体的な成果というものを上げていきたいと考えております。

最後に、５点目といたしまして、自然豊かな環境を生かした魅力ある地域づくりという関連でございますけれども、まず各種学校誘致事業では、日本体育大学の特別支援学校、そして自衛隊体育学校の誘致に力を込めて、そろそろ勝負時になってまいりますんで、取り組んでまいります。日体大は、北海道網走市にこの春ですけれども、私立大学では初めてとなる特別支援学校を開設をいたします。この運営が順調に進めば、全国に広げていくという意向を確実に持っておられ、当市としては、これも松浪理事長がそういうふうに言ってくれていい、２校目は美作ということでいいと申しておりますし、先方もその意識を強く持っております。昨年９月の松浪健四郎理事長の美作市訪問というのはそういう意味があったわけでございますけれども、その後も何度か日体大との関係につきましてはお願いもしておりますし、また文科省のほうにも側面からの支援をお願いし、十分議論の中で前進が見られつつあるという状況であります。

一方、自衛隊の体育学校につきましては、2020年開催の東京オリンピックを控えて、多くのオリンピアン、トップアスリートを同校が抱えておられるということから、オリンピックが終わるまでは具体的な大きな動きは難しいという御意向でございました。このため、昨年秋に実現をした美作市への合宿誘致を積極的に継続をし、良好なつながりを深めるということを当面の目標として努力をしてまいりました。また、自衛隊の健全な育成発展の協力を行うという目的で、美作・西粟倉防衛協力会が設立をされ、この自衛隊の誘致活動にも御尽力をいただける、協力がふえるということもあわせて期待をし、報告をさせていただきました。

次に、地域おこし協力隊は、昨年から地域活動に加え、暮らしやすさの改善等に活用もできるよう、隊員の増員を計画をしており、地域力を維持強化するため、定住につながる活動に取り組んでいただきたいと考えております。

雇用促進住宅北山団地、勝田団地につきましては、この年のことしの４月から、市営定住促進住宅として入居開始をするため、空き室85戸の入居者の募集を開始をしております。そして、なお入田団地につきましては、耐震性の確認に時間を要しており、明許繰り越しとさせていただき、早期に、先方の態度によりますけれども、購入、内装改修ができるよう依頼をしているところであります。

また、美しい里山公園内の更新伐事業も引き続き取り組み、森林の公益機能を高めるとともに、森林資源としての有効活用を図るため、まきボイラー等の燃料や材木としての販売など、森林所有者への収益を還元をし、市内経済の還流にもつなげていきたいというふうに考えております。

下水道事業では、中期経営計画に基づく施設等の統合事業を引き続き進めております。また、初めに申し上げたクリーンセンターの一般廃棄物最終処分場につきましては、平成31年度中３月の完成を目指していきたいと思います。

有害鳥獣対策では、鹿、イノシシ、熊等のさらなる対策強化に加えて、来年度から猿追い払いなど、新たな有害鳥獣対策についても取り組んでいきたいと考えております。

以上、予算関係について申し上げましたが、この際庁舎耐震化対策、美作岡山道路についても重要な案件

でございますんで、若干申し上げたいと存じます。

新庁舎整備につきましては、行政責任として、防災面や土地購入費、合併特例債活用の時間的制約というものを踏まえて、中尾地区が最適との判断で提案をいたしましたが、議会としての御意見は、市勢の発展や市民生活の向上に資金を投入すべきとの御判断であるというふうに受けとめさせていただいております。今後は、したがいまして中尾を諦めまして、現庁舎を耐震する方向に切りかえて、水害対策にも一定の配慮をした中で、将来的に無駄がない実効性の高い方法を探るべく、当初予算に当面庁舎事業として500万円を計上して、今後の対策にまず取り組んでいきたいというふうに思っております。

次に、美作岡山道路につきましては、平成29年度に英田インターチェンジから湯郷インターチェンジ間の新規事業認可が行われることから、工事が早期に完了するように協力をしていきたいと思っております。また、美作岡山道路の本来の目的であった鳥取と岡山を結ぶ、いわゆる美岡道の北部延伸に関しましては、29年度来年度に、国や岡山県、鳥取県など関係自治体との勉強会、研究会の立ち上げが現実的な課題となっておりまして、基礎的な合意はほぼでき上がっておりますが、これを実際俎上にのせることができれば、北部延伸がそれなりに具体的に前進する形というふうになってまいります。計画から整備の完成までには、道のことでございますんで、かなりの時間を要するとは思いますけれども、これが整備されれば美作市の交通環境は格段に改善をいたします。そして、経済、行政、観光等々幅広い範囲の分野で当市の立地条件が好転をするとともに、いわゆる勝田、梶並の地域環境も大いに改善をするというふうに考えるべきでございまして、私どもとしては、これを一生懸命に提案をしております。そして、美岡道の現行部分につきましては、美咲町において、一部のまだ議論が残っておりますが、美咲町の役場の方々の意見を聞くにつけ、大体もう整理はできたということでありますので、この言葉を信頼しながら、山陽道までの早期開通、特に美咲町部分及び瀬戸ジャンクションの早期完成に向けて、一生懸命に協力をすることによって、日本海と瀬戸内海を結ぶ夢を実現し、ちょうど中間にある私ども美作市の地位を向上するために、議員各位ともども、ことしは相当頑張っていきたいと考えているところであります。

以上、所信の一端を申し述べ、議会の皆様方そして市民の方々の当市行政に関する御理解と御支援の増進のお願いとさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第６、報告第１号「専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定）」でございます。副市長より提案説明を求めます。

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、ただいま上程されました報告第１号「専決処分の報告について」を御報告申し上げます。

この報告につきましては、地方自治法第180条第１項の規定によりまして、議会において指定されている事項について別紙のとおり専決処分をいたしましたので、同条第２項の規定により御報告するものであります。

それでは、専決処分書を読み上げさせていただきます。

〔以下朗読〕

以上、御報告させていただきます。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入りますが、番号１の案件につきましては、10月25日に開催された全員協議会において執

行部より報告を受けておりますので、質疑は行いません。

番号２の案件についてのみ質疑を行います。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

質疑なしと認め、質疑を終了し、以上で報告第１号を終わります。

続きまして、日程第７、同意第２号「教育委員会教育長の任命について」、副市長より提案説明を求めます。

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、ただいま上程されました同意第２号「教育委員会教育長の任命について」を御説明申し上げます。

改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成27年４月１日から施行され、教育制度の抜本的な改革が行われました。この法改正によりまして、委員長と教育長を一本化した新教育長が置かれることとなりまして、第一義的な責任者が教育長であることが明確となります。また、教育委員会の迅速性、機動性を高めるとともに、強い権限を持った教育長により教育行政を行っていくこととなっております。

現在、美作市ではその経過措置によりまして、従前の制度で運用してきたところでございます。

このたび、現教育長の任期満了日が近づいたこと、また学校の新学期が始まるこのタイミングを考慮し、４月１日から引き続き大川泰栄氏を新制度における新教育長として任命いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第１項の規定により、今後は直接議会の同意を得て任命することとなっておりますので、今回議会の同意をお願いするものでございます。

なお、旧制度における教育長としては、平成29年３月31日をもって教育委員を辞職する願いが提出され、市長及び教育委員会の同意を得ております。経歴等につきましては、配付させていただきました資料を御確認ください。

御審議の上、何とぞ同意を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案説明が終わりました。

ここで大川教育長からの申し出により、教育長は退席をされます。

〔教育長大川　泰栄君　退場〕

議長（山本　雅彦君）

質疑に入ります。

質疑ございますか。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

私は教育委員会で委員長が教育委員会を取り仕切り、教育長が賛同者であるという立場を若干いつも感じようたんですが、そういう意味で新しいこの制度というのは、ちゃんとした制度になったというふうに思います。

その点での、いわゆるメリットというかそういうものが整理されてくる過程の中で、どういうメリット

で、どういうふうに円滑に行くかということが説明ができるようであれば説明してください。

議長（山本　雅彦君）

西本議員、教育長の任命についての人事案件でございますので、この制度そのものについての質問ではなくて、人事案件についての質問でお願いをしたいと思いますが。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

制度を検討せんと、実際問題として、人を検討するというのは僕はできんと思うんですが、人だけだったら結構です。そういうことで、人だけをするということだったら、今のいわゆる副市長の提案で結構です。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

質疑なしと認めます。

次に、同意第２号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りをいたします。

美作市議会申し合わせ事項において人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。よって、同意第２号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第２号「教育委員会教育長の任命について」、賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、同意第２号は承認することに決定をいたしました。

それでは、教育長の入場を認めます。

〔教育長大川　泰栄君　入場〕

議長（山本　雅彦君）

大川教育長が議場におられますので御報告いたします。

同意第２号は承認することに決定をいたしましたので、報告をいたします。

〔教育長大川泰栄君「ありがとうございました。よろしくお願いいたします」と呼ぶ〕

続きまして、同意第３号「教育委員会委員の任命について」、副市長より提案説明を求めます。

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、ただいま上程されました同意第３号「教育委員会委員の任命について」を御説明申し上げます。

教育委員の任期満了に伴い、引き続き教育委員として、佐々木勇氏を任命いたしたく、地方教育行政の組

織及び運営に関する法律第４条第２項の規定により、議会の同意をお願いするものでございます。

同氏は、平成26年から教育委員として職務を行われています。教育に関し豊富な経験と知識を有しておられるとともに、教育行政を推進していただく方として適任であると考えております。

経歴等につきましては、配布させていただきました資料を御確認ください。御審議の上、何とぞ同意を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案説明が終わりました。

質疑はございませんか。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

佐々木さんのお話なんじゃけども、この人に前回引き続いてというような形なんですが、この人の在籍中にどんだけの効果があったんかというぐらいの説明をつけ加えてもらわなんだら、私は所轄の委員会でもございませんし、できましたらその辺のところの説明をお願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）

佐々木委員におかれましては、現在も美作大学の特任の准教授ということでお仕事をなさっておられます。美作大学におかれましては、教員養成に携わっておられ、市内の小学校での補充学習等でそこに大学生を派遣し、補充学習に大いに貢献していただいているわけですが、そうした補充学習での指導、また教員養成の経験を生かし、また小学校の校長であったという経験を生かし、教育行政及び学校運営に関しまして適切な助言をいただいているということでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

こういうことなんです、美作市の中でどういうふうな活躍をされてきたんか、この人が仕事をして。今１つ例を例えたら、湯郷第一小学校４年生ぐらいが学校の中が物すごいちょっと荒れようる、こんなことも聞いとる。あんたのときにも言おう思うたんだけども、次から次へ言ようるから、ひとつここで言うとかにゃいけんけえ思う。だから、あんたのときにも立てらなんだんよ、わし。

どういうふうな成果が上がったんか、この人がやっておることによって。不登校の問題については、こういうふうに取り組んできたんじゃとか、校内暴力の問題については、こういうふうな形の中で取り組んできたんじゃとか、学力の問題については、こういうふうな形の中でやってきたんじゃというそのぐらいのことぐらいは説明していただきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）

学力につきましては、先ほど申し上げたとおり、各学校での補充学習と学生の派遣、その他その学生の指導等に御尽力をいただいております。

また、先ほど御指摘がございました小学校の指導に関しましても、いろいろな現場、実際の学校現場に出

向いていただきまして、直接子どもの様子、そしてまた校長への指導、助言もいただいているところでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

３回目な。

学校の先生やこうは、都合が悪うなったら、生徒が悪い言う。生徒がどがい言うて悪い言うて言うたら、落ちこぼれじゃと言う、何からこぼれようるんか知らん、落ちこぼれですと、子どもが悪い。その子どもを落ちこぼれんようにすることがあんた方の責務です、お仕事なんじゃから、それをきちっとして、こういうふうな形の中で、手首を切ったりしょうるようなそういうふうな事件もあるんでしょう、学校の中で、何もかも言わさいでも、そういうふうな問題についても、子どもの目線で、何を苦しんでそういうふうなことがあるんかなかったんか、これがほんまに子どもの目線に立って将来を一緒に考えて、こういうふうな指導をやりょうりますと、そういうふうなことがなかったらいけんがな、具体的に言わなんだら。そんな抽象的なことでは賛成はできません。納得できない。

議長（山本　雅彦君）

答弁されますか、よろしいか。

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、質疑を終わります。

次に、同意第３号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りいたします。

美作市議会申し合わせ事項において人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。よって、同意第３号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第３号「教育委員会委員の任命について」、賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、同意第３号は承認することに決定をいたしました。

それでは、ただいまから１時まで休憩といたします。

午前11時47分　休憩

午後１時00分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第８、議案第１号から議案第45号について、副市長より提案説明を求めます。

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、午前中に引き続きまして、上程されました議案第１号から議案第45号について御説明を申し上げます。

まず、議案第１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」を説明申し上げます。

平成29年４月１日から武蔵の里関連施設及び愛の村パークの施設の管理を行わせる指定管理者を指定することについて、地方自治法第244条の２第６項の規定により、議会の議決を求めるものです。

指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称は、武蔵の里楽市楽座、武蔵の里研修センター、武蔵の里交流館、クアガーデン武蔵の里、愛の村パークでございます。

指定管理者となる団体は、株式会社共立メンテナンス、指定の期間は、平成29年４月１日から平成32年３月31日までの３年間となっております。

次に、議案第２号「美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について」を御説明申し上げます。

平成29年４月１日から美作市緑地等利用施設の大芦高原キャンプ場の施設の管理を行わせる指定管理者を指定することについて、地方自治法第244条の２第６項の規定により、議会の議決を求めるものです。

指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称は、大芦高原キャンプ場でございます。

指定管理者となる団体は、一般社団法人上山集楽、指定の期間は、平成29年４月１日から平成32年３月31日までの３年間となっております。

次に、議案第３号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）」を御説明申し上げます。

平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）は、武蔵の里関連施設及び愛の村パーク管理運営事業について、債務負担行為を追加するもので、期間は平成29年度から平成31年度まで、限度額は１億9,000万円となっております。

次に、議案第４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」でございますが、情報公開・個人情報保護審査会からの意見に基づき、個人の生命、身体、財産等に危害が及ぶおそれがある情報等を市ホームページ上に掲載しないよう情報公開制度について所要の改正を行うものです。

なお、今回の改正は、あくまでも市ホームページ上に掲載する情報を一部制限するものであり、請求者に対しては、閲覧または写しの交付という方法でこれまでどおり請求のあった情報を公開するもので、請求者には不利益が生じないように配慮しております。

次に、議案第５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」でございますが、美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用について、県内他市の状況を考慮し、本市においても公営制度を導入することで候補者間の選挙運動の機会の均等を図り、より公正な選挙の執行に資するべく、条例を制定するものです。

次に、議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」でございますが、美作市内における将来人口の推移や市民ニーズに対応する医療・介護サービスの需要の予測等に基づき、美作市立病院及び診療所並びに老人保健施設の役割を明確にし、経営の改善、療養病床のあり方を含めた全体病床数の検討、他の医療機関等との連携のあり方等、医療・介護サービスの提供体制整備改革について検討を行うため、美作市立病院及び診療所等改革検討委員会を設置することとし、条例に同委員会の項目を追加するものでございます。

次に、議案第７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」でございますが、報道委員会、ケーブルテレビ放送番組審議会を廃止し、美作市が発行、管理する情報の内容を総合的に審議する第三者審議機関を新たに設置する条例を制定するものです。

次に、議案第８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」でございますが、平成28年８月８日付で、人事院において国家公務員に対する勧告がなされたことに伴い、美作市においても国公準拠を基本としていることから、関係条例について所要の改正を行うものです。

主な内容といたしましては、職員の介護休暇及び扶養手当支給額の一部を改正するものです。

次に、議案第９号「美作市特別会計条例の一部を改正する条例について」でございますが、武蔵の里関連施設、愛の村パークの指定管理者制度導入に伴い、特別会計の廃止を行うものです。

次に、議案第10号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」でございますが、社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うため、地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律及び地方税法施行令の一部を改正する政令等の一部を改正する政令の施行により、消費税率の10％への引き上げ時期が平成31年10月１日と規定されたことに伴い、地方税において、消費税率引き上げ時に車体課税の見直し、地方法人課税の偏在是正等が行われるため、本市税条例においても所要の改正を行うものです。

主な内容につきましては、法人市民税の法人税割の税率を平成31年10月１日以後に開始する事業年度分について12.1％から8.4％に引き下げること、自動車取得税の廃止に伴い、軽自動車税に燃費性能に応じて課税する環境性能割が創設され、平成31年10月１日以後に取得された三輪以上の軽自動車について適用されること、現行の軽自動車税が種別割に名称変更され、平成32年度以後の年度分について適用されること、個人市民税の住宅借入金等特別税額控除について、その対象となる家屋の居住年の期限を平成31年から平成33年まで延長することであります。

次に、議案第11号「美作市資金の積立てに関する基金条例の一部を改正する条例について」でございますが、平成29年４月１日から、美作市が管理運営を開始する定住促進住宅において、耐用年数経過後の取り壊し費用及び管理運営途中の大規模修繕等が発生する場合に備えて、将来の費用の軽減のため、基金として積み立てておけるようにするために改正するものでございます。

次に、議案第12号「美作市英田就業改善センター設置条例の廃止について」でございますが、美作市英田就業改善センターは、用地を借地として借り受けており、地権者から返還請求があったため、本年度末をもって土地賃貸借契約を解約することから、施設廃止を行い、条例の廃止を行うものであります。

次に、議案第13号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、美作市英田創作館は、用地を借地として借り受けており、地権者から返還請求があったため、本年度末をもって土地賃貸借契約を解約することから、英田創作館を全面移転するため、条例中の位置等を改正するものでございます。

次に、議案第14号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」でございますが、作東老人保健施設の給食について、食材料費及び調理に係る費用並びに県北類似施設の料金を勘案し、実態に応じた金額に改正するものです。

主な内容といたしましては、現行の厚生労働大臣が定める基準費用額１日につき1,380円から、１日につき1,600円に改正するものです。ただし、負担限度額の適用者は従来どおりの金額で負担の軽減措置があります。また、その他の料金等の改正はございませんが、条例をわかりやすくするため、料金表で定めるなど、所要の改正を行うものであります。

次に、議案第15号「美作市獣肉処理施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、美作市獣肉処理施設は運営４年目となり、個体の受け入れや作業手順、精肉等の販路について、おおむね確立されてまいりました。このような状況の中で、長期的な施設運営を鑑みた場合、民間での運営も視野に入れておく必要があることから、公設民営――指定管理者のことでございますが――での施設運営が可能となるよう、条例の一部改正を行うものであります。

次に、議案第16号「美作市簡易水道事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、東粟倉地域の簡易水道施設について、施設統合が完了し、給水を開始したことに伴い、事業変更認可に基づき条例を改正するものでございます。

次に、議案第17号「市道路線の認定について」でございますが、公共性が高い道路を市道に認定したいので、道路法第８条第２項の規定により提案するものです。

該当路線は、市道認定基準に適合するもので、上相地内１路線、山口地内１路線、楢原下地内１路線、海田地内３路線の合計６路線です。

次に、議案第18号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」でございますが、過疎地域自立促進特別措置法の規定に基づき、美作市の過疎地域自立促進市町村計画の変更を行うものです。

産業の振興や交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進、生活環境の整備、教育の振興の分野において新たに事業を進めるに当たり、過疎地域自立促進特別措置法に基づく事業として位置づけ、より効果的に事業を実施するため、美作市過疎地域自立促進市町村計画に各事業を追加し、計画の変更を行うものであります。

主な追加事業といたしましては、産業の振興分野では農村地域防災減災事業、これは堂ケ瀬頭首工のことであります、市道３路線の改良舗装、橋梁11本の補修事業、生活環境の整備分野では、簡易水道緊急連絡管整備事業、移動脱水車購入事業等を計画をしております。

また、教育の振興分野として、小・中学校校舎整備改修事業、学校給食施設整備事業、体育施設整備事業等を計画をしております。

次に、議案第19号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」でございますが、辺地にかかわる公共的施設の総合整備のため、財政上の特別措置等に関する法律の規定に基づき、美作市の辺地総合整備計画の変更を行うものであります。

主な内容といたしましては、柿ケ原辺地において、消防車両及び消防ポンプの老朽化等に対応するため、機動性の高い軽四輪車両の小型動力ポンプつき積載車の導入を行うこととし、平成28年３月に柿ケ原辺地計画を策定したところですが、導入する消防車両及び消防ポンプの仕様を検討する中で、当初計画した事業費から増額することとなったため、本計画の一部を変更するものでございます。

次に、議案第20号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」でございますが、ひとり暮らし老人、認知症老人の増加、障がい者や高齢者等への虐待事案等が増加する中、これらの事案への対応をするため、今年度美作市権利擁護センターを設立したところですが、権利擁護に対するニーズは近隣町村においても同様に高まっており、これらの事業の事務を美作市が委託を受けるものです。

次に、議案第21号「相互救済事業の委託について」でございますが、地方自治法の規定に基づき、災害による財産の損害に対する相互救済事業を公益社団法人全国市有物件災害共済会に委託するため、議会の議決を求めるものです。これまで相互救済事業のうち建物災害共済事業につきましては、一般財団法人全国自治協会へ委託をしておりましたが、平成29年４月から分担金が増額されることに伴い、現在の分担金とほぼ同額となる公益社団法人全国市有物件災害共済会へ委託先を変更するため、地方自治法第263条の２第１項の

規定により、議会の議決を求めるものでございます。

次に、議案第22号「平成28年度一般会計補正予算（第６号）」でございますが、歳入歳出それぞれ２億8,933万円を減額し、予算総額を201億1,668万6,000円とするもので、総務費の個人番号カード関連事務事業を初めとした繰越明許費の設定10件、債務負担行為の変更２件、地方債の変更10件を行っております。

歳出における追加補正の主なものは、民生費では、臨時福祉給付金事業１億124万4,000円、商工費では、武蔵の里観光施設及び愛の村パーク修繕事業979万1,000円、武蔵の里特別会計繰出金480万円、愛の村パーク特別会計繰出金500万円、土木費では、道路除雪事業1,200万円、諸支出金では、公共施設整備基金積立金２億9,115万3,000円などとなっております。また、事業の確定や決算見込みにより、財源更正や減額補正を行っております。なお、今回の補正の財源は、市税が515万6,000円、財産収入が2,819万8,000円、繰入金930万円、市債のうち過疎対策事業債ソフト事業分が7,580万円などとなっております。

次に、議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」についてでございますが、事業勘定の歳入歳出をそれぞれ5,289万5,000円減額いたしまして、予算総額を歳入歳出それぞれ41億8,487万5,000円とするものです。

主な内容につきましては、歳入については、国民健康保険税が631万1,000円、療養給付費等交付金が2,914万6,000円、繰入金が784万1,000円の減額となっております。歳出につきましては、保険給付費が4,010万円の増額、後期高齢者支援金が1,474万4,000円、介護納付金が2,724万7,000円、共同事業拠出金が8,113万1,000円の減額、諸支出金が3,023万9,000円の増額となっております。

また、作東診療所直診勘定につきましては722万5,000円を減額し、予算総額を8,972万2,000円とするものでございます。

歳入につきましては、診療収入を1,508万3,000円減額し、財産収入を21万7,000円増額し、前年度繰越金を714万1,000円増額いたします。歳出につきましては、医薬材料費を925万円減額し、基金費を21万7,000円増額し、予備費を103万8,000円増額いたします。

また、福山診療所直診勘定では、375万3,000円を増額いたしまして、予算総額を1,557万2,000円とするものでございます。

歳入につきましては、外来診療収入を６万4,000円減額し、事業勘定繰入金でへき地直営診療所運営交付金を145万5,000円増額し、前年度繰越金を236万2,000円増額いたします。歳出につきましては、歳入の増を予備費に追加いたします。

次に、議案第24号「平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」についてでございますが、保険事業勘定の歳入歳出をそれぞれ650万9,000円増額し、予算総額を歳入歳出それぞれ44億6,378万円とするものです。

主な内容は、歳入につきましては、保険給付、地域支援事業にかかわる国県支払基金の負担額が8,609万1,000円の減額、繰入金が1,584万8,000円の減額、繰越金が１億836万1,000円の増額となっております。歳出につきましては、介護サービスの利用に係る保険給付費が１億1,920万円の減額、基金積立金が１億1,115万円の増額、平成27年度における介護給付費等の国・県精算返還金が1,487万7,000円の増額となっております。

次に、議案第25号「平成28年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」についてでございますが、歳入歳出それぞれ63万5,000円を減額し、予算総額を７億1,106万円とするものでございます。

歳入の主なものは、一般会計繰入金364万2,000円の減額、消費税還付金205万1,000円の増額等であります。歳出の主なものは、消費税確定申告に伴う277万円の減額、簡易水道財政調整基金積立金213万5,000円

の増額等でございます。

次に、議案第26号「平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」についてでございますが、歳入歳出それぞれ964万4,000円を増額いたしまして、予算総額を1,963万4,000円とするものです。

主な内容につきましては、歳入では、基金利子の14万4,000円の増額、前年度繰越金の950万円の増額を見込んでおります。歳出では、基金利子相当分の積み立て14万4,000円の増額、一般会計への繰出金930万円の増額、予備費を20万円増額するものでございます。

次に、議案第27号に移りまして、「平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ３万円を増額し、予算総額102万6,000円とするもので、主な内容は、歳入では、基金利子が11万円、前年度繰越金16万8,000円の増額、繰入金24万8,000円の減額で、歳出のほうにつきましては、消耗品費の８万円の減額、基金積立金11万円を増額するものでございます。

次に、議案第28号に移りまして、「平成28年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ２万5,000円を減額し、歳入歳出予算総額をそれぞれ815万8,000円とするものでございます。

主な内容は、歳入では、ふれあいガレージの使用料の減額、それに伴う英田河会地区都市と農村の交流施設整備基金より繰入金の増額を行うものであります。歳出では、ラジコンカーレース中止に伴う、その他報償費の減額をするものでございます。

次に、議案第29号「平成28年度美作市武蔵の里特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ1,158万4,000円を減額いたしまして、歳入歳出予算総額をそれぞれ１億6,828万8,000円とするものです。

歳入の主なものは、宿泊料39万円の増額、食事料946万2,000円の減額、売店収入372万円の減額、温泉等使用料283万8,000円の減額、プール使用料60万5,000円の減額、平成27年度繰越金確定による30万6,000円の減額、これらに伴う繰入金480万円の増額であります。また、歳出では、不用額、嘱託職員の賃金等171万2,000円、燃料費、賄材料費など需用費が671万円、各種リース料などの使用料及び賃借料140万4,000円などを減額するものでございます。

次に、議案第30号「平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）」についてでございますが、事業勘定の歳入歳出をそれぞれ3,051万5,000円減額し、予算総額を歳入歳出それぞれ４億4,272万1,000円とするものです。

主な内容につきましては、歳入は、後期高齢者医療保険料が1,563万3,000円の減額で、繰入金が1,722万6,000円の減額、歳出につきましては、総務費が115万8,000円の減額、後期高齢者医療広域連合納付金が3,211万4,000円の減額、諸支出金が203万9,000円の増額となっております。

次に、議案第31号「平成28年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」についてでございますが、歳入歳出それぞれ155万9,000円を減額いたしまして、歳入歳出予算総額をそれぞれ8,322万7,000円とするものです。

主な内容は、歳入では、入り込み客の減少等により、宿泊料32万円の減額、食事料429万6,000円の減額、売店収入283万6,000円の減額、平成27年度繰越金確定による75万4,000円の増額、これらに伴う繰入金500万円の増額であります。歳出では、嘱託職員の賃金等の変更による人件費155万9,000円を減額するものです。

次に、議案第32号「平成28年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」でございますが、収益的収支予算の収入を12万円減額し、総額を６億3,564万4,000円に、支出を17万円増額いたしまして、総額を６億

3,544万6,000円とするものです。

主な内容は、収益的収支の予算において、職員異動等に伴う人件費の減額及び消費税申告額並びに漏水減免額の確定見込みによる増額となっております。

次に、議案第33号「平成29年度美作市一般会計予算」でございますが、歳入歳出の総額をそれぞれ214億4,600万円とするもので、看護学生等奨学金など債務負担行為の設定４件や、地方債の発行、一時借入金の借り入れ最高限度額について定めております。

前年度予算と比べますと、看護師等養成学校誘致事業、湯郷幼児園建設事業、美作クリーンセンター、これは最終処分場でございますが、その整備事業など、投資的事業の増のため7.1％増、額にして14億3,100万円の増となっております。歳出の主なものは、みまさか創生事業が8,615万円、看護師等養成学校誘致事業が８億2,418万2,000円、美作クリーンセンター整備事業が３億7,255万3,000円、有害鳥獣捕獲奨励金が１億2,895万円、市道維持管理事業が１億6,230万6,000円、過疎対策道路整備事業が３億3,530万円、湯郷幼児園建設事業４億6,450万円などとなっております。

なお、これら歳出予算の財源は、地方交付税が99億4,000万円、市税が29億1,180万円、国県支出金が28億431万4,000円、市債が34億2,770万円などとなっております。

次に、議案第34号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出それぞれ42億5,572万5,000円とし、その内訳は、事業勘定が41億5,251万5,000円、地域医療の役割に沿って診療業務を遂行するための直診勘定につきましては、作東診療所直診勘定が9,133万7,000円、福山診療所直診勘定が1,187万3,000円とするものです。

次に、議案第35号「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出それぞれ44億389万2,000円とし、前年比が1.7％、額にして7,476万3,000円の減額となっております。

保険事業勘定では、前年比7,036万9,000円の減額の43億8,495万2,000円、介護サービス事業勘定では、前年比439万4,000円の減額の1,894万円となっております。

予算の主な内容につきましては、歳出につきましては、介護サービスの利用にかかわる保険給付費が前年比２億1,233万1,000円減額の40億1,894万9,000円となり、介護予防事業に伴う地域支援事業費が前年比3,307万6,000円のこれは増額でありまして１億6,398万1,000円となっております。歳入につきましては、保険給付と介護予防事業にかかわる国県支払基金の負担金が前年比１億2,933万9,000円の減額で28億9,619万5,000円、介護保険料が前年比100万円の減額の７億9,100万円となっております。

次に、議案第36号「平成29年度美作市簡易水道特別会計予算」でございますが、歳入歳出それぞれ４億9,531万9,000円とするものです。

予算の主な内容は、簡易水道施設の維持管理など、総務管理費１億1,025万2,000円、老朽管更新事業など水道施設整備費が１億5,880万円、公債費は２億2,537万8,000円等であります。

次に、議案第37号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」でございますが、歳入歳出それぞれ922万2,000円とするもので、前年比で76万8,000円の減額となっておりまして、予算減額の要因は、歳入では、貸付金元利収入の減収を見込んでおります。歳出の主なものは、一般会計繰出金と償還元金、利子等でございます。

次に、議案第38号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算」でございますが、歳入歳出それぞれ129万7,000円とするもので、主な内容は、歳入が基金繰入金117万6,000円、財産運用収入11万8,000円などを見込んでおります。歳出の主なものは、墓地管理委託料が70万円、需用費が43万2,000円などでございます。

次に、議案第39号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出それぞれ836万8,000円とするもので、主な内容は、歳入では、ガレージ使用料が314万8,000円、ラジコンコースの使用料が17万3,000円、アゼリア館の雑入の軽食販売収入が321万2,000円であります。歳出では、ガレージの管理費が150万6,000円、アゼリア館の管理費684万4,000円でございます。

次に、議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出それぞれ２億8,811万7,000円とするもので、前年対比390万6,000円の減額となっております。

主な内容は、歳入では、入所者が47.5名、通所リハビリ20名を見込んでおり、介護保険収入は、１人当たりの介護報酬単価が減っているため、前年より561万9,000円の減額となっております。歳出では、総務費、医業費を減額し、一般会計繰出金を800万円で予算計上しております。

次に、議案第41号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出それぞれ1,950万8,000円とするものでございます。

これは、大学、短大、専修学校に就学される方を支援するため、平成29年度は、新規７名と継続16名の計23名に総額828万円を貸し付けるものでございます。

次に、議案第42号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出それぞれ４億4,497万4,000円とするものです。

主な内容は、歳入は、後期高齢者医療保険料で２億5,111万1,000円となっております。歳出は、後期高齢者医療広域連合納付金で４億1,080万9,000円となっております。

次に、議案第43号「平成29年度美作市水道事業会計予算」でございますが、収益的予算は、収入の水道収益にて６億3,921万円を、支出の水道事業費用では６億3,693万6,000円をそれぞれ計上しておりまして、主な内容は、水道料金収入及び水道施設の維持管理、減価償却費等となります。

資本的予算は、収入の出資金等にて408万2,000円を、支出の建設改良費等では３億3,474万3,000円をそれぞれ計上しておりまして、主な内容は、水道施設の制御盤及び配水管等の更新整備並びに起債の償還費用となっております。

次に、議案第44号「平成29年度美作市病院事業会計予算」でございますが、収益的収支は、業務予定量を入院患者１日66人、これは一般病棟33人、療養病棟33人、稼働率を82％で計算しておりまして、年間２万4,090人、外来患者１日106人、年間３万1,058人で算定しておりまして、予算の総額を収益、費用それぞれ９億8,064万5,000円とするものでございます。

資本的収支は、収入額は２億819万7,000円、支出は２億4,458万3,000円で、支出の内訳につきましては、医療器械等購入が950万7,000円、起債償還が3,507万6,000円、投資有価証券購入費が２億円となっております。

次に、議案第45号「平成29年度美作市下水道事業会計予算」でございますが、収益的収入では、前年度より1,307万4,000円の減の総額で27億208万4,000円、収益的支出では、前年度より6,148万2,000円減の総額で27億9,341万2,000円を見込んでおりまして、費用での減額の要因につきましては、償還利子及び減価償却費などの減が主な要因でございます。

資本的収入では、公共下水道事業及び特定環境保全公共下水道事業で建設改良費増に伴う地方債の増によるもので、前年から１億5,863万9,000円増の総額10億1,380万円。資本的支出では、前年度から１億9,223万5,000円増の20億2,632万3,000円を見込んでおります。

主な事業につきましては、公共下水道事業によります長寿命化計画事業にかかわる美作処理区の管更生、簡保センターまでの管渠布設事業、農業集落排水施設の統合事業や特定環境保全公共下水道事業によります

移動脱水車の購入を計上いたしております。

以上、議案につきまして御説明を申し上げました。御審議のほどよろしくお願いいたしまして、提案説明とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案理由の説明が終わりました。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれで散会します。

再開は２月20日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後１時37分　散会

平成２９年２月２０日

（第　　２　　号）

1. 議　事　日　程（２日目）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年２月20日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　代表質問

日程第２　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（17名）

１番	金　谷　典　子	２番	重　平　直　樹
３番	安　藤　　功	４番	安　本　博　則
５番	谷　本　有　造	６番	則　本　陽　介
７番	萬　代　師　一	８番	尾　髙　誉　久
９番	岡　﨑　正　裕	10番	西　元　進　一
11番	本　城　宏　道	12番	鈴　木　悦　子
14番	小　渕　繁　之	15番	万　殿　紘　行
16番	日　笠　一　成	17番	山　本　重　行
18番	山　本　雅　彦		

3. 欠席議員は次のとおりである（１名）

13番　岩　江　正　行

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　長	萩　原　誠　司	副市長	安　部　　薫
副市長	横　山　博　光	教育長	大　川　泰　栄
政策審議監	福　原　　覚	総務部長	山　本　直　人
危機管理監	山　本　和　毅	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	森　分　幸　雄	市民部長	安　藤　郁　雄
環境部長	妹　尾　昌　弘	経済部長	尾　崎　功　三
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消防長	山　崎　正　雄
会計管理者	安　東　弘　子	産業振興課長	横　林　義　和
都市住宅課長	小　林　英　樹	高齢者福祉課長	船　曳　敬　吾
くらし安全課長	景　山　二　男		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	本　田　卓　治
課　長	大　佛　裕　彦
主　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（山本　雅彦君）

皆さん、おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は、議場より退席をしていただきます。

16日に引き続き会議を開きます。

13番岩江正行議員が通院のため欠席であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

代表質問に入ります前に御報告をいたします。

16日、議会終了後に予算審査特別委員会を開催し、委員長に安藤功議員、副委員長に尾髙誉久議員を選任いたしましたので、御報告をいたします。

日程第１　　代表質問

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第１、「代表質問」を行います。

代表質問の方法につきましては、申し合わせにより総括質問は登壇して行い、再質問については質問席で行うこととなっております。

なお、質問の回数は３回までとし、一括質問方式で行うことになっております。質問時間は45分とすることになっておりますので、御承知願います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、友和会、議席番号14番小渕繁之議員の発言を許可いたします。

〔「頑張って」と呼ぶ者あり〕

１４番（小渕　繁之君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

ただいまから議長に発言の許可をいただきましたので、友和会の代表質問をさせていただきます。

友和会は、皆さまも御存じのとおり、谷本有造議員と小渕繁之の２人会派でございます。そして、発足し４年にわたり、美作市が少しでも発展し、美作市民によかったと感じていただけることを願って、さまざまな視点から提案し、行動してまいりました。４年が経過する中で節目の代表質問となりますが、私たち２人の美作市行政への取り組みについての思いと期待を込めた代表質問でありますので、明確な御答弁をお願い申し上げます。

さて、ことしの冬は暖冬という予想から一転して、たびたび大雪に見舞われ、我が家の家にも庭にも軒下にも雪がまだ残っております。この風景を見て、県北の春までには三寒四温を繰り返す日々がもうしばらく続くのではないかと思っております。

また、世界に目を向けると、１月20日に第45代アメリカ合衆国大統領に就任したドナルド・トランプ氏は、選挙中の公約に掲げていたアメリカ第一主義、アメリカファーストを実行するために次々と大統領令に署名して、同盟国も困惑しております。ＴＰＰからの離脱など、日本はもとより、世界中が振り回されておりますが、この問題は国対国の問題ではなく、やがて美作市にも徐々に影響を及ぼすことが予想されます。

このような状況を踏まえて、市長におかれましても、きょうまで培われた知識と行政経験を生かし、いち早く情報を尽くされ、美作市が進むべき的確な方向性を見出していただきたいと思います。

そこで、市長の所信表明の中で、私がどうしても伺いたいと感じた11項目について、順次お尋ねいたします。

私の質問が多岐にわたるため、議員の皆様の一般質問と重なる点が多々あると思いますが、よろしくお願いを申し上げます。

今回の私の代表質問の項目は、平成29年３月美作市長所信表明についてであります。

質問の要項につきましては、１番目に美作市の人口動態について、２番目に美作市財政状況について、３番目に教育について、４番目に平成29年度一般会計予算について、５番目に公共空白地域の交通弱者対策について、６つ目に美しい里山整備について、７番目に市民の皆様の声なき声の市政への反映について、８番目に安全で安心して暮らせる福祉施設の充実に関する事業について、９番目に個性を伸ばす教育、文化の充実について、10番目に地域産業の活性化と観光の充実について、11番目に自然豊かな環境を生かした魅力あるまちづくりについての11項目であり、幅広く浅くお尋ねをいたします。

それでは、１項目めであります美作市の人口動態についてお尋ねいたします。

国もそうですが、全国市町村の共通した優先で取り組むべき課題は人口問題だと私は認識しております。報道によると、東京、神奈川、千葉、愛知県などでは人口増加となっておりますが、ほかの県は人口減少が進んでいるとも報道されております。大都市及び周辺の市町村には転入傾向が見られますが、地方の市町村は、少子・高齢化、人口減少に加速がかかっていると思われます。私の地域、地区においても、その傾向は顕著にあらわれており、高齢者夫婦か高齢者ひとり暮らしかが確実にふえているのが現実であります。しかし、市長の発言によりますと、住民基本台帳に基づく人口動態では、平成17年３月と平成28年３月末の11年間を比較すると5,025人減少しているとのことです。そして、昨年は624人の減少となり、例年を大きく上回る数値に危惧を抱いていたが、今年度は、１月末までに324人の減少と改善傾向が見込まれているとのことですが、現在どのような状況になっているのかお尋ねいたします。

また、なぜ減少に歯どめがかかったか、その要因を把握されているのでしょうか。少子・高齢化の進行を緩やかに、転入をふやし転出を減少させるにはどのような対策あるいは取り組みが美作市には必要なのか、今年度予算にも反映されているのか、大変難しい施策となることは理解しておりますが、いま一度お尋ねをしておきます。

２番目に、美作市の財況についてでありますが、地方交付税の一本算定が始まる平成32年度においても、収支不足は生じないと見込まれますと言われましたが、もちろん美作市は健全な経営で、市民が将来に向けて安心して暮らせるように安定した施策が必要であります。そのためにも５年先、10年先を見詰めた美作市の基本計画、シミュレーションがあると思います。改めて今後の財政状況についてお尋ねをいたします。

３番目に、教育についてですが、昨年全国学力・学習状況調査では、小学校は全ての科目が全国平均を上回りましたが、中学校は全国平均に達しなかったようですが、今後どのように改善するのか、また課題はあるのかお尋ねいたします。そして、学力や学習も大事ですが、私は道徳教育についても必要と考えますが、どのようにお考えですかお尋ねいたします。

４番目に、平成29年度一般会計予算についてお聞きします。

平成28年度は２億8,933万円の減額でありました。平成29年度は、前年度対比14億3,100万円の増加のようです。29年度は大型事業が多々あるようでございます。しっかり執行を行っていただきたく思っております。平成29年度の予算について、市長の力強い意気込みをお聞かせいただきたいと思います。

５番目に、公共交通空白地域の交通弱者対策についてですが、タクシー料金の一部補助を行う実証実験に取り組むようですが、しっかり取り組んでいただきたいと思っております。その上で私の要望となりますが、最近新聞報道で高齢者による交通事故が多発しております、大変大きな社会問題ともなっております。しかし、80歳以上になっても、足である車に乗らなければ田舎では生活できなくなるのが現状であり、運転免許証を返納したいができないと言われる方が多くおられます。そこで、空白地域の補助だけではなく、80歳以上の高齢者や障がい者の方々を対象に、１戸当たりの割合でタクシー券を支給することができないでしょうか。例えばタクシーは、１人乗っても４人乗っても料金は変わりません。行き先が同じであれば、例えば病院であったり買い物であったりは、１枚のタクシー券で隣近所の方々と連絡し合い有効に活用すれば、福祉の向上と高齢者の交通事故の減少につながるものと思っておりますので、強く要望し、市長のお考え方をお尋ねいたします。

６番目に、里山整備事業についてですが、この事業については、簡単に私なりに解釈すると、平成26年に５年計画で着工し、予定面積は当初500ヘクタールであったが、交付税の関係もあり400ヘクタールとなり、全体予算についても、当初10億円から３億円減少し、７億円程度に変更となり、平成29年度時点で面積については314ヘクタールで、事業予算は8,000万円弱を予定しているとのことです。また、完成目標は平成31年で、完成すれば交付税が毎年１億4,000万円程度が美作市に交付されると私は理解をしていますが、いかがでしょうかお尋ねしておきます。

それと、里山整備事業の全体の予算は９億円程度と聞いておりますが、その内訳は、つまり４億9,000万円が国の交付税で、あとの３割の２億1,000万円が美作市の負担ということでいいのでしょうかお尋ねしておきます。里山公園の入園料は無料と思いますが、念のためにお尋ねしておきます。仮に無料であれば、この先多くの方が入園していただくことを希望いたしますが、仮に少人数であっても、この先赤字公園となることはないのでしょうかお尋ねしておきます。

それと、公園内の沿道の事故防止、防犯のために、防犯灯や監視カメラなど設置される計画があるのかお尋ねしておきます。

次に、７項目めに市民の皆様の声なき声の市政への反映についてでは、市長は行政懇談会にみずから出向き、市民の生の声を聞きながら施策に取り上げてこられましたが、私の聞くところによると大変好評であり、我が地域ではさらに続けてくださいとの声もありますので、この取り組みを継続されますようお願い申し上げます。

８番目に、安全で安心して暮らせる福祉の充実に関する事業についてですが、大阪滋慶学園についてですが、去る12月13日に地鎮祭が行われましたが、いまだに目に見える建設が行われていません。平成30年４月に開校と聞いておりますが、間に合うのでしょうか、何か問題でもあるのでしょうかお尋ねしておきます。

また、学生用のアパート等の整備など、相談会開催も予定されているようですが、学校建設と同時並行で進めなければ学校開校までに間に合わないと思いますが、これらについての市長の考え方をお尋ねしておきます。

９番目に個性を伸ばす教育、文化、芸術の充実については、学校関係では、小・中学校特別支援教室エアコン設置事業については、平成26年度より英田小学校・中学校に試験的に設置事業を行っていますが、最近では全国的にもエアコンの設置が進んでいるようです。この際、美作市全校に向けて設置をお願いしたいと思っております。教育環境を整備することによって、学力向上にもつながると思います。強く要望し、市長の考えについてお尋ねいたします。

また、湯郷Ｂｅｌｌｅについてですが、昨年は残念ながら１部リーグから２部リーグに降格となりました

が、スタッフ、選手、監督まで一新して再スタートを切ったところであり、市長の言われるように、Ｖ字回復に向けて、サポーターの一人としてではなく、美作市を挙げて応援すべきと思いますが、市長のお考えをお尋ねしておきます。

10番目に地域産業の活性化と観光振興の充実についてですが、この作東産業団地については、先日２月13日に株式会社横山基礎工事様の５号地の調印式が行われ、その上既に横山基礎工事様は３区間で操業されております。作東産業団地はほぼ完売となり、雇用の拡大のために、今後は新たな産業団地整備に向け、南部産業団地開発調査事業に取り組むとのことですが、早急に取り組まなければなりません。しかし、団地の予定場所であったり財政状況であったり、資金はどうするのかなど、いろいろな問題が数多くあると思います。作東産業団地も合併までに旧作東町時代に着工され、完成されました。平成17年の合併時には約46億2,000万円の負債があり、そのために１年に五、六千万円の金利が発生するということで、特別委員会を設置し対応した経緯がありますが、それから12年の月日が流れ、やっとほぼ完売となり、現在作東産業団地では400人ないし500人程度の雇用があると聞いております。当時の作東町の町長や議会、職員の方々の方向性については、今思えば先見の明があったものと今では思っております。ですから、市長も最優先で取り組むべき課題は人口問題であると認識されているのであれば、新規の産業団地についても早急に取り組み、実行することに期待をしております。市長のお考えをお尋ねしておきます。

観光施設や出先施設について、私は常々言ってまいりましたが、民間にできることは全て民間に移行すべきだと思っております。美作市がこのような赤字施設を担って先へ進めば、いつかは財政にも悪影響が出ると思っております。現在このような施設では、約２億円以上の赤字が出ていると思っております。それが指定管理である民間へ移行することによって、１億円以下に減少すると私は思っておりますが、市長のお考え方についてお尋ねしておきます。

最後に、11番目の自然豊かな環境を生かした魅力ある地域づくりについてですが、各種誘致学校事業については引き続き取り組むとのことですが、ほかの市町村ではない取り組みであり、実現に向けて頑張ってください。

また、市営促進住宅については、４月から北山、勝田の入居開始の募集とのことですが、広報みまさかや告知放送だけではなく、市外にも目を向けて、あらゆる方法で募集されてはいかがでしょうかお尋ねしておきます。また、１月23日から入居の募集をされているようですが、今の現状についてもお尋ねしておきます。

それから、有害鳥獣対策については、私も長年にわたり取り組み、数多くの質問をさせていただきました。猟友会の皆様や担当職員の取り組みによって現在に至っていると思っております。今後においても、さらに対策強化に取り組んでいただきますようお願い申し上げ、市長の考えをお尋ねいたします。

以上、11項目と多岐にわたる質問となりましたが、よろしくお願い申し上げます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、小渕議員の友和会代表質問に対してお答えをしたいと存じますが、その前に小渕議員におかれては、長く大原町のときから、さまざまな形で地域社会にたゆまぬ貢献を続けられる、陰日なたなく努力を頂いたこと、そしてそのことが例えば今御発言にもありましたけれども、作東産業団地の立地に結びついた、あるいは後で答弁しますけれども、鳥獣害対策の前進やさらには最近の例で申し上げますと、滋慶学園の誘致とかそういったところにもいろんな面で前向きな効果を及ぼしたこと、そして一方でぬるい話ばかり

じゃなくて、財政についてはかなり辛口のきちっとした財政運営をすべきだという視点を常に持って議会にも臨んでこられたわけでありまして、その長い御尽力に対しまして、この場をかりてまず心から敬意をそして感謝を申し上げておきたいと思います。本当に御苦労さまでございました。

最初の質問でございますけれども、人口動態でありますが、これも質問にございましたように、皆さんが全国的に関心を持っていることでございますけれども、一方で当市におきましては、ここ数年の注目事項ということであります。ここ数年においては、この人口というものを政策目標として掲げた上で、その人口動態がどうなるかということを政策を導入する際の判断基準の一つとしてやってきたわけであります。しかし、人口につきましては、きょうやるとあした響くというようなことではなくて、なかなか時間がかかるもんです。したがいまして、効果の発現をするのに最低２年や３年というものは当然必要でありますから、平成28年度の人口動態につきましては、その２年が過ぎたわけでありますので、どういう効果があるかということをそろそろ点検をしなければいけない、こういう時期になる。これがまず前提でございますけれども、そしてお尋ねにありましたけれども、減少はしております。平成24年度は450人、25年が453人で26が520、27が624と、これはまさに質問にあったように、だんだん悪化をしている、減少幅が拡大しているとこういうことであったわけでありまして、そしてさっき言いましたように、今度は27年と28年のところが非常に重要になってくるということなんですけれども、私どもの推計では、１月末までの状況をベースに、あと２カ月と例年どおりに推移をするという推計ですけれども、減少幅が500から520人の間であろうということでございまして、少なくとも平成27年の数を相当下回るということになろうかというふうに推定をしています。

もう少し具体的に言いますと、平成28年度の推計と27年度を比較しますと、増減の合計でいうと113程度の改善、その後が結構重要なんですけれども、出生数が実は10名弱、多分８名ぐらいだと思うんですけれども、出生数がふえているんです、これは大変いいことであります。死亡数が59、約60人減るもんですから、合計で自然増減の改善が67名ということに。これが70になるのか65になるのかはわかりませんけれども、大体その辺で改善が出てくるというふうになるわけです。それから、転入につきましても27、28を比べますと、転入が29名ふえていて、転出が今度は18名減っていて、したがって社会増減も46名の改善、足してみて113の減ってはいるんだけど、内容がよくなっている、減り方が激しくなるんじゃなくて、減り方がこういうふうになって、この減り方のラインというのは、地方創生の総合戦略を考えたときのラインと大体似てきているとこういうことになろうかと思います。その要因でありますけれども、今までのところ例えば滋慶が来たからふえたということにはなってない、まだこれは来年度以降なんで。滋慶が来ればまたふえるんですけれども、滋慶のような大規模な事業じゃないところの効果で今のところは出ているんです。それは具体的に何かといいますと、第１に私どもが逐次推進をしてきた、特に障がいのある方を中心としたところの福祉の水準を上げる努力というのがあります。例えば御案内のように、めばえという発達障がいの早期からの支援施設を設置をいたしましたとか、あるいは勝田東小学校でいろいろ頑張ってますけれども、勝田東にも転校がありました、現に。そういうことで、ユニバーサルデザイン教育の推進みたいな教育と福祉の連携のところ、あるいは病児保育なんかもありましたけれども、いろんなところで近隣の市町村に劣っていた福祉の穴をこのところずっと埋めてきているというのがある、これがじわじわときいているというふうに思います。

それからもう一つは、特に小学校、中学校における教育の水準が、例えば平成24年度でいうと、全ての科目で全国平均以下だった、岡山平均以下だったというのが、今は小学校については全ての科目で全国平均を超えている。こういったことが市から転出する可能性を随分減らしているというふうにも考えられるわけでありまして、こういったさまざまな住みやすさの施策というものが徐々に効果をあらわしているというのが

要因だろうというふうに思っております。なるがゆえに今後とも、これは別の質問になりますけれども、市民の方々の住みやすさを、よく現場に行って、行脚をして対話を重ねながら聞いていく、場合によってはそういう会合に出てこれないＰＴＡの方々の意見も聞く、さらにはアンケートを実施をして、どの辺が大変なんだということについて市民意見を聴取して、そしてそれを政策に反映していく、こういう実は地味な努力が非常に重要だと、それを一歩一歩積み重ねることによって、次第に住みやすさが出てくる。たまたま私は先週、先々週いろんな行事がありまして、議長のお誘いもあったんですけど、津山である会合に出て、いろんな方の意見を、津山市民の意見を聞いたんですけれども、最近子育て関係は美作のほうがいいんじゃないかということを保育園の経営をしておられるＡさんという方が言ってくれました。そういうことがだんだん響いているというふうにも考えております。したがって、この方向性については間違いがないということで、住みやすさの改善をいろんな面でやっていく、ただそのときにこっちの思い込みじゃいけないんで、市民の方々の意見を聞いた上でやっていくと、こういうスタンスの継続をしていくことが大変に重要なんだろうなとこんなふうに思っております。そこへ今度は産業団地であるとか、あるいは滋慶であるとか日体大であるということで、数をまとめてごそっと持ってくるというやつをあわせて展開をしていきたいと、こんなふうに考えておりますので、御理解を賜った上で御支援を頂戴したいというふうに思います。

次に、当市の財政状況でございますけれども、この財政状況につきましては、まず財政というものをきちっと毎年毎年点検をし、そして点検の上で運営方針を少しずつ修正をしていく、こういうこれまた結構地味な作業が必要なんですが、この地味な作業の具体的には財政の総点検がもう３カ年を経ている、それがだんだん効果をあらわしてきているということになっておりまして、そして昨年11月に公表した今後５年間の収支見通しにつきましては、普通交付税がいわゆる合併特例から一本算定になる、これが完全実施される32年度そして33年度においても、３年前は収支不足になる見通しだったんですが、収支不足を回避できる、若干プラスがずっと残っている。これには例の里山公園のようなものは入ってませんので、それにプラスが持っていくということになります。いろんな理由があるんですけれども、一つ一番この面で大きかったのは、合併をしている他の全国の市と共闘して、この普通交付税の算定について、我々の地域における現状というものを理解した上で、余り減らさないでねということを運動して、これが結構効果があった。そして、去年からことしにかけましては、新たに保健福祉に関する経費の見直しが私どもに有利なように行われたというようなことが大きいわけであります。せんだってもその関係で、今治市の市長が今会長ですけれども、私どもが副会長的立場にございます、真庭もそうですけど、真庭が市長が体を壊したもんですから行けなかったんですが、８つの合併市がリーダーシップをとっているんですけど、その中の２つが岡山県の県北ということでこの幹事会がまた開かれて、東京でいろんな議論をしてまいり、そして総務省に行きました。例えば交付税課長のところへ行ったときには、今回お礼に来たんだけれども、雪が降ったので特別交付税をちゃんと回してくれと言ったら、ことしは妙なところに雪が降りますなとは言ってましたけれども、多分効果があったんじゃないかと思うんですが、そういう地味な活動をしながら、一方で個々の予算編成のときに少しずつ、本当に0.何％でもいいんだけれども、要らないものを整理をしていく中でこういった状況になっておりますが、その状況をどう評価するかということでございますけれども、お許しをいただいて、議員の方々に財務局が全国ほとんど全てのところを調査しているんです。どういうことかというと、財務省は財政投融資資金というものを全国の市町村に提供しているので、貸し手として、その町あるいはその村、その市がちゃんとやっているかどうかについて調べることが必要だというんで、全国一律の基準でこれは調査をしております。そして、私どもにつきましては、平成26年度の決算をベースに調査をされました。なお、平成26年と27年を比べますと、27年のほうが財政状況はいいんで、これからお話しするよりも、もうちいといい感じだ

というふうに財務省もおっしゃっておられましたが、その財務省の調査について申し上げますと、こっちの面がいいですか、グラフの赤いんじゃなくて、白黒の面のほうがはっきりわかるんですが、まずここに書いてある指標ですけれども、簡単に言うと一家の収入に捉えて、債務償還可能年数、今あるローンは何年で返せるんだというようなこと、あるいは実質債務月収倍率は、ローンの返済は月収の何倍かというようなこと、それから積立金の月収倍率は、貯金はちゃんとあるのか、月収の何倍あるんだと、それから行政経常収支率は、ローンの返済に回せる、要するに食事をしたりどうしても必要な経費というのはこれはもう切れませんので、切れない経費を除いた余裕は何ぼあるんだと、こういうことです、その比率を財務省は使っておりますけれども、まず償還可能年数について言いますと、私どもは今ある借金は3.1年分の年収で払えます、それが3.1です、全国平均は7.2なんです、7.2年分の借金を持っているのが全国平均。岡山県の平均が5.1年分、そして類似団体、つまり人口５万人以下の市の平均が全国で7.9年、ですから私どもの借金というのは、今や全国においても県内においても類似団体においても、大分楽になったとこういうような状況であります。

それから、実質債務月収倍率は、先ほど言いましたけれども、ローンは月収の何倍か、月収ベースでいいますと、これが18カ月がイエローラインとなっておりますけれども、まず当市は10.0月、全国平均は8.7。若干うちのほうがそうよくはない、そして岡山県が8.4、これも若干悪いかもしれませんけども、類似団体の平均が全国で10.8ですから、ちょっといいんですが、まあまあこれは悪くはないという数字です。

次に、貯金のほうですが、貯金のほうにつきましては、例えば全国平均が8.3、類似団体平均が6.3、岡山県平均が8.0、うちも8.0。これも決して悪くないどころか、非常にいいと言われてます。そして、いわゆるどうしても使わなきゃいけないものを除いた余裕分あるいは政策経費分というんですか、それがどれぐらいあるかというと、これは非常によくて、全国平均が14.1に対し、岡山県平均が16.6、類似団体の平均が14.7、つまり十四、五、六の世界なんですが、うちが26.4ですから、だからいろんなことができている。先ほどの市民の方々のために、新たに病児・病後児保育をやろうという判断をしたときに、それが何とかできるというのがこの辺にあらわれているわけであります。簡単に言いますと、財務省としては、本市の財政状況については留意すべき状況はないという、役人用語ですが、あとの懇談では、類似団体を含めて非常にいい水準にある、ちょっと貯金が多過ぎるんじゃないかと言われたぐらいでございます。

ただし、こういった問題については決して緩めてはなりません。これが安心だからというんで余り放漫経営をしますと、多少赤字の三セクがあってもよかろうがみたいなことは絶対言っちゃいけなくて、それは常に一番の効率を追求しながら、一方で市民の福祉に直結することについては、少しずつ確実に質量ともに向上させていくことによって人口の流入を獲得をして、それを今度は財政に生かしていく、こういう取り組みが必要であろうかと考えております。

教育については、教育長のほうからお答えをいただくんですね。

それから、平成29年度の一般会計予算でありますが、これは所信表明のときにも申し上げましたけれども、あるいは山陽新聞でも報道されましたが、過去３回マイナス予算を編成してきました。切れるところは切ってきました。今回は、今度は今まで準備してきた、あるいはおくれていたもの、準備をしてきたのは、いわゆる誘致型でありますけれども、滋慶グループの学校建設の補助。おくれていたものは、最終処分場です。そういったものを含めて、あと湯郷幼児園の建設などがあるんですが、こういった投資的事業がたまたま今年度に集中をしているというようなことからふえているということでありまして、一過性のものであります。

本件当初予算につきましては、クリーンセンターを除きまして、基本的には地方創生総合戦略というもの

の中で重点を置いたものが実現をするという過程にあるということございますが、私どもとしてはもう一個今年度の一般会計予算としてぜひとも御注目をいただきたいのは、市民意見の反映が一番の重点であったんだと、これは先ほども申し上げました、人口をふやしていくためには、市民の方々にじかにきく予算編成をしなきゃいかないと。じかにきく予算というのは、きくというのは、じかに効果がある予算というのは、じかに市民の声を聞くというところから連携をしてくるわけでありまして、じかに市民の方々の意見を聞いて、それを予算に反映をしていくということに実は一番力を込めてやらさせていただきました。金額としては、非常に少ない予算でも効果があるんです。例えば発達障がいの早期発見というようなことから、いわゆるスクリーニングテストというのを、今まで全国と同じように就学前、６歳ちょっと前にやってたわけでありますけれども、これを３、４歳からやれるようにするということで、発達支援というものを小学校任せじゃなくて、うちでは幼稚園、保育園もできる体制に立ってるんで、幼・保のころから発達支援をすることによって、非常にすっきりした形で小学校に対応できる、こういったことが全国初かどうかは知りません、少なくとも岡山県では初であって、その岡山県初であることの要因というのは、市民アンケートやさまざまな形での市民の方々の意見を聴取する中で、これはやったほうがいいだろうということになるし、それからまた余裕が若干金銭的にできたということであります。

次に、公共交通の空白地域の問題でありますが、これも実は市民意見をベースにして取り組んだわけであります。とりあえずは空白地域というものを念頭に置いて実証実験をするわけであります、これは申し上げました。しかし、この目的は空白地域だけではないというふうに私は考えております。空白地域という定義もいいかげんというか、巡回バスがあったりするとかということなんですが、考えてみますと、うちの空白地域じゃないところというのは、多分東京で言えば完全に空白地域です、１日何本バスが来るんならというわけでありますから、当市における空白地域じゃないところというのは、実は定義的にいうと、日本全体の定義でいうと、全体が空白地域と思ってもいいんじゃないかという気がするわけでありまして、とりあえず当市的な空白地域を念頭に置いてますけども、最終的には全市を念頭に置く。しかし全市を念頭に置くからといって、健常で自分で何の問題もなく運転できる人まで対応することは、これはまた大変大きな問題になってまいりますので、どうするかということを考えたときに、先ほどお尋ねがあったような、例えば80歳以上の高齢者の方々や障がい者の方々で、あるいは障がいを新たに得られた方で、とてもこれから運転できんでというような方については、これは当然今後の考慮の対象とするんですが、それをどんなふうないわゆる政策枠組みでやったらいいかということについて、今回の調査の中で、あるいはモデル事業の中で研究をしていき、そして対応する原資が、先ほど議員のお尋ねの中にあったように、これからふえるんです。それにあわせてやっていければなというふうに考えております。

なお、したがって都市公園の拡大の動向をにらみながら拡充をしていきたいというふうに思っているということであります。

次に、里山公園でございますけれども、これはお尋ねがあったのが大体そのとおりでありますけれども、平成26年度に美しい里山をつくり育てる条例というものを議会の皆さんの御理解をベースに制定をして、そして市街地周辺の里山が持つ多面的機能を市民の共有の資源としようということなんですが、いろんな意味合いがあります。かつて80歳代以上の林野あたりに住んでいらっしゃる御老人に聞くと、あそこでよう運動しようたんじゃと、特に林野に女学校があったころは、だあっとあそこを登っておりてくるという単位があったらしいんです。それで、上に行ってツバキの花が咲いているころには、その花を摘んできて生けたとか、まことに麗しい話がある。そして、上に行って町を見おろすことによって、気宇壮大というか、女学校ながらも天下を治めるみたいなそんな議論をしたんだということをおっしゃっておられるある生け花の先生

がおられるんですけれども、そんなところに戻っていけばまことにいいことだと思いますし、またそのときには、何度も言いますけれども、人が入る山でございますんで、鹿やイノシシにとっては住みにくかったり、ですからこの周辺は結構鹿も出るんですけれども、できればまた何度も言いますけれども、佐用のほうに帰っていただいて、向こうで安住していただければということにもつながっていきますし、また見ておりますと林野の辺ですけれども、密植の結果、やや木が弱くなって立ち枯れしたり、あるいは風によって危なくなっていたりします。あるいは大きくなり過ぎて、風が吹くと崩れて岩を起こしちゃうというような危険性も放置をされた、もともと里山のところは放置をしますと、災害上の危険性が拡大するんです。このことをなかなか御理解されない方もおられるんだけども、もともと里山については、今後も里山というのが最も安全なんですが、それを改善する、あるいは回復するという観点からも、実は防災上の効果もありますんで、効果といったら非常に多面的なんです。その多面的な効果の中に利活用という効果もあって、これは市民の方々の健康づくりや、あるいはレクリエーションとかといった楽しみでもいいですし、場合によっては他の地域からも来ていただいても全然構わないんですが、まずこの考え方については、もう一個ベースにあるのは財政論があって、都市公園にすると、平米当たり36円強の資金が交付税として来る、年間が今のところ平成30年度においては１億円ぐらいなんですが、これは結構大きいんです。別の質問がありますけれども、例えば太陽光発電をしたことによって、いわゆる償却資産に係る固定資産税が１億円ふえるとするんです、どっちがいいかわかりますか、これは。圧倒的に交付税のベースを１億円上げたほうがいいんです、なぜかというと固定資産税が１億円上がっても、基本的にその４分の３が今度は交付税が減るんです。ところが、こっちのほうの交付税は根っこから上がってますんで減らないんです。もう一個言うと、償却資産に係る固定資産税は、耐用年数ちゅうのがあって、大体太陽光でいえば20年なんですが、20年後には０円になっちゃうんです、こっちは減らないんです。だから、交付税１億円をこれで上げるということは、いわゆる20年単位でいうと、償却資産の固定資産税を10億円ぐらい上げても追いつかないんです、実は。相当な効果がこれはあります。私どもとしては、これにつきましては今の里山公園をこのあたりをやっておりますけれども、先ほど申し上げましたように、今後のさらなる住民福祉対策の向上ということを念頭に置いた場合に、他の地域にも拡大する、あるいはこの里山の整備を今度やっておりますけれども、例えば平田地内で更新伐をしますけども、その状況を今地元も注目しておりますけども、ほかの地域も注目をされておって、これがいろんな効果、防災効果であるとか防鳥獣害効果とかいろんな効果がありますけども、その効果があるというふうに住民の方々がお認めいただけるんであれば、今度はこれを櫛原の中とか、あるいはそれこそ鎌倉山とか三星とか塩垂とか長大寺とか、それからちょっと工夫は要るんですけども、幕谷とか、ああいうところにも拡大をしていくことで、全市的に美しくてそして安全で、そして財政的に効果がある地域づくりができるということになりますんで、これは私の思いとしては、真野部長がどう言うか、拡大はします、拡大はしていきたい、こういうことになろうかというふうに思っているところであります。こういう構造ですからそもそも効果が高いんで、財政的にも全く問題ないというか、７億円使う、９億円使うといろいろあって、そのうちの市費はもっと少ない。基本的には過疎債が適用可能なもんですから、７割がこれまたどっかが出てくるし、それから森林のあれについても、ほとんど市費はなくて、国費、県費で９割ぐらい持てるわけですから、そういった事業を使って効果がある、そして交付税が入るんでお金は取りません。そして、落ちついたら交付税が入ってくる額の10分の１程度を維持管理に充てることで十分なんで、あとを市民の皆さんのために活用をしていくというようなことで考えていきたいというふうに思っております。

次に、声なき声の市政への反映ですが、これは御要望というふうに受けとめましたけども、今御答弁いたしましたように、私どもの予算であるとか、私どもの制度改正というものが人口増につながるとか市民福祉

の向上につながるとか、そういう本当の価値を生み出すためには、市民の皆さんの声をしっかりと把握することが基礎中の基礎ということになるというふうにもともと思ってたんですけれども、先ほど申し上げたようなこのところの状況を踏まえてみると、その思いは決して外れではなかったという気がします。したがって、本件につきましては、住民の方々もそう思っていらっしゃるし、議員のお尋ねにもそういう指摘がありましたので、今年度においても、行脚と対話の行政懇談会という言葉がありますけども、行政懇談会を確実にやっていきたいというふうに思っておりますし、また若干行政懇談会について、そがんものがあったんかという話を一部の方がしておられる地域がありまして、情報伝達の仕方について、できたら市政だよりか何かにも載せてほしいという声もありました。日程調整がうまくいけば、そういうことも含めて、市民の方々にしっかりと情報が提供できるような形で継続をするとともに、またこれは場合によってですけれども、ＰＴＡの皆さんを含めたちょっと若い世代の御意見にも耳を傾け、そしてことしはもうやりませんけども、何年かたったらまた市民アンケートというものも実施をして、もう一回状況を尋ねていくということにしていきたいと思います。

次に、滋慶の美作市スポーツ医療専門学校及び滋慶高等学校でございますけれども、これにつきましては私も若干心配をしておったんですが、地鎮祭が行われた後、地盤改良ができたということなんで、その後ややこしい工事に入ろうとしたら、ごらんのとおり地面が雪で覆われてしまってというようなことが原因でございまして、そのほかに特段の原因はないというふうに聞いておりますんで、私どもとしては計画どおりやってほしいと思っております。したがって、校舎については私は心配はなかろうと思ってるんですが、心配してんのは、むしろお尋ねにありましたけど、宿舎とか寮とかそういったところです。これについては、現場の方々、つまり準備室の方々にもお願いをしていろいろ見てもらってるんですが、だんだん見えてきました。今月に入って滋慶の橋本専務が商工会に来られて、どれぐらいの規模だというようなことで説明をされたということで、だんだん規模感というのが見えてきました。簡単に言うと、総勢満杯年度になると600名ぐらいの学生諸君が、高等学校なのか専門学校なのかは別として存在をする。その中で高等学校の240名ぐらいは、当初は80ですけれども、３カ年で240になるんですけども、これは全て全寮制なものですから、寮が必ず必要と。それから、もう一個のほうが百数十名かなというようなことでだんだん出てるんで、これはもう見えてきましたんで、初年度は100から150はつくらにゃいけんのかなと思います。そして、私どもとしては、これを促進するために市としてできることは何かというと、市が所有している既存の物件、これは物件というのは土地であるケースと建物であるケースが両方ありますけれども、これを提供する、そしてこれこれこうこうの大体のスペックで私どもが提供する土地の上に寮を建ててみませんかという公募を行う。公募のスタイルは、どんな内容でやるんだというところに加えて、食事代とかを除く、いわゆる寮費が月額何ぼぐらいですかというようなところで競っていく。今のところ念頭に置いております市有物件というのは、これは議員にも御案内と思いますけれども、まず第一に旧やすらぎ荘の跡地です、これはもう誰が見てもようわかるということなんですけども、これに全部が収容できるかどうかはわかりません。それから、東粟倉地内にも幾つか可能性があるところがございます、それから大野地区にもあります、それから宮本にもあります。ですから、この辺を念頭に置きながら、あとは民間の方々がどれをどう選ぶかということはさておき、こういうところがあるので、これを改修なり新築なりいろんなやり方があるけれども、皆さん方に提案をしていただけませんかというような提案型の公募を新年度早々か、場合によっては今年度の終わりぐらいにやるように準備をしてるはずなんですけども、オーケーやと言っておりますが、そういう方向で今熱心に議論させていただいているところであります。

このほか専門学校や高校の設立の関係のいわゆるペーパーワークというんですか、許認可のためのいろん

な調整とか、あるいは研修病院の確保とか教職員の確保とか、この点については大体もう順調に進んでいって、そして今後県への説明とかもありますけれども、一応これも済みましたから、広報活動、つまり宣伝活動が可能となるということで、今後新聞やインターネットなどにさまざまな形で滋慶に来たらどうですかというようなことが出ていく段取りになっているということであります。

次に、エアコンも私ですか。

エアコンですが、エアコンにつきましては、もともと英田にモデル的に設置をいたしました、小・中学校に。そして、そのことが教育上どういう効果があるのかということを検証した上で、その効果に応じて、全市的に対応を考えようというのがもともとの話であったと私は記憶しておりますし、多分議員もそういうふうに記憶をしておられると思うんです。そして、今までわかったことで明白だったことは、英田の小学校や中学校において、いわゆる支援の必要な子どもたちが暑い寒いでもって情緒的な問題を拡大をするということがあったんだけれども、おかげさまでこのエアコンによって、そういう気温によって情緒が混乱したり行動が悪化したりすると、こういう問題がほとんどなくなったというところに顕著な効果があったというのが、教育委員会からの私どもに対する最終レポートであったわけでございまして、そして一方で私どもの小・中学校において、言葉が適切かどうかは別として、特別支援という教育の一分野は非常に重要である、あるいは多いとこういうことであります。ちなみに数字を申し上げますと、支援学級の児童・生徒在籍率は全国の平均で2.0でありますけども、岡山県平均では3.9と、岡山県が全国の倍なんです、そして私どもが6.9でそのさらに倍ということでございまして、これは非常に重要な課題であるし、私どもはここを丁寧にやることによって、むしろ人口増に結びつけていきたいと思ってるんですが、そういうこともございますので、私どもとしては、今後英田でもって成績向上とかということが出てくりゃ別ですけども、今の私どもの知見、つまり英田から得た知恵は、まずは支援学級というかそういう教室には効果があるということでございますので、市内に小・中学校全部合わせて特別支援教室が26あるんですか、26室、これのエアコン導入を来年度予算で行うという決定を、市そして予算として今議会にお諮りをしているということでございます。

次に、湯郷Ｂｅｌｌｅでございますけれども、私どもとしては心から新しい体制でＶ字回復をしてほしいと祈ってるんですが、祈ってるだけじゃ効果はないんで、これはしっかりと支援をしていこうというふうに思っています。一時大丈夫かという声がありました、年末ぐらいかありました。僕も年始には某地方紙と言ってもしょうがないけど、山陽新聞の本社まで行って、このことも協力をお願いしたりしたんですけれども、１月ごろから少しずつ市民の方の目線というか、見ているかたも結構ええほうに行くんじゃないかという期待の声もだんだんに伝わってくるようになっています。それからまた、課題であったいろんな意味でのマスコミやサポーターの方々とのコミュニケーションについても少しずつ方式が変わってきて、情報が伝わってんじゃないかなと、伝わりつつあるなとか、あるいは隠されてないなとかそういうようなニュアンスが理解をされ始めたんかなというようなこと。あるいは、これも課題でありましたけれども、役所と社団法人の関係がどこから役所でどこから何かがようわからんようなことになっておったというのも大きな課題だったんですけども、これも少しずつ、これは役所、これは何と、今日の役所はこれはサポーターのようなものとかいろんな意味で理解ができる、ほかの人に話をしても、変なとこですね、美作はというふうに言われなくて済むような、そういう感覚が出てまいりました。１月の半ばごろからか、そういうことで僕もこれはひょっとしたらええことになるかなというようなことも感じているので、ことしは強い期待をしておりますが、ただ勝負は難しいですから。最初はシャルムでしたっけ、シャルムといって決して侮ってはなりません。大学生というのは調子に乗ると怖いですから、これは。ですから、気を引き締めてやっていただきたいと思いますけれども、私は今の流れはぜひ後押しをしたい、後押しをすることによって、恐らくはいい成果

が出る流れができていると、こう思っております。そういうような理解は私のみならず、市の執行部全体で共有をしているわけでございますけども、そこで補助金額を、いろいろ細かいことは除きますけども、去年1,600万円お出しをしておったんですが、3,200万円ということで当初予算に計上をし、１年で復帰ということを心から支援をしていきたいというふうに思っております。

また、いろんなことで御支援できることは支援するということで、会員募集をまた新シーズンにおいてもやるということになるわけでございますけれども、市の広報紙を場所として提供するというようなことも含めて、前向きな議論をしております。私どもとしては、以上申し上げたとおりでございますけれども、ぜひサッカー場にも足を運んで、ことしだけで10試合ぐらいあります、足を運んで、回復している姿というものをともに応援をできればとこんなふうに思っておりますので、議員におかれても、また運動公園でお会いするのを楽しみにいたしております。

それから……。

議長（山本　雅彦君）

市長、答弁の途中ですが、ここで１回休憩を入れますので、答弁は休憩の後からお願いします。

市長（萩原　誠司君）

わかりました。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

ただいまから10分間休憩いたします。

午前11時07分　休憩

午前11時17分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

萩原市長、答弁の再開をお願いします。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、引き続き小渕議員の代表質問にお答えしますが、産業施策の関係ですけども、作東団地は、旧作東町の先見の明ありというお言葉でしたが、おかげさまで私になりましてから約４区画くらいがこれで売れました。残り２区画あるんですけども、もう一個は片がついてますんで、あとは団地には小ま過ぎるというか、コンビニぐらいがええんじゃないかと思うような１号地が残っているだけでありまして、現時点で96％ぐらいで、さっき申し上げたもう一個のところが大体売約済みになりましたもんですから、99％と。国技館では95％で満員御礼ですので、何度も言いますけども、そろそろこの議会が終わりましたら、団地の前に完売御礼の垂れ幕を出そうじゃないかとそういうことで準備をしていると思います。これを契機にして２つ考えておりまして、まあ、３つかな。１つには、団地の中にもう少し高度な機能が来ないかなと、こういう運動をしたいと思ってるんです。例えばあるメーカーにお願いしてるんですけれども、製品の製造工程は来てるんだけれども、設計工程とかデザイン工程とか、そういうものが来れるようにできないかなと。同じ面積でも、今度は人がそこでふえてきますんで、職種も変わってきますんで、そういうことで団地内部における高度化というものをどう考えていくか、場合によってはそれを支援する必要があるのかないのかということも考えているのが１番目。それから、２番目に市内にまだ産業団地として造成されたところが何カ所が点在をしています、山城、宮原、勝田の真加部ぐらいが筆頭典型なんですけれども、こういったところに対

する支援というか、あるいは誘致活動というものも並行して進めるというのが２点目。３点目がお尋ねの中に強くありましたけれども、南部産業団地なんですけれども、これは県の事業として行われる美岡道の工事というものが深くかかわってまいります。造成に当たっては、美岡道で発生する残土とかといったものの活用ができるかどうか、それから美岡道のインターとの近接性、その他も考えながら、産業団地として優位なものが開発できるように今構想をしておりますが、こちらの得手勝手な構想ではいけないので、しっかりとした調査も必要ということで、来年度予算に調査費というか開発調査費をお願いをしているという状況でございますので、ぜひ御理解をいただいて、御支援を賜りたいと思っております。

それから、観光施設の話がございました。これも今回議会に提案をしておりますけれども、私どもとしては、最低限必要な削減というものはこれでできるだろうと思っておりますが、さらに赤字の削減ができるように、さまざまな工夫というものが必要なのかなというふうに思っておりますが、その赤字の削減の工夫というのは、１つにはサービス内容や営業内容の改善ということであり、もう一つは施設の利活用を進めるためにどうすればいいのかというハードの改善ということでございまして、これらについてもあわせて指定管理者にお願いをしていくこととしております。

加えて、これも議会にお願いをしておりますけども、これも議員が深く関与されました獣肉処理施設について、大分ようなってきたということですから、これはもう民間にお願いを指定管理としてできるように制度を改めようということで、条例の一部改正というものもお願いをしているわけであります。加えて、さまざまに民間活力を導入したほうがいいところがあれば、これはちゅうちょなく今後も検討をさせていただきたいというふうに考えております。

次に、定住促進住宅についてのお尋ねがありました。これは２週間、３週間ぐらい前から募集を開始をしておりますが、割合早い反応がございました。御案内のとおり、こういうものについては、３月末から４月異動期が一番反応が高いんですけれども、この時点において既に15戸の応募がありました。これは、先程言いました私が思っていた感覚よりもちょっと前向きな度合いが高いなと、こんなことでございます。そして、入居希望者の内容でございますけども、市外からは、15戸のうちの３分の１になりますけども、５戸の応募がありました。５戸で家族構成をプライバシーの問題をのけてみますと、全体として今のところ８人の御転入というのが組み込まれていまして、年齢階層はいわゆる子どもづくりや子育て世代ということで、40歳代までのいわゆる若年層が15戸のうちの３分の２の10戸ということでございます。そのうち、既にお子さんがいらっしゃるのがお二方、そして今後お子さんがお生まれになるであろう方々が４戸ということで、この辺もやってみるもんだなというような気がいたしているところでございまして、さらに勝田が結構人気がいいということも伺っているところであります。私どもとしましては、なるべく広くということで考えておりますが、津山、勝央、奈義、西粟倉、美咲というところで新聞折り込み、これに加えて広報紙とか告知放送とかホームページというものを今後も使っていきたいというふうに思っておりますが、口コミも重要でございますので、ぜひ議員のお知り合いで帰ってくるとか引っ越してくるという方にこういうのもあるぞということでお伝えをしていただければ大変ありがたいというふうに思っております。

それから、鳥獣害対策なんですが、議員が長年取り組んでこられた、そして現場にも随分お出かけになったということであります。当面これは私も一生懸命やった分野なんですけれども、県の委員にもならせていただいて、特に昨年、一昨年については、鹿対策をかなり増額をさせていただきました結果、これは獣肉処理施設に聞いたんですけれども、ちょっと鹿の搬入が減っている、つまり大分とったんかなという感じが出ているようであります。今緩めることはできませんけれども、先ほどの人口動態と同じようなことで、ゆるめちゃいけないんですけども、ちょっと効果が出つつあると思います。一方で問題になっておりますのが、

昨年冬眠に入るまでに随分お騒がせをしてくれました熊なんですが、熊につきましては、今県が新たな計画づくりをしております、その委員として積極的に発言をしておりますが、兵庫、岡山、鳥取３県の県境あたり、いわゆる３県境熊の集団がこれが大分数がふえてるんで、総量として減少させ、個体群維持として必要な十分達成できる800頭水準というものを、全体としても出していくというような方向は大体出たわけでありまして、それに伴って、熊には申しわけないんだけれども、殺処分をさせていただくということについてもふえていくと思うんです。ただ、問題は錯誤捕獲された場合の殺処分について、県の御到着を待つというと、もうしびれが切れることが何回もありました。場合によっては、わなのかかりが緩くてお逃げになったりするということもあって、この辺についてはよく考えにゃいかんということで、今県には事務の一部移譲ということで、そこの判断権限を美作市に移譲できないかということも今検討の素材としてお願いをしているところでございます。この辺が非常に新しいところになります。もう一点は、熊に加えて猿がまた活性化しているというか、結構目撃情報が多いとともに、被害情報が例えばこの近辺でいいますと猪臥あたり、あるいは英田あたり、勝田もありましたというようなことで出ておりますんで、これをどうするかということ。岡山県内は余り知見がないんで、兵庫県から少しお知恵を頂戴しながら、とりあえず今年度は市単独予算で猿の撃退というか逃げていただくというんですか、それにどうやったらいいかということで予算計上をし、御審議をお願いをしております。これも日進月歩というか常に状況が変わりますんで、今後とも議員の御意見なども拝聴しながら、毎年毎年改善をしていきたいというふうに考えております。

私からは予定された答弁は以上でございますけれども、重ねて議員のこれまでの当市運営についての御貢献に対して、この場をかりて感謝を申し上げて、私からの答弁を終わります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

小渕議員の代表質問、その中の教育につきまして、学力と道徳教育についてお答えさせていただきます。

小学校はかなり順調に推移しておりますけれども、中学校では活用問題に課題がある。残念ながら全国平均には届きませんでした。しかしながら、28年度においては、その差が非常に縮まってきており、過去５年間で全国平均に最も近くなっております。これは、ＩＣＴの活用により、授業づくりの研究、問題データベースの活用、放課後学習の取り組みなどの成果だと分析をしております。

今後は、教科担当者による課題分析、そして各校の分析結果からの取り組みの徹底、落ちついた学習環境と授業づくりをさらに進め、学力向上を図ってまいりたいと考えております。

学力のみならず、知、徳、体、バランスのとれた子どもの育成ということは非常に大切でございます。当然道徳教育についても非常に重要であると考えております。各学校では、道徳教育、道徳の時間を中心に、学校生活のさまざまな場面において、思いやりの心、助け合いの精神、互いを信頼し合い、支え合い、高め合う心の育成を図っております。現在学習指導要領の改訂が行われておりますけれども、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、道徳は特別の教科道徳ということで、道徳が教科化されてまいります。通常の教科と同じように、何を知っているというだけではなくって、どのように使うかということが実際に求められるようになってまいります。今後も確かな学力、豊かな心の育成、これを進めてまいりまして、子どもたちの自己肯定感を高めてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

小渕議員。

１４番（小渕　繁之君）〔質問席〕

11項目という多岐にわたりまして丁寧に答弁いただきました。まことにありがとうございます。

２回目の質問はございませんので、総括に移らせていただきます。

今回の所信表明と答弁を伺い、市長が平成29年度に取り組まれる施策、概要は理解をいたしました。私を含む誰もが感じていることは、人口問題だというふうに思っております。美作市がこれ以上減少させない施策、消滅すると指摘されているリストからの脱却につながる第一歩となる取り組みが今回の所信表明の全てであると確信しておりますが、幾らすばらしい施策を提案、考案されても、少子・高齢化に歯どめがかからなければ、転入と転出のバランスが崩れたままでは確実に減少傾向は続くと思われます。美作市に生まれ育った子どもたちが成長し、やがて県内、県外の高校、大学に進学しても、近い将来必ず美作市に戻り、生活の拠点となることであり、そんなような状況へと進む要因は、やはり美作市に住みたいという環境整備が必要ではないかと考えております。その一環として市長は、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略を作成され、人口の大幅な社会増を実現するために、若い者をターゲットに含め、育食住の各分野にさまざまな効果の高い施策を積極的に打ち出し、人口減少の拡幅と地方創生の実現に向けての総合的取り組みを、たびたび地域懇談会においたり、そして議会においたりしても説明されております。ぜひ市長は、議会、議員も含め、全職員が一丸となってこの人口増に向けた行政を強力に進めていただきたい、県下の26町村はもとより、全国の市町村長にまさるとも劣らない魅力あるまちづくりの基礎を構築していただきたいと強く思っております。

私は、平成12年から合併までの５年間にわたり、微力ではありましたが、旧大原町議会議員として責任を果たすため、私なりに取り組んでまいりましたが、そして平成の大合併により誕生した美作市においても、12年間のきょうまで、少しでも美作市が輝き、市民が安心して暮らせる生活環境の構築と若者が定住してくれる地域、町になってほしいとの思いを込めて、歴代の市長を初め、幹部職員に直接提案もし相談もし、またあるいは定例議会における代表質問や一般質問などで市の考え方について単刀直入にお尋ねしてまいりました。最近過去を振り返ったときに、美作市のあるべき未来を見据えながら、議員活動とは何かと考えたこともありました。自問自答を繰り返しながらたどり着いた答えは、議員とは駅伝に似ているのではないかという結論に至りました。駅伝といえば正月の風物詩であります箱根駅伝がありますが、１本のたすきを自分に任された距離をほかのランナーと争いながら走り、次の仲間に渡す、渡されたランナーはまた次のランナーに勝利を目指して決められた時間に渡す、絶対に途切れることは許されない義務と責任が重くのしかかり、精神的にもまた体力的にも苛酷なスポーツであります。先ほども申し上げましたが、私も旧大原町の先輩から引き継いだ議員というたすきをかけて、地域、地区を初め、多くの皆様から御支援と励ましをいただきながら、間もなく自分に与えられた年月という距離が見えてまいりました。私が走った時間の中で懸案事項等が解決したり、提案した事業を実行したりいただいたことも数多くありました。私はたすきを次のランナーに渡すことになりますが、美作市が誕生して11年が経過して、いよいよ萩原市長も４年目のスタートする平成29年度は、人口増を取り組む上で重要な１年目になると確信しております。市民の皆さんの声を聞くことはもちろん大切なことです、また市民から選ばれた議員の声にも耳を傾けることも必要と考えております。その両方の声を真摯に受けとめながら、市長が掲げる自然と笑顔が輝く美作市を創造する地域社会の実現を目指して一致団結し、邁進していただくことを切にお願いを申し上げますとともに、私が走った17年間の中で、さまざまな問題、課題に取り組むために力をかしていただきました議員はもとより、歴代４市長並びに副市長、教育長、そして退職された幹部の方々や全ての職員の皆様に心から感謝とお礼を申し上げまして、平成29年、谷本有造、小渕繁之、友和会の代表質問を終了いたします。長時間にわたり御清聴ありがと

うございました。

議長（山本　雅彦君）

以上で代表質問は全て終了いたしました。

一般質問に入りますが、一般質問は休憩の後といたします。

ただいまから１時まで休憩といたします。

午前11時40分　休憩

午後１時00分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第２　　一般質問

議長（山本　雅彦君）

日程第２、「一般質問」を行います。

一般質問につきましては、申し合わせにより質問席で行い、質問の方法は１質問項目ごとに３回まで、質問時間は45分とすることになっておりますので、御承知願います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号６番則本陽介議員の発言を許可いたします。

則本議員。

６番（則本　陽介君）〔質問席〕

１月から２月にかけて大寒波の襲来があり、私たちの地域でも雪が積もり、外歩きができにくい状況も見られました。積雪のため交通渋滞が発生したり雪かきの多発など、例年以上に雪に泣かされた年になったと感じているところであります。しかし、このところの気候は、三寒四温を繰り返しており、庭先の木々の枝先では多くの新芽が見られ、新しい季節に向けて着実に準備を整えている様子が伺えます。そして、私たち議員も３月定例会を迎えて、新年度へのスタートがただいまより一般質問が開始されましたので、よろしくお願いいたします。

それでは、一般質問に入らせていただきますが、質問を始める前に、通告をしております１項目めと２項目めの順番を入れかえさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

どうぞ。

６番（則本　陽介君）

１、心停止現場における心肺蘇生の普及についてであります。

一般的な心臓の停止時に電気ショックを行い、救命措置ができる自動体外式除細動器ＡＥＤの普及効果を検証した研究成果を京都大学健康科学センターの石見拓教授らの研究グループが医学系の最高峰とされる学術雑誌に10月に公表されております。

その概要は、ＡＥＤの有効性について、総務省消防庁の統計をもとに分析、推計したところ、９年間で835人がＡＥＤを使用したからこそ助かり、社会復帰したと判明したものであります。救命率は、ＡＥＤが使われなかった場合と比べ約２倍にも上ったとのことで、ＡＥＤの使用が市民にも認められ、普及すること

の有効性を示す結果が見られます。

一方で、これまで心臓が原因で突然死する年間約７万人に対し、ＡＥＤが効果的に使えていない実績もあり、単なるＡＥＤの普及から、救命率の向上につながる救命体制の構築が望まれる状況に至っております。

さらに、心停止は１分処置がおくれると救命率が10％減少するため、ファーストタッチは救急隊よりも市民の方のほうがずっと救命率が高い状況があるといったことが明らかにされております。

以上のことを参考に、次の２点についてお尋ねします。

１、心肺蘇生普及の取り組みについて、２、24時間を通じてＡＥＤが使用可能な設置場所の選定と推進についてであります。よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

則本議員におかれましても、今までどおり積極的な御提案を含む御質問をいただきまして、心から感謝をいたしたいと思いますし、また今まで則本議員が御提案になって実現した数々の政策もございます。心からその点についてこの場をかりてお礼を申し上げておきたいというふうに思っております。

具体的な質問でございますけども、ＡＥＤの件につきましてはお尋ねのとおりでございまして、私どもは今までＡＥＤの導入ということでさまざまな取り組みをしてまいりました。市内にも数十台のＡＥＤが配布されている。したがって、台数的な意味における普及ということにつきましては、それなりの実績があるということでございますけれども、一方で救命率の向上という観点から、これらＡＥＤがベストな場所にあるのかどうかということについては、十分に検討をすべきである、こういう御指摘だと思います。まことにそのとおりかというふうに思っているわけであります。私どもとしましては、消防本部におきまして、小学校の５年生ぐらいから取り組めるというコースとして45分間の救急入門コースというやつとか、あるいは講習８時間以上の上級救命講習というようなものも実施の中でＡＥＤの使い方、その他の重要な救命動作について普及を図っているところでございます。また、今後とも受講者の方々が望まれておられるような形で、例えばもう少し短くできるとかというようなことも含めて議論をし、あるいはだんだん普及してまいりますと、もう受けたがなという人が多いんで、今度は人数が少なくても受講の開催ができるようにとか、その実情に即して救命率の向上のための市民の方々みんなが現場で何かあったときに、僕はわかってるよというような人の数をふやすということが、ＡＥＤがあるだけじゃなくて、ＡＥＤの使い方を知っている市民の数がふえるという意味で非常に重要ですので、このところについてもやっていこうと思っております。なお、講習時間については、インターネットで事前学習をしていただくというようなことで、時間短縮も可能だという具体的な提案を消防本部のほうとしても考えておりますので、この辺をよく考えながら、具体的な改善にも努め、よってもって冒頭申し上げたように、救命率の向上のために、ＡＥＤの器械だけじゃなくて、使える人が市内のいろいろなところにいらっしゃるというような状況をまずつくっていくということであろうかと思っております。

実態でございますけれども、平成27年度につきましては、なんと72回実施をしておりまして、1,645人の方がこの受講をされました。また、平成28年度につきましては、これもなんとでありますけど、88回の講習が実施をされておりまして、1,718人でございますんで、合計ダブりがあるかもしれませんけど3,000名以上の方がこの２カ年の中でＡＥＤの使い方を含めた研修を初級か上級かは別としてしておられる。市民の方々の中で約10名に１人、９名に１人ぐらいですか、そういう方々がＡＥＤについて何らかの体験がおありになるという割合いい状況ができつつあるわけで、この率を見ますと、大都市よりは多分いいと思います。

次に、今度は場所なんです、つまりＡＥＤはあるんだけれども、その場所がある一定時間は開いているけども、別の時間帯はとじている、あるいは平日は開いているけども、土日においてはとじているというんで鍵がかかっているとか、24時間のオープンな場所であっても、人がいるかいないかでもって随分使い勝手も違ってくるというようなことであろうと思っておりますが、現在の状況を申し上げますと、市内には中尾のコミュニティハウスと大聖寺の２つについては、一応24時間対応が可能だというようなことにはなっているようでございます。次のポイントは、コンビニがどうかというようなことだと思うんですけども、コンビニにつきましては、御案内のとおりほとんどのコンビニが24時間人がいらっしゃる形で営業していらっしゃるということでありますので、これは考えようによっては、非常に有効な場所であるということになろうかと思っております。ただ、今のところまだコンビニについては設置をされていない。一方、市内には、カウントしてみますと、皆さん指を折って考えられると大体当たるんですけど、市内に既に10カ所のコンビニエンスストアが営業していらっしゃるわけでありまして、割とバランスよく市内に配分をされているわけであります。消防本部のほうで調べていただいたんですけども、既にお尋ねにも若干触れられていたかと思いますけれども、ＡＥＤの設置をしているコンビニがある自治体もあります。そういう自治体はどうやっているかというと、ＡＥＤの機器そのものは、それぞれのコンビニが所在をしていらっしゃる市町村がこれを購入された上で、そして何らかの協定を持ってＡＥＤを当該コンビニに置いていただいている。若干まだ調べが完全じゃないんもんですから、そのコンビニの従業員の方、特に店長クラスの方がＡＥＤの使い方についての訓練を受けていらっしゃるかどうかは、今のところははっきりしていないというようなことでございます。また、今後ちょうど私も今消防本部と相談をしてるんですけども、いろんなイベントなどにＡＥＤを貸し出せるようにするかどうかということについても今勉強をしております。総括的に申し上げますと、ＡＥＤを救命率の向上のために、使える人材をふやすことと場所の選定をしっかりやるという観点はまことに時宜を得たものでありまして、場合によっては大手コンビニのチェーン店がありますけども、その幾つかと市として協定を結ぶというようなことも含めて、前向きに検討すべき重要な課題であるというふうに考えておりますので、御関心を持って今後とも御議論賜りますように、議会関係者にもお願い申し上げておきたいと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

則本議員。

６番（則本　陽介君）

ただいま市長より丁寧な答弁をいただきました。

傷病者の救命対応について、救命講習の重要性とまた心肺蘇生の実施に伴い、ＡＥＤの使用が傷病者の蘇生に重要な役割を持っているということであります。このことは、つまり市民の傷病者にそばにいる市民の皆さんをバイスタンダーと言いますが、市民の皆さんの手による救命の手当てが大変重要になってくるということであります。

それでは、２回目の質問としまして、24時間を通じてＡＥＤが使用可能な設置場所の選定と推進について、県内の他の消防本部の取り組みで参考になる事例の情報はいかがでしょうかお尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

消防長。

消防長（山崎　正雄君）〔登壇〕

議員御指摘のとおり、心室細動等には早期のＡＥＤによる除細動が不可欠とされており、いつでも使えるＡＥＤが身近にある環境が望まれております。したがって、24時間営業をしているコンビニへの設置が望ましいと考えられます。なお、先ほど市長からの答弁についても、同じような内容でございます。

そして、県内の消防を調べましたところ、県南部に消防本部を実施しており、リース契約を結び、経費を公費で負担し、コンビニに設置をしている例がございます。他の県においても同様のやり方が見受けられます。消防本部といたしまして、美作市まちかど救急ステーションの拡大とともに、24時間使用可能なＡＥＤの増設を関係部と協議しながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

則本議員。

６番（則本　陽介君）

２回目の答弁をいただきました。

総括に入らせていただきます。

元来より、人の命の重さについて地球より重いという表現がありますが、まさに人の命は、誰にとっても一人一人がとても重く、そして大切なものでかけがえのないものであります。私は今回再確認の意味でＡＥＤの効果的な活用と救える命、助かるべき命を増加させるために何が大切かということに取り組みました。傷病者を救命し、社会復帰させるために必要となる一連の行動を一言で表現すると、救命の連鎖ということになります。これは４つの輪があり、１つには心停止の予防、２つには心停止の認識と通報、３つには心肺蘇生とＡＥＤ、４つ目には救命医療で、この救命の連鎖が迅速に実施されることが傷病者の救命につながるものです。そして、１つ目から３つ目までの行動は、傷病者がいる現場で実施される行動であり、バイスタンダーとの表現もあります。このバイスタンダーに当たる人は、傷病者がいる現場の市民の皆さんになりますので、通報から救急隊が現場に到着するまでの間実施が望まれる、まことにとうとい善意の行動になります。

少し長くなりましたが、結論としては、心停止をした人を救命できるのは、病院にいる高度な技術を持った医師より、倒れた人を目撃したその場にいる市民の皆さんによる救命活動が重要な位置づけになっていることであります。その意味において、ＡＥＤは、24時間を通じていつでも使用ができる場所に設置されることがＡＥＤ使用の機会の拡大につながるものと思慮されますことから、今後におきましても、ＡＥＤ設置場所の拡大に努めていただきたいことを改めてお願いしまして、この質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、次の項に入ってください。

６番（則本　陽介君）

２番目の２項目めでございます。

市民ファーストの行政推進についてであります。

昨年実施された市民アンケート調査に基づく行政の推進について、市長は先ごろ新春首長インタビューの記事で2017年度の施策で力を入れる分野について述べておられました。それは、住民の声を施策に反映させる目的で行った昨年の市民アンケートで要望の高かった高齢者の負担軽減、子育て世代への支援、障がい者福祉の向上についての３項目を上げておられます。これらの施策の概要をお尋ねします、よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

市民アンケートの結果につきましては、今議員がおっしゃったとおり、高齢者世帯における介護保険料の負担の軽減など高齢者項目と、それから出産、子育てというぐらいですか、そういう時期におけるさまざまな問題の克服というところに圧倒的に市民の方々の意見が集中をしていたということでありまして、これにさまざまな書き込みとか具体的な提言も入っているんです。そして、行政懇談会でありますとかＰＴＡの懇談会でありますとかというところから入ってくる情報も総合的に勘案をして、一方でこちらも予算には若干の限りがございますんで、そういうところと調整をしながら一番いい形でできるようにということで考えて、そして今予算の形で御提案をしております美しい里山公園地方交付税確保等財源の市民還元事業は、里山公園等市民還元事業ということで包括をしておりますが、主な内容を申し上げますと、子育て世代への支援としては、これは近隣の市町村にもありますので、私どもが飛び抜けていいとは言いませんけども、逆に言うと負けていた分野でありますけれども、出産一時金というものを支給する事業。最初のお子さん、２番目、３番目と次第にこれは大きくなって金額がふえていくんですけれども、こういう事業を平成29年度から開始をすることによって、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、このところ少しずつですけども、出生が回復している流れを継続をして、できれば年間200人程度の子どもたちがこの町に生まれるようにしていきたいと、こんなふうに考えているわけであります。

次が電子親子手帳サービス事業ということであります。

これは、関東のほうで一部始まってるんですが、県内では初めての事業ということでございます。これによりまして、子どもたちの養育をしている家庭が、例えば今度予防接種がありますよみたいなことがニュースで入ってくるとか、あるいは健診をした結果がいつもスマホで確認ができる等々の充実したサービスが提供できることになりますので、こういったサービスをちょうど今の子育て世代の方々はほとんどスマホを持ってます。私たちの母親、父親の時代とは全然違いますんで、スマホ恐怖感はまずないということでございますので、こういった事業展開をする。それから、小学校低学年の子どもたちに対して、言葉の支援をベースにした発達支援を、これも県内でそう例がないと思うんですけども、取り組まさせていただきたい。その前段として、これも先ほどの答弁でもちょっと触れましたけれども、発達障がいについてのスクリーニング検査の開始を６歳〔聴取不能〕から、３、４歳に下げていくと、これも県初であります。それから、幼稚園における預かり保育料の限度額を見直して、基本的には保育園と同じような形にして、利用者の負担軽減を図っていくとともに、土居であるとか東粟倉の幼稚園の今後の末永い存続の祈願としていくというようなことで、子どもたちの健全な成長と子育て支援というものに活用していく。

それから、高齢者の方々については、足の確保というのが重要であるということもございまして、公共交通空白地域の交通弱者対策を実証実験として取り組んでいきたいということでございまして、その後さまざまな工夫をしながら、全市に展開できるようにしていきたい。またこの点については、高齢者の方のみならず、障がいがある、障がいが発生した方も含めて、そういう対応をやっていきたいというふうに考えております。

なお、実は一番ニーズが高かった介護保険料の軽減を中心としたところについては、介護保険の算定期間が３年ごとになっておりまして、ちょうど平成30年度からが新しい介護保険料になります。そこまで県との関係、国との関係もありますんで、待った上で、30年度に実施をできるように制度設計をきちっとしていくということで考えている、以上が主な内容ということでお答えさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

則本議員。

６番（則本　陽介君）

市長より概要の答弁をいただきました。

その中には、県内初めての施策も実施される旨の説明、答弁をいただきました。

２回目の質問でございますが、昨年実施された市民アンケート調査に基づく行政の推進について、具体的に先ほど市長から答弁をいただきました施策について、29年度から新しく取り組まれる住民福祉の向上や子育て世代の家庭の働きやすさ、暮らしやすさを実感できる市民生活に直結した施策は本定例会で予算審議がなされるものと思いますが、各担当課からの事業の計画について、要点の説明をお願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それではまず、市民部からでございますけれども、市民部では、出産祝い金支給事業とタクシー利用補助事業に新たに取り組みを行ってまいります。

出産祝い金支給事業でございますが、これは既に奈義町、勝央町、美咲町で実施されておりまして、次の世代を担う子どもの誕生をお祝いし、多子世帯の負担軽減、定住促進を目的とするものでございます。概要といたしましては、平成29年４月以降に誕生されたお子様に第１子３万円、第２子５万円、第３子以降20万円を親に給付するものでございます。

次に、タクシー料金助成事業でございますが、今回のアンケートから新たな交通弱者対策として、タクシー利用の補助要望が高い結果となりました。このことを受け、新たな取り組みとしまして、タクシー事業所の協力をいただきまして、タクシー利用時の補助制度を考えております。詳細につきましては、協力をいただける事業所と協議を行い、交通空白地域、いわゆるここで言いますところは、循環バスの運行していない地域をまず対象としまして、実証実験を行ってまいりたいと存じております。対象としましては、70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方などを考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

それでは、保健福祉部の所管する平成29年度の新規事業について御説明をさせていただきます。

１つは、電子親子手帳サービスの開始、それともう一つが小学生対象の発達支援教室の開催ということでございます。まず、電子親子手帳サービスでございますが、以前より交付しております紙ベースの手帳に加え、若い世代の方になじみの深いスマートフォンを活用しまして、アプリをダウンロードして御使用いただくものでございます。電子親子手帳サービスを利用することによりまして、予防接種の接種予定が表示されるなど便利な機能を使っていただけるほか、美作市の子育て支援サービスの内容を適時にきめ細やかにお伝えしていくことが可能になります。また、紙ベースの手帳では、お子様一人一人につき１冊配布ですが、電子親子手帳では、情報の共有も可能となっておりますので、お子様の成長記録を家族で共有し、お子様の日々の成長を家族で見守っていただくことができるものと意義ある機能があります。予算は、データ保守管理の委託料65万円を計上させていただいております。

次に、小学生対象の発達支援教室についてですが、発達に課題のあるお子さんの多くは、周りの子どもさんに合わせて行動を調整することが難しく、どこにいても自分のペースを優先して行動をしがちで、集団生

活において困り感を持つ場合が多々あります。そのためには、さまざま活動を通して社会生活で必要となるルールを理解していくことで、学校生活ひいては社会に出るために非常に重要になってきます。

そこで、小学校低学年の児童とその保護者を対象とした親子教室を実施し、社会生活で必要となるソーシャルスキルを身につける場にしていきたいと考えております。指導者は、現在就学前の教室の指導をしていただいています言語聴覚士の先生にお願いし、年間回数は月に１回程度を計画したいと考えております。予算は、発達支援事業の内の指導者の賃金22万円を計上しておるところでございます。

以上です〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

教育委員会の所管する部分についてお答えいたします。

まず、３、４歳児からのスクリーニング検査事業でございますが、現在は就学前の５歳児を対象に発達の状況等を把握し、小学校へつないでいくということで実施をいたしております。これを平成29年度からは、この検査の対象を３、４歳児にまで広げ、少しでも早く行うことで、一人一人の園児に合った早期の支援ができるとともに、保育の質の向上につながるものと考えております。予算といたしましては、検査用紙等約十数万円程度考えております。

次に、幼稚園の預かり保育の限度額の見直しでございます。

現在、東栗倉幼稚園で幼稚園教育終了後、希望する園児を対象に預かり保育を行っておりますが、これを新たに土居幼稚園でも実施するものでございます。

幼稚園の預かり保育料につきましては、地域や保護者からも要望がございまして、夏休みを除き、１日当たり1,000円を600円に改めます。また、１カ月の上限額につきましても、現在１万3,000円を6,000円に減額するものでございます。このことによって、利用者負担の軽減が図れるものと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

則本議員。

６番（則本　陽介君）

ただいま各担当課からの市民ファーストの行政推進の具体的な施策について答弁をいただきました。新しい行政の取り組みを要望されました市民の皆様方は、それぞれの立場で期待を寄せておられますことからも、お喜びのことと思慮するところでございます。

萩原市長は、就任以来今日まで美作市政について数々の行政改革を推進され、その大きな成果の一つが今回の答弁をいただいたものであり、歳入においては、交付税の確保を図り、歳出においては、経常経費の削減を図る施策に努力されたことが、市民の皆様に還元という形で〔聴取不能〕したものと私は思慮しているものでございます。

これで私の質問は終わりますが、引き続き市民の皆様が笑顔にあふれ、将来に希望が持てる美作市の実現へさらなる飛躍を御期待をし、あわせて市民の皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。２期８年間御理解と御協力を賜り、大変にありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番１番、議席番号６番則本陽介議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通告順番２番、議席番号16番日笠一成議員の発言を許可いたします。

１６番（日笠　一成君）〔質問席〕

それでは、議長の発言の許可をいただきましたので、これから一般質問を始めさせていただきます。

まず、１項目めは、市民アンケートの結果とその対応について、２項目めは、旧県立江見商業高等学校跡地等を活用した地域の活性化などの対策について、３項目めは、安心・安全なまちづくりについてでございます。

項目１として、市民アンケートの結果とその対応についてでございます。

質問の要旨は、住民の声を施策に反映させることを目的に行った市民アンケートの結果の対応についてでございます。

このアンケートは、無作為で抽出した方からの回答にせよ、全市民の声を反映した結果と思います。この結果を施策に反映させるとの前向きな発言をいただいております。その取り組みのプロセスについて、お尋ねします。

例えば、要望の割合が高かった順に実施するのが妥当だとは思いますが、その〔聴取不能〕のプロセスと平成29年度予算への反映状況をお尋ねします。

なお、３番目の発言について、〔聴取不能〕のみ共通する部分がありますが、お許しいただきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

政策審議監。

政策審議監（福原　　覚君）〔登壇〕

失礼します。

日笠議員からの市民アンケートの結果とその対応についての御質問でございます。

議員もおっしゃられましたように、先ほどの則本議員への御答弁と重複いたしますけれども、御容赦願いたいと思います。

市民アンケートは、昨年11月に実施し、その結果につきましては、広報みまさか２月号でお知らせをしているところでございます。

今回のアンケート調査では、幅広い世代の方から多くの御回答をいただき、その中で要望の多かった項目につきまして、平成29年度から順次施策に反映させたいと協議検討を重ねてまいりました。分類的に見ますと、上位５番目ぐらいまでのアンケートの調査結果の多かった分について検討させていただいたということでございます。

その結果、先ほども申しましたけれども、出産祝い金支給事業、親子電子手帳サービス事業、小学生低学年を対象とした発達支援教室事業、３、４歳児からのスクリーニング検査事業、幼稚園預かり保育料の軽減、タクシー利用補助事業のこの６事業につきまして、新たに事業展開をすることとし、今回の当初予算に予算計上させていただいているところでございます。既に実施中の既存の事業とあわせまして、高齢者の負担軽減、子育て世代への支援、障がい者福祉の向上に向け鋭意取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、最も要望の多かった介護保険料等を軽減する取り組みにつきましては、現在第６期介護保険事業計画期間中でございます。期間途中での保険料減額は制度上困難なものがございますので、平成29年度新年度に策定する次期計画の中でこのことを整理し、平成30年度からの介護保険料の軽減につなげていきたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

このアンケートの得点結果は、男女別、集計表でそれぞれ順位が異なります。物事を考える場合は、性別、年齢などでそれぞれ多様なお考えがあり、そのことを踏まえての判断が必要だと改めて思われます。

９月定例議会一般質問で、アンケートを行う場合は交通網の整備についての項目を設定していただきたいとお願いしました、あわせてその結果を平成29年度当初予算に反映していただくこともお願いをしました。このたび要望の多かった項目について、平成29年度から順次施策に反映する当面６事業を新たに事業展開するとのこと。６事業全部の補足説明をお願いしたいのですが、この場では交通弱者対策についての補足説明をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、市民部からタクシー利用補助について答弁をさせていただきます。

現在の市内公共交通では、各地域に市営の循環バスやデマンドバス、津山までの路線バスを運行し、民間事業者では５事業者が路線バス、デマンドタクシーを運行されております。

市営の循環バスは、集落内を運行することにより、停留所まで近い状況にありますが、各集落を回ることから、目的地に行くまでの乗車時間が長いことや、便数が少ないことによる運行時間帯の変更要望なども出されております。以前より、日笠議員から交通空白地のデマンドバス等の運行に関しまして御意見をいただいているところでございます。今回のアンケートから、新たな交通弱者対策としまして、タクシー利用の補助の要望が高い結果となり、地域内循環バスが運行していない地域、一例としまして作東、吉野地区等を試験的に実証運行するように考えております。

なお、詳細につきましては、対象地域、対象者、補助率などを今後決定し、協力いただけるタクシー事業者と協議を行ってまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

交通弱者対策については、28年３月定例議会、９月定例議会でお尋ね、お願いをしてきましたが、このたびの市民アンケートの結果市民の要望が多かったので、今年度から即取り組むとのこと、ありがとうございます。通院、買い物時などに困難されておられた方々の移動がしやすくなり、生活の質の向上にも役立つと思います。活用しやすい方策を講じていただきますようにお願いをして、この項目の質問は終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、続けて次の項目に入ってください。

１６番（日笠　一成君）

項目２は、旧県立江見商業高等学校跡地等を活用した地域の活性化などの対策についてでございます。

質問の要旨は、学校法人日本体育大学の誘致、進出計画の進捗状況と今後の取り組みのプロセスについてでございます。

日体大は、北海道網走市に今春特別支援学校を初めて開設する、そこがうまくいけば全国に広げていく考

えを持っている、２校目が美作でという機運を盛り上げていただきたい。場所としては現在作東地域を想定しているとのこと、ぜひ実現していただきたい。つきましては、〔聴取不能〕どのようなプロセスで取り組むのかをお知らせください。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

日笠議員の日体大の支援学校に関する質問でありますけれども、正直申し上げまして松浪日体大理事長は、私には明言しています、次は必ず行くと。彼の意向はもう明確なんですけれども、財布を預かる理事会の方々がまだ踏ん切りがつかない。なぜつかないかというと、網走で展開していることは皆さん御存じのとおりですけども、網走では日体大が、要するに手金というんですか、彼らでいえば、30億円使っちゃったんです。これが大変な重荷になっていると。これは、実はいろいろ問題が日本の制度にはあるんですけれども、もしこれが公立の支援学校であった場合には、公共が整備をするんです、それに対して国は補助をするんです。ところが、私学の場合には、できてから運営費は補助するけど、できるのは自分でやれと、こういうことになっているというんでなかなかうまくいかないんだと、こういう問題があるんです。

一方で、国のほうとして、昨年というか平成29年度の予算編成のプロセスにおいて、全国におけるいわゆる支援教育の必要性に対する認識が非常に深まりました。去年からことしにかけて、支援教育を全国で切れ目なく、つまり保育園、幼稚園のところから社会に至るまで、場合によってはついの住みかの整備も含めて、障がい者の方々の社会参加をどう有効に確保していくかということについて、大変な重要な課題であるという意識がこのところ急速に深まったという状況があります。そして、その状況の中で、もちろんその状況をつくるのに我々も随分動いたんですけれども、その状況の中におきまして、私どもは今日体大のその意向もこれあり、文科省に例えば公設民営というような形であるのであれば補助を出していいんじゃないかというようなことで、制度の設計変更をすべきであるという持ちかけをしておりますが、これに対しても、12月から３回ぐらいやってるんですが、割合理解が進んできているというのが状況であります。そういうことも含めまして、いろんなことが起きてるんですが、文科省もこの案件に対して、つまり当市が日体大の支援学校を誘致しようとしている案件に対して、少なくとも高等教育局だけじゃなくて、障がい者教育を担当する初等、中等教育局も関心を持って見始めておりますし、またほかの省庁、例えば障がい者の社会参画などを全般的に考えている内閣府の一部であるとか、あるいは地方創生事業を担う内閣府の担当部局であるとか、こういったところについても、我々の動きに対して、なるほど、そうかもしれんなという理解が深まっておるところでありまして、来年度はこういった２つの動き、日体大における動きと、これをどう結びつけるかによって大きな前進があるんじゃないかというふうには考えております。

また、与党、自民党、公明党においても、こういった問題についての理解がそれなりに進んでおりまして、私どももお願いをしたんですけれども、こういった事業をするときに、国が補助を出したとしても市費が要りますんで、その市費の部分も過疎債では出せんかと、こういう話をずっと要望しているんですが、自民党の中でそれはええ話じゃないかということが言われ始めておりまして、この国会において、実は過疎立法というのは議員提案でやることが慣例になってるんですけども、議員提案事項として、今私が申し上げた内容も含んで、国会がいい判断をしていただけるのではないかというような動きにもなっているわけであります。こういうことになっておりますので、私どもが聞いている限りにおきましては、本市への進出を念頭に置いて、日体大がいよいよプロジェクトチームを立ち上げるという動きがあるというふうにも伺っているところでございまして、これから鋭意その実現に向けて努力を倍増というか、さらに頑張っていきたいとい

うふうに思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

私が質問すると順番がちょっとわからんようなりますが、計画どおり質問させていただきます。

平成28年９月２日に学校法人日本体育大学理事長の松浪健四郎氏が美作市作東バレンタインホテルにお越しくださり、演題「地方再生、創生とオリンピックムーブメントの普及」について御講演をしていただきました。

その際、同大学附属の特別支援学校の設置場所については、現在開校準備中の北海道網走市の次は当美作市との明言を会場のみんなで固唾をのんで期待しましたが、確約はありませんでした。しかし、雰囲気的には当市に設置していただける期待感を持たせるものでした。その後市長の行政手腕、人脈により、制度設定、財源確保に奔走していただき、現実性を増したと感じます。今のお話も聞いて、さらに前進していると確信をしました。ぜひ実現するようにお願いします。いま一度できれば進出するとの御決意をお聞かせいただければありがたいと思います。ダブってごめんなさい。

議長（山本　雅彦君）

総合戦略監。

総合戦略監（森分　幸雄君）〔登壇〕

日笠議員の２回目の質問でございますけれども、先ほど市長からも答弁をさせていただきましたけれども、文部科学省や学校法人日本体育大学と連携し、本市におきましても、特別支援学校設置に向けた取り組みを強化し、具体的な検討作業を加速化させてまいりたいと考えております。

例えば、現在進めております誘致による特別支援学校の設置につきましては、これも先ほど市長が申し上げましたとおり、相手方の財力によるところが非常に大きく、設置時期などについては不確定な要素がございます。また、愛知県が国家戦略特区の決定を受け実施しようとしております公立高等学校の運営を民間に委託する公設民営方式も施設整備に係る有利な補助金や起債を利用できることを前提にすれば、選択肢の一つになり得るのではないかと考えているところでございます。いずれにしましても、特別な支援を必要とする子どもへの就学前から学齢期、社会参加までの切れ目のない支援体制の整備が必要であり、本市においては、特に高校における段階の充実強化が求められております。

こうしたことから、日体大の特別支援学校の誘致を実現させるために、国家戦略特区への申請も視野に入れて努力いたしておりますが、一方で本市の持ち出しを少なくすることも大切であり、有利な財源を研究しつつ、特別支援学校の設置に結びつけてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

３回目で総括とさせていただきます。

日体大とは設置する方向で意見がまとまりつつある、財源問題についても、過疎債対象になる補助金制度の構築など、フォロー、助けるの風が吹くことも期待されるとのこと。一日も早い実現を目指して鋭意取り組んでいただきますようにお願いをして、この項目の質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

続けて次の項に入ってください。

１６番（日笠　一成君）

項目３では、安心・安全なまちづくりについて、質問の要旨は、住民間の身近なトラブルを早期に解決するため、庁舎などを仲裁会場として無償提供する協定を岡山弁護士会と締結されたことの補足説明でございます。

住みよいまちづくりには、安心・安全な生活環境を整える必要があります。そのための対応として、現在行政相談、法律相談などが実施されております。このたび住民間の身近なトラブルを早期に解決、住民負担の軽減を図るメリットもある、仲裁会場として庁舎を無償提供することは、安心・安全なまちづくりに役立つと思います。せっかくの施策です、利用予定者は無論、他の方にもわかりやすく補足説明をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、出張仲裁制度に係る協定の補足説明を行わせていただきます。

今回の協定は、美作市、勝央町、奈義町、西粟倉村内の方々がさまざまなトラブルについて、弁護士を仲裁人とした話し合いにより問題解決を図ることを目的とし、市町村は、庁舎等の公共施設を出張仲裁の場所として無償で提供するものでございます。

仲裁といいますのは、裁判外紛争手続の一つでございます。少し内容を説明いたしますと、出張仲裁制度とは、住民間の身近なトラブルを弁護士が仲裁人となって現地まで出向いて、申立人と相手方の双方の言い分をよく聞いた上で、話し合いによる問題解決、和解のあっせんをいたします。場合によっては、強制力のある仲裁判断をしてもらうこともできます。仲裁は、お金の貸し借りや借地、借家のトラブル、交通事故の損害賠償、建築をめぐるトラブル、離婚、遺産相続などの家族間のトラブル、境界、日照など隣人間のトラブル、解雇、セクハラでのトラブルなど、さまざまな事案に幅広く利用できます。

申し立ての方法は、まず弁護士による法律相談を受けていただく必要があります。紛争解決手段として仲裁制度が適切となれば、紹介状を渡していただけ、申し立て書に紹介状を添えて岡山弁護士会に提出します。費用については、庁舎等の場所は無償提供しますが、申し立てた人は、申し立て時に１万800円必要です。また、解決までに二、三回の協議が見込まれ、１回当たりの手数料5,400円をそれぞれ当事者双方が負担し、仲裁成立時には、解決額の１から８％が成立手数料として発生いたします。

いずれにしましても、法律の専門家がさまざまなトラブルに出張して対応し、双方の間に立って公平な立場から早期の解決を図りますので、御利用いただければと思います。

美作市では、この協定を記念して、３月23日に弁護士会による無料法律相談会が開催されます。市民の皆様には、広報みまさか３月号に掲載しておりますのでごらんいただきたいと存じます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

さまざまな問題を身近な場所で問題の解決を図っていただくことは、利用者には交通費等の負担軽減、利活用がしやすくなるなど、心強い仕組みと思います。スムーズな運用ができることを期待をして、この質問も終わります。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番２番、議席番号16番日笠一成議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから10分間休憩いたします。

午後２時01分　休憩

午後２時11分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番３番、議席番号７番萬代師一議員の発言を許可いたします。

萬代議員。

７番（萬代　師一君）〔質問席〕

それでは、議長の許可をいただきましたので、本定例議会の一般質問のほうに入らせていただきます。

まずもって、ことしは例年になく非常に寒い日が長く続きまして、河会に自生しております、ここに来てやっと白い可憐なセツブンソウが咲き乱れる状況になってまいりました。心待ちにされておる山野草のファンの方が大勢おいでになっているという状況でございます。

まず、本年１月18日でございますけれども、山陽新聞に美作岡山道路、柵原インターチェンジ計画、美咲飯岡４自治会が目指すべき10年後の飯岡をテーマといたしまして、インターチェンジと一体となった道の駅などのワークショップを開催という紙面がございました。その中で、県が示されたルート案を前提といたしまして、協議を進めるとの合意を得たとして昨年の11月に、知事宛てに早期事業推進の陳情書を提出との記事が記載をされておりました。飯岡地域住民の方の合意形成に向けての第一歩が始まったというふうに私は理解をしております。

また、新規事業認可申請とあわせまして補助申請をしております湯郷温泉インターから英田インターチェンジの区間につきましては、去る１月25日に期成会の会長であられる萩原市長には、美作岡山道促進期成会の面々を連れられての国土交通省への平成29年度事業採択の要望活動、大変御苦労さまでございました。事業採択によりまして、美作岡山道の早期完成に向けての絶大なるスピードアップが図れるものと考えております。

それでは、一般質問のほうに入らせていただきますが、今回は市民の皆様にとりまして、最も身近な安全・安心にかかわる２項目についてお尋ねをしております。

まず、１項目といたしまして、近年地球温暖化に起因する異常気象により、想定外の豪雨が河川の氾濫を起こし、各地で災害が頻繁に発生をしております。本市におきましても、去る平成21年８月９日の豪雨災害で甚大な被害をこうむったところであります。このような豪雨災害に対する防災、減災のためにも、河川に堆積する土砂等のしゅんせつは、地域住民の強い要望でございます。これに係る残土処分場の確保についてお尋ねをいたします。

次に、２項目めといたしましては、地域住民、とりわけ自前の移動手段をお持ちでない交通弱者と言われる方々が、住みなれた地で安心して暮らしていただくための交通手段の確保についてであります。

市民目線でどうすべきか、どうあるべきか、明快な御答弁を期待をし、質問に入ります。

まず、１項目めの残土処分についてであります。

本市を北から南へと流れる一級河川吉井川水系の吉野川と梶並川を幹線として、中山間地域に位置するがゆえの多くの支流への土砂の堆積は、近年全国各地で発生しているゲリラ豪雨による河川への土砂の流失、

洪水そして土砂災害等の発生により、生命、財産までも脅かす甚大な災害をもたらす原因となっております。したがいまして、各地域から河川しゅんせつの要望が数多く提出されていると推察をいたします。現に地元河会川におきましては、沿線各地区より再三の要望が出されておることは承知をされておると思います。支川の多くは県が管理する河川であり、美作市としましても防災、減災のためにも県に要望を強く進達しているものと考えます。県の対応といたしましては、従来からの河川改修工事では大規模な事業費、また長期にわたる工事期間を要することから、即効的な流下能力の向上を図るために、平成22年度に新たに創設されたふるさとの川リフレッシュ事業により、平成26年度までの５カ年を第１期事業とし実施し、現在は第２期事業といたしまして、平成27年度から年間約30カ所を５年間で総事業費５億円規模で集中的に工事を行い、洪水被害の解消を図るとして実施をされております。

その事業の内容といたしましては、市町村との協働の取り組みとして、堆積土砂については、市町村が管理する処理施設へ搬出するとなっております。したがいまして、各地域からのしゅんせつ要望に対しても、処理場の確保ができていないために対応が難しいとの回答を繰り返してこられておると思います。このような理由でこの問題を先送りして解決できるものではございません。市の責任がますます問われるものであります。市が所有する残土処分場の確保は、喫緊の課題としてこれまでにも再三にわたり谷本議員が質問をされております。その中でも最近では、処理場の整備に伴う財源の確保につきましてまで提案をされて、市の姿勢を正されてこられております。平成21年８月９日に山家川流域を襲った想定外の集中豪雨災害の後に、市より県に協議されました残土処分場候補地十五、六カ所を始めといたしまして、用地取得の交渉、状況についてお尋ねをいたします。また、この残土処分場につきましての今後の市の方針についてお尋ねをいたします。よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

萬代議員の残土処分場についてということで、処分場確保の取り組み状況と今後の方針ということでお答えをさせていただきます。

豪雨などで発生する災害から市民の生命、財産を守り、安全で安心な生活が送れるよう、河川に堆積した土砂の撤去や流れを阻害する立木を除去してもらいたいとの要望や行政懇談会など対策を求める声が多く出されているのが現状でございまして、これらの要望は市のほうから岡山県のほうへ進達し、事業の推進をお願いをしているところでございます。

現状は、議員の御発言にありましたとおり、ふるさとの川リフレッシュ事業を県と市が協働しながら、先ほど御説明がありましたけれど、土は岡山県のほうがとるけれど、捨て場は市のほうで用意をしてくださいという事業でございますけれど、予算や緊急度に応じて、既存の処分場の活用や関係地域の協力を得ながら現在のところはその事業には対応しておるという状況でございます。

ただし、先ほど言われましたとおり、残土処分場が十分あるわけではなく、そのたびたびで苦慮しているというのが状況であります。残土処分場の確保につきましては、これまでの議会でも答弁しておりますが、河川のしゅんせつのみならず、県や市が実施する道路改良など公共工事においても、早期に確保することが喫緊の課題であることは十分認識をしておりますが、一方で防災施設の設置や処理場の規模、経済性等も考慮しながら進める必要もあるというふうに思っております。候補地における岡山県との協議では、下流域の同意をいただけないものや保安林等規制解除が必要なもの、それから沈砂池等少し大き目の防災工事が必要なものなどがありまして、現在用地取得が困難になっております。現在現時点で県のほうへ15カ所位置を提

示していたわけですけれど、その中でいいますと１カ所でございますが、岡山県が道路改良に隣接した土地ということで、用地買収を岡山県のほうでしていただきまして、実施をしているという状況でございます。今後もいろいろな選択肢を持って土地所有者の同意と関係地域の理解を得ながら、合意形成に向けて取り組みを進めてまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

答弁いただきました。

21年の後に候補地について、15カ所のうち１カ所が県道改良等の隣接地ということで、県が用地を取得して、県の残土処分場があるということでございます。

先ほども１回目の質問の中で申し上げましたけども、市として所有する残土処分場というものも必要だと私は考えます。この市有の残土処分場について、今後どのように取り組まれるのかお考えをお尋ねします。２遍目の質問とします。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

残土処分場の確保と取り組みでございます。

今後のまた方針ということでございますが、現在市有の市が持っておりますストックヤードは仮に置くというところですけれど、そこの土量、土の量やこれから発生する災害時などの緊急時に対応できて、そして他の道路改良などの残土処理の量を考慮しますと、設置後の管理面で効果的そして経済的にもある程度規模の大きなものが必要であるというふうな認識を持っておりまして、市内でいいますと、市の北部とか南部というふうに分けて、１カ所以上のものが必要ではないかというふうに思っております。現在関係者とのそれも含めて交渉中という場所もございます。これらが前に進めば、河川のしゅんせつ、道路事業等の事業の推進はもとより、災害時のリスク回避につながるもので、早期の残土処分地の確保に努めてまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

市の方針としては、ある程度の規模のものを南へ北へ１カ所ずつぐらいは必要だろうという答弁をいただきました。

やはり、今までも大規模な何十万立米でしょうか、処理場となれば、先ほどの答弁にもございましたとおり、防災施設、これにつきましても、当然それなりの施設が必要になってきます、でありますから当然それなりの経済性も十分考慮が必要だろうというように考えるところでございますが、そういう答弁で今まで来られておったわけでございます。

ただ、今回私のほうが申し上げておりますのは、先ほど申しました県事業のふるさとの川リフレッシュ事業、すなわち速効的な流下能力の向上を図る、この程度の事業に見合った、例えばです、何十万立米というんではなくて、例えばいま一つの候補地といたしまして、山合いの谷合いとした場合、例えば面積が5,000平米、それに谷でございますから、高さが４メートルといいましても、全体でいえば２万立米でしょうけども、大体谷合いというと三角形でございますから、大体１万立米ぐらいな規模になろうかと思いま

す。このような土地であるならば、私は取得が容易になるのではないかなと考えます。大きなものになれば、それだけの先ほど申しました費用面も発生いたしましょう、ですけれども１万立米程度になれば、防災施設もそれほどの経費はかからないだろうというように思うところでございます。例えばの話ですけども、この本年度事業といたしまして、河会川で福本地区が今しゅんせつを本年度事業として県のほうがやっていただいております。この残土処分の土量が大体2,000立米というようにお聞きしております。ということになれば、１万立米の残土処分場を確保すれば、私は河会川の要望箇所が全てクリアできるんじゃないかなというふうに考えております。ちなみに、この5,000平米ほどの面積を確保するということになれば、例えばですけども、土地買収が可能ですよとか、それからダンプの進入が可能ですよとか、そして防災施設についても経済的ですよと、そういうふうなことで候補地はそれぞれ地元のほうにいい候補地がございませんかと投げかけをすれば、この程度の残土処分場でしたら、地元のほうから適地の紹介が出てくるんじゃないかなと思います。当然こちらのほうはそれだけの要望をするんですから、あとここについては一番守っていただかにゃいけんのは産業廃棄物。往々にして残土処分場ができれば進入路も確保できたということで、産業廃棄物の不法投棄につながりますので、そういうことは市の責任として一切防ぎます。また、でき上がった土地につきましては、当然市の所有になりますので、これから先市のほうが財産管理をしていかにゃいけん、そういうことはできないと思いますけれども、それは地元の地域で、例えばコミュニティ広場として活用してください、それができるだけのことはして帰りましょう、１つの例といたしましては、例えば完成した後には真砂土を敷きならします、そこで地域のコミュニティ活動、運動会をやられたりグラウンドゴルフの会場として使われることによって、地域の方がそこに愛着を持ち、管理もしていただけるんじゃないかなというようなことを自分なりに考えております。そのことによりまして、各地域からのしゅんせつの要望にも応えることができるのではないかというふうに考えております。このような地域を巻き込んだ、言いかえれば地域の合意形成が得やすい取り組みについてのお考えをお尋ねをいたします。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

萬代議員の３回目の御質問でございます。

先ほど答弁いたしましたけれど、現在リフレッシュ事業というのは、県との協力をもとに、県の予算の範囲内のものは対応はできているというのはこれは事実でございます。ただし、これからずっとそれがあるのか、残土処理上が確保できているのか、潤沢にあるのかということになると難しいというところでございます。

そこで、先ほど答弁をさせていただきましたけれど、ない物ねだりではいけませんけれど、大きいものばっかしを追及して、もし取得できなかった、間に合わなかったというときのこともありますので、したがいまして先ほど萬代議員が言われましたように、地域の協力をいただけるというのが前提ということになりますけれど、あと跡地の管理がどうなるのか、それから経済的に大規模な防災施設をするというようなことになると、また経済的に問題があったりというようにします。その辺を地域の方ともしそういう場所があるんであれば、当然我々としても協力をさせていただくし、地元の人からも協力していただくという格好で進めてまいりたいというふうに思います。

それから、産業廃棄物とか不法投棄とかというのは、これは重要なことだと思います。最初のときはきれいになっておっても、途中いろんなものが捨てられたというようなことになっても困りますので、その辺のところは十分地元の方とも話が前に行くようであれば、詰めていかなければならないというように思ってお

ります。話の結果といたしまして、十分我々としては、今提案されました萬代議員のお話を受け入れないというものではありません、そういう場所があれば検討の課題に挙げていきたいというように思っておりますのでよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

総括させていただきます。

前向きな答弁をいただいたというふうに理解をしております。

残土処分場を確保して河川をしゅんせつ、それとあわせまして池尻への堆積土、こちらにつきましても地元のほうから非常に要望が出ております。このような要望に応えることは、地域の皆さんの安全・安心につながる近々の課題でございますので、部長、本気、やる気を出して取り組みをお願いをいたします。

終わります。

続きまして、２項目めの交通手段の確保について、入らせていただきます。

市民の皆さんが安心して暮らしていくための移動手段の確保は、行政に課せられた責務でございます。医療機関へ行く、買い物に行く、その手段として、平成26年４月より大原、東粟倉、美作、英田地域におきましては料金の統一が行われ、市営の循環バスの運行がなされております。また、土居小学校区におきましては、デマンドバスの運行、そして勝田地域におきましては、デマンドタクシーの補助による自前の交通手段をお持ちでない皆さんへの対策がとられているところでございます。それぞれの地域における利用状況、課題そして今後の取り組みについてお尋ねをいたします。

次に、２点目のタクシー補助につきましては、小渕議員の代表質問以来、何回も質疑をされて、それに対しまして答弁をいただいておりますので、市民の皆様も様子がわかったというふうに理解をいたします。

１点だけ、この実証実験をするのに何年かけてやるんか、半年でやるんか、その期間だけお尋ねをしておきます。

３点目の、高齢者ドライバーの操作ミスによりまして重大な事故が相次ぎ、社会問題化しております。本年１月17日付の紙面に75歳以上の死亡事故２倍超の見出しで、警察庁初の分析結果といたしまして、運転免許保有者10万人当たりの75歳以上のドライバーによる死亡事故の発生率が75歳未満の方の２倍を超え、ハンドルやブレーキなどの操作ミスが事故原因の３割に上がっている、また道路交通法の改正は本年の３月に施行されますが、この改正で認知機能チェックを厳格化し、運転免許の自主返納を促すなどの取り組みが進むとの内容であります。市内の高齢者ドライバーの現状と自主返納の状況についてお尋ねをいたします。

また、移動手段としてマイカーに頼らざるを得ない現状では、美作市の自主返納は少ないと考えます。さきのアンケート調査の結果におきましても、自由記載の意見といたしまして、返納したいが足がない、また高齢者の事故が絶えないので、免許証を返納したら特典がもらえるようにが事例として紹介をされていました。そして、運転に自信がなくなった、事故を起こしたら大変なことになる、運転が不安だなどと免許証を返納したいが、たちまちどこへも行けなくなると返納をためらっている人、道路交通法の改正によりまして返納せざるを得なくなる人など、自前の交通手段を持たない人がふえてくることは明らかでございます。

そこで、これらの方を後押しするために、美作市独自の運転免許証自主返納の特典を設けて、自主的に返納しやすい環境づくりを進めることによりまして、高齢者による交通事故の防止及び移動手段の提供等の支援について、美作市の取り組みをお尋ねをいたします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

萬代議員のお尋ねのうち、一部ですけれども、例のタクシー利用補助の実証実験についての時間間隔なんですけれども、これは類似の答弁で申し上げておりますとおり、今お尋ねの、例えば免許の自主返納への対応なども含めながら、対象者の拡大を順次考えていくということを申し上げました。

その要因の一つは財源の問題として、公園面積の拡大と一番かたいところをどう図っていくかというところにつながってくるわけでございますけれども、もう一個は、できるだけ早くやりたいという二面性がございます。財源を見ながらだけれども、できるだけ早く拡大したいと。したがいまして、私といたしましては、平成30年度に第１段階の拡大を行うという方針でこの実証実験調査を行うという考えでございますので、したがいまして来年の今ごろというか、少なくとも平成30年度の予算の編成時点前までには、ある程度成果の上がる調査になっていなければ、これは間に合わないと。もちろん30年度につきましては、骨格予算ではあるものの、こんだけ市民の方々の御理解を得て進めている事業でございますので、その骨格の中に入り得るだけの定常性と言いますか、はっきりとした市民のサポートがある事業というふうにも考えられますので、私の希望としては、30年度の骨格に入れるつもりで、それに間に合うようなある程度の調査成果というものが上がるというタイムフレームを考え、その中で緊要性が高いものから30年度、31年あるいは32年という形で逐次拡大実施をしていくということを考えております。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、市内循環バスの現状と課題、今後の取り組みについてでございますが、まず市内循環線の地域ごとの利用状況を個々に申し上げますと、大原バスは、４つの路線を設定し、月曜日から金曜日まで週５日間各路線３便運行しており、平成27年度の利用者数は5,870人で、１便当たりの乗車人数は2.01人となっております。

次に東粟倉バスは、基幹線に民間事業者のバスが運行されていることから、集落内を支線として月水金の週３回、３便半の運行をしております。また、大原地内の金谷地区にも東粟倉バスが住民の方の要望により運行しており、東粟倉バスの利用者数は3,254人で、１便当たりの乗車人数は5.65人となっております。

次に、美作バスは、林野駅から柵原病院までの路線とほかに２路線があり、月曜日から土曜日までの週６日、朝夕各１便と午前午後各１便を運行し、利用者数は１万1,358人で、１便当たりの乗車人数は4.83人となっております。

次に、英田バスは、３地域を曜日別運行しており、１地域、週２日、四、五便を運行し、利用者数は1,005人で、１便当たりの乗車人数は0.9人となっております。

また、デマンドバスでございますが、土居小学校区デマンドバスは、土居地区と福山地区にそれぞれ１台10人乗りのバスを置き、月水金曜日の朝昼夕の３便を運行し、利用者数は2,901人で、１便当たりの乗車人数は2.92人となっております。

次に、勝田地域のデマンドタクシーでございますが、民間のタクシー事業者２社により、事前に利用日の１週間前から前日までに予約を行い、予約した場所で乗車できます。梶並地区では週４日、地区ごとに曜日別運行を行い、利用者数は1,487人となっております。勝田地区では、週２日、朝昼夕方便を運行し、利用者は117人となっております。

利用者の意見を含め、市営循環バスの課題としまして、運行時間が遅いため病院の受け付け時間に間に合わない、停留所までの距離が遠い、利用者が地域によって非常に少ない、集落内を運行することから目的地まで時間がかかる、以上のような課題がございます。今後こうした意見を踏まえ、曜日別運行やデマンド型の体系等が考えられるところでございます。

次に、タクシー利用補助についてでございますが、これは先ほど市長が答弁しましたので、次に高齢者ドライバーの現状と免許証自主返納の状況についてでございますが、近年高齢者ドライバーのアクセルとブレーキの操作ミスなどにより、自損、物損、人身事故などが非常に多くなっております。こうしたことを受け、平成29年３月からは、高齢運転者の事故の対策などを目的とした改正道路交通法が施行されます。75歳以上の人が運転免許を更新するときに受ける認知機能検査では、認知症のおそれがある、機能低下のおそれがある、おそれがないの３つに分類されます。このうち、認知症のおそれがあるとされた人は、改正道路交通法が施行される３月以降は医師の診断が義務づけられます。そこで認知症と診断されれば、免許取り消しまたは免許停止になります。また、免許更新の時期でなくても、信号無視など一定の違反をしたときは、臨時に認知機能検査を受けなければならなくなります。これまでよりも免許の取り消し、免許停止になる人がふえる可能性がございます。

美作市の運転免許証の保有者は約１万9,000人で、うち65歳以上の高齢者の方は約6,700人で35.8％を占めており、県内全市の平均24.7％を大きく上回っている状況にあります。平成28年の岡山県下の運転免許証の自主返納者は6,197人で、美作市では65歳以上の方100人が返納されており、このうち80歳以上が約半数の54人となっています。これは高齢者ドライバーの1.49％の方が返納されていることになります。この数字は、高齢者であっても、主に農林業などに従事しており、日々の作業に必要不可欠な手段であること、また病院や買い物など自由に行けることなども要因であると考えられます。

美作市独自の運転免許証自主返納に対する特典を設け、交通事故防止及び移動手段の提供支援についてということでございますが、現在市内の自主返納者、いわゆるおかやま愛カードを持っておられる方でございますけれども、この方に対する支援としまして、市営バスでは運賃を半額にしておりますし、協賛事業者として民間バスも半額、タクシー事業者は１割引きを行っております。

今後、実証実験地域内にお住まいの自主返納者に対しましても、先ほど申し上げましたタクシー利用補助の対象者におかやま愛カード所持者を含めるよう検討してまいります。いずれにいたしましても、地域を限定した実証実験結果を参考にしてまいりたいと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

答弁いただきました循環バス等の現状について、また課題そして今後の取り組みについて、利用実績、利用者の意見等を踏まえまして、曜日別運行、デマンド型の体系、循環バス路線の運行を含めた総合的に検討をするということでございまして、その中にも将来的にはタクシー利用補助というものも入ってくるんだろうというふうに理解をしております。

また、その実績の中で、英田バスにつきましては、１便当たりの乗車人数が非常に少ないとの報告でございました。しかし、市長、地元の御高齢の方の声とすれば、あれが走っとるんで安心しとれるんじゃという声はもう市長の耳にも入っておりましょうし、私の耳にも入っております。でありますので、利用は少ないけど、何とか走らせていただけたら、またそれに伴いまして、利用者の向上を図る一つの方法といたしまし

ても、地元の方の御意見といたしましては、河会診療所が今、週に水曜日と金曜日のそれぞれ朝９時から10時半まであいておる、開業していただいておる。ところが、水曜日については、そちらのほうのバス便は走ってないんだと、一方上山方面につきましては、大芦高原温泉雲海が営業をしてない休館日の水曜日にそちら方面にバスが走っておるというような、現実的にはちょっとどうしたのかなというような状況もございます。当然こちらにつきましても、行政側からも一つの方法として、利用数の向上を図るためにいろんな提言をしていただけたらなと、当然相談されるにしましても、それぞれの自治振興協議会の皆様との協議だろうと思うんですけれども、こういうような方法で利用促進を図ったらいかがでしょうかというようなことも協議の中で御提案もいただきたいなと、受け身だけでやるんではなくて、そのことをお願いをしておきたいと思います。

それから、タクシーの利用券につきましては、市長が早急に拡大を図るということで御答弁をいただきましたけれども、私のほうがお尋ねをしております運転免許証の自主返納への市独自の特典について、タクシー利用補助の実証実験を行う地域に住む方についてはという答弁でございますけれども、これについても早急に拡大をするということで了とせにゃいけんのんかなと考えております。

それから、市独自の特典についての答弁は具体的にございません。御答弁をいただいたのは、岡山県警がやっておりますおかやま愛カードです、これがその旨をＰＲしておるチラシでございますけども、こちらの内容について、美作市としては市営のバスを半額にしてますよということで、事業所としてはやってますという御答弁はあったんですけど、例えばですけど、市営バスそれから市内のタクシー業者の方は、それは当然そのような協賛店として非常に協力をいただいていることは私も承知をしておるところでございます。このおかやま愛カードにつきましても、これは平成21年11月25日に岡山県警のほうが事業を開始されて、先ほど申しました県内のバス事業者については半額、それから多くのタクシー業者については10％の割引、またもろもろおおむね10％から５％等の協賛店として協力をされてます。これは今手元に持っておりますのが2016年版の協賛店の一覧表でございます。こちらのほうでは約1,800店が協賛店として協力しておるという内容でございますけれども、これがことしになると1,911店が協賛事業者として登録をされています。市内におきましても、先ほど申しましたバス事業者、タクシーの業者、そして飲食の関係者、クリーニング屋さん、温泉を営業されておる方、宿泊業者の方、金融機関、こちらについては多少の税率を上乗せしとるようでございます。それから、理容店、仏具店、本当に多くの市内の事業者の方も協賛店としてこの事業に協力をされておりますけれども、各市町村レベルにおきましても、この特典、それぞれ高齢者の方の免許証自主返納について、それぞれの自治体のほうで特典というのは全国でも展開をされています。これも高齢者の事故防止を主眼としてやられておることでございますけど、その一例といたしましては、これが全国の自治体の支援事業を細かく書いております、県レベルのものもございますし、市町村レベルのものもございます。その中で、市町村レベルの中でひとつ参考にしていただきたいと思いますのが、自主返納者に対しまして３万円のタクシー券を交付、これは１回限りでございます。また、コミュニティバスについては無料乗車券を交付、これは無期限のところもございますし、10年間というふうな長い期間を区切ってされておるところもございます。御承知だろうと思うんですけど、近いところでは美咲町さんが県警のほうが発行しております免許証自主返納者に対して発行するおかやま愛カードを所有されている方については6,000円分のタクシー券、これは毎年１回交付してます。ですから、これも先ほど申しました１回限りの３万円ですけれども、５年たてば３万円以上になるんです、非常に高齢者の交通安全も視野に入れた取り組みをされておるなというふうに私は感じました。

そこで、再度美作市の免許証返納者に対する特典についてのお考えをお尋ねをしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

私としては、先ほども申し上げましたけれども、全市においてタクシー利用助成を拡大するときに、緊要性の高い方からと言いましたけれども、その緊要性の尺度の中で、例の自主返納というのはトップの近くにあると思ってるんです。それから、非常に明確にわかるんです、県警がカードを出してくれるもんですから。そういう意味では一番最初の適用拡大の筆頭候補の１人と、１人かどうかは別として、筆頭グループだというふうに考えておりまして、その場合に恐らく助成額は、美咲町を少し超えるものがずっと続いていくんだと、美咲町を倍ぐらいかなというふうに思ってはいます。いずれにしましても、県全体のあるいは国全体のこの問題についての関心や努力というものを背景として、多くの方々がさまざまに支援をしたり協賛をしたりしておられるわけでありますけれども、問題の根本は、その地域における生活上の足の確保ということになるのは当然でございまして、そこに一番密接に問題意識を持っているのも自治体であるということもまた確かでありますので、目に見えて交通不便が解消できる特典を差し上げることが一番重要であろうというふうに私どもは考えて、美咲町の件も勉強しておりますし、タクシー利用の拡大のときの実証実験の中にも、その視点を強く持って対応するつもりでありますので、何分よろしくお願いをいたします。

また、英田地域の英田バスの問題については、２つ申し上げますと、今のところ何ら手をつけるつもりはありませんけれども、英田地域において、私も実は英田バスの存続についてのお話も伺ったわけですが、加えてタクシー利用助成の声が結構強かったんです、実は。そこの切りかえというのも、これも視野に置いて、最初の検討項目として考えていかなきゃいけないというふうに実は事務方には指示をしているところでございますので、念のためこの点についても追加して答えさせていただきます。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

それでは、総括のほうをさせていただきます。

市長より、前向きな本当に取り組むんだという決意の一端を聞かせていただきました。市長の答弁の中にもございましたけれども、このタクシー利用券イコール高齢者の自主返納がしやすい環境づくりに取り組むということで、早急に拡大を図るということでございましょうけれども、やはりタクシー利用券をするといたしましても、限られた金額になろうかと思います。当然今の循環バスの個人の方の利用負担でおさまるようなことはないと思いますんで、やはりメーンは循環バス、そして緊急時にはタクシーを利用しての利用補助を使わせていただくというふうな、当面はでございますけども、２本立ての運営というもので、余り急激にやりますと皆さん戸惑いというものが一番に生じると思いますので、よろしくお願いをいたします。

この高齢者の方の免許証の自主返納によりまして、高齢者の方が重大な事故を起こして取り返しがつかない、そういうふうなことにならないように早急な対応というものをお願いをしておきます。

冒頭申しましたが、市民目線でひとつ高齢者の皆様に優しい、そして安心して暮らせる積極的な取り組みというものをお願いをいたしまして、本定例議会の私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番３番、議席番号７番萬代師一議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから10分間休憩いたします。

午後３時03分　休憩

午後３時13分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番４番、議席番号17番山本重行議員の発言を許可いたします。

山本議員。

１７番（山本　重行君）〔質問席〕

それでは、議長の許可をいただきましたので、私の３月の定例会の一般質問をさせていただきます。

今回私は３項目について通告をいたしております。

まずは、土居地区のメガソーラーについて、それから過疎地域の交通便の確保について、そして市長の新春インタビューの内容についてというふうなことで通告をいたしております。

まず、土居地区のメガソーラーについて質問をさせていただきたいと思います。

2011年３月11日に起きました東日本大震災は、強い揺れと津波で多くの人々の人命を奪い、たくさんの人たちの生活に深い傷跡を残しました。そして、東京電力福島第一原子力発電所の事故は深刻な環境汚染をもたらしまして、原子力というエネルギーに対する反省から、再生エネルギー、水力、風力、火力、そして太陽光への取り組みも進んでまいりました。長期的に安全で健康な暮らしを維持し、国土を保全していくことの重要性が再認識されて、将来世代の環境を守るそういったことの大切さを国民に改めて感じさせたものでありました。こうした中で復旧してきたメガソーラーも、逆に環境の問題、水害に対する問題を人々に投げかけるというふうなことも出てきたわけでございます。そして、この土居地区のメガソーラーにつきましては、大きな反対運動が起きているのは御存じのとおりでございます。

その計画によりますと、メガソーラーは東洋一とも言われるような大規模なものでございます。業者の側からの資料によりますと、安全性については、排水管理能力の向上、表面排水の集水、崩落箇所の補強、また事業区域外の河川改修とかも言われておりますけれども、近年の地球温暖化による短時間の集中豪雨被害が世界的に各地で起きているのは御存じのとおりでございます。

そしてまた、この土居地区を初め、旧作東地区は、平成21年には大きな水害に見舞われました。そのことはまだまだ記憶に新しいものがあり、いまだに忘れることはできません。このような中でのメガソーラーの計画でございます。土居地区のメガソーラーは、現在県、地元との関係はどのような状況になっているのかお尋ねをしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

土居地区のメガソーラーについての御質問でございますが、開発に当たりましては、森林法及び岡山県県土保全条例に基づく県知事の許可を受ける必要がございます。２つの開発許可申請は、昨年９月に開発事業者が県に提出しており、現在県において審査されているところでございます。

一方、行政懇談会等などで地元からは平成21年の災害を経験して、予定地における山林伐採、造成における周辺環境への被害や新たな災害発生の懸念、20年後のパネルなどの産業廃棄物処理への不安があるとの御意見をいただいておるところでございます。このような不安を解消するため、市から開発事業者に対しまし

て再三十分な対応策をもって地元住民への理解を得るよう要請をしてまいりました。

また、岡山県知事から、県土保全条例に基づき将来開発行為が実施される場合に、安全で良好な地域環境を保全するため、市として開発事業者との事業実施協定を締結するよう再三にわたり強い要請があったところでございます。市といたしまして、行政懇談会等で住民の方々からいただいた御意見にお応えすべく、撤去費の積み立てや調整池のしゅんせつ、表土の緑化など、開発事業者と協議を重ねたところ、協議が調ったことから、昨年12月26日に事業実施協定書を締結したところでございます。今後は岡山県が年度内にも許可の可否について決定する見込みでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

山本議員。

１７番（山本　重行君）

事業実施協定書を締結したというようなことでございますけれども、土居地区に入ってみますと、たくさんののぼりあるいは看板が設置されておりまして、地域の方々のこのメガソーラーに対する不安だったり怒りであったりとそういったものを感じるわけでございます、そうした中で事業実施協定書を締結したというふうなことでございます。地元の方々の反対される反対運動についてどのように理解されているのですかお伺いいたします。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼します。

２回目の御質問にお答えをいたします。

今回の事業に対し、市といたしましては、第一に平成21年の水害で被災した地域であることもあり、防災上の問題を除去すること、次に将来にわたっての問題が発生しないよう、撤去の問題まで含めて総合的に対応することを重視するという立場で対応をしてまいりました。当然ながらこれらの方針は地元の民意を代表したものであります。今回の協定が最終的なものではなく、追加すべき項目もあると考えております。地元の御意見を伺いながら、必要な項目につきましては、新たな協定の締結も含めて、開発事業者との調整を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

山本議員。

１７番（山本　重行君）

住民の方々と業者との関係は、全国では産業廃棄物の処理場であったり、あるいはマンションの建設、あるいはパチンコ等の遊技場の建設、そういった場合に地元との関係というものはいろんな形で紛争といいますか、そういった形が起きているわけでございます。その場合に市のほうが行政指導というふうなことで入るわけですけれども、そのときに行政指導はどちらの立場に立つんかというふうなことが重要だろうというふうに私は思ってます。あくまでも市民側の立場に立って行政指導ということをしていくならば、結構先ほど申し上げました各地の事業においては、事業者のほうが断念するとそういったこともございます。あくまでも行政サイドでなく、市民サイドで行政指導をしていただきたいというふうなことを強く要望して、私はこのメガソーラーに対する質問を終わりたいと思います。

次に入ります。

過疎地域の交通便の確保というふうなことで、先ほどからこの点もいろいろございましたが、私は以前この過疎地の交通便の確保については、市民の方々の要望や期待が大きいというふうなことも言ってきましたし、またほかの議員の方もたくさん質問をされてきましたが、地域の住民のための方策の必要性は日々高まっておるというふうなことで質問いたしましたところ、今老人クラブとの関係を調整しとんだというふうなことであったり、あるいは地域の団体や既存の交通との提携を視野に入れて幅を広げていきたいとの答弁だったわけでございますけれども、その点についてはどうなったんでしょうかお伺いいたします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

平成27年６月議会で、老人クラブでは運転操作やリスク等の問題があり厳しいため、他の地域団体等の連携や既存の地域交通との連携なども視野に入れて検討の幅を広げたいということで答弁をいたしました。この他の地域団体等の連携につきましては、他の団体を考えましても、運転のリスクというものが問題となることが想定されまして、既存の地域交通との連携に絞り、協議を続けてまいりました。そして、高齢者などを中心とする交通弱者の移動手段は、タクシー利用が最適ではないかとの考えに至り、平成29年度に美作市営バス、循環線が走っていない地域で実証実験という予定となっております。

なお、政府の規制改革推進会議では、一般のドライバーが料金を取って自家用車で利用客を送迎するライドシェア、相乗り解禁に向けて本格的な検討に着手するという新聞報道もあります。国の動きに注視しながら、幅広く交通弱者対策を考えていきたいと考えております。

以上です、よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

山本議員。

１７番（山本　重行君）

私は、この生活協同組合方式による交通便の確保というふうなことにつきましてはリスクが多いんじゃないか、あるいは問題が多いんじゃないかというふうなことを言ってまいりましたし、たとえ一部の人の善意の方で運行ができたとしても、市全体の交通不便者の施策にはならないというふうなことを申し上げてきました。長続きはしないんじゃないかというふうなことを申し上げまして、全国ではデマンドバスとかデマンドタクシーとかタクシーチケットとかいろんなことをされてるので、そういったことを検討すべきじゃないかというふうなことを申し上げました。先ほどから答弁がございました、やっとタクシーの利用補助というふうなことの実証実験をされるというふうなことでございます。この施策を先ほど市長の答弁では、30年度には予算化というふうなことも考えておられるというふうなことでございまして、この点について、先ほど来皆さんが質問されてますので、質問はいたしません。このような方式あるいはまたいろんな方式を考えられまして、最少の経費で最大の効果を生むようなそういった形での交通弱者の便が図られますよう、そういった方式が生み出されればいいかなということを思っておりますので、この点については終わりたいというふうに思います。

議長（山本　雅彦君）

それでは、３項目めに入ってください。

１７番（山本　重行君）

３項目め、これも既に代表質問から私が４人目になるんですか、というふうなことで質問ということにはならないかと思います。

子育て支援、出産祝い金を第１子の方には３万円、第２子の方には５万円、そして第３子以降は20万円というふうなことでございましたし、電子親子手帳によって、健診あるいは予防接種等のことがスマホによって確認ができるんだというふうなこと、そして低学年の支援としては、発達障がい者に対する支援、親子教室等もやりたいんだというふうなこと、そして預かり保育は、幼稚園へも拡大をして、１日当たり1,000円のを600円、月にしては１万3,000円を6,000円というふうなことでございましたし、土居の幼稚園でもこういったことをしていくんだというふうなことでございました。

そして、公共交通におきましては、先ほど来皆さんが言われておるとおりでございまして、高齢者と障がい者に対して実施をしていきたい、とりあえず実証実験をしたいというふうなことございました。

また、スクリーニング検査というんですか、これについても、３、４歳児に引き下げると、そういった施策を実施されるというふうなことだったと思います。いろんな形で福祉の政策というのをされるというふうなことで、このことが先ほど来言われてますように、アンケートの中で市民の方々が希望されてるというふうなことでございます。地域の振興であったり、地域の活性化、そういった施策ももちろん必要でございますけれども、アンケートの中にありました福祉に対する施策、こういったものとバランスのとれた市政運営をしていただきますように要望して、私の３月の定例会の質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番４番、議席番号17番山本重行議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通告順番５番、議席番号５番谷本有造議員の発言を許可いたします。

谷本議員。

５番（谷本　有造君）〔質問席〕

議長より発言の許可をいただきましたので、５番谷本、３月定例会の一般質問を始めさせていただきたいと思います。

今回の私の一般質問は３点、市の消防団について、２点目が交通安全対策について、そして３点目に市内バスについてということでございます。

その質問をする前でございますが、今回の当初予算で私も一般質問とこの４年かけていろいろとしていきましたけれども、子育てについてもしっかり訴えてきたわけでございますが、出産祝い金をここで計上してくださってる。本当にこれはうれしいことで、市民の皆さんからも新聞等を見てすごい反響の声が出ております。29年４月以降ということではございますけれども、１子に３万円、２子に５万円、３子に20万円と本当にありがたいことですし、願いがかなったかなと思いますけれども、ぜひともしっかりと運用していただきたい。また、これによって人口問題等、少しでも解決に向けていっていただけたらなと思いますし、また今度は来年度に向けて切れ目ない助成ということで、市長、小学校へ上がったら入学祝い金とか、また中学校に上がったらまた入学祝い金とか、また高校に至っては市外へ出ていっている皆さんに対して通勤手当等がまたございましたら御検討願いたいと思うております。それの第一弾として、出産祝い金等をしていただきましてまことにありがとうございます。

それでは、市消防団についてでございますけれども、消防団、私はいつも消防団を一言で言えばといったら、日本一のボランティア組織であろうと思っております。私も元消防団ではありましたけれども、その消防団の数が全国的においてもそうですけど、市内においてでも激減をしております。消防団は、やはり市民、地域の皆さんの安全・安心、財産を守るべく、基本の根底の組織であろうと思っております。皆さんが

頼るところといえば、どうしても消防団また消防本部、ここが一番身近なところでありますけども、その消防団の数が減るということは、皆さんの安全性も確保ができないのではないかという心配の声も上がっております。

そこで、この消防団の減少をどのように今後食いとめていくのか、その辺を少しお尋ねをしておきたい。一番大事なことでありますし、市の危機管理においてもマニュアルにおいても、基本になる数字だと思いますので、その辺についてもお尋ねをしておきます。

また、その消防団をふやす方法等、いろいろ考えられておりますけれども、なかなかこれがふえてはいかない、そのような中で、どのように今後それをせめて減らさずに、どのような方法で維持していくのか。やはり私が今まで思っている中では、いろんなことをしてもなかなか難しいんです。ですけれども、ここは一ついよいよ手を打たなくてはならないというよりも、組織の再編が必要であろうと思っております。その辺をどのようにしていくのか改めてお尋ねをします、１点目。

議長（山本　雅彦君）

危機管理監。

危機管理監（山本　和毅君）〔登壇〕

失礼いたします。

谷本議員から市消防団についてということでお答えをさせていただきます。

市消防団は、市民の生命、身体及び財産を守るため、地域防災の中核的存在として、地域の安全・安心の確保に大きな役割を担っていただいております。地震などの広域的な災害はもとより、近年の突発的な災害や有事における避難誘導など、さまざまな活動で地域とのかかわりからも地域住民から大いに期待されておるところでございます。

しかし、消防団員数は全国的にも減少傾向にあり、美作市におきましても、ここ数年団員数が減少傾向にあることは先ほど議員もおっしゃっておりましたが、御承知のことと思います。団員減少の要因といたしましては、一般的に言われるのが社会的要因ということで、少子化また若者の地域への意識への希薄化、またサラリーマンなど被雇用者が多くなっているというような状況が考えられます。美作市におきましても、被雇用者が80％以上占めておりまして、若者の消防団離れへの要因となっているのではないかというふうに考えておるところでございます。

こうした状況の中、美作市としましては、消防団活動への理解、協力を得るため、消防団協力事業所表示制度やラッパ隊の導入など、消防団の活性化、団員の確保に向けての取り組みを進めてきたところでありますが、団員減少の根本的な解決には至っていないのが現状でございます。

しかし、団員１人が抱える人口で比較いたしますと、美作市は14.1人、真庭市が17.4人、赤磐市が41.5人、津山市が48.8人となっておりまして、県下では新庄村、西粟倉村に次ぐ３番目に団員数が多い結果となっております。今後におきましては、勇退された元団員の再入団等の呼びかけなどを行い、団員数の現状維持への取り組みを行っていきたいと考えております。

次に、組織の再編についてお答えをさせていただきます。

入団する若年層の減少は避けられない現実であり、部単位での活動が困難な状態が今後見込まれますので、地元消防団、地域との皆様と協議を行い、部の統合を検討し、確実に出動でき初動態勢がとれるような組織の再編について、地域ごとに研究していただきたいと考えており、当市としてもそのような動きを支援していきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

谷本議員。

５番（谷本　有造君）

一通りの答弁はいただいたんですけども、最後のほうに言いましたけれども、組織の再編です。今団本部があって、６方面隊あるんですか、分団に広げたらもっとすごい数になってくるんですけども、そのような中で、今の方面隊が分団に、分団が部になるようなぐらいの組織の再編をしていかないと、今後本当にそれぐらいの危機が迫ってきてるんじゃないかなと思っております。というのも、私の地元の消防団は旧美作地区なんですけども、決して小さい組織ではないんですけども、その中の一つの部でも、初総会では３年後にはもうやれないという、消防団が初めて声を上げたんです、コミュニティで。今もう４人か５人しかいないんだと、部長さんが50代ですか、ほかの地域の方面隊では70代、80代の人もいるんだというのも聞きますけれども、それはそれとして、それは70代、80代の人がやってくれてるのは本当にありがたいことなんじゃけど、それで市の消防団はいいのかというところに僕は疑問があるんです。私の地元は美作市消防団美作方面隊第３分団第２部というんですけども、５人、６人です、あともうできない。３年をめどに部落の皆さん、地区の皆さんは真剣に考えてください。これをコミュニティで話をしてもどうにもならない。そこの自治会だけで解決する話でもないですし、当然分団の中にはもっとほかの近隣の地域もあるわけですし、またその上には美作市もあったりして、本当に３者、４者が寄って真剣に考えてくれないと、地域を守るのは地元消防団です。なぜ地元消防団なのかというところなんですけども、大雨や風が吹いたりしたときに、何をもとに判断してそのときに対応するかといったら、私の地元では小さな川が山から流れてるんですけども、その川の水の音で私たちは動いてたんです。最初は小さな石が山の中から流れてくるんですけども、それが四、五十センチぐらいの石が流れ出したら、今度は川の音が変わるんです。その音によって、よし、次はこの対策をしようじゃないか、恐らくここここここに水が出るじゃないか、そこに出る前に土のうを積もうじゃないかと。これは、私の地元に限ったことじゃないです、どの消防団の地元もそういうものをもって初めて地域の皆さんを守ってるんです。ですからこそ、消防団というのは大事なんよというのはそこなんです。そうしたら、一緒の分団でも、ほかの部の協力はしてくれます、ですけど今も言うその水は、他の部の水はどこに出るんだとか、どのようなことで起きてくるんだというのはわからないんです。やはり、地元の中の地元の部だからこそわかるし、だからこそ市民の皆さんの地域の住民の皆さんの安全・安心を守れる、だから地域住民の皆さんも安心しておれるんです。だから、さっきも言いましたけれども、本当に再編をするのならば、方面隊を１つの分団として、分団を１つの部として考えるぐらいのことを今やっていかないと、今からやっていかないと後々困るんじゃないかなと、このことだけは提言をしていきたい、そしてまた要望もしときたいですし、今言うそういう声が実際起きてるわけです。この美作市の中の美作地域の中心です、ある意味では、その中心の中の消防団でさえ困ってるわけです。この声を切に聞いていただいて、本当に消防団の再編、また危機管理に対しての対応をしてもらいたいと、このことについて、できますれば御答弁をいただきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

谷本議員の質問でございますが、いつもどおりよく練れた歯切れのいい質問をしていただきまして、まことに感心をしながら聞いておるんですけれども、消防の組織が機能するためには、まず機械装備がしっかりしていること、それから隊員の方が常にそこへ駆けつけることができるわけでもないんです。勤務をしてい

らっしゃる方が出張してました、それで行けませんてなことでありますし、たまたま病気になっておりました、行けませんということですから、ある程度余裕を見て隊員の部隊が編成をされていく必要がある、こういうふうに思いますし、そういう経験もあります。

県内全体を見ましても、大ざっぱに言うと、今の質問にもありましたように、分団というのが活動の中心になっていて、その分団というのは大体小学校区ぐらいの単位でやられている、ただ面積の広いところは、小学校が統合される前の旧小学校区単位ぐらいで分団活動が展開され、それが活動としての誘起組織として、一応の体裁、量を確保すると、こういうことになっているのが現実であろうというふうに思います。

一方私どもの地域においては、先ほど危機管理監から数の説明がありましたように、他の岡山県内の都市に比べれば、圧倒的に消防団加入比率は高いんです、十何人に１人ということでありますので、分団の構成も今申し上げたようなレベルよりも、もう一段細かくはしてもいいんですけれども、それでもそれなりの集約がある可能性はございます。そういうことで、先ほど危機管理監から答弁いたしましたけれども、検討をするんですが、主体は、これも議員御承知のとおり、あくまでボランティア組織ですんで、これは。地域の方々やボランティア活動をしていらっしゃる御当人の方々がどう思うかということを極めて深く尊重しなければならないということになります。したがって、我々としては、今の答弁でも申し上げたような形で、一般的にはこんな形ですねとかそういうような情報を提供しながら、熱心な議論が行われるような雰囲気をつくっていくことに当面は注力をしていきたいというふうに思ってるんです。といいますのが、先ほど機材であるとか団員の数であるとかというような消防としての必須の条件を言いましたけども、もう一個必須の条件があって、これは気合いなんです、何といっても。あれは、気合いというか、その裏側にある地域に対する密接な愛情というか帰属意識というものがあって、これを切っちゃうと全く機能しなくなってくるもんですから、そういう意味では今申し上げた若干歯切れは悪いんです、確かに。うちが勝手にやれば済むということじゃないもんですから、よくよく消防団の皆さんの意見を聞きながら、あるいは地域の意見を聞きながら、これを適正なサイズ、適正な水準を守っていくというようなことにじわじわつなげていこうと思っておるんです。

ところで、私が見る限りにおきましてこういった法則がありまして、消防における団員の確保について、あるいは団としての規律や実行能力という面においても、やはり操法訓練大会等における優秀な成績を上げている市町村の消防団はやっぱり強いです、これは。例えば和気町は非常にしっかりしている、それから岡山市は、これは恐らく政令指定都市の中では最も消防団が充実をしている政令指定都市でありまして、結構全国大会でもいい成績をおさめてくるわけでありますけれども、私どもとしましては、先ほどるる申し上げた答弁もありますけれども、この操法訓練大会において、美作市は昨年久しぶりに県北トップになって入賞を果たしましたけれども、こういう機運、こういう成績というものを今後も維持する、ないしはより改善をしていくという努力、それも重要かと思うんです。消防に入って何がよかったか、何がだめだったかと偉い団員に聞いてみると、一番嫌だったのは操法訓練で、一番よかったのは操法訓練だと、こういうまことに矛盾したけども、美しい答弁がほぼ返ってくる。そういうことも含めて考えながら、それは楽な仕事ではありませんけれども、楽じゃないからこそよかったんだという消防精神というものを何とか維持管理をするために、市としては徹底してこの操法訓練等の支援もしてまいりたいと、以上考えておりますので御理解賜りたいと存じます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

谷本議員。

５番（谷本　有造君）

操法訓練にしても、人数がいてこそ初めてできるんであって、今私の地元の３分団というか７部あるんですけれども、順番に回っていくわけです。もう何年か前から１つの部ができないから、ほかの部と合わさって操法してるんです、それでまた我々の地元の部が〔聴取不能〕操法自体ができないということにもなってくるんで、やはり操法は基本でもあるけども、文化でもありますから、地域の。何とかしてそういうものを市長の言われるように残していかにゃいけんし、気合いと言われれば気合いかもしれませんけども、それに似たような中でぜひとも消防団については再検討というんですか、本当に再編について真剣に考えてくださいよということだけ伝えて、この質問は終わらせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

続けて次の項に入ってください。

５番（谷本　有造君）

交通安全対策についてですけれども、カーブミラーとかガードレールとか、またガードパイプ、そしてまた道路の白線等、この現状についてお尋ねをしたいと思います。

このことについても、この４年間しっかりと質問をさせてきてもらったり、また要望等もし、またそれに十分応えていただいているわけですけども、この辺の数等、またその老朽化等の状況、点検等がしっかりできてるのか、その辺をまず１点お尋ねしたいのと、特に白線は消えかかってるとか横断歩道も含めて結構あるんですけども、これも市長は今回当初予算でしっかり4,000万円という、ありがたいなと、しっかり地域を見ていただいてるんだなという思いもしましたし、やはりこれも３年をかけて皆さんの安全・安心つながるところでございますので、しっかりと早急に実施していただきたいと思いますけども、まずはこれの状況等を担当部からお尋ねをしておきます。

そしてまた、住民からの要望というのも結構地区からとか、また小・中ですか、お子さんをお持ちの地域からも結構要望等も出てると思いますけど、この要望等をどのように応えられているのか、改めてお尋ねをしておきます。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

それでは、谷本議員のお尋ねの２項目め、交通安全対策に関するカーブミラー、ガードレール、白線等についてと、点検と要望についての答弁をさせていただきます。

最近ニュース等で水路への転落事故や通学時の児童・生徒の列へ車が突っ込むといった痛ましい事故が報道され、安全の確保への関心がクローズアップをされておりますが、通学路等では、多発する事故を受けまして、国においては、通学路等の歩行空間の交通安全対策が来年度の施策の基本方針の中にうたわれておりまして、防災、安全対策として予算化が図られるものと期待をしているというところでございます。

また、水路転落事故に対し、県内の取り組みといたしまして、平成28年から消防、警察、自治体それぞれが把握している事故の状況や原因などの情報を共有いたしまして、危険箇所の把握と対策につながるよう体制ができております。

次に、要望の状況について、説明をさせていただきます。

各地区からの自治会長や行政懇談会等を通じて、国や県、市に対して非常に多くの要望や御指摘をいただいており、国県道では、今年度12月末で30件を受け付け、市を通じて県に進達をしております。市道では、改良事業などの要望も含めまして、破損箇所の修繕や不良箇所の補修、安全施設の設置などを含め、12月末で156件というふうになっております。

平成28年度は、補正予算を含め、前年度に対して大幅な額をお認めていただいておりまして、新年度当初予算ではほぼ同額の要望を行っているところでございます。

次に、施設の状況でございますが、安全パトロールや地区から情報の提供をもとに、経年劣化や破損状態を確認の上、優先度に応じて順次対応に当たっているというところでございます。

カーブミラー、ガードレール、白線等についてでございますけれど、カーブミラーでは、道路パトロールの中で、ミラーの清掃や視界を遮る除草や枝払い、ミラーの向きの調整などを行っております。経年劣化が著しいものは、適宜交換を行っているというところです。ガードレールでは、これも経年劣化等で安全性の確保に疑問が残るものがあるというふうに承知しておりまして、必要に応じて更新の検討をしていかなければならないというふうに思っております。

区画線につきましては、これまで路面補修、側溝の修繕、路肩の修繕やのり面の復旧、転落防止柵の設置といった走行や安全上直接影響のあるものが優先されてきたため、対応が後手に回っていたということは否めません。区画線は、視線誘導や走行区分という重要な機能を有するもので、車の走行や歩行者にとっても安全上なおざりにできるものではございません。このため、主要路線を中心に今年度調査を行いまして、52路線、路線延長約80キロを抽出いたしました。この結果を受けまして、平成29年度から３カ年で整備をするように計画を立てまして、平成29年度の当初予算では、真っ白い白線事業ということとして4,000万円を予算計上させていただいております。全体的の予算でいいますと１億円を超える額というふうになると思っております。期間を切りまして集中的な整備により、安全性の向上が早期に図られますよう取り組んでまいりたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

谷本議員。

５番（谷本　有造君）

しっかりと点検ができてるなというところもありますけれども、なかなか追いつかないというところもあるということでございますけれども、特にカーブミラーなんかは、今は昔より大きくなってますよね、版が。その辺のところが少し目立ってるんで、できますればもっと版の大きな今の最新のミラー等はこれは結構お金もかかりますし、特に曇らないミラーなんてもっと高くなるんで、そこまでとは言いませんけれども、できますれば版の大きいミラー等をしっかりと早急につけていただきたいなと思うのと、またパトロールはしてるんだけれども、追いつかないというよりも気づかないことも多々あるんで、これをいかに今後どうしていくかですけれども、しっかり広報等でできれば少しでもおかしなガードレールにしろミラーにしろあったら、建設課のほうに言ってくださいというようなことを一言言うだけでも全然違うんで、その辺をお知らせをしていただけたらなと思いますんで、この件についてはこれで要望として終わらせていただきます。

次行きます、行かせてください。

議長（山本　雅彦君）

それでは、続けて。

５番（谷本　有造君）

市内バスについてです。

最後の質問になりますけれども、市内バスについては、うちの友和会の代表質問を小渕議員がしたりとか、またほかの議員が一般質問でしたりとかで出てますけども、私のほうは単純明快に言いますけども、免許証を返納されるわけですけども、されたらこういう特典があるんだとかいろんなことがあるんですけど

も、僕も免許を持って運転してるんですけども、さてはてバスに乗ろうと思ったらどうやって乗ったらいいんだろうかというのがこれが正直な気持ちです。

これは今くらし安全課なんで、僕はここへ行こうと思ったら、どのバスに乗ったらええんかなと言ったら、こういう路線図をくれるわけですけども、これは全体です、美作市の。これを見て、すぐこれでしょうと言えるような地図じゃないわけです、これは実際のところだったらわからないです。というのが私の近所の80代の方が女性ですけども、自主返納しました、免許証を。それはええんだけども、バスに私はどっから乗ったらええんじゃろうかなと、ここに行きたいんだけどと、病院等もありますから。市外だったら特にどうやって行ったら行けるんだろうか、私のところの家の近くのバス停はどこにあるんですか、まずここから入らないと、はっきり言ってどうにもならないんです。僕も初めて尋ねられて、おっとっとと、まずここからだと。くらし安全課の皆さんとも話をしたりして、ここからまずやっていこうじゃないかと。やはり、今あるものを有効に利用すべきなんです。特典もわかりますけど、今あるものを利用すべき。どうしたらいいんだといったら、利用しやすく、わかりやすく僕はすべきだと思うんで、これからを期待しますけれども、ぜひとも各戸にわかりやすい路線図とか、旧町村単位での路線図がまず一番の基本じゃないかなと思いますし、その辺からまず始めていただいたらどうだろうかと、それからまた市民の皆さんからいろんな御意見を聞きながら、改良、改良、改善、改善していって、市内の皆さんがバスに乗れるように、より利用できるようにしていったらいいと思うんですけれども、その辺の御答弁をいただきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、その前に一応市内のバスの現状につきまして説明させていただきます。

市内バス運行でございますが、市内には地域別市営バスがありまして、大原バス、東粟倉バス、美作バス、英田バスは地域内を循環し、目的地である病院、金融機関、官公庁までの運行で、運賃は１乗車当たり200円で市内統一料金としております。

また、津山線につきましては、勝田梶並からと英田福本からの２路線があり、距離別運賃を適用しております。

路線図や時刻表は見やすく、地域住民に十分理解されているのかという御質問でございますが、現在路線図はホームページに掲載はしておりますが、市内で運行しているバスのルートを１枚の路線図にしていることから、議員のおっしゃられましたように、非常に複雑なものになっております。

また、時刻表につきましては、再編等がありました市営バスについては全戸配布しておりますが、変更がない地域については配布できていない状況です。

４月の広報紙には、御質問にありましたように、御利用いただく市民の方にわかりやすいよう、地域ごとの時刻表と路線図を配布いたします。また、循環バス車内にも置きまして、利用者の方が自由に持ち帰れるようにいたします。さらに、各支所には、全地域の循環バスの時刻表と路線図を設置いたします。現在ホームページに時刻表や路線図、みまちゃんネルに時刻表を載せておりますが、わかりやすくするよう対策を講じてまいります。今後とも市民が利用しやすい公共交通を目指して、利用促進に向けた取り組みを充実させていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

谷本議員。

５番（谷本　有造君）

まことにありがとうございます。ぜひとも各戸に配布してください。これだけでも、配布するというだけでも皆さん安心しますし、利用促進になってきますし、また乗っていただいて、より意見を聞かせていただいて、よりよいバス運行ができますことを心より願いまして、私の３月定例会の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番５番、議席番号５番谷本有造議員の一般質問を終了いたします。

お諮りをいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。

本日はこれで延会することに決定いたしました。

本日はこれで延会します。

再開は明日21日、午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時04分　延会

平成２９年２月２１日

（第　　３　　号）

1. 議 事 日 程（３日目）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年２月21日

午 前 10 時 開議

於 議 場

追加日程第１　文教厚生委員会委員長報告

日程第１　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	金谷　典子	２番	重平　直樹
３番	安藤　　功	４番	安本　博則
５番	谷本　有造	６番	則本　陽介
７番	萬代　師一	８番	尾髙　誉久
９番	岡﨑　正裕	10番	西元　進一
11番	本城　宏道	12番	鈴木　悦子
13番	岩江　正行	14番	小渕　繁之
15番	万殿　紘行	16番	日笠　一成
17番	山本　重行	18番	山本　雅彦

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市長	萩原　誠司	副市長	安部　　薫
副市長	横山　博光	教育長	大川　泰栄
政策審議監	福原　　覚	総務部長	山本　直人
危機管理監	山本　和毅	企画振興部長	池田　義和
総合戦略監	森分　幸雄	市民部長	安藤　郁雄
環境部長	妹尾　昌弘	経済部長	尾崎　功三
保健福祉部長	江見　　勉	建設部長	真野　弘紀
教育次長	山名　浩二	消防長	山崎　正雄
会計管理者	安東　弘子	建設課長	春名　隆広
スポーツ振興課長	栃岡　雅之	管財課長	月見　松男
教育総務課長	皆木　敏治		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	本田　卓治
課長	大佛　裕彦
主任	井上　大佑

午前10時00分　開議

議長（山本　雅彦君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止をされております。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告はきょうはございません。全員の出席でございます。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１、「一般質問」に入ります前に暫時休憩といたしますので、よろしくお願いいたします。

午前10時02分　休憩

午前10時59分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

休憩中に文教厚生委員会を開催いたしております。文教厚生委員長より、委員長報告をしたいとの申し出がございます。

お諮りをいたします。

申し出のとおり、「文教厚生委員会委員長報告」を日程に追加し、追加日程第１として報告を受けたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。よって、「文教厚生委員会委員長報告」を日程に追加し、追加日程第１として報告を受けることに決定をいたしました。

追加日程第１　　文教厚生委員会委員長報告

議長（山本　雅彦君）

岡﨑文教厚生委員長。

９番（岡﨑　正裕君）〔登壇〕

貴重なお時間をおかりいたします。

休憩中に、議長、委員、市長、副市長、政策審議監、教育長、教育次長出席のもと、文教厚生委員会を開催いたしましたので報告いたします。

内容は、市内の学校において発生した校内暴力事件について教育長から報告を受けました。その詳しい内容につきましては人権にかかわる部分が多いので申し上げられませんが、現在学校と教育委員会が対応しているということで、委員会としても対応について第三者委員会の指導も受けながら鋭意努力するよう要望し、閉会いたしました。

以上で文教厚生委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

以上で文教厚生委員会委員長報告を終わります。

日程第１　　一般質問

議長（山本　雅彦君）

日程第１、「一般質問」を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許可いたします。

通告順番６番、議席番号３番安藤功議員の発言を許可いたします。

安藤議員。

３番（安藤　　功君）〔質問席〕

皆さんにおはようございます。１時間ほどおくれての再開となりましたけれども、まず申しまして、人生には別れというのがさまざまな形であるわけなんですけれども、それが永遠の別れであったり、短期的なものであったり、またそれぞれが置かれてる立場上の違いによる別れであったり、いろいろとあるわけなんですが、昨日小渕議員の代表質問を聞かせていただきまして、涙が出るような思いで聞かせていただきました。大原町から美作市へと、激動とも言える時代を議員として尽力賜れたんだなというふうなこと、本当に痛感をいたしました。昨日家に帰りましても、開口一番妻が、きょうの議会は感動したという、本当に口頭一番そういうふうな話がありまして、皆さんもテレビを通していろんな感動があったんじゃないかなというふうに思いました。本当に17年間お疲れさまでした。

それでは、一般質問に入らせていただきたいと思います。

まず、通告しております１項目めとして、2020年、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンについて、それから２項目めとしまして、美作市の危機管理についてということでお尋ねを順次させていただきたいというふうに思います。

まず、ベトナムを相手国としてホストタウンの登録がされたわけですけれども、具体的に今後どのような取り組みを考えておられるかをお尋ねをしたいと思います。そして、それは一過性のものではなく、将来の美作のまちづくりに役立つような取り組みを考えられているのでしょうかということでございます。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催をされます。それに向けてホストタウン構想が立ち上げられ、そして全国各地で展開をされており、我が美作市もベトナムを相手国として登録をされております。このホストタウンは、内閣官房オリンピック・パラリンピック事務局によりますと、2020年の大会開催に向けスポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から参加国、地域との人的、経済的、文化的な相互交流を図る地方公共団体をホストタウンとして全国各地に広げるとございます。そして、そのイメージ的な取り組み例として、オリンピアンとの交流を通じスポーツのすばらしさを学ぶ、そして大会参加国の方々との交流を通じ外国を知り日本を伝える、パラリンピアンとの交流を通じ共生を学ぶなどを提唱されています。報道などによりますと、既に全国各地でさまざまな取り組みを行っている自治体もございます。早々と事前合宿が決定したところや子どもたちを中心に交流事業を大々的に行っていたり、世界的に福祉の充実した国との交流を通じて当該地域の住民福祉に取り入れることができないかなどをプロジェクトチームを結成して取り組んでいる自治体もございます。

そこで、美作市として今後どのような取り組みをされ、それをどのようにこの地域に生かし、一過性のものではなく、未来につながる施策としての取り組みをしていこうとされているのかをお尋ねをいたしたいと

いうふうに思います。

各地域で行われている今回の取り組みで地域の活性化、観光振興等に重点を置き、具体的な目標や目的、そしてそこから得られる成果を具現化し、非常に前向きに行動を起こしているところが報道のほうでもされております。美作市としても、そうした事例も参考にしつつ、そしてオリジナリティーも考慮した取り組みを期待いたしますが、いかがでしょうか。

また、このホストタウンに登録されると国から特別交付税措置や地域活性化事業債などを受けられると聞いておりますが、それらの具体的な内容と美作市がこうした措置を利用しようとされているのか、そして利用するならば具体的にどのような構想があるのかをあわせて御答弁をお願いしたいというふうに思います。

以上、１回目でございます。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

安藤議員の質問にお答えをしたいと思います。

その前に、別れという言葉をお使いになって、まことに多くの市民の方々が感じたことをまとめておっしゃいましたけども、同じ市域に今後とも住む者同士の別れでございますんで、議場で会えなくなる方もおられますけれども、また町の中で、あるいは地域活動の中でともに手を携えて頑張っていけるだろうと確信をいたしております。

ホストタウンのことでございますけども、まずホストタウンになるということはそれなりに重要なことであります。国としてはかなり厳正な審査をしておりまして、私ども最初に出したときには、もう少しベトナムとの関係を具体的に進化させなきゃだめだというようなことで１回却下されてるんです。結局見てみると、それぞれのホストタウンがそれぞれの相手国と、政府との関係あるいは相手国におけるオリンピック団体との関係で十分な交流があって、それが長続きするものであるというようなことが見てとれないと、なかなかホストタウンとしての認定というのは頂戴できないということでございますので、もとよりそもそもというか、国の考え方としても一過性にしてはいけないんだと、一過性にならないような基礎があるところがホストタウンとしてやっていくべきであると、こういう判断であります。そういう意味で、私どもがこの３年間という短い間に培ってきたベトナムの方々、特に政府の方々との関係が、これは恐らく長続きするだろうというふうに評価をされたことにつきましては本当にありがたいというふうに思う次第であります。

そして、その長続きをさせるということの中で非常に重要な点は、当市が持っているさまざまなスポーツ資産の中で、当市としてずっとこれからも継続をしていくであろう、そういう分野、部分とベトナムと、国とを結びつけるということが重要であって、そういう意味ではベトナムにおけるサッカーが非常に盛んであるということ、国技と言われてますけども、そして私どもが湯郷Ｂｅｌｌｅという全国にもまれに見る弱小市町村における最強チームと、こういう位置づけを持ってることなどを考えますと、サッカーにおける交流ということが、これは長続きする秘訣の第１号だというふうに私どもとしてはまず考えておりまして、そういう意味でサッカー交流というものをさまざまな形でベトナムとの関係で続けていきたいなというふうに思ってます。例えば、美作市にある例のラグビー・サッカー場において、ベトナムの女子チームに来ていただいて、Ｂｅｌｌｅと交流試合するなんてのは、これはいいアイデアであると思うし、私どもベトナムのスポーツ関係の大臣にも会いましたけども、そのときにその話をしたら非常に喜んでいただいたこともあって、向こうのほうが熱心というようなことになってくるんじゃなかろうかと、こんなふうに思っております。もとより、ベトナムとの関係では、さまざまな形で、例えばベトナム語の講座がうちにあるとかというような

ことも含めて、文化やあるいは観光、そういった面については、あるいは労働というような面については、これはもともと長続きする要素がございました。そういうそれを持った上で今申し上げたような女子のサッカーなどの交流というものが今後盛んになっていく。そして、それが今御質問にあったように長続きをするということ。将来にわたって子どもたちも楽しめるというようなことにつながっていくというふうに確信をさせていただいておりますが、ただサッカーのみならず、ほかにもしあれば、これは我々積極的に。例えば、脱線風に言いますと、日本の文化の中で剣詩舞とか、そういったものについてもベトナムに広げていくというようなこともあるし、あるいは柔道が結構ベトナムで普及をさせようとしたときにうまくいかなかったんですけども、それを我々としてまたサポートするとか。剣道の話も出てくるかもしれません。去年のお通杯においてはタイのチームが来てましたけども、ベトナムのチームが来れるようになれば、これは大変うれしいことというようなこともあって、私どもが持っている地域資源、地域スポーツ資源というものをベトナムとの関係でしっかりと位置づけることが基礎であるというふうに思っております。

次に、支援措置でございますけれども、簡単に言うとお金の支援と、それから精神的支援があるんですけれども、精神的支援について言えば、さまざまな情報を国も提供してくれるだけではなくて、このホストタウンについての、どこがホストタウンなのかということについて今積極的に広報をしていただいているわけでありまして、そういう意味ではまず第１に美作市という町が全国である程度、なるほど、頑張ってる町なんだなということを国レベルで認知をしていただく。そして、それが世の中に広がっていくということが私は大きな支援だと思っておりますが、金銭面について言いますと、１つは特別交付税措置が、これもお尋ねにもありましたようにつくわけでありまして、これやった事業の量に応じてある程度の算定をいただけると思っております。もう一つは、地域活性化事業債というのがあるんです。あるんですが、ハードや何かを直す必要があるときに見ますと充当率90％、100万円の事業をしたときに90万円までの分をこの起債でもって対応できるよということなんですが、元利償還額の30％が交付税措置されると、国が３割は返してくれると、こういうことであります。これはもうお聞きになってわかるとおり、我々が使ってるさまざまな措置、例えば過疎債、これ７割です、国が償還してくれるのは。これ７割に比べて３割ですと、私どもとしては過疎債を使ったほうがいいとか、あるいは合併特例債、これもそうです。これもありますんで、それも使わないときにはそっちを優先していきたい。けれども、特別交付税措置については、これは貪欲に使わせていただくことというふうにしております。具体的にはこれから出てくるわけでございますけども、事前合宿に活用される既存の競技施設というものを国際競技基準というのがあるらしくて、いろんな形でベンチはこうあるべきだとかというのがあって、それに適用するために改修をするわけでございますけども、県に頼んでやってもらえる部分とうちがやらなきゃいけない部分等があった場合に、これも県事業とのさび分けをしながら、岡山県なかなかお金にはきついところがあるんで、うんと言わない。けれども、どうしてもやらにゃいけんといったときにはこういった特交措置を使いながらやっていくようなことも必要かというふうに考えているところでございます。

以上が私からの答弁であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安藤議員。

３番（安藤　　功君）

御答弁いただきましてありがとうございました。

今市長のほうからかなり詳しい御答弁だったんですけど、若干重複するところもありますけど、２回目の質問をさせていただきます。

ベトナムとのホストタウン登録は他の地域でも美作市以外であるようなんですけれども、美作市としてはベトナムとのこのホストタウンに関しての打ち合わせ、具体的な話というのはもう始まっているのかどうか、お尋ねをしたいと思います。

また、その他のホストタウン登録地、ベトナムとのホストタウン登録をしていただいている他の地域との連携というものを今後考えておられるのかどうか。

それから、先ほど御答弁にありましたサッカーを通じて湯郷Ｂｅｌｌｅとの交流試合等を考えられているというようなことなんですけれども、交流試合よくわかるんですが、湯郷Ｂｅｌｌｅ、ベトナムの選手団だけではなく、ぜひ市民の方々も試合観戦だけではなく多くの方々を巻き込んでのイベントや交流を考えてほしいですけれども、いかがでしょうか。具体的な案がありましたら御答弁いただきたいと思います。

また、今回のホストタウン登録を機に、今後も継続的に交流なり、観光客誘致であったり、地域産業の活性化にも寄与できるような具体的な取り組みを期待いたしますけれども、いかがでしょうか。これに関しては、現在の市内の状況、外国から来られてる方々の人数とか就労形態とか、もしありましたら御答弁をいただきたいのと、インバウンドというようなことも当然出てくると思いますので、このオリンピックホストタウンを契機に、その辺のことも何かお考えがあれば御答弁いただきたいと思います。

先ほど市長の答弁にあったんですけど、財政措置に関してなんですけれども、美作市の県営ラグビー・サッカー場などを初めとする体育施設や、そして文化施設に対して市民の皆様や、またそこをいつも利用されている方々の御意見も十分に考慮しながら、意味のある活用を練っていただきたいというふうに考えますが、いかがでございましょうか。

日本で開催されるオリンピックはもうそうたびたびございません。恐らく、私個人的ですが、生きてる間には多分ないだろうというふうに思っております。ぜひともこのビッグチャンスを美作市にとって、また市民にとって生かせるような大きなチャンスだと思いますんで、御答弁のほどよろしくお願いをいたします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

２回目の質問でございますけれども、当然ホストタウンになる前から打ち合わせが始まってます。こういうことを考えてるので我々がホストタウンの候補として日本政府に申請するに際しては、あなた方もちゃんと動いてねということから始めて、わかったやるっていう動きがあったもんですから、これ。両方の動きが合致してホストタウンになるということですんで、もう去年６月ぐらいから具体的な話を始めて今に至っているということですが。直近の話でも日夜というと変ですけれども、割と頻繁にベトナムと当方企画部のメンバーが打ち合わせをしているわけですが、相手としてはこの当市に対して情熱を持って活動していただいてる大阪の堺市にあるベトナムの総領事館の総領事ほか関係の方々、これ非常に熱心に私どもとの関係を拡大しようと努力をしておられますんで、そことも常に連絡をしておりますし、それからベトナムのスポーツ関係の役所、スポーツ局というのがあるんですけども、それからもう一個はベトナムのサッカー協会等との連絡も最近は頻繁にできておりまして、先ほどちょうど休憩中に起案を見たんですが、Ｂｅｌｌｅの関係者と企画部の関係者がそろってベトナム訪問をする日程の調整が今最終段階になっていると、こういう状況でございます。

次に、美作市以外にもベトナムとの関係でホストタウンになってるところが、１つ茨城県の鉾田と読むんだと思うんですけど町があって、これはたしか男子のサッカーかなんかでつながりがあったんだというふうに聞いているわけでございます。男子と女子の違いということです。もう一つは長崎県が主導して、長崎県

内の幾つかの市町村で連合になってやっていて、これは長崎とベトナムってのは知事が動いてますんでなかなかパワーがあるんですけれども、主に観光の世界での結びつきなんじゃないかなと思ったりしておりまして、ライバルとして具体的に思ってるのは、茨城県のさっきの町。あるいは、ここことは協力ができるかもしれないなというようなことをうっすらとは思っとりますけども、まだ具体的にこれらの関係都市と連携するというようなところまではいってなくて、むしろいかに先駆けようかと、こっそりいかにうまくやろうかということのほうが主になっていると思っております。

それから、ベトナム女子のサッカーの代表の方々と交流試合をするということですが、ここにある資料によりますと、国際サッカー連盟が発表しているランキングによると実力的には日本の女子、サッカーのほうがまだ上なのかなというふうな状況にはなっておりますけども、彼らも非常に熱心にサッカーには取り組んでいるということから、その中で伸びていく若い芽を日本で育てるということもあるのかなと私は個人的に思ってます。ただ、私もサッカーの専門家ではございませんので、このあたりはＢｅｌｌｅの監督さんあたりがしっかりと対象の方をごらんになって御判断されるべき案件だというふうに思っております。

そして、市民の方々との関係を重視したい。これはもとよりでありまして、産業団地に日々働いているベトナムの方々が、御案内かと思いますけどもサッカーチームをつくっていて、江見商業高等学校の跡地を活用して練習をして、そしてたしか美作市の体協に入ったんだと私は思ってるんですけども、体協に加盟して、市で行われる草サッカーっていうんですか、あれは、の試合に出るんじゃないかというような動きもあるわけでありまして、平素からのサッカー交流っていうことも考えていかなければいけない。あるいは、ベトナム語の講座であるとか、ベトナムのセミナーであるとかということは少しずつ市民の方々の間で広まりつつある。その事実もありますし、また市内に在住してらっしゃるベトナム出身の方々にいろんな行事、例えばここにあるのでいいますと、湯郷温泉の丑湯祭りなどの地域イベントにも参加をして楽しんでもらったり、芸を披露してもらったりすることもあるのかなというようなことで今考えております。

観光誘致のほうは、ベトナムの富裕層の方々はちょくちょく日本に観光目的で来られておりまして、私も現実に市内で観光に来られたベトナムの方とお会いしたこともありますので、これからふえていきます。ただ、今のところはそう多くないけれども、将来の楽しみという意味では結構大きいのじゃないだろうかというようなこともございますし、また市民との交流との関係で申し上げますと、恐らく例の滋慶学園の日本語科というのができるはずですが、ここにベトナムからの方も何割かという水準でまじってくるというか参加をされて、そして大原地域においてアルバイトとかいろいろしながら、美作かもしれませんけどアルバイトなどをしながら日本語の研修をして、そして看護学校で資格を取るというようなこともだんだんあらわれ、その方々は今度は当地域においてしっかりとした日本語のレベルを持って我々市民と日常的に看護や介護を通じて接触をするというようなことも将来期待をされるような状況であろうかというふうに思っておりまして、そういう大きな流れも今回のホストタウンが少し刺激を与えることになることを期待をしているわけであります。

そういうことでありますけれども、ホストタウンにつきましては、これは決定するときにも議会で申し上げましたけれども、岡山県内に27の市町村がありますけれども、都市として一定程度の外交力がなければできない仕事であります。県内では、私どもとベトナム、岡山市とブルガリア、倉敷とニュージーランドと、この３組だけが岡山県の中ではホストタウンになっている。このことも私たちとしては、美作市民の方々にちょっとした市の格というか、ある意味では自信というか、そういうものを持っていただけるような契機にもしたいと考えているところであります。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安藤議員。

３番（安藤　　功君）

御答弁いただきました。

何かとりあえずもう何回も申し上げますけれども、ホストタウンももちろんのことなんですけど、このオリンピックというのを選手団、選手の方だけじゃなく、市民皆様が一丸となって、まずは楽しめて、そして交流が生まれて、そして今後の美作市の活性化、産業面も含めて、観光面も含めて、それがうまく回っていくような取り組みをしていただきたいと。ことし１月１日にも我が家ベトナムからインバウンドで１人来てくれまして、我が家でもてなしたんで余りお金落ちてないかもわかんないですけど、そういった交流も実際ございますんで、ぜひともオリンピックを機に今後ますますの交流を深めていっていただければと思います。

この項終わります。

議長（山本　雅彦君）

じゃあ、続けて２項目めに入ってください。

３番（安藤　　功君）

それじゃ、まず危機管理に関してなんですが、美作市の危機管理についてということで、１つ目として地震や台風などの大きな災害に備えての車両運搬具や資機材等の燃料確保についてのお考えは。そして、２つ目として大雪のときや豪雪時の避難勧告もしくは避難、市民の安全確保をどのように考えておられるか、具体的なマニュアルが必要ではという質問をさせていただいております。

まず、危機管理に関しては、そのときの災害の内容や状況により、さまざまな対策が上げられますが、今回は、まず１項目めで１番目ですけど、地震や台風などの大きな災害に備えての車両運搬具や資機材等の燃料確保についての考えをお尋ねしたいというふうに思います。

皆様もお聞きになられたことがあると思いますけれども、東日本大震災を受け、災害時などにガソリンなど、石油製品の安定供給を目的にさまざまな要件を満たしていなければなりませんけれども、経済産業省が認定した中核ＳＳ、サービスステーションでしょうか、という施設がございます。自然災害は、いつ、どこで起きるか誰にもわかりません。昨今はまさかと思われる地域でも大震災が起きたり、異常なまでに大きく発達した台風やゲリラ豪雨などに見舞われる地域が頻繁に見受けられております。そのようなニュースの中で、ガソリンなどの燃料を求めてガソリンスタンドに長い列をつくって給油を待つ姿も見られました。さきの熊本地震を襲った震災時には、プライバシーの問題や小さなお子さんのおられる御家庭では周囲の迷惑になりはしないかと考えて体育館や公民館等といった避難場所には寝泊まりをせず、車中で一時期を暮らす方々も多くいらっしゃいました。エコノミー症候群で大変なことになった方もいらっしゃいましたけれども。緊急車両はもとより、特に地方の現代社会は車なしでは生活もままならないといった社会になっております。

そうした中、我々の地域にさきに述べた中核ＳＳを中心として石油商業組合勝英支部がございます。災害、緊急時のガソリンなどの安定供給を考え、さまざまな活動や震災緊急時に迅速に機能するよう準備も重ねておられるということでございます。美作県民局に対して、この勝英地域として官民の協力体制の構築やマニュアルづくりも提案されておられるようですが、正式な協定等に関してまだ締結には至っていないというふうにお聞きをいたしております。地域の安心・安全を考える上で一日も早く具体的な話し合いを進めていただいて、協定なり、共通認識の上でのマニュアルづくりをしなければならないというふうに考えます

が、美作市としての考えをお尋ねしたいと思います。

続きまして、大雪時や豪雪時の避難勧告もしくは避難、市民の安全確保をどのように考えておられるか。具体的なマニュアルが必要ではということでございますが、先般１月18日における大雪というか豪雪なんですけれども、私のほうにも住宅被害の情報も入ってきましたけれども、まず市内の被害状況はどうであったかということをお尋ねをしたいというふうに思います。

私も右手地区に参りましたけれども、想像をはるかに超えた大雪でありました。総合支所にも連絡が当然入っていたでしょうし、私のほうにもさまざまな連絡が入ってまいりました。この連絡というのは、どうにかならんか、助けてもらえないかという連絡だったんですけど、小説にトンネルを抜けるとそこは雪国だったという件で始まるのがありますが、久賀ダムを抜けると雪国だったというふうな、小説にできるんじゃないかというぐらい極端に違うんです、雪の量が。もう一カーブ一カーブ、一曲がりごとに積雪が目に見えてふえていくのがわかるぐらい。多分南にお住まいの、市内の、相当信じられないというぐらいの雪の量なんですけれど。その連絡なんですが、高齢者の方からは家から出ることもできない、宅急便も配達がかなりおくれて困っている、万が一このような状況のときにけがとか病気とかしたら救急車で助けに来てもらえるんだろうかといった内容のものもございました。

そこで、いま一度市の体制ないし取り組みを確認しておきたいと思います。美作市のみならず、豪雪に悩まされている地域は多くございます。例えば人的被害、住宅被害や電力、ガス、水道などのライフラインの被害、交通傷害、農林業への被害など多くが想定をされますし、実際に甚大な被害も起こっております。道路、鉄道等の交通機能が麻痺し、多数の孤立集落が発生したり、多数の立ち往生車両の発生により除雪作業のおくれや緊急車両の通行に支障を来すといった事例もございました。今回もありました、鳥取県境でいろいろとありましたけど。特に豪雪地帯と呼ばれる地域では、高齢化、過疎化が進み、除雪の担い手となる建設業者なども減少傾向にあるように思われます。それが被害の増加につながっている面もあると指摘されている部分もございます。美作市としての初動態勢や除雪体制の整備、住民、ドライバー等への的確な情報提供、要配慮者への対応、孤立のおそれのある地域に対する対応策は十分に考慮されていなければならないと考えますけれども、いかがでしょうか。

国からの指示も当然市のほうに届いていると思いますけれども、私の調べた範囲で以下の項目についてお尋ねをさせていただきたいと思います。箇条書きにしておりまして22項目から成るんですが、みまチャンとかをごらんになってる皆さんにもわかりやすいので箇条で読ませていただきます。

１、総合的な防災体制の確立について。

２番目、気象等に関する情報収集、伝達の徹底について。

３、適切な道路管理及び交通対策について。

４、関係業界から除排雪に係る協力を確保する取り組みの推進について。

５番目、ライフライン事業者及び鉄道事業者等の警戒態勢の強化について。

６番目、災害救助法の適用について。

７、在宅時の安全な過ごし方について。

８、車両の運搬等について。

９、防災気象情報等の活用について。

10番目、孤立のおそれのある地域における対策について。

11、雪おろし等除雪作業中の事故防止について。

12、高齢者の事故防止について。

続いて、地域コミュニティの共助による雪処理活動について。

それから、除雪ボランティアの受け入れと安全確保対策について。

それから、広域連携による担い手確保及び情報交換等について。

道路除雪体制の整備について。

資機材の確保支援について。

空き家等の対策について。

雪捨て場の確保について。

遅滞のない避難勧告等の発令について。

効果的かつ確実な情報伝達について。

最後になります、要配慮者及び関連施設に対する平常時及び緊急時の適切な情報収集、除雪支援体制の整備についてでございます。

以上、これらは豪雪に関してではなく、さまざまな災害にも重要な、大切な項目であると考えますので、御答弁のほう、よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

危機管理監。

危機管理監（山本　和毅君）〔登壇〕

失礼いたします。それでは、美作市の危機管理についてということで安藤議員からの質問にお答えさせていただきます。

まず、議員御指摘の石油商業組合勝英支部との燃料確保に関する災害協定の締結についてでございますが、石油商業組合勝英支部は勝英地域内のガソリンスタンド19店舗が加入する組合でございます。燃料確保については、大規模災害時の人命救助や災害医療活動、被災者への支援物資の輸送や災害対策活動の拠点となる施設の非常用発電機の燃料確保とともに市民の安全確保に欠かせないものでありますので、勝英地域内の自治体と連携をとりまして災害協定の締結を進めてまいりたいと考えております。

次に、大雪時や豪雪時の避難勧告もしくは避難、市民の安全確保をどのように考えられているか、具体的なマニュアルが必要ではないかという質問にお答えいたします。

まず、先般の１月の雪の被害状況について、２月14日現在でお答えいたします。農作物のビニールハウスの損害が４件、石垣の崩落が１件、非住家の損害３件、住家の損害が５件と報告を受けております。また、ごみの収集について、勝田の一部地域でステーション回収が不可能な状態になったというふうに聞きましたが、翌週には改善することができたということでございます。ただし、道路やガードレールなど破損について、雪解けを待って把握することとなります。そして、２月には雪道で足を滑らせ転倒し、負傷する人的被害も１件発生をしております。

なお、報告いたしました被害以外にも家屋被害があると思われますし、今後雪が解けることによって被害が確認されるものもあると思われます。

次に、防災体制についてでありますが、大雪への体制は美作市地域防災計画風水害対策編並びに防災体制配備基本マニュアルにより対応しております。気象警報等の発表により注意体制、警戒態勢、特別警戒態勢、非常体制と段階的に移行し、対応しております。

次に、22の項目のうちの３、４、16、18の項目以外についてお答えをさせていただきます。

１点目の総合的な防災体制の確立についてでありますが、総合防災訓練等の実施によりまして指定公共機関を初めとする関係機関との連携、信頼関係を充実させて、総合的な防災体制の確立に努めているところで

ございます。

２点目の気象等に関する情報収集、伝達の徹底についてですが、被害を最小限に食いとめるために正確な情報収集、伝達に努めてまいります。

５点目のライフライン事業者及び鉄道事業者等の警戒態勢の強化についてですが、関係事業者との災害相互応援協定を締結するなどして連絡、協力体制の確立を図っております。

６点目の災害救助法の適用についてですが、市は災害が発生した場合、迅速かつ正確に被害情報を確認し、適用基準に該当する見込みのあるときは県へ情報提供を行います。

７点目の在宅時の安全な過ごし方についてですが、豪雪に限らずですが、日ごろから非常持ち出し品、備蓄品の準備を周知しているところでございます。

８点目の車両の運転等についてですが、大雪が予想される場合には不要不急な外出は避け、やむを得ず運転する場合には冬用タイヤの装着、立ち往生を想定して、食料、長靴、防寒着、スコップなど緊急時に備えた準備が必要と考えております。

９点目の防災気象情報等の活用についてですが、気象台や岡山県からの気象情報等を活用いたしまして住民への注意喚起を行っております。

10点目の孤立のおそれのある地域における対策についてですが、孤立するおそれのある地区をあらかじめ把握し、当該地域の住民に対して食料、水、燃料等の十分な備蓄の準備や、必要に応じて事前に自主避難を呼びかけてまいります。さらに、状況に応じてヘリコプターによる避難が必要と認められる場合は、関係機関に要請をいたします。

11点目の雪おろし等除雪作業中の事故防止についてですが、除雪作業時には家族、隣近所への声かけ、作業を行う場合は複数で行うことや屋根からの落雪に注意するなど、事故防止、安全対策を周知しております。

12点目の高齢者の事故防止についてですが、自分の身を守るための準備と安全に対する心がけや地域の支援が重要であると考えます。

13点目の地域コミュニティの共助による雪処理活動についてですが、行政の支援活動にも限界がありますので、地域内での安否確認、除雪作業など、共助による取り組みを行っていただきたいと思っております。

14点目の除雪ボランティアの受け入れと安全確保対策についてですが、社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアセンターを設置し、積極的にボランティアの活用を図るなど、市民の安全確保を重要と考えております。

15点目の広域連携による担い手確保及び情報交換についてですが、本市のみでの災害応急対策は困難な場合には、災害時の相互応援協定先である岡山県下の市町村や他の自治体との相互応援協定により、職員の派遣、応援業務を要請をいたします。

17点目の資機材の確保支援についてですが、除雪に必要な資機材の状況を把握するとともに必要な資機材については整備に努めてまいりますが、除雪機械など迅速に対応できる体制が重要と考えております。

19点目の雪捨て場の確保についてですが、大雪時に対応できるように市の公共施設や河川敷など、公共の捨て場として確保し、必要に応じて雪捨て場の開設及び管理を行ってまいります。

20点目の遅延のない避難勧告等の発令についてですが、市長が地域からの積雪の状況や気象情報等の情報により生命、身体に被害が及ぶおそれがあると判断したときは避難勧告等を発令いたします。特に、避難行動要支援者など、要配慮者が対象となる場合には避難準備・高齢者避難開始を発令いたします。

21点目の効果的かつ確実な情報伝達についてですが、避難勧告等の情報伝達については告知放送、みまち

ゃんネルを活用するとともに、自主防災組織や消防団などとの連携により確実に伝達できる体制をとってまいります。

22点目の要配慮者及び関連施設に対する平常時及び緊急時の適切な情報収集、除雪支援体制の整備についてですが、要配慮者のうちみずから避難することが困難な方である避難行動要支援者への情報や避難支援については保健福祉部と連携し、自主防災組織、民生委員、消防団、社協など、避難支援関係者が避難行動要支援者名簿情報や個人支援計画書などを活用いたしまして、緊急時により実効性のある適切な避難支援体制を構築してまいりたいと思います。

答弁いたしました項目については全ての災害に適用するものであり、不備な点等がありましたら、地域防災計画の見直しや新たな対応マニュアル等災害応急対策に取り組む必要があると考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

安藤議員の美作市の危機管理についてということで、建設部からは道路の除雪についてお答えをいたします。

先般テレビや新聞で大きく取り上げられましたとおり、１月23日から25日の豪雪で鳥取自動車道、国道373号、国道53号では多くの車両が立ち往生いたしまして、県境付近では交通や沿線住民に多大な影響が出ました。この反省から、テレビや新聞等で報道されましたけれど、情報共有による即応対策が図られるよう国土交通省、岡山、鳥取両県、沿線市町村で冬期道路交通確保対策会議が設置されました。市内におきましても、勝田、東粟倉、大原地域では早朝から除雪作業を開始するも追いつかない状態で、一時的に孤立する住居が発生するなど、交通機能の回復には時間を要したところでございます。除雪作業は地域に分けて委託をしておりますが、他地域からの応援も、相互に応援対策をとりながら、除雪車の作業限界を超えた箇所ではバックホウによる、重機を使って除雪を行うなどの対応に当たりました。

議員お尋ねの道路管理及び交通対策についてでございますけれど、降雪による交通障害や危険を防止するため、除雪の出動基準は路面の降雪量が厚さ10センチを超えると想定される場合を原則といたしまして、凍結防止剤の散布は凍結するおそれがある気温０度を基準として実施をすることとしております。また、凍結防止剤は指定した箇所に配置し、適宜住民の協力も得て散布もしていただいておるというところでございます。

次に、除雪の体制についてでございますけれど、委託業者にしていただく場合と自治会等が行う場合があり、委託は12月１日から３月15日を作業期間として地元業者を中心に市内20社へ委託しております。国・県道の一部は県から受託をしておりまして、市道と一体的に除雪を行っております。自治会等が主体で行う場合は勝田地域と東粟倉地域が該当となり、市所有の小型の除雪機を貸し出し、住民との協働により実施をしております。

今回のような豪雪、数十年に１回というような表現がいいのかどうかわかりませんけど、豪雪でありました。市民の皆さんはもとより、各担当の支所、それから私ども各担当が委託業者と一緒になって精力持って取り組んだつもりではおりますけれど、住民の方から指摘もいただいており、それからまた新たに課題といいますのは、高齢化、少子化になって今までは除雪車が入らなくても自分たちでやっていたというような市道もあるんですけれど、できなくなったというようなことも意見としていただいております。今回のこのようなことをしっかりデータを蓄積いたしまして、今後の情報共有や柔軟な対策を進め、除雪体制の強化と拡

充を図ってまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、安藤議員御質問の空き家等の対策についてでございますが、市町村による空き家等の除雪の考え方が国土交通省から示されており、基本的には民間所有の空き家等は管理権限の及ばない財産であり所有者みずからの責任において管理すべきとなっております。しかしながら、一定の条件のもとでは除雪等の対策が可能となっております。災害対策基本法では、応急措置を実施するため緊急の必要がある場合、市町村長の判断で雪おろしのために当該空き家等に立ち入ることが可能です。

また、災害救助法では、都道府県知事が当該市町村に災害救助法を適用した場合、空き家の管理者が不明であったり、みずからの資力では除雪ができない等により倒壊して隣接する住家に被害が生ずる場合などでは、災害救助法に基づく障害物の除去として除雪が可能です。また、美作市空き家等適正管理に関する条例では、緊急安全措置条項があることから市長の判断で空き家の除雪は可能ですが、費用は所有者が負担することとなります。

以上のような対応を行うことは可能でございますが、常日ごろから空き家の管理については所有者に適切な管理をお願いするとともに、周辺に影響がないよう指導してまいります。いずれにしましても、所有者の責任において対応していただくのが原則となりますので、御理解をお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安藤議員。

３番（安藤　　功君）

御答弁いただきまして、２回目です。

まず、１の項ですけど、御答弁で勝英地域内の自治体と連携をとり災害協定の締結を進めていきたいというふうにありますけれども、現在はそれがどのような状況であるかをお尋ねをしたいと思います。

地域内の自治体や石油商業組合勝英支部の皆様との連絡は現在とれているのかどうか、お尋ねをしたいというふうに思います。

また、早期の締結を望みますが、目標とする時期を想定されておられますでしょうか。

それから、２項目めの今回の豪雪ですが、被害状況は雪解けとともにかなり被害件数が増すと考えられますけれども、市としての何らかの救済措置、何かしらの手段を考えておられるかどうか、お尋ねをしたいと思います。

それから、危機管理監の御答弁の最後のほうでしたけれども、不備な点というような言葉があったんですけれども、何か一番大きな何か不備があるのかどうか、何が不備であったのかということをお尋ねをしたいというふうに思います。

また、今回除雪などで消防団等への要請はされたのかどうか。

それから、先ほど御答弁にあったボランティア等への呼びかけは行われたのかどうか。

また、さまざまな対応は勝田支所であったり粟倉であったり、そういう支所のみで行われたのかどうかをお尋ねしたいと思います。

美作市の中の豪雪地域は過疎・高齢化も著しく進んでおります。私も何度か現地へ足を運ばせていただきましたが、想像をはるかに超える積雪量でございました。御高齢の方々が一生懸命除雪をされている姿は本当に大変だろうなというふうに見ました。私も除雪のお手伝いをしたんですけど、プラスチック製のスコッ

プとかでは全くもう間に合わないんです。もう鉄のクワ、鉄のスコップでないと、降ったばっかりの新雪はさほどではないんでしょうけど、時間がたつとがちがちに凍って、とてもそれを取るのは重労働です。今後もこうした豪雪というのは異常気象の中、可能性は非常に高いというふうに思いますので、御答弁よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

危機管理監。

危機管理監（山本　和毅君）〔登壇〕

失礼します。安藤議員２回目の質問にお答えをさせていただきます。

石油商業組合勝英支部との災害協定についての現状についてでございますが、石油商業組合勝英支部の代表者の方の事業所が勝央町ということもございまして、勝央町が中心となって協定締結の時期を含めまして関係自治体との担当職員間で調整を行っております。協定の時期といたしましては、３月末をめどに締結の準備を進めているところでございます。

次に、被害に対する救済措置についてでございますが、建物の損壊程度により固定資産税など税の減免制度や、半壊以上の場合には災害見舞金を支給する制度というものがございます。また、他市の状況等を調査する考えでございます。

次に、１回目の答弁の中で不備な点についてと答弁いたしましたが、これは災害対応へ取り組む中で不備な点や不都合な場合が生じる場合には防災計画の見直しや新たな対応マニュアル等が必要ということでありまして、特に今回の応急対策の中での不備な点があったということではございません。言葉足らずで申しわけございませんでした。

次に、消防団等への要請についてでございますが、孤立する民家があるということで勝田方面隊第２分団へ除雪作業の要請を行いました。また、東粟倉方面隊においては、自主的に除雪作業に取り組んでいただきました。ボランティアへの呼びかけについては今回は行っておりません。

さまざまな対応については支所のみで行われたのかについてでございますが、支所を中心にいたしまして除雪作業等行われましたが、要配慮者への対応など、支所と本庁、連携して行っております。また、積雪状況等についても情報を共有するようにしておりました。

豪雪地域への今後の対策についてでございますが、自分も土の河内地区は３度ほど状況確認と除雪に向かったことがございます。独居老人世帯も多く、大変な御苦労を目にいたしました。地区の方とお話をする中で、子どもさんに頼めないんですかというと、無理をかけたくないという気持ちから、よう言わんと返事が返ってきました。確かに独居老人世帯、高齢化が進んでおり、除雪作業等が困難な状況でございますが、自助の取り組みとして自分にできることとして非常食の備えや燃料確保、親族からの支援、共助の取り組みとして地域で支え合う取り組みをお願いできればと考えます。そして、状況、必要に応じては消防団、消防署、社会福祉協議会などへの協力要請を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

私のほうから少しだけ自助ということと、物差しをある程度かえていかにゃいけないなということを２つだけ追加の答弁をいたします。

実は、あの１月のときの豪雪のすぐ後、勝田の一番奥まで真野部長と行きました。その後、大原の金谷の

ほうへおりたんですけど、金谷のほうは大変危険で何とかかんとかここへ来るのがどうだったのかと思いながら行ってきました。そこで感じたことですけど、高齢の女子、相当年配の女性の方が奥へ行くほどおられまして、スコップを持って家の前でやっておられまして、残念ながら高齢の男の人、おじいさんは会わなかったわけです。考えましたら10年ほど前に勝田ですごい雪が降ったことがあるんですけど、恐らくそういう光景とは少し違って年のいったおじいさんがおったはずなんですけど、これだけ高齢化が進んでるのかなという気がしました。

そこで、一つの例なんですけど、去年、おととしになる、12月５日ごろから徳島県三好市というところが山合いのところなんですけど、大体標高が400から上のところですけど、あそこで冠雪害という大きな雪害がありました。それはなぜかといいますと、重たい雪で一晩に１メートルも降ったわけじゃないんですけど、道路沿いの、特に四国は杉の木が多いですから、杉の木が一番倒れやすいんですけど、杉、ヒノキ、ほかの木などは道路に全部倒れてきて、電柱が当然倒れます。電線も切れます。山奥ですけど、私の町と同じように光ケーブルが入ってますんでテレビは見えたんですけど、それらが一夜にして全部アウトになってしまうと。そうする中で、自衛隊の第14旅団、善通寺、あそこから災害派遣の自衛隊が全部で、あの一帯で千何百人入りましたけど。最終的に６日後に全線開通、電気が全部通ったんですけど、その中で向こうの危機管理監とその後よく話を、連絡取り合ってましたけど、一番問題になったのは電気のないこたつぐらい寒いものはないと言ようられました、はっきり言って。とにかく、テレビは映らない、それからこたつ、つい癖で入っても電気入ってない。何とか助かったというか、何とかなった家っていうのは当然プロパンガスはあって御飯は炊いたりできるんですけど、当然風呂も電気です、動きません。結局、ほとんどファンヒーターにかわってたもんですから、倉庫の中から煙の出るような石油ストーブを持ち出した家は何とか暖がとれたそうです。テレビもそのうちヘリコプターで入ってきていろいろ撮影してましたけど、あそこもすごい高齢化の地区が多くて。その冠雪害っていうのが、じゃあここの町には起きないかといったら、今どきの地球温暖化の関係でいつどうなるかわからないという気がしてまして、一つには少し便利のようなことは非常にいいんですけど、同じようにリスクもあるということです。ファンヒーターもすごくいいんですけど、電気が来なきゃただの灯油が入った缶にしかすぎないということで、そこらもみんなが考えにゃいけないことじゃないかなと思いますし、美作市は特に南北に40キロもありまして、向こうの英田の辺では非常に寒いんじゃと言うとるけど、奥へ行ったらどんどん雪が降りょうると。普通考えられないような地域ですから、当然これ東粟倉の奥も、東粟倉の町長がたびたび電話してきてましたけど、全く同じような状況だったわけです。ですから、私方としても災害の関係の基本方針的なところも物差しを少しずつかえていかないと、なかなかこういうことには対応できないんじゃないかなと思っておりますので、今後も一生懸命検討していきますんで、どうかよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安藤議員。

３番（安藤　　功君）

３回目。御答弁いろいろと多岐にわたり、御答弁いただきましてありがとうございます。

高齢者の方の、あれだけ雪が降って、例えば夜から降って、本当に不安になると思うんですよね、精神的にも。たまたま今回は停電とかなかったと思うんですけど、十分にそれは把握していただいて、適性かつ有効な手だてというのを日ごろから想定をしていただいて取り組んでいただきたいというふうに思います。

最後に１点なんですけど、25日でしたか、朝からというか夜中から大雪警報がずっと発令されて、日にち間違ってたらごめんなさい。私の住んでるところでは10センチぐらいの積雪だったんですが、ずっと警報が

出たままだったんですけど。小学校、中学校の子どもたちというのは恐らく午前７時過ぎぐらいから登校が早い子は始まるんですが、警報が出てるので学校休みかなというふうに判断をされた方も多くいらっしゃいました。私のほうにも電話もかかってきたり、私も学校に電話したりはしたんですが、結局臨時休校ではなかったんですけど、どうなんだろうというような、親御さんが連絡体制はどうなんかなというふうなことも心配されたりして。恐らく大雪に関しては多分南と北でかなりの差があるので、また対応が違うんではないかとは思われますが、その辺のところをいま一度はっきりしておきたいので、御答弁お願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

警報が発表されたときの対応についてのお尋ねでございますが、実はこれにつきましては毎年５月前後、４月の終わりから５月にかけまして各学校から保護者の皆様宛てに文書をお配りをしております。この内容といたしましては、午前６時の時点で特別警報、もしくは暴風、大雨、洪水警報が１つでも発令されている場合は臨時休校園とする。これは幼稚園も含みますので、休校園とすると。また、これ以外の場合、その他の警報、もしくは警報が出されていなくても局地的に危険な場合は地域の状況によって判断するというふうな文書でございます。

今回の大雪警報でございますが、この文書の中のその他の警報ということになりますので、各学校で教育委員会の各分室長と協議の上、判断し、教育委員会へ御報告をいただいております。ことしは大原中学校区のみが、もう既に警報以外にもかかわらず３回休校ということの判断をしております。いずれにいたしましても、子どもたちの安全を第一に各学校において判断し、危険な場合には臨時休校等の措置をしております。この措置ができるのは学校長のみでございます。

なお、念のため申し添えますが、保育園は臨時休校ということはございません。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安藤議員、総括です。

３番（安藤　　功君）

それでは、総括させていただきます。

学校、園に関しては年に一度、そういうような保護者の皆さんに対してお知らせをしてるということなんですけど、その警報というのをどうしても聞いてしまうと本当に心配ですし、危険な、通学でも通園でも遠くに歩いていく、３キロ、４キロ歩く子も中にはいるんですよね。車で行かれる方でも危ないようなこともあったりするんで、いま一度学校のほうから、園のほうから保護者の皆さんに対して周知徹底を図っていただくように御指導いただければというふうに思います。

本当に雪に悩まされた冬ももうすぐ終わるかもしれませんけれども、春はもうそこまでやってきてるかもしれませんが、そう言いましてもまだ予断は許しません。十分なる対応をとっていただきたいということをお願いをいたしまして、29年３月の私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番６番、議席番号３番安藤功議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから１時10分まで休憩いたします。

午後０時07分　休憩

午後１時10分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番７番、議席番号４番安本博則議員の発言を許可いたします。

安本議員。

４番（安本　博則君）〔質問席〕

昼一、食事の後で皆さん眠たいかもわかりませんけど、いっとき眠たくても目が覚めることもあるかもわかりません。

今回、私３月定例で７項目についての質問を通告しております。その中の１問目に市有財産についてで、財産管理はどのように考えてされているのか。それで、それについて、じゃあその職務はどのような感じで分担されたりしているのかということを１項目めにお尋ねしておりますので、それで市長以下、全部長まで含めて。もし、考えが同じであれば同じでもいいんですけど、そのようにこちらが理解するだけですから、その辺だけ間違えんように。誰が部長の代表で答弁されようが、全て同じ考えだというようにこちらは認識しますので、その辺をわきまえて答弁をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

政策審議監。

政策審議監（福原　　覚君）〔登壇〕

失礼いたします。安本議員から市有財産、財産管理の考え方、職務についてという御質問でございます。

市有財産の管理につきましては、地方自治法及び美作市公有財産規則に基づき管理しているというところでございます。地方自治法第238条第１項第１号から第８号までに公有財産の範囲及び分類が規定されているところでございます。また、同条第３項で公有財産というものを行政財産と普通財産とに分類されておりまして、４項で「行政財産とは、普通地方公共団体において公用又は公共用に供し、又は供することと決定した財産をいい、普通財産につきましては、行政財産以外の一切の公有財産をいう」というふうに規定されているところでございます。

そして、美作市公有財産規則第３条で、総務部長が公有財産に関する事務の総括として必要な調整を行うということになっております。また同第４条におきまして、行政財産に関する事務の分掌というものを定めておりまして、各部の事務事業に供するものにつきましては当該部長が行うということとなっております。

管理の考え方といたしましては、公有財産規則の第18条に行政財産、普通財産、それぞれの管理の原則というものをうたっております。第１項では、「行政財産は、常に良好な状態において維持管理し、本来の目的を達成するよう管理しなければならない」としておりまして、同第２項におきましては、「普通財産は、常に良好な状態において維持管理し」、この部分については同じでございます。「経済価値を十分に発揮するよう効率的に運用しなければならない」と定めておるところでございまして、このことを基本として管理を行っているところでございます。

いずれにいたしましても、今後におきましても各部長に対しまして法令規則を常に認識し、その趣旨に沿った公有財産の適正な管理を心がけた職務の遂行というものを徹底してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

他の方の答弁はございませんね。

安本議員。

４番（安本　博則君）

他の人がないんで同じ考えなんでしょう、当然だと思いますけど。

なぜ私がこれを今回質問に取り上げたかというと、27年度にこぶしの里の財産が盗難に３回も遭ったと。１回目のときに市長のいうことを聞いて被害届は出されとんだけど、再発防止策を講じなさいという指示がありながらそれをしないで２回、３回と盗難に遭うと。そしてそのことに質問すると、横山副市長は安本議員の質問は警察が喜びそうな質問だとか、その東粟倉地域の人は静かなとこなので住民に不安を与えたらいけないとかというような答弁、とんでもない答弁があったので今回質問をさせてもらいました。その中で、私ども監査委員として、このことがテレビで公表されて追加の審査をしたいということで依頼したら、それは結果的には応じてもらえなかった。その中に、これは市のホームページに公表、各部のとこの監査のとこで追加審査を見てもらえば全部出とんですけど、その中で私ども監査委員２名にこのようなことがあるんですよ。常勤監査役、監査役というのは本当は監査委員だと思うんじゃけど監査役という表現、それから議会代表、これも議会選出なんじゃけど代表、監査委員にあっては特別高額な市税が報酬として支給されており、知らなかったで市民に通用するんかと。それと１年たってテレビで初めて知った。そして雑音も入らない。ある見方からすると２人の、代表監査委員と私のことですけど、日常の姿を見る限り時間はたっぷり余裕であり、動き回る時間がなかったと見えないと見えるがいかがか。簡単に表現すると職務怠慢とまで言われて文章残っとんですよ。これ市のホームページ見てもらったらわかります。詳しいこと出ています。何を根拠に特別な高額市税が報酬、その根拠。それと職務怠慢。今の政策審議監の話では財産は市が管理する、私ら監査委員が管理するんじゃない。当然市の財産だから、市民みんなが使うものであるから、当然使用するときには大事に使わないけない。それはわかります。でも、鍵を一々持っとるわけじゃないんです、かりに行く人は、そうでしょ。許可をもらってかりて、そこを使用するわけじゃが。その管理がいかにも私らに責任転嫁みたいな感じで言われてる。だから、この今いう特別高額な市税が報酬、それと動き回る時間がなかったと言えないと、２人の日常を見とくとね。暇だったんだろうな、365日ずっと見てくれとったんだと思うで、よほど暇な人がおったんじゃと思うけど。それで職務怠慢だと言われとんじゃ。根拠をとりあえず言うてもらいたい。ほいで私言うときます、私議員選出で監査委員の手当てとして、ここにあるんですけど。今全部で岡山県、萩原市長先ほど言われた27市町村あるんですわ、そのうち15市、金額の多いとこは倉敷市が一番多いです。美作市が一番安くて、月２万5,000円。それで私、特別高額な市税が報酬として支給。何を根拠に言われとるか、根拠を聞きたい。職務怠慢と特別高額な市税の報酬、この点について。これは皆さんみまちゃんネル見られとると思うんで、私もその根拠がないのに、こういうのん出されたら人権侵害もええとこなんじゃ。しっかりした根拠。それで、この文章見たら、どうもここには萩原市長の公印押しとんじゃけど、本当に萩原市長がね、あれほど地方自治とかどうのこうの言われようる市長がほんまにこれ考えたんかなと。でも、萩原市長がここに私たちが出しとる文書に対して市長がここには公印を押されて出しとるから市長が出されたというようにしか判断できないんですけど、中身見とったらどうも市長じゃないような気がするんじゃけど、とりあえず市長答弁してみてください、根拠を。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

根拠というのは、一般的にこういうことだと思います。その特別にということは言われてるので、通常の

議員の報酬に加えて追加的に何がしかの金が支払われているというところをもって根拠としているのだとは思っておるわけであります。

それから、また恐らくその文書の意味するところの中に、監査委員の方々が管理をするということの意味ではなくて、監査委員の職務権限の中に金銭出納あるいは妥当性、適用性いろいろありますけれども、財産出し物品の管理状況についての監査権限っていうのは明確に存在してるということをもって、そういう指摘をしているのではないかというふうに推量いたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

３回目。市長、先ほどからしているんではないですかという自分が書いたんじゃないような答弁なんじゃけど、私もこれ見て、恐らく市長が書いたような文章じゃねえなというのは読み取れます。

それと、今議員報酬プラス監査委員の手当て。議員報酬みんなもらっとるじゃないですか。私、監査委員として言われとんですよ。ここでは今言ようた私は議会選出なんじゃけど、議会代表という表現されて出とんですよ。議員報酬だってみんな一緒じゃないですか、副議長、議長は違うにせよ。それで、私は監査委員の分として２万5,000円を月もらっとんですよ。それで私は自分の記憶ではありますけど、この監査のことについて欠席した覚えはないんですよ、例月についても、それから第１次、第２次定期監査、決算審査についても。それでこういう表現されとる。もう一度聞きます、市長。議員報酬というのはみんなここの議員はもらっとんです。私はプラス議会選出だからプラスアルファ２万5,000円。先ほど言いました27市町村のうちの15市の中で一番安い、大きいとこでは６万4,000円というのがあります。私は２万5,000円です。それのに、先ほど言うた高額な報酬は支給されてる。根拠じゃないじゃないですか全然、今の市長の答弁は。そして、しているのではないかというのは市長が考えた文章じゃないというのは、ここで読み取りはできるんですけど。その辺、もっとしっかり答弁してもらわないと、このままでは私も。これは全国、ある意味世界中、ネットですから発信。これ恐らく総務省あたりも見られるんだろうし、それから関心のある自治体、もしくは監査委員されとった人が見たら、こんなとんでもない文書だと、恐らくみんな思っとんじゃないかな。私がもしこういうのが他の市町村で見たら、これはほんまに監査委員のことを知らん人が言うとんかなと思うんです。市長は先ほど、私も今恐らく市長が考えたんじゃねえじゃろうなと思うんじゃけど、だけども市長もしているんではないか、書いているんではないか、表現されたと思うんじゃけど。もう一度求めます。はっきりした根拠と職務怠慢、先ほど市長は職務怠慢について触れてないんですよ。しっかり答弁してください。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

答弁としてはやや繰り返しになりますけれども、議員報酬に加えてもらっていらっしゃるというところを、合算をした場合に他の議員より多いというところを特別のというふうに表現をしたものというふうにお答えしたわけでありまして、これは理解の相違があるのかもしれませんが、その文章、そこに議員が御指摘になったところの意味するところは恐らくそういう意味だろうと思っております。

それから、職務怠慢ということについては、監査は１年間、いろんなときにできるわけでありますし、定期的にもできるわけでございますけれども、簡単に申し上げると物品やあるいは財産についての監査も当然可能であるということの中で、放送などで初めて知ったという表現に対して監査ができるチャンスがあった

のではないかという指摘をしてるんだというふうに理解をしております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員、総括です。

４番（安本　博則君）

市長、先ほど言うた、プラスアルファ２万5,000円ですよ、はっきり言って。それでこのように表現されて、職務怠慢とまで言われて、やっとれるわけないじゃないですか。今後議会で出る監査委員、この４月で改選があって18人の方が当選されて、誰かが、今のところ議会選出監査委員が要ると。来年には総務省あたりのことで議会の監査委員、市の監査委員で改選されて、今議会選出の監査委員のことも書かれています、ここに。会計に関する知識の当事者、議員が努めている〔聴取不能〕があると、こういう異論があったりいろいろすることで市長が今度はそういうのはいけんと。それと勧告もできるように制度もかえていくというようなんが出てます、来年度ぐらいに当たって。だけど、来年度というても、ことしはこれから始まるばっかりですから、年度的に言えば。そういう中で、監査委員じゃあ議会代表選出ですか、代表じゃない、選出。監査委員、誰がなりますか、そういう感覚でおられて。それと、総括ですので余り長々言うと、また議長のほうから注意があるかわからんけど、私どもは、監査委員は調べることは独任制だから調べれるんです。それについての意見については合議じゃなかったらだめ。意見は１人でも意見じゃない、調査は１人でもできるんです、疑問があれば、そのための独任制です。それを、この依頼文書についても、合議だったんかとかというようなことも書かれています。依頼文書は合議じゃなくてもいいんですよ。それについてみんなが議論して、意見を出すときに合議にならなんだら出せないだけの話です。それだけ言っておきます。それと、私は何回も言うけど、２万5,000円でずっと真面目にやってきました、自分なりに。職務怠慢とか言われる筋合い、一つもありません。この高額な報酬とか、職務怠慢、そっくりそっちの特別職の人に返します。これでこの質問終わります。

議長（山本　雅彦君）

それじゃ２項目めに入ってください。

４番（安本　博則君）

２項目め入ります。

２項目めは庁舎問題ですけど、この建議書についてなんですけど、これもとをただすと、今は亡き道上市長が震災の後、庁舎問題。合併当初の議論の中には新築はしないというような議論があったんだけど、震災等でこの庁舎を何とかという思いで新庁舎市民検討委員会を立ち上げられて、それで道半ばにして亡くなられたと。その後、萩原市長が26年３月30日就任されて、こっから大事なんですけど、12月の９カ月間、全然委員会を開かないで９カ月間という空白をつくったんです。それで、12月22日、第３回目。その２回目のときには新市長が決まって方針がどうなるかわからないから、２回目については議論せんとやめとったほうがええんじゃないかということで、委員さんがじゃあそうしましょというようなことで、萩原市長になられたからと、新市長が決まってからということで３回目を開いた。それが９カ月間、４、５、６、７、８、９、９カ月間、12まで入れて。12月も22日だったからほとんど終わりです。その間に何もしないでおって、ばたばたばたばたして７月10日、建議書が出とる。そしてその建議書の中には、第１案は耐震するかしないか、第２案は既存の施設、総合支所を活用するかしないか、そして全くは新しい庁舎を建てるか建てないかというような諮問をしとったと思う、道上市長がね。それで、そん中で一番に消えたのが耐震補強やめると、これが12月22日、ここにメモしとる、３回目、15人の委員のうち14人が出席されて、14人が全員賛成という意味で耐震補強やめるということになったような議事録があると思います。これは私そん中のを抜粋してきと

んですけど。それで、建議書は、だから残っとんのは新築するか、既存の施設を有効に活用、分庁方式なりいろいろ考えて有効に使う使わないか。その中で最終的には、それも築20年、平成８年前後に建てられとると、この当初言ようるんです。だから20年ぐらいたっとると。だから、この際新築にしたほうがえんじゃないかと、そして今の庁舎の近くにというような内容の建議書なんです。それで、なおかつ新庁舎をつくるに当たっても広大な土地が必要になると。そして、土地の確保が困難も予想されそうなんで、同時に第２案、分庁方式、この文章に出とんのは勝田なり作東の総合支所を活用すると。それで市長も委員会の中で言われとんですけど、土地だけをぼんとやられると交渉がしづらいと。だから分庁というようなことを書いてくれとけば交渉もしやすいというようなことまで言われて、分庁方式の第２案もありがたいと言われとんです。これはよい表現だとまで言われとんです。そして、それが建議書の中に出た。にもかかわらず、そして出たにもかかわらず、今は庁舎の位置が特別案件で３分の２がとれなかったと。それまでの過程として、私どもに委員会をつくってくれと言われて、何の相談も何もなしに３月議会で突然に庁舎の位置が中尾の何番地と出てきました。その後からいろんな話で委員がどうなっとん、ああなっとんというやりとりをして、最終的には12人がとれなくて否決になったんですけど。

前回、12月本城議員の質問だったんだと思うんですけど、山本総務部長はこの庁舎について、ここの位置を耐震というような言葉を使われとんでね。それから、市長も新春インタビューか何かにも、この庁舎を耐震するというように表現されてます。じゃあその建議書。市長がよく言われる声なき声と言われてます、よく。それと地区の代表の方が来られて、これ学識経験者の人も１人おられますけど、そこでしっかり議論されて出た内容について、なぜその総合支所の案件を同時にやらなかったのか。その報告、１個もないんです、今まで。それで、有効に合併特例債を使いなさいとか、後世に借銭残さんためにも。でも、耐震には合併特例債使えないんです、恐らく。でも、作東総合支所なり、勝田のあれを増築する場合、使えるんです。ここに金額も出とんです。何ぼぐらいかかっとるか、要る平米数だけをすれば20億円かかるとか、勝田だったら何ぼかかるとか出とんです、委員会の中の資料に。それを全然議論もしないというか、そちらの言い分でされとんかもわからない。けど、私ら全然知らない。知っとる議員もおるかもわからん、私は知りません。どのようにしてこの耐震をしていこうかということになったのか。別にするなと言ようんじゃないんです。せっかく建議書で出とるわけです。何回も重ねてその結果が出とるわけです。それに背いてしようとしょうるわけですから、市民にわかりやすいように、こういうことだから耐震するんだと。建議書の中には分庁式でこのようにと出とんですけどというような、市民にわかりやすい説明してもらいたいんじゃけど。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

庁舎の問題について、いろんなお話をされましたけれども、物の見方っていうのが少し違うかなと、こういう考えがあります。

市民委員会につきまして、その結論、答申を尊重する立場にあるのは、実は本件につきましては市当局だけではありません。殊に本件につきましては、議員のお話にもありましたように特別議決、つまり議会の判断のほうをより執行部の判断よりも重視するという考え方ができておりますものですから、したがって議会としても当初そのことを念頭に置いて特別委員会をつくり、調査、検討、議論、審議ができる、みずからも議会議員としての調査権もあるという構成の中で議論をして結論出したわけでありますので、市民にわかりやすく説明するという言葉については双方にそれぞれの責任があるわけであります。そこをぜひ御理解を賜りたいと思います。

以上でございます。〔降壇〕

〔４番安本博則君「なぜ耐震をするかということだけ言うてもらわにゃいけんが」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

耐震をすることについては、これはこの庁舎を使う以外に本庁舎がないという状況になり、かつこの庁舎について耐震ができていないという事実及びこの庁舎が議員、職員、そして市民及び市外からの来訪者を迎える施設であって、万が一の場合に生命、身体の安全を確保する必要があるからであります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

市長、言い分はわかります。でも、市長は当初いろんな話の中でここは水没するんだとかというようなことを言われとんです。じゃあ耐震したら水没しないんですか。いや、まだ今質問しょうるんです。それがまず１点。

それと、先ほど当然この議員もこの中身を見て、今みんないろんなことを市民から聞きながら最終のときには議長も含む採決をして否決になったと、３分の２がとれない否決になったということなんですけど、それは私も理解してます、私も。当然議会が最終的に決定してることですから。それはある議員はおのおのの地区で話を聞かれたり、そして総合的に自分が判断して賛成したり反対したりするわけですから。市長、ことごとくここもある議員も言われました、ここは水没する、じゃあもし何かあったら罹災証明が出せない、もろもろいっぱい言ようりました。ここ耐震したらじゃあつからんというたら当然つかる。それと、市民がとか職員とか言われる。確かにそれ大事じゃ。じゃあそんなこと言われるんだったら、早目に大原の保育所、幼稚園、もうずっと前から岩江議員やこしょっちゅう言われてます。活断層の上におるんじゃと、大原は。だから、早目にしちゃってくれえ、しちゃってくれえというけど、今回予算の中には何かそういうこともありました。それから、いろいろこれからされるんだろうけど。でも、市長、先ほど建議書の出とるやつを尊重せにゃいけん、それは当然だと思う。そのために一生懸命15名の方が、中には欠席された方もおられるんだろうけど、事情があって、一生懸命議論された結果です。合併特例債有効に使うために、そのために広大な土地が必要だから作東総合支所であったり、勝田のことも同時に検討してくださいというような内容なんです。そこまでにいく過程では、先ほど僕が言うたように市長も、さっきもわし言いました、いい表現だとかというようなことも言われとんです。例えば、これ27年７月９日の第７回のときです。勝田、作東以外においても第３への分庁方式という誰が考えたか知らないけど、これはよい表現だと。その前段には、結局交渉するに当たって、こういう表現があったらやりやすいというようなことも言われとんです。それのに、これをなぜ無視するような格好にするんかなという疑問なんです。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

いろいろ御質問が重複しているようでございますけども、順番に分けていきますと、この地域が水害の危険を抱えている地域であることは当然御指摘もし、そのことも含めて議会が判断をされたというふうに理解をしております。私どもとしては、御提案の中というか中尾の地域について言うと、水害の危険性がない、

地震についても活断層の影響がない、さらには位置的に見て上から土砂が降ってくることもないと、３点の安全性を確保している非常に希有な地域として提案をしたと。それを議会が御判断をされ、議会がというより議会の多数の方はその判断を了とされたわけでございますけども、３分の２に達しなかったということである。これ１点目です。

それから、議会にお話を持っていったのが昨年３月であったと思いますけれども、その後さまざまに議会も調査権能を持ち、判断権能を持っておられるわけでございますけれども、最終的に９月にずれ込んでしまったわけでございますが、その建議書の内容をもう少し綿密にお読みになったほうがいいと思いますけれども、建議書においては順位づけがあって、まず１カ所の旧美作町内でなるべく近いようなところで１本考えて、それがだめだった場合に次のことに話を移しなさいと書いてある。それも議会も御承知のはず。ましてや、そういう詳しい御質問をされる安本議員なんだからおわかりの上で話をしておる。つまり、先ほど申し上げたように、もしその選択肢をとる必要があるというふうにお考えであったとしても、その判断は議会においてもできたし、むしろ議会の方々においてやらなければいけない判断だったというふうに言わざるを得ないという点についても御承知の上での御質問かと存じますので、以上をお答えといたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

私もこの資料は前のときも、いろいろと１回目から７回目の会議の会議録も見させてもらいました。でも、これは議会に出した建議書じゃないんですよ。市長に宛てた建議書なんです。議会みんなに宛てた建議書じゃないんです。検討委員会の方が市長に宛てた。市長はその中でいろいろ言うとるじゃないですか。そういう出し方よりこういう出し方してもらったほうがやりやすいとか。市長に出しとる建議書です、これは。当然わかっています、一番最初の提案がここを耐震するかしないかとか、分庁にするとか、新庁にするか、それはわかってます、みんな。わかっての判断だから。それと、あくまでも言っときます、これ市長に出しとる建議書ですから、委員会が。議会に出した建議書じゃない。それで、なぜこの建議書を議会にも出してくれなんだなということになって初めてネットに、ホームページに出したりしたんじゃないんですか。それまで出さなかったじゃないですか。それで議会も知っとるような話にはならんでしょ。まだまだ言よんじゃ。

それと何回も言うけど、この建議書の中には広大な用地を必要とし、用地交渉は困難が予想されるために状況に応じて第２案も分庁方式、同時に検討する必要があると思われると、こういうようなことまで書いてくれとんのは助け船です、ある意味。それをじゃあどのようにされたのかなということを聞きょんです。どのように検討されたのかと。その結果で無理だからここをやむなく耐震していきたいんだというんじゃないです、今までの答弁は。じゃあ何でこの作東とか、第２案、ここに書かれてる最後に各委員の意見としては、この第３案が大勢を納めてるのはこの新庁舎じゃわな。何がおかしいん。何がおかしいん。人が真剣に話ししょうるときに真剣に聞いてくれえ。笑いどこじゃなかろう、こっちは真剣に言よんで。ここに書かれとる分庁とか検討したかしてないか聞きたいんです。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

まず、何度も申し上げますように、本件の判断については議会の皆さんに多大な御心配をかけましたが、議会の皆さんのほうの権限が大きい。したがって、庁舎特別委員会というようなことで調査検討ができる体

制をとり、そしてもともとこの検討委員会についても議会と恐らく道上市長とが相談もしながら作成をされていて、もとから議会の代表としてたしか２名の委員の方も入ってらっしゃる。議会に別に宛名として出す必要もない。それは地方自治法に、先ほども申し上げてるような特別議決という規定がそもそもあることは皆承知の上でこれをやっているわけであります。その議会がそれぞれ調査をして御理解の上で、もうこれ以上時間を費やすことは全面新築であれ、作東やあるいは勝田総合支所を活用しての分庁増築方式であれ、タイミング的にもう遅いという時間まで御審議をなさったことがありますので、その時点で次の選択肢を再提案する意味がなくなっていたというふうに市民の方々は御理解をされておりますので、御参考までに申し上げておきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

総括です。

４番（安本　博則君）

総括ですけど、今市長がタイミング的に遅いというように答弁されましたけど、まあ遅いわ、９カ月間のブランクあったんじゃけん。最初言うたけど、市長が就任されてから12月まで約９カ月間あったんです、12月22日は別としても。そういうことも全然答弁しない。なぜその空白があったのか答弁をしない。それで、ばたばたばたして12月に委員会つくってくれ、委員会つくるのに何の相談もありゃへんのじゃけん。３月に議案でぽっと出してきただけ。その後について私らが議論したんです。あれしたんか、これしたんか、ほかはなかったんか、あったんかとか。それを議会、議会というのもちょっと言い過ぎじゃないかなと。それだけ資料も出さなかったんだから。この項についてはとりあえず９カ月間、市長就任から９カ月間、何もしてこなかったことが結局タイミング的に時間切れになったと私は理解します。これでこの項の質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、３項目めに入ってください。

４番（安本　博則君）

３項目めは、保育園とか保育所とか幼稚園の入園についてなんですけど、現在皆さん御存じのように湯郷幼児園が今建設されております。そこでは、子どもさんが待機児童、待機にならないような人数が確保できるような幼稚園に聞いております。それで、先ほども言いましたけど、新年度予算では大原、大吉、それで東粟倉も多分、当初統合には３つ入っとった思うんですけど、それの検討もされるのにたしか予算もついとったように思うんですけど。私が言いたいのは、できれば入園希望される方は第１、第２、第３ぐらいまでは書かれとんかな、書くようになっとるから。だけど、できれば地元に入れるような対応を今まで協議されているのか、されてないのか。それを第１回目の質問とします。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

待機児童がなくなるようにできるだけ地元で入れるようにという御質問でございます。

最近では保護者の方の就業ということが大変多ございまして、特に３歳児未満で保育園にお預けになるという方がふえております。現在調べますと、３歳児の８割を超える子どもたちが何らかの形で保育園に預けられております。本当にふえている中でどうするかということでございますが、先ほど議員がおっしゃいましたように保護者の方には美作市におきましては第３希望まで御希望の園を書いていただき点数を調査をいたしまして、そして順位順に割り振るという形になっております。この際の最終的な議論の前には、それぞ

れの保護者の方にも各園長がお願いをしたり確認をしたりという中で、個人の事情もそれぞれ伺いながら決定をいたしております。今回、残念ながら第１希望の園にはなれなかったという方がございますが、待機児童という形にはなりませんので御理解賜りますようにお願い申し上げます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

教育長の答弁、わからんでもないですけど。そりゃ確かに市内に入れるとこがあれば、それがそこにたまたま預けたい人が行かないだけだから待機児童にはならないというようなことだったんだと思うんじゃけど、考えてみて大原のほうから湯郷幼児園行け言うても行けないでしょ、どう考えても。仕事がこっちじゃったら、そりゃ送って預けて、帰りに子どもを乗せて帰るということは可能かもわからんけど、それはまれなような話じゃと僕は思うんです。だから今後、先ほど言うた議論されたかされてないかということについては余り触れてなかったように思うんだけど。結局、今度今言う湯郷幼児園を現に建築中なんじゃけど、大原、大吉、東粟倉含めた分についてするときには、このような議論されとるとか、それから作東についても現在あるので、そこを何とか増改築してでもそういうことを解消していきたいんだというような答弁はできないんですか。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

距離的に見れば大原の子どもが湯郷で預かるということは非常に厳しいかもしれませんが、先ほど議員御自身もおっしゃいましたように、勤務先がこの南のほうにある場合には、逆に勤務先に近い場所に預けるということも現在もございます。数は少ないですけれども、ございます。

また、現在建築中の、外側もでき上がってきましたけれども、湯郷の幼児園につきましては、特に先ほど申し上げたように３歳児未満の希望が非常にふえているということからも３歳児未満の定員をふやしております。現在59人ですが、これを72人までふやしております。保育室の広さも余裕を持った設計という形で今やっております。また、既存の保育園につきましても、できる限り保育スペースを確保できるように、例えば上の年齢になりますと、３歳児以上になりますと１部屋の１クラスの定員が20名ということになります。そうしますとスペースも少し小さくなりますので、そうした形で中の仕切りをかえるなどして保育スペースの確保ということも研究したいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

教育長、総括しませんけど、なるべく地元で入れるような、そして今言ったように大原も計画が今これからどんどんどん進んでいくと思うんですけど、その中で作東がじゃあどんなんか言うたときに、そういうようなことも考えながら、なるべくなら。通勤でどうしてもそっち行きたいんじゃという人は、逆にそこを第１希望にするかもわからない。例えば通勤で今言うように大原から湯郷へ行くから湯郷が第１というようになるかもわからんし、そうじゃなくて、自分たちがなるべく近くで行きたいようなところが行けるような、特に３歳児までが希望が多いと言われるんだから、それでスペースをいろいろかえながらでもというような

ことがあるんで、その辺をしっかり保育園の園長なり先生なりと相談しながらどういう方法がええか検討して、なるべくなら地元で入れる、そして今まで言うように第１、第２、第３じゃなくて、第１でほとんど入れると。だから、美作市はそういう面からして待機がゼロなんじゃと。遠くに行かなくても地元で入れるんだというような体制づくりをしてもらいたいと思います。

以上でこの質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、４項目めに入ってください。

４番（安本　博則君）

４項目めの土地取得について。

当然これ公共工事で道つけたりとか、いろんなことで土地を取得されると思うんですけど、その後において気になるのが、私もちょこちょこ図面を見せてもらったり、それから話を聞いたりして疑問に思う。これ多分旧合併する以前から各市町村あった問題だと思うんだけど、買われて道路になっとるとこが未登録だと、登記ができてないというようなところが結構あるんです。それでこれはこのまま放っておけば、代もかわり余計に難しくなってくると。中には、これぐらいだから寄附するからしちゃってくれえというような道路もあると思うんだけど、それが登記できてないと。代が親から子、子から孫というようになったときに、覚書がある分について、それから名義変更できる分については話ができるかもわからないけど、ただ寄附しちゃるとか、口約束についてはそういうことには恐らくだんだんなりづらくなるので、その辺についてどこまで市として把握されて、今後どのようにされようとしているのか、お尋ねします。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

安本議員の土地の取得についてということで、取得後の登記についてで御答弁をさせていただきます。

道路改良工事などで道路用地として取得する場合、登記名義人との契約に基づき、分筆登記、所有権移転登記を行いますが、登記名義人が亡くなられている場合は相続権利者全員の承諾がなければ道路用地として取得はできません。また、取得する土地に所有権以外の権利が設定されている場合も同じことが言えます。道路工事等の実施は原則地元からの要望と同意書を受けて行いますが、名義が変更されずに相続人が多数にわたるという場合は調整に長い期間を要すると。さらに、相続関係人の１人でも承諾が得られなければ、その土地は断念せざるを得ないというようなことになります。このため、合併後においては所有権等の権利状況を十分調査した上で、取得の可能性を見きわめながら路線等の計画を行っております。先ほど議員言われましたとおり、過去において合併前ということにはなるんですけれど、登記ができていないと、道路で今通っているんだけど、市有地になっていないというようなところは十分こちらのほうで認識しております。これらについては、当市だけではないわけですけれど、当然当市だけでないから放っておけばいいというようなものでもありません。当然していなければならないというふうな認識も持っておりますので、地域の方の協力や、それから地権者の方の協力というのが必要になるわけですけど、解消に向けて取り組まなければならないというふうに思っております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

部長、さっき言ようたように、この間僕12月に言うた白線やこと一緒で道路つけたときに引いて、そのま

まずっと引いてない。今年度は予算の中にお金が入っとんですけど、そういうふうに計画を立ててしていかないと、いつまでたってもできん、所有者というか地権者がかわっていく、難しくなっていくということになるんで、これはもう早急に早急にやってもらわないと。もし、それで例えばこれうちの土地じゃから通させんよと言われてもやむなしみたいなこともあるんで、それは早急にやってもらいたいと思います。

それと、これ多分みまちゃんネル見られとる方は、じゃあ税金はどうなっとんなというようなことが多分思うとる方がおられるかもわかりません。僕が調べた限りでは、その部分については外して免除して、残っとる部分についてだけの税金課税をしてるというようなこともわかりましたんで、これは誤解のないようにだけしてもらいたいなというように、みまちゃんネル見られとる方は誤解はしないようにしてもらいたいと思います。この質問終わります。

議長（山本　雅彦君）

安本議員、10分間休憩いたしますので、次の質問は休憩後にお願いします。

午後２時02分　休憩

午後２時12分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

安本博則議員、５項目めの質問から始めてください。

安本議員。

４番（安本　博則君）〔質問席〕

５項目めは、交通手段についてであります。

このことについては、先日も多くの議員、特に萬代議員なんかも詳しく質問されておられるんで、ある程度のとこは省いて自分の感じる、また市民から聞いた声だけを質問しますので、それについて答弁をよろしくお願いします。

まず、聞く中でデマンドバスはもう少し１日の回数もじゃし、運行日もふやしてもらえないか。そういう人の声の中には、例えば免許証を返して、例えば車に係る費用、車検代だったり自動車税だったりとか、燃料代だったりとかいろいろ経費がかかる。そのことを思えば、少しぐらい高くても回数、便、それから日にちをふやしてほしいという声があるので、その辺はどのように今後考えてもらえるのか。

それと免許証を今返した方、それと免許証もともとない、僕は旧作東なんですけど、作東で言えば市民部長が言ようたように吉野地区、特に不便感じとるように思います。その辺をどのように考えられておられるのか。それと当然タクシー割引チケット、それは相手とも協議せないけないんかもわかりませんけど、これも先日来ずっと出とることなんで、とりあえずは便数をふやすのと、１日の。それと１週間でもう少しふやしてもらえないかという声があるんで、その辺についての答弁をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、デマンドバスの現在の運行についてでございますけれども、今現在議員おっしゃられましたように10人乗りのバスを土居地区と福山地区に１台置きまして、月、水、金の３便を運行しております。このデマンドバスにつきましては３カ月に１回運営協議会を開催して、各月の利用人数や乗車バスなどを確認し、減少や増加の原因、問題点や課題を検討し改善しており、身近な公共交通として地元の方々には欠かせ

ないものとなっております。これを受けまして、議員の言われましたその便数あるいはをふやしてほしいという意見をまたその運営会議のほうで協議していただき、ふやすことは可能だろうと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

利用者はできりゃ月曜日から金曜日まで、できりゃあ土曜日も入れて運行してもらいたいというのが恐らく希望だと思うんですけど、それには運転手の問題等が出てくるので、その辺はしっかり利用者、それと運転してくれとる方々と協議しながら、もし可能であればそういうことを組み入れてやってもらいたいのと、それと免許証、やむなく返納しなくてはいけない人は、ここにもあるんですけど、２月17日の新聞で免許が返納しやすい環境というのが字が大きく出とんです。それには、先ほどとそれからきのう来出とる話が多分あると思うので、返納しやすい条件、例えばデマンドバスの回数ふえたとか、運賃はちょっと高いけど利用がしやすくなったとか、タクシー券が発行できるんですよとか、タクシーの割引券、そういうことを今後も議論してもらって交通弱者、うちらずっと回ってみて市内全部僕も把握してないんですけど、そういう便利の悪いとこの方にとってはそれが一番の交通手段なんで、しっかり議論してもらって、一人でも多くの人がよかったなと言われるような体制づくりをしてもらいたいと思うんですけど、もう一度だけ答弁お願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

議員のおっしゃられるように、免許証を返納しやすい環境というのは非常に大事なことだろうと思っております。それには財源的なこともございますし、十分近隣町村あるいは先進等も研究いたしまして対応してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

３回目ですけど、今部長の答弁ありましたように、予算のほうにも試験的にというようなこともありますんで、しっかりその辺はしてもらって、市民が免許証返しても安心して、例えば病院行けるとか、救急の場合は救急車来てもらえばいいんですから、そうじゃなくて日ごろ病院行けるとか、買い物に行ける。買い物も別に毎日じゃなくても２日に一遍とか３日に一遍でも行けるようなサービス。それも１日に例えば便数をふやせば自分の思った時間に行って帰れる。そのような体制づくりをよろしくお願いします。

次行きます。

議長（山本　雅彦君）

要望でよろしいか。

４番（安本　博則君）

要望です。

議長（山本　雅彦君）

それでは、６項目めに入ってください。

４番（安本　博則君）

止めてくれんのんじゃな、しゃべってないのに。

６項目め、消防団の夜警について。

これは、私あちこちの消防団から聞くんだけど、夜警の日数をできれば短く、今28、29、30、それと時間が２時までというようなことがあって、なぜこれを言うかというと、明くる日に仕事を持たれとる方、それと団員が少ないとこ。きのう谷本議員も言うた団の編成とかということも出てますけど、そういうことがあるので、それをどのように考えられておられるのか。これは行政があせえこうせえじゃなしに、各方面隊長がおられるんで、そちらのほうに向いてのことを進言、こういう意見があるということを団員から聞かれとるか聞かれてないか。

議長（山本　雅彦君）

危機管理監。

危機管理監（山本　和毅君）〔登壇〕

失礼します。それでは、安本議員の消防団の年末夜警についてということでお答えをさせていただきます。

寒さ厳しい年の瀬は火気の使用もふえ、気持ちも緩みがちになります。市民の皆さんが安全に安心して新年を迎えられるように、消防団では毎年12月28日から30日の午後８時から翌日の２時まで年末夜警を実施していただいております。そうした中で、議員御指摘の期間や時間の短縮については団員からの要望や意見が出ておりましたので、昨年の年末夜警を終えた状況で、消防団本部により各方面隊からの年末夜警にかかわる意向調査を行っておりますので、その結果について御報告をいたします。

夜警期間中に勤務等のある団員に服務時間の配慮等をしていますかに対しまして、６方面隊のうち３方面隊で時間の短縮や担当日を変更するなど、配慮しているということでございます。

次に、団員の参加状況についてでございますが、団員の多い部については１日のみの参加ですが、団員の少ない部については班長以上３日間参加するなど、部によってさまざまな状況でございます。

そして、夜警に対する要望、意見について聞いたところ、夜警実施期間、時間を短縮してほしいという意見が多数でございました。

消防団本部より各方面隊の意向、意見を受けまして、県北と隣接する市の実施状況について調査したところ、津山市は本市消防団と同様に実施されていましたが、他の自治体の消防団では実施期間、時間を短縮しておりました。

こうした状況を受けまして、市消防団は１月末の団本部会議にて意向調査の結果や他の自治体の状況等を踏まえ、ことしの夜警に向けて消防団と地域において協議を行うことと聞いております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

今危機管理監から答弁があったんですけど、きのう萩原市長は消防団の若い人が言うたら、例えば操法がとか、だけど操法が言いかるというような話もあったんで、全部が全部じゃないと思うんですけど、また夜警も苦になっとる消防団もおられるわけなんです。だから、その辺今言われたように、各分団に持ち帰ってしっかり議論してもらって、なるべく団員がふえる方向の夜警にしてもらいたいと思います。

それで、これ私大原に風呂入りにいっとったら、ある人が、僕より何歳か下の人なんだけど、市長が慰問に行かれとると、それは大変御苦労なこったと。以前から、旧町村時分から町長だったり議長なんかが慰問

に行かれとるという話は僕らも知ってますけど、そこで何か飲酒したというような話されとったんで、慰問に行って飲酒というのはいかがなもんかなというように思いますので、その辺は今後は気をつけてもらいたいと。行く以上は労をねぎらう、そういう意味で行ってもらいたいと思います。この項は終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、最後の７項目めに入ってください。

４番（安本　博則君）

７項目めは、入札についてでございます。

入札については、当初予算で積算されて入札額を決めて入札されてると。それで途中、補正であったりとかして入札額決めとると思うんですけど、その辺についてはどのように。僕が今言うたような方法でやられとんか、違う方式があってやられとんか、説明を求めます。

議長（山本　雅彦君）

副市長。

副市長（横山　博光君）〔登壇〕

失礼します。御指摘の項目ですけれど、入札につきましては各担当部署が予算を確保して、設計書及び仕様書を作成した後に管財課のほうへ入札依頼をすることになっております。これを受けまして、同課が指名委員会に諮って入札を実施しているというところであります。入札実施、落札者の決定後、契約締結を済ませまして担当部署へ関係書類を返却、工事施工など、こういうふうになっております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

ということは、予算がなかったら入札ができないということですよね。そうですね、私更新伐が気になっとって、前も言うたんですけど、議案質疑か何かで。これ平田地内１回不調になっとると、入札が、１回目は、去年11月15日。２回目を去年12月12日に入札したと。当初の予定では247万円が28年度予算にのっとったんですけど、入札したのが830万円、入札しとんです、3.3倍ぐらい。予算ないんです、これ。補正予算見ても何にも出てない。これどういうことかなと思うたら、入札が終わった２日後に流用。入札の流用なんておかしいんじゃないかな。まして、予算がないものを入札しとる。その辺の説明をしっかりしてもらいたい。これ業者の人も聞きょうるかもわかりませんから。

議長（山本　雅彦君）

副市長。

副市長（横山　博光君）〔登壇〕

２番目の御質問でございますが、質問の当初の予算と、それから補正の予算額でございますけれど、設計金額あるいは契約金額、これが異なることがあります。その差額につきましては余りがあるとき、余剰があるときにおきましては設計変更による増額の変更に対応する場合があります。それから、２つ目として、そのまま不用額として処理する、または補正予算で減額する場合、この流れになっております。一方、不足する場合、御指摘の項目でございますが、不足するときは補正予算で対応する場合、これが大きな大原則であろうと思います。次に、事業の執行上、必要がある場合に目と目の間、または目内の予算流用により対応する場合があります。予算の項目につきましては款項目節という分での性質上の問題、あるいは目的上の問題等々含んでの４つの件が自治法上示されておりますが、このうちの目、節、ここの運用は流用という範疇で

ございます。この流用につきましては、予算成立後の種々の自由によりまして、予算が不足した場合に他の科目において余剰を生じる見込みがある場合、予算を相互に融通したほうが効率的で議決予算の趣旨を損なわない。もともとの議会の承認いただいたことについての趣旨を損なわない場合に予算執行上の処置ということでやっております。

今回の御質問の意図は図りかねますけれど、例えば当初予算が小さく、以後において大きく膨れているのはどうかというようなことでございますが、担当部署における知識あるいは経験不足、こういうようなものが大きな要因で当初の見積額等に大きな見込み違いがあったのではないかというふうに思っております。

さらに、今金額等の変遷でございますが、事業名の変更あるいは国、県の補助率の変更など、財源に変更が生じる場合や一部事業の広さ、面積等の変更による場合が考えられます。このような場合は、財政課とあらかじめ協議して、補正予算による対応または予算流用による対応など、予算執行についての調整あるいは確認を行っているところであります。また、このような場合は都合によっては設計額の算出、入札による額の確定後において流用起票を処理するというようなことは時としてあります。その多くは建設等におきまして見られるところの修繕工事等においてはやってみないとわからないというような項目がありまして、また余剰金額をまた特段で戻すという不要な手間が省けるというようなことで、財務処理上の一環として実務上対応しているのが事実でございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

副市長、いろいろと入札の関係説明してもらいましたけど、そちらの言い分としたら補正組むか流用ができると、だからしたというような、大まかに言えばとれるんですけど、その流用でも、例えば今247万円の予算が830万円、240何万円が300万円ぐらいならまだわかる、３倍です、どういうじゃあ積算されとったんですか。その辺について、どういう積算されとったかについて、もう一度。それで３倍もの流用、入札額になったという説明してください。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。安本議員の３回目の御質問でございます。

なぜ３倍以上の額になったかということでございます。更新伐事業につきまして、先ほど議員も申されましたように当初予算では247万円という額を計上させていただいておりました。この事業につきましては、岡山県下でも初めてという事業でございまして、取り組みに当たりまして県とも協議させていただきながら予算計上をしておりましたが、その基準といたしましては県の更新伐の標準単価というものを用いて当初は予算計上させていただいておりました。実際、本年度、28年度事業実施に当たりまして該当地域の施行面積内で標準値の調査を行いまして、各工種、選木とか伐倒、またそれの運搬、そういった各工種の積算等を行いました結果、実際には標準単価の実質３倍以上の立米、材積でございますが、そういったものが実際には３倍以上の材積であったということで設計額が800万円以上という数字になったということがございます。確かに当初段階では見込みが甘かったということは否めないところがございます。そういったことも含めまして、29年度予算におきましても更新伐事業を予定しておりまして、その辺は現地のほうを確認させていただき、材積等も積算した中での当初予算を計上させていただいておりますので、今後十分そういった部分に

は注意しながら調整してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

安本議員、総括です。

４番（安本　博則君）

今部長のほうの答弁あったんですけど、要するに積算が甘かったということ。それと11月15日に１回目が不調になっとんだから、そのときにそういうことがわかっとるわけだったら補正で出せばよかったんですよ。入札の理由なんて、誰が聞いても何かおかしいことしょうるんじゃないかと思われても仕方ないんで。12月議会があったわけだから、それで補正組んで、今みたいに説明をして補正を組んどけば、別段僕もこの更新伐気になっとったからネット見たらそういうことになっとったんで。そういうことしっかりしとけばよかったんじゃないかと思います。こと入札については、流用を使うのは僕は適当じゃないと思う。どう考えても業者が何でもありになるような気がする。業者といろいろやったけど、これだけ足らんかったから流用して入札で、後から金額決めたんじゃ、流用したらお金は返せんから、そういう話じゃないと思う。流用するのは、入札はするべきじゃないと僕は思います。それほかの業者が不信感を招いても、これ仕方ないこと、まして３倍も。今言うた247万円、約250万円が300万円前後になったというのはまだわからんでもないけど、全く積算根拠が間違えだったみたいなこともあるし、まして３倍、そんな入札のやり方、指名委員長よろしくお願いします。

これでこの項終わりますけど、最後にあと２分あるんで全体的総括と４年間のことなんですけど、私もこの４年間いろいろ鳥獣被害から子どものことから、いろんなことを質問させてもらいました。私、今一番気になっとるのが土居地区のメガソーラー、これ僕市長にお願いしときたいんだけど、そこへ行かれて声をしっかり聞いてもらって、地元の人に安心感、どういうことなんかというのを地元でしっかり声を聞いてもらいたい。市長よく言われる声なき声、そういうことも聞いて、土居の。特に土居も江見もなんですけど、21年災ですごい被害に遭ってます。それがいつまでも、山本議員も重行議員もやられてましたから、それがいつまでもトラウマみたいな格好で出てきとんので、市長と執行部の担当、管財課、部長なり一緒に行かれて市民の声を真剣に聞いてもらって、市民に適切な説明をしてあげてもらいたいと思います。

それで私これで３月議会の質問は終わりますけど、いろいろと言いましたけど、私は市民の声を市民目線、それと市民の声を生かす質問をこれからもしていきたいんですけど、何分４月には改選がありますので、それでどうなるかわかりませんけど、もしまたここへ出ることがありましたら市民目線で質問をどんどんどんどんしていきたいと思います。これで質問終わります。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番７番、議席番号４番安本博則議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通告順番８番、議席番号２番重平直樹議員の発言を許可いたします。

重平議員。

２番（重平　直樹君）〔質問席〕

２番重平です。議長の許可を得たので、私の３月議会の一般質問を始めさせていただきます。

12月議会と同様に湯郷Ｂｅｌｌｅについてでありますが、私の目的は湯郷Ｂｅｌｌｅの支援を、再建をしっかりやろうということですので的確な答弁をお願いいたします。

前回も質問しましたが、Ｂｅｌｌｅの運営には市はかかわってないが、支援として補助金、大会運営の補助等をしているとの答弁でしたが、市民の方々から、あの答弁ではよくわからないと批評をいただきました。まず、美作市民はＢｅｌｌｅは市民のチームという意識を持ってますが、一般社団法人といえども１企

業として納税団体なのか、ＮＰＯ同様の非営利団体なのか。

湯郷Ｂｅｌｌｅの役員報酬は幾らでしょうか。役員会で決めるはずですが、年額、総計でよろしいのでお答え願います。

また、役員は何名でしょうか。補助金を出している団体ですから、この程度の質問にはお答えいただけると思います。市が補助金を出して支援をするのは結構なことだと思います。当然補助金の使途は把握されていると思います。

次に、スポーツ振興課の役割ですが、文字どおりスポーツの振興が目的であると、教育部局でなしに企画振興部長がお答えになりました。教育長、それに間違いありませんね。

湯郷Ｂｅｌｌｅの支援は、ファンはもとより市民にとっても大いに関心があり、支援の成果が、選手たちの努力がチームの成績に反映されれば、それにこしたことはありません。なでしこリーグに参加するチームは皆さん同様に思い、激しい競争の世界であり、なかなか難しいものであります。我が湯郷Ｂｅｌｌｅがついに２部リーグに落ちてしまい、選手はもとより市民一同は残念無念であります。ことし一年で新体制のもと、１部リーグに復活を期待しているところであります。

さて、そのＢｅｌｌｅの支援体制ですが、具体的にどのようになっているのでしょうか。12月議会の御答弁では、補助金交付、運営の補助となっていますが、どこの担当部署でしょうか。運営の補助について具体的にお答えください。１回目です。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

湯郷Ｂｅｌｌｅの支援についての御質問ですが、まず初めに岡山湯郷Ｂｅｌｌｅは納税団体なのか、非営利団体なのかの御質問でございます。一般社団法人岡山湯郷Ｂｅｌｌｅは非営利法人で、税金といたしましては県民税及び市民税の均等割が課税されていると聞いております。

２点目の役員報酬は幾らか、また役員は何名いるのかという御質問でございますが、役員の人数につきましては公開されている資料によりますと７名でございます。役員報酬等につきましては、一般社団法人のことでありますので、この場でのお答えは差し控えさせていただきます。

また、市からの補助金の使途につきましては、リーグへの登録費や岡山湯郷Ｂｅｌｌｅが行う試合の遠征費用等に充てられております。

次に、３点目の支援体制について具体的にとの御質問ですが、岡山湯郷Ｂｅｌｌｅは市のシンボルであり、美作市を全国へ発信してくれる存在でもあります。来年度から岡山湯郷Ｂｅｌｌｅの雇用となる監督の人件費を補助するなど、補助金額を今年度の1,600万円から倍増の3,200万円を当初予算に計上させており、重平議員も期待されておられるとおり、ことし一年で１部へのリーグ復帰を願うＶ字回復支援補助金を行う考えをいたしております。

また、担当部署は今年度から教育部局から市長部局へ移管されたことから、企画振興部スポーツ振興課でございます。

岡山湯郷Ｂｅｌｌｅは美作市にとって貴重な財産であり、新しい監督、選手を迎え、２月５日には新体制が発表されたところで、また2017シーズンが３月26日からスタートいたします。美作ラグビー・サッカー場ではカップ戦を含め、10試合の試合が予定されております。引き続き、できる限りの支援をしてまいりますので、市議会を初め、市民の皆様の温かく惜しみない支援、応援をどうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

重平議員。

２番（重平　直樹君）

２回目。Ｖ字回復支援金補助、そして3,200万円の補助金、まことに結構なことであります。私がさきの議会でも申し上げたことを早速形であらわしていただけることに感謝申し上げます。

しかし、補助金の中身をお尋ねしても、別団体であるということで役員報酬の総額にも答えてもらえません。補助金をただ出すだけでなしに、人件費にどの程度必要となっているかぐらいは、出す側は当然把握しているはずであります。せっかくの補助金が選手でなく、役員に費やされてしまっては感心しません。個人の情報でなく、選手個人でもありません。社団法人の役員報酬の総額ぐらいは公表されるべきではないでしょうか。市民は選手への支援は惜しむことなく続けるべきと思われます。市民の誤解を解くためにも、総額ぐらいは公表されてはいかがでしょうか。

12月議会でも質問しましたが、お答えしていただけませんでしたが、湯郷Ｂｅｌｌｅの運営には市はかかわってないとの答弁でしたが、しかしスポーツ振興課の職員は大会運営にかかわっている。一般社団法人湯郷Ｂｅｌｌｅの運営にかかわっている、そのことを整理しないと支援体制が整わないのではと質問しています。市長はかかわっていないというスポーツ振興課の職員は、実際にＢｅｌｌｅにかかわっている。一番困るのはスポーツ振興課の職員じゃないでしょうか。ボランティアでするのか、職務としてするのか。誰の指揮に従って仕事をするのか、職員の立場を明確にしてください。それがコンプライアンスじゃありませんか、そうでしょう、市長。

何度も申し上げますが、Ｂｅｌｌｅの支援のために質問をしております。強くなるには、もちろん指導者、選手の頑張りが必要です。そのためには金銭面での支援も重要です。選手が昼間働いて夕方から練習といったスケジュールでは、十分な生活費が稼げないと思います。ハードな練習、試合などに耐える丈夫な体に食事の配慮が必要です。そういった面での市の補助金が使われるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

一部の市民からは、そういった支援ができてないのではと心配されています。だから、役員の人件費が多くないですよ、ほとんどが選手への支援ですよという回答が欲しいのですが、いかがですか。

そして、市民、サポーター、美作市の支援団体を充実させることが必要です。市の支援団体があやふやでは金さえ出しとけばよい、あとは職員が適当にでは強力な支援体制はできません。金も人も出す、もちろん運営にも強く市がかかわっていくことが大切ではありませんか。

市民、サポーターが一体となって支援するには、最前線で支援している市の職員の立場を明確にすることが大事じゃと思います。市の職員は公務員です。職務専念の義務違反をさせて何が支援ですか。何がコンプライアンスですか。市長、地方公務員法の職務専念の義務、条項を御存じですか。御存じないはずがないと思いますので、どうすればＢｅｌｌｅを強くするための支援体制ができるのか、御答弁願います。

また、福元、宮間の功績に報いるために市民レベルのお別れ会を12月議会でさせてもらいましたが、無視されています。今さらお別れ会でもありませんし。そこで提案ですが、両選手の背番号を永久欠番にしたらどうか。湯郷Ｂｅｌｌｅの熱心なサポーターたちの声を、願いを届けておきます。実現できませんか。いかがでしょうか。答弁よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

御質問を聞いて、なかなか答えづらい質問であると思います。というのが、ある部分を聞いてるともっと密接に関与しろとおっしゃるし、ある部分を聞いてると関与するなと言っておられるようですし、どなたがお書きになったか知りませんけれども、なかなか答弁上しづらい質問だというふうに思います。

ただ、当方の方針として申し上げるべきことはＢｅｌｌｅと当市の関係は、ほかのいろんな自治体あるいは県もありますけれども、と同じように、現代のサッカーの姿にふさわしいすっきりした姿に展開をしていく必要があるだろうというふうに思っておりますし、このことは私のみならず、多くの市民の方々もそうおっしゃっておられますし、恐らく、間違いなく今のＢｅｌｌｅの運営、首脳部もそういう切り分けについて明確にやっていこうというふうに考えているというふうに思います。

ただ、我々が、例えば学校のことや、あるいは市民団体がやっておられるスポーツを含めて、さまざまにスポーツ振興をするという立場がございますので、職員が運営支援に入るということについては、これは公務としての扱いができる分野が当然ございます。ただし、指示監督についてはそれぞれ、例えば何とか大会といったときに運営本部があったり実行委員会があったりしますんで、そこに人貸しをするという形になりますんで、指揮命令系統についてはそれぞれの大会において異なってくるということもあるかとは思いますけれども、そうやって。これについては私どものみならず、多くの自治体が同じような形で対応されている。その常識の中で議論をしていこうというふうに思っております。重要な点としては、我々としては専門性もない我々が運営そのものに口を挟むということについては、どちらかというと慎むべきであって、しっかりとした金銭的ないしは環境的支援を行って、それをプロのスタッフが有効に活用していただいて、そして実力をつけて、選手の力を上げて、しっかりとＶ字回復をしていただくというようなことじゃなかろうかと思います。できれば、議員におかれてももう少しわかりやすい感じで、心からのＢｅｌｌｅの応援者になっていただきますようにお願い申し上げて答弁にいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

重平議員。

２番（重平　直樹君）

いつものようにわかりにくいとか何かいろいろ言うて逃げられましたが、私は、これ総括でお願いします。一年でも早くなでしこリーグの１部に復活できるように私は応援しとるつもりであります。市としてサポートできる体制を確立されることを願って私の３月議会の一般質問を終わりたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番８番、議席番号２番重平直樹議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから10分間休憩いたします。

午後２時58分　休憩

午後３時08分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き一般質問を続行いたします。

通告順番９番、議席番号８番尾髙誉久議員の発言を許可いたします。

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、８番尾髙でございます。

29年３月定例、我々議会議員にとりましても大きな節目の議会であります。４月にはダービーが始まりますので、18頭のうちに入れるように頑張らなきゃいけないなと思っております。きょうの一般質問の中で予算特別委員長安藤委員長が別れというような思いを込めて、同僚議員また先輩諸氏に大先輩の議員に対する思いを語られましたので、私も副委員長という立場から方丈記の一節を。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし」。これは川の流れは途絶えることがない。しかもそこを流れる水はもとの水ではない。川のよどみに浮かんでいる水の泡は、一方では形が消えてなくなり、一方では形ができたりと、そのままの状態で長くとどまっている例はない。この世に生きる人とその人たちが住む場所も、また同じようなものであるという思いが、小渕委員長、また同僚議員、またこの後に美作市の議会という形の中では、この大先輩の２人の議員が、この後一般質問をされるわけでございましょうが、非常に感慨深いものがあります。小渕議員が言われましたように、駅伝に例えられまして、たすきを託すぞという思いをしっかりと私も受けとめてやっていきたいと、このように思っておりますし、一般市民という形になられるわけでしょうが、この後も美作市の発展のために先輩方、また同僚の方、御尽力いただいて、美作市の発展のために御尽力をいただくと同時に私にアドバイス、助言ということを御教授いただくことを心から願いまして今回の一般質問に入りたいと思います。先輩諸氏、また同僚の議員、後ろ向きで申しわけないのですが、ありがとうございます。

それでは、今回の一般質問は太陽光発電について、メガソーラー、それから防災道路と学校施設について、救急救命について、火葬場について、小さな拠点づくりについて。それぞれ大きな問題ばかりやっておりますが、先ほども申しましたように大きな目標に向かって前進していきたい気持ちの一端を述べまして一般質問に移りたいと思います。

平成29年度の当初予算を拝見いたしますと、美作市の発展のための創意工夫がなされているなと思いました。昔私は、税の場合は徴収にして還元という思いをこの議場で申したことがありますが、まさに税を徴収することによって、いかに効果的に還元していくかという思いは、今の萩原市長のお考えに同調するものがあります。

では、まず１点目の太陽光発電、メガソーラーについてですが、美作市各所において太陽光発電が設置されておりますが、この功罪という表現がいいかどうかわかりませんが、メリット、デメリットについて。

①で防災の観点から、法的な規制は美作市、県においてどのような規制があるのか。施工において指導がなされているのかということで、その具体例といたしまして、美咲町における開発は雨水排水は長内川に流入するものと思われるんですが、長内川は一級河川ですが、上流においては道路側溝にも満たない断面を持っております。氾濫のおそれが、私は今後危惧されると思っております。市から県への働きかけはどのように働きかけをなされているのか。

２番目に、また功の部分、メリットの部分では償却資産というものが、どの程度見込まれているのかということ。それから、今後電力というものが庁舎において約3,000万円ぐらいの削減ができたように、今後はそれぞれの家庭においても選択肢というものができてくる中で、逆に言いますとこの電力競争そのものが激しくなってきたときに、そういう倒産的なもの、そういうようなものが考えられるんじゃないかなというようなことを危惧した上での質問であります。これが１回目です。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

太陽光発電について、防災の観点から法的な規制、施工についての指導があるのかとの御質問でございます。

開発に当たりましては、建築基準法、都市計画法、宅地造成等規制法、森林法、土壌汚染対策法、岡山県県土保全条例、岡山県自然保護条例、美作市開発事業の調整に関する条例などがあり、各法令に定められた規制により必要な手続を行うことが求められております。例えば、岡山県県土保全条例では、排水施設については計画雨水量、調整池の設計、排水施設の構造などの基準で定められております。また、施工につきましては、岡山県県土保全条例に関する工事につきましては、毎月工事の進捗状況の報告が必要となり、事業完成後は完成検査を受けることとなっており、施工に関しましては許可権者である県から適切な指導がなされることとなっております。

次に、美咲町の案件でございますが、開発に際しまして市から長内川の流末について、地元よりしゅんせつの要望があるため、管理者である岡山県へ協議を行うことという意見を付して県に提出しており、県から事業者に適切な指導がなされているものと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

失礼いたします。それでは、尾髙議員の固定資産税の償却資産としてどの程度見込まれているのかという御質問に答弁させていただきます。

市の自主財源として重要な市税であり、市税収入の50%以上を占める固定資産税は、土地、建物、事業用償却資産が課税対象であり、尾髙議員御指摘のとおり、太陽光発電設備も事業用償却資産であり固定資産税の課税対象となります。平成28年度の課税状況では、平成28年１月１日で稼働している市内の固定資産税課税対象施設ですが、10キロワット以上の産業用太陽光発電施設は市内に269施設あり、固定資産税の償却資産課税額は総額で3,197万5,000円であります。また、平成29年度には新たに平成28年中に大原地区で稼働しました連携容量30.2メガワットのメガソーラー施設が課税対象となります。平成29年度予算作成時には事業者からの申告書がまだ届いていないため、税務課で投資額90億円、その80%が償却資産と推定し、平成29年度予算に歳入計上し、該当のメガソーラーの償却資産の固定資産税を約9,500万円と見込んでおります。平成29年度予算では、この高額な税収増が見込まれることなどから固定資産税現年度分は予算額15億7,964万円と、平成28年度より約１億1,000万円の増収が見込まれております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

市民部長、企画振興部長から答弁いただいたわけでございますが、市民部長がおっしゃられた部分と、私が長内川の流末について地元よりしゅんせつの要望があるため、岡山県へ協議を行うと、意見を付して県に提出しており、県から事業者に適正な指導がなされていると考えますとの答弁です。その後の経緯がどうなってるかということと、この私の質問は、美作市各所においてこのメガソーラーが設置されておりますがということなので、これについて場所と規模と現段階で規制を受ける法令ということで、財政的な効果というものについては市長が行政報告でおっしゃられましたように４分の３、75%を除いた４分の１というものが交付税的な部分には、がばっとですけど反映することであって、決して税収がふえたということの基準外収

入額はふえるという意味において、それが単純に増にはならないんだと。だからこそ、美しい里山づくり等の構想というもので還元していくんだと、この考え方はあると。しかしながら、このことが決してマイナスではなくて、残存価格というのはゼロベースになるのか、その辺は私知識がないんで、その辺もわかれば教えていただきたいんですが、残存価格というものがあればどれぐらい残存が残るのかということで、今回の一般質問でも土居のメガソーラーというようなものが問題になっておりました。調整池の排水断面は最低水路、流路溝、そのものが最低どの程度必要なのかということもお尋ねしたい。と、今までにも光の反射等とか温度とか、そのような問題で隣地の承諾の是非に影響しているのか。またはちょうど湯郷の幼児園を計画しましたときに、たしか厨房が排煙の関係のところに住宅があったということで、隣地の承諾がとれなかったというような経緯があると思います。というのが、この恐らくメガソーラーが建設されてるのはほとんどが都市計画区域外じゃないかなと。県土保全条例というものがあると。何を私が言いたいかといいますと、例えば建設部長、美作市の市道が勝央町に入りまして、迂回して美作に入ってくる場合は勝央町議会の議決が要るはずです。それでもって議決をもとに美作市の議会議決をすることによって市道の改良だとか、いろんなことができると思うんですが、県土保全条例というのは、そもそも岡山県の条例なので、岡山県が美作を超えたところに、広域的な部分での制約というものを考えていく必要があるんじゃないかなと。今は法にはないと思われますけども、そのような対応というものがこれから必要になってくるんじゃないかなというような思いを持って質問しております。これが２回目の質問でございます。どうぞ。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

尾髙議員の２回目の質問ですが、やや多岐にわたりますので順次整理をしてお答えしますが、まず案件の特性、特にメガソーラー、これにつきましては当市の市域が割合気温が余り高くなくて日射量が安定をしてるというようなことで、全国に幾つかある発電適地であるということから大小中含めて当市が進んでいるという状況でありまして、これのいいところといえば、日本全体における再生利用可能エネルギーの率を上げなきゃいけないという国の大きな方針に貢献をしているということであろうと思いますが、固定資産税につきましてはいずれにしても一過性であります。未了価格として１円だったか１万円だったか記憶にありませんけれども、何らかの価格が残るんですが、それから固定資産税の税率である1.4％を掛けてもほとんど何にもなりませんので、これはもとの山に係ってる固定資産税と同じような金額に最終的にはなってしまいます。そういう意味で固定資産税のメリットっていうのは１に一過性のものであって、２にお尋ねにもあり議員もおっしゃいましたけれども、固定資産税がふえてもその分今度は４分の３に当たる部分が地方交付税の減収という形でとられちゃいますので、余りようけのことにはならない。かつまた、雇用につきましては建設時期においてはかなりの雇用が生じるんですけれども、その後は余り雇用がたくさんある産業ではないということでございます。

ただ一方、長い目で見ると、ひょっとしたら私どもの町に大きな貢献があるかもしれない。といいますのは、先ほど市民部長の答弁の中で若干触れましたけども、例えば大原でやっているソーラー発電につきましては、30.2メガの連携容量と表現しましたけども、連携容量っていうのは30.2なんですが、発電容量は42なんです。なぜそんなことになるかっていったら、中国電力とか、あるいは関西電力という送電線も持ってる方々に電力を提供するときに安定した量と安定したレベルで提供しないといけないというか、したほうがメリットが高いんです。こんなふうにあるときはたくさんで、あるときは少ないっていうよりも、なるべく一定をする。そうすると、必要な量よりもたくさんのパネルをつくって、要らない発電が起きたときにはそれ

を捨てて、ここを切りまして、なるべく台形に近い形で供給をしていくことによって安定性を高めるという操作をするために発電容量と連携容量とは随分違うんです。この場合には、42対30ですから1.4倍とか、そういう数字で。すると４割強が余ってるんです、一番いいときには。これが今のところ完全に捨てられてんですから、捨てられてる。捨てられてるのは非常に実はもったいなくて。この辺を、例えば今後水素自動車みたいなもんができたときに水素がたくさん要りますので、水素をつくって蓄えておく産業が立地をするとなると、これはそこで初めて我々の産業というものが大きく発展をする可能性が出てくるということにもなります。

それから、もう一点は今この発電につきましては大変高いんです。ＦＩＴと言いまして特別な料金で発電利用者から電力会社が買って、それに皆さんの御家庭でも払いようるのを最近見ようると、何かそういうオールタナティブというか、自然エネルギーを買って皆さんに配るんで高うついたからその分高うとりますよというのが載ってるでしょ。ああいうことになっちゃうんです。が、償却が20年かけて進みます。そうすると、コストががたっと下がって、そこでは実は物すごい安いコストでの発電ができるんです。そのとき、20年後になると今度は地元として安い電力、例えば１キロアワー当たり今40円とかで売ってるやつが、これがあるいは家庭においては十数円で買うわけです。これが４円ぐらいになっちゃうんです。そこで、じゃあ地元にその電力を使わせてもらえんでしょうかというようなことができるようになると、これは美作市全体が、例えば電力のえらい安い地域になる可能性がなくはないと。若干法整備が要るんですけど。というようなことで、１つは余ってる発電容量を産業にどう使うかっていう研究をすること。そして、もう一個は償却が終わった後、電源立地地帯として何とかなりませんかという議論ができないかなということも長期的には研究をしろというふうに申し上げているところでありまして、その辺が実現はしておりませんけれども、メリットになる可能性があるということであります。

したがいまして、当面はこのソーラー発電の施設、どえらいメリットがあるっていう想定はしておりません。ですから、私どもとしてはなるべく問題がないようにということで対応しておりまして、土居の方々の御意見も聞く中で、当市としては全国で初めて造り逃げができないように、もしやるとした場合には撤去費用をまずは積み立ててくれという全国で初の条項を強く要望をして、これを聞き入れていただいておりますが、大原のときにはそれができてません、実は。だから、この美咲のあれ、これについてどこまで議論が進んだか知りませんけども、私個人としては担当部を通じて。ただ、うちの面積が少ないんでそこまで強く言えるかどうかは別として、少なくともうちの面積についていうと、やめるときには撤去できるだけの資金を積んで市内に置いといてくれというぐらいのことも含めて言わなければならないと思っております。また、加えまして、さまざまな意見が地域から出ておりますので、絶対反対と言われると、これは議論にならないんですけども、ここのため池を何とかしてくれ、ここの水路何とかしてくれというような議論が今後追加的に出る場合もあります。そういう場合において、その地元がじかに事業者と議論をして、地元ごとに協定を結ぶこともできるんですが、場合によっては市が入ったほうがいいということもありまして、そういうときには市としても積極的に住民福祉の向上、地域の安全・安心の確立のために一肌脱ぐという覚悟は常に思っているということであります。

それから、最後に県土開発条例についてお話がありました。県土開発条例っていうのは、森林法については統一なんですが、なぜ条例になってるか、法律じゃないですね。もともとは私有財産の世界から来るんですが、自分の土地に何をつくろうが勝手だろうというのが憲法のたてりでありまして、これはなかなか譲れないところがあります。しかしながら、余り規模がでかくなりますと御近所に迷惑かかるんで、これは何とかうまいぐあいに調整をしないけんだろうというようなことがあって、かつて行政指導でやってたんです。

マンションその〔聴取不能〕じゃ高過ぎるぞといって市役所が言って下げろと言ったと。業者は聞かない。裁判なる。そして市役所は負けたんですね。行政指導は、条例に基づかないものは無効であるみたいな話になりまして、それでしょうがないんで県土開発条例のような形の条例で行政指導を担保するという形のものができてるんですが、あくまで元根本は所有権の尊重というのがあるもんですから、なかなかこれ強権的にだめと言えない形にはなっているというのが日本国の法律のたてりの中での県土開発条例ということになっています。ただ、私どもとしてはもちろん今後の市民生活の安全等を考えたときには、国においてこういった問題に総合的に対応できる法的枠組みが必要じゃないかという気もするんですが、今のところそういうことに対して動きをサポートしていただける議論もほとんどないもんですから、我々としては住民の方々の意見になるべく対して、そして安全・安心が確立できるように粘り強く最大限に努力をするということで、その辺の実現を図るという動きを今後ともせざるを得ないんだということをぜひ御理解を賜っておきたいと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

よくわかりました。

電力というもんも、私目に見えないものが信じられないたちなので、電気見えませんので、よくわからないんですけど、水は見えるんです。市長が以前より言われてる、勝央町、苫田ダムの水があそこは残っとんですよ、はしだ山の上に。ですから、ああいうものも美作が安く購入すれば三方一両損ならぬ２方向が、両方がもうかるというようなことも市長の思いの中に、頭の中にあるような、に聞いておりますので、この電力が美作市にとりましてよりいい電力になる、災害時においては当然電力会社がこの地域あっての電力ですから、そのときには何らかの美作市に対応してくれるんだというようなことがあればいいなというような思いを持っております。撤去費は契約上盛り込むということや、条例というのは行政指導するがために条例化してるんだということがよくわかりましたので、この問題はこれぐらいにいたしまして、次に移りたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

それじゃ、２項目めに入ってください。

８番（尾髙　誉久君）

次は、防災道路と学校施設についてということで、第一小学校の防災道路につきましては、この用地交渉にかかって約10年が経過して途中まで道路ができていると。防災道路は交渉が行き詰まった状態ということでございますが、既存の道路の整備の必要が、もうここに来てあるんじゃないかなと。昨年12月に執行部、市長を初め、危機管理室の御理解をいただきまして、美作第一小学校に照明をつけることができました。しかしながら、照明をつけるのには、一般的に全国のニュースを聞いておりますと、体育館に避難するという例が大体ニュースで報道されている場所ではないんじゃろうかなと思う中で、防災道路が歩道における市道認定というものはできたわけですけども、既存の道路、少しずつ維持管理で側溝のふた等の管理を、工事が進んどるわけですけど、10年たつ現在このままではいけないんじゃないかなと。既存の道路という部分も、建設部長、考えていただきたいというのが１つ目の質問で。

また、先ほど言いました屋体です。屋体は今予算で、これは予算を見る前に一般質問を出したものですから、北小学校の屋体のエリアを広げてやるということがなされるということで、もう。むしろ、今度は第一

小は50年以上たってるので、ぜひともこの第一小についても前向きに検討していただきたいというのが２番目の防災道路と学校という質問でございます。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

尾髙議員の防災道路と学校施設という中の第一小学校の防災道路について御答弁をさせていただきます。

第一小学校への防災道路につきましては、議員の今おっしゃいましたとおり、用地の取得はかなわず、途中どまりという状況でございます。今後、湯郷幼児園が開園すれば、指定緊急避難場所に指定されている第一小学校とは地域防災上、一層重要な拠点になることから、昨年６月の議会で両施設をつなぐ既存の生活道路が市道認定され、防災機能の向上につながるものと期待をしているところでございます。

しかし、この道路は、先ほど議員おっしゃいましたが、歩行者用でございまして車両等が通行できないということでございます。そのため、道路の確保ということが必要になるわけですけれど、第一小学校へ通じる市道は何路線かございます。このうち旧県道の湯郷本線から北に伸びる、市道名でいえば湯郷２号線ということになるんですが、現在主に使われている市道でございます。通行量も多いし通学路ということでございます。以前から側溝を改良して道幅を広げるというような要望も出ておりまして、市の維持のほうで少しずつ側溝整備をして広げておったという状況でありますけれど、安全確保のために、今年度側溝を大規模にやり替えて完了させたいというふうな予算を要望を行っております。地区の防災拠点として機能の向上が図れるよう取り組んでまいりたいというふうに持っておりますので、議員におかれましても御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

美作第一小学校、そして美作北小学校の屋体についての御質問でございます。

御質問のように、学校の避難場所としては体育館、屋体が指定されております。そうした中で、市といたしては補助金を活用いたしまして学校の耐震化を推進し、市内の全部の学校の体育館は耐震改修は終了いたしております。そして、第一小学校におきましてはつり天井がございましたので、これも撤去をいたしました。しかしながら、御指摘のように両校とも建設からはかなりの年月がたちまして、現状にあわないという状況もございます。そうした中で、先ほど北小学校についてのお話もございましたが、市長とＰＴＡの懇談会で特に御要望いただきました北小学校につきましては体育館の一部を改修いたしまして、フロアが広く使えるようにしたいというふうに考えて予算を計上いたしているところでございます。

今後も、子どもたちの安全面というのはもちろんでございますが、避難所としての役割ということを果たすことも考え、施設の管理をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

建設部長より力強いお言葉をいただきまして、新年度に予算枠を確保するよう要望を行っているんで、議員も力をくれということで、市長、ぜひとも枠をとっていただきたいと思っております。

また、北小につきましては、議員皆さんも執行部の皆さんも御存じないかと思うんですが、あれ昭和51年

に私が設計しまして、落札額4,200万円という金額、最低値で落ちたんですけど、大体業者というのは市に単価というのは入れないもんですけど、どういうわけか4,200万円という単価で落ちたわけですけど、当時３億5,000万円で庁舎ができたんです。物の値段というのは高騰するもんだなと思っております。あれで１つだけ失敗したのは立面図で、ただ線を入れるだけでよかったのに目地を私が入れなかったもんで、業者の方が目地を入れてくださらなかった割にはクラックはこなかったなと思っております。この答弁に対しましては言うことがございませんので、次に移ります。よろしいでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

では、３項目めに入ってください。

８番（尾高　誉久君）

全部議長いきたいと思いますので、途中で切らないようにお願いします。

議長（山本　雅彦君）

じゃあ、時間来れば休憩します。

８番（尾高　誉久君）

それじゃ、３番目はこれも市民の皆さんの声で、救急救命病院についてということで、美作市内に救急救命に対応できる小児科、それから産婦人科、すぐ目の前に山田産婦人科あるわけですけど、お産のほう、それはやっておられません。医院長が体調がもう少し思わしくないからだと思っております。人口減少の一つの要因というのが、安心して小児科にすぐに行ける、または産婦人科に行けるということが間接的な要因にもなっておろうかと思いますので、これに対する何か手だてはないものかというのが第３番目の質問でございます。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。救急救命に対応する小児科、産婦人科の手だてについてということでございます。

現在の小児救急医療体制について御説明いたしますと、まず軽度の救急患者への診療は初期救急医療機関であります地域の医療機関がまず受けると。直接救急車により搬送される、または初期救急医療機関から転送される応急処置または入院対応は２次医療機関が受けるということになります。津山英田圏域２次救急医療機関は津山中央病院、津山第一病院、中島病院、さとう記念病院、鏡野病院、芳野病院の６医療機関が輪番で担っております。市内には輪番の医療機関がありませんが、救急告知病院ということで田尻病院と大原病院が休日夜間を問わず小児を含めた救急患者を受け入れております。さらに重篤な場合は、勝央に救急医療支援病院が対応するということで、県北では津山中央病院が指定されております。産婦人科につきましても、かかりつけでの対応は困難で、リスクの高い妊娠に対する医療は地域周産期母子医療センターが担います。津山英田圏域では津山中央病院が指定されております。さらに重篤な場合は、県南になりますが、総合周産期母子医療センターで高度な医療を受けるということになります。

美作市では、産婦人科が１機関、小児科を標榜されている医療機関は複数ありますが、専門医が常時おられるわけではありませんし、夜間の対応は困難な状況です。しかし、救急の受け入れ態勢は、先ほど説明したように病状に応じて軽度から重度に対応するように対応づけられているという状況にはあります。

一方、小児疾患において軽度であっても２次、３次救急医療機関を受診される方が多く、真に緊急医療が必要な小児の治療に支障が出るといった問題も一方では起きております。これを解消するために、小児救急医療電話相談、＃を押して8000番なんですが、が全国的に実施されております。これは平日ですと午後７時

から翌日の午前８時まで、休日では午後６時から翌日８時まで、看護師等が病状について電話相談を受けて対処方法を助言するもので、これにより救急受診をせず解決できるケースも多い状況ということです。美作市の保護者の皆様にも、この事業をしっかり活用していただくことや、休日や夜間に急変がないように早目にかかりつけの医師に受診しておいていただくなどのお勧めを現在しているところでございます。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

２回目です。江見部長の答弁でなかなか難しいなというのが、重篤というのが、特に孫なんかの場合、どの程度が重篤かと。病後保育というのは大体37.5度だと思うんですけど、保育所から電話がありまして、体温が37.5度以上になってるので迎えに来てくださいと。子どもの体温というのは、ですから大人が冷房でちょうど気持ちいいなというのが、むしろ寒いと。子どもは物を言います。小さい子ども、物を言いませんけど、寒いぐらいの温度なんですよね。こちらのほうがちょっと暑いなというのがちょうど適温だというようなことがあって、命というのは、小さな命というのは非常に大事だなと。ましてや、子どもを取り上げるというのは大変なことだなと。私ごとで申しわけないんですが、昔下水道課長をやっておりまして、アルバイトの人が来ておられました。その人が破水されまして、それで新聞紙ばっと敷いたんですけど、もうあっちこっち真っ赤になったんです。それで御主人が来て産婦人科に連れていくからと来られたんですけど、大きな体格のいい人でしたけど、だめだと、すぐ私救急車呼ぶからということで呼びまして、あんたはそれに乗っていきなさいといった判断が非常によかったなと、後で気づいたのが、ちょうど大崎で福力がありまして、恐らくそのときに地道を走ってたら助からなかったなと。といいますのが、救急車が縦貫道を突っ走っていきました。取り上げた主治医が最初にお母さんに言った言葉が、奇跡の子だということを言ってくださったんですと。我ながら自分なりに自慢太郎しとるわけじゃございません。偶然が重なってよかったなという思いの中で、少しでも近いところに救急のこういうような小児科、産婦人科。小児科と産婦人科はたくさん薬出さないから、余りもうからないということもあるんですよね。内科はたくさん薬出しますから、両方の袋を提げるぐらい持って帰る方もおられるんで、薬出せば結構内科というのはもうかるんですけど、小児科というのは命を預かって、産婦人科はもう命を預かって、大変な責任を負いながら意外と、もうけばっかりが医師の仕事じゃございませんが、そういう反面もあるんだろうとは思っております。

２回目のときに＃の8000番というのは、これはもう大いに啓発されとることだと思いますが、より以上に啓発をしていただきまして、小さな子どもさんの命、また生まれてくる子どもの命を守っていただきたいと思っております。市内には輪番の医療機関はありませんが、救急告知病院ということで田尻病院と大原病院が休日夜間を問わず、小児を含めた救急患者を受け入れてくださっていますとのことですが、これは小児科の専門医がいるということでしょうか、２回目の質問をいたします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。それでは、議員の２回目の御質問にお答えさせていただきます。

＃8000番につきましては、保健師の家庭訪問時や乳幼児健診時に繰り返しお伝えし、しっかり利用していただけるよう啓発、普及を図ってまいりたいと考えております。

緊急告知病院であります田尻病院と大原病院につきましては、日本小児科学会に所属する小児科専門医に

よる外来診療を、田尻病院では週３日、これ月、水、土曜日になります。それから、大原病院では毎週火曜日にしておりますが、外来日以外あるいは夜間での救急での小児科専門医は常駐しているというわけではありませんので、重篤な場合は医師の判断により小児救急医療支援病院でありますところの津山中央病院へ搬送する場合があるという現状でございますので、御理解いただきますようによろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

美作市も打ち出の小づちを持ってるわけではございませんので、次から次にそんなにはできないことはよくわかって質問しています。というのは、これも市民の皆さんの声ですので、市長がおっしゃられるように、公約とは市民の皆さんが、大勢の皆さんが言うことを私がここで一般質問するなりして、どうぞ考えていただけないですかというシステムだと考えております。

次に移ります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、４項目めに入ってください。

８番（尾髙　誉久君）

火葬場についてですが、私の身近なところでも亡くなった親戚がいるわけですけど、死を間近に控えて家に帰りたいという患者さん結構おる、たくさんお聞きします。自分がもう余命幾ばくもないことを今は告知主義ですので、皆さん自分の余命がわかった段階で家に帰りたいと。まだ私、大病で入院したことがないので実感としてわからないんですけど、火葬場も年をとった方、皆さんに聞くと、私も年とっとるわけですけど、同様に地域にある火葬場を利用したい。だけど、それはもう当然新しい火葬場であってほしいし、広い日当たりのいいところでやってほしいという、望まれる多数の声を聞きますので、これはもう過去に議員皆さんが何度も出た質問でございますが、ここで市民の声をお届けします。いかがでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

美作地域の多くの皆さんが火葬場の新築を望んでおられるということについてでございますが、御承知のとおり、美作火葬場は昭和45年に竣工し46年が経過している市内で最も古い火葬場でございます。年間250体前後の火葬があり、使用頻度も他の火葬場に比べ約２倍となっており、炉の傷みは激しく、火葬炉や台車の修繕等、定期的なメンテナンスを毎年行うことにより炉の長寿命化を図っている状況です。来年度は、火葬場内の壁や床等の修繕を行い、御利用される親族や参列者の方々に少しでもいい環境で送別ができるよう努めてまいります。

他の火葬場の状況は、大原斎場が昭和61年の竣工で、平成25年度に大規模改修を行っており、また作東レインボーホールは平成14年の竣工で、それぞれ火葬炉は各２炉ございます。

以前は自宅から火葬場までの距離や時間を考慮していたと思いますが、最近では葬儀の形態もかわって自宅で葬儀を行う方はほとんどなく、市内の葬儀場で葬儀が行われております。こうした状況から、火葬場の建設に関して必要な事項を調査検討するため、美作市火葬場建設庁内検討委員会を設置するようにしております。いずれにいたしましても、議員よりお届けされた声を踏まえ、一定の方向を出してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

ありがとうございました。美作市火葬場建設庁内検討委員会、これはいつごろ設置予定。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

ただいま決裁のほうを回しておりますので、今市長のほうから決裁がおりたということですので検討委員会につきましてはもうすぐつくらせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

そうですか。非常に早い対応を。私がどうも質問することがさきにさきに。

せっかくですんで、昔美作の火葬場で火葬の管理をされておりました職員の人によく言ってたのが、この世に魂があるならば、何々さん、最後にプラットホームで行ってこいよってね、帽子をとって振るんはあんたなんだよと。向こうの人と、スリーナインじゃないですけど、ずっと汽車が行くように。私は結構ある部分を信じてるんですよ。それぐらい厳粛というか、重い仕事だというふうに思っております。とかく皆さんの中には卑下、軽蔑したようなものを言われる人がおられるのには非常に腹が立ちます。というのが、本当に自分の父がまたは不幸にして自分の子が亡くなり、孫が亡くなったときに、何という思いだろうなという中で、決して火葬場というものを忌み施設として扱うような状況ではないと。これからはもうそれをオープンにしていく時代なんだというふうに思いを述べまして、以上、次に移ります。よろしいか。

議長（山本　雅彦君）

それでは、最後の項目、５番目ですね。

８番（尾髙　誉久君）

これは大体答弁も難しいのがわかってて質問します。

小さな拠点づくり。これは私が住んでおります安蘇地域、旧巨勢小学校は国の予算でたしか６億9,000万円で、小さな拠点というのは過疎地域等地域活性化推進交付金だったと思います。過疎地域等地域活性化推進交付金というのが700万円ですけども、されど700万円なんですよね。全国で６億9,000万円、岡山県にはこの小さな拠点づくりをやってるところはないはずです。全国的に見ましても99分の１市町村に当たると、大きな意味がある。アクションプラン等大詰めにきて、大体のソフト面の形ができてきたという中で、いかんせん本当に執行部のお立場、理解する中で、なかなか難しいことをわかりながら声にしておかないと物が前に進まないのもありますので、できないのは重々わかっておるんですけど、梶並地区や粟井地区においては水洗トイレが整備されております。いろんなバンド等の集まり、屋体であって市長も出席してくださったわけですけど、運動場に水洗トイレがない、女性の方の１つだけあるんですよ。それで長蛇の列ができると。それから、視察にもすごく来られてるのは知っているんですが、それと子育てサロン、育児的な悩み、睡眠不足になるとか、そういうような同じような悩みを持った人が毎週水曜日にかなりの人数、多いときは100人近い人数集まるとか聞いてるんですけど、それから年寄りの方や子どもさんが、今は和式より新和式型、洋式のものを望まれてると。そこに加えて、美作市の売りというのは100％下水道が完備していることじゃないかなと思います。水の大事さというものは「100人の小さな村」でもわかるように、この日本とい

う国は非常に衛生的な水を飲んでるなという点と、フランスの方なんかとか外国の方が国際サーキット来られたときに、仮設トイレなのと。外国では、このレーサーなんかこれが普通なんだと。日本のトイレは非常にすばらしいようです。だから、ぜひともできないことはわかってても、ひとつお願いしたいなというのが最後の質問でございます。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

旧巨勢小学校における地元の皆さんの活躍ぶりについて、私も大変よく存じ上げてるわけであります。そしてその中でトイレの改修についての要望があることは重々重々知っておりまして、できないと言ったことは一度もありませんので、まずそれを訂正をいたしときますが、私申し上げてるのは１番目にトイレは今や集客施設の中核をなしてるということでありまして、いいトイレをつくる。銭をたくさんかけろとは言ってないんです。同じお金でも、なるほど、このトイレはすばらしいなというものをつくったらどうですかと。そして、できたらそのトイレづくりにいろんな力を加えて、住民の声やあるいは技術を入れてストーリーを展開できるようなプロセスを組んでみたらどうですかというようなこと。巨勢地区にも地域おこし協力隊の方もおられるし、あるいは地域おこし協力隊というと、このところ一級建築士の技術を持ってらっしゃる方々も美作市にお越しになっていらっしゃるということもあり、来年度もそういう傾向が続くんですけども、そういった方々にも知恵を出してもらって、ぜひあのトイレを使ってみようというような気持ちでいけるような、いいものを提案をしてくださいねって言い続けて２年たっているということでございまして、できないと言ったことは一度もないというふうに明言をさせていただきたいし、できるならいいものにしてほしいし、なるほど巨勢の人たちの知恵はすごいなということがトイレに入った瞬間にわかるとかというふうにしてほしいということを常々申し上げておりますので、北小学校の体育館を設計されたという話もありました。ぜひ４月中旬以降、設計業務にもまた復帰をしていただいて、頑張っていただきたいというふうに心からお願いを申し上げて答弁といたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

尾髙議員。

８番（尾髙　誉久君）

もう刀もさびついておりますので、先日もみまちゃんで道上さんが巨勢、湯郷の案内で大山展望台を、あれも私切り株をイメージしてつくったんですけど、すごく観光客の方が来られてるようです。感じますのが、小池さんのときにグリーン、緑のものを持って集まってくださいよというて池袋でしたか、どっかにたくさんの人が集まられて、私が思ったのは、ああ、田舎と都会はここに大きな差があるのかなと思ったのが、たくさんの人が集まられたんですけど、ちょうど12月から１月にかけてあるのは田舎では総会とか役員を改選だとかということがあります。その中で、そこで食べたり飲んだりして一つのコミュニティ、輪ができるわけです。たくさんの人が集まったのにもかかわらず、私はそれぞれが都会においては、私の見方がそういう見方をしてるのかもしれませんが、一抹の寂しさ、すき間風というようなものが都会に行って吹いてるのかなと。地域おこしの方が来られる一つの要因となってるのは、田舎にこそあるものが都会にはないというようなものがあるんじゃないかなと思う中で、この小さな拠点づくりは巨勢小にとどまらず、粟井も、梶並も、またほかの地域でも皆さんが協力し合って、この小さな拠点がたくさんできることによって美作市の大きな拠点づくりができればいいことを心から念願いたしまして、平成29年３月の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番９番、議席番号８番尾髙誉久議員の一般質問を終了いたします。

お諮りをいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は明日22日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時10分　延会

平成２９年２月２２日

（第　　４　　号）

1. 議 事 日 程（４日目）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年２月22日

午 前 10 時 開議

於 議 場

日程第１ 一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（16名）

１番	金谷 典子	２番	重平 直樹
３番	安藤 功	４番	安本 博則
５番	谷本 有造	６番	則本 陽介
７番	萬代 師一	８番	尾髙 誉久
９番	岡﨑 正裕	10番	西元 進一
11番	本城 宏道	12番	鈴木 悦子
13番	岩江 正行	15番	万殿 紘行
17番	山本 重行	18番	山本 雅彦

3. 欠席議員は次のとおりである（２名）

14番	小渕 繁之	16番	日笠 一成

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市長	萩原 誠司	副市長	安部 薫
教育長	大川 泰栄	政策審議監	福原 覚
総務部長	山本 直人	危機管理監	山本 和毅
企画振興部長	池田 義和	総合戦略監	森分 幸雄
市民部長	安藤 郁雄	環境部長	妹尾 昌弘
経済部長	尾崎 功三	保健福祉部長	江見 勉
建設部長	真野 弘紀	教育次長	山名 浩二
消防長	山崎 正雄	会計管理者	安東 弘子
農業振興課長	岡本 和之	企画情報課長	有友 一正
専門学校等設立準備室長	髙尾 和弘	社会教育課長	宮前 聖

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	本田 卓治
課長	大佛 裕彦
主任	井上 大佑

午前10時00分　開議

議長（山本　雅彦君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止をされております。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告をいたします。議席番号14番小渕繁之議員が通院のため欠席です。議席番号16番日笠一成議員が同じく通院のため欠席でございます。横山副市長が通院のため欠席をしております。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（山本　雅彦君）

日程第１、「一般質問」を行います。

昨日に引き続き通告順に発言を許可いたします。

通告順番10番、議席番号13番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

皆さんおはようございます。

議長の許可をいただきましたので、３月議会の一般質問をさせていただきたいと思います。

きのう重平議員の質問の中で市長さんは、誰が書いた文書か知らんけどもというふうな、私にとってはえらい無礼なことを言ようるなというふうに聞こえたわけでございますけども、我々は市民の代表として文書であれ、自分の思いであれ、ここでしっかりと答弁させていただきたいと思います。

では、１項目めから入らせていただきます。

今回は３点について質問させていただきますけれども、１項目めは耕作放棄地の利用ともうかる農業の所得の安定についてでございます。

日本の農業は今大きな転換期にあるのではないでしょうかと思います。ＴＰＰが進む中で国際化の波をどう対処していくか、我が町中山間における農業をどのように発展させていくか、もうかる農業、農業所得の安定についての質問をいたします。

農地保全と農業再生、もうかる農業と所得の安定についてお尋ねするわけでございますけれども、質問の１項目めといたしましては、需要と供給の法則、地域の気候、風土条件に合った作物、市場においての価格の安定した農作物の調査研究はしているかということでございます。２点目は、耕作放棄地の現状と原因究明と将来に向けての展望と課題について尋ねるということでございます。

１項目めでございますけれども、需要と供給の法則でございますけれども、地域の気候、風土条件に合った農作物、市場においての価格の安定等農作物の調査研究をしているかということでございますけれども、次に後の質問で、市長さん外国のほうのずっと行とることについて質問するんですが、今言ようる美作市は当時は５年ほど前までは中国とのいろいろと友好縁組を、友好な関係が取り組んできとったようでございます。それで、子どもさんが行たり来たりというような中で、中国人が今最近東京のほうにも来て、爆買いじ

ゃというてたくさんの電気器具じゃとかいろんなものをたくさん富裕層の方が買うて帰りょうる。そういうような中で、私の友達が日中友好協会の理事長しとるということで、美作市の米を中国に向けたらどうかというようなことで、いろいろと取り組んだ経過がございます。それで、その中では今言ようる美作市で営農されとる２人の人を向こうの日本と中国のかけ橋というふうな形の中でしたんです。そこに大きなハードルがあります。と申しますのは、今言ようる中央会がやっとるパールライス、パールライスを通さなんだら今言ようる向こうの市場では米が販売できないんじゃというようなことを聞いとるわけですが、それがもうここ１年かぐらいのうちに大阪だけじゃなしに、全国で４カ所ぐらいパールライスの工場をというふうなことを言われておりますが、いまだたってそのことが前へ進んでないような現状じゃないかと思います。それで、そうしていたら、2017年２月15日の新聞見たら、岡山県と日本貿易振興機構という、岡山県と貿易情報センターの、これ赤磐市神田沖の県営の農林水産総合センター内で開き、米農家や市町村関係者ら約50人が一層の可能性を探ったというて書いとるわけじゃな、これ。こういうような取り組みが中国、香港に米を輸出するんじゃというような、そういうようなことが前向きにできようるらしい。美作市としては今言う市長さんらこの間外国旅行が大変お好きで、大変な経費を使うてヨーロッパじゃ、パリじゃ、ベルギーじゃというて行かれとんじゃけども、近くの13億5,700万人の中国の大きな市場、もう世界が皆狙とるわけじゃな、あそこへ。なぜそこに手を伸ばそうとしないのかというふうなとこについて、じゃあちょっと疑問に思うわけですが。それから、やっぱしブランドづくりの関係なんじゃけども、ブランドというのは今言ようるこの間も農業新聞に載っておりましたけども、魚沼産のコシヒカリと九州の熊本のくまモンの何とかという米とかけ合わせて、また新しい品種をつくっとるらしいです。それは何ならというて言うたら、キロが１万1,000円、60キロじゃけん66万円じゃ、１俵つくったら、１反の田んぼで10俵したら660万円、２反つくったらあんた方の給料よりかちょっと多いというようなことになるわけじゃな。だから、そういうふうなとこまでやっぱし汗をかいていかなんだら、市民の方々わからないわけじゃから、そこを誰が仕事をするんなら、どこへ呼びかけていくんならというのはやっぱしあんた方がせにゃいけんわけじゃ。それが中国では日本のコシヒカリがどえらいブランドになっとん。らしいです。コンテナ持っていて、そこでパールライスで精米した米を、１袋２キロの米をつくって向こうへ持っていったら、ヒカリ、ヒカリというてすぐなくなるというような、それほど非常に人気が高い。それは２キロの袋というのは、私たちが会社で営業しょうる人が菓子箱を持ってきますわね。菓子箱持ってくるというたら2,000円か3,000円のものを持ってくるわけじゃ。そういうふうな自分が食べるばっかしじゃなしにお土産に持っていくんじゃというような、そういうようなもんにも利用されるようなふうでございます。私の美作市内の友達も、専業農家をされようる人らもはや倉庫の準備はできとんよ、福山で。そじゃから、市民の方が一生懸命汗をかいて、頑張りょんじゃからもう少しそれを預かる行政の窓口がしっかりしてもらわにゃ困ると思いますし、それからこの前もテレビでしょうりましたけども、清流の米どころじゃというて、安来市仁多町、仁多米じゃというて、ここも一生懸命ブランドづくりしょうる、米の、寒冷差、水温、水質、こういうような関係の中で。それで、私ずっと岡山日赤病院も通よんじゃけども、そこの内科部長されよった人が、岩江さん、米を買うてくれというて、岡山県で一番標高の高いとこ、水のきれいな水、一番水のきれいなとこ、寒冷差の激しいとこの米を買うてくださいというて。それで、２俵買うてくれと言うたけん、２俵というていうたら60キロ２つかと思うて、わし４袋送ったわけですわ。ほったら、部長は２袋じゃと思うとったわけな、奥さんと２人じゃから。朝出る折に握り飯しとる、その握り飯が非常にうまいというて喜んでくれておりましたけれども、そういうような形の中でやっぱしああいうふうなとこの米を発信するのはやっぱり観光課、営業課、営業課があるんじゃろ、ここには、何の営業をしょんか知らんけども。そういうようなとこがやっぱし、動画でも何でもよろしいがな、中

国へ向けての動画、画面を通じて多くの人にこういうようなとこでこういうような米があるんじゃぞというようなやつやっぱり発信していくことがこの一番初めの所得の安定につながるんじゃねえかなと私はかように思うわけでございます。

それと、２番目の耕作放棄地の農地の現状と原因と究明と将来に向けての展望についてでございますけども、これやっぱしなぜ農業が衰退したんかという、その論点をきちっと明確に押さえなんだら、この問題はいつまでたっても解決せんのんじゃないかなと思います。それで、耕作放棄地の増加の問題が、原因等の対策が進まない理由、それは農水省が出しとる耕作放棄地対策事業実例集という、こういうようなもんがあるわけじゃ。これあんたらが目通してなかったら知らんで、知らんけど、自分は一通り関心があるから目を通しとん。これをひとつ一応１個ずつ説明していただきたいなと思うんじゃけども、それと耕作放棄地の定義、それから雑草や病虫害の増加、生態系にどういうふうな悪影響を及ぼすんか、耕作放棄地がふえたらという問題、それから耕作放棄地の面積と分布、耕作放棄地が生まれる原因と背景、耕作放棄地の対策としてのその考察、行政がかからなければならない非常に難しい問題、まとめとしては農地の一括査定についてという、そういうような中で、順番を追うてちょっと説明していただきたいと思うわけでございます。

先ほどの農業問題というのはアメリカのトランプ大統領がＴＰＰを離脱することを受けて、ＦＴＡやＥＰＡが加速するかもしれない。ＦＴＡの先進国、韓国の農業が疲弊してるのを参考に二の舞を踏まないように今から事を考えてほしい、これは市民の方の訴えてくれということなんですよ。市長に言われる前に先言うとくけん。

それから、近年果実を始めようと農産物の輸出が進んでいるが、本市において有望な品種の生産はどうなっているんか。また彩菜茶屋での箕面店でのアンテナ機能、消費者のニーズをつかんで生産者に生かすというのはどのように市内生産に生かされているのか、それから米輸出を考えて県内でも説明会が開かれているが、流通米でいまだに生産者にとって大きなハードルがある。先ほど言いましたね。今日の生産は飼料米、業務用米の生産が増大しているが、どうしても価格が抑えられるので、生産のコストダウンを図ることが最大の課題である。そのためには圃場の拡大や農業の確保、生産組織を含むことが急務であると。これ市民がこういうような訴えしとんじゃ。専業農家の人じゃ。この人らとかかわっとったらこういうようなことが聞けるんじゃ。ベトナム、ベトナムというてベトナムへ行たら、ベトナムは世界で輸出する米、日本以上に輸出する量の多い国なんじゃ、あっこへベトナムへ行って日本の米売れというたって無理なんじゃと思うんよ、わし。なぜ近くの中国行かんの、今まで大事にしてきよった中国といつから離れてきたんな。そういうような問題をしっかりと踏まえなんだら、問題解決しないと思います。そういうことで、とりあえず１項目め、１、２についての御回答お願いします。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

それでは、岩江議員からの御質問についてお答えさせていただきたいと思います。

まず、農業の問題ということでございまして、気候、風土に合う価格の安定した農作物の調査研究についてという御質問でございます。

先ほど議員いろいろとお米のことを中心にということで御質問がございましたが、まずは現状といいますか、今主に取り組んでおる内容についてまずはお答えさせていただきたいと思います。

本年度より新たな試みといたしまして、当市といたしましては、モチ麦の普及ということに取り組んでお

りまして、そのことについてお話をさせていただきたいと思います。このモチ麦といいますものは、大麦の一種でございまして、かつては瀬戸内海周辺でモチ性裸麦の在来種が栽培をされておりましたが、近年品種改良も進み、健康食材としてもテレビ番組で取り上げられたことから、広く注目を集めておりまして、このたび市としても推進してまいりたいということでございます。このモチ麦の中でも二条裸麦のキラリモチというものを、そういった品種でございまして、通常の品種に比べ水溶性食物繊維ベータグルカンというものが豊富に含まれておりまして、炊飯してから長時間置いても変色しにくいといった特徴を持った品種でございます。本年より市内の大型稲作研究会の皆さんの協力をいただきまして、試験的に作付を行っているものでございます。収穫量等についての不透明な部分もございますが、現在市場では輸入されるものが大半を占めるということから、安全な国内産を求める声が強いということも聞いておりまして、価格においては期待できるものと思っております。

以上、現在の報告できるものということでモチ麦を申し上げましたが、今後先ほど議員もおっしゃられましたように関係機関と連携を十分とりながら安全・安心で消費者の健康維持増進につながる作物調査研究に努めてまいりたいと思います。

続いて、２点目の耕作放棄地の現状、原因究明と将来に向けての展望ということでございます。

まず、美作市における耕作放棄地の現状ということでございます。平成27年度の現状を申し上げますと、耕作放棄地とみなされる農地のうち、再生が可能と見込まれるものが178ヘクタール、再生が困難と見込まれるものが556ヘクタール、合計は734ヘクタールであり、農地台帳で見る美作市の農地面積4,261ヘクタールのうち、17.2％を占めており、全国平均は9.4％でございますので、大幅に上回っておるという状況でございます。

御質問の耕作放棄地が発生する原因でございますが、農家の高齢化が進んでおることや、有害鳥獣による農作物の被害に伴う農業者の耕作意欲の減退なども考えられますが、一番の原因は、耕作条件の悪い農地では効率的な農業を行うことができず、労働に見合った収入が得られないといったことにあろうかと思います。この課題を解消するためには農家の収入につながる農作物の導入が必要でございますが、山間地の耕作不便な農地で栽培できる農作物を見つけられていないのが現状でございます。しかしながら、他県でもあります、例えば徳島県の上勝町の葉っぱビジネスではございませんが、今後はこういったシキビなど、農作物以外のものも視野に入れ、柔軟な発想を持って農地の活用方法を考え、耕作放棄地の解消につなげたいというふうに思っております。

それと、先ほど申しましたが、耕作放棄地の発生の原因といいますか、そういったものは先ほど言いました、やはり土地に見合った収入が得られないと、それと労働力の高齢化、こういったものが一番の原因であろうというふうなことでございます。今後においても十分そういったことを研究しながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。〔降壇〕

〔13番岩江正行君「答弁になっとらんのんじゃ。議長、言うたこととかみ合わんのじゃ」と呼ぶ〕

〔10番西元進一君「中国との輸出問題を言わなんだら〔聴取不能〕」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員、発言者以外の方の発言は御遠慮ください。

〔10番西元進一君「いや、わかっとん、わかっとるけど、ちゃんと言えええや、気がわりい」と呼ぶ〕

わかっとんならお黙りください。

経済部、先ほど岩江議員の質問の中で中国とか、そういったそこの取引関係、そういったところへの取引あるいは販売に関することについてはどういう取り組みができとんかというのがありましたが、そこのところがお答えできますか。

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

御質問の中国との取引に関しましては、現在のところは直接中国と取引というのは実績は聞いておりませんが、現在東粟倉のほうで農業をされておる方がおりまして、その方は台湾のほうの関係で、台湾のほうへ野菜を輸出といいますか、取引をされておるという実績はございます。中国には直接というのはちょっと今のところは聞いてはおりません。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

答弁せえ、答弁せえというて、議長、３遍はかないんじゃからな、わし言うとくけど、簡単に、きちっとしてもらえようると思うとる。立ったらまた２回済むんじゃ。これ言うたことに対しての答弁だけさせんさいや、あんたもそこで議長しょんだったら。営業課はどがいしょんなら、営業課は。それから、生態系の関係というたら、おまえ、危機管理じゃろうがな、これ。真野部長もじゃろう、おまえ、あんたがやっとるやつがこれじゃがな。のうしょんじゃねえ、おまえらふやしょんじゃねんか、ほれで、耕作放棄地を。

議長（山本　雅彦君）

先ほど岩江議員の質問の中で、有望品種の選定について、これは彩菜茶屋のことも含めてでありますが、それから農水省の定義の生態系への影響等の質問もありました。これについては、答弁できる部局がございますか。

〔13番岩江正行君「生態系への関係はどがいなるんなら、ほれで、耕作放棄地放棄したら。どういうふうな悪影響が出てくるんなら、おまえ。議長、おまえ聞っきょうれよ、おまえ、言ようることを、おまえ。誰のものなら、この問題を」と呼ぶ〕

それでは、答弁調整のために暫時休憩します。

午前10時26分　休憩

午前10時34分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

それでは、岩江議員の１回目の質問についての答弁から始めます。

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたしました。

それでは、経済部から現状でお答えできる範囲での答弁をさせていただきます。

耕作放棄地の関係で生態系についての御質問等でございます。耕作放棄地解消事業を生態系については推

進をしておりまして、それは要するに中山間、または多面的支払交付金、こういった事業をもって農地の維持等についてしていただくということで補助事業等を行っております。

また、彩菜でのニーズ調査ということは詳しくはまだ行ってはおりませんが、現実的に売り上げの多い作物について生産者に作付等をお願いしておる状況でございます。

また、先ほども申し上げましたが、国外への中国等への販売というのは余り現状ではございませんが、国内では本日、あすと大阪のほうで開催されております商談会というのがございます。アグリフードＥＸＰＯに農家の方とともに参加をし、販売拡大に努めておるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

岩江議員の質問にお答えさせていただきます。

営業課といたしましては、中国を相手としてこれまでの取り組みは大きなものは行っておりません。ただいま当方として考えておりますのは、主に観光客のインバウンドということを狙いまして、台湾との取り組み、それからスポーツを通じましてヨーロッパのスポーツツーリズムの、そういったことも踏まえてヨーロッパ等とのインバウンドの誘客を図っていくと。それともう一点は、従来からベトナム、そういったところの交流を進めていくと、そういったところに取り組んでいるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

岩江議員の耕作放棄地の現状と原因、それから将来に向けての展望、課題ということで建設部のほうからお答えをさせていただきます。

圃場整備を昭和50年代から今までですけれど、圃場整備をやっておるわけですけれど、その中で経年変化による湧水や水路からの漏水による湿田化、いわゆる田んぼが緩くなっているというふうなものは多く見かけております。市内にはとりわけ山間部が多いということで、高低差があってそういうふうなところが非常に多く見受けられます。その対策といたしましては、暗渠排水のやりかえというのもあるんですけれど、私が見る中では私もですけれど、抜き上げ排水などをして、人力で行って、対応しておられるというのを見かけておりますが、先ほどから岩江議員も言っておられますように高齢化というのが激しく進んでおりまして、抜き上げということになると、人力でされるということになりますので、なかなか進んでいないというふうなことで、田んぼが暗渠排水がきかなくなったり、山水が入ってきて、湿田化が進んでいるというふうには理解しております。当然建設部の関係で事業をするとなると、現在の制度では負担金をいただいてやるということになりますので、地元のほうで負担金の同意書を出していただいたり、それから負担金を支払いますという申請書を出していただいた後に県または国のほうへ申請をするというふうな運びになっております。

それから、農地の拡大ということですけれど、これにつきましても、拡大をしても生産性が上がらなければ一緒なわけでございまして、まずは先ほど議員からもいろいろと提案がございましたけれど、何をどのようにつくるか、規模はどのようにしたらいいかというような採算性を立てて、農地の拡大というものが図れ

て、そこで負担金を払える余力が出てくるというふうにもなると思っております。私どもといたしましては、そういう書類が届いていただければ、積極的には対応してきたいというふうに思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

全然答弁になりょうらんので。あんた、議長、しっかりしてくれよ、ほんまに。時間が過ぎたら済むような問題じゃないんじゃから。２回目言うけどな。

議長（山本　雅彦君）

２回目、はい。

１３番（岩江　正行君）

しっかりしてもらわなんだら、もう次立てらへんど。

これ耕作放棄地を生まれる原因と背景、この問題についたら、全然言うてない。これは答え言うちゃるけど、これ農業者の参入するハードルとしては非常に農地法の制限があるわけでしょう。そこの農業委員会が許可を出すのは相手が農家もしくは農業従事者だけじゃというふうな、こういうふうな問題。農業を始めた人が簡単に参入できる仕組みにはなってない。そういうようなことが一つの原因じゃ、これな。それと、ここへ耕作放棄地の問題は国土の小さい日本において土地を有効活用していく点でも生産労働者の人口の減少を見据え、効率的な農業を目指す点でも重要じゃと、その一方で食料生産の基幹である農業を確保するために農地に厳しい制限が授けられ、耕作放棄地を生み出してきたのは、ということを書いとるわけよ。ここではどがしてするんというたら、政府は目標は10年間で全農地の８割が集約化された農地を利用する行動の実現じゃというて、政府はそういうような考えを持っとるわけじゃ。しかしながら、農地の集約化により大規模な農業経営者が参入することで農業全体の生産性は上がるとして、競争力のない小規模な農家には死活問題じゃというて書いとる。市民の心が、これは、あんた方、この本質的な分析が全然できん職員ばい、市長から全部が。物言わんということはそうじゃろ。本質的な分析ができんのんじゃ。あんた方は言ようることは皆、皆無な話をしょうるわけじゃ。皆無なんじゃ、言ようることが、皆。ほじゃから、私なぜ米の関係の話をしたのに、なぜ米を美作はしないのかということを、それ言わにゃあいけんでしょうがな。果物、ブドウもたくさんつくりょうる、これらについてはなぜ今言ようる営業課としないのかという。誰があんたに、おまえ、遊びに行たとこの、おまえ、報告してくれというてわしが言うたんな、そがな質問書いとらせんど。そうでしょうがな。それと、今ここで労働組合が春闘闘いようる。賃金闘争2,000円じゃ3,000円じゃというて言ようる。あんた方は労働運動はしないけども、人勧であんた方こんだけですよというて、国家準じて最低限の保障はどこまでか知らんけど、地方公務員の、知らんけども、春闘闘うてきようる、皆、労働組合が。農業の所得というものは時給が230円じゃ、40円じゃ、50円じゃというて言よんでしょうがな。労働者の最低賃金というのは800円にもまだ足らんのでしょうがな。あんた方の責務というのは何ですがな、何じゃあな。そのことをきっちり答弁してもろうたら簡単にひもが解けるん。ほじゃから、本質的な問題が認識されんの、分析ようせんのんよ、皆。それから、教えてあげなんだら、制度があっても、こういうのを妨害するのがおらあのう、のう、部長、あんたんとこの頭が妨害しとんじゃろ、この工事を、全部。な、萩原市長、真野部長が言うたんじゃ。これ26年から出しょうる仕事なん、暗渠排水の問題。田んぼを見てみんさい、これ、写真は配らんけど。ずっと汚染されてしる田になってしまよん。米がつくれないん。これを妨害して耕作放棄地をたくさんつくってきようるのは誰なというたら、あんた方じゃねえか。そのことを言よん

じゃ。きちっとした答弁。

営業課から言えや。米を営業せん、ブドウや桃を営業せん、その原因は何ならと言よんじゃ。基幹産業のつくりょうるものをじゃな。

議長（山本　雅彦君）

副市長。

〔13番岩江正行君「言えや、ほれで、危機管理監もおるんじゃし。この間言うた話の宿題ができとらんで言よんで」と呼ぶ〕

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

御納得のいく答弁が多分できないと思ってますけど、暗渠のことは後から建設部長のほうが言います。

岩江議員がお持ちになってる資料を私も見てませんので、中身について詳しいことは言うことできませんけど……

〔13番岩江正行君「見せてあげる、これわし書いとる……」と呼ぶ〕

私が今ちょっと答弁しますから。耕作放棄地の今言われたのは原因と背景というのがあるんだと思いますけど、まず米を食べなくなった、日本人が、大きな要因だろうと思います。今１年に60キロも食べてないんだと思います、55キロぐらいじゃないですか、たしか。それでは米の消費がないということがまず１つではないかと思います。それから、例えばですけど、お茶の話をしますと、鹿児島の知覧とか、九州の八女とかありますけど、ああいうところでお茶をつくるんと、こちらでつくるんとでは相当の経費の違いもあります。米もそういうところがあって、例えば秋田の大潟村ですか、あそこの副村長と私親しいもんですからいろんな話しますけど、ああいうとこのほうが生産コストが安い、こちらのほうがなかなか大変だということで、国のほうとしては例えば中山間直接支払制度ですか、あれで、私の村も受けてますけど、何とか耕作放棄地を維持しようということで今頑張ってるのが現状です。要するに米に対するマーケットが非常に小さくなってしまったということが一番大きな多分原因だと思います。なかなかそれをうまく売ろうと思っても売れないんですけど、最初御質問にありました島根の仁多町ですか、あそこの話で行きますと、あのときにたしか１俵がたしか9,000円ぐらいだったと思います。それを和歌山の問屋さんですか、事業者が買って、１万4,000円ぐらいにすれば、何とかあそこで米をつくって、余り耕作放棄地を少なくするんじゃないかと、減らすことができるんじゃないかといって、実はあれ大変な管理だったらしいんですけど、朝夕必ず水を見に行って、夜になったら冷たい水を入れるというのが例の食味計の話になると思うんですけど、85以上が出ると売れると。そのことで広げて話を見ますと、岡山県の場合例の特Ａという米がまだないと思います。なぜか同じ品種できぬむすめですか、鳥取県は特Ａ持ってまして、ネット販売で９月になったら新米というのがネット販売で出てきますけど、店の名前言ってはまずいですけれど、まず特Ａしかあのネット販売の中出てきません。Ａはまずほとんど出てきませんから、やっぱり特Ａはとらないと、米をつくるのもなかなか難しいんじゃないかと思います。

それから、農業で所得で言えば200円幾らなんだろうと思いますけど、最低賃金が今700円幾らですかね、これは最低賃金は700円幾らというのは収入の分野ですから、所得で言うと、果たして農業がそうなのかというのはちょっと、農業のものを収入に直すと、恐らく所得ですから、収入から経費を引いた残りがそうなってるんであって、幾らになってるかちょっとわからないというところであります。

いずれにしましても、なるべく耕作放棄地がないほうがいいのは当然ですし、なかなか有望な品種も見当たりませんけど、この地域で与えられた条件の中で頑張っていくというのが一番今の重要な課題だと思ってます。とにかく戦前に田んぼでなかったところを、私の村もそうですけど、米がもうかるからといって畑を

どんどんどんどん田んぼにしていきました。今それがまた山が押し寄せて、どちらかというと耕作放棄地になって、我が村でもありますけど、山に返ってる。しかし、それではいけないということで、村が維持できないということで、特に市内でも各地域によって差があると思いますけど、中山間の支払い制度で年間100万円近くの金を国のほうから交付していただいて維持をしているというのが現状ですので、なかなか難しいところですけど、耕作放棄地を少しでも少なくするということで頑張ってまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

副市長、果物等についての輸出と販売についての営業というのは質問の中にありましたが、そのことは答えれますか。こちらですか。

副市長（安部　　薫君）

果物についてはわかりませんね。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

それじゃ、市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

本来経済部のほうから米にしろ、果物にしろ、あるいは根菜野菜にしろ、お答えすべきでございますけれども、私のほうから若干お答えしますと、当市の産物の中で国際的に通用するものがあるかどうかという点からまず申し上げますと、内容として、品質としてもう恐らく全てのものが国際的に通用するレベルに達しているというふうには思っておりますが、問題があるのは国際的に品目として通用するだけじゃなくて、量が一定をしているとか、あるいはさまざまな貿易手続と貿易上のリスクに耐える組織を持っているかというようなところになってみると、なかなか国際的な取引にじかに参入するというのは難しい問題がある、こういうのが今の現状だというふうに思ってます。したがいまして、市内の有望な農家の方々、米についても、あるいは野菜についても、果物についても、国内において私どもの産品を高く評価をしていただける、いわゆる消費者をきちっと探し、契約栽培とか、あるいはインターネット販売等を通じながらその所得の向上に努めており、それに対して私どももできる限りの支援をするというのが今のところの基本になっているわけであります。そして、その支援というのは、大まかに分けまして２つ、３つありますが、１つは、私どもの産品について、それが安全であるということに加えて健康の維持管理、あるいは体調の改善といった健康増進の機能がいかにあるかと、これは随分それやってきましたけども、いろいろ調べをして、そして例えば当市のものについて言うと、基本的にほぼ全ての品目についてビタミンＣの含有率が高いとか、あるいは鉄分の含有率の高いものがたくさんある等々の情報提供をすることによって次第にブランド化の方向に持っていこうというようなこともやっているわけであります。

もう一つは、これも御案内かと思いますけれども、最近いわゆるふるさと納税という制度がありますけれども、このふるさと納税の制度の中に私どもの産品の優秀なものをなるべくたくさん入れようというようなことの中で、特にブドウ、あるいはイチゴ、あるいは桃などの果物においては非常にいい成績を博し、そしてその結果として日本全体の多くの方々の中で美作市の商品のよさというものが理解をされていると、よってもって、毎年毎年のいわゆるふるさと納税の額も、備前市のように20億円とかということになりませんけども、このところ毎年５割以上の伸びを示しておりますが、その主たる産品が私どもの農産品になっていると、こういうような状況になっております。

それからまた、もう一つございますけれども、彩菜茶屋、あるいは箕面にあるショップでございますけども、ここにおいては量が拡大を一挙にしてるとは言えませんが、非常にコンスタントに主に勝田地域の米が

出ておりまして、この米を向こうで精米をして、精米をした直後に売っていくと、こういう形の事業が展開しておりますが、固定客もついていらして、なかなかの好評だというふうに私どもとしては思っております。加えて、一部の地域でございますけども、非常に付加価値の高い米の生産が現に始まっております。上山地区における酒米の生産などはこの筆頭典型でありまして、商売の方法というものも我々としては目をみはるようなやり方をしておられますが、このあたりになりますと、１俵当たりに換算すると10万円ぐらいの価格に相当するような収入になっていると、特殊なつくり方をし、そして売り方を考えてやっているということも非常に大きな参考になるわけであります。

今後私どもといたしましては、耕作放棄の話はさておきまして、先ほど経済部のほうからありましたように当地の気候、風土にも適しているというようなことでモチ麦の作付の拡大を今お願いをしておりますが、これは別途の統計、例えば農業共済の統計を見ておりましても、このところ美作地域において麦の作付が拡大をしているということ、これは農業共済の議会における委員の方々もごらんなったと思いますけれども、非常に有望な雰囲気になっております。せんだって吉野にありますきんちゃい館において試作品としてモチ麦をまぜたモチと、モチ米の中に１割５分ぐらいですかね、あれ、モチ麦をまぜて、そしてふかして、そして場合によっては豆餅にしたり、あるいは普通の餅にするんですけど、非常に好評であったと。ひょっとしたら新しい特産品に成長をするかもしれない。そして、その売り方も彩菜茶屋の方々も心得ていて、いわゆる陳列棚の下に商品説明があって、例えばベータグルテンが多いんで高血圧とか何やかんやいろんな多様に、それを食べるとよくなる可能性のある症状というようなこともきちっと提示をする中でやっておりますし、またこのモチ麦につきましては、経済部と、それから保健福祉部が連携をしながら全国的な調査、全国のシンクタンクを通じて、どういう地域の産品が健康上いいのかといったことを中心とした調査があるんですけども、そこの調査品目にモチ麦をしていただいて、農林省のこれは助成を得ているわけでございますけども、全国に少しずつ当地のモチ麦について発信をしていきたいというふうに思っているわけであります。

それから、マイクロブランドということで、米について申し上げますと、例えば東粟倉地域の清流米と言うんだったかな、なかなかおいしい米がたしかございまして、これにつきましては、それなりの価格を若干普通の米に加えて、つけて、取引が行われている等々、具体的な実例もあるわけでありまして、私どもとしては今申し上げたようにじかに当地のものを国際的な条理に持っていくためにはまだ形態としてのリスク管理等が厳しい、特にタイ、中国につきましては、非常に商取引上難しい問題がある地域でございますので、県あるいは国の動きの中に当地の米が自然に混入することについてはとめておりませんけれども、それ以上国の制度を超えて私どもが、いわゆる裸で突っ込んでいくということについては、しばらく様子を見ていかなければいけないだろうと、こんなふうに思うところであります。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

暗渠排水の工事と、それから私の記憶では水路の改修はセットの話だというふうに記憶をしております。その中で同意書は出ておるんですけれど、水路のほうの申請書は出てないというふうには記憶しとんですけれど、それがもし間違いであれば、事業のほうは進めてまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

一通り終わりました。

〔13番岩江正行君「〔聴取不能〕言っとらんがな、議長、何聞きょんなら、ほ

れで。米を営業しないのはなぜならというて言うたがな。営業課の話をしょんじゃ」と呼ぶ〕

米を売らない理由というのは、売らないというか……

〔13番岩江正行君「対象にしとらんのは何でならというて言よんじゃがな」と呼ぶ〕

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

ええ、もう。そがなな、ぼうっと、ほじゃから言ようる、先ほど言うたろ、本質がようわかっとらんから、あんたの頭を動かさんのんよ。ほじゃから、あんた方の言ようることはもう皆無なんじゃ、はっきり言うて。部長、あんたから言わあ。あんたええ頃のこと言うちゃいけんど。26年から要望書出て、道路のやつと並行せなんだら、田んぼが物すご被害をこうむりょうるけども、公費の二重投資になったら無駄じゃからというて田んぼをつくりょうる人が泣く泣く待っとるわけじゃ。それをなぜなら、なぜならというて言うたら、去年かおととしか知らんに、あんた、聞いとんか聞いとらんのか知らんど、あんたに報告してもろうとんかしとらんのか知らんど、あんたとこの職員という人間が来とるわけじゃ、わしのとこへ。関係者皆寄せて説明会しとんじゃ。そこまでしとって、それの前には農地を全部連れて歩いたんじゃ。こりゃあ大変ですなというて回っとるわけよ、職員と。優先順位までつけて全部同意書をつけて出しとるのに、あんたんとこに届いとらんということになると、これまた大変じゃ。帰ってから部落長に言うとくわ。あんたはそういうような認識でおるん。それから、あんたはこの前はここの道路の関係、その関係で言よったら、今言ようる、あんたどがい言ったら、萩原市長が妨害しとんじゃ、岩江さんまた、な。過疎債4,000万円近い数字が上がっとんよ、県のほうに。過疎債の変更出しとろうがな。4,000万円近い上がっとん。それいまだたって生活に直結したような事業をせずに、ベトナムじゃあ、パリじゃあ、よそのほうのことには非常に熱心なというやつは後から言わせてもらおうと思うんじゃけども。先ほど、もう今言ようる最低限の生活というのはどのぐらいものが必要なんな、ということを言よんで。あんた方全然わかっとらんの。審議監、ちょっと書くのやめんさい、人の話聞かなんだらいけん。どのくらいぐらいが今１人が生活するのに１年間どのくらいぐらいな経費が必要なんなと、それには農家所得が、今言ようるわしらが調べえでもあんた方皆わかるんじゃろう。農家所得はこれ米つくってもつくっても、今言ようるようて小規模の農家だったら赤字なんじゃろう。それをどがしていくかということが大事じゃ。市長今言ようる10万円が売れるんだったら、それは今言ようる中国へ持っていって、10万円で、２キロが3,600円で売らんでも、それは市長、本気でそれをあんたが黙っとったらいけんがな。職員に言うて聞かせて、地域懇談会あんた回ったんじゃから、10万円で米が売れるんでというてなぜ言うてあげんのんなら、ほれで。この場つなぎに物を言うようなことじゃなしに。それで、やっぱし牛の肉にしたって、やっぱし水のええのを飲ませたら、肉にサシが入ってというふうなやっぱし効果が出てくるらしい。ほじゃから、米にしたって、モチにしたって、ほじゃからきのうあそこの餅工房の社長と話したんじゃけど、やっぱし標高の高いとこの米がええんじゃと、ついてみて。というようなことも言ようりました、ヒメノモチをつくっても。それと、山田錦、これ酒米の非常に歴史が古いわけよ。東北のほうでもまだ山田錦ずっと使いようる。わしら小さいまから山田錦という米ここら辺もつくりょった。ほじゃけど、10万円で米買いようるというのはわしは、酒米で10万円やこうこれ出しょうったら絶対合わんでな。酒がとんでもない酒になるでな。１俵10万円出してみんさい、60キロ。そういうふうに売れりゃあええんじゃけども、握り飯を１キロの米を１万1,000円の米なんかあったら、京都の祇園や東京の赤坂、大阪の北新地、それから九州の中洲、あっこら辺のとこの料亭やこうでしょうるやつは、はい、おかみが持って

きて、これおにぎりですというて出したら、それは１万円のもんでもあっこら辺の人はおいしいなというて食べてくれるん。やっぱしこれが1,000円じゃというて言うたら、ああ、ちょっとなというてこうやるかもわからん。やっぱしそういうようなとこにもやっぱしそんな10万円で売れるんだったら、そこらへどんどんどんどん営業してもらわなんだら。何も台湾だ、道の肥やしにして、台湾、ベトナム、ベルギー行て、ほれから、おまえ、フランス行て、どがいな効果があったんか知らんけどで、農家の関係やこ全然関係ないわけで、今。もう少し今言ようる大半が小規模の農家が多いわけじゃから、美作市には。それだけに今言ようるもう少し市民の目線での行政をやっちゃってもらわなんだら、これは今言ようる市民がいつまでたっても泣かないけん。税金を取られる、税金払わなんだら水道とめられる。借金したら公共料金を高うして上げりゃあええわけじゃけん。そういうような繰り返しでは困るわけじゃから、ほんまに市民の方がここへ来て、住んでよかったな、生まれてよかったな、言えるようなやっぱし行政をしてくれなんだら、あんた方が落下傘でぱっとおりてきて、わしはもう１年ほどおったらしまいじゃというようなことだったら、部長、困るんじゃ。そういうことで３回目、もう少し、危機管理監、あんたこの間宿題出しとるやつが副市長がわしに言うたんじゃ。全然働かんのんじゃ、あんた、機能しょうらんのよ。ちょっと電池入れかえんさい。大分電池が済んどる、あんたは。そういうことで。

議長（山本　雅彦君）

それじゃ、ただいまから10分間休憩します。

午前11時08分　休憩

午前11時18分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、岩江議員の３回目の質問の答弁から始めます。

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

今暗渠排水の事業の進め方といいますか、進捗のことでございますけれど、暗渠排水、それから水路の申請書はともに出ております。それから、暗渠排水の同意書も出ておりまして、それから水路のほうは今同意書をやりとりをしようる最中だということです。ただ、地元のほうからは29年度で着工できないかというようなお話をいただいとんですけれど、担当課としてはちょっと間に合わないということで、平成30年度の新規採択に向けて事務を進めているというふうな状態でございます。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

〔13番岩江正行君「これ読め、これを。そがなもんええ、しとらんのじゃけん、何にも」と呼ぶ〕

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

先ほど来の御質問の耕作放棄地の解消ということでございます。先ほど議員も申し上げましたようにその要因の一つとして農地法の関係、規制があるんではないかということでございます。当然市内では下限面積というのがありまして、10アールから30アールというものがございます。こういったものもありますので、

例えば新規就農される方がおられましたら、その購入、取得ではなく借り入れ、農地の利用権設定等による借り入れ等を進めておりまして、少しでも荒廃地をなくしていこうという取り組みでございます。

また、農地の集積につきましても、中間管理事業ということでさらに市民の方々にも周知をし、進めていきたいというふうに思っております。

先ほど私のほうから本日とあすの２日間商談会ということで大阪のほうへ販売売り込みに行っておるということでございます。その中にもいろいろと農家の方がお米やお酒、また野菜やイチゴ、こういったものも含め、商談会ということで参加をしております。また、こういった市としては現在そういった方々も含め、大規模の農家や関係機関により販路開拓会議というものを設置しておりまして、販売拡大に努めておるというところでございます。そのためには確かに量の確保が必要になってまいります。成功すれば必要量を確保するために小規模な農家の方々にも御協力をいただき、生産協力にお願いしたいというふうにも思っております。

また、この販路開拓会議の中には現在輸出を考えられている農家もございまして、一緒にお話を伺いながら協力し合い、そういった海外への進出といいますか、取り組みも行えればというふうにも考えておりますので、今後とも御支援、御協力方、よろしくお願いをいたします。〔降壇〕

〔13番岩江正行君「根拠言わせえや、何ならや」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

今経済部長の答弁もございましたので、農家所得の……

〔13番岩江正行君「営業の問題をなぜ、今言ようる言うたがな、なぜ米のやつの営業をしないのならというてわし言うたがな、それ。営業課じゃろうが。何しょんなら、ほれで」と呼ぶ〕

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

米の営業に関係しての御質問でございますが、企画振興部の営業課におきましては、本市でおける総合戦略のそういった策定であるとか、そういった企画部門を担当しておる部署でございます。具体的に米の販売、そういったものにつきましては、先ほど経済部長のほうからも答弁ございましたが、経済部のほうで御担当いただいている、そういうとこでございます。

以上でございます。〔降壇〕

〔13番岩江正行君「議長、もう一人、もう一人、もう一人おるがな、そこへ、わしの前へ、おらんのか」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

一般質問にあった質問ですか。

〔13番岩江正行君「そうじゃ。そこおるがな、管理監がおるがな、管理監というて書いとるがな。もうええわ。もうしたって立たんのじゃから。仕事したもんが金もらうんで、言うとくけど。仕事せんものは金もらうようになっとらんで、民間だったら。はっきり言うとくけど」と呼ぶ〕

〔「〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

〔13番岩江正行君「黙っとれえ、〔聴取不能〕。おまえのとこの金払わんと〔聴取不能〕」と呼ぶ〕

総括になります。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

総括。

これ前にも災害の問題でしたことあるんよ。農地には洪水防止の機能があるというて言うとるわけじゃ。耕作放棄地になったらどうなるんなというような、その観点から一言ないと物言うてもええわ。それから、生態系の問題、耕作放棄地がどんどんどんどんふえたら、どういうような弊害が出てくるんなら。そのくらいのことをちゃっとあんた方も一緒になって、やかましゅう隣に言うて、してもらわないけんのじゃねんか、ほれで。それから、県から来た誰やらの企画の部長か、先ほど言うたろ、本質的な分析ができんようなもんが何の企画ができるんなら、ほれで。ようそがな恥ずかしいようなことを言うたんじゃな、ここでほんまに。あんた方点数つけえというたら０点じゃ。

これで次に入ります。

議長（山本　雅彦君）

それじゃ、２項目めに入ってください。

１３番（岩江　正行君）

２項目め、ＮＯＤＡレーシングスクール誘致事業の成果と欠陥について。

美作市はＮＯＤＡレーシングスクールに多額の血税を投入したが、議会では同校の生徒数を初めは30名程度として経済効果を説明しているが、平成27年では７名、平成28年では４名と減少傾向にあると聞いたが、経営不能にはならないか、市としての生徒募集の支援はどのように取り組んでいるのか。では、ＮＯＤＡレーシングスクールの施設、運営等の補助金が適正に処理されているか、平成29年度に向けての生徒数の確保は十分か、尋ねる。

１番としまして、施設運営補助金として設置後５年にわたり毎年限度額1,000万円の補助金を支出している予定にしているが、目的外に利用してないかというこの問題。

２番目といたしまして、同サーキット内のミニコースを第三者の改修工事を実施しているが、補助事業はモータースポーツ振興発展を通じた体験型スポーツツーリズム確立事業と聞いているが、同振興会では補助金を流用することが可能なのか、尋ねる。

３番目として、ＮＯＤＡレーシングスクール平成29年度生徒募集について、平成27年、28年は生徒数が非常に少ないが、経営不能に陥らないよう美作市としての生徒募集、支援の取り組みについてお尋ねするということでございます。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

ＮＯＤＡレーシングスクールに関しましての御質問にお答えをいたします。

まず、１点目でございます。施設運営補助について設置後５年間にわたり毎年限度額1,000万円の補助を予定してるが、目的外に利用されていないかという御質問でございますが、ＮＯＤＡレーシングアカデミーに対しましては美作市教育施設等誘致促進補助金交付要綱に基づき、設置後５年間1,000万円を限度として施設運営補助金を交付しているところでございます。同要綱に基づきまして、平成27年度に1,000万円を交付し、平成28年度においても1,000万円の交付決定を行っております。補助金交付に当たりましては、実績報告書の内容を精査し、補助金を確定をいたしております。目的外に流用した事実は確認しておりません。

次に、岡山国際サーキットの同サーキット内にミニコースを第三者の改修工事を実施しているが、補助事

業名がモータースポーツの振興発展に通じた体験スポーツツーリズム確立事業と聞いているが、青少年少女モータースポーツ振興会では補助金の流用することが可能なのかという御質問でございます。議員の御質問の補助事業につきましては、総務省が所管しております地域経済循環創造事業交付金のことを言われているものと思われます。この事業は、平成27年度に美作市の地域資源である岡山国際サーキットと湯郷温泉の活性化、スポーツを通じた地域振興の追及、地域資源を利活用した体験型モータースポーツ観光の振興による地域力の活性化、モータースポーツの発展、振興が促す日本の自動車産業への隆盛などを目的に、ミニコースの改修及びＮＯＤＡレーシングアカデミーの校舎の学生寮を設置するなどの事業を総務省の交付金事業として事業採択を受け、青少年少女モータースポーツ振興会が事業実施主体として事業を実施しております。議員の御質問の青少年少女モータースポーツ振興会が岡山国際サーキットの施設であるミニコースを改修することにつきましては、総務省に事前に協議を行った上で、同サーキットの改修及び施設使用の同意を得て、事業を実施しております。補助金交付に当たりましても、事業実績報告書に添付されております事業報告書や契約書などにより支払いを確認するなど、内容を精査し、補助金を確定し、国に報告をしております。

次に、野田レーシングアカデミーの平成29年度の生徒募集について、平成27年、28年は生徒数が非常に少ないが経営不能に陥らないか、美作市として生徒募集、支援の取り組みについてという御質問でございますが、ＮＯＤＡレーシングアカデミーの生徒数につきましては、議員御指摘のとおり現在は少なく、厳しい経営状況にあるということは私どもも認識をしております。平成27年度は７名の生徒が在籍しておりましたが、平成28年度は特待生１名を含めまして５名となっております。野田校長に生徒の確保のお願いと安定した経営に向け、意見交換を行っているところでございます。

本市といたしましては、安定した経営ができ、生徒が夢に向かって頑張れる環境が整うことを願っております。平成29年におきましても、新規スポンサーの獲得、生徒募集の方法の見直しを行うなど、１年間をかけて経営安定に向けた取り組みを実施すると聞いております。また、今年度から新たに取り組んでいらっしゃる一般の方を対象にした短期合宿や、ＮＯＤＡレーシングアカデミーの活動について市民の方に知っていただくための施設の一般公開、ドライビングシミュレーターの体験など実施ができないか、現在ＮＯＤＡレーシングアカデミーと協議を行っているところでございます。

いずれにしましても、最後にお願いとなりますが、岩江議員を初め、ここにおられる議員の皆様方の温かい支援がレーサーを目指す生徒の励みとなりますので、引き続き御支援のほど、よろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

〔13番岩江正行君「議長、議長、成果と欠陥はどがいなん。議長、成果と欠陥言わんがな。どがな成果があって、どがな欠陥が出とんな」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

今までの補助金の交付によっての成果、その後の結果。

〔13番岩江正行君「この事業を誘致して」と呼ぶ〕

あるものをそのまま言えばいいです。

〔13番岩江正行君「どがな成果があったんな」と呼ぶ〕

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

成果と結果についてでございますが、まず成果といたしましては、アカデミーの関係者といたしまして12名の方が当方にいらっしゃっております。そういう関係から地方交付税、そういったものの算定等にも寄与しているものというふうに考えております。また、地域への波及効果といたしましては、アカデミーを運営するに当たり常勤講師１名、非常勤３名、給食職員１名、事務職員１名、計６名の地元雇用がなされております。さらに、週２回程度使用する岡山国際サーキットの使用料として毎月20万円程度、それから寮生活を送る生徒たちが地元食材を中心とした給食食材として毎月20万円程度、それぞれ支払われてるほか、市内で生活をするために必要な日常品や備品などを購入、そういった経済波及効果もあると考えております。

実績につきましては、生徒それぞれいろんなレース等に参加をさせていただいております。生徒の中にはレースの中で上位入賞したと、そういった成果も、成績をおさめたという生徒も出てきているということを報告を受けております。

以上でございます。

〔13番岩江正行君「欠陥はないんか、ほれで。欠陥はないんか」と呼ぶ〕

結果と……。

〔13番岩江正行君「欠陥はないんかと言よん。結果じゃねえ、欠陥というて書いとろう。あんたと直接取引したいことはないけども、議長、しゃんとしてくれえや。欠陥というて書いとろうがな」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

成果と欠陥について。成果は今報告がありましたから、欠陥がもしあれば、それは報告してください。

企画振興部長（池田　義和君）

失礼いたしました。

欠陥としては特に認識をしているところではございません。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

２回目な。

欠陥がないらしい。こういうことなんじゃ。この1,000万円の関係、中国銀行の支払いに行きょうらへんか。森分君、あんたの名前がちょこちょこわしは見えたんじゃけどな、あっこへ中銀行とったら。年間500万円ぐらいで５年間で2,500万円払うような、そういうようなお話はなかったんですか。そういうような話があるんかなかったんか。いや、それは、まあええ、また聞きんさい。あったんかなかったんかという話じゃけん。

それと、12名のどうのこうのというて言ようたが、地方交付税が何ぼ来るんなら、12名に対して。1,000万円ずつお金を出して、全部ではや五千何百万円使うとんよ。その上にこれ毎年、これから去年から1,000万円ずつ出しよんじゃ、28年から。地方交付税が何ぼ入ってくるんなら、この12人に。あんた数字のようわかったようなことを言ようるけどな。それから、20万円ずつで経済効果がたくさんあると言うた。言ようるわけじゃろ。ほんまにこれそんだけの人がおられるんか。

それと、ＮＯＤＡレーシングスクールの生徒の関係。これ初めからいうたら、こういうような話をわしちょっと耳にしたんじゃけども、生徒の確保するまでに少し準備がかかるんで待ってくれというような話は美作市にあったんじゃないんか。そしたら、あんた方は、交付金の関係があるから、緊急対策のやつでやりょ

うるやつじゃから、早う早う早うというて引っ張ってきたんじゃねんか。それにしても誘致企業をするということになると、市長さん英田のほうへまた工場誘致でどうのこうのというて行政報告の中で言ようたけども、人を確保するの大変なんよ。大変なんじゃ。あんた方来るだけ来たら、社長これで自分が経営したら責任が全部できるんよ。ＮＯＤＡの社長、全部責任じゃ、これ。人を無責任にも甚だしいど、あんた方は。どがな取り組みしょんなら、そのことについちゃあ一つも触れりゃあへんがな。生徒募集について、どがしてＮＯＤＡの社長に助けを、ＮＯＤＡレーシングスクールに支援をされよん、生徒確保について。初めは30名じゃと言うたんで、あんたは。このことが無責任じゃと言よんで。ＮＯＤＡの社長から聞いたんじゃない、あんた萩原市長がここで言うた話で、これは。約10分の１じゃがな。こういうような形の中で経営せえというてあそこに言うこと自体がおかしい。あんたなぜ、あんた方には熱いもんがないんなら。無責任ながな。森分君よ、戦略監か、無責任過ぎる、あんたら。ことしの春にはわしらこういうような動きして、去年は３名だったけども、４名だったけども、ことしは美作市がもう町を挙げて取り組んで、こんだけの生徒を確保したんじゃというようなもんがここへ出てこにゃいけまいがな。林野高校でもそうでしょうがな、定員割れしてしもうとんじゃろうがな。ヨーロッパじゃ、広っぱじゃというような話じゃないでしょうがな、市長。今身近な問題を解決していかにゃいけん問題がたくさん、おまえ、山積しとんじゃがな。呼ぶだけ呼んできて、おまえね、おまえとこが経営せえ、おまえとこせえ、おまえとこせえというような、生徒を入れにゃあ困るというのは、そんなん無責任じゃというんじゃ、これな。市がかかわらんと、企業だけが来てしとんだったらええけども、あんた方が働きかけて来とんじゃろうがな。ベルギーかフランスのほうか何か知らんけど、７人も行て、うそうそうそうそして戻らいでも、その人間をＮＯＤＡレーシングの関係で、ちいたあ営業に回しとってもばちは当たらん、そんなものはほんまに。やり放題じゃ。これが次に大原の滋慶学園になるんじゃが、きょうも新聞出とったけども。通信大学の関係で、嶋貫さんという人の名前も出られましたけど、えらいまたやつを呼んできて。またこれ同じような問題が起きりゃへんかと思うん。美作市をあんた方はよそから来て、めぎい来たんか、美作市を応援しょうと思うて来たんか。もう少し考え方を新たにしてくれなんだら、そこらじゅうかっちらかして、市長は来年の選挙じゃけん、当選するかもわからん。立候補せんかもわからん。あんた方はもう１年もしたら帰るじゃろう。戦略監、あんたこの春帰るんじゃろう。まだおるんか。ええころのことして無責任なことだけせんようにしてもらわにゃ困る。やっぱり市民の流した汗が報われるような市政をしてもらわなんだら。誰かが言うた言葉じゃないけども、もう少し真剣な行政をやっていただきたい。

議長（山本　雅彦君）

答弁。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、お答えしますが、いずれにしても、質問の際にはそれなりに品位というものを確保していただきますように心から、議会、全員の方々、お願いをまず申し上げておきます。

ＮＯＤＡレーシングについて私どもが生徒の確保までやるということはちょっとやり過ぎじゃあないかとはまず思っております。それはあくまで経営主体であるＮＯＤＡレーシングアカデミーの責任であります。一方で、我々がその努力をさまざまな形で支援するということについては、これはあり得るというふうに考えておりまして、例えば我々が今までやっている、まだ実現はしておりませんけども、支援の内容としては、例えば日本体育大学の学生の方々の中でレーシングについて興味がある方々に対して同大学とＮＯＤＡレーシングが協調して、提携して講座を開くことによって大学生にも価値があり、レーシングの拡大にもつ

ながると、こういうようなところも提案をし、今現時点では検討が進んでると、こういうような状況であります。

また、経営というのはなかなか難しいということもありまして、先ほどもちょっと答弁がありましたけれども、しっかりとしたスポンサー、教えるということと経営ということは違いますんで、経営ということも含めたスポンサー探しを今熱心にお願いしておりまして、近々それが表に出てくることによって経営的にもしっかり安定し、そしていわゆる金銭的な意味でも安定するとともに、いわゆる営業拡大というところにもつながるというような方向性も出ているというふうに思っておりますが、まだ現時点ではその詳細についてお話をするのは、民間の話でございますので、差し控えさせていただいておりますが、私との関係ではかなり具体的な話もありまして、そういう意味では議員が熱意を持ってというようなことでおっしゃいましたけども、かなりうちの職員も熱意を持って対応をしているというふうに考えているところであります。ただ、念のため申し上げますけども、公私の区分ということについては、ＮＯＤＡの場合にも、あるいは滋慶の場合にもそれはしっかりととっていかなければならないということを原点としておかなければいけないというふうになります。

加えて申し上げますと、海外と日本の関係で、例えば剣道をされてるヨーロッパの方々をお通杯に呼ぶ努力と、これを混同することはいけない。あれはしちゃいけない、これはしちゃいけない、これ結びつけるのは、結びつけ方がきつく過ぎると、やや話が壊れてしまうということにもなろうかというふうに思っておりますので、質問につきましては、それぞれの項目の中できちっと整理とした質問をし、その質問が他との関連で、あれをしとるけどこれはいけまあがというような話とは区分をしてぜひとも御質問賜るようにお願いをいたしておきたいと思います。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

戦略監、次に銀行との関係。

〔13番岩江正行君「欠陥の話をしとる。ちゃんとせえよ、おまえ、ないんか、ほれでもう」と呼ぶ〕

総合戦略監（森分　幸雄君）〔登壇〕

失礼いたします。

私個人のことでＮＯＤＡレーシングスクールと中国銀行というようなちょっとお話がございましたけども、確かに私は中国銀行に口座を持っております。ですから、店舗に伺ったことはございますが、中国銀行の店舗の中においてＮＯＤＡレーシングスクールの総務省の補助金についてお話しした事実は一切ございません。これだけはきちっと申し上げておきますので、御了解をお願いしたいと思います。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

岩江議員の２回目の御質問にお答えをいたします。

まず、先ほど申し上げました12名の交付税の関係でございますが、これはあくまでも当方の試算の数字でございますが、年間で約360万円程度増額するのではなかろうかというふうなことを今考えているところでございます。

それから次に、生徒等の話でございますが、今年度、来年度以降の事業を展開するに当たって、先ほども

申し上げましたが、野田社長と幾度かというか、かなりの回数を重ねて年末から協議を進めてまいりました。その上でいろんな協議の結果、出たものを先ほどの答弁の中でいろいろ申し上げさせていただいたところでございます。

それから、生徒の募集、そういったものにつきましては、当方といたしましても、そこで活躍する生徒の夢がかなうというのが非常に大切なことというふうに考えておりまして、まずはＮＯＤＡレーシングアカデミーの知名度を上げていただくというのが非常に重要なことではなかろうかということで、今までも新聞、テレビ、それからケーブルテレビ、そういったところでかなりの露出度は上がっているところでございますが、先ほども申し上げたとおりまだまだ市民の方々への知名度というのが周知できていないということも踏まえまして、市民の方に知っていただくための施設の一般開放でありますとか、それからドライビングシミュレーター、そういった体験、そういった学習、そういったものもできないだろうかということで、今野田校長と協議を進めておりますので、そういったことが整いますれば、これからさらなる知名度のアップと、そういったことに取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

考えて、その思いだけは言うてもろうても、いけなんだというたらしまいじゃでな。上位に入賞したというて、それでどんだけの効果があったん、美作市に。上位に入賞しました。世界のＦ１の大会で優勝したんか。どこでされたんな。上位に入賞した、上位に入賞したというて、その辺のとこと、それからやっぱりお力になるというのは、いろんなとこで、市長は今言よう行政がそういうようなとこにかかわるのはよくないと思うとんじゃというて言ようるけど、滋慶学園でも皆関わりょうる。時間がないけん言わんけどな。これホームページにでも今言よう美作市が力を入れてこうこうしょんじゃというようなやつを書いとるんか、美作市のホームページに。ＮＯＤＡレーシングスクールを誘致して、美作市もこういうような形の中で応援しょんじゃと、書いとんか、書いてなかろうがな、ほれで。あんたらの言うような風呂の湯と一緒じゃ、言うだけじゃからな。何にもならん。汚すだけじゃ、風呂の中を。何にもならん。とんでもない行政じゃ。人間というのはやっぱし根が張って、幹ができて、枝をつけて、たくさんの葉がつくわけじゃから、その仕事ができんような人間が、あんた方根腐れ起こしょんじゃねえんか。切り花と同じように思うとったら絶対だめじゃど。もう少しあんた方我々と違うて活動する範囲が広いんじゃから、連れてきた責任というのは十分ここで果たしてもらいたい。あっちやこっちや遊びに行く間があるんだったら、美作市内のことを先にしてから、それからベトナムでも北極でも南極でも行きゃあええ、市長。ベトナム、ベトナムというて、美作市の市民の百姓のおっちゃん、おばちゃんの問題ができんような者が何しにベトナムというて行くんなら。とんでもない話じゃがな、ほんまに。

３回目。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼します。

岩江議員の３回目の御質問にお答えをいたします。

まず、レースに参加した生徒の成績等でございますが、岡山国際サーキット、そういったところで開催さ

れたレースにつきまして上位入賞をしているところでございます。やはりこういったレーサーを目指すということになりますと、一長一短にはいかないところでございまして、いきなりＦ１レースになれるというものでございません。やはり長い長い年月をかけてこういった経験を積み上げていく上で最終的にＦ１レースということを今の生徒たちは目指していって、頑張っていただいているというところでございます。

それから２点目といたしまして、広報ホームページで掲載させているのかという御質問でございますが、議員御指摘のとおり今までにおきましては、なかなかそこに十分な広報活動ができていなかったというのが正直なところでございまして、今後につきましては、こういった広報等を活用しながら、十分な周知を図っていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岩江議員、総括です。

１３番（岩江　正行君）

総括。

みんなに言うとくんじゃけど、長い長い時間かけよったら、ひつぎの中へ入ってしまう、あんたのような話しょうったら。やっぱし環太平洋大学でも見てみなさいよ。あんだけに今盛り上がっとるわけじゃから。オリンピックの選手やこ出ていきょうるわけじゃから。やる気なんじゃ。あんた方、ほじゃから先ほど言ようること全然わかっとらん。そこの本質的な問題によう触れんのんじゃ、あんた方は。自分ら何する人ど。あんた方が言よんのは市民のためじゃないんじゃ。自分のことだけやか考えてそこへ座っとらんの。もう少し市民の生きざま通しての行政をやっていただきたい。

次、３項目めに入ります。

議長（山本　雅彦君）

続けて、入ってください。

１３番（岩江　正行君）

萩原市長、海外出張の費用対効果について。

萩原市長は外国出張が大変お好きなようで、市長に就任してからアメリカの投資セミナーを皮切りにベトナム、台湾、ベルギー、フランスとトップセールスの名をかりて出張してるが、どのような営業活動をしてきたのか、尋ねる。それで、これ、市長、きのう重平議員に誰の作文が知らんけどというて言うたんじゃけど、これは市民の作文ちょっと読ませてもらいます。市民からの訴えてくださいというて。国際交流、海外出張、旧美作町当時は中国の鎮江市と、中国の13億5,700万人、人口が、そことの取り組みをしてきたと、つき合いをしてきたと。作東はフランス、カナダのバレンタイン村と、それから大原はオーストラリアのメイトランドとの交流を行っていますが、ベルギー出張のときにはフランスにも立ち寄ったそうです。せっかく近くまで行ったのになぜこの際立ち寄る計画はなかったのか、それとも今後交流は進めないのでしょうか。剣道交流では韓国のチョンジュ市との交流もあったようですが、今はどうなっているのでしょうか。韓国のチョンジュは世界でももうトップクラスの剣士がたくさんおると聞いておりますと、また熊本のほうは日本のバレンタイン村との交流を進めているようと思います、〔聴取不能〕の〔聴取不能〕交流などはどうなされるのか、行政間の交流はないのかというようなことを、こういうのを書いとん、市民の。あんたを支持した人が書いとん、これ。もう萩原市長おかしゅうなったんじゃないかというて言う人がこれ書いて、これちょっと言うてくれというて言うたから、もう時間がいっつも足らんようになるから、もう２分になったな、ほじゃから２つで済まそうと思うたらこれ追加で来たん。そういうことじゃ。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

それでは、議員御質問の海外の出張について答弁をさせていただきます。

海外出張の目的、費用対効果についてということで、滞在費用、交通費、同行者の人数、出張回数、滞在日数ということで、まず総務部のほうからの関係につきましては、アメリカ合衆国への出張がございます。平成26年９月の１回のみで、同行者は市長含めて２名でございます。滞在費用につきましては、日当、宿泊費等で45万720円、交通費は44万6,059円となっております。滞在日数は国内での移動を含む全行程は７日間で、現地の滞在日数は４日間でございます。どのような営業活動を行ってきたのかとの御質問でございますが、以前に本会議でも御質問があり、お答えをさせていただいておりますが、訪問の目的としましては、日本貿易振興機構、ジェトロといいますが、主催し、世界各地で開催する現地企業向けの対日投資セミナーに経済産業省から依頼を受けまして、日本の田舎の地方自治体代表として参加をさせていただきました。同セミナーには安倍晋三内閣総理大臣も出席され、参加した他の自治体の長の皆様とも日本の地方都市の魅力をアメリカのビジネスや旅行業などの日本関係者の皆様にお伝えしてまいりました。成果につきましては、美作市の知名度の向上はもちろんですが、内閣府や経済産業省等の中央省庁との連携強化に特に大きな成果があったものと考えております。もともとつながりもございましたが、特にこのセミナーを契機にその関係性が深まり、地方創生に関する各種情報の提供、シティーマネジャーの派遣等、当市に対しましてさまざまな支援をいただいております。また、湯郷温泉旅館協同組合が作成されましたインバウンドレポートによりますと、アメリカから美作市を訪れる観光客は平成26年度が20人でございましたが、平成27年度は134人、平成28年度では11月まで８カ月間の集計でございますが、163人と格段に増加しております。知名度の向上による効果があらわれているものと考えております。今後のアメリカ出張での先ほど言われました合併以前の関係では、これでは特にはございませんでした。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼します。

私のほうからはベトナムの出張と、それからベルギー及びフランスの出張につきまして御答弁をさせていただきます。

まず、ベトナムの出張につきましては、平成26年度に１回、平成27年度に２回、平成28年度に１回で、出張者は市長を含めて、延べ11名が出張をしております。現地での滞在日数は、１回当たり平均では４泊ということになっております。内容といたしましては、ベトナム政府関係者との意見交換、技能実習生の送り出し機関との意見交換や、みまさか商工会との調印の立会、ダナン大学との協議などであり、１人当たり平均交通費は約８万8,000円、宿泊費等は約10万9,000円となっております。出張時の同行者につきましては、市職員以外ではみまさか商工会役員、美作日越友好協会の役員などで、延べ14名となっております。

これらベトナム訪問による成果といたしましては、ベトナム政府関係者との面会による美作市の取り組みの紹介、ダナン大学との相互協力に関する協定の締結、ダナン大学での講演会による美作市の情報発信、ダナン大学卒業生の受け入れ、日本語教師の派遣などで、これらの取り組みがベトナム政府に認められ、日本の自治体としては初めてベトナム建国の父であるホーチミン主席の銅像が美作市のほうへ寄贈されることが

決定をいたしております。

また、昨年12月にベトナム国を相手国とする2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会のホストタウンとして国に登録をされておるところでございます。

続きまして、ベルギー及びフランスへの出張につきましてお答えをさせていただきます。

出張者は市長を含めて７名で、全て７名分の費用となりますが、滞在費は、日当、宿泊費等で131万3,071円、交通費は76万7,972円となっております。出張回数は１回のみで、滞在日数につきましては、展示会等の開催の準備をするに当たりまして準備班の職員３名と、市長班４名に分かれて出発したため、国内での移動を含め、全行程は、準備班が10日間、市長班は７日間、現地での滞在日数は、準備班が８日間、市長班が５日間となっております。また、ベルギー滞在中、パリ市内の観光関係機関や旅行会社への訪問のため市長ほか３名が２日間フランスへ移動をしております。この事業は、宮本武蔵の生誕地である美作市の周知を図り、剣道と宮本武蔵ブランドとの融合による新たな国際交流などを推進し、交流人口の増加や伝統文化を生かした地域活性化を図ることを目的として実施をいたしました。

成果といたしましては、ヨーロッパの剣士、指導者の方々に、ヨーロッパで有名な宮本武蔵と美作市をつなげて覚えていただいたこと、言いかえれば、ヨーロッパでの美作市のネームバリューが上がったことがまず上げられます。行政と両輪をなす議会のトップがそろってトップセールスを行ったことで、市全体として取り組む姿勢や熱意が伝わり、高い信頼を得られたと考えております。

ベルギーでは、在ベルギー日本国大使館や国際剣道・居合道・杖道講習会及び国際親善剣道選手権大会での宮本武蔵や武道画展等の開催によりまして美作市のことを多くの方々に知っていただくことができました。特に、剣道選手権大会でお通杯への参加を呼びかけたところ、女性剣士の関心も高く、平成29年度以降ヨーロッパ諸国の女性剣士がお通杯に参加できるようヨーロッパ剣道連盟との連携協力をしていくことにつきまして確認ができたところでございます。

また、フランスにおけるインバウンド施策調査では、送り出し機関となる旅行会社から個人旅行の状況や各種体験ツアーの需要について情報を得ることができました。また、剣道体験ツアープランの企画、販売など、インバウンド推進に向けた連携が可能であるとの御意見をいただいたところでございます。

また、先ほどの追加でございました作東の取り組みにつきましては、作東でのカナダ、バレンタイン村との取り組みにつきましては、つい先日２月15日に20周年を迎えるということで協定をさらに延長するという取り組みをさせていただいたところでございます。

また、韓国との剣道での連携につきましては、現在中断中ということになっております。

以上でございます。〔降壇〕

１３番（岩江　正行君）

チョンジュとの関係、これもほんまに世界、もう今言ようる日本よりか強い選手が世界選手権に参加するような選手が何人もおるらしいです。そこのとことの縁組もやっぱし今までやってきたんじゃから、それを継続するようにせにゃいけんと思いますし、それとバレンタイン村が、これ今ちょっとパリから南へ電車で２時間のところですというて書いとるわけじゃ、これな。なぜ寄ってこなんだん、ここへ。同じ道の肥やしするんだったら、少しこういうようなとこでも寄ってくるとか、それからリオン、リオンには武蔵顕彰しに来ようるバーボヤニックというていう、これは居合いのほうの６段ほどを持たれてる人なんじゃけども、二天一流を取得し、いろいろとこっち来ようたわけです。もう５月19日の命日には絶対というてええほど来ようります。それから、リヨンの市長、それから役所の人間やこうも今までたくさん来たこともあります。それから、あそこのパリとの国会議員やこうとの縁組もどがいぞしてくれというていうような話もありました

けども、こっちのほうがそがなことをしてもうわしもかなわんで、ほれでそれ以上はようせんというて言うたん。言葉が通じんのが第一に問題なんじゃな。それで、英語だったらそこらへ通訳する、どうぞこうぞ高等学校で熱心な子も全部通訳してくれるん。けれども、フランス語というていうたらおられんわけじゃな。そういうようなことで時間がないようになりょうりますので、かいつまんで言いますと、とりあえず行くまでは決意表明をしていく、帰ったら皆さんに報告する、それから選定委員会についても、誰がどういうような形でどう行くかというぐらいのことは市民に明らかにしていくことが私は一番大切じゃないかと思います。

時間が来ましたんで、これで今回の一般質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番10番、議席番号13番岩江正行議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから１時10分まで休憩といたします。

午後０時12分　休憩

午後１時10分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

通告順番11番、議席番号11番本城宏道議員の発言を許可いたします。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

昼御飯を食べてちょうど眠たい時間帯になりますが、しばらくの間おつき合いをお願いしたいと思います。

私としましては長い議員生活の中で一般質問はこれが最後になるわけでございます。そういう意味においていろいろ苦言を申し上げますが、誠意ある答弁をお願いしたいというように思います。

それでは早速でございますが、質問の第１、市政の問題について質問をさせていただきます。

第１項目は市政の問題についてですが、この中でこの市政の問題は７項目に分けておりますが、もっと細かく分けるべきだったかなというようにも今思っておるところです。通告としてこういう状態にしておりますので、通告どおり発言をさせていただきたいと思います。

まず第１に、庁舎整備の問題です。これは昨年の12月議会で私の質問に答えて総務部長のほうから、庁舎は現庁舎を耐震化していくという答弁をされました。そして、市長のほうもことしの新春インタビューで、現庁舎を耐震化をしていく方向を探っているということで、山陽新聞の記事となっております。このことは庁舎整備検討委員会の建議書を全く無視しているものではないかというように思います。市委員会は現庁舎については、借地料や耐震工事にかかる費用などを勘案して、これはもう最初から検討外にして、この建議の中から外しておるというのが現実でございます。美作市庁舎整備検討市民委員会を全く無視しているものではないかと、このように思うわけです。答弁のほうをよろしくお願いします。

また、外国人観光客について２番目にお尋ねいたしておりますが、訪日外国人は2,400万人ということで、対前年比22.2％となっているようですが、美作市への外国人の訪問はこの３年間で見てどのように推移しているのでしょうか。ひとつ年度別、国別に教えていただきたいと思います。

次に３番目に、欧州のトップセールについてお伺いします。宮本武蔵ブランドによるスポーツ等国際交流推進事業ということで、28年度地方創生推進交付金、旅費のほうが940万円あるわけですけれども、それを

使って市長、議長、女性代表、職員４名が旅行されておるわけですが、訪問先がどこどこなのか、明確にお尋ねしたい。また、事業効果をどう見ているのかということについてもお伺いしておきたいと思います。

４番目に、ＮＯＤＡレーシングスクールについて、ＮＯＤＡレーシングスクールの現状がどうなっておるか、生徒数、あるいは教師、従業員数、市の教育委員会はこの学校について全く関係はないのか、その辺をお尋ねをいたしております。

また、メガソーラーについて、市長は議長立会人として28年12月26日に太陽光発電の建設業者との間で事業実施協定書を締結されていますが、この協定は28年12月15日付で県知事より要請されて作成されたもののようですが、関係の作東地域土居、福山、角南、白水、竹田などの地元では関係住民のこぞっての反対をしているところです。このことは市長も十分御承知のことと思いますが、建設事業者が地元の了解が得られていると県のほうへ説明することにはならないのか、その辺をお聞かせ願いたいと思います。

私ども日本共産党は、原発の廃止を訴えておるところですが、代替えエネルギーとしていろいろな電源を求めるのは当然のことだということで見解を示しております。ただ、今度できるような非常に大きい、いわゆるメガソーラーですね、このことについては自然破壊の問題、あるいはとりわけ地元の意向というものを十分重視をしながら、そういう妥協がない以上、進めるべきではないというのが基本的な立場です。こういうことでこのたびやられておることはちょっと行き過ぎがあるんではないかというように思いますので、この点についても詳しくお願いをしたいと思います。

６番目に、雲海についてですけれども、雲海については、前任者との間で裁判中であるというように聞いておりますが、今のこの裁判の状況がどのようになっておるのか、その辺についてお聞きしておきたいと思います。

そして７番目に、雲海の管理委託を考えておられるようですが、どのようなことになるのか、経過をお聞きしたいと思います。

まず、第１回目の質問とさせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

本城議員の質問にお答えをする前に長い議員生活の最後の一般質問というふうにおっしゃいました。まことに今まで御苦労さまだと思いますし、見解の相違は当然ありますけれども、議員のその誠実で温和な人柄に対しては私も心から敬意を申し上げたいと思います。今後も市民としての立場から積極的に地域の発展や、あるいは市勢の発展のために御尽力あるいはお力をかしていただきますようにこの場をかりて感謝の気持ちを込めながら心からお願いを申し上げておきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それで、庁舎の件ですが、きのうの答弁でもお答えしましたように私どもとしましては庁舎建設に関する市民検討委員会の提言を踏まえて、それをしっかり尊重する形で議案を議会にお諮りをしたわけでありまして、その後の御判断について、私どもとして残念ではありますけれども、議会の過半数は御賛成いただいたわけですが、３分の２の規定ということで、３分の１を若干超えた方々の御意向に沿ったということにならざるを得ないというわけでありまして、そのことをどう見るかという観点については、私どもとしてはその検討委員会の方向で議会に諮ったということ、そしてその議会の方々にその意味についていろいろ情報提供もしたということであります。むしろ言いますようにその市民検討委員会の提言を無視ということにはならないと思うんですが、より議会としてもそんたくをされたほうがよかったんじゃないかという御議論が議員の御議論であるとすれば、それは同感かもしれないというふうにお答えを申し上げておきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

本城議員の市政についてという中で、私のほうからは２点目の外国人観光客についてからお答えをさせていただきます。

湯郷温泉旅館協同組合さんの集計ということでございますが、外国人宿泊者数について申し上げますと、まず年度別では、平成25年度が3,007名、平成26年度が4,179名、平成27年度が7,824名でございました。平成25年と27年を比較しますと、人数で4,817人、約2.6倍というふうな増加傾向にございます。

次に、国別で申し上げますと、平成25年からの３年間の合計人数でございますが、最も多いのが香港からでございまして、7,533人、次いで台湾が5,320人、そして韓国が806人という順番となってございます。これらの国からは何度も日本に訪れているという方が多くいらっしゃるというふうに聞いております。また、最近の傾向といたしましては、団体客から少人数の個人客へと旅行形態が変化しておるということもございまして、宿泊者数の全体を占める割合はまだまだ多くはございませんが、東南アジアのシンガポール、マレーシア、タイまたアメリカ、中国、ヨーロッパなどの世界各国から美作市を訪れていただいておるということでございます。

続いて７点目になりますが、雲海の管理委託についての御質問でございます。雲海につきましては、今回指定管理ということで、大芦高原のキャンプ場を指定管理者の指定ということで議案の上程をさせていただいてございます。平成27年度までは地元で指定管理をしていただいておりましたが、このたび新たに指定管理者を公募し、平成29年度から３年間の管理をお願いしたいということで進めております。こちらについては、大芦高原のキャンプ場ということでございます。

なお、雲海につきましては、地元の皆様や利用者の方からの要望が多かった軽食コーナーを昨年の８月から設け、また営業時間についても、若干早めるなど、ことしに入って改善をしながら食事の提供を行っておるところでございまして、また地元からの御要望もございます休憩場所の設置につきましても、現在改修工事を行っておるということでございます。

経済部のほうからは以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

私のほうからは３点目の欧州トップセールスについて、それから４点目のＮＯＤＡレーシングスクールの現状についてと、５点目のメガソーラーについてということで、以上３つのことについてお答えをさせていただきます。

まず、欧州トップセールスの訪問先や事業効果についての御質問でございますが、この事業は宮本武蔵の生誕地である美作市の周知を図り、剣道と宮本武蔵ブランドとの融合による新たな国際交流などを推進し、交流人口の増加や伝統文化を生かした地域活性化を図ることを目的として実施をいたしました。訪問先といたしましては、ベルギーでは、宮本武蔵や武将画展を開催した在ベルギー日本国大使館、宮本武蔵ブランドによる国際交流等の活動を行った国際剣道・居合道・杖道講習会及び国際親善剣道選手権大会の開催会場であるアデプススポーツセンター、日本と海外との交流を担う人材となる児童・生徒が通うブリュッセル日本

人学校でございます。

フランスでは、美作市の強みを生かした観光振興策を図り、インバウンド誘客をさらに進展させることを目的といたしました情報収集を行うため、我が国の政府関係機関でございます一般財団法人自治体国際化協会パリ事務所、それから独立行政法人日本貿易振興機構パリ事務所及び独立行政法人国際観光振興機構パリ事務所でございます。また、旅行会社２社とあわせて、日本各地のすぐれた地域産品のプロモーションをしているＳＡＳ　ＥＮＩＳの２店舗を訪問をいたしました。事業効果につきましてですが、行政と両輪をなす議会のトップがそろってトップセールスを行ったことで、市全体で取り組む姿勢や熱意が伝わり、高い信頼を得たところと考えております。

ベルギーでは、宮本武蔵や武将画展等の展示では、美作市のことを多くの方々に知っていただくことができました。特に、剣道選手権大会でお通杯への参加を呼びかけたところ、女性剣士の関心も高く、平成29年度以降ヨーロッパ諸国の女性剣士がお通杯に参加できるようヨーロッパ剣道連盟と連携協力していくことが確認をしたところでございます。

フランスにおけるインバウンド施策調査では、送り出し機関となる旅行会社から、個人旅行の状況や各種団体ツアーの需要について情報を得たところでございます。また、剣道体験ツアープランの企画、販売など、インバウンド推進に向けた連携が可能となるよう成果もありました。

また、帰国後、ベルギーの旅行代理店が２月２日から５日にかけてブリュッセル市内で行われた観光博で美作市の観光パンフレットなどを配布し、美作市のＰＲをしていただくなどの取り組みにつながっているところでございます。

次に、野田レーシングスクールの現状についてでございますが、平成28年度の在籍する生徒の数につきましては、先ほど岩江議員の御質問にもお答えさせていただきましたが、特待生１名を含めると５名という状況になっております。事務員、教職員等の人数につきましては、現在学校のスタッフは、野田校長を初め、事務職員が２名、技術指導者が２名、教員が４名、給食調理員が１名の計10名となっているというふうに聞いております。

また、生徒の活動状況につきましても、先ほど答弁で御説明させていただきましたが、岡山国際サーキット等で開催されたレースに参加や、昔倉敷ふれあい祭や敬老会などに参加し、地域の方々と触れ合う活動も行われております。レースに参加した生徒の中には上位入賞するなどの優秀な成績をおさめている生徒もおります。これらの活動につきましては、テレビやラジオ、新聞でも紹介されているところでございます。

次に、メガソーラーについての御質問ですが、業者との実施協定を結んだことに対して地元の反対に対して〔聴取不能〕説明にはならないかというような御質問でございますが、実施協定は岡山県県土保全条例に基づき地域の発展と住民の福祉に寄与するよう、県から開発事業者と地元との合意の有無にかかわらず協定を締結するよう要請されました。そのため今回協定を結ぶことで地元の了解が得られていると県に説明することにはならないと考えております。

また、締結された協定は最終的なものではなく、地元の御意見を伺いながら追加すべき項目があると考えており、新たな協定の締結も含めて、開発事業者との調整を行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

それでは、市政についての６番目の御質問でございますが、雲海に関連して元市長を提訴しているが、現状と見通しについてという御質問でございますが、雲海訴訟の現状につきましては、平成28年１月から５月まで、３回にわたり口頭弁論を行いましたが、６月から平成29年１月まで争点を整理するための弁論準備手続を５回開催しております。本件訴訟につきましては、顧問弁護士を訴訟代理人として委任し、現在も係争中でありますので、見通しも含め、所見を述べることは訴訟に影響を与えかねないおそれがありますので、控えさせていただきます。何とぞ御理解のほどをよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員、一通り終わりました。

〔11番本城宏道君「残しとりゃへん、７番が……」と呼ぶ〕

〔「７番したが。尾崎さんしたが。キャンプ場がどうのこうの言よった」と呼ぶ者あり〕

はい。

１１番（本城　宏道君）

それでは、庁舎問題についてですが、議会に半分は責任があるというようなことを安本議員の質問の中でも言われておりますが、いずれにしましても先ほど言いました庁舎建設の市民委員会、この方たちに一切相談することもなく、突然現在地を選定することに少なくとも今年度の予算の中で500万円調査費をつけておられるようですが、全くこの500万円というものが無駄になりゃあせんかなというように考えるわけです。これを耐震補強してやるとするならば、仮庁舎を建てにゃいけんというようなことが出てくる可能性もあるし、審議会の答申では現在地は先ほど言いましたように耐震の問題や、そういう仮庁舎を建ててやる問題や、あるいはまた借地料が非常にたくさん要っておるわけで、これらのことを考えて、ここではいけんだろうと、もしこれができんようにあったら、少なくとも第２案をやるべきだという建議書になっとるわけですね。これが全く無視されてしまって、突然ここをやるんだという方向を出されたわけですが、かなり問題があるんではないかと思うんです。そのほかの方法を考えてみる必要もあるんではないかと思うんですが、改めてその辺についてお聞かせ願いたいと思います。

それから、次の外国人の観光客というものが年々増加しておることは先ほどの報告の中でお聞きしたわけですが、とりわけたくさん来られておるのはアジア地域の方が一番多いわけですね。一番韓国が多いようですが、台湾あるいは中国、この辺の観光客が一番多いと、東南アジア、あるいはアメリカやヨーロッパやその辺についてはまだ増加をしたということにはなっていないようです。これが後に３番で質問をいたしております欧州のトップセールの関係、それとの関連が私はあると思うんですが、アメリカへ一昨年行かれたわけですけれども、その中でこの田舎のこの都市のよさがあるんだということでアメリカの観光客が美作へ訪れてくれることを期待しながらやられたわけです。しかし、そのアメリカから特に美作のほうへたくさんそれ以来入ってきたというような実績はありませんし、３番でやられとる欧州の関係についても、剣道の関係で女性の剣士が来る可能性があるということも言われておりますが、これらについても、本当に効果があるんだろうかということが非常に疑問に思うわけです。せんだって文書の公開でお願いをしたわけですが、この中を見ましても、行かれた先や、あるいは市長、議長、それから女性代表、職員４名というような報告がなされておりますが、最終的にこの欧州の出張に交通費を含めて幾ら要ったかということについても、文書公開の中では出てきておりません。最終は今調査中だということの報告だったわけです。それで、今回の市長の所信表明でもこの欧州旅行の関連については一切触れておられんわけです。どこでどういうようにいわゆる復命書といいますか、そういうものをされる予定があるのかどうなのか、せっかくの費用を使いながら

そういうことがなされていないというのが不思議でならんわけですが、これについてもひとつお聞かせ願いたいと思います。

次に、ＮＯＤＡレーシングの関係ですが、先ほどの岩江議員の質問の中でもこの問題を取り上げられておりますけれども、全体では当初立ち上げるときに2,500万円、それから年々1,000万円の助成を出しとるわけで、そのほかに移住をしてこられた住民の１人当たりに対して、金額は覚えておりませんが、後で報告を願いたいと思うんですが、出ておると、それから学生１人に対しても１人当たり何ぼという助成をしておると思うんですが、その金額をひとつ明らかにしてもらいたいと。

卒業が間近に迫ってきておるわけですが、高校へ進学する人が１人と、それから卒業される方が１人ということで、今の状況があるようですが、生徒はその２人が仮に高校へ行かれる人が方面を変えたとするならば、２人になるわけですが、そのうち１人は家族の子どもだということです。それから、高校を卒業される方がどこのほうへ進もうとされておるんか、その辺はわかりませんが、新しい年、いわゆる29年度の募集をかけておるんですが、今のところもう見込みが立っていないというように聞いておるわけです。ということは、岩江議員の質問の中でもありましたが、当初30人生徒が少なくとも集まるんだと言っておきながら、来年の見通しが立たんと。少なくともこの時期になりますと、全国の学校で卒業される方が次にどこへ進学しょうかと、あるいはどこへそういう道へ進もうかということが決まっていないと、これは全く見通しがつかないことになるということになると思うんです。その辺についてひとつお聞かせ願いたいということと、それから学校そのものが美作市の学校でないわけです。そうしますと、この学校の指導監督というものがどのようになっておるのか、美作市の教育委員会は一切タッチをしていないのか、その辺をひとつお聞きをしておきたいと思います。それがＮＯＤＡレーシングの関係です。

それから、メガソーラーの関係については、今答弁をいただいた中では、これはこの協定をするために出したものではなし、県の要請で県土開発条例、その他のことでいたしておるもので、直接県が許可を出す、そういうものにはならないという意味の答弁をされました。しかしながら、このことは県の開発の担当部署において市と業者がもう了解をとったんで、そのまま進めていこうということになりはしないかということを今思うわけです。地元が反対をしておるということは十分承知なはずなんです。一昨日角南、白水、竹田の区長さん方が代表して県の担当の地域振興課長さんとか、治山課の参事さんとか、中山間地の地域振興副参事さんという人に面会に行っておられます。地元の反対署名が1,377筆急遽集まって、それを携えて行っておられるわけです。そういう中で明確な答弁は出ておりませんが、山本議員からも質問がございましたけれども、地元がこれだけ反対をしてるものについてこの同意を出したというのは大きく地元の意見を無視したやり方ではないかと。例えば市のホームページ、そこで日々の市長の動向や、あるいは面会は誰々とこういうことでしたというようなことが出ておるわけですが、この件については一切触れておられません。これはもう内密で進めようということではないかというような地元の方々が非常に不審に思ってるわけです、行政に対して。このことについてもう一度深く考えた答弁をしていただきたいというように思います。

それから、雲海については、提訴中で今見通しはそういうことを触れるわけにはいかないという答弁でございましたが、これについては、毎回職員の方が、担当者が弁護士さんと一緒に裁判所のほうへ行って協議をされておるのか、もう弁護士任せにしておるのか、その辺についてもお聞かせ願いたいと思います。

以上、２回目の質問としてよろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、２回目の御質問でございます。

これについては、庁舎の件です。これはもうきのうの答弁の中で何回も申し上げておりますんで、恐らくおわかりになった上での質問であろうと思っております。議員がおっしゃったようにこの現庁舎についてはさまざまな問題があります。借用地であるとか、あるいは耐震性に問題があるとか、そして場合によっては水害の可能性もあるといったことについては、市の検討委員会でもありましたけれども、一方で私どもも議会に対してもいろいろ申し上げてきたつもりでございますし、そのときの議員の反応、本城議員の反応がどうだったかについて具体的には申し上げませんけれども、その時点では余りその辺についての御反応がなかったのかなというふうにも記憶をしているわけでございまして、ややきょうになってそのことを強調されるのは、やっぱり議案の審議に心残りがおありになったのかなと思って、今拝聴しておったわけでございますが、きのう申し上げましたように議会に御審議をお願いをして、そして期日がどんどん過ぎていって、最終的にどっちの案を出しても、もうこれは合併特例債が使えないんだというところまで行ったもんですから、本来ならそこの前に余裕があれば作東ないし勝田についてどうだっていう議案を出す余裕があったんですけども、それがもうなくなったということについて、ぜひ御理解を賜っておきたいというふうに思うわけでございますし、ぜひ今後ともこういった問題について、我々としても検討委員会が指摘した問題点というのがあるんですけれども、議会の議決がこうなった以上、この現有地をしばらくは使わざるを得ないということに、ほかにもう道がございませんので、ぜひ御理解を賜っておきたいと思いますし、議員をおやめになってからもこの地にもぜひ怖がらずにお越しをいただきたいというふうにも思うわけであります。

次に、この観光の件でございます。これもきょうの議論の中で同僚議員から御質問があって、そして当局から明確にお答えをしておりますので、これも御理解をされた上での御質問かと思いますけれども、アメリカからの誘客につきましては、平成26年以降確実にふえておりまして、３年前の３倍近くになってんじゃないかなというふうに思っておりまして、やはりそれぞれの活動することに若干のやっぱり効果というものはあったということを、現実の数を説明した上でそういう事実はないというふうに考えるとおっしゃるのはなかなか難しいなと、しかしそれはやはり党としての御方針があれば、それもしょうがないのかなと思って、残念ながらお聞きをしておったような次第であります。したがいまして、ベルギーで行われた会合におきましては、これも説明がありましたとおりヨーロッパ剣道連盟の方々がお越しになっておられるわけでありまして、ヨーロッパ剣道連盟というのは、西はポルトガル、東はロシアまで入ってるわけでございますので、どこの国からかということについてはいろいろはありますけれども、恐らく今後ヨーロッパの方々の当地への観光目的での御来訪、あるいは研修、訓練、それから稽古を目的としての来訪というのはふえていくのではないだろうかというふうに期待をしておりますが、これは疑問があるとおっしゃるのはしょうがない、まだこれから、去年やったばかりですので、ことしのシーズン以降それがどう出てくるかということには注目せざるを得ないんですけれども、御疑問が党としておありになることについては了解をいたしておりますけれども、実績的に申し上げますと、アメリカで見られたように次第に効果が発現、つまり出てくるというようなものであるというふうにも考えておりますので、ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

それからまた、メガソーラーについても党としての御方針がおありになるようなんで、余りその議論をしてもどうかと思いますけれども、これも先ほど言いましたように我々としては市民の方々の御疑問を呈して、反対の意見の中で重要なところも呈して、とりあえず第一弾の協定ということにはなっておりますけれども、別途さまざまにまだ疑問を持っておられる市民の方々がいることは、当然これは承知をしておりまして、県にもそのことはお伝えもいたしております。そして、協定については、仮置きでありまして、これからまたそれぞれの御地元の議論がどうなるかによっては新たな協定部分を追加したり、別途の協定をつくっ

たりといったことも必要性があるというふうに考えております。もちろんその地元地元で事業地との協定をつくることもできますけれども、地元での協定が難しいという事情がある場合においては市としてもそれを取り込んで、第２次協定といったものを締結をしていかなければいけない、そういう余裕がある話でありまして、この点については、当然ですけど、県にも事業者にも申し上げておりますし、地元の方にも御同様にお考えになっていただきたいと、こういう暫定的な性格があるということでございますので、その暫定的な性格の中でのこれまでの取り扱いであるというふうに御認識を賜っておきたいというふうに思っておる次第でございますし、また議員におかれましても、議員を去られた後もこういった地元の問題について、私ども当局の至らないところがございましたら、こういうふうにしたらいいんだよというふうなことで具体の御提案をお持ちいただきますように心からお願いをいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

６点目の雲海の訴訟についてでございますが、２回目の御質問で、職員がその都度ついていっとるのかどうかということでございますが、弁護士に任せっ切りといいますか、委任をしておりますので、弁護士のほうに訴訟代理人として任せているのでありますが、その都度担当の職員が３回なり５回にわたって開催されとる手続につきましては、担当職員が行っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼します。

２回目の質問にお答えをさせていただきます。

欧州の関係とメガソーラーの関係につきましては、先ほど市長の答弁ということにさせていただきたいと思います。

私のほうからはＮＯＤＡに関しましてお答えをさせていただきます。

ＮＯＤＡの移住者１人当たりの補助につきましてでございますが、これはまだ現在支払いをしておりません。これにつきましては、当面５年間運営費補助ということでさせていただいた後、その５年以降の実績に応じて補助をさせていただくというふうなことにさせていただいている関係上、今現在はこの分についての補助は行っておりません。

それから、来年度の生徒の募集につきましては、今現在先ほど答弁もさせていただきましたが、野田校長といろいろ協議をさせていただいておりまして、ＮＯＤＡのほうからは来年度生徒をより多く集めるために生徒募集の方法であるとか、運営方針について見直しを図っていきたいと、それでより多くの学生を受け入れるような、そういう体制づくりをつくっていきたいというふうに聞いているところでございます。

卒業する学生の進路でございますが、詳しいことは個人のことで申し上げるところがございますが、高校生等卒業される方につきましては、それぞれ地元にお帰りになるとか、それから大学に進学とか、それからそういった進路に進まれるというふうなことを聞いております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

皆様に誤解のないように申し上げておきますが、ＮＯＤＡレーシングアカデミーＮＰＯ法人でございます。便宜上、皆さん校長というふうにお呼びになったりしておりますが、学校教育法で定める学校ではございません。あくまでＮＰＯ法人でございます。したがいまして、市教委の所管ではございません。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員、３回目です。

１１番（本城　宏道君）

大体答弁してもらいましたが、納得のいく答弁ではなかったというように思います。特に庁舎の問題については、かなり見解の相違があるわけですが、500万円かけてここで調査をする、他の方法は考えることは一切なかったのか、第２案というのがあったわけですが、それらも検討のやっぱり一つの対象にしなきゃならんけれども、突然この現庁舎というのが出てきたんで、非常にびっくりしておるわけです。その辺について、２案についてはもう一切今後取り扱う気はないんだということなのか、もう一度確認をしておきたいと思います。

それから、外国観光の人がアメリカのほうからも４倍ぐらい来たんだというような答弁だったように思うわけですが、当時何人来られておったか知りませんが、１人仮に来とったで４倍ということになりゃあ、たった４人しかないんですが、その辺の数字がつかんでおられるんなら、この４倍という根拠を明らかにしてもらいたい。

それから、ＮＯＤＡレーシングの関係については、５年先の実績を見て、そこで支払いをするんだと、今まで払うとらんという答弁だったわけですが、契約ではそういうことになっていないと思うんで、毎年支払うようになっとったんではないかと思うんですが、なぜ５年間たってから支払いをするのか、それから５年先に支払うべき金額が思ったようにずっと順調に仮に行たとした場合の状態がどういうようになるのか、その辺の金額もあわせて報告をしていただきたいというように思いますし、とりわけこのメガソーラーの関係については、ひつこいようですが、これだけの短時間で先ほど言いましたように1,377筆、これを集める努力、どれだけの苦労が要ったかと思うわけですが、これらについても非常に努力をされておりますし、反対の看板を立てたり、のぼり旗を立てたり、これらの事務の費用もたくさん要るわけですが、少なくともし許可が出て、着工でもしたら、すぐに訴訟を起こそうという段取りまで含めて進めてこられようるわけで、そうなってきますと、弁護士費用だけでも当初80万円ぐらい要るというようなことで、署名を集めると同時にカンパも今集めておるというように聞いとるわけです。それだけの覚悟を持って地元が反対しておられるわけですから、その辺を行政としても十分わきまえながら事に当たっていただきたいということをお願いをしておきたいと思うんです。

それから、ＮＯＤＡレーシング関係で、ＮＰＯ法人だから市の教育委員会は関係がないという答弁でございました。この学校について教育的に責任を持つというのはどこが持つんですか。全然監督がもうない中で義務教育をされておるということになるわけですが、その辺について答弁を願いたいというように思います。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

庁舎の問題につきましては、何度も申し上げておりますけれども、昨年の９月議会の途中の時点でもうタ

イムリミットが来たもんですから、第２番目の選択肢も合併特例債を活用するという意味で一緒に失われてしまったということであります。納得がいくかどうかについてはさておき、ぜひお聞き届けはいただきたいと思っております。これも同じことを何度も申し上げております。

それから、インバウンドの件につきましては、これ岩江議員に対する御答弁の中でこういうことを申し上げて、これは総務のほうから申し上げましたけれど、アメリカから美作市を訪れる観光客は平成26年度の20人から、２人じゃないです、20人ですよ、20人から平成27年度は134人、平成28年度は11月までの８カ月間、つまり３分の２年で163人と、もう一回申し上げましょうか、20人が27年度は134人、28年度が３分の２年で163人ということですから、210から20と、26と27を平均すると、大体70強になるもんですから、先ほど申し上げたのは私は３倍ぐらいまでふえておりますと、こう申し上げたんですが、いつの間にか議員の発声では４倍になっておりましたけれども、４倍とは申し上げておりませんで、私のほうからは３倍というふうに申し上げたのはこの数字であって、それでこの数字につきましては、先ほどの議会でお聞きになった数字と同じでございます。この数字を変えたつもりは全くございませんので、事実があるかどうかについて納得をされるかどうかはお任せしますけども、これは事実であります。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

３回目の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、ＮＯＤＡの補助金の関係でございますが、この補助金につきましては、美作市教育施設等誘致促進補助金交付要綱を定めて補助をさせていただいているところでございます。その補助要綱におきまして学校等の開設後５年間までにつきましては、運営費につきまして1,000万円を限度としてお支払いをすると、補助をさせていただくと、６年目以降につきましては、在学する児童・生徒、教員及びその家族の毎年４月１日における市内の所有を確認しまして、それぞれその数に応じまして補助をさせていただく、そういう補助要綱というふうにさせていただいております関係上、現在におきましてはこの生徒１人当たりの補助というのは実際行っていないというところでございます。

それから、それぞれのＮＯＤＡのほうにおけます生徒に対する教育についてでございますが、先ほど学校のスタッフ等で御答弁させていただきましたが、技術指導者、それから教員等、ＮＯＤＡのほうでそれぞれ雇用されておりまして、その技術指導員、それから教員がそれぞれの一般教養でありますとか、そういった学習に当たっているというところでございます。

それから次にメガソーラーの件でございますが、この件につきましては地元で大変反対等が起こってるということは十分認識をしておりますし、その内容につきましても十分県のほうへ伝えております。それで、この案件につきましては、そういったことを踏まえまして、今後につきましても、いろんな地元から出てまいります要望、そういったものを踏まえまして、この協定にないものがあれば、その都度新たに協定に加えるなど、そういったことをこれから進めさせていただきたいと思っておりますし、地元の方々の御意見も十分お聞きをしながら今後進めさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

総括ですが、いずれにしましても、そうだなという納得のいく答弁ではなかったように思います。特に外国からの観光の面でも美作市だけがふえとんではないわけです。全国的に見ると、22.2％でしたか、全国の平均が、ということでいきますと、この平均よりもちょっと上は行っておりますが、とりわけ２年前のアメリカ訪問が効果があったという評価はなかなか当たらんのではないかなというように思います。

それから、欧州の視察でも行政報告そのものがまだできておらんというのは非常に問題があるというように思いますし、ＮＯＤＡレーシングの関係についても、５年先に何とか今維持しとったら1,000万円はまた別個出しましょうということになるわけですが、これも１つ疑問点が残ると。

それから、学校、美作市が認定した学校になっとるわけで、しかし実際に教育の義務教育というのを監督責任というのが全くないわけです。美作市が認定をしておきながらもう一切この教育委員会としてはタッチせんということですから、それから現在ＮＯＤＡレーシングのほうで雇っておられる先生が監督責任だというような答弁ですが、これは学校としては大変、いわゆる文科省から見ると、問題がありゃあせんかなという気がいたします。

特にメガソーラーの関係については、たびたびひつこいように言いますが、地元の非常に強い反対があるということを十分わきまえて、今後対応していただきたいということをお願いをいたしまして、この市政の問題について終わりたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

本城議員、ただいまより10分間休憩します。

午後２時11分　休憩

午後２時21分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

本城宏道議員の２項目めの質問から再開いたします。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

それでは、２項目めの農業問題について質問をさせていただきます。

まず１番に、新規就農者、ＵＩＪターンは現在どの程度おられて、それらの人々がそれぞれ農業で生活をしなければなりませんが、その支援によって今後経営が安定的にやっていけるかどうかということが大きな課題だろうと思います。その辺についてお聞かせ願いたいと思います。

また、農作物のブランド化について12月議会でも質問をいたしましたが、寒締めホウレンソウとか、あるいは日指ゴボウ、ネギなどを美山ブランドとして売り出すと、こういうように聞いております。農作物のブランド化に対するいわゆる商品についてラベルなどをつくりながら消費者にわかりやすい表示をすべきではないかということを前回の定例会で申し上げましたが、その対応がどのようになっておるのか、お聞きしたいと思いますし、あるいはまた先ほど言いましたように日指ゴボウとか、あるいはネギ、これらを安定的に栽培する、これらの計画があるのかどうなのか、その辺について新年度予算にも影響しますので、お聞きしたいと思います。

それから３番目に、森林の間伐について、これも４年前ぐらいからずっと言ってきとるわけですが、市の林政課と森林組合との間でうまく連絡がとれておるんだろうかなという危惧がいまだに残るわけです。この

辺について森林組合との関連がどの程度話し合いがされてきておるのか、その辺についてお聞きをしておきたいと思います。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

それでは、本城議員の農業問題についてでございます。

まず、１点目の新規就農者の現状と支援策についてでございますが、平成23年度から現在までの新規就農者は21名でございまして、このうちUターンが９名、Ｉターンが12名という状況でございます。

また、支援策といたしましては、新規就農者で認定新規就農者に認定されますと、農業経営を始めてから経営が安定するまでの間、青年就農給付金として１年に150万円を上限に最長５年間受給することができる制度がございます。ただ、就農時の年齢制限がございまして、満45歳未満というものがございますので、先ほど申しました21名のうち、実際対象になっておるのが15名ということでございます。

また、その支援策につきましては、経営体育成事業による農業機械の購入補助や、無利子で融資を受けられる制度もございますので、経営状況を見ながら活用をしていただいておるところでございます。

また、技術面においても先輩農業者からアドバイスを受けられるよう認定農業者連絡協議会や新農業経営者クラブなどが開催する研修会などには積極的に参加をするよう促しておるところでございます。

次に、農作物のブランド化についてでございます。

議員の御発言されました寒締めホウレンソウは既に彩菜ブランドとして販売されております。また、県内の有名なゴボウには倉敷市の連島ゴボウ、また井原市の明治ゴボウ、岡山市の足守ゴボウなどがございます。そして、これらと同じように日指ゴボウも岡山の伝統野菜としてのブランド作物でございます。しかし、現在生産農家は５戸しかなく、また連作を嫌う作物であることから、生産量も少ないのが現状でございます。そういったことで、生産農家では生産量の拡大を図るため他の地域での栽培も検討されておるとお聞きしております。当市といたしましても、紹介パンフレットを作成するなどし、生産農家を１戸でもふやせるよう、新規就農者を初め、野菜生産農家に日指ゴボウを広く紹介することで後継者の確保につながる支援を行っていきたいというふうに考えております。

また、ブランドとはということで、他の類似商品と比べすぐれていることをアピールするためのものでございます。このことを踏まえ、美作市では他の自治体で行っていない市内で生産される農作物の栄養成分分析を行っております。分析の結果、主要な栄養素が標準値を上回るものが幾つか見つかっておりまして、その中の一つが先ほどの寒締めホウレンソウでございます。今後もこの成分分析事業を美作市の農作物のブランド戦略と位置づけ、分析結果の公表とあわせ、それぞれの栄養素が持つ機能性を広く紹介するなど、消費者にとって有効な情報の提供を行うことで消費者の健康維持と農産物の販売強化等につなげていきたいというふうに思っております。

次に、３点目の森林組合との連携という御質問でございます。

まず、現在の間伐等を行う事業についてでございますが、この事業は計画的かつ一体的な森林の施業実施が重要であるということから、実施に不可欠な森林の現況調査、森林経営計画作成促進、それから施業集約化の促進、それから既存路網の簡易な改良、こういったものを内容として行う条件整備に対し、支援を行うことができるというふうになっておりまして、中でも森林経営計画作成については、計画を作成する森林組

合などが森林所有者と間伐等の補助金を受けるために必ず森林経営委託契約及び施業協定を締結することが必須ということになっておりまして、現在森林経営計画について美作東備森林組合に確認をさせていただきましたところ、議員御地元の松脇、江見吉田、鯰、瀬戸、芦河内の５地区で約400ヘクタール程度の計画策定を行っておるということでございまして、ほぼ現地調査等が完了したことから、２月、今月中ぐらいに各土地所有者の方々に説明を行うというふうにお聞きをしております。

また、施業の内容といたしましては、人工林の杉、ヒノキの間伐を考えておりますが、土地所有者の方々と相談しながら広葉樹などの整備も検討したいという内容でございました。森林経営計画は市町村長が認定を行いますが、先ほど御説明申し上げました５地区につきましては、美作東備森林組合から計画書が提出されておりませんので、状況を把握することができませんが、今後経営計画を作成する地区においては、事前にそういった情報もいただくように協議を行ってまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

２回目の質問ですが、この新規就農者の関係については、いろいろ支援の方法があるようでございますが、要はせっかく美作市に定着しようという気持ちで来られた方が５年間の支援が打ち切られた時点でやっぱり百姓だけじゃ食っていけんなということになるのか、あるいはまた自然豊かなこの美作の地で引き続き百姓をやっていこうという気になるのか、その辺が大きな課題だろうと思うんです。そういうことで補助金がなくなっても引き続き農業がやっていけるような、そういう指導というものが当然必要になってくると思います。せんだって県民局へ、美作の支所のほうへ参りまして普及所の先生に会いました。かつて技連というのがあったわけですが、そういう組織がしっかり有効な方向で審議をしながら、これらの人々がやっていけるような、そういう対策を考えるべきではないかということで言ってまいりましたけれども、普及所の先生のいわくは、ＪＡと行政と、それで普及所とが協議をしておるけれども、年２回ほどしか集まっとらんというような答えでございました。もし間違っておれば訂正していただければいいわけですが、そういう状態ではなかなか補助金が切れても百姓やっていこうかということになりませんので、十分その辺をわきまえてやっていただきたいなというように思います。もう一度答弁願います。

それから、市の認定の栄養素の保証ラベル、これもかなり前から言うとるわけです。せっかく高い金を出して栄養分析をしながら、それが消費者に十分伝わらないと、ぱっと品物を見ただけでわかるというようなことにすべきではないかと思うんですが、これいつまでにそれができるんかな、ちょっと時期的なものも考えていただきたいというように思います。日指ゴボウにしても、あるいはそのほかの寒締めホウレンソウ、あるいは特に力を入れとるのはアスパラ、こういうものがあるわけですが、今度新しく栗が一つ大きく前進しようとしておるわけですが、こういうものについても早急な対応が必要になってくると思うんですが、なかなかそれが遅々として進まないので、心配しております。もう一度答弁をお願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

それでは、２回目の御質問でございます。

先ほど御答弁させていただきました新規就農者の現状と支援ということでございます。新規就農から５年

間ということで補助の制度はございます。確かにその後ということで給付金等の受給中は何とかやっていただいても、その後ということでございまして、受給者の経営状況を確認するために普及指導センターなどの関係機関と一緒に定期的な面接等を行っておりまして、その都度就農開始時点において５年先を目標として作成されております農業経営計画に沿った経営ができるように随時支援をしておるということでございますが、その後につきましても、確かに議員おっしゃいますように一度に何もなくなるというのも大変なことがあろうかと思いますので、必要な助言、指導等を引き続き行ってまいりたいというふうに思っております。

それと、２点目のブランド化でございますが、個々の農作物の栄養素の保証ラベルを張ってできないかというふうなこともございましたが、農作物の加工品とは違いまして、栽培されている地域や圃場によって成分等も内容等も変わってまいります。現在美作市で実施している栄養成分の分析事業は生産される農産物の一部を抽出し、分析しているところでございますので、その分析結果を同じ種類の全ての作物に当てはめるということについては、ちょっと慎重に行っていかなければならないというふうに考えておりまして、すぐにどうということはちょっと無理かなという点はございます。

また、ブランド化の具体的な取り組みについてでございますが、実際にブランドを利用される農家の方の意見を最大限に取り入れたいというふうに考えておりまして、現在農家の代表者であるとか、数名の農業者の方と検討を行っているところでございます。少し期間は必要になりますが、今後さらに多くの方々の検討を重ね、専門家の方の知恵もおかりしながら生産者の皆さんに納得していただけるロゴマークやキャッチコピーなどを作成することにより美作市の農作物ブランドを築き上げたいというふうに考えておりまして、本年度29年度でもその予算をみまさか創生費の中で取り組むということに引き続きなっておりますので、いましばらくお時間をいただきたいというふうに思っております。

それから、もう一点御質問がございました農業振興連絡会議についてでございますが、議員おっしゃいましたように行政とＪＡ、そして普及指導センターなどで一体で行っております。その検討会議という種の大きな会議は年に２回ないし３回程度の開催でございますが、当然それぞれの担当者が常に協議、連絡をとりながら進めておるところでございまして、このたびのモチ麦の普及についても、関係機関の担当者はもとより、健康づくり推進課にも協力を得て、推進を行っておるというところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

３回目になりますが、非常に心配しております、新規就農者の関係について。一人一人にこの技術指導をするというのもそうですし、それから個別に補助者といいますか、そういう人をつけて、一緒に生産活動をやるということも大事ではないかと思いますので、今後その方向で検討してもらいたいなと思います。

それから、彩菜茶屋の関係もそうですが、ラベルの関係、先ほど言いました、これも今の部長の答弁からいきますと、これは２年や３年かかっても定着せんなという感じを受けました。いわゆる同じようにつくっても畑によって違うのは当たり前のことですが、それらが固定するまでということになってくると、ほとんど使えんようになりゃへんだろうかなと、そういう気がするわけです。時間がありませんので飛ばしますが、その辺を非常に心配します。

それから、つい落としておったんですが、例えば彩菜茶屋などが、市が大きく出資をしとるわけですが、ショッピングをするのにカードがあそこは使えんということを聞いたんです。今ごろの時代にあっこでカードが使えんというのはおかしいなと思いますんで、ひとつ株式会社の寄り合いがあったら、発言権が大きい

わけですから、ぜひカードを使えるように段取りをするように申し述べていただきたいというように思います。

農業問題については、これでとりあえず終わります。

議長（山本　雅彦君）

それじゃ、続けて３項目めに入ってください。

１１番（本城　宏道君）

続きまして、障がい者についてです。これは昨年４月１日に施行された障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律というものができてきたようですが、これについて条例などを制定する段取りが必要ではないかと思うんですが、現在の進行状況がどうなっておるか、お聞きしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律による条例の制定の状況ということでございますが、御質問のいわゆる障害者差別解消法につきましては、障がいのある方に対する不当な差別的扱い及び合理的配慮の不提供を差別と規定し、その解消に向け、行政機関や事業所に対し具体的な取り組みを求めるとともに、国民に対してもそれぞれの立場において自発的な取り組みを促すものであります。法にうたいます合理的配慮とは、事務事業を行うに当たり障がいのある人から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思表示があった場合にその負担が過重でないときには個々の状況に応じて講じられるべき措置と理解しております。

市の取り組みといたしましては、今年度から５年間の指針を定めております美作市障がい者計画に障害者差別解消法の趣旨に基づく取り組みを明記し、あわせて同法に基づく職員の対応要領を策定しております。職員に周知を図ってまいりたいと考えております。合理的配慮につきましては、今なお明確な基準などは示されておらず、市民生活に直接結びつきます条例の制定については、より深い議論を要する事項と考えております。また、不当な権利侵害が発生した場合は今年度設立をいたしております美作市権利擁護センターにおいて検討ということも可能と考えております。

現時点では市民に対する啓発活動を進め、法律の趣旨にのっとり、誰もが住んでよかったというまちづくりに努めていきたいと考えておりますので、よろしく御理解いただきたいと思います。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

法律ができて間がございませんので、すぐにどうこうということにはならんと思いますが、美作市の場合市長の行政報告でもございましたように障がいのことについてかなり取り組みがなされておるわけです。今後の19年度の予算の中でも障がいに対する予算というものがかなり大幅につけられておると思うんです。そういう中で障がいのある人たちが差別が行われないような、そういう取り組みを一層強く重ねていただき、条例制定へ向けて取り組んでいただきたいということを強くお願いして、この項を終わります。

議長（山本　雅彦君）

じゃあ、続けて最後の項に入ってください。

１１番（本城　宏道君）

続きまして、教育関連についてですが、美作型保・幼・小・中一貫連携教育推進事業というように銘打って取り組まれようとしておりますが、実際にやってみてどうなのか、あるいはうまくそれが連携ができておるのか、その辺を含めながらひとつ答弁をお願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

正確には美作型保・幼・小・中連携教育推進事業でございますけれども、本市では国が進める小・中の９年間の教育、それよりもさらに長く、幼稚園から保育園まで、ここも含めまして教育委員会所管であることを生かしまして中学校卒業までの15年間の連続性のある教育活動を展開しております。これを各中学校区ごとに、幸い旧町で各中学校区となっておりますので、各中学校区ごとに進めていただいております。これが美作型保・幼・小・中連携教育推進事業でございます。この中では、まずは各中学校区ごとに毎月校長、園長を交えた情報交換会を実施いたしまして、例えばノーメディアデー、メディアに触れる日を少なくしようということで、例えば中学校のテスト期間中、中間考査、期末考査の前の１週間に合わせまして、小学校も幼稚園、保育園もそうしたことを推進していこうというようなこと、あるいはそれぞれの発達段階に応じた生活規律、例えば保育園、幼稚園では少なくとも10時間は睡眠をとってくださいと、そうすると朝６時、６時半に起きようと思えば、夜は８時半、遅くとも９時には寝かせてくださいねというようなものを一覧表にしてお配りをしたりして、指導を進めております。

こうした成果を受けまして、次年度は、勝田中学校区におきましては、専門性の高い中学校の教員が小学校において授業を行う、その中で中１ギャップの解消、そして学力向上を目指しております。これを小中一貫教育ということへの研究を今始めているところでございます。また、ことし英田中学校区におきましては、学校、保護者、地域が連携して、子どもたちの豊かな学びと育ちを実現することを目的にいたしましたコミュニティ・スクールの導入に向けての研究というものも進めておるところでございます。いずれにしても、各中学校区でそれぞれ１つの高校を目指して進めていくということで、このことにつきましては、もう既に2015年でございますので、一昨年の市政だよりのほうにも各中学校区の取り組みをまとめて掲載をさせていただきました。

また、2016年３月号、28年３月ですが、ここでも美作市の教育、各学校の取り組み報告という中で、保・幼・小・中連携組織の実動ということで、そうしたことも市政だよりのほうに掲載させていただき、随時啓発も図っているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

一通り答弁いただきました。一貫教育の中で勝田が実践しておると、英田もやっておるようですが、その中でコミュニティ・スクールというのがあるということですが、これはどういうことなのか、ひとつお答え願いたいということと、幼・保については、どの程度のものが行われておるのか、連携教育として、その辺をもう一遍答弁願いたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

まず、お尋ねのコミュニティ・スクールでございますが、これはそれぞれの各学校におきまして地域運営協議会という会を設立いたします。この会には地域の方々、そして保護者の皆様、学校の教職員が加わりまして、学校長からそれぞれの学校の経営方針というものの説明を受け、そしてその協議会でそれがその学校にふさわしいとか、あるいはもう少しこうしてはどうだというような意見も述べます。そういう中で地域の方の広く深い御意見もいただきながら学校運営を地域とともに進めていくという形、これを取り入れていくということでコミュニティ・スクールということでございます。

なお、英田小・中学校におきましては幼稚園、保育園も含めましてこのコミュニティ・スクールということの導入を目指しまして、来年進めていこうとしております。

それから、保育所、幼稚園でございます。以前からこの美作、特に美作町におきましては、午前中は幼稚園で幼児教育を行い、午後は保育に欠ける子どもたちを保育所で預かるという形で幼児園という形を進めてまいりました。これは非常に保護者の方にも評判がよく、これは今現在幼稚園、保育園が隣り合っているところで全て幼児園という形で進めておりますが、この中で議員の御心配は、保育所は厚労省の管轄で、幼稚園は文科省ではないかと、ちょっと違うんじゃないかということでございますが、保育所につきましては、保育所指導指針というものがございます。また、幼稚園につきましては、幼稚園教育要領というものがありまして、それに勧めて、保育を進めていくということでうたわれております。現在この保育所指導指針、幼稚園教育要領の中に、特に３歳児以上の教育に関しては指導指針と幼稚園要領との整合性を図りながら規定をされております。幼稚園に３歳未満が行くということはございませんので、３歳以上については両方が同じところを目指していきましょうということが規定をされています。そして、現在この新しい幼稚園教育要領、保育指針というものが定められようとしておりますが、この中ではより一層この２つの方向性というのも形を同じにして、現在こども園というようなものも進められておりますが、そうしたことにも対応できるようになっておりますので、内容的にはほぼ同じ形で進めていると、しっかり幼児教育という形で進めているということでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

一通り聞きましたが、コミュニティ・スクールの関係ですが、それぞれの学区であるんだろうと思うんですが、学校の運営評議員会があると思うんです。それとの違いというのはどういうように違うんですか。評議員会のほうも各地域の代表の人や、あるいはボランティアの人や、そういう人が評議員に指名を受けて、学校の取り組みについて校長先生や皆さんと話し合いながら進めておるわけですが、その違いをちょっと教えてください。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

確かに今現在美作市内の全部の学校において学校評議員会、皆様方にも御協力いただいている場合もあるかもしれません。この学校評議員会は学校長に意見を述べることができる、つまりこの意見を参考にするということでございます。ですから、いわゆる権限というか、おかしな言い方ですが、わかりましたということで承るということでございます。しかしながら、このコミュニティ・スクールで学校運営協議会になりま

すと、やはりこの運営協議会で学校長の運営方針をどうかということを承認していただくと、認めていただくということになります。ですから、そこでお認めいただけなければ、校長のほうも再度説明をし直すとか、あるいは少し考え直すということになりますので、そのあたりがより一層学校経営に深くかかわるというふうに御理解いただければというふうに思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

本城議員、総括です。

１１番（本城　宏道君）

子どもをいかに健やかに育てるかということが一番中心でございますんで、ひとついろいろな手だてがあると思いますが、よろしくお願いしたいと思います。

以上で一般質問に出しておったものはこれで終わるわけですが、最初に申し上げましたように私としましてはきょうが最後の一般質問でございました。三十数年間にわたって議員生活をやらせていただきましたが、この間私が常に思っておったのは、憲法が第一だと、その次に自治法があり、市の条例や規約があると、このものを中心にしながら市民の暮らしをいかに生かせていくかということを常に考えながら今までやってまいりました。そうして、議員というのは市民の皆さんの声を代弁するというのが議員の任務でもあります。二元の行政でございますが、そういう中で議員が市長に対していろんな注文をつけたり、苦口言うたりするのはこれはもう当然の議員の任務だろうというように考えて、きょうまでやってきたわけです。この数十年の間いろいろと皆さん方にお世話になり、行政の皆さんには迷惑かけたことございますが、皆さん方はプロです。そのプロに対して負けんように一生懸命討論しょうと思うたら、相当苦労が要るわけですが、何とか無事にきょうまで過ごさせていただきましたことに感謝を申し上げ、私の最後の一般質問の機会を与えてくださいました議長さんにもお礼を申し上げながら、終わりたいと思います。大変ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番11番、議席番号11番本城宏道議員の一般質問を終了いたします。

これより10分間休憩いたします。

午後３時02分　休憩

午後３時12分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番12番、議席番号12番鈴木悦子議員の発言を許可いたします。

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）〔質問席〕

12番鈴木でございます。

それでは、議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

三寒四温を繰り返しながら一歩一歩春の訪れを感じるころとなりましたが、つい先般東粟倉地域へ行きました。雪はまだまだ深く、雪の重みで屋根のひさしが壊れている家が、私が行ったところでは40軒ぐらいが壊れておりました。まだまだ雪が解けると被害がふえてくるだろうということも言っておられました。この場をおかりして、本当に被害に遭われました、特に東粟倉地域、それから昨日の安藤議員のお話にもありま

したけれども、勝田地域、それから大原地域の一部、西栗倉、そこにお住まいの方々に心からお見舞いを申し上げたいというふうに思っております。

さて、それにしても光陰矢のごとしと申しますが、本当にあっという間の４年間だったとつくづく感じているのが正直な心境でございます。

さて、市長初め、両副市長並びに幹部職員の皆様、そして議員各位におかれましては、日々美作市並びに市民のためにそれぞれの環境の中で御活躍されていることと存じます。私も少しでも熱気と活気に満ちあふれた地域、地区が築かれることを願って議員活動に取り組んでまいりました。今回の質問が美作市の新たな展開の幕あけと発展へつながる一助となることを信じて、お尋ねをしております。執行部の皆様の御答弁に大変期待をしているところでございます。

今回の私の質問は、１項目め、武蔵の里について、２項目め、仮称美作市スポーツ医療看護専門学校の学生寮についてお尋ねいたします。大原地域を初め、東栗倉地域の活性化につながる観光振興関係及び仮称スポーツ医療看護専門学校関連については、９月議会、12月議会に引き続き今議会で３回目の質問となります。私は大原、東栗倉地域の地域力の向上と活気なくして美作市の発展には結びつかないとの思いから質問させていただいております。

それではまず、武蔵の里についてお尋ねいたします。

12月中旬、私は市長、議長、戦略監、そして担当部署の職員とともに武蔵武道館の田原先生のお力添えを得て、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げられた事業であり、トップセールスということでベルギーで開催されたヨーロッパ剣道連盟との交流会に参加させていただきました。その交流会の中で一部紹介させていただきますと、美作市は宮本武蔵の生誕地であるということを強くアピールしました。それから、長年にわたり３つの全国大会規模の剣道大会が開催されており、その中でも特に全国女性剣士を対象に総務大臣賞も出していただくなど、大変グレードの高いお通杯女子剣道大会を開催していること、またこの大会が日本剣道連盟からも高い評価を得ていること、そして武蔵武道館は日本でも有数の規模を誇る武道館であることを説明し、しっかりとＰＲをしてまいりました。おかげさまでイギリス、フランス、ドイツ、ベルギーの剣道愛好家からぜひ美作市を訪問し、お通杯女子剣道大会に参加して、剣道を通じた交流がしたいとのお話も伺ってまいりました。大変大きな成果だったと思っております。また、これとは別にイギリス人が大原に来て28年になります。そのイギリス人が、実は私がこのイギリス人の身元保証人になっているんですが、このイギリス人が来たとき、平成元年に来たんですが、来たときに武者修行ということで、当時剣道５段、それから居合道７段という段を持っておりました。それで一生懸命頑張って、日本語も勉強して、本当に今は日本語も堪能になっております。この彼に話をしますと、毎年イギリス、カナダ、それからアメリカ、スペイン、そういうところから居合いの練習に９月に来ています。それが20人ぐらい来ております。武蔵道場の２階に泊まって、１週間ぐらい道場で練習をして帰ります。それから、ことしの５月には京都大会といって全国で大きないろいろな武道の大会があるんですが、それにもいろんな国から参加しております。５月の大会には大体12人ぐらいが中町に来て、それで彼の家に泊まって、道場で練習をして帰るといったようなこともしております。その中でたまたまだったんですが、女性も来るんです。その女性がイギリスで歌手をしておるんですが、その彼女が今度イギリスの剣道連盟の女性部の部長をしているということで、今度のお通杯には２チームを連れてぜひ行きたいということを言ってくれました。そのことも中町にいる男性のイギリス人が私が話をしたときにそういう話をしてくれましたので、本当にありがたい話だなというふうに思っております。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、世界中で日本が注目をされていま

す。東京という世界有数の首都や、世界文化遺産に多く登録されて観光地ナンバーワンとなっている京都にも訪れたいという外国人は大変多いと思います。しかし、フランス、イギリス、ドイツ、ベルギーの国民がほとんど知らない美作市を剣道交流のために訪れてくださることはインバウンドを含むさまざまな視点から考えたとき成長戦略を進める上でも大きな一歩、一筋の希望の光を見出す交流訪問になったと確信をしております。剣道交流を通じて美作市の豊かな自然と農村ツーリズムや田舎のおもてなしに触れたとき、このことが市民交流へと輪が広がっていくとも思っております。ベルギーで開催されたヨーロッパ剣道連盟との交流の中で一番感じたことは、100人を対象にスポーツセンターの本当に玄関口でアンケート調査をしました。そのうちで100人のうちで97名の方が協力し、回答してくださいました。回答の中で宮本武蔵のことをよく御存じであったということが本当にわかりました。ありがたいことだなというふうに武蔵の名前は世界中知れ渡っているということも本当にここで改めて認識ができたと思っております。武蔵の生まれ育った世界を見たいという気持ちが美作市を訪れたいという理由の一つかもしれないなと感じました。

そこで、お尋ねいたしますが、これから2019年開催のラグビーワールドカップ、そして2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて世界中の目が、また地域の目は日本、ジャパンに注がれていることでしょう。市長は既に観光客を誘致するためにスポーツを主としたインバウンドの推進にも力を入れておられます。しかし、武蔵、武蔵と言いながら、国内、国外からスポーツ合宿、観光客が訪れたとき受け入れ先となる現在の武蔵の里、五輪坊で対応ができると思われていますか。もちろん湯郷温泉があります。やはり宮本武蔵あるいは武道を通じてこられる方は武蔵の里に宿泊したいと思うのが常ではないかと思います。私は一貫して現状の施設では無理という意見です。ぜひお考え、構想をお聞かせください。

そして次に、美作市の発展につながるとの思いと大原地域、武蔵の里の地域力の向上と観光誘客の推進という２つの点を踏まえてお尋ねいたしますが、平成28年９月末を持って約20年間にわたり営業しておりましたお風呂とプールが併設されたクアガーデンが閉館されました。オープン以来一度も黒字とならず、多額の血税が投入されてきたことが要因であります。私も旧大原町時代から議員として間接的に携わってきた関係から、多額の赤字から脱却が無理であるのなら閉館もやむを得ないなと考えたこともありました。一般質問においても私の意見を述べてまいりました。そして、クアガーデンにかわるお風呂を、武蔵の里五輪坊内もしくは隣接した場所にもう少しコンパクトな経費のかからない施設をつくるべきではとの質問もしてまいりました。現実の声として５月、それから８月の剣道大会、それから７月から始まる高校、大学の合宿、それからお通杯での対応が今のままでできるかということと、それから昨年お通杯ではもう閉館されておりました。その中で本当にお風呂に帰らずに九州のほうまで車を運転して帰ったということもお聞きしております。そういった中で、本当にお通杯に来てくれ、来てくれということが言えるのかなというのがありますし、本当心配しております。それと、地元の皆様や市外から今まで利用をされていた方の御意見も伺いますと、やはりクアにかわる温浴施設をもうぜひしてほしいという声も聞いておりますし、そういう要望が強いようでございます。そこで、クアガーデンにかわる温浴施設が欲しいとの要望が強いようです。市長のお考えはいかがでしょうか。

まず、１回目の御質問といたします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、鈴木議員の質問にお答えしますが、その前にヨーロッパにおいては大変忙しい日程の中で御苦労さまでありました。おかげさまで特に女子剣道を念頭に置いた招致で、女性としてのしっかりとした、剣

道何段だったか忘れましたけど、ある程度段数を持っておられると聞いておりまして、剣士としての立場から招請活動をしていただいたことに対しては非常に効果があったということで感謝をしております。

武蔵の里ないしクアガーデンの件でありますけれども、私も何回か使わせていただきました。幾つか問題があるというふうに思って、素人なりに考えております。具体的に問題があるところを列記いたしますと、１つは、動線がどうもはっきりしない、食堂通って向こうに行ったみたいな話が何回かありまして、こういった動線の形態をどう考えるのかといったこと、それからお部屋が合宿としてはあれでしょうがないのかなとは思いますけれども、現代的な目から見ると、なかなかお泊めするのにちょっとどうかなという、施設としてちょっと古くなってるなというようなところが２つ目、それから３つ目は、付随的な問題なんですけれども、クアガーデンを休館をしておりますので、その結果として、これも御質問にありましたようにお風呂が足りないと、こういうことであります。お風呂の問題につきましては、地元の方々が来られて、今議員がおっしゃったことと共通する視点から陳情がありまして、今後の武蔵観光あるいは武蔵スポーツツーリズムといったことも考え、あるいは地元の方々の思いも一緒に考えますと、妥当な規模での温浴施設が必要であろうということで、これはもう議員も御承知のとおり私どもの考えを申し上げてきたところでありますが、一方でその前半の部分、館内そのものが営業に適してない可能性が、少なくとも私のような素人から見ても２つの分野で存在するということについては、まだ申し上げてはおりません。しかし、御案内のとおり今後指定管理者の候補者が決まっておりますので、私どもとしてはこの候補者に対して今まで申し上げたとおりにハードの改善が必要であれば言ってくれと、ところが一体として運営する上で、やはり今後赤字を減らしていくためにも統一のとれたコンセプトでもって今申し上げた３点ばかりの整備が行われなければいけないということでございますんで、指定管理者として立場決定したら直ちに今申し上げたようなことについて考え方を提示してほしいと、こういうことを申し添えながら候補者の方々に今対応しているところでございまして、議会において今後御審議の上、御議決を賜れば、直ちにそのことが動いていく。ただ、時間的に言うと、ことしのシーズンにはちょっと間に合わないのかなということが大変残念でありますけれども、少なくとも来年のシーズンには何らかの形で具体的に変化があったというような形で再来年度予算にハードの改修についての、これは責任はこっちが持ちますんで、市が持たざるを得ないもんですから、ハードの改修の中で市として責任を持たなきゃいけない部分について、私どもとしてまた予算のお願いもしていくことに多分なるのじゃあないだろうかというふうに考えております。

なお、その際ハードの整備についての事業者としてのコンセプトが決まったら、それで全部いくというわけではありません。その段階で地元の方々にも御案内して、こういう考え方が出てるんだけどどうでしょうかということで、地元の方にも情報開示をさせていただいた上で、必要な意見聴取をして、盛り込むべくものは盛り込んで、そして動いていくというふうにしていきたいというふうに思うわけであります。

もう一つ申し上げますと、ことしの合宿については、さまざまなところからの合宿が拡大をするというふうに見込まれているわけでありますけれども、実は市北部を練習地域とした合宿があり得るんです。種目は申し上げませんけども、あり得まして、その場合における宿泊先としてひょっとしたら大原地域をお願いをせざるを得ない可能性もあるということで、ちょっと御案内を申し上げさせていただきたいと、こんなふうに思っております。足らずの部分がございましたら、担当部長のほうからお答えをいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

鈴木議員の武蔵の里についてでございます。先ほど市長のほうから御答弁させていただきましたので、私のほうからは先ほど議員御質問のありました中で、今後４月からの指定管理に向けての協定の中に盛り込むべき大きな３つの項目ということで、その内容についてのお話をさせていただきます。

まずは、当然コストの削減がございまして、サービスと営業活動の質の向上、それと先ほど市長から申されました施設整備の指針の提供といった大きな３つがございます。こういった部分について、初年度はまずコストの削減について、統一された運営方針のもと、人員の配置や応援体制を含め、両施設の一体的かつ効率的な運営による人件費、原価率などの見直し、それからサービスと営業活動の質の向上、そしてそういった中で料理開発、新商品の開発、体験プランや宿泊プランの充実、そして営業、広報活動の強化、こういったものがございます。そういった部分に重点を置いて今後においても当然地元の皆様や利用者の皆様からの御意見をいただきながら方向性を決定していきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）

２回目です。

私が思っていたより前向きな御答弁をいただきましたので、まさかそういう市長が言われたような答弁がいただける思っておりませんでしたので、まだまだ質問２回目、３回目と書いておりました。それは省かせていただきたいと思います。

もう２回目の質問は市長の先ほどの答弁、それから部長の答弁あわせまして期待を、30年度の予算に計上を、全部じゃないけどしていきたいということを明確におっしゃってくださったんで、総括といたします。

現在の日本社会と30年前の武蔵の里、五輪坊が建設された当時の社会環境と比較したとき国も地方も大きく変わりました。何よりもインターネットによる情報化社会が確立されたことで日常生活や社会環境など、さまざまな分野においてインターネットの依存度と価値観が高まり、世界のどこにいてもインターネットで一瞬にして結ばれるネットワークが確立されてきております。当然美作市が取り組まれている観光分野においてもインターネットを有効に活用した情報発信に重点を置いた施策が行われていることは理解しております。これからの観光誘客の推進を図る上で情報発信は美作市の発展に必要不可欠と考えておりますが、反面、せっかく武蔵の里を訪れていただきながら五輪坊の印象が余りよくなかったら、すぐにＳＮＳやＬＩＮＥなど、写真つきで流されて悪いイメージが発信されることが懸念されます。旧大原町時代から歴史上にも名を残した宮本武蔵、また江戸時代の参勤交代の宿場町として今日もその面影を残している大原宿などがあります。大原地域では歴史と風土、景観、文化などが息づいており、これらが融合して観光資源の集合体として捉えて、今日まで武蔵の里、五輪坊を初め、付随した施設が運営されてきたと考えております。やはり観光資源の中でも大きな経済効果が生まれるのは武蔵の里、五輪坊、それから愛の村パークが核になると考えております。先日日本政府観光局の発表によりますと、１月に訪日した外国人旅行者数は前年同月１月に比べて24％の増ということで、229万6,000人ふえております。１月としては過去最高を更新したと新聞に掲載されておりました。これからも2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、アジアを主に訪日外国人が増加することは間違いありません。ことしのお通杯剣道大会参加のためにヨーロッパから訪れていただく剣道チームや関係者に武蔵の里のすばらしさ、魅力と活気にあふれた美作市を感じていただき、世界にインターネットで素直な気持ちで発信いただくためにも指定管理者に決定した関係者と協議を重ねることは重要でありますが、まず市長、副市長を交えて武蔵の里、五輪坊を中心に据えた問題点、さまざ

まな視点、観点からしっかりと今言われたことも含めて問題提起を行い、解決することが急務であると考えております。そして、市長にもぜひ認識していただきたい最も大切なことは、利用者、特に高齢者や障がい者の方、弱者の皆様に安心して利用ができる施設の改善と、未来を見据えたニーズとインバウンドにも適応可能な施設の構築を目指して取り組んでいただくこと、また剣道大会や合宿など、団体客に対応できる風呂の設置についても、しっかりと前向きにすばらしいものにしていただけるようによろしくお願いをしたいと思います。

武蔵の里については、以上総括といたします。

議長（山本　雅彦君）

それでは、２項目めに入ってください。

１２番（鈴木　悦子君）

それでは、２項目めに入らせていただきます。

滋慶学園についてでございます。昨年12月13日に地鎮祭が行われ、年明けから工事が始まると思っていたやさき大雪が降り、一時工事ができなくなるような状況になっておりましたが、現在地元業者により急ピッチで工事が進んでおります。地元の皆様もやっと始まったかと、安心と期待感に胸を膨らませておられるのが現実でございます。

それでは、２項目めの美作市スポーツ医療看護専門学校の学生寮についてお尋ねいたします。

先ほども申し上げましたが、この質問につきましては、関連も含めて９月議会、12月議会に質問させていただきました。特に12月議会では公設民営の学生寮ができないかという今回と同様の質問をさせていただきました。そのときの回答は、学生寮、アパート等は必ず必要と考えている、また滋慶学園との協議においても学生寮、アパート整備の要望も伺っているとか、市としても大手企業を含む地元の皆様や住宅業者など、民間資本の投入や英知をかりて建設、運営することが重要であるとの回答でありました。特に私の心に残っていることは、引き続き地元の皆様へ必要な情報を提供し、学生寮、アパート等の整備の協力をお願いする、また国のほうにも何か支援していただけるようなものがないか、調べてみるという回答でした。なぜ私が学生寮の建設、維持、運営にこだわるのかと幾度となく学生寮に関する質問をするのか、その根底にはやはり地域の活性化、それから美作市の発展、繁栄に結びつくと確信しているからです。この点につきましても、私の考え、思いをお話しさせていただき、十分に御理解を願っていると思っていますし、市長にも私がこの問題にこだわっている気持ちは十分伝わっていると思っております。再度確認の意味も含めて述べさせていただきますと、大阪滋慶学園が運営する美作市スポーツ医療看護専門学校と滋慶学園高等学校美作キャンパスの開校に伴う運営が大原、東粟倉地域を初め、美作市の発展に必ず貢献するとの思いをはせたとき心がときめき、飛躍、希望という言葉しか浮かんできません。全国市町村の共通の課題は何か、それは人口問題ではないでしょうか。少子・高齢化の進行をいかにとめるか、若者が安心して定住できる環境を整備し、人口増につながる施策を考案し、どのように取り組むか、その答えが平成29年度当初予算に計上されていると思っております。市長が所信表明の中でも安全で安心して暮らせる福祉、地域産業と観光振興の充実、自然豊かな環境を生かした地域づくりに取り組んでいかれる施策も効果が発揮されると思いますが、私は美作市スポーツ医療看護専門学校等で学ぶ多くの学生の拠点地となること、すなわち衣食住の拠点地域が美作市であり、大原地域、東粟倉地域となることを切望をしております。そのためには住居地となる学生寮、あるいはアパートの整備が急務であると言っているわけでございます。市長は高齢化している地域に若者の声が響き、経済効果が生まれ、新しい学びの場ができることで市外に流出していた若者が市にとまってくれることを期待しているとも言われております。確かに市長が期待されているとおり学校の開校と運営は美作市に

とって市誕生以来空前絶後と表現しても過言ではないと、絶大な効果が生まれると期待をしております。しかし、開校は平成30年４月、もう時間がありません。早急に環境整備をしていただくようお互いに協力をしていかなければいけないと思いますし、市が率先して民間あるいは大手業者を引っ張っていっていただきたいなというふうに思っております。

そこで、お尋ねいたします。まず１番、先ほども12月議会における質疑応答の内容について触れましたが、学生寮の取り組み、進捗状況について、現状はどのようになっていますか。２番、関連となりますが、市商工会、民間などの連携による学生寮、アパート等の建設経営について具体的な協議が進んでいますか、いつごろから具体的な形となりますか、それとも開校までには完成するのかどうかも含めてお聞かせください。

１回目の質問といたします。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

まず、学生寮のその後の進捗状況についての御質問でございます。

小渕議員の代表質問でも答弁させていただいたとおり先般大阪滋慶学園の橋本専務理事が美作市に来られ、みまさか商工会の役員の皆様へ直接具体的な数などを説明された上で、学生寮、アパート等の建設への協力を依頼されたところです。また、市といたしましても、民間事業者の参入を促進するため市が保有している土地や建物を含めた既存の物件を活用した学生寮やアパート等の設置運営の提案型公募を実施するよう準備を進めております。

次に、市、商工会、民間の連携で、その後の経過についての御質問でございます。

３月には不動産や飲食等の創業を検討している方を対象にした創業、新分野進出セミナーの開催や、地域創生に係る連携と協力に関する包括協定を締結している中国銀行、トマト銀行、津山信用金庫による金融機関の持っている専門知識を生かした起業、創業セミナーをできるだけ早い時期に開催したいと考えております。先般美作市に来られた橋本専務理事からは、地元地域の発展、活性化のためにぜひとも地元の方々のお力をおかりし、地域と地元の発展に貢献したいとの力強いお言葉をいただきました。今後も引き続き大阪滋慶学園とともに、地元の皆様や住宅業者などの方々に必要な情報を提供し、学生寮、アパート等の整備含め、衣食住への協力支援の働きかけを行い、専門学校の開校に間に合わせたいと考えております。

大変申し訳ございません。先程の答弁の中で大阪滋慶学園の橋本専務と申し上げましたが、橋本常務理事でございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）

御答弁ありがとうございました。

学生の生活拠点となります学生寮、アパートなどを美作市内はもとより、できれば大原地域や東粟倉地域に建設をしていただき、衣食住の中心となり、この地域の全ての活性化につながればとの思いからお尋ねをいたしました。御答弁によりますと、既に滋慶学園橋本常務理事が来られ、みまさか商工会の役員の皆さんに具体的に戸数や学生寮及びアパートの建設について協議が行われているとの御答弁をいただき、少し安心

をいたしました。私が今まで切望しておりました思いを橋本常務理事から直接地域の発展と活性化のために地元のお力添えを賜りたいとの御発言をいただいた上に、学園としても地元に貢献していきたいというお話を今伺い、大変うれしく思っております。

それでは、２回目の質問をいたします。

学生寮建設に向けて一歩一歩確実に前進をしているように感じさせていただきました。そのほかにも美作市としての動き、それからみまさか商工会や地元、あるいは運営母体である滋慶学園の動きとして現在並びに今後の新しい事業展開が進んでいることがありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

幾つか私から申し上げたいと思うんですが、１つは、寮の件でありますけれども、先ほど担当部長から答弁申し上げたとおり、当市としては市有の土地あるいは市有の物件について、その土地であれば建築、物件であれば改装、改築ということで提案をいただきたいというふうに公募として思っているわけでありますけれども、一方で私が耳にしたそういういろんなお話の中で、それはそれでええんだけども、市有物件で余ってるやつがあってそれを改装してもええんかと、こうお聞きになる方がおられましたんで、それについてはまことにいいことだと思いますよと、それについては、ただどういう改装をしてどんなものになるかについて御提案をいただいた上で、それを我々だけじゃいけないんで、滋慶の方にも見ていただいて、それならええんじゃないかというようなものであれば全く問題ない、下宿も含めてですけどね、ということになりますので、私としてはこれから実は終わって後から担当部にお話をしようと思ったんですが、公募に際して市有物件絡みの公募と、それから提案型、まさに自己所有型物件の改築提案というものもいただいていくことも、これは意味があるのかなと、こんなふうにも考えております。これが１点目でございます。

それからもう一つは、滋慶学園関係、要するに高校と、それからいわゆる専門学校の両方で若干動きがありますのは、今度私が津山中央病院の、あれは院長さんですかね、のところに訪問させていただく予定がありまして、その中で幾つか、ちょっとまだ具体的にここで表現できないところもあるんですが、研修の受け入れに加えて若干の追加的な協力の高度化の御要請を申し上げたいというふうに思っておりまして、その点については、内々どういうことを言うんだとおっしゃるんで、こうこうこういうふうに言いたいんだといったら、じゃあとりあえず前向きに検討をしておきたいというようなことになっておりますんで、少しずついわゆる連携の範囲が広がっていくというふうにも思っております。また、高校のほうの校長予定者の方がベルの関係者との関係での懇談をされたり、あるいはゴルフ場の関係者と訪問をしておられたり、いろんな形で実はそれぞれ具体的に少しずつ話が進展をしているというような状況でございまして、その進展についてまだ、プライベートなところもありますんで、これも全部申し上げられませんけども、割合夢のある話が出つつあるというふうに伺っているところでございます。

それからまた、具体的な話として、行ってみたいみたいな、非常にちょっと段階としては早過ぎるんですけども、そういう声が智頭沿線で申し上げますと、上郡から赤穂ぐらいまでの範囲であるんだという情報も頂戴をしていると、これぐらいが細かい話ですけども、耳を塞いでも入ってくるような情報として私のところに届いておりますので、一定の限度を持ちながら申し上げれる範囲内で申し上げさせていただきたいと思います。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

鈴木議員。

総括になります。

〔12番鈴木悦子君「商工会関係のことがどうなっとるかということを聞きたいんです」と呼ぶ〕

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

商工会の関係等でございますが、先ほど申し上げました不動産や飲食等の創業を検討している方を対象にした創業、新分野進出セミナーにつきましては、みまさか商工会大原支所で３月３日、みまさか商工会本部で３月７日に開催をすることとしており、参加者の募集を行っているところでございます。

また、先般大阪滋慶学園の橋本常務理事がみまさか商工会に来られた際には学生寮の建設、運営のほかに、学校で使用する教具、学習室機材等の設備や教材、スポーツウエア、文具等の備品、コピー用紙、ファイル等の事務用品の納入についても、地元の業者を優先し、地元の皆様に利益が出るようにしていきたいというふうなことで協力を依頼をされたところでございます。

また、生徒募集等の今後のスケジュール等でございますが、５月に岡山県へ学校設置の認可申請を提出し、７月の開催の私学学校審議会で認可を適当とするとの答申を受ければ、その後認可申請中と明記した条件つきでの生徒募集が行えると聞いております。基本的には大阪滋慶学園において生徒の募集が行われ、近隣の学校等の訪問や専門の広報部門による全国規模での広報活動が行える予定というふうに聞いております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）

３回目はありません。

総括に移らさせていただきます。

昭和29年に国の政策により合併が進められ、多くの市町村が消滅し、新しい市町村が誕生しました。そして、約51年後の平成17年に再び合併が国の主導で行われ、現在の美作市が誕生し、間もなく12年が経過する時期が近づいております。私が生まれ育った東粟倉村を初め、縁あって嫁いだ大原町の名前も記憶の中には強く残っております。私は平成の合併が審議されていた大原町時代にも議員の立場にあり、６カ町村が合併することがそれぞれの地域や地区のために必ず役立つと信じて合併に賛同をいたしました。私の理念は、地区、地域の集合体が町であり、村であると考えております。その村や町が一つになって、現在の美作市ができているという考え方です、当たり前のことですけども。現在の美作市の土台は旧町村であり、旧町村を支えているのは地域住民であり、地区で暮らす人々であると思っております。ですから、私が常々申し上げておりますように地域や地区が元気でないと、美作市も発展しないという持論になります。そこに滋慶学園が運営される仮称美作市スポーツ医療看護専門学校、仮称滋慶学園高等学校美作キャンパスが開校されるということはまさに地域と地区に活気が生まれて、市長が目指されているさまざまな分野にも好影響を与え、最終的には美作市の成長戦略の核になると確信しているからです。滋慶学園が運営されているスポーツ医療看護専門学校は実績があり、大阪市を初め、出雲市や鳥取市において運営されています学校も盛況であると伺っております。その大きな要因は産官学が一体となって取り組んでいる成果のたまものと認識をしております。本当にこの産官学が非常に大切なことだというふうに思っております。私たちは先人たちがそれぞれの

時代の中で英知を結集されて困難な時代を切り拓いてこられたからこそ現在があると思っております。今度は私たちが美作市という名前を次世代に残すためにも議員はもとより市長初め、執行部の皆様と一緒に汗を流すことが求められていると考えております。常に前向きに地区、地域で暮らす市民の生活の向上を基本に、市長が掲げられている29年度、来年度です、この間の29年度の所信表明の施策にしっかり取り組まれることを期待しております。

私は最近ある雑誌で松下幸之助氏ら戦後経済の礎を築き、今日の先進国へと導かれた多くの財界人が座右の銘としていた詩が目にとまりました。それは青春という題の詩です。一節を紹介しますと、青春とは人生のある時期を言うのではなく、心の様相を言うのだ。年を重ねるだけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いが来る。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失うとき精神はしぼむ。人は信念とともに若く、疑念とともに老いる。人は自信と希望がある限り若く、失望とともに老い落ちるとつづられておりました。彼らは敗戦という失意の中から立ち上がり、無我夢中で走り続けた自分たちと日本高度経済成長を重ねたかもしれません。私も皆さんと同じように年を重ねておりますが、この詩のように、あるいは経営の神様と尊敬されている松下幸之助さんたちのように情熱と理想を持って仮称美作市スポーツ医療看護専門学校の開校と永久的な運営につながることはもちろんのこと、学生寮、アパート建設により学生の拠点地ができることが新しい地域づくりの推進に結びつくと信じて、情熱を持って理想を追い続けるというふうに自分自身に言い聞かせております。特に人は自信と希望がある限り若く、失望とともに老い落ちると、この言葉が大変気に入りました。そのようなことでこういうふうに情熱と理想を持って追い続けることで美作市の繁栄の扉を開くことになると思っております。

これからも私は一般質問の中で地域の声や思いをお尋ねしたいと考えております。当然質問したことが実行、実現され、質問したことが形になるということが私たち議員の目的であるというふうに思っております。今後ともよろしくお願いを申し上げまして、平成29年度３月議会一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番12番、議席番号12番鈴木悦子議員の一般質問を終了いたします。

お諮りをいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしということでございますので、本日はこれで延会することに決定いたしました。

本日の閉会を前に市長から発言を求められておりましたので、これを許可したいと思います。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

議長のお許しをいただきましたので、一言発言を申し上げますが、先ほど本会議休憩中に私のところに知らせが届けられました。美作市長萩原誠司様と、時下ますます云々かんぬんですが、ちょっと読んでみますと、全国からお寄せいただいた開催の希望をもとに協議した結果、貴自治体での開催を決定いたしましたと、どっから来てるかというと、株式会社かんぽ生命でありまして、何を意味するかといいますと、平成29年度夏期巡回ラジオ体操開催決定ということでございまして、それでこの夏は全国で43カ所おやりになるそうでありまして、東京都が２カ所、北海道が２カ所、あとは各県がばらばらっと入っておりますが、私ども美作市につきましては、ことしの８月19日、何と曜日も非常によろしくて土曜日です。８月19日土曜日、

岡山県美作市、晴天の場合は美作市美作野球場、雨天の場合はみまさかアリーナで開催することに決定をいたしましたので、報告します。ありがとうございました。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

先ほど本日はこれで延会することは可決されましたので、本日はこれで延会をいたします。

再開は明日23日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時05分　延会

平成２９年２月２３日

（第　　５　　号）

1. 議　事　日　程（５日目）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年２月23日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	金　谷　典　子	２番	重　平　直　樹
３番	安　藤　　功	４番	安　本　博　則
５番	谷　本　有　造	６番	則　本　陽　介
７番	萬　代　師　一	８番	尾　髙　誉　久
９番	岡　﨑　正　裕	10番	西　元　進　一
11番	本　城　宏　道	12番	鈴　木　悦　子
13番	岩　江　正　行	14番	小　渕　繁　之
15番	万　殿　紘　行	16番	日　笠　一　成
17番	山　本　重　行	18番	山　本　雅　彦

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	安　部　　薫
副 市 長	横　山　博　光	教 育 長	大　川　泰　栄
政策審議監	福　原　　覚	総 務 部 長	山　本　直　人
危機管理監	山　本　和　毅	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	森　分　幸　雄	市 民 部 長	安　藤　郁　雄
環 境 部 長	妹　尾　昌　弘	経 済 部 長	尾　崎　功　三
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
教 育 次 長	山　名　浩　二	消　防　長	山　崎　正　雄
会計管理者	安　東　弘　子	営 業 課 長	平　田　幸　春
健康づくり推進課長	山　下　富貴子	ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ管理課長	森　元　浩　之
財 政 課 長	遠　藤　宏　一		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	本　田　卓　治
課　　長	大　佛　裕　彦
主　　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（山本　雅彦君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止をされております。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

本日は全員の出席であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（山本　雅彦君）

日程第１、「一般質問」を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許可いたします。

通告順番13番、議席番号15番万殿紘行議員の発言を許可いたします。

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）〔質問席〕

おはようございます。15番万殿であります。きょうも４日目ということでありますけれども、けさのテレビで太陽系の周りに地球以外の惑星があるんじゃないかと、こういうニュースがありました。それで、昨年も東京南方で発生した台風が沖縄の南のほうまで、帰ってきて東北で被害をこうむらしたと、これは今の私、社会状況、このことに匹敵するんじゃないかなという思いで申し上げたのでありますけれども。今回は、皆さんが知ってるようにアメリカでトランプ大統領が誕生ということで、これも定かではないけどもインターネットの普及によるこういうあれもあるんじゃないかというようなこともうわさをされておるわけです。日本経済に、まあ日本経済だけでなく世界経済、特に我々日本経済にどういう影響をもたらすのかなあと危惧しておるのは私だけじゃあない、全国民がそういう疑心暗鬼というか心配をされとんじゃないじゃろうかと、このように思う。安倍総理大臣の手腕、このことが期待されておるところであります。まあ、結局、最終的には、人間行き着くところは人間性の問題だろうなあと。また、教育長最後に申し上げますけど、やはり教育で人間性、これなんです。私はこのように考えております。

あのね、きょうで４日目でありますけれども、私を含め今回５人の議員がこれを最後というようになって発言をされておりました。私も５人のうちの一人でありまして、この席での質問は議員としての質問が最後となりますんで、ひとつ執行部のほうの答弁、多少ちょっと音程を上げていただいて、みまちゃんネルを見ておられるお年寄りの方がちょっと声が小さいなあという電話がかかってきますんで、そこらあたりを考慮していただいて多少トーンを上げていただいて、わかりやすく、ゆっくり。説明される皆さん方は、もうプロであるから頭の中へインプットされておられるだろうけれども、答えていただく、聞く我々は素人でありますんで、そこらあたりを十分考慮していただいて答弁をお願いをいたしたいと、このように申し上げて通告をいたしております質問をいたしたいと思います。

昨年に、市長とともに我々議員が６人で霞ヶ関へ陳情に伺った、この件についてお尋ねをいたします。

どういう結果になったんだろうか、いろいろと取り沙汰されておる交通費を使うて役をかいたんかと、こ

ういうなことになると私もぐあい悪いんで、どういう結果になっていきょうるかと、ちいたあ効果があったんかと、こういうことも皆さん方にも理解していただかないかんし、私自身もこのように考えております。

こういうな観点で、今回は市長に〔聴取不能〕して上げさせていただいておりますので、できるだけ懇切丁寧に答弁をよろしくお願いをいたします。

最初に、この陳情を大蔵官房審議官に、地域経済産業政策担当の中尾さんに部屋へ訪問に上がって、我が美作市の市としての取り組み、獣害対策、そしてベトナムとの交流等、いろいろ市長、各議員の方も申されておりましたが、結局美作市はグローバルな視点で交流されておると、審議官のほうから我々としても大変参考になると、また滋慶学園専門学校誘致は地域経済の活性化に非常に寄与するんじゃないかという言葉をいただいて、応援をさせていただくと。官房審議官から直接こういう発言をいただくと、もう私もえっという本当にびっくりしたと、萩原市長のこれ政治力かなあと。恐らくこの中でも官房審議官と部屋で頭を突き合わせて話ができたっていう、そうおられんじゃろう。そういう方との協議の中に私も加わることができて本当に感激をいたして、その場で聞いたり話したりというこの審議官との30分限定でありましたけれども、このことがどういうふうになっておるかと。

次に訪問したのが内閣官房審議官の部屋へ通されて、加速化交付金について資料を持って説明を受けたわけであります。そして、市長のほうから美作市として広域案件、単独案件を申請しておりますと、よろしくお願いをいたしますとこう深々と頭を下げて、和やかな中での予定の30分を終了して退席と。

そして、強行軍でありまして、次は内閣官房の東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部の事務局長、参事官、補佐官の皆さんとの対談をさせていただいた。キャンプ地の候補について、我が美作ラグビー・サッカー場について高い評価をいただいたと、そしてまた美作市のスポーツによるまちづくり、今後もしっかり応援をさせていただくと、こういう発言もいただいた。それでもう40分の予定時間があっという間に。

続いて、次の防衛省へ訪問して伺いまして、人事局長、人事育成課長、総括班長、各方の対応を受けまして、体育学校の案内をしていただいたと。案内を受けた後、部屋へ戻って、自衛隊体育学校の合宿についての返答、女子７人制ラグビーについてを実務的にきちんと賜ったとこういう発言をいただいて、あの防衛省の急なエスカレーターをおりて防衛省を後にしたという１日で、本当に強行軍でありましたけれども。

それから、２日目には、農林水産省、事務次官と面会をして、本市が行っておるジビエ、野菜の栄養分析、まきストーブ、農業、林業についての我が市の説明を行って、事務次官よりこのまきストーブの振興は本当にありがたいと、温泉等で展示でもやっていただいてしっかり観光政策と連携を図ってやっていただきたいとこういうアドバイスも受けながら、これも昨日、前日と同様、和やかな会話で約１時間、予定の１時間本当にあっという間でありました。

そして、次の総務省での訪問、地域力創造審議官との面会で、新型交付金の検討状況の説明を、あらかたの説明を受けて、その後萩原市長から我が美作市としてハードな要望を考えておると、過疎債よりも有利なものでねえと、有利な条件にしていただかないとメリットはない、市長はまことに厚かましい、普通の我々じゃあ考えられんような発言をされておりました。私も内心冷や冷やしながら、審議官にこういうものの言い方ができるんかなあと、これが萩原市長の政治力、今まで培ったゆえんかなあと感心をして、次の訪問、国土交通省、事務次官を訪問して美作岡山道路の早期完成、中国横断自動車道、姫取線の延伸についての申し入れを行った。人口減少地域の交通対策と種々意見交換を行ってまことに和やかな雰囲気で、これまた国交省においても50分の予定が経過して、この東京への霞ヶ関の出張、陳情、本当に心強く、うちの市長の政治力、大したもんじゃなあという思いを抱きながら帰路についたわけであります。

冒頭申しましたように、これが６人も議員が大金を使って行った効果があったんかとそういう認識を持たれ、その辺のことは私も非常に気になります。よって、今回このようなことを質問に上げさせていただきました。この東京への２日間の陳情がどのようになっておるか、そのことをお尋ねをします。

また、日が違いますけれども、その前に学校法人滋慶学園のほうにも訪問をいたしております。その件についてもあわせて答弁をいただきたい。

以上。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

万殿紘行議員の御質問にお答えするわけでありますが、その前に万殿議員もおっしゃっておられましたけども、この３月定例議会のこの一般質問が一般質問としては最後だということでございます。今まで本当に市勢の発展のために、議長という立場も含めてさまざまに果たしてこられた役割の大きさを思いますと、心からの感謝の気持ちをまず申し上げなければならないと思います。また、万殿議員と私は旧英田町の時分から何かと知己を頂戴しましていろんなことをともに考え、あるいは英田岡山会の関係でもお会いをし、なるほどおもしろいおじさんがおるんじゃなあということで私も大変感服をしてまいりました。いろんなことを教えていただいた大先輩として、これからも高い見地から市政に対する御指導を頂戴できますように心からお願いいたしますとともに、今まで相当御苦労をおかけになった奥様によろしくお伝えをいただきますようにお願いいたします。

さて、質問への答弁でございますけども、まず私のほうからやや包括的にお話をするとともに、農林省の点だけちょっとお話をしときますけども。

まず、東京に行っていろんな活動をいたします、見ておりますといろんなパターンがございますね。アポがしっかりとれてないんで名刺だけ置いて帰るとか、そういうことでやってらっしゃる地域もありますし、それに名刺に加えて陳情書の紙を添えてお出しになっておられるんだけども話はしていらっしゃらないと、そんなこともあります。

私としましては、やはり相手の方の人間性と、これは万殿議員の言葉ですけども、というものを事前によく把握をした上で、その方の気持ちに添って理解しやすいようにお話をすることというのが大変大切だというふうに思っております。また、それぞれのポジションが持っている課題、例えばオリ・パラ、オリンピック・パラリンピックの事務局長が持ってる課題っていうものについて多少なりとも最初に知っておいて、そのお相手の方々にとってはなるほどそれは悪い話じゃないなあというふうに物事を整理をして、そして自分たちの町にもためになるんだけれども国政の推進にも若干でも寄与できるというようなものの立て方というものに注意をする必要があると思って今までもやってまいりましたし、これからもやってまいります。

もう一個総論的にいうと、私ども当局としてそういう活動を日々するんですが、ときによっては議員の皆さんと一緒に行動することが非常に大きな成果が期待できる、そういうことにつながるんです。といいますのも、やはり国から見ましても市町村というのは、当然でありますけども議会とそして執行部がどういう関係にあるかによってその交付した資金の使われ方や効果も大分違ってまいります。そういう意味で、しっかりと議員の方々もその問題について認識を共通にしているということがわかることは、資金を交付する側にとって非常に安心なんですよね、これ、これ当たり前のことですけども。それを、発言の多さ、多いか少ないかじゃなくて、顔つき見ようたらわかるわけです、向こうも。ああ、これはようわかって来ておられる議員の方々だなあと思うと、御先方も安心をされる。それは、私が中央官庁にいた立場にありましたんで、逆

にそう思ったわけであります。したがって、たまに折に触れて議員の方々と御同行いただくことが、市政の状況について霞ヶ関関係者に理解をいただく上でまことにうまくいけば意義深いということだろうと思うんです。途中で部屋に入って中で意見が相違してけんかしようるというなことになりますと、まず御先方としてはこれは余り相手せんほうがいいんじゃないかというになるわけでございますけども、そこの感覚というものが大変重要だと思っておりまして、今御質問において触れられた出張について、まことに雰囲気がよかったということは御先方の各事務所からも後で聞いておりますので、それが後ほど答弁があると思いますけども具体の成果にもつながっているということだと思います。

もう一つは、やはり市政を運営する上で議会の重要性は高いわけでございますけども、議会の皆さんが、我々が、当局が霞ヶ関その他で交渉してる状況や、あるいは中央官庁の考え方について御理解をいただくこと、それ自体が大変大きな成果だというふうにも言えるわけであります。これが総論であります。

続きまして、各論を一部だけ申し上げますと、農林水産省の前の次官の皆川さんとこに行ったという話をされましたけども、もう次官やめられましたけども、皆川さんはいろんな仕事を私やっておられたのを全部知ってるんですけども、特に重要な点は彼が林野庁の長官を次官をする前にやってたんです。林野行政についてはここ数代の林野長官の中で最も詳しいというか最も熱心にやってきて、そして、そうですね、今までの林野行政がやや人工林主体であったのを、自然林も含めてしっかりと森林の多面的機能というものを生かしていくべきであるという大きな方針を打ち出した一人である。したがって、広葉樹であるとかあるいはまきとかそういうことについても非常に熱心なんですよね。加えてまた、現在の林野庁の幹部職員の方々に対して非常に慕われとるもんですから、ある意味で影響力強いわけであります。ですから、皆川さんに会って話をしときますと、林野庁の各幹部にこの間こういうのがあったぞというんで話がおりてくるんですね。そういう状況があるもんですから、例えば私ども美作市が岡山県庁との間で森林の管理の手法について意見の相違があったことがあるわけです。具体的に申し上げますと、ナラ枯れというのがあって、これは岡山県の方式ですと薬を、殺虫剤をまいたり、木に注入したりせにゃいけんのじゃとこう言うんですけども、いや、違うと、美作市としてはナラ枯れっていうのは木をほったらかしにし過ぎたから起きるんで、それが要するに里山をほったらかしにしておったもんだから大きくなり過ぎて危なくなったりいろんな問題が起きるということであるので、きちっとした単位で切って燃やしゃあ済むんだという主張をして対立してたんですよ。で、そのときに、林野庁に相談をしてごらんということで担当の課長にも言いましたら、美作市ではこう考えてるんだと言ったら、林野庁はすぐに反応して美作市の考え方のほうが妥当であると、あとは県庁に恥をかかせないようにうちも言ったけども市としても１回県庁に頭を下げて言ってくれと、そしたら市の言うようになりますとかそういう具体的な裁きをしていただける。

あるいは、今度、更新伐を行いますけども、これは更新伐というたら全国でも非常に例がないんですけど、まず林野庁がこれを推進しろということで押していただいた。それから、実は更新伐積算等について県にも実は余り知識がなかったんで、私どもさまざま形で更新伐をするときに国と林野庁にダイレクトに相談をしながらその単価構成なども設定をしていって、むしろ県をリードしてきたんですが、そういう関係ができることは非常にこれ当市の森林行政を進める上で重要な基盤になっているわけですが、そういうところの発端が実は議員も一緒に行っていただいた皆川次官との会談の大きな意味があるんだというようなことであります。したがって、関係をずっと続けていく中で、またいろんな深まりが出てきますけれども、大きな成果のあった、目には見えないんだけども非常に具体的な成果のあった皆川次官との会談であったというふうに思っております。

そのほかの面会についての成果並びに今の状況等につきましては、担当のほうから説明をさせていただき

ますので、よろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

総合戦略監。

総合戦略監（森分　幸雄君）〔登壇〕

皆様、改めましておはようございます。

万殿議員からの昨年２月、市長とともに６人の議員で各省庁へ陳情してその効果、滋慶学園を含めてとの御質問でございますけれども、国に対する陳情の成果についてお答えをさせていただきます。

まず、最初に訪れました経済産業省ですけれども、経産省は地方創生の産業振興の分野を担当する役所でございますので、美作市の地方創生加速化交付金や推進交付金の提案に当たって仕事創生の分野で貴重なアドバイスをいただき、交付金の獲得につながっております。

続きまして、内閣府は地方創生を総合的に推進する司令塔のような役所でございますけども、こちらとパイプがあるということにより国の動きについて幅広い情報をいち早くかつ詳しく情報提供していただけます。本市のスピード感のある取り組みに大変役立っているところでございます。

続きまして、内閣官房オリンピック・パラリンピック事務局には、美作ラグビー・サッカー場を高く評価をしていただきまして、サッカーやラグビーの事前キャンプの誘致活動に御理解をいただくとともに、今般のホストタウンの登録に際しても事前相談等で貴重なアドバイスをいただくことができました。

続きまして、防衛省につきましては、自衛隊体育学校の誘致に係る御理解をいただくとともに、女子ラグビー部の合宿等が実現をいたしました。ちなみにライバルの長野県上田市においては、本年度の合宿等が行われなかったと聞いているところでございます。来年度の女子ラグビー合宿は内定をいたしており、さらに種目がふえる可能性もあるなど、美作市の取り組みを高く評価していただいているところでございます。

続きまして、農林水産省では、ジビエや野菜の栄養分析など本市の独自の取り組みについて高く評価をしていただきまして、特にフランス人やイタリア人向けには食を生かした観光として美作市の強みが生かせるのではないかと、そういうようなアドバイスもいただきました。早速、昨年行った欧州トップセールスにおいて現地の旅行会社にアピールをしましたところ、美作のジビエや野菜を使った食事や農業体験は非常に魅力的であると、そのような評価をいただきまして、現在観光ツアープランの提示を行っているところでございます。

続きまして、総務省では、小さな拠点の補助金の情報をいただきまして、早速市内にその情報を展開しましたところ、巨勢における取り組みが岡山県下で唯一採択されるなど効果があらわれました。

続きまして、国土交通省につきましては、美作岡山道路の延伸について御理解をいただき、より具体的な動きにつなげることができました。

なお、総務省の原田審議官と経産省の中尾審議官には、昨年５月に智頭町において開催されました三県境地域創生会議主催の講演会で講師を務めていただくなど格別の御交誼を賜りました。

このように、霞ヶ関の各省庁との関係を強化することにより、鮮度の高い情報の入手、有利な補助金、交付金の獲得や国の重要政策における地域認定等に多くの成果が見られていますとともに、各省庁の事務次官、局長、審議官クラスといった、いわゆるトップクラスの幹部に直接お話をお伺いし、豊富な経験からの貴重なアドバイスをいただくことは、本市の地方創生を着実に前進させるために非常に効果的であったと感じているところでございます。

また、大阪滋慶学園につきましては、万殿議員を初め多くの議員の皆様に大阪の学園本部まで足をお運びいただき、専門学校設置に関する陳情を行っていただくとともに、山本議長と山本副議長におかれましても

大阪本部に赴き、美作市議会が設置したスポーツ医療看護専門学校誘致促進会設立趣意書を直接橋本常務理事に提出していただくなど、議員の皆様の格別なる御理解と御協力が功を奏し、今般の専門学校と通信制高校の設置につながってまいりました。改めて御礼を申し上げるところでございます。ありがとうございました。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

万殿議員の各省庁への陳情の効果はということで、美作岡山道路について建設部から御説明をさせていただきます。

美作岡山道路につきましては、これまでも多くの議員の方から御質問いただいておりまして、議会で説明しておりますとおり早期の供用開始が図られるよう、昨年議員が参加されました陳情や３市３町から成る期成会などあらゆる機会を通じて要望活動を行ってきております。

また、昨年の11月とことしの１月には岡山県からの依頼もございまして、新年度予算編成及び予算審議時期に照準を合わせて国土交通省、財務省、国会議員への要望を行ったところでございます。１月の要望では、湯郷温泉インターチェンジから英田インターチェンジ間の平成29年度新規採択に向けて、岡山県と期成会に加えまして今回美咲町のほうも話が前に進んでいるということで参加していただいたり、それから美作市の誘致進出企業協会の方２名にも参加していただいて、我々の行政と産業経済団体からもしっかり要望するというふうな活動をして、地元の熟度も高まっているというのを強く訴えてまいりました。要望先からは理解が示されまして、手応えを感じております。来年度の新規採択を、期待して待っているというところでございます。

それから、北への延伸ということでございますけれど、これはなかなか西元議員からも要望を聞いておりますけれど、相撲で言いますと土俵に上がるというのがなかなか難しいところで、既に美岡道の南部のほうは土俵に上がって予算の獲得をするということで相撲をとっておる状態なんですけれど、まだそこまでには上がっておりませんので、早く呼び出しを受けて土俵に上がれるようにということでしっかりと要望しておりまして、来年度は岡山、鳥取両県と沿線自治体による研究会の開催を計画をしておるという状態でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

それぞれお聞きをいたしました。あのね、冒頭も言いましたように本当に２日間で強行日程で、俗に言う政務調査費をきっちり使よんかなということを頭に入れながら私もおったんですけれども、さっきの市長、また審議監、建設部長の答弁を聞いて安心しました。やはり、冒頭申しましたけれども、我が国の政策を立案しておる霞ヶ関へ出向いていって直談判ができると、冒頭も申しましたけどなかなかそういうことは、それはまあうちの萩原市長はやれると、先ほども〔聴取不能〕が言うたように本当にそこでいろいろと話をする中で情報を仕入れてくる、それで美作市におうたような政策を考える。それは、先ほども大変こがあなことを、率のええことにしてもらわにゃあ困るという、普通だったらこないなこと言えれんです。やはり、同僚や先輩や後輩、霞ヶ関にいろいろとおられる、そういう中で情報を入れて政策を練ってやってくれる。本当に美作市として心強い。まあ市長、当初の市政の中でも美作市の経済状況、財政状況、本当にようなっと

る。私も合併当初、合併前、英田の議長として協議会に参加して、一時は意見の相違や思いの違いがあって英田は脱退したりというこういう経緯もあるんですけども、その後いろいろとこう６カ町村で合併した、これ大丈夫かなあと、第２の夕張になるんじゃないかなあと、そういう危惧が少しはあった。けど、この間の市長の演説、それからこの間の決算の結果のあの状況を見て、一本算定やこう気にせんでもええというような結果になってきとる。本当に萩原市長も当初から、合併の当初からやってくれとったらなあという思いを私は持っとんです。そういう中で、市長、健康にはよう気をつけてもろうて、しっかり頑張っていただきたい。市長の政治力を発揮していただいて、頑張っていただきたい。このように申し上げて、この項を終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、２項目めに入ってください。

１５番（万殿　紘行君）

２項目めは都市公園、都市公園事業、現在の状況はどのようになっておるか、29年度の計画、こういうことで申し上げております。

この事業は、市長、先ほどとリンクすると思うけども、やはり我が美作市が抱えておる自主財、自主財源、ここらあたりから市長も、あれやこれやはまた後で申しますけども。山の荒廃、植林して木の単価が下がって、なかなか材木を使うていただけない。この木材の利用、こういうことを市長はいろいろと考えられてこの公園事業を、単に公園で見物してもらうんじゃとわかりやすく言われとんだろうけども、もろもろのことを勘案されてこの事業に取り組んでおられると、私はそのように理解しておる。先ほども言うたように、木材の利用、林業従事者の確保、なかなかこれ収入も出てきておったが評判が余りようねえ、なぜかなあというて私なりに風呂へ入って毎晩ぐらいに考えよんですけども。やはり、建設的に聞く耳を持っとる人はおっということを考えてくれるけども、さっぱり市長の言うことを聞く耳を持たん方もおられるんで、その方々をこっち向けっていったらなかなかこれ厳しい。１週間や10日じゃどないにもならん。だから、聞く耳を持っておられる方には、市長、懇切丁寧にこうですああですと。まあ市長は冒頭言ったようにプロであるから、頭の中でどどど考えてよしこれでいこうとこうなるけども、やはり初めて経験する人にはそこら辺を、聞く耳を持っとられる方にはそこらあたりをきっちり説明して粛々と進めていただきたい。私はこのように思うが、このことについての答弁、よろしく。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

事業の現状については、担当部長のほうがお答えすると思いますけども、説明の問題ですけれども、なるほど議員おっしゃるとおりだというふうに思います。具体的に言うと、例えば行政懇談会なんかで随分出ました。でありますから、この辺で申し上げますと、栄町から楢原、平福、朽木を含めて林野も一部そうだと思いますけどもよく話は聞いていただいて、相当周辺における理解は進んだのかなあと思っとります。ただ、百聞は一見にしかずという言葉があって、ちょうど28年度につきましては初めて更新伐というのを入れて、何が起こるかというと、もとの山の姿、つまり里山であった姿に一歩戻っていくという、本来の姿に戻っていくという状況が、だんだんことし、来年にかけて見えてきます、これが一見ですね。見てわかる人は多いんですね、なるほどこれだったらわかったということでありまして。今、担当部局においては非常に丁寧に対応しながら、この木は残す、１本１本目印をつけ、地元にも相談をしながらこの木は切らせていただくと、なぜならばこれほっとくとナラ枯れになるとか、桜の木だけどももうここへ20本もあるけん、それは

ちょっと多過ぎるからメーンの木だけにさせてもらうとか、かなり細かい調整をしながらもとのあった里山の姿に戻るようにする。

きのうの質問にもありましたけども、耕作放棄地になると何が起こるかっていう話の中で、水害の可能性があるということです。それは、水田における貯水機能ってなものがダメージを受けるっていうことなんですが、実は森林も同じでして、森林の多面的機能の中に下草がしっかり生えて、そしてその中で山肌を守り水の流れを吸収していくという機能があるんですが、里山が放置されますとその機能が低下するんですね。あるいは、里山が放置をされてぐちゃになりますと、木が大きくなり過ぎてもと里山、その里山が持っている力ではなかなか支え切れなくなって、風が吹くと倒木が起きたりしてその倒木が落下するなんてことになって被害にもつながっていったりする。

それからもう一つは、これも里山の機能の中に、里山っていうのは人が入り込む山でありますので、基本的には余りややこしい動物は来ないんです、敬遠するんですね。里山でありますと、基本的には鹿は住まないと思います、普通は。餌づけをすれば住みますけども、餌づけをしないでおけば里山には鹿が来ない。ところが、ここの市役所の南側の山には今鹿の群れがおりますが、そういったものはだんだん、何度も言いますけどもとの姿に戻っていただいて、できれば本籍地のほうへお帰りいただくということになればということでありまして。ごらんのとおり多面的な機能を実は狙っていますが、これも説明をしている中で聞く耳があり、森林についての経験がおありの方はなるほどそれはそうだとかなりわかるとか、あるいは古老の方でもかつての山の姿を覚えてる方はこれはすぐわかるんですよ、そりゃそうだと、前はそうだったっちゅうのが頭の中にあるもんだから山に戻すんだっていうとすぐにイメージが湧くんですけども、ここ30年ぐらいしかこの山を見てない方についてはもとのあった山がわかりませんのでなかなか理解をしていただけない。

そこで、話は戻りますけども、百聞は一見にしかずというモデル更新伐林を、今主に平田そして楢原にやって、来年度は朽木にもやるんだっていうなことになってますが、その辺なるべく見えやすいようなところを選んでおりますんで、ぜひ市民の方々にも見ていただいて、御注文いただいたり意見もいただくんですけども、なるほどこれが更新伐かというのを体験をしていただく中で、山にまた遊びにこようという気持ちも起こるだろうし、更新伐しますとワラビがたくさん生える可能性もありますのでその辺も含めて、あるいはマツタケもふえるかもしれません、場合によっては。そういうことも見たり味わったりする中で、理解を次第次第に深めていただけるようにとこいねがってるというのが今の状況でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

万殿議員の都市公園事業について御説明をさせていただきます。

先ほど市長も申しましたが、この事業は平成26年に美しい里山をつくり育てる条例を制定し、市街地周辺の里山が持つ多面的機能を市民共有の資源として土地所有者と美作市が共同で整備、保全していこうという基本理念のもとで取り組んでおります。

現在の状況でございますけれど、予定面積につきましては多くの地権者の賛同が得られたことで、今年度末には官地を含めてということになりますが314ヘクタール程度に拡大できる見込みでございます。整備面では、散策や植生管理に必要な進入路の改良を進めておりまして、楢原下、北原の林道に加え、新たに栄町と朽木からの園路改良がおおむね完成をいたしておるところでございます。大雨で侵食されがちな路面の改良や流末排水を確保したことなどで治水対策が改善されるとともに、山の上で行われる地域の行事をされとるところがありますけれど、そういうものの継承にも役立つものと、寄与していくものというふうに思って

おります。

次に、29年度の整備につきましては、新年度予算を前年並みの約7,500万円程度として、平田、平福からの園路について測量設計に着手します。また、今までに改良してきた各地域からの園路を峰付近で結ぶ遊歩道の整備を進めていきたいというふうに思っておりまして、部分的には間伐やベンチなども置けたら置かせていただいて眺望のきくエリアを確保したいというふうに思っております。

里山の持つ景観、生物の多様性、保水力、木材利用、観光資源等、多面的機能の利活用を開拓し、美しい里山の再生に向けて取り組んでまいりたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

それでは、私のほうからは都市公園事業の中での更新伐事業について御答弁させていただきます。

この事業につきまして、里山公園内の天然林を搬出する更新伐事業でございますが、平成28年度のまず状況でございます。平田地区において４ヘクタール、楢原下地区で１ヘクタールを、現在、事業に着手しておるところでございます。また、搬出した木材を、まきボイラーとかまきストーブの燃料として活用促進に取り組むものとしております。また、チップ等にも利用するということで搬出を行い、森林所有者に搬出した木材で得た収益の２分の１を還元したいということでございます。

続きまして、29年度の更新伐の計画内容でございますが、29年度は平田地区、それから朽木地区及び平福地区で10ヘクタールを考えております。また、里山公園内の人工林の間伐につきましても、楢原下地区で４ヘクタールを予定しておりまして、平成29年度の当初予算のほうへ事業費を計上させていただいております。

この更新伐及び間伐につきましては、本年度に引き続きまして土地所有者の方々に十分事業の内容等を御説明申し上げ、計画的に今後も進めてまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

答弁をいただきました。調子よう計画どおり、まあ計画どおりに100％ということにはならんようでありますけれども、着々と進めておるということを確認をいたしました。先ほども言ったように、公園が必要なんかとかいろいろとこうあるようでございますけども、信念を持ってね、市長、やっていただきたい。先ほども言うたように、そがあなことをしょうるとどこの〔聴取不能〕もやったら大蔵省もたまったもんじゃあないとか、大蔵官僚になったような発言も聞いたことはあるけども、やはり地域の人に十分説明をして納得していただいてやっていただきたい。

それとね、市長、私の裏山あたりでも広葉樹で、もう私が小学校１年か２年ぐらいのときに伐採してからしてないんですよ、もう。市内、もうそういうとこほとんどですよ。私ほうの地域で、５町歩ほどまとめてくれ、反4,000円ぐらいだったら切ってあげるというようなこともあったのに、なかなかそんだけのものをまとめようとするともうほってえてくれんさいというような、町に出とられるような方はオーケーよろしいということにはならんので、そこら辺も市長、この公園だけじゃなしに市内もうほとんど山ばあなんですから、そういう広葉樹をもう全然つつかんようになっとるから50年、60年平気で生えとんですよ。この対策を

しっかり同じように考えてやっていただきたいと思います。せえから、その更新伐採も３メーターあけて切るとか、まるで切るとか、間伐で３メーターあけて切るとか、５メーターあけて切るとかいろいろとこうあるようですから、私はその道のプロでないんでそこら辺も地主の方と。間伐を５メーターしたら何か後へ広葉樹植えようとか、ほってえて生えるのを自然生えを待つとか、そこら辺がいろいろとあるんじゃけどそこらあたりはどういう計画されとんかなあ。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

前半のほうですけれども、先ほど言いました百聞は一見にしかずとこういうんでやってみたときに、例えば英田地域なら、これだったらやってもええかなあというなことになると思うんですよね。私どもとしては、今人工林を中心として年間約4,000ヘクタールでしたっけ、ぐらいやってるんですよ。みんな人工林、人工林って間伐やってるんですが、なるほど雑木山もできるんだなあということがわかり、それがどんなふうになるかというのがわかってきますと、別にそこだけが更新伐の対象じゃあこれないわけでありまして、ただ更新伐っていうのが雑木林において恐らく県下で初めてやってるんで、ここでモデル的にやっとるわけでございますけれども、これはほかの雑木山にも当然適用可能性のある予算項目であると、その予算項目が今まで完全に死んでたわけですね、国的に言ってもね。それにこうやって火をつけて、だんだんモデル的にやってみて、単価なんかもだんだん明確なものが出てきて、そうすれば拡大をしていけるんだろうというふうに私は期待をしているところでありまして。そうなりますと、英田のみならず例えば万善のほうなんかもいい山があります、この間行ってみたらこれは切りがいがあるだろうなというのもありますし、あるいは大原にも、大原の場合は切りどころになる前にナラ枯れになっちゃいましてね、ナラ枯れ対策として切ってますけれども、あれを本当にいい時分にやっときゃあよかったなあというふうに私は思います。したがいまして、この百聞は一見にしかずと、その一見分についてはこの御近在の方々のみならず、やはり全市の方々が見に来ていらして、ああ、これならまあ説得してみようかとなりましたら、お申しいただければ私どもとしても前向きに対応していくつもりでございます。

それから、更新伐の後、植栽するかどうかについては、これはいろいろな考え方がありますけれども、一般的には今大体７割から９割ぐらいの材を出すんですけども、残りが１割から３割ぐらいなんですが、その１割から３割といっても割合林としてすっきりはしてるんだけども木がないわけじゃあないんですね。したがいまして、今のところは余り後に手間がかからないレベルで残していく、後は自然更新を待つことにするのかどうかというのをまた私はおいおい考えていけばよろしいかなあとこんなふうに考えておりますけれども。いろんな手法がありますので、モデル的なまだ林ですから、こういうのをやってみたらどうだという御提案も実は我々としては前向きに検討もしていきたいと、もう決め切ってはまだおりません。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

市長ね、私申し上げるんが、やっぱり60年、70年生えてくると災害を心配するんですよ。私もすぐ裏は山ですぐ前は山でというなことで、これ手を入れなんだら大変なことになるなあと、そういう思いで言っとりますんで、ひとつ性根を入れてこの問題にも取り組んでいただきたい。

この項は以上で終わります。

議長（山本　雅彦君）

万殿議員、３項目めは休憩の後からお願いします。

ただいまから10分間休憩します。

午前11時00分　休憩

午前11時10分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

８番尾髙誉久議員が葬儀のため退席をしております。

それでは、万殿議員、３項目めの質問から始めてください。

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）〔質問席〕

それでは、３項目め、男女共同参画社会推進ということで通告をいたしております。

このことを合併以来、私も非常に気にしてきておる問題であります。多少は進んでおるようでありますけれども、職種いろいろとありましょうけれども、どのように残業に、土曜、祭日出勤、ここらが影響してなかなか進まんのじゃないかなという危惧をしておる。そのことについてよろしく。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

それでは、議員お尋ねの男女共同参画についてということで答弁をさせていただきます。

職員の勤務時間、休日及び休暇に関しましては、美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例で必要事項を定めております。職員の心身の健康の維持、長時間労働による活力低下の防止、仕事と生活の調和を図るため、時間外勤務命令の適正な運用や休日出勤者に対する代替休暇の付与など服務規律の徹底については総務部長通知の発出などにより所属部長を初め全職員に定期的に周知徹底をしておるところでございます。

また、女性の活躍促進に向けた取り組みについては、平成28年４月に美作市特定事業主行動計画を策定し、全ての女性職員が能力と経験を最大限発揮でき、生き生きと活躍できる職場の実現を目指し、平成32年度までの目標数値を設定しておるところです。具体的には、女性職員の割合を事務職で30％以上、消防職で３％以上、管理職的地位にある職員に占める女性割合を30％以上とすることを目標としております。ちなみに、平成28年４月で女性職員の割合が事務職で23.4％、消防職で1.5％、管理職的地位にある職員の割合が22.8％という状況にあります。なお、本年４月採用の女性事務職員の割合は33％となっております。

以上です。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

定期的に周知をしておるから大丈夫だということのようであるが、部長ね、いろいろと議会があるごとに専決で申しわけありませんというてここらがな出てくるということは、職員が心身ともにくたびれとんじゃないか、疲れとんじゃないんかということが私言いたいわけなんじゃ。だから、残業が多過ぎるとか、祭日出勤したら代替えをきっちりとって、体が心がうまいことを調和できて仕事をしてもろうとるかということを私は聞きたいんじゃ。管理職もなかなかこう見て、ああ、きょうはちょっと１人ふえてっていうようです

けど、ね、こういうことが原因で、もう私は管理職やこうなりとうないわと、こういうことにはなってはないんですかということを私が言いたいんで、よろしく。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

議員御指摘の長時間労働などが原因で発生しているのであれば当然問題でございますが、現状ではそのような状況は確認されておりません。過重労働による健康障害の防止につきましては、美作市職員の過重労働による健康障害防止対策実施要綱により産業医への健康相談の実施を規定しており、職員の健康保持は所属長の職務といたして徹底しておるところでございます。

また、女性職員の管理職への登用につきましては、男性職員と同様に能力や適性を公平に判断して行っておりますが、勤務への配慮と登用のバランスは難しいものがあるのが現状でございます。単に数合わせで登用するというのではなく、きちんと育成し自発的に希望していただける風土をつくることが重要だと考えております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

部長、私が部長らが数合わせでやっとるというて、一言も言ってないんですよ。私が言いたいのは、ね、重荷になって管理職になるのを嫌がっとんじゃないかと、女性を管理職についていただこうとすりゃあ働き方、ここらも考えたほうがいいんじゃないんですかということを私が言いたいんで、もうよろしい、この項は。

次、行きます。

議長（山本　雅彦君）

それじゃあ、４項目めに入ってください。

１５番（万殿　紘行君）

次、行ったからというて安心せんようにね、よろしゅう頼みますよ。

それでは、４項目め、市民の健康寿命の引き延ばしについてということで申し上げております。

高齢化が進んで平均寿命が延びてきておるけれども、健康寿命は平均寿命より10歳近く短い、このように言われておる。私、ゲートボールやりよんですけども、ピンコロというチームにどういう意味ですかというたら、ぴんぴん元気でゲートボールして、死ぬときはころっと逝きたいんじゃと、そういう意味で名前をつけとんじゃ言うけん、ああ、そうですかと、そうしたのをいまだに覚えとんですけれども。やはり人間誰しもがこのことを望んどると思うんです。へえで、みまちゃんネルでも体の体操、こういうものを各地域でやりよんのを私もよう見るんですけれども。食べ物についてもいろいろと宣伝されておる。けど、その食のほうの〔聴取不能〕ばらばらで、表現は悪いかもしれんけども市のほうで統一せずにばらばらでやられとんじゃないかと。先ほどの中で野菜のビタミンが何ぼ、鉄分が何ぼということをやりよんじゃということ、これはわかっておりますけれども、やはり食品のほうからもきっちりやって、健康であれば介護保険、国民保険のというのはどんどんどんどん保険料が下がってくるわけじゃ、そこらを危惧しとんで、市としてどういう対応をされとん。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

それでは、失礼します。

健康寿命の延伸のための食の奨励についてということについてお答えをさせていただきたいと思います。

美作市の健康診査の結果では、血糖値やコレステロール値が高い方が多い特徴が見えております。また、国保医療費から見ますと、糖尿病や高血圧にかかる医療費が高い傾向にあります。がんでは、大腸がん、肺がんの医療費が高額を占めています。そのような生活習慣病を予防していくためには、議員おっしゃるとおり食べることが非常に重要な要素となるものと考えております。

食の取り組みといたしましては、今年度までに減塩への取り組みや野菜摂取普及に力を入れておるところですが、来年度は市民の方への食の実態を知るために、食事摂取調査を実施してまいりたいと考えております。分析結果に基づきまして、美作市民の食の実態に沿った栄養指導指針を作成し、保健事業として展開する予定としております。

一方で、美作市には生活習慣病予防効果が高い特産野菜がたくさんあります。特に現在摂取を推進しておりますのは、食物繊維、食物繊維は血糖、脂質、血圧等の上昇を抑える働きがあります。また、腸内環境を整え、便秘改善や大腸がん予防に効果的で、美作市民の健康課題の解決に最適な栄養素と言えます。日指ゴボウや作州黒豆、モチ麦には多くの食物繊維が含まれておりますので、積極的な摂取、普及を行ってまいりたいと考えております。その一つとして、現在モチ麦と特産野菜を使ったレシピ集を作成しておりまして、近日中に市民の皆様に御紹介できる予定で準備をしているところでございます。

よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

生活習慣病の予防に取り組んでおるということでありますけれども、先ほども申しましたように体、健康を保とうということで体操をやっておられる、多くの市民がやっておられる、各地区でやっておられるのを応援されよんじゃろうと思うんじゃが。健康寿命を延ばそうとすれば、あれもこれも、それこそさっき言うた鉄分がこんだけあるからこれをうまいこと合わせて調理して食べてくださいよというんじゃなしに、みんなで寄ってそういうものをこしらえて、楽しくいただく習慣をつけると。それでね、部長、私この一般質問を出したんが６日の日ですけども、今月の15日の山陽新聞に健康寿命を延ばすための情報共有全国都市連合会参加とか、岡山県内の市町村７町村ぐらい、そういう記事が載っとったんですけども、それへ必ず入れとかというんじゃないんですけども、先ほど当初言った市長との情報共有でこういうことをするために参加していろいろとやろうということであろうと思うんで、それへ参加しろというんじゃないけども私が言いたいのは、きのう市長言うたラジオ体操の件じゃないですけども、各地区集めてみんなで食べたり飛んだりはねたり、運動ですよ、そういうイベントをやって盛り上げたほうが、個人個人で家で勝手につくって食べてというたんじゃあ今までどおりの。検診へ行け行け、行ってください、行ってくださいというてもなかなかできんのと同じで、イベント風にして、体育会風にして、みんなに参加してもろうて意識を高める、こういう方策のほうがええと思うんじゃが、その辺は考える余地はあるかないか。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

全市を挙げてイベント的な取り組みをしてはどうかということでございますが、まず私のほうから保健福祉部としての考え方をお答えをさせていただきたいと思います。

まず、先ほどの２月15日の山陽新聞の掲載がありました日本健康都市連合についてでございますが、この連合につきましては人口減少、超高齢化社会の到来が現実となった今、健康都市の実現は極めて重要な政策課題であることから、同じ思いを持つ自治体が健康寿命の延伸を目標とし、お互いの政策レベルを高めることを目的に結成されたということでございます。

健康寿命の延伸につきましては、本市におきましても非常に重要な政策課題でありまして、昨年より美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略によりまして健康寿命延伸産業の育成に取り組んでいるところであり、この連合から発信される情報には今後注視をしてまいりたいというふうに思っております。健康寿命延伸のためには、議員御指摘のとおり個人の力だけではなく、環境づくりであったり地域づくりといった視点が不可欠であると考えております。先ほどお答えしました食生活改善のほか、運動推進、介護予防事業推進などさまざまな施策におきまして関係部署と連携をとることはもちろん、一方的な伝達にとどまらず市民の皆様に一緒に推進していただける事業となるよう努力をしてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

総合戦略監。

総合戦略監（森分　幸雄君）〔登壇〕

失礼いたします。

健康寿命の引き延ばしにつきまして、地方創生総合戦略の観点から御答弁をさせていただきます。

美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略では昨年８月の改定におきまして、生涯活躍の町推進による産業の創出としましてヘルスケア産業――いわゆる健康寿命延伸産業でございますけども――の育成を追加したところでございます。これを踏まえまして、昨年10月に、学識経験者、医療保険関係、福祉関係、体育関係、また産業界、金融機関等の幅広い各界の有識者を委員とします美作市ヘルスケア産業推進調査検討委員会を立ち上げまして、美作市ならではの健康寿命の引き延ばしを検討していただいているところでございます。

検討の視点としましては４つほどございまして、簡単に御説明させていただきますと、１点目は市民の健康への気づきということでございまして、いかに簡単に御自身の健康状態をチェックできるかの環境づくりを進めてまいります。２点目は、食事による健康増進、これは例えば美作市産の野菜の栄養成分の分析評価や食物繊維を多く含むモチ麦を美作市の特産品にしようということで、保健福祉部と経済部がタッグを組んで取り組んでいるところでございます。３点目は、運動による健康増進でございます。まず、高齢者を対象としましてフィットネストレーニングやスポーツに対する支援を強化し、年齢を重ねても元気で活力のある生活を送っていただけるような体力を維持する取り組みを支援してまいりたいと考えております。４点目は、美作市の地域資源である温泉を生かし、新たな観光振興策としましてヘルスツーリズムの研究をしてまいっているところでございます。このような健康寿命を引き延ばすことに効果があると考えられる取り組みを、市役所の関係する部署、例えば保健福祉部あるいは経済部、企画振興部などが部署の垣根を越えて連携をして行ってまいっているところでございます。

先日、２月18日にモチ麦セミナーを開催しましたところ、定員の80名を超えるお申し込みをいただきまして大変盛況でございました。市民の健康に対する関心の高さを実感したところでございます。また、３月７日には、全国区の著名な講師をお招きしまして、健康寿命の美作市を目指してというテーマで講演会も行う

予定にしております。

これからも保健福祉部が従来から取り組んできたさまざまな健康啓発活動に加え、地方創生総合戦略としましても市民の皆様に御関心を持っていただけるような、また気軽に御参加いただけるように工夫をしながら健康寿命の引き延ばしに効果的な取り組みを充実させていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

あらかたわかった。認知症対策も含めて、全市を挙げてイベント形式でやっていただきたい。先ほど言いかけたけども、市長がきのうラジオ放送の体操がラグビー・サッカー場でやるようになったと、ＮＨＫのラジオ体操。ほんで、ＮＨＫののど自慢ぐらいはね、美作市に誘致すると、これはちょっと施設のほう今の施設じゃあどうもならんだろうから、私がやめた後、積極的にそういうもんへ参加するんじゃという意気込みでやっていただきたい。

以上でこの項目を終わります。

議長（山本　雅彦君）

それじゃあ、続けて次の項に入ってください。

１５番（万殿　紘行君）

それと、この雲海については、きのう同僚議員が質問しとりますので、この件……。

議長（山本　雅彦君）

それじゃあ、６項目めですね。

１５番（万殿　紘行君）

しっかりやっていただこうと思うのは、市長、何かあったら、今回の件。私のほうからもきのうあらかた聞いておるんで、市長、とりあえず何かあったら。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

雲海の件について、訴訟の問題はお答えがあったということで省かせていただきますけれども、雲海につきましては一つお話をしなきゃいけないのは、雲海エリアといいますか、温泉そしてコテージ、事務所、体育館、野球場、プールと、その他ちょっと使えなくなったテニス場とかなんかございますけれども、実は私どもの営業活動の成果といいますか、岡山県内屈指の野球クラブチームがぜひ美作市に本拠を移したいというお申し出を寄せてきていらっしゃいます。そして、その方々の思いの一つに、できれば雲海の球場をホームの練習球場とするほか、雲海の施設の中で余り使われてないものがもしあるとすればそういうものを活用する中で、選手諸君の寄宿舎っていうんですか、寮というんですか、そういうものとして活用できないかという申し出がございまして、私どもとしてはこれを前向きに検討をしてみたいというふうに思っているところでございまして、まだ協議の途中でございますんで結果としての報告はできませんけども、そういう新たな動きがあったということにつきまして御報告をさせていただきたいと存じます。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

市長、この施設、しっかり対応していただいて、本当によい市民に愛される、市民が楽しめる施設にしていただきたい。そのことをお願いをして、次の項目に入ります。

議長（山本　雅彦君）

それじゃあ、続けて入ってください。

１５番（万殿　紘行君）

６項目めにしております美作市市内の文化財についてのお尋ねをいたします。

美作市が指定している文化財はどの程度あるのか、絵画、彫刻、いろいろあると思うが、その中で旧大原町時代に購入しておる国宝級の宝物が英田の資料館に隠してある。もったいないことだなあと、温度調節をせにゃあいけんので温度管理ができるところでねえといけんのじゃということはちらっと聞いたことがあるんですけれども、剣豪武蔵が書いた「達磨頂相図」、このことであります。私は、大変な大事なもんだろうけどもしまい込んでしまわずに、まあ大原に行きゃあにせもんが出ておりますけれども、ああいうのを皆さんに見ていただかにゃあ、個人ならしまい込んどきゃいいんですけど、これはもうそれこそ有効活用すべき、私は思うがどのように考えられとんか。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

まず、文化財についてのお尋ねでございますが、美作市といたしましては現在、市指定の物件187件ございます。多くは建築物、史跡、天然記念物でございますが、絵画、工芸、彫刻など持ち運びできるものは44件ございます。

お尋ねの「達磨頂相図」につきましては、本当に貴重な絵画であるため、湿度、温度、照明等の厳重な管理が必要でございます。また、セキュリティー面も必要でございますので、現在県立美術館にも御指導をいただきまして、英田歴史民俗資料館に保管をしてございます。そのため、先ほどおっしゃいましたように武蔵の里五輪坊にはレプリカを作成し展示をしております。

この活用につきましては、例えば展示可能な施設として市内で考えますと、作東の美術館あるいは英田の歴史民俗資料館の２館ということになりますので、適正な管理を図りながら展示、あるいは市内で小学校の３、４年生では美作市、みずからのふるさとを学ぶということになりますが、その資料集には宮本武蔵等も取り上げておりますことからそうした関係でももう少し活用が可能かというふうに、そうした部分も含めて研究をしてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）〔登壇〕

失礼いたします。

経済部のほうからは、観光面等での展示といいますか、そのあたりでの御答弁をさせていただきたいと思います。先ほど教育長のほうからもお話がありましたように、展示可能な施設が限られるということもございます。当然その取り扱いには繊細かつ慎重に行わなければならないということは十分認識しております。ただし、先ほど議員も申されましたように、「達磨頂相図」を初めとした美作市の文化財は歴史的な魅力や時代背景を有する美作市固有の魅力的な観光素材であるということも認識しておりまして、例えばお通杯な

ど剣道愛好家や外国人の剣道家が集う大きな大会などにはあわせて効果的に活用できないかというふうな点も、今後教育委員会とも十分相談しながら協議を重ねてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

セキュリティーの設備など適正な管理を図りながらという答弁でありますけれども、やはり先ほど私が申したようにせっかくあるもんじゃからこれは皆さんに出して、美作市はこういうものを持ってますよと、剣道愛好家だけじゃなしに。旧大原町時代によると、２億円近い金で購入しとんよ。そいつを、セキュリティーがどうのこうのってしまい込んでしもうて、大原の住民の皆さんは本物を見られた方があるかもしれんけれども、市民の皆さん知りゃあしませんよ。そういうにセキュリティーが大事なのかもしれんけども、美作市でできなんだらそれこそ県の美術館でも、ね、方法はあるはずなんですよ。やはり、市長、今グローバル化で外国人にも来てもらわにゃいけん、ええ宣伝になると思うんです、私。レプリカ飾ってって、本物はこっちへしもうとくんですというて年に一遍ほど、これじゃあせっかく大金をはたいて役をかかん、市長。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、お答えをいたしますが、いろんな芸術あるいは美術の世界におきまして、旅をするっていうのは結構重要なことであります。例えば音楽家で言うと、どこそこで演奏した、ウィーンの何とかに出ましたとか、ニューヨークフィルと共演しましたとか、そういうところが信用の向上、価値の認定というにつながるわけでありますので。例えば、お尋ねの書画がとりあえず岡山県立博物館での展示をされて、次に武蔵の主演してる熊本の県立博物館に展示され、で、国立博物館――上野にありますけども――そういうところでもたまに見られ、気がついたらボストン美術館にちょっと貸し出されて、で、大原に帰ってくるというような旅をしますと全く価値が上がってくるんですね、同じものでも。だから、当面今お尋ねの中にあった御示唆に富む発言を私も非常に重要な御指摘と捉えて、とりあえず県博あたりから旅ができるか、預かってもらって展示してもらえるかてなことも考えたり、あるいは貸しだしの希望が熊本県の方からあるのかとか、ボストンからあるのかとかそういうことも含めて、より価値の高い「達磨頂相図」になるようにいろんなことで探っていってみるように教育委員会にもこの場をかりてお願いもしておきたいというふうに思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

市長ね、私的には市にある財産、武蔵武道館では物すごい方が剣道大会で来られる。天下の武将宮本武蔵が書いた書じゃと、絵じゃということで子どもたちの剣道大会のときに見せるとか、湯郷温泉、市長らがいろいろと行かれて武蔵の絵があるよと、湯郷温泉に来て泊まっていただけば無料で見せますよと、湯郷Ｂｅ１１ｅの応援に来てくれたら無料で見学できます、こういうなとこで使い方何ぼでもあると思うんですよ。こういうな当時２億円、今はどのくらいするんか知りませんけども、こういうなことすりゃあ市民の皆さん恐らく、大原の方は知っとられるだろうけど市民の皆さんもう８割方知られんのじゃないか。市民の方にも

きっちり見ていただいて有効利用していかんと、せっかく大金はたいてセキュリティーがどうのこうのってしまいこんでしもうとる。それじゃ意味をなさんので、そこら辺をきっちり申し上げて次の質問に移ります。

議長（山本　雅彦君）

続けて次の項に入ってください。

１５番（万殿　紘行君）

教育長、お待たせしました。もう私が最後になりました。これで教育長にお願いするのはもう最後でございますので。

毎回と言っていいほど言ってきました今の世情、もう情けない。やはり教育から立て直さんともうええことにならん。このことは教育長がそこへ座られだしてから、常に私申し上げてきとんです。教育もまあ指導で学力はかなり上がってきたと、学力は以前私申し上げて私が言うと効力が薄れるんで学力のほうは人に任せて、私は道徳のほうをきっちりやってほしいと、このことをずっと申し上げてきとんです。教育長の指導力は私は高う買うとります、中にはいろいろと言われる人がおりますけど私は教育長の指導力を高う買うとりますんでね、まあこれからまた３年間しっかりやっていただかにゃあいけんのんじゃが、そこら辺のことを主に幼児教育についての。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

いつも教育に多大な関心をお寄せいただき、質問をいただいてありがとうございます。

それでは、最後の御質問でございます幼児教育につきまして御答弁を申し上げます。

〔15番万殿紘行君「あっ、入れかわっとるな、私、順番間違うたな、議長、ちょっと順番間違うとるけど」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

答弁のほうで調整してください。

教育長（大川　泰栄君）

はい。道徳教育と幼児教育につきまして、では御答弁申し上げます。

道徳教育につきましては、同じように道徳についてお話も申し上げましたが、新しい教育課程におきましては特別な教科、道徳ということで教科化されてまいります。つまり、今まで道徳ということを力を入れてやってきたけれど、まだまだもう少し力を入れるべきであるという国のほうも少しそちらにシフトを置き始めたという状況でございます。そして、この道徳につきましては、ただ単にその時間に先生の話を聞くとか本を読むということではなくて、例えば実際に何かやってみると、アクティブ・ラーニングというような手法も使いましてみずから体験をしながらしっかりと、では何をすべきかということも含めて学んでいくということ。そうしたことも含めまして教科ということになりますと、これは評価、国語や算数のように５、４、３、２、１という評価ではございませんが、文章表現ということにはなりますが、評価も含めましてこの道徳ということにはより一層教育委員会も含めましてしっかりと研究をしていかなければならない、より一層道徳については力を入れたい、その中にはいじめとかあるいは不登校とかそうしたことも含まれていくかというふうに考えます。

続きまして、幼児教育でございます。幼児期をいかに過ごすかということは、本当に将来における人生に

大きく影響すると言われております。基本的生活習慣の習得や人を思いやる心の育成、社会性の育成など、就学前の教育が果たす役割は大変重要であるというふうに考えております。そして、平成18年に教育三法が改革をされましたけれども、そのときに教育基本法の中にはそれまでは学校教育と社会教育、その中における生涯学習ということがうたわれておりましたが、と同時にその中に幼児期の教育、そして学校、家庭及び地域住民との相互の連携協力ということが表記をされております。これが昨日、本城議員から御質問をいただきましたコミュニティ・スクールという考え方につながっているということでございます。その教育基本法では、父母その他の保護者は子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るように努めるというふうにうたわれております。就学前教育を進める上で大切なことは、乳幼児期からの親子の愛情によるきずなで結ばれた家族との触れ合いを通じて育まれる家庭教育であると考えております。以前、金谷議員がこの議場で、親子の触れ合いは非常に大切である、本当に子どもはかわいいというふうにおっしゃいました。本当に家庭教育というものは、幼児時期の教育、またそれ以上につきましても本当に大切なものでございます。現在、子どもの学力は、学校教育掛ける家庭教育によって成り立つとよく言われております。家庭教育、家庭の支援ということが大切であるということで、政府のほうもことしの国会には家庭教育支援法案を提出するというふうに言われております。国においてもそうした動きがあるわけでございます。例えば、具体的な例を申しますと、よく学力学習状況というふうに言われて、そして常に成績上位県として名前が上がりますのが、秋田県、富山県、石川県、福井県等でございます。これらの県に実は共通した特徴は、祖父母との同居の三世代家族が多いということでございます。つまり、子どもたちが幼いころから、予習、復習、宿題を見守る祖父母の力ということでございます。まあもちろん例外はございますが、そうした力が大きいということでございます。そして、何より私自身も家庭の中で子どもたちが愛されていると実感できるということが、非常に大切なことかというふうに考えております。愛されていると実感できるためには家庭の中でどうあればよいか、やはり保護者のお二人、いればそのお二人が互いに愛し合い、尊敬し合っている、そして御両親、祖父母がいらっしゃれば、よく嫁、しゅうとめと申しますが、おしゅうとめさんをそれぞれが大事にし、そしておしゅうとめさんも自分のお嫁さんを大切にすると、そうした気持ちが伝われば子どもたちはおのずと愛されていると実感でき、すくすくと育っていくというふうに考えております。家庭においてお互いの悪口を言い合っている、母親がうちのお父ちゃんの稼ぎが悪いけんあんたらこういう生活をするということでは、やはりうまく育たないのではないかと。それと同時に、私は美作市全体におきましても互いを大切にし愛し合っているという感じ、感じる、そしてそのことを子どもたちが感じることで子どもたちは町全体から大切にされ、愛されていると感じる、そしてそのことが今後は成長しふるさとの町を大切にし、帰ってこようという気持ちにつながるのではないかというふうに考えております。

こうした中で、まあいろいろ家庭の抱える問題というのも多様化をしておりますけれども、保護者の孤立化を防ぎ、地域でのつながりづくりを大切にしながら、保健福祉部とも連携をしながら子育て支援、そして就学前の教育というものを大切にしながら続けてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

教育長の心強い答弁いただきました。やはり小さいときから３歳ぐらいまでにきっちり事のよしあしを最低限教えておけば、大人になってもしゃきっとした人間になる、小爪を拾うような人間にはならん。そうい

うことで私、幼児教育、もうこれしかない。きのうかおとついでしたかテレビで、トイレに行っとるときに後ろからしゃあしゃあ、何を考えとるんならと言って。やはり小さいときにきっちり教育できとれば、その子どもたちが幼稚園へ行ってしっかり習うと、小学校で先生方は本来の仕事だけしょうりゃあええんじゃ、それができとらんから本来の仕事ができずにあれやこれや言われる、ノイローゼになる、病欠で休まにゃいけんようになる。こういうことになるんで、もう子どものときから守らにゃいけんルール、人間には義務と権利があるんですよと、権利だけではないんですよと、義務もあるんですよということを子どもとお母さん、お父さん、家族の方も一緒に教育していただかんと、子どもは園で習うて帰っても親ができてなかったらなんもさっぱり効果が薄れる、私そこを言いたい。もう私、時間がないけん余り詳しいことは言えれんが、やはりそのために先生方が病気になったんじゃあ、これたまったもんじゃない。教育長が何ぼこうしてください、ああしてくださいって、先生方が精神的にまいってしもうとったら言われてもできん。そういうことを私が感じておるんで、その辺の決意を、教育長。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

力強い応援の言葉ありがとうございます。保護者への教育あるいは就学前の教育ということは、本当に大切でございます。今、私は何よりも就学前の教育ということで、保育園、幼稚園の園長先生方にも常々お願いをしております。親育ち、親育てとよく申します、保護者自身も子どもを育てていく中でみずからも成長をしてまいりますが、それを助けそして時には相談に乗りという役割が保育園、幼稚園では園長の大きな役割であろうと、子育て、そしてそうしたたくさんの子どもたちと接してきた経験で親育ちを応援をしていくと、こうしたことがまず大切かと思います。そしてまた、就学前、幼いときからの規範意識、そしてふるさとを愛する心、そうしたものも含めまして、現在美作市におきましては県の補助も受けまして就学前教育アドバイザーの方に――小学校の校長先生の御経験もある経験豊富な方ですけれども――その方においでいただき、就学前のカリキュラム、接続カリキュラムということでそうした美作市ならではの視点も入れながら、就学前の教育とそして小学校に入ってからの教育をつなぎながら親も含めてしっかりと育ててまいりたいというふうに考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

教育長ね、これから３年間しっかりやっていただきたい。あなたの肩にかかっとる。そのことをきっちり言うて、次、いじめのほうへ入ります。

議長（山本　雅彦君）

どうぞ。

１５番（万殿　紘行君）

インターネットの普及で、にっちもさっちもいかんようになってきとる。市内の状況、どのようになっとるか、ちょっとあらかたの説明をお願いしたい。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

いじめの現状のお尋ねでございますが、いじめの認知ということにつきましては国の方針に従いまして、これはいじめゼロと報告をした市において実際にいじめにおいて子どもたちが命を絶つというような痛ましい事件が起きたということを受けまして再度見直しをということで、平成27年度には前年を上回る認知件数ということがございましたが、現在はそのほとんどが解消されております。これは、教職員が子どもたちをしっかり見ていくことで細かくいじめを認知し、早期発見、早期解決につながったというふうに考えております。平成28年度も、現在まだ統計は出ておりませんけれどもそれぞれ多くの例がございますので細かく把握し、そしてチーム学校、学校全体としてしっかり対応をしていくようにということで指示をしております。先ほども申し上げましたように、各学校においては道徳教育を中心に学校生活のさまざまな場面で思いやりや助け合いの精神をしっかりと育てながら、いじめの未然防止にも努めているところでございます。

〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

教育長ね、このいじめというのもなかなか表へ出てこん、特にインターネットのあれでもう解決したなあと思うてもなかなか出てこん難しい問題だろうと思う。これはまあ教育長の宿命であるんで、150人からの先生を束ねてる、大変だろう、教育長、ストレスをためんように、時には歌でも歌いながら気を抜く時間もつくってもらわんと、あんたが倒れたら美作の教育界が困るんで。

先ほども申し上げたが、先生方にいろいろと苦情を言うてくる、このことはどのように処理しょんか、ちょっとそれをもう一遍聞きます。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

先生方への苦情、それからまた教育委員会へもさまざまなお電話をいただいております。そうした中で、まずはお話を伺っておりますけれども、そうした内容には先ほど申し上げましたチーム学校と、その対応を１人の先生に任せるのではなくて、学校全体でその情報を共有し当たっていくということを基本にしてやっております。しかしながら、非常にこの厳しい状況、今刻々と変化をしておりますので厳しい状況でございますので、先生方の中には非常におつらい経験をされているというような場合もございます。そうした場合も、教育委員会としてもしっかり指導支援に当たりながら解決に努めている、まだまだ解決は十分ではないという部分もございますが、そうした形で対応に当たっているということでございます。何とぞ議員の皆様方にもしっかりこうしたことで支えていただきまして、真実に基づいていろいろな御指摘をいただきますようにお願いを申し上げるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

教育長、教育行政というのはなかなか難しい、このことはもう十分理解しております。しっかり頼みます。

長時間、皆さん方にはありがとうございました。これで質問を終わりますけれども、職員の皆さんも健康に十分気をつけられて、しっかり美作市のためにやっていただきたい。特に市長、体には十分気をつけて、

しっかり美作丸をきちっとした市にしていただくことを心より祈念をいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番13番、議席番号15番万殿紘行議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから１時10分まで休憩いたします。

午後０時06分　休憩

午後１時10分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番14番、議席番号１番金谷典子議員の発言を許可いたします。

金谷議員。

１番（金谷　典子君）〔質問席〕

１番金谷。

議長（山本　雅彦君）

なお、金谷議員の要望もございまして、各議員の皆さんには参考資料を配付しておりますのでごらんください。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

ない、今お持ちします。

〔資料配付〕

金谷議員。

ちょっとマイクをこっち側に近づけてください。

１番（金谷　典子君）

議長のお許しをいただきましたので、金谷典子、平成29年３月議会の一般質問に入らせていただきます。

美作庁舎前にあります市の木、梅の花はまだまだつぼんでいます。この議会に入りまして毎朝眺めておりますが、寒い日、暖かい日、私たちとともに花開く春を待ち望んでいるようです。

さて、今回の質問は美作市の情報管理についてと美作市の住民の移動手段についての２項目です。

美作庁舎移転が否決後、市民の方からいろいろなお尋ねがありました。庁舎が移転しなければ、現在の場所での災害時の対応を必要とされます。その中で心配されてる人がありました。今回の質問を選んだ理由はその御質問があったからです。

美作市の情報管理についてでございますが、日々の業務の中にある中で情報セキュリティー対策の実施状況についてお尋ねします。

美作市の最高情報統括管理責任者、統括情報セキュリティー責任者は誰なのでしょうか。そして、情報セキュリティー委員会というものはあるのでしょうか。物理的セキュリティーの中でサーバーの管理は、災害、水害、地震、雷、温度、湿度などどのようになっているのでしょうか。停電時等、電源供給対策はどのようになっているのか。サーバー室の入退室管理はどのようになっているのか。美作市の情報セキュリティー対策基準がありますが、職員の研修訓練は３年前から何回、何人が受けているのか。事故、欠陥等の報告は、３年前からどのような内容で、何回あるのか。事故後の処分はどのようにされているのか。処分の取り決めはあるのか。情報に関する外部委託への契約内容の再確認等、定期的に行っているのか。緊急時、対応

訓練は実施されているのか。情報管理における非常時優先順位業務などは、遂行するために計画はどのようになっているのか。情報セキュリティーを監査するのは、内部なのか、外部なのか、どのようになっているのか。

個人情報の取り扱いと情報セキュリティー対策のあり方についてですが、災害時、阪神大地震災、東日本大震災など大きな震災のときに、災害時に、行政が保有する個人情報の外部提供等のマニュアルなどの徹底はできているのか、そのような話し合いがされているのかということを質問させていただきます。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

情報セキュリティー対策の実施状況についての御質問でございます。

まず、美作市においては情報セキュリティー基本方針及び美作市情報セキュリティー対策基準を定め対策を行っております。セキュリティーの最高情報統括責任者は安部副市長で、統括情報セキュリティー責任者は企画部長となっております。セキュリティーに関する重要な事項を決定する情報セキュリティー委員会の構成委員は、最高情報統括責任者をトップとして統括情報セキュリティー責任者及び各情報システム担当者から担当部長である情報セキュリティー責任者、また担当課長である管理者となっております。

サーバーにつきましては、美作市が管理する施設の中に設置し直接管理しているものと、いわゆるクラウド方式として業者のサーバーを借りているものに大きく分かれます。どちらのサーバーにつきましても空調を完備し、無停電バッテリーを備え、また非常時には自家発電装置により電源を供給できるようにしております。設置場所につきましてはセキュリティー上お答えすることはできませんが、浸水する可能性の低いとこなど災害を考慮した場所としております。また、バックアップ用のサーバーを遠隔地に設置するなど、さまざまな場面を想定した対応を行っております。また、サーバー室は厳重な施錠をしており、入退室をする際には管理者の許可が必要となっております。

次に、セキュリティー対策に関する研修ですが、毎年１回、地方公共団体情報システム機構が行うインターネット上の講座、いわゆるｅ－ラーニングというものによりまして研修を行っております。受講対象者は情報を取り扱う職員で、毎年約300人が受講をしております。今年度からはマイナンバーを取り扱うパソコンにつきましては生体認証、そういったものを導入するなどセキュリティーを高めており、マイナンバー事務の取り扱いについてもｅ－ラーニングにより研修を行い、職員の意識を高める取り組みを行っているところでございます。ｅ－ラーニング以外、直近では、この１月18日から19日にかけて４回に分けて座学による研修を実施し、合計で165名の職員が受講をしております。この研修では、特にソーシャルネットワークシステム、いわゆるＳＮＳの使用に関して厳重な注意喚起を行い、個人情報をうっかり発信してしまった事例の紹介、公私と私人を区別し、発信する情報には気をつけることなどの研修を行っているところでございます。

情報セキュリティーに関する事故についてですが、３年間で４件の事故の確認をしております。まず、１件目は外部の意図的な大量のアクセスによりサーバーに負荷がかかり一時的にサーバーがダウンした案件、２件目は重要な機器の故障によりデータ通信が不安定になった案件、そして３件目は先般臨時議会で報告いたしました、たび重なるパソコンの私的利用でございます。全職員を対象にパソコンの利用状況を確認いたしましたが、前日以外の問題となるような私的利用は確認できませんでした。続きまして、４点目でございますが、４点目につきましてはつい先日発生をいたしました、教職員が車上荒らしに遭い外部記憶メディア

が盗難に遭ったと、そういう案件でございます。

これらの事故に対する対応でございますが、物理的なものは所管課において早急な対策をとることとしており、職員の情報漏えいや私的利用など人為的なものは事例によって美作市懲戒処分の基準に関する要綱に基づき処分を行うことになります。

次に、外部委託事業者との関係でございますが、データ保護に関する覚書を締結しており、同覚書には使用目的の制限、データ複製等の禁止、機密保持、危機管理体制等を明記しております。また、データ保護が適切に行われない、またはそのおそれがある場合は、データの管理状況を調査することができるようになっております。

美作市においては、１日に約150件の本市システムに脅威となり得る外部からのアクセスがあり、さらなるセキュリティー強化を図っているところでございますが、仮に緊急事態が発生した場合は発生した事象から証拠保全、被害の拡大防止、復旧、再発防止等の措置を優先順位を判断しながら迅速かつ的確に対応することとしております。住民基本台帳や戸籍、生活保護などのシステムを所管する課の職員には、一般職員よりもレベルの高い研修を必修としており、この研修を繰り返し行うことでいざという事態に素早い対応がとれるよう取り組んでいるところでございます。

最後に監査についてですが、情報セキュリティー監査は情報セキュリティー委員会が指名した方が必要に応じて行うこととなっており、指名される方は内部または外部の方でなければならないという規定はございません。

続きまして、個人情報の取り扱いと危機管理観点からの情報セキュリティーということでございますが、まず個人情報の取り扱いにつきましては、個人の生命、身体または財産の安全を確保するため緊急かつやむを得ないと認められるときは美作市個人情報保護条例第７条第２項第３号により個人情報の利用や提供に係る規定等は適用しないと定めているところでございます。

次に、危機管理の観点からの情報セキュリティー対策のあり方でございますが、例えば災害基本法におきましては災害時にみずから避難することが困難な方であって特に支援が必要な方を避難行動要支援者と呼び、避難指示を実施するための基礎となる名簿の作成が市町村に義務づけられております。市町村が講ずる措置といたしましては、その内容を市の地域防災計画に定めておるところでございます。なお、市地域防災計画では、警察、消防、自主防災会や社会福祉協議会など避難支援等に携わる関係者――避難支援関係者と呼びますが――この方々に対しまして本人の同意を得た上であらかじめ避難行動要支援者名簿の提供ができることとしておりますが、災害対策基本法の改正により災害発生時や災害発生のおそれがあるときには本人の同意の有無にかかわらず必要な個人情報を提供できるように改正されたところでございます。また、名簿情報の提供を受けた避難支援関係者に守秘義務を課すとともに、漏えい防止、そういったことに必要な措置を講ずるということにもしております。避難支援計画書の作成要領に、名簿情報等の提供につきましては要支援者の同意確認を行うこととしておりますが、詳細な対応マニュアルについてまでは作成をしておりません。こういった災害時につきましては、災害時に支援が必要となる方をあらかじめ把握することが非常に重要かと考えておりまして、保健福祉部局とも連携しながら避難行動要支援者名簿の作成、非常事態に活用すると、そういったことに十分配慮してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔１番金谷典子君「処分は言われましたか」と呼ぶ〕

処分につきましては、先ほど答弁をさせていただきましたが、職員の情報の漏えいや私的利用など人為的なものは事例によって美作市懲戒処分の基準に関する要綱に基づき処分を行うことになります。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

金谷議員。

１番（金谷　典子君）

２回目の質問に入らせていただきます。

２月17日の山陽新聞の記事で、自治体の情報経費を公表する、そして政府の方針はクラウド供用を促すとありました。複数の市区町村が共同で住民情報を民間データセンターに預ける自治体クラウドの導入を促すためとありました。全自治体の情報システムに関する経費を来年の３月までに公表して個人情報を管理するより経費を減らせる上、センターの多くは頑丈な大規模災害に強いとしています。今、自治体クラウドというような表現が新聞であったんですが、どのようなもので、美作市は導入済みであるのかどうか。それから、美作市の25年、26年、27年度の情報に関する経費は幾らで、同じぐらいの人口の自治体と比べて比較はどうなのかということ。そして、情報漏えいの対応は今処分についてお伺いしたんですが具体的な処分がどのような、戒告であったのか減給であったのかということも具体的にちょっと聞きたかったんですが、そこまでは言われなかったんですけれども。私が人事院の処分についての指針をコピーしていただいたんですが、美作市も基準を設けている条例があるんですが28年２月22日から施行されていますということで、この人事院のほうは９月30日に最終改正をされているということなのでこちらのほうコピーさせていただいたんですが、具体的に人事院のほうは丸がついてまして、この事案であれば減給であるとか、戒告であるとか、免職、停止というようなことが丸がしてあるので、わかりやすいかなあと思いまして皆さんにも配付させていただきました。そして、いろいろな美作市の事故がありましたが、皆さん仕事に一生懸命、仕事をするために家に持ち帰って仕事をされてたまたまというようなこともありまして、真面目に仕事に取り組んでいる方が事故に遭うということがありまして、大変事故に遭われたことも、その持ち帰るということ自体は法律では規制されているようなんですが、結果的にそのような形になってしまうという現実もあります。そのような中で、いろんな事故のときに処分が、ここに人事院の指針がありますが、その方の職務遂行のいろいろなことを考慮して考えると、真面目に仕事をされていてたまたまそういうことになったらそういった処分もないのかもしれません。ただ、平等に処分を行っていただきたいということは、私はここで申し上げたいなあと思うんですが、その処分についての考え方をお聞かせいただくということと。

それから次に、先月の１月29日に津山で美作市美作聾唖協会と美作地区手話サークル連絡会の合同研修会に参加させていただいて、そこでグループワークをさせていただいたんですが、避難経路の危険箇所の確認等、いろいろ障がいのある方々が災害に遭ったときにどのような支援をしないといけないか、常日ごろから連携をとらないといけないかということを、東日本の災害のときなど、それから鳥取の地震のときのことを踏まえて勉強会をさせていただいたんですが、その辺のことを保健福祉部からのほうもここで情報という個人情報のこともう一度言っていただいたらなあと思っております。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、情報関係の話で自治体クラウドそして処分ということですか、についてお答えいたします。

自治体クラウドについては、新聞紙上、クラウドを利用することと、それは安いということが恐らくその背景にあるんだというふうに思っておりますが、幾つか問題がございまして、今自治体クラウドという名称で出てる商品が結構高いんです。ですから、政府がまだ喧伝されてるように、安いかどうかについて必ずし

も明らかではない。ちなみに私どもは情報公社を使っておりますけども、情報公社が提供してるサービスはある意味では複数の自治体が一つのクラウドを使ってると同じ効果になってますんで、クラウドと言って言えないこともないんですよ。ですから、我々としては単に政府があっちへ行けというからあっちへ行くんじゃなくて、全体として本当に効率が上がるとか、そして経費が削減されるということが明らかになった場合にそういう方向性をとるということで考えているところであります。

それから、処分のことで、私の卓上にも人事院から出てる懲戒処分の指針というものがありますのでこれに即して申し上げますと、例えばこの処分指針の中でコンピューターの不適正使用っていうのがあって、これについては減給または戒告という区分になっているわけであります。一方で、これが相場なんですけれども、例えば基本的事項という最初のページに考え方をどうやるかという、これはどこでも同じです、別に人事院じゃなくてもどこでも同じなんですけれども、その非違行為っていうか非行行為がどういうふうに具体的にやられたかと、例えば１回だったのか、２回だったのか、3,880回なのかというなことは勘案しなさいというふうになります。それから、故意であるか過失であるかという、例えば先ほど議論がありましたけれども記憶媒体、つまりＵＳＢかなんかに情報を記憶をしていたっていうところについてはこれは若干故意性があるんですが、その漏えい事件につながるところの問題、つまり車上盗難に遭ったというところについてこれは故意性は全くないというようなことで、その量刑を少し下げていくということにもなろうかと思っております。

もう一つ重要なことは、今申し上げましたように非違行為の対応が累犯的に重なっていくということがプラスで働くとともに、その非違行為を行った職員が管理または監督の地位にあるなどその職責が特に高いときには荷重的に非違行為に対する処分を高めなければいけないという指摘がなされてるというのが、この第１基本事項の２番目の段落の②であります。ちなみにもう少し申し上げますと、本件の通達というか参考資料というのは、これ地方公務員法の世界を念頭に置いておりますので、地方公務員法的に言いますと一般職職員のみに対象になるわけでありますので、その点は誤解なきようにするべきでありますけれども、一方で管理職の立場にあるものが同じことをした場合にはより強い牽制をしなさいと、例えば減給ではなくて免職というふうになるっていうのがここの言い分なわけでありますけれども、社会通念上申し上げますと直接の適用はないんですけれども、特別職においてこういった行為がある場合にはこの辺の管理職よりもこっちの特別職のほうが社会的に責任が非常に重いので、その辺はよく考えて対応をしなければいけないというようなこと。つまり、水平的な公平性とともに垂直的な重要性に基づく公平性というものを両方確保する中で、量刑の妥当性っていうものを確保すべきというのが我々の判断でありまして、実行例は今のところ余りございませんけども常にこういった形で処分をしているわけであります。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

２回目の質問でございます。

私のほうからは、25年度、26年度、27年度の情報の関係の経費と他の自治体との比較について答弁をさせていただきます。

この情報セキュリティーの経費につきましては、27年度におきましては１億9,175万3,000円というふうになっておりまして、25年、26年もほぼこれに近い数字ということで御理解いただきたいというふうに思って

おります。

他の自治体との比較でございますが、他の自治体の数値につきましては公表されてないことから、今現在とはちょっと比較はできないということになってますので御理解願います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

１月に行われました津山での手話サークル、聴覚障がい者の方の学習会での支援が必要とされる方の支援のあり方ということですが、保健福祉部社会福祉課におきまして、まず65歳以上の高齢者の方を基本的に対象としまして要援護者台帳というもののシステムを導入して今現在管理をしております。さらに、それを進化させたもの、障がい者であるとか、介護が必要な方とか、そういったさらにそれに難病の方とかを加えた方を管理する避難行動要支援者台帳というものを危機管理室のほうで管理をされてるという状況でございます。先ほども法の改正がありまして、有事の際には本人の承諾なしにこういうものが情報開示できるということに法の改正がありましたので、有事の際にはこういった台帳を活用して避難支援を必要な方を助けていくということにはなるかと思いますが、学習会でもお話があったように、まずはその方がいらっしゃる町内会で日ごろからそういったこういう有事の際は誰がその方を見守っていくのかということをふだんの会議とかそういった中で話し合いをしていただくことが大変大事なんじゃないかなというふうに考えています。

〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

金谷議員。

１番（金谷　典子君）

３回目の質問をさせていただきます。

一昨日ですが、事故とは言えないんですけれども３人の市民の方からお電話が入りまして、パソコン教室のほうでユーチューブ、グーグルが使えなくなって困っているというお電話が入りまして、原因について調べていただいていると思いますので、これ事故ではないかもしれないんですがちょっと説明していただきたいということと、それからいろいろな事故がありまして事故後の対応等も迅速にされまして、美作市のほうでは故意な事故というようなものはないかもしれませんが、平等にやっていただきたいんですけれども、そのことについてほかには事故はなかったんでしょうかね。

以上、４つの事故のみで保護条例等はなかったのかどうか。

議長（山本　雅彦君）

金谷議員、情報セキュリティーの全般的な質問だと解釈いたしますが、今おっしゃってる質問につきましては、パソコン教室のパソコンがうまく使えなかったという事故の話でございますね。

１番（金谷　典子君）

はい。

議長（山本　雅彦君）

もし答弁ができるようでしたらしてもらいますが、いかがですか。

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

３回目の御質問でございますが、新たな質問というかあれでございますけど、まずパソコン教室での状況につきまして当方が今現在情報を得てるというふうな内容についてお答えをさせていただきたいというふうに思っております。このパソコン教室につきましては、というよりは以前からこのパソコン教室につきましては行政の我々が使う通常の行政事務が使うネットワークと共有をしておりまして、以前から若干行政系のデータ配信等がちょっと遅くなってくるというそういった状況が出てまいりまして、その原因等を調べている中でこの勝田のパソコン教室においてユーチューブ、そういった大量にデータを発信されるようなことがなされてたということで、こういったことで行政系のほうに若干影響を与えてるということが判明したもんでございますので、このユーチューブへのアクセスを今の現在停止をさせていただいてるところでございます。今後の対応につきましては、今関係部局と協議をさせていただいておりますが、どういうふうに運営をさせていただくかセキュリティー上のこともございますので、そういったことも踏まえまして今後検討をさせていただきたいというに思っています。

それから、２番目で、先ほど４件の事故等報告させていただきましたが、それ以外に事故等は一切ございません。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

金谷議員、総括になります。

１番（金谷　典子君）

総括させていただきます。

美作市の個人情報が全てパソコンの中に入っておりまして、パソコンについては詳しいことがよくわからないことがあります。物理的に機械が壊れてしまうことのないよう、そして人的セキュリティーにおいて技術的セキュリティーなどしっかり遵守していただき、市民の生活に支障を来さないよう管理と日々の業務が迅速にそして経費ダウンに努めていただきたいと思います。

終わります。

議長（山本　雅彦君）

それでは、続けて次の項に入ってください。

１番（金谷　典子君）

それでは、２項目めに入ります。

美作市の住民の移動手段についてでございます。

この項目については、私を入れて７人の議員が質問をしておりますので、重なるところは省いてくださって構いません。

私が思っております質問は、高齢者、出産前後の母子、障がいのある方等の移動手段について質問します。

現在の美作市の助成状況を教えてください。そして、今後の取り組みや助成はどのように考えているのか教えてください。そして、現在の市内バスについても皆さん多くの方が、７人の方が質問されまして、市民からの要望はどのように上がっているのか、対策はどうなっているのかということです。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

美作市民の移動手段について、高齢者、出産後の母子、障がいのある方の移動手段で、美作市の助成状況ということでございます。

現在のところ出産後の母子の方への市の助成というのはございません。高齢者の方への移動手段ということですが、現在は直接補助をするような制度はございませんが、介護保険サービスを利用されている方で要介護１以上で公共の乗り物にお一人では乗車できない方でケアプランのほうへ移動手段が盛り込まれた場合には、ヘルパーによる乗降の介助、車をおりてからの自宅や目的地内への移動支援といったサービスを受けることができるという状況にはあります。このサポートにつきましては、障がい者の方に対しても同様の制度がありまして、一定の条件を満たす障がいのある方は障害者総合支援法に基づく移動支援事業によりましてヘルパーの派遣を受けることができます。また、難病や人工透析などの治療を要する方につきましては、自宅から医療機関までの特定疾患医療附帯療養交通費というものを支給しておりまして、今年度から月額の上限を3,000円から5,000円という引き上げをさせていただいておるところでございます。

今後の取り組みとしましては、交通弱者対策ということでタクシー料金の一部補助の実証実験ということで報告をさせていただいておりまして、活用状況を十分に検証して高齢者の負担軽減、障がい者の福祉の向上につなげていきたいと考えております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

それでは、金谷議員御質問の現在の市内バスにつきまして、その要望はどのように上がっているのかというようなことにつきまして答弁をさせていただきます。

市民からの要望につきましては、個人からと地元からの要望の２つがございます。個人からの要望につきましては、地域からの要望であるかどうか見きわめる必要があるため、地元要望を含め区長さんや地域自治振興協議会に諮り検討していただいております。結果的に時刻やルートなどの変更が必要な場合は、市町村運営有償運送に係る登録事項の変更について美作市交通会議に諮り、岡山県に申請し認可を受けることになります。

以前の変更の状況を申しますと、大原バスと東粟倉バスは平成26年に福祉バスから市営バスに再編いたしました。英田バスは、福祉バスから２度の施行再編を行い運行しております。この再編につきましても、半年から２年を要して変更した経緯がございます。美作バスにおいては複雑なルートを運行しており、生活の一部として定着していることもあり、合併以前から変更することなく運行をされております。しかしながら、行政懇談会でもありましたように、一部の地域から時間を変更してほしいと要望もございます。ルートや時刻を変更することは全ての地域に影響があることから慎重に検討を行い、曜日別運行やルートの再編を協議検討してまいりたいと思っております。

何と申しましても、交通弱者の方にとっては大切な足でございます。今後もそういったことを踏まえ、より利用しやすい市のバスを目指していきたいと思います。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

金谷議員。

１番（金谷　典子君）

７人目になりますので大体わかっておりますが、特に出産前後の妊婦の方、臨月を迎えて例えば家で出産を待っているというときに、いつ陣痛が来ていつ破水する、先輩議員が言われましたがそういうこともあります。そして、初産を迎える妊婦さんはどういうものなのか全くわからないので、いつ陣痛が来てどのよう

な状態になるかを予測できなく、話には聞くんだけれども不安をすごく抱えながら仕事をしたり、家で待っている。そして、核家族で夫は仕事をしているとか、夜勤でいないとか、いろんな状況のときに自分では運転していけません、はい。そして、救急車を呼ぶほどでもないかなあと思って救急車も呼べません。そのときに、生涯で２人、３人子どもを出産するというのは人生の中で３回、そのときにぐらいはぜひ助成をしていただいて気軽にタクシーを呼べるようにとか、ぜひ出産の前後の母子の補助をお願いしたいと思います。本当に不安でかなわない、そして家族もじっと待っているわけにはいかないんです、出産前だからといって仕事に出かけるしかありません。そういう状況を踏まえて、近くの町ではタクシーの補助を行っております、既に。御存じだと思いますけれども、そういうところを美作市ももっともっと充実していただきたいという要望がありまして今回ここに上げました。そのことについて、どのようにお考えでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

金谷議員におかれましては、本当に女性ならではの立場から貴重な御意見をいただきました。今回のタクシー利用時の補助事業につきましては、実証実験ではございますが何と申しましても交通弱者対策としての足の確保が第一でございます。対象者としましては、高齢者の方はもちろんですが、先日来出ております運転免許証の自主返納をされた方、障害者手帳、身体、知的、精神をお持ちの方、そして議員からの御提案もございました妊産婦の方などを予定しております。なお、再度申し上げますが、この事業は経過を見まして拡大をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

金谷議員。

１番（金谷　典子君）

妊産婦の方もその中に入っているということで安心をいたしました。ぜひ、安心して子どもが産めるようにしていただきたいと思いますし、そしてもう一つ、これは要望なんですが、先輩議員がこの路線バスの表を出されて、これを配付してくださるということでいいことだと思います。そして、私時刻表を全部いただきました、たくさんの時刻表です、これだけあります。これを全て家に配付するということは不可能かもしれませんので、欲しい時刻表を必要という方に郵便で送るとか、ファクスで送るとか、そういうサービスができるのかどうか要望なんですが、それについてもお答えいただけますか。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）〔登壇〕

谷本議員の御質問でも答弁をさせていただきましたけれども、確かに路線バス、特に美作地区におきましては変更はなかったものですから出てないということもありまして、バスの運行地区につきましてはそれぞれ見やすいものをつくって、早ければ３月の広報の配布、遅くとも４月の広報にはそれぞれの路線バスのルートと時刻表が載ったものを広報紙と一緒に配布してまいりたいと考えておりますし、もちろん希望があれば各支所、それから本庁の窓口にも置かせていただきますので、先ほど言われましたように郵送とかということも考えてまいりたいと思います。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

金谷議員、総括です。

１番（金谷　典子君）

総括させていただきます。いろいろと要望もさせていただいたんですが、ぜひ市民の足、そして高齢者、妊産婦、障がいのある方などが不便のないように、足が、移動手段が図れますように今以上に努力をよろしくお願いいたします。

これをもちまして３月の一般質問を終わらせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番14番、議席番号１番金谷典子議員の一般質問を終了いたします。

ただいまから10分間休憩いたします。

午後１時58分　休憩

午後２時08分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番15番、議席番号10番西元進一議員の発言を許可いたします。

西元議員。

１０番（西元　進一君）〔質問席〕

それでは、議長の発言許可をいただきまして、平成29年３月議会での一般質問をさせていただきます。

ほんで、私は６項目ほど出して、急いでせにゃいけんような時間がないようなことなんで、急いでさせてもらいます。

まず、私は庁舎問題を何回も取り上げますが、また取り上げさせてもらいました。

今、私が問題になっているというのは、庁舎問題が消えとるかと思ったら市民的には全然消えてないというふうに思います。市民目線からの庁舎問題というものを実際に私たちが検証しながら、行政や議会に対する市民目線がどういうふうな期待で、どういうふうになっていきょうるかということを検証したいというふうに思って質問させていただきます。

まず、市民目線からの取り組みですが、私がびっくりしたことが二、三あります。この庁舎問題では、奈義町の方が非常に関心があるというか僕に対して言われたことなんで、五、六人言われたんですが、関心を持たれたようです。西元議員、何でもうもう工房に建てんのなあという話なんです。僕は、その方が僕がどういう立場でどういうふうにされとるかということは、どういう把握されとるかというのは聞いとりません。しかし、そりゃほんまに四、五人の方から聞かれたんです。その人はストレートなんですよ、その人たちは。もうもう工房に、あそこへ５、６階建てのええものを建てればシンボルタワーになってどえらいええのに、何で美作市はようせんのなあという話なんです。僕はびっくりしたんですが、市民の方からももうもう工房というのは、僕に対しては市民は何件か言われとります。しかし、僕はもうもう工房を推進しとるという立場からいえば、美作市の方が言うのはまあ一つの応援でもあるけど、実際にはお上手という言葉でされるんだろうというふうに思います。そういうことからいうと、私は市庁舎問題というのはまだまだ市民的には生きていると。どういう形で終わらせていくかということについては、やはり市庁舎問題というのは重大で大きな問題であるし、合併に対する市民の期待というのはあらゆる犠牲を払って合併をしたわけですから、そういう点では市民が期待するシンボルというようになるもん、あるいは総合的な庁舎というものが必要じゃあないかと。その点では、総合庁舎を建てれないようなそういう美作市の貧しい財政じゃないんですけど、貧しい感覚というか能力しかないんだろうかと。そういうことからいうと、本当に美作市が市民の期待に応えるような政策というのは、確かにされていると思います。しかし、本当に美作市が誇れる、あるい

はあるゆる犠牲を払って合併をしたというシンボルに、合併に対する心の支えあるいは応援というものが市民的に表現できるのは私は市庁舎だと思います。そういう点での表現の仕方を潰していいかどうかという問題について御質問をさせていただきたいというふうに思います。

庁舎問題については、１、２、３点とあります。市民目線からの取り組み、合併の観点からの取り組み、世間が注目をしている問題としての美作市の正面からの捉え方ということについて質問をさせていただきたいと思いますからよろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

議員の御質問、庁舎建設についてでございます。

先ほど言われましたが、大変非常に重要な問題でございます。市民目線からの取り組み、合併問題からの取り組み、世間が注目している真正面からの取り組みということで御質問いただきましたが、新市の庁舎整備につきましては美作市庁舎整備検討市民委員会から現庁舎の近くに新築移転するという建議書が出されました。市民の代表の方々が１年以上検討された提案に基づき候補地を選定し、平成28年、昨年の３月ですね、３月議会に中尾地区を最適地として提案をさせていただきました。

大規模災害により庁舎機能が失われれば、通常業務に加え罹災証明書の発行など震災対応へのおくれが生じ、行政サービスの提供や被災者支援が滞る場合がありますが、合併特例債の活用の期限、活用が困難となった現在、10年、20年後の建てかえは避けられないものと考えられますが、後年度負担が増すことは残念ではありますが熊本地震の例からも現庁舎の耐震化の方向を真剣に考える状況に至っておると思います。

庁舎問題につきましては、以上のとおり後年度負担や市民生活への影響を真摯に検討した結果でありますので、何とぞ御理解のほうをよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

山本部長や市長なんかもこういう答弁しかないんだろうと思います。しかし、私ははっきり言うていけんと思います。なぜかというたら、新市を選んで合併したら何があるかというたら、過疎債も辺地債も何にも使えんのです、合併特例債しか使えんのです。合併特例債は、新市の庁舎に対して使用ができるわけです、これは75％帰ってくるわけですから。そういう点では、美作市民が本当にあらゆる犠牲を払って合併を選び、しかも新市の市庁舎を建設するための財政的な裏づけというものができてしてもらっとるわけです。私はこれを、いうたら10年後、20年後というて簡単に山本部長言われるけど、そんなことをしたら、あんた、合併特例債は全く使えんわけですよ、箱物については過疎債も辺地債も使えんのですよ、そんなものをきょう私たちがここで論議したら、美作市民に対する裏切りですよ、はっきり言うたら。何で平成の大合併という大合併をして、平成の裏切りというか平成の大失敗という選択肢まで、いうたら美作市民の方たちがそういう負担に耐えながらも、大きな負担に耐えながらでも実際問題として選んできて、ここへ具体的には今財政的にも市長が言われるように一本算定でも十分に耐えられるようなそういう美作市にしてもらっとるわけですよ。市長の能力じゃ、職員の能力だけではないですよ、市民的な規模からいうてできるようにしてもらったのは市民の力なんですよ。そういう点で、私たちは市民に顔向けができるあるいは市民が誇れるような美作市議会を建設したいし、美作の執行部を、全執行部を上げて前に進めていけるようなそういう行政体制をつくり出さなければ、美作市民に対する本当の犠牲に報いられんというふうに私は思います。その点で

は、本当に私は萩原市長に対して尊敬もしとるし、高い評価もしとります。しかし、この件に関しては本当に十分に私たちの意見も意思も入れてもらえなんだし、まず何があるかというたら建議書の瞬間には明見という私たちは山陽新聞の新聞事例しか聞けなんだわけです。で、次に出てきたのが中尾なんです。議会の特別委員会に対して中尾だけを言って、議会議員に対して、あんた、賛成か反対だけしか言えないような議会対策特別委員会をつくり出す、そこでして３分の２もとれるわけはないですよ、実際に。やっぱり論議に論議を重ねて、本当に血で血を洗うような論議を重ねてこそ美作市民に応えられるし、それから私たちの理想であるような新市庁舎が建てられるんですよ。安いから場所がちょっと高いとこでどうのこうのっていうような、そういう単純なものではないんですよ。だから、そういう点では私はこの問題については執行部が大失態をしとると、はっきり言うと美作市民に対して裏切りをやったということを私は感じております。そういう点での答弁があればしてください。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

西元議員は唯一一貫して代替案を言っておられた、その立場は一貫をしておられたというふうに思っております。しかしながら、もう合併特例債を使う期限がとっくに過ぎておりますんで、私どもとして有利な財政手段は一切ないという状況であります。こういう状況の中でいろいろ残念な気持ちもある、そういう意味では議員と同感でありますけれども、庁舎だけが市のシンボルでもないというふうに思いますけれども、後々の方々がこの歴史的な議会の御判断を含めて次の合併が起こるころには適切な庁舎問題を処理する枠組みを持って新しいシンボルをつくってくれることを期待をしながら、残念でございますけどもこの問題については私どもとしてはもう打つ手がないということを明確に申し上げさせていただきます。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

率直に言うて、情けない話なんです。私は本当はもう少し慎重に合併で新市庁舎という問題についてはしてほしかったし、市長が諦めたような言い方をされるけど５年間延びとるわけですから、市長の力で少なくともあと３年ちょっとあるわけですから、少なくとも合併特例債が使えるようなそういう中央に対する働きかけ、あるいはそういうことに対してできるだけの力をするということについてやってほしかったと。その点では市長は余りにも、少なくとも新市庁舎問題については単純であっさり考え過ぎです。そういうことからいうと、もう一度本当に力強い答弁で、あと３年あるわけですから、何ぼいうても取りかかったら中央で合併特例債が使えるということになればもう問題じゃないわけですから、そういう点での後押しというか行政が中央にアプローチしていくということについて決意あることを言ってほしいと、答弁してほしいというように思いますからよろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

全国で合併をした多くの自治体がありますけど、同じような問題が起きてるところが何カ所かあります。自治法の問題もあるんですが、過半数の議員が賛成してもできないということが一体どうかという気もしますんで、その点についても議論をするべきだと思いますけれども。一方で議員御指摘のように、当市もそう

なりましたけども結局使えない合併特例債というものが全国でどれぐらいですかね、1,000億円ぐらいあるのかもしれません、これを一体どうすんだということが議論に今なりつつあるんですよ。我々としても合併特例債について延長しようという声を出している自治体の首長がいることも知っておりますが、先ほど午前中に万殿議員がいろんなかつて私どもが中央省庁へ訪問したときの話を含めておっしゃっておられましたけれども、いろんな考え方があります、私本人としては合併特例債の延長をさらにするのであれば、それよりも過疎債の適用対象を拡大をしたほうが当市のような立場にあるものとしては断然に有利であると、こういうふうに考えています。何となれば合併特例債も過疎債も国がその原資及び利子を支払ってくれる比率は７割でありますけれども、充当率が100とたしか95だと思いますけども違いますので、結局補助率に換算すると微妙にでございますけれども過疎債のほうがいいわけでありますから。私が問われるとしたら、大都市圏で合併した人には申しわけないんだけれども、それは合併特例債というもので持ってる財源のうち全部とは言いません、少なくとも過疎の地域にあるものについては過疎債のほうに振り向けて、そこで国がもともと確保していた財政負担があるわけですからそれが使われないで済んでると、使えないで困ってるという状況に鑑みて何十％、過半ぐらいについては過疎債の財源として考えてもらって、我々の地域を含めて過疎に悩んでるそういう地方の自治体が、限界自治体と言われたところもありますけど、うちは違いますけど、もっともっと前向きな施策ができるように望んでいることは明確に申し上げさせていただきます。ただ、今件についても議会の皆さんの十分な御理解と協力がなければどうせ向こうにはいきませんので、改めてその点については強調させていただいておきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員、総括です。

１０番（西元　進一君）

総括。萩原市長、何でもいいです、新市庁舎に対して使えるものを有利にやっていくということについて、努力するということでやってほしいというふうに思います。私はこの新市庁舎は合併問題に絡めて、奈義町の方が本当にどえらい興味を持たれとんでびっくりしたんで、その点では奈義町の方々もはっきり言ってほかでは悪口を考えて言うとるような状態ですが、奈義町の方はこの新市庁舎の問題についてはあそこに、もうもう工房というのははっきり言われたんですから、もうもう工房に、あそこへ６階、７階建てを建てるということが理想じゃないかと。奈義町の方たちも、そういう点ではシンボルとして奈義町をエリアとしてやってもらえるというような新市庁舎構想ではなかろうかというふうに思いますから、そういう点ではよろしくお願いしたいというふうに思って、この項を終わらせていただきます。

議長（山本　雅彦君）

続けて、２番目、２項目めに入ってください。

１０番（西元　進一君）

それじゃあ、２項目め、岡山道の延長問題です。

私は、万殿議員が非常に心配されとった、私たちが６名で行って、研修に行ってあるいは陳情に行って成果としてなかったんじゃないかと、６人が政務調査費を無駄に使ったんじゃないかと言われて、あるところでは監査委員さんがこの問題についてこれを取り上げて相当追求されたということも聞いとります。そういう点では、私たちは堂々と行って、堂々とこの研修では、陳情では大成果を上げたというふうに午前中の万殿議員での答弁もそういう答弁だったと思いますが、私もそういう意味では執行部の答弁というのは指示するし、それから私はこの陳情では岡山道の延長問題について南厚北薄ということを思い出して頭へ来て再々言わせてもらったんですが、そういうことからいうと大きな成果があったと。私は、陳情では岡山道だけじ

ゃなかったんですが岡山道を中心にして五全総の中に入っていないと、入ってないものを復活させていくということが、土俵に上がるまでがどれだけの苦労かということについては物すごく感じております。しかし、上げてもらっていかなければならないし、岡山道が北に延伸していくということについては勝田地域が大きく、今合併問題に対して批判的な人たちも、勝田でです、地域の方たちも、批判的な方たちも、岡山道が北に延びていくという点では物すごく安堵感というか潤いのようなものが浮かんできてる。おまえ、本当にそがあなことがありょんかというのが実情です。で、ありょんですと、問題になっとんです、今、きょうの午前中の報告のように鳥取と岡山県での県境を挟んで市長同士の話し合いがあるとか、いろんな延長問題での建設的な委員会が設立されるというようなことがあったりするんで、その点では私は大成果だっというふうに思っております。大成果とともに勝田地域のこの岡山道の延長問題というのをどうしても私の時代で土俵に上げると、土俵に上げて前に進めていけるかどうかというのはわかりませんが土俵だけは必ずつくるということを考えておりますから、ひとつ答弁のほどを、力強い答弁をよろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

美作岡山道路の北部延伸問題については、別の方の質問で現状その他については部長から答弁がありましたんで私からは追加的に申し上げますと、議員が今おっしゃったようにほんまにそげんことができるんかという声がまだ勝田にあります。それをもう少し一緒になってやろうやないかという声に、西元議員が変える必要があるということを申し上げ答弁いたします。

終わります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

それで結構です。本当に私も真剣に努力せにゃあいけんというふうに思って、まあやっとんですよ。雰囲気としては、物すごええ雰囲気になっとるということは確かです。必ず話になるときには、西元議員、あそこからトンネル通しゃじきなんじゃという話ばっかしがあるんで、そういう点では皆さん方の期待に沿えるようにしていきたいということを常々言うし、それから皆さん方の期待に沿えるようなことになるのは皆さん方が力を入れなければならないだろうということも再三再四言っとります。そういう点では、必ず勝田地域で運動形態にしていきたいというふうに思いますし、期成会か何かでもつくっていきたいというふうに思います。そういうことからいうと、今の執行部の取り組みと私たちの取り組みが本当に大きく前進するような方向で生かしていきたいというふうに思いまして、この項を終わります。ええです、答弁、答弁。

議長（山本　雅彦君）

それでは、市長、答弁ありますか。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

せっかくのやりとりでありますんで、西元議員や、そして安藤議員を中心として地元の方々が地元の住民の方々とともに、例えばもう少し詳しい勉強をさせてくれえと、あるいは地元の勉強会とか期成会をつくるから手をかしてくれえとかというような話がありましたら、私ども職員を直ちに派遣をし、今考えてることやその状況についても懇切にお話をするつもりでございますし、また国土交通省も絡んだ上で岡山県、鳥取県、そして関係市町村の研究会ができましたら、その研究の状況について地元の方々に報告する会などもし

なきゃいけんと思いますけども、ほんまかいなあと言ようるようなことじゃあなかなかそれはいけんわけでございますんで、一緒になってやろうやないかと、頑張ろうという機運をぜひ御地元のほうで高めていただく、そのこともお願い申し上げておきたい。そして、それができるときには、先ほど申し上げたように当方としても情報の提供も含めてきちっとサポートをさせていただくことをお約束をさせていただきたいと思っております。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

ありがとうございます。この項に対しては、これで終わらせていただきます。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

それでは、３項目めに入ってください。

１０番（西元　進一君）

３項目めです。

私は、監査委員の罷免についてということで質問させていただきます。

はっきり言うと、監査委員の罷免という問題については、時限立法でありますから罷免は当然あり得るというふうに思います。しかし、重大な問題であります。私は、重大な問題であると同時に、この問題が私たちの目の前に出てきたときに、何でもっと早くしなかったんかということが本当は疑問としてあったわけです。何回か一般質問でもさせてもらいましたが、その点では今の呼びかけというか提案が実際には緩いし、遅いというふうに思っとります。しかし、どういう条件であれば罷免の理由になるかということについて、私はもう一度議会に対する説明も懇切丁寧にありました、資料もありました、しかし一般にはまだわかっていないというふうに思うんで、このテレビの中継を通じて罷免問題に対する執行部の考え方を教えて、答弁ください。

議長（山本　雅彦君）

２番目はよろしいか。

１０番（西元　進一君）

えっ、違うか、岡山道の延長は終わったんで。

議長（山本　雅彦君）

いやいや、今３項目めの質問ですが、その１と２がありますが、いいんですか。

１０番（西元　進一君）

ああ、ちょっと済んません、ごめん。報酬です、給料の返納の問題です。3,800回もパソコンをアクセスしてその時間はサボっとるわけですから、そういう点でのサボりの時間ということに対してどういうふうな算定をされてるか、一番大きくはどういうふうになっとるかということも含めて答弁ください。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

まず、罷免についてでございますが、今回のなぜもっと早くしなかったのかということでございますが、今回の発覚の発端といいますのが、県北の各地においてインターネット等に関係した不祥事が発生してるこ

とを受けて、昨年の11月からまずは本庁の最上階からということでパソコンを調査、開始したのがきっかけによるものでございまして、それ以前にそういう詳しい調査というようなことはしておりませんでしたので発覚の時点ということではそういうことで、それから詳細のデータを積み上げるのに月日がたったということでございます。3,880回という多数の回数のアクセスまたはクリックによります状況でございますが、前回の議案質疑それから議員にお手元に配らせていただきました資料にあるとおり、業務の朝出勤してすぐ、それから昼間の間、それから退庁する前ですね、そのあたりをずっと毎日のようにアクセスをしておりました。そのトータルの数字というのが3,880回ということで、曜日別に示させていただいた資料もあったかと思うんですけど、勤務をしていない土日以外はほとんど毎日のようにアクセスをしておったという状況があります。それで、前回の答弁とか委員会での答弁もさせていただいたと思うんですが、これが数回程度というのであればそういう罷免というところへ直接というところにはならなかったと思うんですけど、非常にたくさんなということであるということと、それから一般職と特別職の違いというのがはっきりありまして処分の仕方が違うというところもあります。

それから、給料に関してですが、どうなるんかということでございますが、現在のところ特に本人から給与を辞退するとか返還するとかというようなお話は聞いておりません。総務常任委員会に付託された継続審査中でありまして、今罷免が決定されたわけではありませんのでその職務を強制的に停止したり給料を支払わないというようなそういう処置を現段階で行うようなことはできませんし、当該監査委員は市民の血税からその給与を得ており、業務用パソコンを私的に使用していたとしたら一般職の場合、他市の事例もございますがそれに費やした応分の給与を返還していた事例もございます。まずは、当該監査委員の自己の良識に従って、自主的に行動を起こされるべきではないかというふうに考えております。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

そういう結論だろうというふうに思います。私は、この3,880回という数字が想像を絶するというか、本当にこれができたんだろうかというのが私に問いかける問題です。私はこの問題については何人かの方に電話をもらいました、直接会った人もおられるんですけど、西元さん、何でここまでなんだろうかなあというのはその方たちの感想です。私も何でここまで美作市を悪く考えられて、いろんな意味で問題を大きくされにゃあならなかったかということについては、本当に疑問に感じます。私はそういう意味では、この方がそこまでやるということに対して何でだろうかと、私はその方は美作市民の税金をもらっとるわけですから、そういう点では少なくとも監査委員ですから、数字がおかしかったり、単価がおかしかったり、市長が特別なことをしとるあるいは職員が特別なことをしとるということが発覚すればチェックするというような職務でありながら、市政全般にあるいは議会に対してばかじゃ、あほうじゃというようなことまで言われると、これが普通の職員としての対応だろうかということを思います。嘱託でも公務員ですから、そういう点では公務員としてはある意味では自分が知り得た守秘義務ということについては多くは語れないし、広報活動をしてはならないということがあると思います。その点で言うならば、本当に重大な失敗をしていると、彼は。そういう方からいうと、早く大きな問題が起こらんうちに罷免をしたほうがいいんじゃないかというのが私の立場です。そういう点では、実際にこれが美作市では大きな損失なんですよ、はっきり言うと。市長も述べられたように全然情勢がわからん中で当選させてもらって、いろんな意味でこの方を任命していくという任命責任からいうと、私は美作市民に大きな迷惑をかけたという反省の言を披瀝をされています、ここにも書いとられます。そういう点では、市長は確かに美作市の大混乱の中に１人身を投じて、全然西も東も

わからん中でいろんな情報の相殺される中で一つ間違えばこれだけ大きな問題になるということを感じられながら、この罷免に自分が人選しながら任命しながら罷免も提案せにゃあならんという惨めな姿というのは本当に二度とするべきでないし、行政の大失態だというふうに私は思います。そういう点からいうと、この問題に対する市長の決意と、それから職員全体が身を引き締めて罷免に対する対応はやっていくということを切にお願いしながら答弁をしてください。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、西元議員の２回目の質問でございます。

なかなか答弁しにくい部分もあるわけでありますけれども、当該監査委員の方におかれては功績があるんですね、実は。いろんな問題、特に私どもが気づかなかった当市としての規則の不備についての御指摘とか、いろんな面で私は全く功績がなかったというふうな誤解を与える必要はない、ある意味じゃあ十分な批判力というものがあったと、こういうことになるけども、かといってそれがゆえに職員に範を垂れるべき立場の者が違非行為をしてるっていうことになりますと、まさに任命をした者としてはその任命責任を全うする上でもこれを隠すことができなくなってくるという大変苦しい立場として判断を強いられたというふうに私自身も大変残念に思っているわけであります。殊にもう少し申し上げるとすると、そういういい面もありながらも、やはりこれは書かれた方、個人個人の判断になると思うんですけれども、ブログにおける議員各位に対するものの判断の仕方に当然好き嫌いがあっていいわけです、個人の世界では当然あっていいんでそれを言論封鎖することはできないけれども、逆にそれがもし公務としてアクセスをしたっていうことになると今度は監査委員としての監査の態度が不偏不党じゃなきゃいけないという、これはまた自治法の世界の強い規定にのっとってみると矛盾が出てくるというなことになっていって、いろんなことを耳にするにつけてこっちできれいにいようと思ったらこっちの矛盾が起きるというような状況に陥らないでうまく出処進退をされたらどうかなとは思っておりますが、いずれにしても本件につきましては任免について議会の同意が必要であるということのほぼ裏返しでございますけども、罷免も含めて議会の同意が、同意というか承認という手続がどうしてもいるということでございまして、私としてはその議会の御判断を得て、後また私自身の任命責任について戻って考えるべき必要が出てくるであろうというふうに思う次第であります。

以上、とりあえずお答えにいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

３回目です。私はそれで結構です。恐らくどういう結果になるかはわかりませんが、この案件が本当に美作市民が期待されるような案件として処理されるということを望みながらこの項を終わらせていただきます。

次。

議長（山本　雅彦君）

続けて、次の項に入ってください。

１０番（西元　進一君）

それでは、続いて行かせてもらいます。

学校給食の無償化の問題です。

今、人口は減っていく、子育ての環境は非常に厳しくなってくるし、女性の働き方が大きく前進しとるということにはならんと思いますが一歩一歩進みながら、しかし学校給食に対してはかなり一般的には負担が大きいというふうに考えられているようです。日本の教職員組合が、いわゆる全教というんですか、2015年11月に実施した学校給食の補助制度で、広域連合を含めて32区市町村があり、利率として19.3%、199市町村が無償になっとるようです。そういう点では、私は学校給食が無償になっとるということは余り意識してなかったんですが、こういう問題については私はよその行政におくれてはならんというのが基本的な立場です。子どもに対して学校があるいは議会があるいは執行部が全国的に無償化が進んでいる中で、美作市が取り残されているようなそういう貧しい市議会や執行部であってはならんというのが私の立場です。そういう点では教育委員会の姿勢というものが、私は若干本当言うたらつらかったです。全くこういう問題について触れてもいないし、こういう問題に対して積極的に取り組んでいないというのが現状だろうというふうに思いますから、そういう点では建設的で力ある答弁をよろしくお願いしたいというふうに思いますが、よろしく頼みます。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

学校給食費を無償化にできないかということでございます。

学校給食費につきましては、学校給食法の第11条に、実施に必要な施設及び設備に関する経費と人件費につきましては設置者である市が負担し、それ以外の光熱水費、食材費は保護者が負担すべきというふうに想定されております。現在、美作市といたしましては、保護者の皆様に食材費のみを負担をしていただいているところでございます。

また、先ほど議員御指摘もございましたけれども、本当に経済的に困難な家庭というのが増加をしております。その中では就学援助費といたしまして給食費を支給している家庭が、市内では約２割ということになっております。そのことでの財政的な負担も増加をしております。なお、現在食材費を無料にいたしますと、毎年財源が約１億2,000万円必要となっております。今後も支援が必要な御家庭には十分就学援助という形で支援を行い、その他の部分は御負担いただきたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

そういう答弁だろうというふうに思います。私は、１億2,000万円が大きいか少ないかというのは私自身はよくわかりませんが、１億2,000万円かかろうとやるべきだというふうに思います。ほんで、私は、大川教育長がこういう点では若干後退的な側面があるというふうに思います。そういう点では、美作市の市長である萩原市長が懇切丁寧に、あるいは頼みに行って連れてこられた大川教育長でありますから、何もせずにおればそれは確かに責任はないです。しかし、責任がないところに自分の身を置くんでなしに、やっぱり市長と対決するというぐらいな姿勢でやってほしいというのが私の希望です。そうでないと、教育行政というのは形あるものに投資するんじゃないです、本当に飯を食えば消えていく、あるいは冷暖房をつけて、エアコンをつければ確かにあるけど実際には消えていくだけで、本当に効果というのがどうあるかというのはわかりません。しかし、私たちはわからん効果でもしていくのが私たちの任務だと思うし、それからそういう点での努力こそが学校あるいは子育てあるいは美作市を発展させる上では本当の投資、費用対効果というの

はよくわからんのですがそういうものが本当の投資だというふうに思います。むしろお世話になっとるということじゃあないんでしょうけど、連れてきてもらって教育長を何期かさせてもらっとるという点では言いにくい側面もあると思いますが、やはり執行部と教育委員会、教育長ですから当然対立するんです、銭を出してもらわにゃあいけんです。だから、銭を出してもらうための教育長であってほしいということを切に思います。教育委員会もそういう姿勢であってほしいし、あるいは行政も市長や副市長２人置いて３人で、ほかに全部向かって孤立させるわけにもいかんですけど、そういうもんだと私は思います。議員も要望もするし、当然努力もする、教育委員会もするし、それから産業建設課でもやっていくということが上に向いての行政でないとやっぱり行政は発展せんです。そういうことからいうと、そういう私の期待でなしに、美作市民の期待に応える教育委員会の建設的な構築というものに対する答弁があればよろしくお願いしたいというふうに思います。

議長（山本　雅彦君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

多くの自治体が率先して無償化へ取り組んでいるんではないかと、美作市もおくれるべきではないという御指摘ではございますが、現状では県内で取り組んでいる自治体は今のところはございません。そして、その効果としては、議員もごらんになった新聞記事には55市町村が無償化ということでございますが、効果といたしましては保護者の負担軽減に加え、給食費の未納トラブルがなくなったということが大きな効果として上げられていると、恐らく議員としては人口増とか地方創生ということの御期待もあろうかと思いますが、そうしたことにつきましては私どもといたしましては、先ほど市長と対立してでもいうふうにおっしゃいましたけれども、29年度において市長はエアコンやこうつけてやらんって厳しい御指摘だったわけですけれども、とにかくまず特別支援の子どもたちにはぜひということでエアコンの整備もお願いをしたところでございます。１億2,000万円あれば残りの全教室にもつけることができるかというふうに考えておりますが、そうした教育、子どものための形ある環境整備、そして就学前の教育支援というところから教育委員会としては取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

そういう答弁だろうと思いますし、私の新聞記事もそういう記事だったです。だから、岡山県下ではどこも取り組んでいないということは知っとります。そういう点では私が言いたかったのは、一番になってほしいということを思ったんです。実際に教育委員会も非常に苦しいところで学校問題に取り組んでおられるというふうに思います。しかし、まあ教育長、よく見てください、子どもがおり、学校がありすると、交付税の算入というのはかなり大きいんですよ。私は美作市の子ども、小学校、中学校、義務教育の中での交付税の算入というのは計算したことはないです、しかしこれはかなりあるんですよ、一般財源で使うとる分もあるんですよ。だから、そういう点では、はっきり言うとサボタージュというかしてないほうが悪いということで、まあ学校給食だけじゃないんですよ。だから、そういう点では厳密に交付税の関係はよく見てください、これはかなり一般財源で充当しとるかどうか知りませんが、使うとるということがあるというふうに私は思ってます。じゃから、そういうことからいうと、教育委員会の職務怠慢ではないんでしょうけど、そういう部分も含めて指摘をしときたいというふうに思いますから、この項に対して、まあ教育長、答弁があれ

ばしてください。なかったら終わります。

議長（山本　雅彦君）

ありますか。

ないようでございますので、西元議員、ただいまから10分間休憩いたします。

午後３時02分　休憩

午後３時12分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

西元議員、５項目めの質問から再開してください。

西元議員。

１０番（西元　進一君）〔質問席〕

５項目めでやりにくい話なんですが、欧州へのトップセールスについてということで、参加者の選考についてということで質問をさせてもらいます。

この問題については、私は全く正直言って関心もなかったし、知らなんだんです。あるときに何人かの衆が美作市に来て、何か相談したんじゃそうです。あんたらそがんことも知らんのかというて、トップセールスが大名旅行をしとんだと、何でこういう人が行かれとんだということで、私もようわからん、全然わからんけえまた聞いて話をしますというて何人かの方に相談をしながら、しかもその方は本当に美作市のためにそういうものが行われていくんだということを言われるし、それから田原さんはそういう意味では全国か何か知らんけど剣道会のほうでの旅費で行かせてもらっていると、市長さんとその参加者に対しては経費が要っとるということであったです。私は出張旅費ぐらいのことについていろいろと言いたくはないんですが、市民はやっぱり疑問に感じとります。何で参加者が１人だけ女性の方が選ばれておるかということについて、本当に疑問を感じとります。これは何人かに聞きました。そういう点では、どういう選考基準によって選ばれ、どういう方法で行ってきたかということについて、どういう成果も含めて答弁があれば答弁をしてください。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼します。

まず、欧州へのトップセールスの参加者の選考についてという御質問でございます。

昨年の欧州トップセールスは、剣道を初めとする武道が盛んに行われている欧州で、剣道と言えば宮本武蔵、宮本武蔵と言えば美作市と、そういう図式を周知し、剣道と宮本武蔵ブランドとの融合による新たな国際交流などを推進し、交流人口の増加や伝統文化を生かした地域活性化を図ることを目的として実施いたしました。

人選につきましては、市を代表する市長によるトップセールスを行うことで、当市の取り組みの姿勢、熱意を伝え具体的な成果につなげることが期待できることから市長、市と両輪をなす議会の議長が参加することにより市全体として取り組む姿勢、熱意を伝える効果や信頼度が高くなることから市議会議長、またベルギーで開催されている剣道講習会、剣道大会に携わっている剣道指導者から、当市で開催している女子剣道大会お通杯はヨーロッパの女性剣士からも注目が集まっているとの情報もあり、近年参加の国際化が進んで

いるこのお通杯にレベルの高いヨーロッパから女性剣士の参加を促すことは交流人口の増加や地域活性化に貢献する効果が期待でき、また国は今年度の最重要課題の一つに女性が輝く社会の実現を掲げており、美作市においても地域における女性の活躍は重要であると考えてることから市民の女性代表を派遣することとし、お通杯を初めとする剣道振興に長年にわたって取り組むなど剣道に深い造詣と人脈をお持ちの女性代表として鈴木議員としたところでございます。また、総合戦略、観光振興、スポーツ振興を担当する職員４名も同行をしております。

成果といたしましては、ヨーロッパの剣士、指導者の方々に、ヨーロッパで有名な宮本武蔵と美作市をつなげて覚えていただいたということがまず上げられます。その次に、特に剣道大会においてお通杯の参加、鈴木議員を初めとして積極的に働きかけをいただきまして女性剣士の関心も高く、平成29年度以降ヨーロッパ諸国の女性剣士がお通杯に参加できるようヨーロッパ剣道連盟との連携協力に至ったということでございます。また、剣道大会、剣道選手権大会に参加された居合道の指導者の方々からもそういった評価をいただいている、そういったところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

そういう答弁にはなると思います。それで、正当な答弁だというふうに私は思います。しかし、私はこういう選び方というのは、公ではないといけんと思うんですよ。誰が選ばれるにしても、当然そこに落ちつくだろうという人を選んでいくし、当然そこから選ばれても波及するのは悪い意味での波及でなしに成果としての波及効果がなかったらだめだというふうに思います。私は、この件に関しては、はっきり言うて選考基準が今のような選考基準でも彼女が選考されたということについては疑問を持ってます。なぜかというたら、２人しかおらんわけですから、もちろん職員が行かれとんであれですけど議会の代表として行かれるんとしたらやはり全員協議会で選ばれて行く、しかも女性剣士を選んでいくという基準を示しながら選んでいくというのが私は議会でのあり方だっただろうというふうに特に思います。

それで、もう一つだけ言わせてもらうと、僕は萩原市長は若干この件については配慮が足らんというふうに思います。今まで私の前に何人かの議員が一般質問されとります。しかも、道半ばにしてやめられていくという方々たちが、私たちの前に何人かおります。まあもう僕も支持がなかったら当然やめるんですけど、そのことじゃなしに自主的にやめていくというのがあるんです。そういう点では、その道半ばにした議員たちに対しての最後の奉公としてでもこういう大きなものに対するアプローチというのはあってしかるべきだろうと、当然全員協議会でも諮って議会で取り組んでいくと、しかも議会がそういう方向で議長も行かれるんであれば当然そういう中では執行部に対して旅費や何かでも請求をさせてもらって、大名旅行でないんでいいんですよ、簡単で安いとこで結構ですけどそういうものとしてのアプローチが配慮として必要だろうというふうに思うんで、そういう観点からいうても大きな問題を提起させてもらっているというふうに思っております。そういう点からいうと、市長さんの配慮という点と、議長を中心にした議会運営が無難に１期終わるわけですから、そういう点での答弁をよろしく期待しておりますからお願いします。

〔「〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

〔10番西元進一君「いやいや、市長」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

〔聴取不能〕。

〔10番西元進一君「いやいや、議長じゃない、いやいや、市長で」と呼ぶ〕

答弁されますか。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

御質問が半分議長にもいって半分こっち向いとるんで、どういうことかなあと思っては聞いておったんですが。

人選っていうものについて、いろいろそりゃまあ議論があるのは当然だと思いますし、好き嫌いも含めて政治的立場も含めてあるんだと思いますけれども、今回の人選については田原館長という主なるプレーヤーがいて、そして宮本武蔵のことを言う、そして女性剣士の大会であるお通杯への参加のことを言うというふうになってくると、もし鈴木さんにまさる人が議員おられると思うんならその場で言うべきですよ、そこまで言うんだったら、そこまで言うんだったらね。大きな問題とまで言うんだったら、こういう人がおられたはずだとぐらい言うべきだと私思いますよ。したがって、私はほかのことはさておき、剣道交流ということに関してもし議会でただ一人お願いするとしたら、恐らく鈴木さんだと私は思います。そのことについて、議会のプロセスが必要であるというのであれば、議会全員協議会をするということを議会改革特別委員会などで諮って、今後の方針として決定されるという提案をむしろ議員がされるのが妥当かと思います。

以上であります。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

市長、誤解しとんじゃないかと思うんじゃ、議会代表でないといけんということでなしに、僕は全市的に考えるべきだというふうに思います。そういうことは余り論争したくないんでいいです。今後の課題として市長も議長もですが、私たちは本当にそういう意味ではいろんな意味で議会議員が犠牲になっていくことに対して温かい気持ちで接していくと、そういうものに対して癒やしじゃないんですが救い上げていくような政策というか、議員同士でのあるいは執行部が議会に対する温かい気持ちで当たってほしいということを切に希望します。

以上でこの項は終わります。

議長（山本　雅彦君）

この項が終わりゃあ、終わりになります。

１０番（西元　進一君）

いや、もう一丁ある。湯郷Ｂｅｌｌｅ。

議長（山本　雅彦君）

あっ、そうか。

それでは、次の項に入ってください。

１０番（西元　進一君）

私は湯郷Ｂｅｌｌｅについては物すごく何回か質問させてもらっとりますが、そういう点では福本、それから宮間が世界選手権ですか、オリンピックで銅メダルをとったときも、そういう意味では大きな支援をするべきだということで何回かチーフマネジャーという方と相談しながら市長にも相談したことが２回ほどあると思いますが、そういうことからいうと大きな支援というのが大事だろうと。私は、湯郷Ｂｅｌｌｅというのは全国にアピールできる、美作市でアピールできる、湯郷Ｂｅｌｌｅと言えば全国にアピールできると

いうような大きな財産があると思います。これに対して、私は支援しなきゃならんというふうに思ってます。

もう一つは、湯郷Ｂｅｌｌｅは、全国で誇れるような大きな模範というかそういうものを示していると思う。それは、官民が一緒になってやっている成功例の一つだというふうに思います。官が一定の力を示しながら、しかも援助しながら、しかも大きな役割を果たしながら民とともに湯郷Ｂｅｌｌｅというものを支えていっとるということからいうと、官民が支えながらやっていく上では大きな成果は全国に誇れる成果だというふうに私は思ってます。そういう点では予算化されとりますからそれで結構ですが、まあ3,000万円ぐらいはせにゃあいけんだろうというふうに思っとったら3,200万円も予算化されとるようですから、そういう点では大きな成果としてあると思いますから、今後湯郷Ｂｅｌｌｅをどういうふうに支援していくかということを御答弁よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

湯郷Ｂｅｌｌｅでの支援の御質問でございます。

湯郷Ｂｅｌｌｅにつきましては、昨年12月に新たに津山市出身の亘崇詞新監督を迎え、コーチ、スタッフ並びに選手23名をそろえ、チーム一丸となって１年で１部昇格を目指す戦いを今シーズン戦うと、力強く亘監督からのお言葉をいただいてるところでございます。

具体的な支援につきましては、先ほども議員のほうからございましたが、今年度、来年につきましてはことしの倍増の3,200万円を今予算計上させていただいて、この議会で御協議をさせていただいてるとこでございますが、そういった補助も踏まえまして引き続きいろんな面で支援をさせていただきたいというふうに思っております。議員御期待しておられるとおり、ことし一年で１部リーグへの復帰、そういったことを願っておりますので、新体制がスタートするこの３月26日から実際にスタートをしてまいります。そういったことで、皆様方もぜひとも会場のほうへ足をお運びいただきまして、しっかりと応援をして選手等を励ましていただければ非常にありがたいというふうに思っておりますので、引き続きできる限りの支援をしてまいりますが、議会を初め市民の皆様の暖かく惜しみない支援をどうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

１０番（西元　進一君）

それで結構です。本当に湯郷Ｂｅｌｌｅというのは、私たちが誇れるチームだというふうに思います。湯郷という名前が出さえすれば全国に響くわけですから、そういう点での大きな財産を私たちは持ったということなんで、これはブランド品として育てななならんというふうに思います。困難なのは困難だと思います、２部へおりて１年で１部リーグへ上がるというのは、できるというふうに私は信じておりますが大きな負担だというふうに思います。そういう点での支援というものを十分にやっていくということをここでもう一度、部長、約束をしてもらって私の質問を終わりたいと思いますから、もう一度答弁をよろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

湯郷Ｂｅｌｌｅへの支援についてという御質問でございます。

我々も一生懸命額に汗をかいて支援をしてまいりたいというふうに思っておりますので、先ほども申し上げましたけど会場に足を運んでいただきまして市民全員で応援していくと、そういう態勢もつくり上げていきたいというふうに思っておりますので、何とぞ御協力のほうよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

ありがとうございます。これで私の29年度３月議会での一般質問を終わります。

そういう点では私もいろんなことを言いましたが、美作市が全体として大きく前進し、あるいは建設的に進んでいくということを期待しながら一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番15番、議席番号10番西元進一議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通行順番16番、議席番号９番岡﨑正裕議員の発言を許可いたします。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

ラストバッターの岡﨑でございます。９番ライト岡﨑君、とならないように頑張って質問をしたいと思います。

日ごとに寒さが和らいできまして、私、車は露天にとめておるわけなんですが、以前でしたら毎日がガラスが凍りついておったということなんですが、ここ二、三日ちょっと温度の高い日にはガラスが凍りつかなくなって、非常に朝、暖気運転をしなくてもいいなというふうになってきております。

それからもう一つ、ちょっと申し上げたいことがあるんですが、先般バッテリーという映画の再公開がございました。最初に公開されたときから大分時間がたっておるなと思ったんですが、そこの中で美作中なんかのロケ地が結構出てきます。あとは津山の作陽高校の下あたり、それから高梁市なんかも出てくるんですが、映画を見ると改めて思ったことが１つございます。制作者にとってのある意味での理想的な地方都市はどういうものかなというのが、端的に表現をされておったのでないかと思います。ちょっと私が気になったのは、その中に車が出てきません、余り。それから、コンビニとかそういうことも出てきません。うん、これはどういう考えかなと思って、制作者にとっての理想的な田舎町というのはそういうものがない町なのかなと、一瞬ちょっと変な感じがしたんですけれども、ある意味それが理想的な町だというふうに捉えられておるので、まちづくりに関して非常に参考になったということをちょっと申し添えておきます。

今回一般質問、私が16番目でございます。代表質問も合わせまして議長を除いて17人全員が質問をしたということで、非常にこれは好ましいことではないかなあと思っております。そういった中で、質問の中で、いろいろと人によってはダブった質問が結構ございました。ダブった質問が多いということは皆さんが非常に関心を持っておるということなので、執行部の皆さんもその辺を認識していただいて、皆さんが関心を持っておられるような質問がたくさん出たということについて、それに対してどうするのかというのを考えていただきたいと思います。

私の質問は、先ほど西元議員がされたんですけれども、この今回の監査委員の罷免につきましては臨時会でやられたということで、非常に皆さんも関心を持っておられます。臨時会で私も質疑をしたんですけれども、そこの中でちょっと抜けておるなという部分もありまして、それからまた臨時会でしたのでテレビを見ておられないという方もあるかと思いますので、改めて確認のために質問をしたいと思いますのでよろしく

お願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、臨時議会は放映いたしましたので。

９番（岡﨑　正裕君）

えっ。

議長（山本　雅彦君）

臨時議会は、放映いたしました。

９番（岡﨑　正裕君）

放映いたしましたけれども、私の言いたいのは放映いたしましたけれども、臨時会の周知については直前でございましたので、それを見ていられない方もおられるのではないかと心配をして申し上げたわけでございます。

それでは、質問をいたします。

まずは、この前も申し上げましたけど、臨時会というのはどのような場合に招集するのか、基本的な考え方を教えていただきたいと思います。

はい、以上です、簡単ですが。

議長（山本　雅彦君）

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、答弁いたします。

臨時議会はどのような場合に招集するのかという御質問ですけど、これは議員全員よく御存じだとは思っておりますけど、私よりはるかに詳しいんだろうと思ってますけど。

臨時会の招集につきましては自治法の102条の３項にありますように、議会は必要がある場合においてその事件に限りですがこれを招集すると規定されておりまして、さきの臨時議会でもこの御質問があったかと思いますが、その答弁も市長がしたと思いますけど、そういう場合に限り招集をするということでございます、はい。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

２回目。私は臨時会のときにも質問、質疑をやったわけなんですが、そのときに私が申し上げたのは、まず議会として必要がある場合というのはございますけれども、急施事件ということがついてくるのではないかなと思っております。過去の例を調べてみますと、大体が多かったのが契約の承認、それが一番多かったかと思います。入札をして落札をしたと、そこの中で工事も早くやらんと、決まったら早くやらにゃあいかんということで、そういうことでやったのが今までで一番多かったかなと思ったりするんですが、最近は市長が首をこうやっておられるんですが、最近はちょっと少ないなというふうに感じておるんですが。まず臨時会をやっておるのは、２年に１遍は議会の構成がえということでこれをやっております。それからあとあったのが、人事案件がございました。任命の件がございまして、これは任期満了というのはほとんど出てきませんで、前の方が辞職願を出したりしてそういうところで間に合わないという場合の臨時会が一番多かったのではないかなあと思います。それで、臨時会のときにも質疑で申し上げましたけれども、これが急施事件と言えるのかどうか、当然２週間後には３月議会が控えておったわけでございますのでそれが急施事件と

言えるのかなあと思います。資料の中にある大磯町ですが、神奈川県の、これがここの罷免の議案というのが12月に出たわけなんですけれども、これは８月に発覚をしております、８月に発覚をしておりまして、９月を飛ばして12月に罷免の議案が出ております。これは理由としまして、決定的な理由というのが決算意見書に押印をしないというようなことがありましてやっております。それから公聴会を１月上旬ということで、そういうスケジュールでやっております。

美作市においては定期監査というのが、これ正確な時期かどうかわかりませんが予定ということで私調べたら出とったんですが、１月25日から２月14日と定期監査のでありまして、その途中でこういう議案を出されたということで、私は大磯なんかに比べると非常に早い、迅速に対応といえば言葉はそういうふうになるんですけどもそういうことをされたということで、ちょっともう少し慎重な判断をしてやられたほうがよかったのではないかなあと、３月議会まで待ってやってもよかったのではないかなあと思いましたんで質問をしておるわけです。その辺についてどういうふうに考えておられますか。

議長（山本　雅彦君）

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

今回の場合につきましては、公聴会の開催とかそういう相当の日数を要することでありまして、３月定例会に提出しますと定例会の日程に大きな影響を与えると、それらの点に考慮して臨時会の対応とさせていただいたものです。もう一方、先ほどちょっと質問がありました臨時会の招集の基本的な考え方というのは、たしかそこの中にあったと思いますけど、これは緊急に対応を要する場合もあるでしょうし、今回の定例会の日程への影響を考慮する場合もあり、まさにここの臨時会の招集の条文のところにあります必要がある場合というのが基本的なことになってこようと思います。で、臨時会のときに参考資料として後から添付しました関東のある町の監査委員の罷免ということですけど、あれは今回のケースとは当然中身が違いますが、余りこういう例がないということでそのためにあれをつけておるわけでして、あれと同類ということでつけてあるのではございませんから御了承願います。よろしいですか。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

まあ今答弁あったんで、事例が違うと、これは重々承知しております。特にこの監査委員の罷免というのは、全国的にもそんなにあるわけではない、同じ例というのはまずないだろうと。大磯の場合は議会選出の議員の情報漏れみたいなことだったと思うんですが、そういった関係でそれぞれに対応するというのがいいかと思うんですけれども。私は、この条文を見ればそりゃ必要がある場合というふうに書いておりますが、私のこれは狭義の解釈かもしれませんが、急施事件というのが今までの流れでずっとこういうふうに臨時会というのはきたわけなんで。急施事件か急施事件でないかとその解釈はわかりました、必要がある場合と。これ急施事件であったのか急施事件でなかったのか、その辺のところの答弁がございましたらお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

先ほど答弁いたしましたように、必要がある場合ということが基本の形となっておりまして、これをもとに臨時会を招集したわけでございます。

〔９番岡﨑正裕君「あの、答えてない、急施事件で解釈しとんのか、急施事件で解釈してないのか」と呼ぶ〕

あった事実が、これを臨時会にかけるという必要があるという判断のもとに上程をしとるわけです。〔降壇〕

〔９番岡﨑正裕君「ちょっと答弁になってないと」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

念のため補足いたしますと、議員が御質問の中でおっしゃっており、独自の解釈で急施事件の必要性をおっしゃっておられます。その独自の解釈について、私どもとして議員の解釈に沿って法令解釈をすることはできませんので、したがいまして副市長のほうからはその問題については答弁を避けておるというのが答弁でありますから、よろしく御理解をいただきたいと思います。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、総括です。

９番（岡﨑　正裕君）

急施事件、急施事件でないかという解釈はいろいろとあると思いますけれども、私はちょっと理解できないなあということがあるということを申し添えておきます。

それでは、２項目めに行きます。

議長（山本　雅彦君）

どうぞ。

９番（岡﨑　正裕君）

１項目めと２項目めは関連はしておるんですが、監査委員の罷免について議案提出までの経過についてお聞きしたいと思います。

これも添付資料、参考資料ということなんですが、書いてありました。

神奈川県の大磯町でございます。これは添付されておるんですが、８月から12月ということで、この間に五、六回町長とその監査員が話し合いをしております。それで、８月に発覚しまして12月に定例会で提案をしたわけなんですが、五、六回話し合いをしてどうだったのかと、それで話し合いが物別れになって提案をしたということでございますので、その件につきましてそういうことをやられたのかどうか。これは同じような質問になりますけれども、臨時会のときの、改めてお聞きをしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

臨時議会のときにも答弁をさせていただいておりますが、数回程度の私的利用であればまあ指導するというような手段も講じることができたと思いますが、3,880回もの常識を逸脱した回数の私的利用によるものであり、その悪質性から即罷免相当であるという判断をしたものでございます。議員の御質問の件ですが、某市のように話し合いの機会を持っていないというのが事実でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

ただいまの答弁の中で、これ何回も出てきます、3,880回という異常な回数というのが出てきます。そこの中で、この参考資料の中で、それを3,880回の資料がございます。ここの中に69ページを費やして、細かなアクセスの記録の原本というのがございます。ここの中にはゼロ秒というのも結構ありまして、これは記録で出ておるんですけども、3,880回、これの分析というかどういうことで、これをクリックということになりますと１日に何十回になるんですかね、非常に多い回数ということになります。１日に30回というような回数になるんですけど、概算ですけど。こういうことが可能なのかどうか、その辺のところを、この30回というのを分析をされたのか、クリックというのはどういうふうなものなのか、パソコンをやってられない方もございますのでその辺のことも説明をお願いいたします。分析をどういうふうにしたかということです。

それから、この罷免理由の中で添えてありますのが、侮辱、誹謗中傷のブログをやっておったということと、第１には庁内のパソコンを個人的に使用したというのが第１でございますけれども、そのほかに侮辱、誹謗中傷と、ブログをやっておったということなんですが、これは監査委員になる前からブログはございました。そこの中で、恐らくそのブログも市長も見られたと思うんですが、それからずっと同じようなブログだったと思うんですが、途中で方針が変わったというふうな感じは私はしておりませんが、それも参考にしながら市長は監査委員にしようというふうに思っとるわけなんですが、今になってそれを侮辱、誹謗中傷というふうに考えられて出されたというのがちょっと納得できない部分がございますので、その辺のところも説明していただきたいと思います。当時は、市長は、人格が高潔であるというふうな感じで出されたと思うんですが、その辺の説明もお願いいたします。

それからもう一つは、そこの中で、提案理由の中で、政治活動について触れられております。この政治活動が、ちょうどきょう金谷議員のところでございました、資料を配られたのがちょっと参考になるのでこれを読んだわけなんですが、懲戒処分の指針についてです。そこの中でこれは一般職だと思うんですが、そこの中でずっと途中ここに関係するところだけちょっと読ませていただきます。政治的目的を有する文書の配布というのがございます、これは文書の配布、これは全市的な文書です、これを配布したと、これ一般職の場合ですよ、それから関係するのはコンピューターの不適正使用、職場のコンピューターをその職務に関連しない不適正な目的で使用し公務の運営に支障を生じさせた職員、これ一般職員ですね、減給または戒告とするというのがございます。その関係で特別職の職員に政治活動は一切認められないのか、その辺の見解はどうなっておるのか答弁をお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

岡﨑議員の質問、大変監査委員に対して厳しい質問でありますんで、本当に大丈夫なのかなと思いながらお答えしますが。

まず、私から２点お答えしますけれども、臨時会のときにも申し上げましたけれども、ブログの内容はこれはそれぞれの方に御判断していただくべき問題であって、私どもとしてそれが誹謗中傷に当たるかどうかについての見解は避けております。それぞれの方がそう思われれば御参考までに提示をするのであるから、それぞれの方の責任において応対するなり何なりの対応がとられるべきであろうというふうに思っております。

私は、ブログの内容を読んで監査委員にしたということではございません。経歴あるいは批判能力といったものを全般的に捉えてやってみたというのがその理由でございまして、ブログを材料として任命したとい

うことではありません。

次に、政治活動と、これ難しいことを随分おっしゃっておられまして、まず岡﨑議員の指摘によるとブログというのは一般職であれば政治文書の配布に当たると、こういうことですね、いいですね、それで。つまり、政治活動をしているというそういう前提に立ってお話をしてよろしいわけですね、はい。

一般職において政治活動をしちゃあいけないか、それは実は全ての人は政治的活動ができる権利を有しをして、公務の中でしちゃあいけないよっていうふうになってるはずであります。したがって、全般的に言いますと、どんな人間であってもある程度の政治活動をする自由っていうものは否定をすることができないと思います。しかしながら、それを一般職の場合に書いてあるように公務の中で政治活動をしているということについては大きな問題があると、その量刑はさておきましてこういうふうにまず整理をされているというのが日本の法律のうったてであります。純粋に私的な世界において投票するあるいは特定の候補の後援会に入る、こういったことについてはかつてやや厳しい議論があったんですけども、大阪における判例によって公務員においても後援会活動をしていいと、この辺までについてはもう大体判例も確定しておりますんで大丈夫ということになりますから、特別職の公務員であるところの監査委員がそのような個人的な世界において誰かの後援会に入ってるとか、ある特殊の政党に属しているといったことであってもこれは特段問題になることはないというふうに考えてます。

ところが、その中に何種類か種類がありまして、議員の皆さんも特別職であります。議員の皆さんは政治活動をしても全然構いません、これは。政治活動しなければ当選しないもんですから、これは政治活動の禁止が全くないと。市長の立場についても公選法で選ばれてる職として政治活動についての禁止条項はないわけでありますが、特別職の中でも監査委員につきましては公務における政治活動についての厳しい規制があって、これが実は平成３年だったかな、いろんな事件の後で監査委員については明確にしようということで、地方自治法第198条の３っていうのがつけ加わってるんです。これは、監査委員はその職務を遂行するに当たっては常に公正不偏の態度を保持して監査をしなければならないという規定があるわけであります、そことの関係が微妙になってくると。あれを公務としてやっていたと言うと、これに矛盾してくるんですよ。特別職の公務員だから公務としてやってたと言ったときに、例えば総理大臣がブログを出している、これはいいんですが、それはそもそもそういう制限がないんですが、監査委員に限ってはその辺の問題が生じてくるようなうったてになっておりますので、一般的に監査委員が公務員として政治活動をしているってことはあり得ないとなります。そうしますと、あくまで先ほど申し上げた議員の理解は、あれは公務員として配ってる文書なんだとこういうことなんですが、公務員として配っちゃうとそこに問題が出てくるんで、完全に私的な文書にしなきゃいけない、私的な文書であるということはブログにも書いてあって、そうすると今後はアクセスする行為が違法になってくると。どっち転んでも右にも左にもフェアウエーの限度があって、それからラフがあって、その先にＯＢがあるということだと、それを明確に議員の御指摘によってお考えになってることわかりましたので、大変に参考にさせていただいたということであります。心から議員の炯眼に感謝を申し上げて、答弁といたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）〔登壇〕

３つのうちの最初のアクセスと時間の関係についてのお尋ねについてでございますが、先般配付させていただきました、さっき議員がおっしゃられました69ページのアクセス記録の原本というその写しをつけて出させてもらっとるわけですけど、そこの一番最初のページのところに例示を示させていただきまして、アク

セスをしたところの前の時間から後の時間を差し引いたのが滞在時間ということで、これは継続して閲覧した時間ということで、そういうやり方で示させていただいたというのを説明させていただいたと思うんですけど、こちらの年月日、アクセス時刻、ここのサイト内でクリックした3,880回の回数についてはアクセス回数であり、マウスを左クリックした回数で、代表監査員が管理するブログの管理下にあるページにアクセスした回数となるということで、これは２月９日の総務委員会でも説明をさせていただいとることでございます。ただ、そのゼロゼロ秒の時間についてはどうなのかということがあると思うんですけど、これはゼロゼロは回数にはカウントしとりますが時間はゼロゼロですから当然足してもゼロでございますので、全体の時間というものはありますがそこの時間のプラスにしとるというわけではございませんので、アクセスとその時間の関係は以上でございます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

3,880回というのが、非常に私らから見るとこれがひとり歩きをしてるような感じがあります。この原本を調べてそれを引き算を私はしとりませんけれども、これは電子的な記録ですからそういうふうに出てくるんでしょうけれども、私はそこの中でどういうふうに分析をして、できたら監査委員にどういうことであったのかなと、3,880回のこういうデータが出とんだけどそれを説明したらどうかというようなことがあってもよかったのではないかなというふうに、回数はこれだけ出とるけども内容的にはどうなのかなあと、そういうことも聞いてもえかったのではないかなという気がしますんで、その辺のところはどういうふうに、本人と話し合いはしてないということなんですけれども、その辺のところをちょっとお聞かせ願えればと思います。

議長（山本　雅彦君）

答弁ありますか。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

この点につきましては、先ほどから個別の事案に即した問題として余りにも定量的に大きいということから、是正が難しいという論点からお答えをしております、これは個別の事案問題ですが。一般的な性質として、監査委員とあるいは監査委員会と執行部の独立性ということを考えますと、その点について言うと非常にこれは難しい問題を惹起する。例えば、これがあるがゆえに何をおっしゃっていきたいのかは知りませんけども、こんなものあるがどうするんだという、その後の会話は一体どうお考えになってるのかということは非常に微妙な問題を惹起する、ましてや２月の定例監査の前の時点であることを考えるときに要らぬ誤解を避けるという必要もこれあるというのが通常の判断かというふうに思うんです。独立性の高い、心理的にも安全性の高い保護された独立機関としての監査というものに対して、通常の職員との対応とは異なった対応が必要であるというのは通常法律の想定をしているところであるというふうに議員にぜひ御理解を賜っておきたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、総括です。

９番（岡﨑　正裕君）

今回の件につきまして、先ほど市長が言われましたどういう姿勢でどういうふうなことを考えられておるのかということなんですけれども、この罷免の関係につきましては一人の人間の人生を非常に左右するとい

う重大な事件であります。そこの中で、私は3,880回ということで本人と話をしてないということだったんですが、これが例えばです、いろんなことをここの中にもありました、金谷議員のときの資料がございましてそれを読ませてもらいましたけれども、これが完全なる、完全なるというたらちょっと言葉に語弊ありますけれども、例えば刑事事件にかかわっておるというようなことであれば、もう問答無用でこれは出てきてもしかるべきと思いますが、刑事事件にかかわっておるようなそういうような重大な、例えば殺人だとかそういうことであればもう仕方がないという部分はございますけれども、もう少し慎重にこのことを吟味してやっていただきたかったというのが私の思いでございますので、その辺のところをよろしくお願いいたします。

以上で私の質問終わります。

議長（山本　雅彦君）

以上をもちまして通告順番16番、議席番号９番岡﨑正裕議員の一般質問を終了いたします。

以上で全ての一般質問が終了いたしました。

お諮りをいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。

本日はこれで延会することに決定をいたしました。

本日はこれで延会します。

再開は明日24日、午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時06分　延会

平成２９年２月２４日

（第　　６　　号）

1. 議　事　日　程（６日目）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年２月24日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　議案質疑（議案第１号～議案第45号）

日程第２　請願・陳情について

陳情第１号　美作市議会議員の政務活動費の領収書等の議会ホームページでの公開等を求める陳情書

陳情第２号　議会の評価・議員の自己評価に関する陳情書

陳情第３号　請願・陳情の受理期限周知徹底に関する陳情書

陳情第４号　本会議における一般質問に関する陳情書

陳情第５号　交付を受けた政務調査費の再点検に関する陳情書

請願第１号　美作市ホームページ「借金時計」の表示に関する請願書

請願第２号　本会議及び各委員会のユーチューブ（YouTube） 配信に関する請願書

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	金　谷　典　子	２番	重　平　直　樹
３番	安　藤　　功	４番	安　本　博　則
５番	谷　本　有　造	６番	則　本　陽　介
７番	萬　代　師　一	８番	尾　髙　誉　久
９番	岡　﨑　正　裕	10番	西　元　進　一
11番	本　城　宏　道	12番	鈴　木　悦　子
13番	岩　江　正　行	14番	小　渕　繁　之
15番	万　殿　紘　行	16番	日　笠　一　成
17番	山　本　重　行	18番	山　本　雅　彦

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	安　部　　薫
副 市 長	横　山　博　光	教 育 長	大　川　泰　栄
政策審議監	福　原　　覚	総 務 部 長	山　本　直　人
危機管理監	山　本　和　毅	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	森　分　幸　雄	市 民 部 長	安　藤　郁　雄
環 境 部 長	妹　尾　昌　弘	経 済 部 長	尾　崎　功　三
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
教 育 次 長	山　名　浩　二	消　防　長	山　崎　正　雄
会計管理者	安　東　弘　子	社会福祉課長	長　畑　真　吾
上水道課長	小 坂 田　博　幸	下水道課長	中　島　浩　一

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長　　本　田　卓　治

課　　長　大　佛　裕　彦
主　　任　井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（山本　雅彦君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止をされております。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

本日は全員の出席でございます。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　議案質疑（議案第１号～議案第４５号）

議長（山本　雅彦君）

日程第１、「議案質疑」を行います。議案第１号から議案第45号を一括議題といたします。

これより質疑を行います。

なお、議案質疑につきましては、申し合わせにより発言の通告者は質問席で行い、議案質疑の回数は３回までとし、一括質疑となっております。また、通告をしていない者の質疑は１議案につき１件の質疑として自席で行うことになっております。くれぐれも一般質問化しないようによろしくお願いをいたします。

先般、議案質疑の通告一覧表を配付いたしております。発言通告順に議案ごとにその都度発言を許可いたします。通告をしていない質疑につきましては、通告のありました質疑の後、お受けをいたします。

それでは、議案第１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号９番岡﨑正裕議員。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

皆さんおはようございます。

それでは、議案第１号についての質疑を行いたいと思います。

武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定についてでございますけれども、これが決定したまでの経緯というのがちょっと知りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

皆さんおはようございます。

それでは、岡﨑議員の御質問にお答えさせていただきます。

議案第１号の武蔵の里関連施設及び愛の村パーク指定管理者の指定についての指定までの経緯ということでございます。

この施設につきましては、昨年の３月に指定管理の方向でということでお話をさせていただき、進めてまいったものでございます。こちらの施設につきましては、まず指定管理者の募集要項と業務仕様書を作成いたしまして、昨年11月10日から市のホームページ上で募集要項の配布を始めたところでございます。そし

て、11月21日には施設の現地にて説明会を開催いたしまして、そのときには３社が参加をされました。なお、現地説明会には参加されませんでしたが、そのほか１社が問い合わせもあったという状況でございます。その後、12月12日から本年１月10日までの期間に募集を受け付けましたところ１社の応募がございまして、応募書類等審査したところ適正であると確認ができましたので、１月26日に外部有識者２名の出席のもと指定管理者選定委員会を開催し、今回の候補者を決定したものでございます。

選定委員会では応募者によるプレゼンテーション、質疑応答を行い、募集要項に基づき委員による採点を行ったところ得点が採点基準の60％を上回ったことから今回予定者と決定し、本年２月２日には市のホームページ上で選定結果を公表させていただいております。その経緯を踏まえまして今回議案として上程をさせていただいておるという状況でございます。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

議案につきましては、武蔵の里関連施設及び愛の村パークということになっておるんですが、場所については武蔵の里が４カ所あります。武蔵の里楽市楽座、武蔵の里研修センター、武蔵の里交流館、クアガーデン武蔵の里、それから愛の村パークということになっとんですが、これはめいめい別々であったのか、それとも武蔵の里の４つを一括して愛の村とは別であったのか、その辺のところはどうだったんでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

この募集要項にもございます施設名につきましては、それぞれの設置について施設名をつけておりますので、今回の指定につきましてはこれを全て含めて一括での指定管理ということでございます。

〔９番岡﨑正裕君「わかりました」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

安本議員。

４番（安本　博則君）

先ほど部長のほうから選定委員会のメンバーで外部有識者２名と説明を受けたんですけど、これは別に市長のほうで選べるんだと思うんですけど、以前は監査委員さんが１人入ってされたと思うんですけど、この中に入られとんですか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

今回の有識者といいますのは２名の方でございますが、監査委員は含まれておりません。

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

以前には入っていたと思うんですけど、どういう経緯があって選定委員のメンバーから外されて新しく１

人入れられたのか、お尋ねします。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

今回の委員会の基準に従いまして選定をさせていただいておりまして、有識者という表現によりまして今回は大学の教授でありますとか金融機関の関係者ということで２名を選ばせていただいております。

〔４番安本博則君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

他にございますか。

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）

施設の管理が５施設となっているんですが、クアガーデン武蔵の里、クアガーデンはもう閉館しています。平成27年に愛の村とそれからクアガーデンを両方をコンサルタントにお願いして見てもらった時期が１年間あったと思うんです、どういうふうに経営改革という意味で。その中でクアガーデンを閉館ということがあって閉館したと思うんですけども、ここで改めてまた指定管理をしていただくんでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

今回、施設の中にクアガーデン武蔵の里が入っております。こちらにつきましては、現状で休館はしておりますが廃止にはしていないという現状を踏まえまして、今後の最終的な方向性も見きわめるという意味で施設の中には入れております。今後その方向性が決定した上で、例えば廃止ということになれば当然そういう方向で変更をしていくということでございます。

〔12番鈴木悦子君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

他に。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

この５施設の管理ということで、さっきクアガーデンの関係も言われたんでちょっとだけ触れときます。

これは実際には閉館されとんで、空き家の管理ということで管理費が入っているかどうかということと、もう一つは共立メンテナンスという会社に全部を預けるわけでしょうけど、これは私は中学校か小学校の給食の関係で参加させてもらって、御飯を食べさせてもらいました。はっきり言うと量が足らんというて子どもにこれでいいんだろうかということを感じて、しかしそのときは何も言わなかったんですが、武蔵の里の研修センターですからこれは量が足りんということになると大変なことなんで、私は決算特別委員会で6,000万円だったらいいんじゃないかという共産党の本城議員も言われたように、館で美作市が管理するという点で一つぐらいは残してもいいんじゃないかというふうに考えておりました。6,000万円という数字については非常に職員さんが努力されて、実際には大きく経営が改善されているというふうに思っとったわけです。急遽でもないんでしょうけど、武蔵の里も管理対象に入っとるということなんで言わせてもらいますが、私は頻繁にここは使っとんです。今の条件の中では6,000万円の……。

議長（山本　雅彦君）

西元議員、この指定管理の指定についての議案でございますので、ちょっと一般質問化をしつつありますので、注意してください。

１０番（西元　進一君）

そういうことで、実際に努力されたあかしとしての問題としてどう捉えているかということを教えてください。

議長（山本　雅彦君）

指定管理と赤字の問題とは少し意味が違うと思いますが、経済部、答えられますか。

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

それでは、西元議員のまず最初の御質問でございます。

クアガーデンの現在休館中でございまして、その指定管理の中にその経費等が入っておるのかということでございますが、基本的には維持管理等の経費等は入っておりません。一般的な外部からの目視なり、そういった意味での管理ということで施設は一緒に入れております。運営は今のところする方向ではありませんので、施設の維持管理といいますか、運営経費等はクアにはございませんので、そういった部分は入っておりません。

それから、食事についてでございますが、当然学校の給食とはまた違いまして、研修施設ではありますが宿泊施設でございますので、その部分については十分今までの知識、経験もございますから、同様の運営形態で行っていただけるものと思っております。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

西元議員。

１０番（西元　進一君）

クアガーデンのほうは管理費が入っとらんというて、見いでもいいということなんで、それで結構です。

武蔵の里は本当に研修センターで御飯食べるところでありますから、十分に対応されるということで、今までの経験を十分生かしながら、しかも改善されるような方向でやっていってほしいということを切にお願いして、尾崎部長、これは本当に管理するという約束だけしてください。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

答弁できるか。

指定管理ですから、そこのところ踏まえて答弁。

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

議員おっしゃいますように、当然指定管理に出したら出しっ放しではございませんので、その辺のところについては十分業者と調整を密にしながら、当然地元なり利用者の御意見も伺いながら調整は十分させていただきたいと思っております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第１号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第２号「美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号９番岡﨑正裕議員。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

これも議案第１号と同じような質問になりますが、これの指定までの経緯というのを教えていただければと思います。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼いたします。それでは、岡﨑議員の御質問でございます議案第２号の美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定についてでございます。こちらにつきましての経緯も先ほど議案第１号で申し上げましたスケジュールと全く同じスケジュールで行っております。昨年の11月22日に現地説明会を開催しまして、こちらには１社の参加がございました。同じく募集期間が本年１月10日までということで行いましたところその参加された１社が応募をされたということでございまして、応募書類の審査したところ適正であると確認ができましたので、同じく１月26日に外部有識者２名の出席のもと指定管理者選定委員会を開催いたしました。応募者によるプレゼンテーション、質疑応答等を行い、募集要項に基づき委員による採点を行った結果、得点が採点基準の60％以上となったことから指定管理者の予定者として決定し、２月２日に市のホームページに結果を公表しておりまして、今回議案として上程をさせていただいておるものでございます。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

先ほど安本議員の質問の中にもあったんですが、これは一括して指定管理者ということで、有識者というのは同じ人物ということで理解してよろしいでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

議員おっしゃるとおり、先ほど申しました大学の先生と金融機関の関係者の２名でございます。

〔９番岡﨑正裕君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を、ございますか。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

指定管理ですから、範囲がどの辺かよくわからんのですが、私は道路に上がっていって瀬戸内海が見えるというのが大芦高原の売りだと思うんで、あの前の木を切られるかどうかということを教えてください。そ

れが入っとるかどうかを含めて教えてください。

議長（山本　雅彦君）

指定管理ですから、木の伐採等はなじみませんので、そこのあたりは少し答弁ができにくいと思いますが。

〔10番西元進一君「議長、指定管理ですからもちろんそうで結構ですけど、伐採が入っているかどうかということを聞きたいんですが、入ってなかったらないでいいですから教えてください」と呼ぶ〕

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼します。一応今回お願いしておりますのは大芦高原のキャンプ場でございます。ちょっとはっきり議員がおっしゃる場所が僕もすぐにはわからないんですが、当然キャンプ場の中につきましてはその施設の維持管理というものは入っておりますので、景観等で見苦しいといいますか、そういった部分がありましたら当然その辺の木の伐採であるとか施設内の管理というものは入っております。

〔10番西元進一君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第２号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第３号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第３号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第４号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号11番本城宏道議員。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

それでは、議案第５号の関係ですが、公営に関する条例の制定の内容については全部わかったんですが、ここの中の６条で契約及び関連書類、６条に関連して、こういうものも様式も示していただいたほうがわかりやすいんですが、これはもう提出できませんか。

議長（山本　雅彦君）

何条とおっしゃいましたか。

１１番（本城　宏道君）

６条。６条の関連。

議長（山本　雅彦君）

この必要な事項は委員会が別に定めるというところですか。

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

様式及び規定のことだと思いますが、これは選挙委員会が定めるようになっております。この様式につきましては、選挙運動用のポスターの作成の届け出を現在の方は今までもされておると思いますが、これと同様に契約の相手方、契約内容を選挙管理委員会に届けていただくようになりまして、字句等は違いますが、今までのそういうポスター等の関係とほとんど同じような流れというか様式になります。

なお、議決前ではありますが、事務の都合上、２月28日の立候補予定者説明会では今回の条例が可決されたことを仮定しまして、公費負担の内容や契約から届け出、請求までの一連の流れを説明するようにさせていただいております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

今の説明、それはわかるんですけども、例えば28日の説明会で様式も何も全部含めて管理委員会のほうから出されるということなんですが、この６条の関係で委員会が別に定めると、それは選挙委員会が別に定めるわけですが、説明会に出た人は全部わかるで、だけども一般の市民や私どもがそこへ参加しなかった場合にどういう様式で出すんだろうかなというのがわからんわけです。したがって、このものを示してほしいということを言ようるわけで、それが６条に関連するわけです。選挙管理委員会が出すんじゃけえうちには関係ないんじゃということにはならんと思うんですが。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

選挙の説明会ございますので、立候補の検討をしておられる特定の集団の方に対してはその利害に著しく関係するんで、行政サービスとして恐らく事前情報を予定として提供をするということになります。一方で、一般の市民の方々に対しては議会の議決が行われ、そしてその議会の議決に基づいて条例が決まり、その条例に基づいて選挙管理委員会が所要の規則を正式に決定した段階で公表されるということになりますので、よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

さっきも言うたように、選挙の説明会で示せる段取りができとるということになればそれをこの場で公開できないということにならんと思うんです。立候補を予定される人はわかるけれども、それ以外の人はわからんわけですから。答弁ができないようですから、私はそういうように一応それはおかしいでということだ

け申し上げて、終わります。

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑がございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第５号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第６号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号９番岡﨑正裕議員。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

議案第７号でございますが、広報審議会の設置条例なんですが、ここの中の第３条の中で１号から３号まであるんですが、１号が市自治振興協議会を代表するもの、２号は学識経験を有する者、３号がその他市長が適当と認める者、これが７人以内ということになっておるんですが、この委員の割り振りというのはどういうふうになっておるのでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

御質問の委員の割り振りについてでございますが、委員の詳細につきましてはまだ決定をいたしておりません。現在美作市ケーブルテレビ施設放送番組審議会の委員は市自治振興協議会、報道委員会、青年会議所、ＰＴＡ母親委員会から選出をお願いしておるところでございまして、当広報審議会につきましても、同様の考えをしております。年齢、性別等、バランスのとれた方々に委嘱したいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

市自治振興協議会を代表する者とあるんですが、これは割り振りの中では先ほど言われたように学識経験を有する者というのが考えられておると思うんですが、そういうことになると市自治振興協議会を代表するというのは１名か２名とか、そういう人数になるんでしょうか。

それから、ちょっと今さっき１回目忘れましたけれども、報道委員会から広報審議会になったときに内容はこれはどういうふうに変わっていくのか、協議する内容がどういうふうに変わっていくのか、その辺のと

ころを教えてください。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

委員の選定につきましては先ほど申し上げたとおりでございますが、自治振興協議会を代表する方ということで代表する方を選出させていただきたい。１名ないし２名、まだ人数は決定しておりませんが、そのあたりで検討したいというふうに思っております。

次に、報道委員会と広報審議会の違いということでございますが、現在のケーブルテレビ施設放送番組審議会及び報道委員会ではそれぞれみまちゃんネルの番組の内容、編成とか、それから報道委員会では広報紙の企画、編集、構成等をお願いをしているところでございます。この２つの組織を統合いたしまして広報審議会とすることとしており、この中にホームページに関する意見もいただきたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

次のページの別記１のところに今その内容が書いてあるわけですが、もう一つちょっと忘れておったんでお伺いしたいんですが、別記１の改正前のところが報道委員の委員会委員と、新しいところは広報審議会の委員ということになって、年額と日額に分かれておるんですが、これをちょっと考えていきますとこの広報審議会というのはこれを見ると年に月に一回やるというようなことで理解をしてよろしいでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

広報審議会につきましては、現在考えておるところは最低でも年１回を開催をさせていただきたいというふうに考えておりまして、場合を見ながら２回というふうなことで、予算的には２回開催するということでただいま予算協議のほうをお願いしているところでございます。

以上でございます。

〔９番岡﨑正裕君「よろしいです」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第７号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第８号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第９号「美作市特別会計条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第９号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第10号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第10号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第11号「美作市資金の積立てに関する基金条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第11号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第12号「美作市英田就業改善センター設置条例の廃止について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第12号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第13号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第13号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第14号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号11番本城宏道君。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

議案第14号の質問をさせていただきます。

介護老人保健施設条例の一部を改正する条例ですが、１ページの中で第４条ですが、改正前の寄与するということと、それから改正後目指すという表現になっとるわけですが、この寄与すると目指すというのとの違い、ここで変える意味合い、こういうものをちょっと説明をお願いしたいと思います。

それから、３ページの別記のところで食費について１日1,600円というのがあるわけですが、これは厚労省が決める金額なのか、あるいは居住費または清掃費の特別個室というのがあるわけですが、これについても１日1,640円がここでは612円値上げをされておるわけですが、この関係について説明をお願いしたいと思います。

また、特別療養室というのと特別個室というのと、この差についても説明をお願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。議案第14号の１ページのところですが、寄与と目指すの改正ということなんですが、介護老人保健施設は在宅の生活への復帰を目指すものということで、これは介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準というものがありますが、この基準の中で介護老人保健施設は在宅の生活への復帰を目指すものという定義づけがあります。寄与ということなんですが、これは社会や人のために役立つこと、保健という意味であるため、今回の改正にあわせて字句の改定をさせていただいたということで御理解いただきたいと思います。

それから、食費の1,600円でございますが、厚生労働省が定める金額は平成17年に告示があるんですが、そのときに1,380円と定められておりまして、その後の改正は行われておりませんので、今回の1,600円というものは厚生労働省が定める額とは異なります。それを今回値上げをするという理由でございますが、現在行っている給食の原価というものが1,600円かかっております。県北にある老人保健施設14施設を全部調べたんですが、平均額が1,629円ということで実費に合わせた値上げを今回お願いしたいという内容でございます。

それから、居住費、滞在費の個室の１日1,640円が612円値上げしているんではないかということですが、個室の1,640円と多床室の370円につきましては、これは厚生労働省が定める額をそのまま今回も適用して、値上げはしておりませんので、612円値上げをしているというのはそういうことにはなっておりませんので、値上げはなしということで御理解いただきたいと思います。

それから、特別療養室料というのは居住費、滞在費に加えて所得の区分があるんですが、所得の区分の中でも課税世帯の方に対してこの特別療養室料というものが加わってかかるようになります。所得の課税世帯に対してこの特別療養室料というものをいただくという形になっております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

４条の関係のところで、寄与することというのはもうそれをせないけんという決まりになっとる。それで、目指すものとするというのは目指してやるんで必ずやらにゃいけんというものではないというようにな

るわけですが、これは大分施設の任務というものが果たす役割がちょっとぼやけてくるんじゃないかなという気がするんですが、その辺の解釈はどうなんでしょうか。

それから、改正後の別表のところですが、これは基本的には厚労省から示された金額だというように理解すりゃええわけですか。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

最初の寄与と目指すというところですが、在宅への復帰を目指すということで、100%の方が在宅へということになればよろしいんですが、そういうことは不可能でありまして、できる限り在宅への復帰ということを目指していくんですが、過去の対象者で在宅へ復帰された方を具体的な数字で示すと約半数というようなことでもありますし、実態に基づいて考えると目指すという表現がより適正かなというふうには考えます。

それから、厚労省が示す金額につきましては、居住費、滞在費は厚労省が示す金額と同じです。ただ、食費については原価に合わないという実情になっておりますので、1,600円に今回値上げをさせていただきたいということでございますので、よろしくお願いします。

〔11番本城宏道君「終わります」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

はい、金谷議員。

１番（金谷　典子君）

１番、金谷。え、できないんですか、できない。はい。

議長（山本　雅彦君）

失礼しました。

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第14号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第15号「美作市獣肉処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

安本議員。

４番（安本　博則君）

この改正でアンダーライン引いとるところではないんですけど、第５条の搬入する人は市長の許可を得なければいけないと、その辺は一回一回受けにゃいけんのか、登録をしとんのか、その辺のことをちょっとお尋ねしたいんですけど。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

要するに許可といいますのは、その現場において内容を確認させていただくということでございますので、基本的にはその都度ということになろうかと思います。

〔「もう一回言うて」と呼ぶ者あり〕

この線のない部分だと思うんですけども……。

議長（山本　雅彦君）

５条のところでいい。

経済部長（尾崎　功三君）

５条のところですよね。

搬入するときに確認をさせていただくという、現場でのお話でございます。

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

ほかの市の条例もいろいろ特に市長の許可が要るとかというようなことがあるんだけど、この文章だと施設に個体を搬入する者は搬入の際、市長の許可を受けなければ、だから持っていくたんびに許可を受けにゃいけんのんか、もう例えば猟師だったら登録されとると思うんです、それをされとる人に、もしそうでないんだったら一回一回市長の許可なんか受けて、市長もかなわんでしょう。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

個体について搬入の基準というものがございますので、その現場において当然施設のほうで受け入れるか受け入れないかという確認をするための許可ということでございます。

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

ちょっと質問内容と合わんのんじゃけど、個体を搬入する際は市長の許可だろう。じゃ、搬入するのは毎回毎回搬入するわけじゃ、個体をそこに。だったら、この市長の許可を受けなければならないという文言を変えたほうがええんじゃないか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

市有の施設でございますので、最終決定者は当然市長でございますので、市長の許可が要るというのは条文上のことでございますので、確認自体は当然市長がその都度はできませんので、それは施設のほうが受け入れの際に確認をしておるということでございます。

議長（山本　雅彦君）

他にございますか。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

私も法律の言葉というのが不勉強でわからない部分があるんですが、ここの中で搬入しようとする者が搬入する者となっております。それから、次のページの義務責任等の古い改正前が第６条、改正後が第９条になっとんですが、これには搬入者はという表現になっておるんですが、この違いというのはどういうところにあるのでしょうか。私、不勉強で申しわけないんですが、教えてください。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

第５条の最初のところでございますが、個体を搬入しようとする者（以下、搬入者という）というふうに書いてございます。それで、その搬入する者というのはその５条以下については搬入者という表現にさせていただいております。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

終わりの６条、９条の分はわかりました。済いません、私の勉強が足りなかったということです。

それで、ではなしに、次に搬入しようとする者というものと搬入者はいいんですが、改正後には搬入する者となっておるんですが、その違いを教えていただきたいと思うんですが。

議長（山本　雅彦君）

要は１議案につき１回の質問というのは一括してなんで、分けた質問はできませんので、そこのところを今ちょっと相談しておりましたので、御了承ください。

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第15号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第16号「美作市簡易水道事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第16号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第17号「市道路線の認定について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第17号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第18号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、質疑を受けます。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第18号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第19号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第19号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第20号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

２ページの第８条ですが、委託事務を適切に実施すると認められる市内の社会福祉法人に委託事務の一部を再委託することができるという表現になっておるわけですが、再委託というのはどういうときにされるようなことになるんですか。その辺の説明をちょっとお願いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

再委託についてでございますが、現在、市民後見人の養成をしております。専門職だけですと将来に向かって対応できる案件に数があるということで、市民の中ですぐれた識見を有する方につきまして市民後見人になっていただいて、権利擁護、後見人の活動をしていただくということで、その養成事業について市内の社会福祉法人に委託をするという考えでございます。

〔11番本城宏道君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第20号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第21号「相互救済事業の委託について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号９番岡﨑正裕議員。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

この中で委託する財産というのがありますが、そこの中で本市の所有または占有に属する財産で必要なものというのがあるんですが、具体的にこれはどのようなものになるんでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

これは市及び市が設置する一部事務組合の建物、工作物、動産の火災、それから落雷、風水害による損害を補填するものでございます。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

それは事業名のところにあったんですけれども、具体的に例えば庁舎のみとか、どの程度の範囲までこれが広がっていくのか、それをちょっと具体的に教えていただければと思うんですが。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

旧町村のときから加入しております建物、動産、その他もろもろ、全てのものになります。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

ということは、建物なんかは全てというふうに理解したらよろしいんでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

市が価値がある建物として認めておる建物は保険対象になっております。

〔９番岡﨑正裕君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第21号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号11番本城宏道議員。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

それでは、議案第22号ですが、22ページで一般管理費の中で住宅使用料が141万円減額になっておるわけですが、これは主な原因、その説明をお願いしたいということです。

それから、23ページで戸籍基本台帳の関係で、これも42万6,000円減額になっております。これは個人カードの発行する人が少ないからこういうことになっておるのか。もしそういうことで予定が減ったんで減額ということになれば、現在は全体の率にしてどの程度個人カードに関連する発行がなされておるのか。その辺について、現在何人ぐらい登録をして、率にしたら何％ぐらいだということがわかればお願いしたいと思います。

それから次に、社会福祉費の障がい者福祉費というのが158万3,000円の減額、それから３番の老人福祉費の中のこれも負担金補助金交付金ですが、1,130万円減額になっております。４番の介護保険の拠出金です。繰出金ですが、これも1,679万8,000円減額になっておるわけですが、その主な原因をお知らせ願いたいと。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

22ページの１番の使用料の主な原因は何かという御質問について答弁させていただきます。

これは岡山県との人事交流で県庁へ研修生人事交流等で当初３名を予定をしておりまして、その住宅の使用料でございました。実際は県との都合で派遣が３名が２名になりまして、その２名のうち１名が自宅から通える職員となりましたので、２名分の住宅の使用料が減額になったことによりまして141万円の減額ということになっております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、本城議員お尋ねの②戸籍住民基本台帳費の個人番号カード関連事務負担金42万6,000円の減額についてでございますが、これは議員がおっしゃられましたように個人番号カードの発行部数が少ないからではなく、これは当初国のほうから示されました金額が272万4,000円でしたのでそれを計上しておりましたが、実際に決定額が229万8,000円で、その差額を減額したものでございます。これにつきましては10分の10の事業でございますので、15ページの国庫補助金のところも同じく減額をさせていただいております。

なお、個人番号カードの発行枚数でございますが、２月21日現在で2,102枚、約7.3％でございます。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

３番目の扶助費です。款３民生費、項１社会福祉費、目２障がい者福祉費の扶助費の減額でございますが、いずれも当初の見込みより支給対象者が減ったというところでございます。

まず、特別障がい者手当につきましては、当初25名を想定しておりましたが21名というふうに数が減ると。それから、障がい者福祉手当につきましては、15名が９名になる見込みで減額を行っております。

また、自立支援医療につきましては、治療のほうが人工透析など障がいの軽減、改善を図るための治療ということでございます。生活保護を受給されている方が人工透析の治療を受けられる際は医療扶助に優先して自立支援医療が優先適用されます。治療費の全額を自立支援医療、更生医療のほうで支払うことになりますので、当初３名の方がこの自立支援医療で全額負担ということで考えておりましたが、最終的には２名で、１名の方が減額と、自立支援医療を適用しなくてもいいようになったということで１名分を減額しております。

それから、３の高齢者福祉費の地域医療介護総合確保基金事業費補助金でございますが、これは認知症の対応、デイサービスセンターを平成28年度において公募をいたしまして、この事業をされる方を募集しておりましたが、事業を取り組んでいただける事業者の方がいなかったということで、この事業を中止して、そ

の補助金について減額をするという内容のものでございます。

それから、４番の、質問の順番でいくと５番目になるんですが、４の介護保険費の減額につきましては後ほど出てまいります介護保険の３号補正の減額の内容がこれに該当してくるんですが、保険事業勘定としまして居宅介護サービス給付費等の居宅部分に係る給付費が9,670万円の減額、それから介護予防に係るものが2,350万円の減額、それから特定入所者介護サービスというもの、これは100万円の増額になるんですが、こうしたサービス給付費が当初の見込みより減額になるということで、それの市の繰り出しに係るものが減額になりまして、それプラス地域支援事業に係るものが486万円、これは英田支所を外部委託ということでしておったものが28年度は人の対応ということで委託料が減額になっております。その分を減額いたしまして、トータルで保険事業勘定のほうが1,584万8,000円の繰出金の減額ということになります。

それから、サービス事業勘定につきましては、繰越金を事業の財源のほうに充当したということで、一般会計からの繰り出しの必要がなくなったということで95万円の減額をさせていただいておるということでございます。

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

一般管理費の関係については、住宅を借り上げる予定が２名のところが１名になったということですが、これは住宅使用料を落としたかわりに通勤の交通費、これは別途支払われるようになっておるのかどうか。

それから、個人カードの関係については、もっと申請する人があるんかな思うたんですが、１割にも満たない、7.3％の人しか実際には発行していないということで驚いたようなことでございます。

それから、あとの障がい者や高齢者、介護保険の関係について、これは審査をする基準というものが厳しくなって対象が減ってきたというようなことは考えられないんですか。その辺を少しお聞かせ願いたいと思います。

それから、特に繰出金の関係です、５番ですが、他町村と比べて介護保険の関係が美作市の場合は多いのか少ないのか、その辺についてもお聞かせ願いたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

他町村と比べてというのが少し一般質問化をしつつありますので、その辺はよろしくお願いします。

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

まず、１問目の住宅使用料の関係で答弁させていただきます。

ここへ上がっている減額の関係なんですけど、まず当初３名で予定をしておりました。実際は２名の人事交流ということで、その人事交流いたしました２名のうち１名が岡山市内ということで、もちろん規定に従ってその通勤手当等はそれぞれに適正に入っております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

各手当につきまして審査が厳しくはなっているんじゃないかというお尋ねでございますが、該当する内容につきましては従前と一切かわりありません。審査が厳しくなったというようなことはありません。ただ、扶助費でございますので、多少当初予算のほうで余裕を持った見方をしておりましたので、それを最終のほ

うで減額させてもらったという内容でございます。よろしくお願いします。

〔11番本城宏道君「終わります」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

次の質問に入る前に10分間休憩いたします。

午前11時06分　休憩

午前11時16分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、通告順番２番、議席番号13番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

歳出、22ページ、議案第22号、款２項１目12のバス運行委託料の減額は1,535万3,000円になっとる、この中身について。

それから、２番目が歳出で23ページ、特別障がい者手当、これが款の３、項の１、目の２、128万3,000円、この中身。

それから、３番目として23ページの３、それから項の１、目の２、自立支援医療費、更生医療の関係で400万円の減額。

それと、23ページ、障がい者手当、款３項１目２、これの減額の105万1,000円。

それから、24ページ、款の３、項の１、目の６、節の28後期高齢者医療保険基盤安定繰出金の減額の1,648万1,000円のこの中身。

それから、歳出で24ページ、款３項１目６の減額の74万5,000円。

それから、７番目として、歳出で25ページ、款３項３目２節20の生活扶助費等で3,630万円。

それから、30ページ、款９項１目１節18の車両購入費の減額の858万円。

これについての中身の御説明をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、市民部の所管としまして１番、５番、６番について説明をさせていただきます。

まず、22ページのバス運行委託料1,535万3,000円の減額についてでございますが、平成28年度の市営バス運行管理委託について指名競争入札を行った結果、当初予算額5,808万8,000円に対しまして契約額が4,273万5,000円で締結したことによる不用額の減額補正であります。なお、市営バスの運行管理委託につきましては、作東地域を除く５地域についてそれぞれ運行管理委託契約を締結し、１年間の運行を行っております。

続きまして、24ページ、⑤の後期高齢者医療保険基盤安定繰出金減額についてでございますが、この保険基盤安定制度では、御承知かもしれませんけども、低所得者等について保険料軽減制度を設けて軽減分を県と市で３対１の割合で負担しております。この予算につきましては、岡山県後期高齢者医療広域連合により試算が行われ、市に通知された額に基づき計上しております。この繰出金につきましては、当初予算額１億7,023万3,000円でございましたが、12月の確定額１億5,375万2,000円が確定しましたので、予算額との差額

分1,648万1,000円を減額補正するものでございます。この減額の要因としまして、広域連合に確認しましたところ、平成28年度の基盤安定の予算に関する試算の際に保険料の見直しの時期であったこともあり、軽減分の見込みを多く見ていたため減額が生じたとのことでございます。

続きまして、同じく24ページの⑥、歳出で後期高齢者健康診査事業繰出金74万5,000円の減額でございますが、これは75歳以上の方の健康診査及び子宮がん、乳がん検査について岡山県後期高齢者医療広域連合からの補助金と一般会計からの繰入金により事業を実施しております。端的に申しますと、この減額補正の理由としましては受診対象者の減少によるものでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

保健福祉部のほうからは２番、３番、４番、７番についてお答えをさせていただきます。

款３項１目２節20特別障がい者手当でございますが、これ先ほど説明をいたしましたとおり特別障がい者手当につきましては当初25名で見込みをしておりましたが、最終見込みが21名ということで、４名分の手当を減額させていただきます。

それから、③番、款３項１目２節20自立支援医療、更生医療の400万円の減額ですが、これも先ほど説明をいたしておりますが、生活保護受給者で全額自立支援医療の対象になる方が当初３名で見込みをしておりましたが、１名分がこの必要がなくなったということで医療扶助費の400万円を減額したものでございます。

それから、款３項１目２節20障がい児福祉手当でございますが、これも当初の見込みが15名で見込んでおったものが最終見込みが９名ということで、６人分を減額するものでございます。

それから、⑦番、款３項３目２節20生活扶助費3,630万円の減額でございますが、平成24年度をピークに保護世帯数、人員が減少傾向にあり、今年度におきましても27年度末が183世帯、234名の保護人員が28年12月末、昨年末には167世帯、人員で211名と減少をしております。この保護人員の減少に伴う今年度の使用見込み額に基づきまして3,630万円の減額ということでございます。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

消防長。

消防長（山崎　正雄君）

30ページの⑧、款９項１目１節18車両購入費の減額補正858万円についてですが、減額補正の858万円につきましては消防ポンプ自動車の更新、購入に伴う入札残でございます。昨年の５月に入札を行ったところ、3,942万円で落札され、4,800万円に対する入札残となり、減額補正として計上させていただきました。

議長（山本　雅彦君）

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

大体わかったんですが、とりあえずこの１番のバス運行委託料の関係、やっぱりこの関係も不用額がちょっと多過ぎる。

それと、消防長の言ようるやつも車購入する場合、残額がどえらい出てきょうろう。いよいよ800万円というたらもとはどのくらいで済むんじゃろうかというような、ちょっと市民が疑い持ちゃへんか思いますので、その辺のところの入札のときの数字というのはもう少しよく調査したほうがいいんじゃねえかと思いま

す。

それと、生活扶助費の関係でも、これどんなんかな。亡くなって少のうなったんか、仕事ができたり、仕事がない人が仕事はどっか働くところがあって少のうなったんか、そういうな関係についてもちょっと説明ができたらなと思いよんじゃけども、少のうなった原因、もう少し掘り下げたところでしてもろうたらなと思いよるわけでございます。

そんだけ、３点ほどだけをちょっとお尋ねします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

バスの運行委託料につきましては、議員おっしゃられましたように入札率が平均で73.5％でございます。御心配の安全・安心ということで、入札率は73.5％でございますが、これは入札によりますものでございます。今後も運行管理につきましては十分こちらも注意をしてまいりたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

生活扶助費の廃止になった内訳ということですが、28年度の当初予算を作成した時点から今度28年11月末時点までの移動の内容ですが、新規で開始になった方が16世帯あります。逆に廃止になった世帯が42世帯。内訳ですが、主なものが死亡が10世帯、それから収入がふえた世帯が12世帯、それから市外への転出が７世帯、それから施設入所が５世帯といったところが主です。

収入増のさらに内訳によりますと、就職ができたと言われる世帯が８世帯、それから年金の受給ができたという世帯が３世帯、それから手持ち金がいろんな要因があったんだと思いますがふえたという世帯で１世帯というような内訳になっております。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

消防長。

消防長（山崎　正雄君）

今後については、設計金額等をしっかりと調整をしながら計上してまいりたいと思います。

〔13番岩江正行君「終わります」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番３番、議席番号４番安本博則議員の発言を許可いたします。

安本議員。

４番（安本　博則君）〔質問席〕

最初に、６ページの款７番商工費で繰越明許で武蔵の里の観光施設の修繕事業306万1,000円と、愛の村の修繕事業の673万円、これはどのような事業が残って繰り越しをされているのか。修繕でどういう部分が修繕されとるのかということと。

それと、20ページの清算金の一番上の東粟倉工房清算金の414万5,000円、これは例の清算結了に伴った不当利得の金額の中身の一部なのか別なのか。

続きまして、27ページの東粟倉工房の修繕補償金133万円、この修繕内容はどういうものなのか。

次に、30ページの補償金の減額で4,724万円、これはしようとする事業が多分できないから減額されたと思うんですけど、土地の確保なのかどういう内容なのか、減額した内容をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼いたします。それでは、安本議員の御質問の中で①から④までの４件についてお答えをいたします。

まず、①、②の繰越明許費、武蔵の里観光施設の修繕と愛の村パーク修繕事業の内容でございます。こちらにつきましては、今回の補正予算の歳出28ページに予算計上をさせていただいております合計で971万9,000円を繰り越しさせていただこうというものでございまして、今回の指定管理者制度への移行に向けて施設の設備や点検等を行った結果、できるだけ早くふぐあいを直しておこうということで今回追加補正をお願いしておるものでございまして、武蔵の里の関連施設では五輪坊の配管でありますとか照明、浴槽、給湯器などの施設設備に関係する修繕７件でございます。それから、愛の村パークに関しましては、温泉の配管設備と井戸ポンプの設備２件の修繕費用を上げさせていただいております。議決後は早急に修繕等へ取りかかりたいということでございます。

それから、３点目でございますが、東栗倉工房の清算金でございます。昨年の９月議会で御報告いたしました旧東栗倉工房の清算結了に伴いまして、残余財産の配分として配分を受けた現金82万6,565円と棚卸資産等の売却代金の債権としてございました231万8,700円、また旧会社が所有しておりました車両２台及びフォークリフト等はこういったものは建物に附属したものでないことから新しい会社のほうへ購入いただきたいということで、それが100万円の合計414万5,000円を今回清算金として予算計上をさせていただくものでございまして、最初に申しました現金とか債権については不当利得の部分の2,500万円には入っていない部分でございます。

それから、４点目の補償金でございます。こちらにつきましては、旧東栗倉工房が解散し、事業を現在の新会社に営業を行っていただいています関係で、平成26年でございますが、工場の屋根に据えてあります置き千木が腐食しまして落下の危険性があり、また塗装のさびも著しいということで、それともう一点が工場の床も傷んで衛生面での問題もあった、こういうことがございまして、新会社が費用を負担し、これらの修繕工事を実施されておりました。このたび旧工房の清算結了に伴いまして先ほど申しました修繕費用133万円を補償金として新会社のほうへお出しするというためにお願いをしておるものでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

安本議員５項目めの30ページ、款８項２目２節22の補償金4,724万円の減額でございます。

この補正は、道路橋梁新設改良費のうち社会資本整備事業、辺地対策整備事業及び過疎対策道路整備事業に係る補償金の減額でございます。金額が確定したということでございますけれど、主なものは日指で実施しております市道改良で工法等の検討により水道管の本管があるんですが、その施設が不要になったこと、ほかに新規路線でルート選定や詳細設計までに時間を要したことが要因で物件移転まで処理が行かなかったということでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

繰越明許費のことはわかりました。

３番目の清算金のうちの、聞き間違いかもわからんけど、棚卸しによるお金が231万8,700円と言われたと思うんだけど、これ当初は棚卸しは１千数百万円あったのが300万円ぐらいになっとったと思うんだけど、それからまた減っとるように思うんですけど、その辺はどうなっとるんでしょうか。

それと、４番目の修繕については、私以前この件もいろいろと東栗倉のことを調べておるときに向こうの人からこういうことがあって車へ飛んだりしていけないんで、とりあえず直さにゃしょうがないんだということで直した部分のことだというように理解しますんで、これもよろしいです。

それと、補償金についても内容的にはわかりました。

とりあえず３番目の棚卸しによる231万8,700円と言うたと思う、その部分でさっき言った差額があると思うんだけど、最初多分したときに１千数百万円あったのが何か知らんけど300万円前後になったような気がするんです。それでまだこれが200何ぼになっとんで、それはどのようになっとんですか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

③の部分についての内訳の一部でございますが、棚卸しの関係でございますが、価格的には1,000万円強の総額があった中で、実際新会社のほうへの金額の決定とした額が347万8,060円でございました。これを新会社のほうが３回に分けてお支払いいただくというお話で進めておったんですが、実際には１回分ですので、先ほど申しました金額との差額115万円ぐらいになると思うんですけども、それの１回分は既に旧会社と今清算結了までに会社のほうへお支払いをいただいております。２回分の残っておった部分231万8,700円は債権として市のほうがお受けしとるということで、今回はその部分について予算計上をさせていただいておるということでございます。

〔４番安本博則君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番４番、議席番号９番岡﨑正裕議員の発言を許可します。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

まずは、先ほど岩江議員が質問されたバスの運行委託料ですが、これ市営バスということなんですが、これは何路線の何キロメーターぐらいあるんでしょうか。わかりましたら教えてください。

それから、27ページの農地費の中の工事請負費、これが1,345万9,000円の減額になっております。この説明をお願いいたします。

それから、28ページの林業振興費の中の有害鳥獣捕獲駆除奨励費3,500万円の減額を教えてください。

それから、道路橋梁維持費、29ページですが、測量設計等委託料が1,354万8,000円の減額、それから工事請負費が8,628万9,000円の減額ですが、その説明と、これは測量設計等委託料と工事請負費は関連した同じものなのでしょうか。ちょっとその辺をお願いいたします。

それから、次の29ページでございますが、29ページから30ページにかけてですが、道路新設改良費、工事請負費が8,628万9,000円、それから測量設計等委託料が2,111万1,000円の減額、工事請負費が１億7,878万7,000円の減額、土地購入費が3,351万8,000円の減額、それから補償金、先ほど安本議員が質問されたんですけれども、4,724万円の減額、これを全部教えていただきたいのと、この部分については６、７、８、９というのは関連したものなのでしょうか。教えていただければと思います。

議長（山本　雅彦君）

それでは、建設部のほうから答弁できますか。

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

それでは、岡﨑議員の御質問の歳出27ページ、款６項１目５節15工事請負費1,345万9,000円の減でございますけれど、これは平福地内で小規模ため池の補強工事をやっておりますけれど、工法の見直しをしまして920万円の減額、その他小規模土地改良事業、これは県の補助事業になるんですけれど、予算要求に対して補助金がついてこなかったということが原因で1,345万9,000円の減額となっております。

それから、29ページ、款８項２目１節の13測量設計等委託費です。1,354万8,000円の減。この補正は、道路橋梁維持費のうち防災・安全交付金事業、これ国庫補助事業ですけれど、の測量設計等委託料の減額をお願いするものです。これは防災・安全交付金事業が国庫補助事業で、今年度の割り当てが確定したことにより減額をするものです。

それから、29ページ、款８項２目の１節の15工事請負費8,628万9,000円の減。この補正も先ほどと同じく防災・安全交付金事業の今年度の割り当てが確定をしたことによるものの減額でございます。関連といいますのは、測量委託は前年度にやるという場合もあるんですけれど、内容としては国庫補助事業の中で一つの事業でやっていくという事業でございます。補助金交付申請のときには市でこれだけしたいからということで補助金交付申請するわけですけれど、内示額によって減額をさせていただいておるということでございます。

それから、29ページ、８の２、目の２節の13測量設計費等委託料2,111万1,000円の減額。この補正は、道路橋梁新設改良費のうち辺地対策道路事業及び過疎対策道路事業の測量委託費の減額でございます。これは入札の結果によるもののほか、事業量の調整によるものでございまして、主な要因といたしましては新規路線の上相岡線ほか新ルートの選定及び詳細設計において用地調査や関係者との調整に時間を要し、実施できない業務が発生したため減額をするものでございます。

次に、29ページの款８項２目２節の15工事請負費１億7,878万7,000円の減。この補正は、道路橋梁新設改良費のうち社会資本整備総合交付金事業、辺地対策道路整備事業、過疎対策道路整備事業に係る工事費の減額でございます。これは事業費の確定及び事業量の調整によるものでございますけれど、減額の主な要因は国庫補助事業である社会資本整備総合交付金事業の今年度の割り当てが確定をしたというものでございます。

続きまして、歳出、29ページ、款８項２目２節の17土地購入費3,351万8,000円の減額。

この補正は、先ほどと同じく道路新設改良費のうち辺地対策道路整備事業及び過疎対策道路整備事業に係る土地購入費の減額でございます。この減額につきましては、新規路線について今年度で予定した用地取得がルート選定や詳細設計において相続等の用地関係や地区との調整に時間を要したため取得にまで至らなかったことによるものでの減額でございます。

それから、30ページ、款８項２目２節の22補償金、減額4,724万円。これ今、先ほど安本議員のときに説明をさせていただきましたけれど、主なものといたしましては日指で実施している水道の本管の移設工事が不要になったため、その他新規路線のルート選定や詳細設計までに時間を要したということが原因であります。後段の道路新設改良費でございますけれど、国庫補助事業がございまして、これも県のほうへ要望するわけなんですが、内示が少なかったということで確定をしたというものでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

先ほどの岡﨑議員の御質問でございますが、今補正予算といたしましてはこの補正の要因はあくまで入札の結果で残が出たものでございますので、距離の変更ではございませんので、この御質問にはちょっとお答えをしかねます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼します。それでは、経済部のほうからは③有害鳥獣捕獲駆除奨励費3,500万円の減でございます。こちらにつきましては、ここ数年の捕獲頭数等を見込みながら、28年度当初予算ではイノシシの捕獲を2,300頭、ニホンジカ5,500頭で予算計上をさせていただいておりました。しかしながら、ことしに入りましてなかなか頭数については昨年よりかなり減っておりまして、ことしの１月末現在で昨年の実績を大きく下回っておるという状況でございます。３月末までの見込みと頭数を推計いたしまして、イノシシでは1,150頭、ニホンジカでは5,000頭を上限といたしまして、その差額分として今回3,500万円と金額的にはかなり多くなりましたが、捕獲頭数が非常に今回は減少する見込みということでの補正でございます。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

バスの関係なんですが、距離が減ったとか路線が減ったとか、そういうことではなくて、市営バスのもと、市営バスは何路線あって何キロ程度あるのかというのが聞きたかったわけです。わかりましたら教えてください。

それから、有害鳥獣捕獲なんですが、これは有害鳥獣が数が多いのにとれなかったということなのか、捕獲をする人がだんだん減ってきよるんで、そういうことで理解をしてよろしいんでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、市営バスの路線につきましては、これはこの補正予算の減額の範囲外の話でございますので……

〔９番岡﨑正裕君「なるほど。当初予算の話です」と呼ぶ〕

御了承ください。

ほかにございますか。

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

実際、頭数が減ったかどうかというのは明確な統計はございませんが、生き物ですのでいろいろと動いておりますので、市内にずっとおるというわけではございませんので明確なお答えはできませんが、実際猟師の方のお話を聞くと以前よりは群れでおるのを見かけるのが減ったとか、そういったことはお聞きしております。実際とれておる量が本年はちょっと少ないというのが現状でございます。

〔９番岡﨑正裕君「結構です」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けますが、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第22号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号13番岩江正行議員。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

議案第23号平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）について質問させていただきます。

歳入で14ページ、款４項１目１節１の療養給付費等交付金、現年度分の3,860万4,000円の、この減額補正した原因。

それから、歳入14ページ、款７項１目２節１の保険財政共同安定化事業の交付金の3,774万3,000円の減額したこの根拠。

それから、17ページの款７項１目２節の19保険財政共同安定化事業繰出金の7,758万4,000円の減額しているこの根拠についての御説明をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、市民部のほうからお答えをさせていただきます。

まず、14ページ、歳入で療養給付費等交付金、現年分減額3,860万4,000円の内容でございますけれども、当初予算としまして１億6,755万1,000円、これが確定額として１億2,894万7,000円となりましたので、その差額分を減額補正するものでございます。

退職被保険者とその被扶養者の医療費につきましては、退職被保険者の保険税と療養給付費等の交付金によって賄われることになっております。平成20年度の退職被保険者制度の廃止に伴い経過措置を経まして、平成27年度以降は退職被保険者等の新規適用を行っていないため被保険者が減少いたしました。その結果、当初の見込み以上に医療費が減少しましたので、あわせて交付金も減少することとなりましたので、減額補正を行うものでございます。

同じく14ページの歳入、保険財政共同安定化事業交付金の減額と、それから17ページ、③の歳出、保険財政共同安定化事業拠出金の減額でございますが、これはともに関連がございます。同じ事業でこちらが繰り出すものといただくものということになっておりまして、この事業で県内の市町村国保が１件当たり80万円までの診療報酬明細書、いわゆるレセプトに対しまして市町村の負担割合に応じて保険財政共同安定化事業拠出金を負担し、これを財源に対象レセプトの59％を乗じた額が県内の市町村国保に交付されるのがこの保険財政共同安定化事業交付金であります。

この事業主体は国保連合でありまして、予算につきましても国保連合会の試算に基づき計上しております。ですから、この減額につきまして確認しましたところ、平成27年度の下半期より１日の薬価が約８万円

と高額なＣ型肝炎の新薬などの影響から医療費が増大したことを受け、平成28年度はその動向を反映させた予算編成を行いましたが、こうした高額薬価の価格引き下げが今年度から実施されたことなどの影響によりまして試算より医療費の減少傾向となり、このために交付金及び拠出金を減額することになったとのことでございます。

以上でございます。

〔13番岩江正行君「結構です」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第23号の質疑を終了いたします。

ただいまから１時まで休憩といたします。

午前11時58分　休憩

午後１時00分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、議案第24号「平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号11番本城宏道議員。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

それでは、介護保険の関係で質問をさせていただきたいと思いますが、４点ほど出しておりますけれども、歳出の11ページですが、款２項１目１、２、３、６について、それぞれ説明をお願いしたいと思います。減額の幅が非常に大きいので、よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。介護給付費の減額ということでございます。11ページの款２項１目１節19、マイナスの4,500万円でございますが、これは居宅介護サービス給付費でございます。これにつきましては、平成28年４月から利用定員18人以下の事業所が地域密着型サービス事業に移行されるということになりましたが、当初この地域密着の定着型にかわる見込みでなかった事業所が１事業所で大きい介護給付をしているところがあるんですが、そこの事業所が当初の見込みに予想に反しまして地域密着のほうに移行したため、その介護給付費が減額となり、4,500万円の減額となったという主な要因でございます。

それから、その次の款２項１目２節19、2,000万円の減額でございます。これは地域密着型介護サービスでございますが、先ほど居宅サービスのほうからこの地域密着へ移ったという説明をさせていただきましたが、その部分につきましてはプラスになっておるんですが、小規模多機能居宅介護のサービスにつきまして

当初からの開設見込みであった事業所の開設がおくれたところが１カ所、それから28年度において１事業所を公募したものの、今回繰越明許の補正をさせていただいておりますが、当初からの応募がなく事業所の開設ができなかったという要因がございまして、この小規模多機能居宅介護給付費の減額が大きくなっておりまして、プラスの要因とマイナスの要因を足し合わせましてマイナス2,000万円の減額ということでございます。

それから、３番目の款２項１目３節19の施設介護サービス給付費の減額3,000万円でございます。これは特別養護老人ホーム等への入所の数はほぼ同数値で推移しているんではありますが、重度の介護の必要な方、介護４、５の方の利用が予想に反して少なくなっているということが大きな原因でございます。それによりましてマイナスの3,000万円の減額ということでございます。

それから、６番の款２項１、６の居宅介護サービス計画給付費200万円につきましては、これはサービス計画の作成費に係る……。

議長（山本　雅彦君）

６番入っていないよ、ここに。

保健福祉部長（江見　　勉君）

いいんですか。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

６番、通告に入っておりません。

１１番（本城　宏道君）

今の説明で居宅サービスから地域密着のほうへ移行したということですが、結局介護でなしに幼稚園の関係や介護１、２が入所できなくなったというようなことがあってそういうふうに変わったんだろうと思うんですが、それにしては地域密着型のほうも同じように減っておると、減額されておると。2,000万円も減っとるわけですから、その辺の説明がもうちょっとわからないなという気がするんです。

それから、これだけの減額があるということは、次の介護保険に影響してくるわけですが、こういうものがこれだけ減ってくるということになるとその保険にも関連が出てくるか、あるいは当初の予定が見込み違いだったということになるのか、その辺も加えて説明願いたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

答弁はありましたが、再度答弁させます。

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

介護給付費のところで要支援１、２の方がサービスが使えなくなったのではということでございますが、そのようなことはございませんので、ただサービスの区分の変更があったため居宅サービスから地域密着のサービスへ変わったということでございます。それ以外の要因はございません。

ただ、地域密着もあわせて居宅サービスも予算の算定には慎重を期してやっておりますが、当初予算の段階において給付費の見込みが多少多かったというのはあるかなというふうには考えております。

〔11番本城宏道君「終わります」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番２番、議席番号13番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

９ページ、款４項１目１節１の介護保険給付費負担金2,239万円のこの歳入の減額されとる分、これについての御説明をしてください。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。９ページ、款４項１目１節１の介護給付費負担金の減額でございます。これは介護給付費の国庫補助金に係るものでございます。歳出の11ページにあります項の介護サービス等諸費の中の目の１から６のそれぞれの給付費及びその下の項の２の介護予防サービス等諸費の目の介護予防サービス給付費、次の12ページに入りまして、項の２の介護予防サービス等諸費の目の４、５の介護予防住宅改修費と介護予防サービス計画費と、それからその中段の目の特定入所者介護サービス費の以上の給付費が先ほど本城議員のほうに説明をしました大きな要因があるんですが、減額となっておりまして、それぞれ介護給付費の施設入所に係るものにつきましては国庫負担金の税率の15％、それから居宅の介護サービスにつきましては20％の補助率をそれぞれ掛けまして、合計で2,239万円の減額というふうになっております。よろしくお願いします。

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第24号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第25号「平成28年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」について、質疑を受けます。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第25号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第26号「平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第26号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第27号「平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第27号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第28号「平成28年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第28号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第29号「平成28年度美作市武蔵の里特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第29号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第30号「平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第30号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第31号「平成28年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第31号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第32号「平成28年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第32号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第33号「平成29年度美作市一般会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号17番山本重行議員。

山本議員。

１７番（山本　重行君）〔質問席〕

15ページの款の１項の２目の１節の１固定資産税15億7,964万円の増額について、１億円ほどふえているわけですけれども、増額の内容について、土居地区のメガソーラーは税に入っているのかどうかと。きのうの一般質問で若干出てきたような部分もございますけれども、お伺いしたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、山本議員御質問の固定資産税でございます。

平成29年度予算において固定資産税が前年より約１億円増加しておりますのは、これは要因としましては新たに平成28年中に大原地区で稼働しましたメガソーラーが課税対象となったことでございます。このメガソーラー分の固定資産税を歳入として約9,500万円見込んでいることが主な要因であり、それに加え収納率を１％強上昇すると見込んで予算化しているものでございます。

お尋ねの土居地区で計画されておりますメガソーラーにつきましては、賦課基準日が平成29年１月１日ですので、１月１日に設備が完成し、事業の用に供されている状態ではないため、この29年度の固定資産税には算定には含まれておりません。

〔17番山本重行君「わかりました」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番２番、議席番号７番萬代師一議員の発言を許可いたします。

萬代議員。

７番（萬代　師一君）〔質問席〕

それでは、29年度美作市一般会計、私の場合、歳出につきまして質問させていただきます。

81ページ、款３項２目１節７賃金でございます。ここで児童福祉総務費の嘱託賃金が新たに予算計上されております。内容についてお尋ねをいたします。

続きまして、同じく81ページの節９旅費でございますが、特別旅費ということで予算計上されております。33万6,000円でございます。内容についてお尋ねをいたします。

次に、３点目といたしまして95ページ、款４項２目１節13委託料でございます。塵芥処理費の委託料で測量設計等委託料が新規に予算計上されております。3,350万円でございます。委託先及び委託の内容についてお尋ねをいたします。

続きまして、④といたしまして同じところの節13委託料でございます。ガラス類処理等委託料が対前年比で3,360万円ほど増額予算となっております。委託先及び委託内容についてお尋ねをいたします。

続きまして、同じところになりますが、同じく委託料、ごみ処理設備点検委託料、新規に予算計上をされております。1,587万1,000円です。こちらにつきましても委託先及び委託の内容についてお尋ねをいたします。

次に、105ページ、款６項２目２林業振興費でございます。対前年比8,416万3,000円の増額予算となっております。その内訳についてお尋ねをいたします。

７点目といたしまして、141ページ、款10項３目２節14、こちらについては教育振興費でございます。自

動車借り上げ料が対前年比100万円の増額予算となっております。内容についてお尋ねをいたします。

次に、145ページ、款10項５目１節13委託料でございます。警備委託料といたしまして新規に予算計上されて、予算額といたしましては６万4,000円でございます。内容についてお尋ねをいたします。

続きまして、９点目といたしまして、同じ節のところに講座開設委託料ということで100万円の予算計上となっております。委託の内容及び委託先についてお尋ねをいたします。

10点目といたしまして、150ページ、款10項５目６節15工事請負費でございます。5,040万円の内容につきましてお尋ねをいたします。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。歳出81ページ、款３項２目１節７嘱託職員賃金でございます。このたび児童福祉法が改正され、平成29年４月１日より本格的に施行されることになります。改正児童福祉法では児童虐待に関する市町村の体制について明記されておりまして、要保護児童を所管する部局に専門職を置くことが義務づけられたため、専門的な知識及び技術を持つ正規職員に加え、支援を必要とする家庭、児童の養育相談や児童虐待防止の業務に専ら従事をしてもらう有資格の嘱託職員を雇用し、支援の強化を図る予定としております。

それから、81ページの款３項２目１節９特別旅費でございますが、先ほどの嘱託職員のところと同じでございまして、要保護児童に関する業務の強化ということで、要保護児童を所管する部局に配置する職員は改正児童福祉法により厚生労働大臣が定める基準に適合する研修を受けることが義務づけられます。現時点で研修の詳細は決まっておりませんが、東京方面で開催されることを想定しまして、正職、嘱託で２名分の２回分の予算を計上しております。３泊４日で２名分の２回分ということでございます。

議長（山本　雅彦君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）

それでは、失礼いたします。歳出95ページの款４項２目１の塵芥処理費の節13の委託料のうち測量設計等委託料3,350万円につきましては、これは平成30年度に計画しております現在休止しております南部環境美化センターと北部環境美化センターの解体撤去に係る設計等委託料でございます。委託先につきましては、焼却施設の解体撤去に係る専門的な知識を有する設計コンサルタント会社を考えております。

次に、ガラス類処理等委託料3,567万4,000円の内訳でございますが、これはガラス類、蛍光灯、乾電池等の処理委託料と、昨年まで最終処分事業として別途計上していました焼却灰の再資源化委託料を合わせて、本年度より中間処理事業として一括計上させていただいております。委託先につきましては、現在委託しております業者を中心に適正な処理ができる業者への選定を考えております。

次に、ごみ処理設備点検委託料1,587万1,000円についてでございますが、平成26年11月から本格稼働しております美作クリーンセンターも３年目となり、これらの施設を適正に維持管理していくため必要となる脱臭装置の活性炭交換、ガス冷却塔内にたまっているクリンカーの除去、ごみクレーンワイヤーの交換、施設内の大型機械の調整費など、定期的な点検、交換、清掃などと精密機能検査や地下タンクの設備点検など、法的に３年ごとに検査が定められている検査委託料などを計上しております。委託先につきましては、施設の点検、交換、清掃などはクリーンセンター建設のプラントメーカーに委託予定であり、精密機能検査や地下タンク設備点検については専門的な資格を持った業者に委託を予定しております。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼いたします。それでは、私のほうから⑥でございます。

歳出の105ページ、対前年比8,416万3,000円の増の予算ということでございます。こちらは林業振興費でございまして、経済部のほうで実施しております農作物鳥獣害防止対策事業、防護柵の設置事業でございますが、この事業と獣肉処理施設の維持管理費でございます。この２つを28年度当初予算では農業振興費のほうで予算を計上して事業を実施しておりましたが、実際担当課が森林政策課ということでございまして、29年度当初予算では林業振興費のほうに予算を計上させていただいたということでの増でございまして、当然相当分の予算が農業振興費から減額しておるということでございます。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

教育部局としましては、⑦から⑩でお答えさせていただきます。

まず、141ページでございます。款10項３目２節14自動車借り上げ料550万円、前年対比100万円の増と、この内容でございます。従来は県内での学校行事につきましてはスクールバスでの参加としておりましたけれども、岡山市等片道30キロ以上につきましては今度民間バスを借り上げとさせていただきたいということで増額するものでございまして、スクールバスにつきましては現在登下校時に運行しておりますけれども、土曜、日曜日ということで学校行事で遠方に出かけることもございまして、職員の身体の負担の懸念と、それから事故等にもつながりかねないという、この２点のことでスクールバスの運転に専念させるためにも民間バスの活用ということでさせていただきたいということでございます。

また、歳出の145ページでございます。款10項５目１節13の委託料６万4,000円、この中の警備委託料の６万4,000円でございます。先般市長も申し上げましたとおり、平成29年度におきまして巡回ラジオ体操の会場として申し込みをしていましたところ正式に８月19日に美作野球場で開催することが決定しております。そのため、ラジオ体操開催につきましては生ピアノでの演奏が必要になることから、前日にその準備が必要ということで、そのピアノの会場に設置を置く必要がございますので、そのための夜間の警備にこの費用が要るということでございます。

続きまして、同じ項目の委託料でございます。このことにつきましては、小学校４年から日本の伝統文化として俳句や短歌を習い始めまして、小学校６年生の時点では日本の伝統芸能として能や人形浄瑠璃、歌舞伎、落語、狂言などの学習をすることから、教育委員会といたしましては学校で習った知識について本物を体験すると、また実際に結びつける体験の推進ということで、29年度におきまして狂言の鑑賞会を実施していきたいということでございます。なお、次年度におきましても本物体験といたしまして継続することを確認をしておるところでございます。

それから、151ページでございます。款10項５目６節15の工事請負費でございますけれども、このことについては英田の就業センターの施設廃止に伴い、貸し主に返還するのに建物撤去に係る費用でございます。その費用でございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

一通りありがとうございました。

保健福祉の関係で、嘱託職員については263万7,000円ということで、予算規模からして１名の職員を見込んでおられるふうに推察いたしますけども、研修については先ほども部長答弁で２名の職員を考えておるということは正職員の方が１名やはりつくんだろうと思いますが、ここの体制につきまして最終的にどのような人員配置で予定されておるのかをお尋ねをしておきます。

それから、じんかい処理に伴います環境部長のほうからも御答弁をいただきまして、大体理解をさせていただきました。ただ、ごみ処理施設等点検委託料につきましてはいろんな委託項目があるようでございますので、細部にわたりましては委員会のほうでしっかり説明をしていただけたらと思います。

林業振興のほうにつきましては、主なものとしては獣肉加工施設のほうがこの林業振興費のほうへ予算がえになったということだと思います。こちらについては光熱水費等が非常に上がっておりましたので、何が原因だったのかなということでお尋ねをさせていただいたところでございます。

教育委員会の関係では自動車借り上げについては100万円の増ということで、先ほども次長答弁されたとおりにスクールバスの運転手については本来の業務に専念するということでございましょうし、また民間との併用を避けるというようなことだろうと思います。わかりました。

それから、市長が一昨日でしたか、巡回のラジオ体操、美作市に決定したということで、生ピアノ、これの警備のために６万4,000円ということですけど、この集合範囲、会場が美作の野球場でしょうから相当な人数を予定されておると思いますけども、一応集合範囲をどの程度お考えになっとるのかをお尋ねをしておきたいと思います。

あと、講座開設委託料につきましても、伝統教育の一環とすることで、私のほうが懸念しておりましたのは単年で終わるんかなということを非常に心配しておりました。やはり教育は継続、必要でございますので、これは一旦やり出したらよほどのことがない限り継続していただきたいということを希望しておきます。

よろしく、２遍目の答弁をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

支援体制ということでございますが、現在社会福祉課の総合相談係の中に要保護児童である家庭とかひとり親家庭、そういった家庭の支援を行う専門職の職員が１人と、それから家庭相談員及び母子自立支援員を兼務で１人嘱託で採用しております。児童福祉の強化ということでございますので、母子、父子の部分につきましては福祉係のほうの仕事の兼務ということで従来おります職員を１人そちらのほうに回しまして、新たに先ほどの嘱託職員を１名専任で要保護児童家庭への支援の専任ということで当たる業務をさせるように人の配置をしまして、それプラス今おります専門職との２人体制で要保護児童の家庭等への支援を行っていくという体制を考えております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

ラジオ体操の件でございますけれども、やはり市民はもとより市外からも広く呼びかけていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

〔７番萬代師一君「終わります」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番３番、議席番号11番本城宏道議員の発言を許可いたします。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

数が多いんで申しわけないんですが、よろしくお願いします。

まず、31ページですが、款16項の１、目の１、節の１と２に関連するわけですが、この土地の建物貸付収入というのはどこの土地のことか教えていただきたいということと、それから建物賃料というのがあるんですが、これも関連、同じところなのか、それも含めて。

それから、物品貸付収入が7,000万円余り計上されております。これについても説明をお願いしたいと思います。

それから、同じく次のページの32ページですが、款の寄附、１番の項の寄附、目の一般寄附、そして節の関係ですが、ふるさと美作応援寄附金というのが3,000万円予定をされております。これらの関連について説明をお願いをしておきたいと思います。

次に、42ページですが……。

議長（山本　雅彦君）

48ページじゃないですか。

１１番（本城　宏道君）

42ページです。

〔「３番目じゃないん」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

48ページとなっておりますが。

１１番（本城　宏道君）

42ページも出しとりゃへんか。

議長（山本　雅彦君）

ございませんね。

１１番（本城　宏道君）

もとは出しとったんじゃけども、それでは48ページのほうへ行きます。

48ページの２の総務費、１の総務管理費で、これは13の委託料ですけれども、庁舎耐震化基本設計業務委託料というのがございます。これは資産台帳にあるもの以外の、その調査管理の委託料の500万円と、それから庁舎のリース料というのが138万1,000円がございます。それは節の14と、それから節の18の備品購入の1,000万円というのがあるが、これは庁舎用リースとそれから車の購入費1,000万円、これとの関連について説明をお願いしたいと思います。

それから、次には49ページがその車両購入費が関連してくるわけです。

それから、53ページでは旅費の関係です。国際交流費の中にある旅費が普通旅費として175万8,000円組んであるわけですが、この目的地あるいはどういう計画でこのものが組んであるのか、その辺の説明をお願い

したいと思います。

同じく53ページですけれども、情報政策の１番のところですが、ここの広報審査委員会報酬というのがあるわけですが、これは年間で何回ぐらい開かれる予定にしとるんか。５万円でこの報酬審議会は開かれるとするならば１回分ほどしか、５万円じゃ足らんのじゃないかと思うんですが、年間何回ぐらい予定をされておるのか、その辺をちょっとお聞きをしておきたいと思います。

それから、54ページですけれども、これも情報政策の委託料になります。管理支援業務委託料というのが3,700万円余り、この管理支援業務というのはどういう事業の内容をいうのかお聞きをしたいと思いますし、行政情報通信スマホアプリ制作委託料というのもあるんですが、これも新しく聞くような言葉なんで、説明を願いたいと思います。

55ページに行きまして、ここでも同じ節の19負担金補助金及び交付金の中で自治体中間サーバー・プラットフォーム負担金というのがあるわけですが、この内容を教えていただきたいと思います。

56ページに行きまして、同じく交通運行費の中の19の負担金補助金、交付金ですけれども、津山駅北口広場乗り入れ負担金というのがわずかですが３万1,000円組んであります。これはどういう意味なのか教えていただきたいと。

同じく補助金、交付金ですが、タクシー利用補助金というのが1,000万円組んであります。一般質問の中で一部お聞きしたのが交通弱者対策ということでやられておるんだろうと思いますが、具体的にどうしようとしておるのか、その辺についてちょっと御報告を願いたいと思います。

次に59ページ、これは総務管理費の営業活動費の中の19負担金補助金及び交付金の中で看護師等養成学校整備補助金というのが８億2,382万円組んであるわけです。これはそのうち７億8,260万円を地方債で財源をしておるように思うわけですが、この実質的な市の負担金というのはどうなるんだろうかなというのがあるわけです。相手の学校のほうからは、市長のこれは行政報告の中だったと思うんですが、10億円寄附されておると。実質的には２億円ぐらいで済ませたいというようなことがどこかあったと思うんですが、この内容についてお知らせ願いたいと思います。

同じく、節の欄で教育施設等誘致促進事業補助金というのが700万円組まれております。これはどういうところに宛てようとされておるのか、お聞きをしておきたいと。

60ページですが、これも総務管理費の中の13の委託料というところにモニターツアー業務委託料というのがございます。このモニターツアー業務というのはどういうものなのか。そしてまた、海外コンテンツ制作業務委託料というのが200万円組まれておるわけですが、これについてもお聞かせ願いたい。

その61ページへ参りまして、使用料及び賃借料で施設使用料の中で330万円が予算化をされております。また、18の備品購入で1,360万円、19の負担金の中で欧州剣道チームと剣道大会交流事業として243万円が組まれておりますが、それぞれ説明をお願いをいたします。

67ページ、賃金、これは選挙費です。選挙費の関係で66から67にわたるわけですけれども、市長選挙というのがあるんです。ことしは市議会議員の選挙でありながらなぜこの市長選挙も組んであるのか、その説明をお願いをいたします。

それから、80ページで、これは民生費、社会福祉費の19負担金及び補助金というのがございます。その中で人権啓発活動補助金というのが120万円組まれております。前年対比でもう半額になっておるわけですが、これはどういう意図でこういうようになっておるのか、お聞かせ願いたいと思います。

次に、84ページは児童福祉費の需用費、保育所の関係ですけれども、この需用費が5,949万2,000円、これが前年対比で見て793万8,000円少なくなっておるわけです。これは今までの人数と定員が変わらんと思うん

ですが、その減額をしておる理由、その辺をお聞かせ願いたいと思います。

次に、86ページですが、これは民生費、生活保護費の関係で扶助費です。節で同じく20の扶助費、これが４億3,874万3,000円、対前年で1,958万7,000円少なくなっておるわけです。これは年金の減額や、あるいはまたひとり親の増加や貧富の差が激しくなっている中でこの扶助費がこれだけ減額されるというのはどういう見通しでもって減額をされようとしておるのか、この辺についてもお聞きをしておきたいと思います。

次に、133ページでは教育総務費でございまして、節の15工事請負費というのが１億1,330万円組まれております。これはどこをどういうようにやろうとされておるのかお聞きをしておきたいと。

次に、147ページに社会教育費、公民館費というのがあります。その中で工事請負費、節ですが、113万円予算化をされております。この内容を少しお聞きをしたいわけですが、この中には例えば豊野公民館などの改修が含まれておるのかどうか、その辺の説明をあわせてお願いしたいと思います。

次に、156ページですが、教育費の保健体育の関係で節の委託料、ここでは勝田運動公園管理委託料というのが624万7,000円組まれております。この中の委託料の中では飛び抜けて多いわけですが、その辺を説明をお願いしたいと思います。

同じ保健体育のところで15の工事請負費というのがございます。4,040万円、これの工事の内容についてお聞かせ願いたいと思います。

最後に……。

議長（山本　雅彦君）

今どこ言われましたか。

１１番（本城　宏道君）

163ページですが、給与明細というのがございます。本年度とそれから前年度と比較して特別職が900万円増となっておると思うんですが、この前年度と本年度との比較の増の内容について説明をお願いしたいと思います。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

本城議員、157ページのことを質問されましたが、もう一度、ここは通告にございませんが。

１１番（本城　宏道君）

出しとらんか。出しとったんだろうけど。

〔「いや、本城さん〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

御本人の発言を許可いたします。

１１番（本城　宏道君）

なかったら飛ばしてもらやあええです。

議長（山本　雅彦君）

よろしいですか。

１つ飛んでおりますけど、よう確認しといてください。

それでは、答弁から入ります。

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

それでは、まず議員の御質問の31ページ、歳入でございますが、これの①、643万8,000円の部分について

答弁をさせていただきます。これは土地の貸し付けが35件で530万7,000円、建物の貸し付けが６件で113万1,000円を計上しておるものでございますが、主なものといたしまして土地は英田、青野定住促進団地の土地貸付料でございまして、21件分。それから、ヴィラ・バレンタインの駐車場の貸付料がございます。これは駐車場で33区画。それから、あと美作警察署の駐在の関係がございます。その他12件、合わせまして35件でございます。

また、建物の関係でございますが、旧英北給食センター、それから大原木工所、旧福本駐在所、その他３件、合計６件で113万1,000円ということでございます。

続きまして、１つ飛ばしていただきまして48ページの歳出でございますが、庁舎耐震化基本設計業務委託料500万円でございますが、これは本庁舎の耐震化基本設計料500万円の内容についてで、平成23年５月から９月にかけて実施しました本庁舎の耐震診断結果に基づき耐震補強工事の実施に向けた基本設計業務の委託を予定しております。業務内容といたしましては、耐震工事の工法検討等を行う耐震補強計画業務を予定しております。国土交通省の設定に基づき、補強計画ではまず耐震性能として耐震安全性の目標をすることになりますので、本庁舎の目標を設定してまいりたいと考えております。

続きまして、④の庁用車のリース料、それから続きまして⑤の49ページになりますが、車両の購入費ということでどのような車ということでございますが、まずリースのほうでございますが、これは138万1,000円の内容で、現在管財課で管理しております関係のリース５台の継続のリース料ということでございます。内容といたしましては、普通ワゴン車１台、電気自動車１台、軽自動車３台で合わせて５台分ということです。

それから、次の49ページのほうの車両の購入のほうでございますが、1,030万円の内訳といたしましては普通車が１台、これはバンタイプでございます。それから、もう一台はトラックでございます。それから、軽自動車１台は乗用車タイプ、それから３台のワンボックスタイプ、合わせて６台の購入の予定でございます。それで、このリースと購入の関係ということを言われましたけど、補助事業とか補助対象になるものでリースにすることによって補助事業になるようなものはリースで借りていく、計画的に車両を購入していくものは車両の購入というような形でさせていただいております。

続きまして、歳出66ページの⑳番のところになりますが、市長選挙の費用が組まれているがなぜかということでございますが、市長の任期満了は平成30年３月29日でありまして、任期満了30日以内に選挙期日が定められておりますので、29年度内ということで計上をさせていただいております。

それから、163ページの㉘番でございますが、その他の特別職が前年より930万7,000円増額されているのはなぜかというお尋ねですが、これは地域おこし協力隊の人件費によるものでございまして、28年度の当初では20人分を計上しておりましたが、採用時期により４人を１年間、それから残りの16人を６カ月間で計上しておりました。29年度につきましては、人数は３人減って17人ということになるんですが、当初で17人分を１年間で計上しておりまして、採用時期の差によるもので増額となっているものでございます。

総務部のほうからは以上です。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

それでは、私のほうから、まず１点目といたしまして①番の歳入31ページでございます。31ページの目の２、物品貸付収入の7,008万7,000円についての説明でございますが、これにつきましては美作市が構築した光ファイバーをＮＴＴ西日本に貸し付けて、ＮＴＴ西日本が光インターネット、ひかり電話のサービスを行

っております関係上、その使用対価として収入するものでございます。

続きまして、２点目のふるさと美作応援寄附金の3,000万円でございますが、これは前年度よりかなりアップいたしておりますが、ふるさと納税の収入につきましては平成27年度の決算で約700万円、平成28年度の当初予算で800万円としておりましたが、９月補正において前年対比の３倍強となる2,300万円にアップしたところでございます。現在、ほぼ今年度はこの2,300万円、予算額に達する見込みとなっておりまして、来年29年度におきましてはさらに高い目標といたしまして3,000万円の収入見込みとしていたしたところでございます。返礼品につきましては、全国の例から過剰ではないかと、そういったような報道等もなされているところでございますが、美作市におきましては地元産品の広告宣伝を図ると、そういった目的におきまして市内に本社または営業所を有する法人または個人の方から地域生産品、それから販売をされているものを地元の特産品として取り扱うということにしております。生産者の方々の御協力をいただきながら新たな返礼品の開発に力を入れて目標達成に向けて頑張っていきたいというふうに考えておるところでございます。

続きまして、⑥番、歳出、53ページでございます。款２項１目10節９の普通旅費の175万8,000円の目的地、それから目的人数という御質問でございますが、この旅費につきましては昨年12月にベトナム国を相手国とする2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして登録をされたことを受けまして、より一層友好な関係を築くためということで取り組む予算でございます。主なものといたしましては、堺市にある在大阪ベトナム総領事との意見交換などに２名を派遣するものと、それからまたベトナムの政府等との意見交換、そういったことを行うためにベトナム本国へ出張する経費ということで計上させていただいております。

次に、同じく53ページの款２項１目11節１の広報審査会の委員報酬５万円でございますが、何回開催するのかという御質問でございますが、今現在では１年に１回は必ず開催をしたいというように考えておりまして、そのほかにつきましては必要に応じて開催をしたいということで、予算上は２回の開催をさせていただくということで予算を計上させていただいておるところでございます。

それから、続きまして⑧番、54ページで款２項１目11の管理支援業務委託料でございますが、これにつきましては美作市が光ファイバー網を整備し、告知放送やケーブルテレビ事業を行っておりますが、これらの加入脱退、それから機器の修繕など、多くの維持管理業務を美作市情報化管理支援業務として委託をするものでございます。

続きまして、⑨番、54ページ、款２項１目11の行政情報配信スマートアプリの制作委託料でございますが、これにつきましては現在緊急放送、それから行政情報などのメール利用について個人の携帯端末による配信の準備を進めているところでございます。利用者のさらなる利便性を図るため、スマートフォンをお持ちの方のみの対象とはなりますが、メールを開くことなくその内容が確認できるよう専用のアプリケーションの導入を検討させていただく経費でございます。

続きまして、55ページ、款２項１目11節19の自治体中間サーバー・プラットフォーム負担金でございますが、これにつきましてはマイナンバーを管理する政府のサーバーへ接続するには全国で２カ所に設置された強固な接続拠点を経由して接続することになっております。この２カ所の接続拠点が中間サーバー・プラットフォームと呼ばれているものでございまして、全国の自治体で応分の負担をして運用を行っているところでございます。そのうちの美作市の負担金をここに計上させていただいているものでございます。

続きまして、⑬番、59ページ、款２項１目37節19看護師等養成学校整備費補助金の８億2,383万2,000円でございます。これにつきましては、大阪滋慶学園が整備する美作市スポーツ医療看護専門学校の校舎建設に

対して補助するものでございます。工事費として８億9,964万円、設計監理費といたしまして2,419万2,000円、合計で９億2,383万2,000円となっておりますが、このうち今年度において１億円を交付することとしておりますので、29年度の当初予算といたしましてはこの１億円を引いた８億2,383万2,000円を予算計上させていただいているところです。この額につきまして、95％を合併特例債ということで７億8,260万円を合併特例債として計上させていただいておりまして、実際の市の負担といたしましてはこの合併特例債の元利償還金の７割が国のほうから補填されるということで、このうちの３割程度が当市の負担になるというふうに考えているところでございます。

それから、続きまして59ページ、款２項１目37教育施設等誘致促進事業補助金でございますが、この補助金の補助金先につきましては、これはＮＯＤＡレーシングアカデミーということでさせていただいております。補助金の額につきましては、生徒数が当市が期待しているほど確保されていないということから、ＮＯＤＡレーシングアカデミーというふうにしているところでございます。

それから、少し飛びますが、27、156ページ、款10項６目２節13の勝田運動公園の管理委託料でございます。

これにつきまして、他の委託料として特別に突出しているということでございますが、これにつきましては運動公園の管理、芝生の管理に加えまして、公園内にある２カ所のトイレの清掃とトイレの周辺の草刈り、それから公園にあります遊具の点検、そういったものも含まれていることから、他のところより額がふえているということでございます。

私のほうからは以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

総合戦略監。

総合戦略監（森分　幸雄君）

御質問の⑮から⑲までは予算書の60ページから61ページに記載されておりますけれども、款２項１目38のみまさか創生費に係るものでございます。みまさか創生費は国の地方創生推進交付金を活用する事業でございまして、平成28年度から３年計画で実施することとしておりまして、平成29年度は２年目ということになってございます。

それでは、⑮から順次お答えをさせていただきます。

60ページの⑮、モニターツアー業務委託料300万円についてでございますが、これはスポーツツーリズムを推進するということで、台湾などから訪日外国人観光客の誘客を目指し、モニターツアーを行うためのものでございます。

続きまして、⑯ですけども、海外コンテンツ制作業務委託料200万円についてですが、同じくスポーツツーリズムの推進といたしまして海外のテレビなどで観光ＰＲを行うための放送番組、放送コンテンツを作成し、現地で放送することにより訪日外国人観光客の誘客を目指すものでございます。

続きまして、⑰でございますが、これ61ページにございますけれども、施設使用料330万6,000円の内容についてでございますが、これは中身は２つございまして、１つは自衛隊体育学校の女子７人制ラグビーなどの合宿に係る施設使用料、もう一つが日本体育大学と連携した健康体操普及に係る施設使用料を考えているところでございます。

⑱の備品購入費1,360万円についてでございますけれども、備品の購入でございますけれども、まず高齢者のフィットネスサービスということを推進するということで、健康寿命延伸のために高齢者が運動を取り組むきっかけづくりや運動習慣の定着を推進することを目的としましてフィットネス関連器具の購入をする

ものです。それから、農業基盤の強靭化を図るために農業用の機械を購入するものでございます。さらにジビエの関連としまして、ジビエの販路促進用機材や労力の軽減に資するもの、また食肉となる優良個体を確保するための通信技術を活用した捕獲機材を購入すると、そういうものを合わせまして1,360万円を計上させていただいているところでございます。

最後に、⑲番、欧州剣道チーム等剣道大会交流事業補助金243万円についてでございますが、これは全国から女性剣士が集まり、近年は外国人女性剣士も参加が見られておりますお通杯の国際化を図るため、外国人参加チームに対して補助を行うものでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、市民部の所管としまして、56ページをおあけいただきたいと思います。

11番でございます。津山駅北口広場乗り入れ負担金３万1,000円の説明ということでございます。

現在運行しております市営バスのうち、勝田バスは津山駅前へ乗り入れしておりますが、津山駅前の整備に伴い平成29年４月より現在乗り入れております津山広域バスセンター、道の北側でございますが、そこからＪＲ津山駅北口広場、道の南側のほうに発着場所が移動することになります。その乗り入れ料として１回の発着に当たり100円が新たに必要となりますので、勝田バスの場合、年間310回の発着を計画しておりますことから、100円掛ける310回で３万1,000円を計上させていただいているものでございます。

続きまして、12番でございますが、56ページのタクシー利用補助金1,000万円についてでございます。この補助金につきましては、平成29年度に実施予定をいたしておりますタクシーを利用した公共交通の実証実験に係る補助金であります。今考えている制度の内容でございますけれども、通院や買い物にタクシーを利用された場合、そのタクシー料金の一部を市が負担するというものであります。利用された方は市が負担する金額を差し引いた残りの額を利用時にタクシーに支払っていただくような制度を考えております。タクシーチケット制度とは異なり、利用者は事前登録制としまして、市が発行しました利用者証を利用時にタクシーへ提示することで料金の割引を受けることができるような利用しやすい制度を現在検討しております。なお、実証実験を行わせていただく地域あるいは対象者、市の負担割合等については今後早急に決定させていただく予定にしております。

それから、今度80ページでございます。㉑の人権啓発活動補助金120万円でございますが、議員がおっしゃられました昨年から半減しているんではないかということでございますが、これは現行の美作市人権啓発等事業補助金交付要綱が３年間の時限立法でございまして、これが今年度をもって失効することから新たな人権施策の一つとして制度を設けるものでございます。内容としましては、人権意識の高揚を図ることを目的とした啓発活動を行う団体等に対しまして50万円を上限として対象経費の３分の２を補助するというものでございます。解決すべき人権課題は女性、子ども、高齢者、障がいのある方、同和問題、外国人、ハンセン病患者等、広範多岐にわたってきております。また、社会情勢の変化や高齢化、過疎化などを背景にますます複雑化、多様化してきており、これらの課題を改善、解決するためには市民の皆様お一人お一人が人権課題を認識され、主体的に取り組んでくださることが重要かつ必要であることから、引き続き市民の皆様の主体的な取り組みを支援することによって人権意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。補助金の交付額につきましては、執行率が240万円でしたが、執行率は６割弱となっておりましたので、120万円を29年度に予算計上させていただいております。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

86ページ、款３項３目２節20生活扶助費でございます。マイナスの1,958万7,000円となるがということですが、生活保護世帯数、人員につきましては平成24年度をピークに減少しております。平成29年度の当初予算においては予算編成時、平成28年11月から12月の保護世帯数のおおむね10％増の182世帯を基礎として積算を行っております。今回、午前中に御説明をさせていただきましたが、28年度の補正予算（第６号）の補正後の総額４億2,203万円と比べると1,671万3,000円の増額となっておりますので、適正な予算編成であると考えております。

議長（山本　雅彦君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

まず、㉒でございます。歳出の84ページ、款３項２目４節11需用費の中の賄材料費5,949万2,000円でございます。昨年比793万8,000円となっている理由でございますけれども、本年の12月議会の定例会におきましても賄材料費につきましては減額補正をさせていただいております。保育園の土曜日の保育につきましては、〔聴取不能〕数が平日の約６割ということになっておりますので、マイナス予算ということになっておるところでございます。

続きまして、24、歳出の133ページでございます。款10項１目２節15の工事請負費の内容でございます。

主なものといたしましては、小学校、中学校の特別支援室のエアコンの設置工事、また美作幼児園、今建てておりますけれども、今現時点の美作幼児園の解体工事ということを予定しております。

この主な内容は以上でございます。

続きまして、㉖でございます。歳出の147ページ、款10項５目２節15工事請負費の110万円でございます。これは行政懇談会等で地元要望がございました楢原上の〔聴取不能〕のエアコン設置工事に係る費用でございます。議員の豊野公民館の取りかえ工事はここには含まれておりません。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

一通り終わりました。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

一通りお伺いをいたしました。

それで、それぞれコメントすることはできませんが、55ページのところで総務管理費の住居の負担金及び交付金の自治体間サーバー・プラットフォーム負担金というのが、これが個人情報やそういうものだということを今答弁されておるわけですが、補正予算のところでちょっと触れましたが、個人情報のカードを発行しておるのは１割にも満たないような、そういう数字になっておるわけです。それで、そういう中でこういうのをやっていくというのが効果があるんだろうかなというような、そういう気がするわけです。これは全国的な中で決められてやらなんだらできんから、それぞれの負担金が来とんかもしれませんけど、非常に疑問に思う負担金だなというように思います。

それから、選挙の関係で答弁を聞きましたが、議員は任期が４月23日までだったと思うんです。それで４

月23日まで任期があるにもかかわらず４月16日投票で市会議員の選挙が行われます。一方、市長選挙は、市長は４月27日までが任期ではないかと思うんですが、これは間違いだったら間違いと言うてもらやえんですが、27日までだったら議会と同じように来年度予算で組んでもええんじゃないかなと、こういう気がしたもんですからちょっと質問をいたしております。その辺をちょっともう一遍説明をお願いしたい。

それから、80ページの人権啓発の関係ですが、いろいろ説明をされましたけれども、これらの人権団体などにこういうことで来年はいきますよということが前もって言われておるのかどうか。もう既に新年度の行事計画などを組んで発足して活動しよるわけですから、突然こういう減額のことがあったら対応する団体が困られりゃせんだろうかなという気がしますので、その辺をひとつ聞いておきたいと思います。

それから、147ページの公民館の関係については、豊野は含まれとらんということですが、豊野公民館も小会議室が電気が非常に暗いわけです。外から入ったらなして暗いところならというような、そういう感じがするんですが、それじゃとか、それから年寄りが集まることがあるんですが、そういうところに洋式便所が一切ないわけです。そういうものも考えていただきたいなというのが……。

議長（山本　雅彦君）

本城議員、議案質疑から少し外れておりますので、修正してください。

修正をしてください。

１１番（本城　宏道君）

何を。

議長（山本　雅彦君）

今の議案質疑ですから、予算の議案質疑ですから。

１１番（本城　宏道君）

せじゃけん、このものの中へ含まれておる……。

議長（山本　雅彦君）

それは一般質問化しております。

１１番（本城　宏道君）

そういうことです。ぜひ見て回らにゃいけん、現場を。あっこは不在なんで、そういうことを言っておきたいと思います。

とりあえず２回目の質問、そういうことです。

議長（山本　雅彦君）

休憩しましょうか。

それじゃ、ただいまから10分間休憩します。

午後２時28分　休憩

午後２時38分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

皆様に申し上げますが、あくまでもこれは議案質疑、予算の関係の議案質疑でございますので、質問並びに答弁におきましても一般質問化しないようによろしくお願いいたします。再度申し上げておきます。

それでは、本城議員の答弁から始めます。再開いたします。

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

市長選挙の費用が含まれておるかということで２回目の御質問でございますが、平成26年２月10日に道上前市長から退職願が提出されまして……

〔「〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

３月30日を選挙日として執行するということでございます。

議長（山本　雅彦君）

次、企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

先ほどの中間サーバーのプラットフォームでございますが、これはカードの発行とは全く関係のない案件でございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

次、市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、先ほどの補助金が団体に承知しているのかという御質問でございますが、人権啓発活動補助金につきましては３年の時限立法といたしておりまして、この成立のときを含め、現在交付しております３団体につきましてはこの説明をいたしております。なお、詳細につきましては、まだでございます。今後すぐ説明には参りたいと思っております。

議長（山本　雅彦君）

以上でございます。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

市長の最終的な任期は何日になっとんですか。それだけ聞かせてください。

議長（山本　雅彦君）

予算審議でございますので、市長の任期は余り関係ございませんけれども……

〔11番本城宏道君「関係があるがな。市長の予算に入っとるけん、それとの関連で」と呼ぶ〕

それじゃ、答弁。

任期の日にちだけちょっと答弁してください。

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

市長の任期満了は平成30年３月29日でございます。

１１番（本城　宏道君）

了解しました。

まだ聞きたいことがぎょうさんあるんですが、それぞれの委員会で十分審議していただきますようにお願いしまして、私の質問を終わります。

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番４番、議席番号13番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

本城議員とかぶるものがたくさんあると思いますけれども、復習の意味でよう聞いていただきたいと思います。

議案第33号、15ページ、歳入、市民税の個人分、法人税の1,272万8,000円、これ減額されておりますけど、この説明です。

それと、17ページの10の１の１、地方交付税５億6,000万円、これ減額されとる。この地方税が減額されとる、この説明。減額されたらしわ寄せはどこへ持っていくんじゃろうかな思うて、５億6,000万円の。そのくらいのことぐらいは予算についてじゃけ、一般質問化じゃない。はっきりこれ議論せにゃいけん問題じゃから、大事な問題。これを説明してください。

それから、47ページの款１項１、５、13、委託料で清掃委託料1,045万7,000円ありますけれども、これやっぱりどんなんかな。入札はされよんかなこれ、1,000万円から上のやつ。どこどこなんか、何カ所ぐらいなんか、それについての説明を、箇所についての説明をちょっと教えてください。

それから、48ページ、２の１の５の13、庁舎耐震化基本設計業務委託料の500万円、これ今ごろ何でこんなところに出たんじゃろうか思うて。副市長、おい、ちょっと聞け、おめえ。この議会でこの辺が全部水没しますよというて、あんた紙配って、ほいじゃからここはここへ庁舎建てても機能せんのんじゃ機能せんのんじゃというて、そういうなやつをきちっと市民にここで説明してからでなかったらこの予算計上されんのんよ、こんなところへ。その辺のところの説明を、この500万円、きちっとしていただきたいと思います。耐震だけでもつんかということを踏まえて。

それと、56ページの２の１の12の19、タクシー利用補助金、これ何人ぐらいが利用されるんかなという、そのことについての御説明。

それから、59ページの２の１の37の19、先ほど企画部長がちゃっと口をつむらせましたけど、貝になりましたけども、教育施設誘致促進事業補助金、これ1,000万円が700万円になっとる。これＮＯＤＡレーシングのやつ、生徒が少のうなってから言い出してからぱちゃっととまったんじゃな。やっぱり努力してくれないけんがな。去年より少のうなるようなこっちゃいけんがな、これ生徒が。あんた方の姿勢を問われとん、この間わしが一般質問でしたばっかしじゃがな、これ。そうでしょうがな。営業努力があんたらは無責任過ぎる、あんたらは皆。そういうこと。

それと、60ページの２の１の38の13、農作物栄養成分分析委託料300万円、これ栄養分析するなあよろしいがな。ブランドつくるの、それでよろしいがな。じゃけども、去年もこういうふうな形の中で予算出とんじゃな。予算化しとんじゃな。ほいで、皆さんに美作市でつくった作物が全国に向けて物すごうブランド化の発信をせないけんがな、これ。ここへばあ数字を書いて金だけ使うて、何のために目的がはっきりせんのんよ、あんたらのやつは。根が張っとらんのよ。すぐ立ち枯れしてしまうんじゃ。こういうようなことはやめていただきたい。

それと、次の健康調査委託料の90万円、それから新たな魅力の発掘事業委託料50万円、これはえらい少ねえな。

それから、創業支援セミナー委託料101万円。

みまさか創生費です。60ページの２の１の38の13、移住定住促進ＰＲ動画出演委託料54万円、この中身。

それから、ＰＲ広報動画制作農業編、林業編委託料300万円。効果があったらええけどな。

それから、次にインバウンド観光物産出品業務委託料、これ345万円。同じようなことをよう数字だけは出てきとるけど、大きな金が計上されておりますけども、公有地調査研究委託料105万円、相談会・セミナ

一等講師派遣料委託料30万円、移住定住者動画制作委託料49万7,000円、それからモニターツアー業務委託料300万円、交流試合委託料、これが100万円、それから海外コンテンツ制作業務委託料が200万円。

サッカー等スクールスタートアップ支援事業補助金というやつが、これが300万円だったんか。

美作市観光振興協議会補助金が162万円。

地方活力創生事業補助金、これが702万円。

女子７人制ラグビー祭事業補助金が350万円。

それから、生産基盤の強靭化事業補助金が1,210万円。中小企業支援事業補助金が301万円。

農産物販路拡大推進委員会の補助金138万3,000円。それから、欧州剣道チーム等剣道大会交流事業補助金、これが243万円。

それから、154ページ、10の６の１の19、健康体育の総務費負担金補助金及び交付金。岡山湯郷Ｂｅｌｌｅ支援金補助金3,200万円。これ去年のやつが1,500万円あった思うんじゃけど、これちょっと、スポンサーが今までは１部のときにはたくさんおった思う。今度２部になったら恐らく落ちたというて言うたらスポンサーやめるものがおりゃへんか思うん。そうなったらことしが一番角番じゃから、こういうようなときをみからえた、今言ようるこの3,200万円で十分なんか、まだ補助せにゃいけんのんか。その辺のところ十分議論した上で3,200万円であるというて言うんだったらそりゃよろしいけども、その辺のところも含めての説明をお願いしたいと思います。

それから、体育施設委託料について、10の６の２の13、東粟倉グラウンド管理委託料34万円、美作ラグビー・サッカー場、美作野球場等管理委託料が2,172万6,000円、ウオータースライダー点検委託料が13万5,000円、学校体育施設管理委託料が13万円、大芦高原体育施設管理委託料が52万5,000円、勝田運動公園管理委託料が624万7,000円、大原グラウンド管理委託料が55万1,000円、大原運動公園管理委託料が49万7,000円、大原ゲートボール場管理委託料が18万円、機械設備保守委託料が120万円、庭園管理委託料が504万9,000円。これについて、委託料の関係についてはどのような形の中でこういうようなばらばらなような、誰が見てもちょっとおかしいなというような、これ前から言よんじゃけども、一つも直そうとしない。何を根拠にこういうような試算された、試算根拠だけちょっと言うてください。

議長（山本　雅彦君）

答弁どこから行きますか。

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、岩江議員御質問のまず①の歳入、15ページの市民税でございます。

当初予算を９億6,788万4,000円とさせていただいておりまして、これは前年度に比べて1,272万8,000円の減でございます。主な原因としましては、個人市民税につきましては15歳から64歳の就労人口の減少がございます。また、滞納分が減っておりまして、この滞納分全体が減っているので、それについての歳入も減っております。また、法人税でございますが、法人税におきましては一番大きなものはやはり法人税の引き下げの影響でございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

総務部長。

総務部長（山本　直人君）

まず、17ページの地方交付税の減の５億6,000万円についてでございますが、この内容ということでござ

いますが、御存じのことと思いますが、合併特例加算措置の段階的縮減というのが３割から５割に、29年度５割減になるということで、約２億3,000万円減っていきます。それから、歳出において公債費が２億4,600万円減少しており、市債の元利償還金に係る地方交付税の歳入が約２億円減少してきます。その他、国勢調査が行われて、65歳以上の人口及び75歳以上の国勢調査の人口の数値を置きかえによるものによることの減少、それから生活保護費の減少などがあり、約１億3,000万円ということで、全体で５億6,000万円の減になっとるということで、議員がおっしゃられました、これがどこにしわ寄せが行っとんかということでございますが、当初予算書のほうの13ページと14ページが歳入と歳出になっておりまして、ここの中にも地方交付税が５億6,000万円の減ということでございますが、予算全体として合計でいいますと14億円余り前年よりふえる予算になっております。そこを見ていただきますと、ふえた部分がそのまま市債というところで15億円ふえておるような格好になっております。細かくこれがどこどこにしわ寄せが行ったかというようなことはなかなか、それぞれ多岐にわたっておりますから説明がしにくいんですけど、款の項目でいきますとここへプラス・マイナスそれぞれ比較ができると思います。

それから、次の清掃委託料で何カ所あるんかということでございますが、これは本庁、市民センター、作東総合支所、勝田総合支所、大原総合支所、武蔵交流館、東粟倉総合支所、英田総合支所で全部で８カ所で契約をしておるものでございます。それが1,045万7,000円ということでございます。

それから、次の48ページの庁舎の耐震化の基本業務の委託料でございますが、これは先ほど本城議員のところでも説明をさせていただきましたが、前回の耐震の診断の結果に基づき、今度耐震工事の工法の検討を行うということの業務委託の業務計画のものでございます。どの程度の安全性を持てばいいのか、国土交通省の設定に基づき、この庁舎の耐震性を安全性を確保するために目標を定める、そういう基本設計というものの500万円でございます。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

失礼いたします。企画振興部のほうから、まず６番目、59ページでございます。款２項１目37節19教育施設等誘致促進補助金でございます。700万円についてでございますが、これについては先ほども答弁させていただきましたが、ＮＯＤＡレーシングアカデミーというほうへ補助させていただくものでございまして、経営の努力をさらに促すと、そういった意味を込めまして700万円というふうにさせていただいたところでございます。

続きまして、少し飛びますが154ページ、款10項６目１、19、岡山湯郷Ｂｅｌｌｅの支援の補助金3,200万円についてでございますが、これにつきましては今年度の1,600万円に加えまして、新たに監督の補助金とそれからＶ字回復ということで1,000万円をプラスしたということで3,200万円の予算を計上をさせていただいているところでございます。

それから、㉙番の56ページ……

〔13番岩江正行君「ちょっと議長、根拠だけ言うてくれなんだら、一般、討論みたいに、一般質問みたいに言うな言うなというて言うたって、わしが言うとるわけじゃ、その根拠を言うてくれえ言ようる。これ3,200万円にした根拠だけを、ここで新しゅうこの予算計上した根拠を言いなさいよと言うん。十分だったんか十分でなかったんか、予算が。ことしはスポンサーがもっとたくさん

ついたんか、去年よりかどのくらい違うたんな。１部から２部に落ちたらどんだけ減ったんなということを言うたがな。それに基づいての予算組みしたんかというて言よんじゃが。鉛筆転がして書いたんか言よんじゃがな、この数字を。何を言よんなもうほんまに」と呼ぶ〕

この予算につきましては、今年度の1,600万円につきましては岡山県から300万円を、それから市から1,300万円含めて1,600万円なんですが、これプラス監督の人件費等につきまして600万円、それからＶ字回復として1,000万円を追加したところでございます。

議長（山本　雅彦君）

じゃ、次を言ってください。

企画振興部長（池田　義和君）

それから、29番の歳出、156ページ、款10項６目２節13の東粟倉グラウンドの委託料から、続きまして39番の庭園管理委託料、これについての積算ということでございますが、これについては今年度の実績等、そういったものを勘案して予算計上させていただいているところです。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

29から39まで。

企画振興部長（池田　義和君）

そうです。

議長（山本　雅彦君）

29から39までは27年度の実績に基づいて計上しとるということです。

〔13番岩江正行君「議長、日本語が通じようらんのんじゃ。毎年言うることじゃから、ここが飛び抜けて多いし、少ないところはもう物すごう少ないし、試算するのにどういうような試算方法でされよんですかということを問うとるわけじゃ、ここへこんだけの数字が出とるけども」と呼ぶ〕

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

それでは、まず156ページの款10項６目２節13の東粟倉グラウンドについてでございますが、これはこぶしの里のグラウンドと及びテニスコートの草刈りの作業でございまして……

〔13番岩江正行君「そがなことはわかっとんじゃ、皆。今全部ひっくるめて言うてくれたらええんじゃ、これ。全部ひっくるめて言うてくれたらええんじゃけども、これをここへ数字上げた一つの根拠はどういうような試算根拠で上げたんならというて言ようるわけじゃがな。面積で上げたんか、立木で計算したんか、そういうことを言よんじゃがな」と呼ぶ〕

それはそれぞれ面積、面積で計算したものもございますし、管理する中に木とかが入っとる場合は立木の本数、そういったあたりも勘案して決定をしているところでございます。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

次、答弁。

総合戦略監。

総合戦略監（森分　幸雄君）

失礼いたします。私のほうから⑦の農作物栄養成分分析委託料から㉗までがみまさか創生費に係ることでございますので、これについての御説明をさせていただきます。

積算の根拠でございますけども、これは先ほどの本城議員でも〔聴取不能〕申し上げましたが、みまさか創生費は３年間の計画でもって国のほうに地方創生交付金を使うということでヒアリングを受けておりまして、ことしの執行状況を見た上で、より効果的になるようなものを、特にことし非常に市民とか企業の方に評判のよかったものは手厚くして、さらにステップアップをしていくということで、３年ごとでステップアップをしていくという形でそれぞれ組んでございますので、そのように御理解いただければと思います。

それでは、内容について簡単に御説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

⑦農作物栄養成分分析委託料300万円についてでございますが、これはこれまでも行っている農作物の栄養成分分析を引き続き実施していくものでございます。

続きまして、⑧の健康調査・検査委託料90万円についてでございますが、これは昨年10月に立ち上げました美作市ヘルスケア産業推進調査検討委員会における議論の中で一環で出てきたものでございまして、次年度は２つの調査、市民の食の実態調査ともち麦の健康効果を検証するための調査を行う予定にしております。

⑨新たな魅力の発掘事業委託料50万円についてですが、これは異業種交流による新たな観光資源の開拓を目的として、農林業に埋もれている魅力を観光との融合により新しく観光資源として発掘しようとするものでございます。

⑩の創業支援セミナー委託料101万円についてですが、これは創業、第二創業を支援するための創業支援事業として年４回の講座、セミナーを計画しているものでございます。

⑪の移住定住促進ＰＲ動画出演委託料54万円につきましては、これは移住定住フェア等で活用しております美作市にゆかりのある俳優を使ったＰＲ動画、ことしも「まさか、みまさか」シリーズ６本やりましたけども、非常に好評だったので、それについての出演を委託するものでございます。

⑫ホームページ広報動画制作農業編、林業編委託料300万円についてでございますが、これは農作物栄養成分分析事業など、美作市の取り組んでいる農業政策や各農家の農作業等の様子を動画にしてホームページで広く情報発信することを考えているものでございます。

⑬インバウンド観光物産展出展業務委託料345万円についてでございますが、これは海外で開催される大規模観光物産展への出展を行うためのものでございます。

⑭公有地調査研究委託料105万円についてでございますが、これは美作市内に点在する市有地で活用できていない土地について、民間活力の導入等による活用方法を模索するため調査委託を行うものでございます。

⑮相談会・セミナー等講師派遣委託料30万円についてでございますが、これは今大原で建設中の大阪滋慶学園の専門学校及び通信制高校の開設に伴うことで、美作市内の地域の飲食店や賃貸アパート等の新規出店のための投資相談会を開催することとしておりまして、その講師派遣の費用でございます。

⑯は移住定住者動画制作委託料49万7,000円についてでございますが、移住定住者による体験談の動画を新たに制作し、移住定住のための特設ホームページに掲載するものでございます。今もう既に移住定住者10世帯による体験談を掲載しておりまして、その内容の充実を行うものでございます。

⑰モニターツアー業務委託料300万円についてでございますが、これは本城議員のときに御説明させていただきましたが、台湾などから訪日外国人観光客の誘客を目指してモニターツアーを行うためのものです。

⑱交流試合委託料100万円についてでございますが、これはベトナムの女子サッカーチームとの交流試合を市内で行うために委託するものでございまして、ベトナムチームほかにそのほか２つのチームを招集する予定で今進めております。

⑲海外コンテンツ制作業務委託料200万円についてでございますが、これも本城議員のときに御説明させていただきましたが、海外のテレビなどで観光ＰＲを行うための放送番組を作成し、現地で放映することによって訪日外国人観光客の誘客を目指すものでございます。

続きまして、次から61ページになりますけれども、⑳サッカー等スクールスタートアップ支援事業補助金300万円についてでございますが、これはサッカースクールのスタートアップ支援として300万円を上限として助成をするものでございます。

㉑美作市観光振興協議会補助金162万円についてでございますが、これは美作市観光振興協議会の組織の再編と活性化を加速させるためのものでございます。

㉒地域活力創生事業補助金702万円についてでございますが、これは市内事業所の起業、創業、新事業活動などの支援を目的としたものでございまして、平成27年度より市費で取り組んでございまして、平成27年度には10店舗の支援をさせていただきました。そして、平成28年度は今年度は15店舗の補助金を交付しておりまして、引き続き実施したいと思っております。

㉓女子７人制ラグビー祭事業補助金350万円についてですが、これは昨年に引き続きまして７人制の女子ラグビー交流会を開催するための費用でございます。

㉔生産基盤の強靱化事業補助金1,210万円についてでございますが、これは農業経営を行う上で農業機械の導入や施設整備に要する費用が認定農業者など担い手と呼ばれる農家の大きな負担となってございます。このことから新たな機械整備等への助成制度を創設しまして、幅広く整備要望に対応することを考えているものでございます。

㉕中小企業支援事業補助金301万円についてでございますが、これは市内事業所の事業拡充に対してソフト面からの支援やニッチトップ企業等の技術の見える化等の支援を目的としておりまして、28年度より取り組んでいる事業でございまして、今年度は４店舗に補助金を交付させていただいております。

㉖農作物販路拡大推進会議補助金138万3,000円についてでございますが、これは農作物の販路拡大を目的とした販路開拓会議を設置し、商談会等に参加し、農家が直接バイヤーへの売り込みを行うための商談等に必要となる展示ブース等の使用料や参加者の旅費等を助成するものでございます。

㉗欧州剣道チーム等剣道大会交流事業費補助金243万円につきましては、これも本城議員のときに御説明させていただきましたが、お通杯における国際化を図るための外国人参加チームに対して補助を行うものでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

市民部長、タクシー利用補助金の人数。わかる。

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

この事業につきましては、1,000万円というのはざっくりした額でございます。１万円で650人程度を交通空白地から登録される方を勘案して出しております。

議長（山本　雅彦君）

一通り終わりました。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

ちょっと前後するけど、大切な問題ちょっと言うとくけども、岡山の湯郷Ｂｅｌｌｅの問題やこうよくわかっとらん。今までは１部におったというときにはたくさんのスポンサーがおった思うんじゃ。２部に落ちたというたら減っとりゃへんかということを言よんよ。減りょうりゃへんかというて。ほいで、ことしは角番じゃということをわしは一般質問でも言うた、前もここで言うたはずなんよ。ことしは角番でというて、相撲でいうたら角番ですよというて、ことしよう上がらなんだら来年は難しゅうなりますよという話をしとんじゃ、ここで。美作市挙げて応援せにゃいけんのに、こんだけの予算で金が多いけん少ないけんじゃなしに、こんだけの補助金で十分ですかというて言よんじゃ。何を根拠にこの試算したんなら言うんじゃ。あんたらつまみ〔聴取不能〕でも一緒じゃがな、ぴゅっとこうして、つまみで。葬式から帰ってから塩でぱぱっと清みょんと一緒じゃ、あんたらやっとんのは。そんな問題じゃないでしょうがな。予算審議しょんじゃから。誰のための、市民のための予算を、暮らしを豊かにするまちづくりするための予算をここで議論しょんだったら、その辺の話の辺のところ、ちょっとようわかるように説明してくれなんだらわし困るんじゃ、ほんまに、あんたらと話ししょうったら。一般質問化すなすな言うたってするようになるんじゃ、これ。何も難しいことを言いたいことはない。

それから、やっぱり農業の問題も趣味の会と違うんじゃから、戦略監、300万円、300万円、300万円というてばらばらにしとるけど、一つに固めたら同じようなもんじゃ。行き着くところは一緒じゃ。それをやっぱりこれをすることによってこう去年よりかは変わってきたがというような、ほじゃからことしもこんだけの予算を組ませていただきましたという、それがあんたらにこんだけおるけど何で出んのんな、それが。その説明聞きたいんじゃ。余り多いけん少ないけんという問題じゃないんじゃ。

終わります。後で委員会で十分議論してください。

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番５番、議席番号４番安本博則議員の発言を許可します。

安本議員。

４番（安本　博則君）〔質問席〕

歳入の37ページの木材販売収入190万6,000円、歳出の106ページの更新伐委託料の2,616万8,000円、同じく歳出の木材販売負担金95万4,000円、これは萬代議員の105ページの質問とも何ぼか絡むけど、僕は節の部分でお尋ねします。

この間も一般質問したんですけど、その中で今年度は２回されて1,100万円ほどされとんですけど、トータルで。今回2,600万円、2.3、４倍の中で木材販売収入がそれにすれば金額的に少ないんじゃけど、どれぐらいの面積、５ヘクタール以上７ヘクとかという話があるんだけど、どういうような面積を想定しての木材販売収入なのか、それの２分の１だから、２分の１というて1,000円ほど違うけど、２分の１を還元するというか、出すというようになっとんじゃけど、幾らの面積を想定して2.3倍、４倍ぐらいになって、その中に木材販売が少ないんだけど、今年度の２回の入札に比べたらその辺はどのような計算をされとんですか。

議長（山本　雅彦君）

一括しての質問でよろしいね、全部ね。

答弁ね。

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼いたします。安本議員の御質問の歳入の木材販売収入、それから歳出の更新伐委託料、それから同じく歳出の木材販売負担金、この３点が一括して更新伐事業の関係になってございます。29年度は平田地区と朽木地区、平福地区の計10ヘクタールで更新伐事業を予定しております。その10ヘクタールについての事業費プラス楢原下地区で人工林の伐採のほうを４ヘクタール予定をしております。その全ての合計の費用として事業費が2,616万8,000円でございます。

木材の販売につきましては、この最初に申しました10ヘクタール部分を基本として、そちらのトン数でございますが、1,160トンほどを見込んでおります。それに対する単価、大体１トン当たり4,000円程度と予定はしておるんですが、それに掛けた金額から搬出の手数料等を差し引いた収入として190万円という数字を上げさせていただいております。それの２分の１がおっしゃるように地元への還元ということで、所有者への部分が２分の１の95万4,000円を予算計上とさせていただいております。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

先ほど平田、朽木、平福で10ヘクタールほど、それから楢原下言うたんかな、人工林の伐採。人工林の伐採は更新伐になるんかな。ちょっと僕そこら辺勉強不足なんじゃけど。それでここに上げていいもんか。植林いうこっちゃろ、人工林、そうじゃねえ。自然林じゃないんじゃけん。その辺、要するに人工林の伐採入るか入らんのかと、それとこれ伐採、更新伐した後に数年、３年か５年か何かわからんけど、その後にまたある程度復活せなんだらかかる費用があると思うんじゃけど、その辺はどのように考えとんですか。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

まず最初の御質問ですが、当然人工林につきましても更新伐事業の一部ということでございますので、こちらに計上しております。

それから、天然林の関係につきましては、７割以上を伐採するということでございますので、ほとんどは自然に生えてくる、萌芽更新といいまして、そういうのを基本と考えておりますが、生えない場合は二、三年うちに生えない場合は苗木を植えると。当然そういった制度になっております。自然に生えるのが基本でございますが、生えない場合は苗木も植えるということにはなっております。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

安本議員。

４番（安本　博則君）

更新伐が都市公園、美しい里山の中の事業みたいなことになっとるみたいなんじゃけど、これだけされたら美しい里山も崩壊するんじゃないかなと。ちょっと内容がぐちゃぐちゃになりょんじゃないかなと思うんじゃけど、二、三年後に復活せなんだときにはまた費用が要るということじゃわな。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

自然更新を、生えない場合は苗木は植えるというのがこの事業の内容でございます。

〔４番安本博則君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番６番、議席番号９番岡﨑正裕議員の発言を許可いたします。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）〔質問席〕

質問させていただきます。

まず、59ページの看護師等養成学校整備費補助金８億2,383万2,000円、これにつきましては本城議員のところでありましたので、結構です。

続きまして、109ページに２件ございます。商工業振興費の中の美作市商工業振興事業補助金2,000万円、地域活力創生事業雇用促進奨励金1,880万円、これの説明をお願いいたします。

続きまして、111ページ、観光費の中の観光振興助成金2,226万8,000円。

それから、企業誘致推進費の中の112ページですが、美作市企業立地雇用促進奨励金3,599万4,000円。

それから、観光施設費の113ページ、修繕料の1,023万円。

それから、119ページの土木総務費の中の国県道新設改良事業費負担金１億2,135万円。

それから、121ページ、道路橋梁維持費の工事請負費３億4,780万円。

同じく、121ページの道路橋梁新設改良費４億6,550万円。

それから、終わりに123ページになりますが、公園費の測量設計等委託料1,290万円。

それから、工事請負費の5,780万円、この内容について教えていただきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

失礼いたします。それでは、岡﨑議員の②から⑥までをお答えさせていただきます。

まず、②の美作市商工業振興事業補助金でございます、2,000万円。こちらにつきましては、商工会への補助金でございます。商工会へは合併前から旧町村が補助をしてまいりましたが、合併後、市として新しい、商工会のほうも統合されておりますが、そういったところで美作市、勝央町、西粟倉村の区域ごとにそれぞれ商工会への活動助成金ということで出させていただいておるものでございます。

それから、３番目の地域活力創生事業雇用促進奨励金でございますが、こちらにつきましては市内の既存企業に対する奨励金等がなかったことから、平成27年度より市内に住所のある方を新規雇用した場合、企業に対し奨励金を支給する事業でございまして、高校、大学等の新規卒業者の場合は30万円、それ以外の方は20万円を、１年継続して12カ月以上雇用されたことが確認された後にそれぞれ企業に補助金として交付をしておるものでございます。

それから、④の観光振興助成金でございます。こちらにつきましては2,226万8,000円でございますが、市内の各温泉施設から納められます入湯税を財源としましてその入湯税の２分の１を市内の観光協会等に交付するものでございまして、29年度につきましては予算書にもございます入湯税の歳入4,453万6,000円の２分の１の額相当を助成金として予算計上させていただいております。

それから、５点目でございますが、美作市企業立地雇用促進奨励金でございます。こちらにつきましては、作東産業団地のほうに立地をいただいた企業に対しまして一定以上の敷地面積に工場等を新設し、一定以上の新規就労者を雇用した場合に対象としておるものでございまして、29年度は２社の企業を対象にして3,599万4,000円をお願いしておるものでございます。

それから、６点目の修繕料でございます。こちらにつきましては、観光費の観光施設費の修繕でございまして、主に作東のバレンタインホテルの空調設備、エレベーターなどの修繕料が主なものでございまして、そのほか市営露天風呂でありますとか能登香の里、それからベルピール自然公園とか、そういった各観光施設の修繕料として1,023万円をお願いしておるものでございます。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

岡﨑議員の⑦から⑪までのお答えをさせていただきます。

まず、⑦の歳出、119ページ、款８項１目１節19国県道新設改良事業費負担金１億2,135万円でございますけれど、これは県が事業主体となり実施する国県道の建設事業に対し利益を受ける市町村が岡山県建設事業費市町村負担金徴収条例に基づき負担するもので、例えて言いますと美作岡山道路とか、今やっているものであれば平福地内の線路のつけかえをしておりますけれど、あれとか、それから粟井地内で国道429のバイパス工事をやっております。このようなものの整備事業の15％を負担をするものでございます。

続きまして、⑧の歳出、121ページ、款８項２目１節15工事請負費３億4,780万円でございますけれど、これは道路橋梁維持費の工事請負費３億4,780万円でございまして、内訳といたしましては市道の維持管理事業が8,055万円、交通安全施設整備事業に4,855万円、防災・安全交付金事業、これは国庫補助ですけれど、２億1,870万円を計上させていただいております。これらは各地区の自治会等から出される要望や行政懇談会での意見や指摘を受け、市道の修繕、安全施設の整備などに対応するものでございます。また、既存施設の橋梁などでございますけれど、長寿命化に向けた適正な維持管理及び危険のり面の防災対策などを実施し、維持経費の縮減と平準化を図りながら通行者の安全を確保するために実施するものでございます。交通安全施設整備につきましては、一般質問の中でも答弁をいたしましたけれど、区画線整備事業として4,000万円を組んでおります。

それから、⑨歳出、121ページ、款８項２目２節の15工事請負費の４億6,555万円でございますけれど、主なものといたしましては社会資本整備総合交付金事業、活力創出基盤整備といいます、これ国庫補助事業ですが、の１路線、１億8,040万円、辺地対策事業費、継続の２路線に係る4,660万円、過疎対策事業費の７路線に係る２億1,900万円でございます。このうち社会資本整備総合交付金事業の継続事業で川北田渕線を現在行っておりますけれど、これにつきましては平成29年度で国に要望しておる額を計上しております。

続きまして、⑩の歳出で123ページ、款８項４目２公園費の委託料と、続いて11の工事請負費でございますけれど、公園費につきましては美しい里山公園整備に係るもので委託料1,290万円、平田、平福からの進入路３路線、約2.5キロメーターの測量費でございます。また、工事請負費5,780万円は、楢原下朽木からの進入路及び朽木から北原にかけての遊歩道約2.5メーターの工事を予定をしております。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、一通り終わりました。

９番（岡﨑　正裕君）

そこの中の商工会への2,000万円ですが、これ西粟倉と勝央町と分担をされるということなんですが、これは会員の数ということで分担をされておるのか、その辺のところをちょっと確認したいと思います。

それからもう一つは、この2,000万円というのは向こうの商工会の会計の中のどういった部分に、例えば

こういう目的のための部分にこの2,000万円を出すんだという、そういうのがあるんかないのかというのをちょっと聞きたいと思います。

それから、地域活力創生事業雇用促進奨励金ですが、これは割り算したらわかると思うんですが、これちょっとすぐに割り算ができないので、何件分ぐらいでしょうか。

それから、公園費のことなんですが、これは進入路ということなんですが、進入路、現在３路線できておりますが、それと同じようなものと考えたらよろしいんでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

それでは、経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

まず、商工会、②でございます。目的につきましては、商工業の振興と安定を図ることを目的に商工会が行う各種事業の運営を補助するためのものでございます。全般でございます。会員数とかにより金額等は決めておるものではなく、現実現在の2,000万円は平成22年度から2,000万円をずっときております。合併当初は旧６カ町村の合計でいうと3,430万円ほどございましたが、現在では2,000万円、市の分としては商工会のほうへ助成をさせていただいておるという状況でございます。

議長（山本　雅彦君）

③番。何件分かという。

経済部長（尾崎　功三君）

済いません。ちょっと先にお願いします。

議長（山本　雅彦君）

じゃ、先に建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

公園費の委託料の1,290万円、平田、平福からの３路線でございますけれど、これから地元と協議を進めてまいって、ことし測量設計ということになります。グレードとしては今あるものよりは少し落ちると、舗装などはしない場合もあり得るということで今調整をしております。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

正式に人数的には先ほど申しました30万円と20万円でございますので、大体100……。ちょっと済いません。今その正式な数字が手元にございませんので、申しわけございませんが、違ったら悪いのでお答えができません。申しわけございません。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、３回目です。

９番（岡﨑　正裕君）

商工会の補助金については、例えば人件費の何割とか、そういう目的はないということで理解したらいいんだと思うんですが、分担割合についてははっきりした根拠はないような答弁だったんですが、会員の数とか、それから過去の例もあります。商工会が合併する前の例からそれの延長線上であって、それを前の負担割合とそれぞれの商工会の負担割合の延長線上であるというのだったらまだわかるんですけども、どうも負担割合が明確でないということなので、その辺のところをこれから今までの例に倣ってなお従前の例による、前年度の例によるということでやられるんでしょうか。はっきりした積算根拠をまた考えていくという

ふうに思われとんでしょうか、どうでしょうか。

議長（山本　雅彦君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

商工会の補助金につきましては、まず補助の性質として団体補助といいまして団体の活動全般に対して行うというのが基本になっております。団体補助につきましては、Ｂｅｌｌｅにも同じことが適用できるんですが、例えばある蜂蜜メーカーが何ぼで、あるスーパーが何ぼでというのを分担するという考え方じゃないんです。それぞれのスポンサー、それぞれの支援母体に対して事業団体からなるべくたくさんくださいねといって、今度はその枠組みの中で事業が展開していくという考え方をとっているのが団体補助金という形になっておりますので、分担というような考え方はそもそも余り適さないというふうに御理解をいただければ妥当かと思います。

以上であります。

議長（山本　雅彦君）

経済部長。

経済部長（尾崎　功三君）

済いません。先ほど申しわけございません。人数の部分を、ちょっとわかりましたので、お答えします。

30万円が16名、20万円が70名で29年度は予算計上をさせていただいております。

議長（山本　雅彦君）

岡﨑議員、もう終わりましたので。

〔９番岡﨑正裕君「はい、よろしい」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の発言が終了いたしました。

他に質疑がございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第33号の質疑を終了いたします。

ただいまから10分間休憩いたします。

午後３時41分　休憩

午後３時51分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第34号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、質疑を行います。

それでは、通告発言順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号11番本城宏道議員。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

１点だけ質問をいたします。

19ページの繰入金のほうですが、他会計繰入金が節のところで150万円しか入っていないんですが、いつ

も私お願いしとんですが、基金は５億8,000万円ぐらいあるわけで、もっとふやして国保の負担を減らしていくということにはならんのかなと思うんですが、150万2,000円のこの根拠というのはどこからこういう数字が出るんですか。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、本城議員お尋ねの19ページ、一般会計繰入金でその他一般会計繰入金でございます。その他ということでございますので、この150万2,000円でございますが、これは保健事業のうち大原保健センターで実施している総合保険事業費に対して国からの交付金及び諸収入を差し引いた経費について一般会計から繰り入れをするものでございます。ちなみに、大原保健センターの総事業費は1,868万7,000円、国からの特別調整交付金が1,400万円、諸収入としまして教室参加費、社会福祉協議会からの負担金等が318万5,000円ありますので、その差額、一般会計から繰入金として150万2,000円を繰り入れているものでございます。

〔11番本城宏道君「わかりました」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番２番、議席番号13番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

議案第34号平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算で歳入、15ページ、款１項１目１の一般被保険者国民健康保険税、前年との比較についての説明、817万7,000円のこの説明。

それと、２番として15ページ、款１項１目２の退職被保険者国民健康保険税、前年度との比較についての説明、2,330万7,000円のこの少ない、このしとる説明をしてください。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、岩江議員御質問の15ページ、一般被保険者国民保険税の前年との比較ということでございますが、817万7,000円の減額でございますが、これは人口の減少に伴う国保加入者の減少によるものでございます。28年度の国保分の保険者は末で6,648人の見込みであることから、29年度中の被保険者を6,515人と見込んでおることからでございます。

続きまして、退職被保険者国民保険税の2,330万7,000円の減額ということの説明でございますが、この退職被保険者分の国保税につきましてはこの制度が廃止になっておりまして、現在の被保険者が65歳になると順次一般保険者のほうに移行いたします。新たな退職被保険者は発生しないことから、見込みでは平成28年度末で208人、29年度末で103人というふうにどんどん減ってまいります。29年度は対象者が大きく減ることから保険税の退職被保険者の保険税も大きく減額するものであります。

〔13番岩江正行君「わかりました」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑がございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第34号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第35号「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号11番本城宏道議員。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）〔質問席〕

たびたび済いません。この介護保険の関係ですが、14ページの調整交付金2,000万円余り減額、それから支払基金のほうも同じように5,900万円余り減額になっておるということですが、この支出のほうでも、21ページになるわけですが、居宅介護サービスの給付あるいは施設介護サービスの給付というものが8,000万円とかあるいは4,800万円とか減額されておるわけですが、全体的にサービスが悪うなりゃせんだろうかという心配があるわけですが、その辺の説明をお願いをいたします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。質問のほうが４つあるんですが、先に③、④のほうから説明をさせていただきたいと思います。

③歳出、款２項１目１節19の居宅介護サービス給付費のところでございますが、これ介護保険の補正のほうでも説明させていただいたんですが、居宅介護サービスのほうが28年４月から18人以下の事業所については地域密着のほうへ移行という中で、予想に反して１事業所の大きいところが地域密着のほうへ変わったということで、大きく減額があります。さらに小規模多機能の施設が平成29年度においても新規で開設があるという見込みから、さらにそちらのほうへ流れていくのではないかという見込みでマイナス8,000万円という見込みを立てております。

④の款の２項の１目の３節19の施設介護サービスのほうにつきましても、これも補正のほうで説明させていただいたことと同じ説明にはなるんですが、要介護５とか要介護４の介護度の高い方の利用が減ってきているというところの要因が大きくありまして、減額になっておるということです。

これらを踏まえまして、①番の調整交付金ですが、介護給付費の減額が約１億2,000万円ということになります。それから、平成29年度のほうから介護予防サービス、いわゆる要支援１、２の方が利用されるサービスが29年度からは地域支援事業というふうに変わっていきます。その関係で影響のある額が約9,000万円ということになりますので、これのそれぞれの調整交付金の率を掛け合わせてまいりますと2,077万6,000円の減額という形になります。

それから、支払基金交付金につきましても、先ほどの介護給付費が下がりますことによってこの支払基金交付金は２号被保険者の保険料を充当されるということになりまして、交付率が28％ということになりますので、給付費の減額の額掛ける28％ということで額としては5,946万円の減額ということになります。

以上です。

議長（山本　雅彦君）

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

いろいろこのサービスの関係が制度で変わってきよるわけですが、いずれにしましても住民負担はできるだけ軽く、サービスは高くということで取り組んでいただきたいと思います。

終わります。

議長（山本　雅彦君）

続きまして、通告順番２番、議席番号13番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

同じような質問になりますけれども、「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」の13ページ、款４項１目１介護保険給付金負担金、前年度との比較についての説明。3,889万3,000円、これの説明をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。先ほどの本城議員のときに説明をさせていただきましたように、介護給付費が前年に比較しまして２億1,233万1,000円の減額ということで予算編成をさせていただいております。これに係ります国庫負担金が施設給付のほうでは国庫負担金の率が15％、それから居宅の場合でありましたら20％ということになりますので、それぞれの給付額に15％と20％の額を掛けたものがそれぞれ減額になるということで、金額が3,889万3,000円ということです。よろしくお願いします。

〔13番岩江正行君「了解」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第35号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第36号「平成29年度美作市簡易水道特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第36号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第37号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第37号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第38号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで議案第38号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第39号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第39号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号13番岩江正行議員。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」についてですが、９ページ、款１項１目１介護保険報酬収入、前年度との比較についての説明をお願いします。減額439万6,000円の説明についてをお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。９ページ、款１項１目１の介護報酬収入、減額の439万6,000円でございますが、積算の内訳といたしまして、一般入所と３番目の通所のリハビリは昨年と人数的には同様の数を見込んでおります。短期入所につきましては、１日平均で昨年は２人で予算を計算しておりましたが、今年度は昨年度実績より0.5人マイナスということで、人数のほうを減らしております。さらに、報酬単価ですが、介護度のほうが平成27年度には介護度が３あったんですが、28年度におきましては平均で2.8ということで、若干介護度のほうが軽くなっているということで、単価を少し下げて見ております。一般入所で201円、短期入所で293円ということで、１日当たりの単価を下げて計算した結果でマイナスの439万6,000円ということになっております。

以上です。

〔13番岩江正行君「了解」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第40号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第41号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第41号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第42号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号13番岩江正行議員。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）〔質問席〕

議案第42号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」についての質問をいたします。

歳入で９ページ、款１項１目１後期高齢者医療保険、前年度と比較についての説明をお願いします。1,864万2,000円の説明をお願いします。

議長（山本　雅彦君）

市民部長。

市民部長（安藤　郁雄君）

それでは、９ページの後期高齢者医療保険料の前年度との比較についてでございますが、この保険料につきましては岡山県後期高齢者医療広域連合により試算が行われ、通知された額に基づき予算計上をしております。平成29年度予算２億5,111万円、28年度予算２億6,975万2,000円で1,864万2,000円の減額となっております。29年度の保険料予算は前年度対比で減額となっている要因について広域連合に確認をしましたところ、平成28年度の保険料試算の際に見込み額を多く試算していたということが一番大きなことでございました。なお、保険者数にしましても平成27年４月１日は6,590人の方がいらっしゃいましたが、平成28年４月１日では6,443人と被保険者数も減っている状態でございます。

以上でございます。

〔13番岩江正行君「わかりました」と呼ぶ〕

議長（山本　雅彦君）

通告者の質疑が終了いたしました。

他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第42号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第43号「平成29年度美作市水道事業会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第43号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第44号「平成29年度美作市病院事業会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第44号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第45号「平成29年度美作市下水道事業会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようですので、これで議案第45号の質疑を終了いたします。

以上で全ての議案に対する質疑が終了いたしました。

これより議案の委員会付託を行います。

お手元に配付しております審査付託表をごらんください。

お諮りをいたします。

ただいままでに上程されております各議案は、審査付託表に記載のとおり、各委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。よって、付託表のとおり付託いたします。

日程第２　　請願・陳情について

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第２、「請願・陳情について」を議題とし、一括して上程いたします。

今定例会までに受理した請願・陳情につきましては既に配付いたしておりますので、付託表のとおり所轄の委員会に付託いたします。

なお、請願第１号、２号につきましては、紹介議員から請願の紹介をお願いいたします。

安本博則議員。

４番（安本　博則君）〔登壇〕

請願第１号美作市ホームページ「借金時計」の表示に関する請願。紹介議員安本博則。請願者、美作市真加部1097、山根忠弘。

請願の趣旨は、美作市ホームページに市の財政運営について常に関心が持てるように借金時計を表示してください。

理由としては、裏面にあると思うんですけど、夕張市、松阪市、富士見市、岡山県では倉敷市などが借金時計というようなものを設置しとんで、美作市でも一人でも多くの市民に今以上、市政に関心が持てるようにしていただきたいので、審査をよろしくお願いします。

続きまして、請願第２号でございます。本会議及び各委員会のユーチューブ（YouTube）配信に関する請願。紹介議員安本博則。請願者、美作市真加部1097、山根忠弘。

請願の趣旨、本会議及び各委員会の録画をユーチューブにより配信をしてください。

請願の理由は９項目ほどあるんですけど、市民に開かれた議会を美作市も目指していますので、必要なことだと思いますので、審査をよろしくお願いいたします。

以上です。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

お諮りいたします。

本日の会議はこれで散会したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。本日はこれで散会することに決定をいたしました。

本日はこれで散会します。

再開は３月21日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時14分　散会

平成２９年３月２１日

（第　　７　　号）

1. 議　事　日　程（７日目）

（平成29年第２回美作市議会３月定例会）

平成29年３月21日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　同意第１号、議案第１号～議案第45号、陳情第１号～陳情第５号、請願第１号～請願第２号（委員長報告、質疑、討論、採決）

日程第２　議会改革特別委員会委員長の報告について

日程第３　美作市新庁舎整備特別委員会委員長の報告について

日程第４　議案第46号　美作市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第47号　美作市消防団員の任免、報酬、服務等に関する条例の一部を改正する条例について

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	金　谷　典　子	２番	重　平　直　樹
３番	安　藤　　功	４番	安　本　博　則
５番	谷　本　有　造	６番	則　本　陽　介
７番	萬　代　師　一	８番	尾　髙　誉　久
９番	岡　﨑　正　裕	10番	西　元　進　一
11番	本　城　宏　道	12番	鈴　木　悦　子
13番	岩　江　正　行	14番	小　渕　繁　之
15番	万　殿　紘　行	16番	日　笠　一　成
17番	山　本　重　行	18番	山　本　雅　彦

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	安　部　　薫
副 市 長	横　山　博　光	教 育 長	大　川　泰　栄
政策審議監	福　原　　覚	総務部長	山　本　直　人
危機管理監	山　本　和　毅	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	森　分　幸　雄	市民部長	安　藤　郁　雄
環境部長	妹　尾　昌　弘	経済部長	尾　崎　功　三
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消 防 長	山　崎　正　雄
会計管理者	安　東　弘　子	総務課長	春　名　竜　也
総務参事	光　井　元　彦	農村整備課長	宿　野　豊　彦
森林政策課長	福　永　道　広		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	本　田　卓　治
課　　長	大　佛　裕　彦
主　　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（山本　雅彦君）

皆さんおはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いをいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則を遵守していただきますようお願いをいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

それでは、２月24日に引き続き会議を開きます。

本日は全員の出席であります。

定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

本日、議会運営委員会を開催いたしておりますので、議会運営委員長より報告をお願いをいたします。

小渕議会運営委員長。

１４番（小渕　繁之君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

ただいまから議会運営委員会の委員長報告を行います。

本日午前９時から、議員控室において、議長、市長、副市長、政策審議監、担当部長出席のもと、議会運営委員会を開催し、追加議案２件について協議いたしましたので、その結果を報告いたします。

市長より送付されました議案は、各条例の一部改正案２件であります。この２件の議案については、日程第４として上程いたします。

以上で議会運営委員会の委員長報告とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

ただいま議会運営委員長の報告がありましたように、議案第46号、議案第47号を日程に追加し、議題といたしたいと思います。

日程第１　同意第１号、議案第１号～議案第４５号、陳情第１号～陳情第５号、請願第１号～請願第２号（委員長報告、質疑、討論、採決）

議長（山本　雅彦君）

初めに、日程第１、「同意第１号、議案第１号～議案第45号、陳情第１号～陳情第５号、請願第１号～請願第２号（委員長報告、質疑、討論、採決）」を一括して議題といたします。

いずれも各常任委員会及び予算審査特別委員会、議会改革特別委員会において審査終了の旨、報告があり、審査結果報告書はお手元に配付のとおりであります。

この際、各常任委員長及び予算審査特別委員長、議会改革特別委員長から審査結果の報告を求めることにいたします。

まず、文教厚生委員長報告を求めます。

岡﨑文教厚生委員長。

９番（岡﨑　正裕君）〔登壇〕

皆さん、改めましておはようございます。

それでは、文教厚生委員会の委員長報告を行いたいと思います。

本委員会に付託されました案件は、議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」外11件であります。

審査に当たりましては、執行部に説明を求め、慎重に審査いたしました。

審査の結果、議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、議案第12号「美作市英田就労改善センター設置条例の廃止について」、議案第13号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、議案第14号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」、議案第20号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」、議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」、議案第24号「平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」、議案第35号「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」、議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」、議案第41号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」の11議案は、討論はなく、採決の結果、委員全員の賛成により全て可決されました。

また、議案第44号「平成29年度美作市病院事業会計予算」では、委員より、病院事業において、人口減により患者数が少なくなっている、この問題は病院や診療所だけでなく、市内のほかの老人保健施設においても今後厳しくなる問題がある。ここで美作市立病院及び診療所等改革検討委員会規則が新しく設置され、こういう問題について改革委員会の中でしっかり検討し、それに基づいて、改革できるものは改革しながら、病院の運営にもしっかり活用してほしいとの賛成討論があり、採決の結果、全員賛成により可決されました。

それでは、審査において、議論となった点について御報告申し上げます。

まず、保健福祉部所管では、議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、委員より、美作市立病院及び診療所等改革検討委員会規則の内容について質疑があり、執行部のほうからは、美作市内における将来人口の推移や市民ニーズ、家族構成を考えた医療・介護需要を予測し、大原病院、作東診療所、作東老人保健施設の有効な連携体制のあり方や医療・介護サービスの提供体制の整備について、平成29年度１年かけて検討していきたいとの答弁でございました。委員のほうからは、将来人口の推移のところで、将来とは何年後を想定しているのかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、最低でも20年ぐらいの人口推計を見ながら検討していきたいとの答弁でございました。

また、議案第14号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」は、質疑はございませんでした。

次に、議案第20号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」でございますが、委員のほうから、市内の社会福祉法人に再委託できる内容について質疑がございまして、執行部のほうからは、市民後見人の養成事業をこの事業に関連の深い社会福祉協議会へ事業委託する想定であるとの答弁がございました。委員のほうからは、平成29年度当初予算に市民後見人養成の予算計上がなされていない理由はとの質疑がございまして、執行部のほうからは、平成28年度に市民後見人養成のための事業を実施し、市内で10名の受講があったことから、何年か周期で事業を実施する予定であるとの答弁でございました。

次に、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」についてでございますが、委員より、生活保護総務費の生活保護費システム改修委託料の内容について質疑がございまして、執行部のほうからは、パソコン等機材一式とソフトを含めて全てを変更し、マイナンバーに対応できる改修を行ったとの答弁でございました。委員より、児童福祉総務費の病児保育の利用状況について質疑があり、執行部より、現在まで実人数10名、延べ人数18名の利用があり、徐々にふえてきているとの答弁でございました。また、委

員より、予算減額になった理由の質疑がございまして、執行部より、国の補助金交付要綱にある利用実績に応じた加算額を加味し予算計上していたが、利用人数の減少により、加算額のランクが１段階下がったためとの答弁でございました。

委員より、予防費の健康診査委託料にあるがん検診の項目についてと、その中でどの検診の受診率が低かったのかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、結核検診ほか７項目あることと、当初予定より最も受診率が低かったのは子宮がん検診であるとの答弁でございました。また委員より、医療機関で受診する人がふえているのではとの質疑がございまして、執行部のほうからは、例年実施している健診対象者調査結果でもその傾向が出ているとの答弁でございました。

次に、議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」の作東診療所直診勘定及び福山診療所直診勘定補正予算については、委員より質疑はございませんでした。

次に、議案第24号「平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」についてでございますが、委員より、包括支援センターの地域ステーション委託料の減額について質疑がございまして、執行部のほうからは、英田地域と勝田地域について社会福祉法人に委託していたが、そのうち英田地域の委託を取りやめ、市が職員１名を雇用し、直接運営することになったとの答弁でございました。

次に、議案第35号「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」について、委員より、新たに実施される総合事業についての質疑がございまして、執行部のほうからは、総合事業の実施で大きな変更点は、要支援認定者の通所介護と訪問介護が国基準のサービスから市町村が取り組む事業にかわるものであり、事業名や支出項目は変更したが、事業の内容については大きな変更はないとの答弁でございました。委員より、総合事業について、市町村間で余り差がないように、美作市は特に悪かったというようなことがないようにやってほしいとの要望がございました。

次に、議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」については、質疑はございませんでした。

次に、議案第44号「平成29年度美作市病院事業会計予算」についてでございますが、委員より、企業債償還金の償還額が減少しているが、その原因と最終の償還年度はいつかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、償還額が減少した要因は、過疎債の償還が終了したのが主な要因であり、最終の償還年度は平成46年との答弁でございました。また委員より、今後の償還額はどれぐらいかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、毎年3,500万円前後の償還額であるとの答弁でございました。委員より、過疎債が終わり、支払いをしているのは病院事業債かとの質疑がございまして、執行部のほうからは、病院では過疎債と病院事業債を借りているので、残りは病院事業債となるとの答弁でございました。委員より、入院、外来患者とも毎年減っているが、今後健全経営に向けての見通しがあるかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、患者数は確実に減っている、美作市の人口全体も減ってきている中で、国が進めている在宅復帰へ向けての地域包括ケアの中で、一般病棟40床のうち10床を地域包括ケア病床としている。今後患者の確保を継続的に行うには、10床を20床にする方向性も考えないといけない。また、将来的に療養病棟を病床数も含めてどのようにしていくか大きな問題であるので、美作市立病院及び診療所等改革検討委員会の中で協議し、今後決定していきたいとの答弁でございました。

次に、教育委員会の所管でございますが、議案第12号「美作市英田就労改善センター設置条例の廃止について」は、質疑はございませんでした。

次に、議案第13号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、委員より、営利目的等の判断基準をどのようにするのかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、使用さ

れる方々がつくられたものを販売されるかどうかが判断基準となる、販売目的であれば営利利用となり、料金を徴収する。また、講師みずから教室を主催して、受講料を徴取して行う陶芸教室等の場合においても、講師の営利となるので、使用料を徴収するとの答弁でございました。

次に、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」についてでございますが、委員から、学校管理費の車両購入費について多額の減額となっているが、予算計上する際に、メーカーに確認した上で予算計上し、入札した結果で減額しているのか、予算計上の際、もう少し精査すべきではないのかとの質疑がございまして、執行部のほうからは、予算計上の際にはディーラーからの見積もりにより予算計上し、入札を行っている。今後は予算査定において十分な精査を行い、多額の減額とならないよう気をつけていきたいとの答弁でございました。

次に、議案第41号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」については、委員よりは質疑はございませんでした。

以上、本委員会における審査の経過及び結果を御報告いたしましたが、執行部におかれましては、事業の重要性を十分に考慮され、事務事業の執行に当たられますようお願いしまして、文教厚生委員会の報告とさせていただきます。御審議のほどよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

次に、総務委員長報告を求めます。

則本総務委員長。

６番（則本　陽介君）〔登壇〕

改めまして、皆さんおはようございます。

ただいまから総務委員会の委員長報告を行います。

今回の報告については、２月臨時会で付託された同意第１号についてと、３月定例会で付託された議案についての報告となります。

同意第１号については、初日の中間報告以降、参考人並びに学識経験者の意見聴取また公聴会を開催しておりますので、それらについて順次報告をいたします。

去る２月27日午前９時30分より、議員控室において、委員全員出席のもと総務委員会を開催し、２月臨時会において付託された同意第１号の審議に伴い、参考人として当該監査委員また学識経験者からそれぞれ意見を聴取し、質疑を行いました。

続いて、去る３月10日午前10時より、美作市民センター３階大研修室において、委員全員出席のもと総務委員会を開催し、２月臨時会において付託された同意第１号の審議に伴い、公聴会を開催し、応募された５人全ての公述人からそれぞれ意見を聴取し、質疑を行いました。なお、５人の公述人の同意第１号に対する賛否については、全員反対の立場からの意見であり、制限時間10分以内で意見を述べていただき、その後質疑を行いました。

続きまして、去る３月17日午後１時から、市民センター３階大研修室において、委員全員出席、執行部より市長、副市長、政策審議監、各担当部長、担当職員出席のもと、総務委員会を開催し、２月臨時会において付託された同意第１号について審議いたしましたので、その結果を報告いたします。

まず初めに、執行部から、前回の委員会で執行部に求めていた資料について説明を受け、その後質疑を行いました。そして、質疑を終結し、討論、採決に入る前に、委員より継続審査の意見が出ましたが、採決の結果、賛成少数により否決されましたので、討論、採決に入ることになりました。

次に、討論についてですが、申し合わせでは、人事案件は討論を省略することになっているため、討論を

省略することについて採決したところ、賛成少数で否決されたため、討論に入りました。

その主な内容は、委員より、資料について、アクセスがクリックになったり、全てが業務に反することだと、またきょうの資料でも北陸新幹線のことを書いているが、そのほかに監査に関したことは本当になかったのかとの質問に対しても、私からすれば答弁になっていなかった、したがって全てが非行に当たらないと判断しますので、罷免については反対いたしますとの反対討論。

委員より、御本人のブログについては、従前から私的なものであると御本人はおっしゃっておられた。また、参考人としての話では、市民から広く意見を求めたいともおっしゃっておられた。そこで、公的なパソコンからアクセスすることはいかがなものなのか、また3,880回そのものが非行に当たるという執行部の提案説明ですが、その前に70万回という半年間のアクセスがあります。これは確かに監査委員としての業務もあったと思います。ただ、そのことだけであれば問題はなかったと思いますが、それ以外のアクセスの実態が出てくると少し話が変わってくる。この辺で判断することは大変難しいが、特別職であれば、本来職員の職務の模範になるべき方ですので、その立場から見れば、これは少し行き過ぎであると思います。したがって、この議案につきましては、賛成せざるを得ないと思いますとの賛成討論。

委員より、罷免理由の中で関係法令を出されているが、その中でも職務上の義務違反、その他監査委員たるに適しない非行があると認めるときにはとの文言があります。職務上の義務違反としては、特別職であるから、職務専念義務はないだろうと、またブログの閲覧についても、本人が職務上必要であるとの意見でありました。それを裏づける意味合いでも公聴会を開催しました。その５人の公述人全員が、罷免に対して反対の立場で公述をされました。私の記憶では、５人のうち４人がブログにアクセスし、監査状況等を自分なりに把握させてもらっているということで、公務であるとの意見を述べていました。それと、専門的な立場の学識経験者の意見も聴取しましたが、その中で、監査委員たるに適しない非行があるというところで、先ほど来の非行につきましても、3,880回を業務用のパソコンで業務時間内に私的なブログで閲覧したということが非行の行為に当たるという執行部の見解だが、学識経験者の見解では、職務上の義務違反以外の社会的非難に値する行為、このことが非行であるということでありました。そのブログの内容が多くの方に混乱を招くような内容であればそうかもしれませんが、内容についての非行はまだ精査していないということでの今回の人事案件ですので、反対いたしますの反対討論。

委員より、今回の資料から、私的な部分が大多数あったと思います。職員がこういう事件を起こした場合は、処分を受けることになると思います。今後こういう事件が起きた場合、この件の処分が前例となると思いますので、今回は苦渋の判断で厳格に対処する必要があると思います、不適切と思いますので、同意第１号については賛成しますの賛成討論。

委員より、きょうに至るまで委員会なり公聴会なり重ねてきましたが、監査委員のしたことは、決してよいことだとは思いませんが、私は厳重注意もなしにいきなり罷免というのは反対したいと思いますとの反対討論がありました。

討論を終結し、採決の結果、賛成少数により同意第１号は否決されました。

以上で２月臨時会で総務委員会に付託された同意第１号についての総務委員会委員長報告を終わります。

続きまして、３月定例会において付託された議案についての総務委員会委員長報告を行います。

去る３月６日、７日両日午前９時から、美作市役所４階議員控室において、総務委員全員出席、執行部より萩原市長、安部副市長、横山副市長、福原政策審議監、各担当部課長以下、関係職員出席のもと、総務委員会を開催いたしました。

本会議において当委員会に付託された議案は、議案第４号、議案第５号、議案第７号、議案第８号、議案

第10号、議案第18号、議案第19号、議案第21号から議案第23号、議案第26号、議案第27号、議案第30号、議案第37号、議案第38号、議案第42号の16件であります。

これらの議案審査について、執行部より説明を受け、慎重に審議をいたしました経過の概要を報告させていただきます。

消防本部、市民部、企画振興部、総務部の順で行いましたので、議案番号順になっていないことを申し添えます。

最初は、消防本部で、「平成28年度補正予算（第６号）」について、執行部から説明を受け、質疑に移りました。

委員から、消防ポンプ自動車の入札内容について、女性仮眠室設計監理委託から今後の女性職員採用枠に対しての考えを聞きたいとの質疑では、執行部から、入札関係について説明いたします、３社が入札に参加しました。仕様については、ＣＤ－１型、キャブオーバーダブルキャビンです。照明器具をつけて３トンシャシーベースで艤装をしています。入札については、岡山県下の東洋ポンプ（株）、（株）岡山森田ポンプ、吉備商事（株）の３社で指名入札を行い、落札先は東洋ポンプ（株）に決まりました。

また、女性消防職員の採用枠については２名を考えています。平成29年度の採用試験枠に女性消防職員１名をお願いしたいと考えていますとの答弁。委員から、全国的に女性消防職員の増加と都市部では女性消防職員も活躍していますが、女性消防職員を４名増員して、２名ずつ交代制勤務にすればよいのではないかと思います、消防側の考えを聞きたいとの質疑では、執行部から、国の基準が５％ですから、当消防本部が65名ですから、女性消防職員は３名となりますが、現状では毎日勤務として予防課の仕事をしています。女性消防職員を採用後は、当面の間予防、総務の毎日勤務の中で救急出動に搭乗し、ある程度の経験を積んでから交代制勤務に移行を考えています。委員御指摘の４名体制ができれば、私どもにとって最高の体制が構築できますが、今現在のところ２名が限度なのかなと考えますとの答弁。

以上で消防本部を終了し、続きまして市民部に移りました。

初めは税務課所管です。

議案第10号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」、執行部から説明を受け、質疑に移りました。

委員から、今回の改正は何によるものかとの質疑では、執行部から、消費税の10％への引き上げ時期が平成31年10月１日と規定されたことに伴い、地方税法が改正されたことによるものですとの答弁。委員から、法人市民税の税率引き下げによる影響はとの質疑では、執行部から、法人税割の税率が12.1％から8.4％になることにより、法人税割の税率は現在の７割に下がるもの。平成28年度の法人税割額が約9,000万円であり、企業の経営状況にもよりますが、単純には6,000万円前後と見込んでいる。この法人税割の引き下げ分は、国税の地方法人税の税率が引き上げられ、その全額が交付税に原資化され、地方税に再配分されます。これは、都市部、特に東京に集中している法人市民税の一部を国税化し、その国税を交付税の原資として地方へ再配分を行うことを目的としたものですとの答弁。

続いて、議案第22号「平成28年度一般会計補正予算（第６号）」について、執行部から説明を受け、質疑に移りました。

委員から、固定資産税の780万円の増額補正について、太陽光発電の償却資産とのことだが、どの期間のものが対象になるのかとの質疑では、執行部から、平成28年１月１日が固定資産税の賦課日になります。平成27年中に太陽光発電を設置し、平成28年１月１日に事業の用に供しているものが対象になりますとの答弁。委員から、補正された分の償却資産は申告がされていなかったということかとの質疑では、執行部か

ら、償却資産は申告主義によりますが、申告がなかった方について、経済産業省からの太陽光発電設置の資料があります、それに基づき調査して課税したものですとの答弁。

以上で税務課分を終了し、くらし安全課所管に移り、委員から、臨時福祉給付金について、平成28年度内に未実施のため、29年度になるとの説明だったが、理由は何かとの質疑では、執行部から、国の補正予算が成立した後に予算を編成し、28年度中に実施できないため、翌年度へ全額繰り越します。これは申請から給付までの期間が半年以上が必要で、申請開始が４月以降となるため、全額繰り越しを行い、平成29年度で実施するものですとの答弁。委員から、バス運行委託料だが、入札率が73.5％との説明が本会議でもあったが、これは予定価格が高かったのか、原因について説明を願いたいとの質疑では、執行部から、路線ごとの積算については、運転手の賃金、事務費、保険代、修繕料等を見込んで積算し、仕様書を出しております。この仕様書により、業者ごとに積算をした結果で入札をされておりますので73.5％という平均が出ておりますとの答弁に、委員から、この数字から受託の業者間で過当競争を行っているのかとも思慮されるが、入札についても改善の余地があるのではないかとの質疑では、執行部から、低入札に該当するか否かは別として、本件については、安全性を確保するという必要もあるため、最低価格を設けるか否かを今後検討したいとの答弁。

続いて、市民課について、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はなく、続いて議案第23号「平成28年度国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」について、執行部より説明を受け、質疑に入りましたが、税務課、市民課ともに質疑はなく、続いて議案第26号「平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はなく、続いて議案第27号「平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はなく、続いて議案第30号「平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」について、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はありませんでした。

議案第37号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」についてでは、委員から、５万円の普通旅費にはどのような支出があるのかとの質疑では、執行部から、徴収の旅費及び債権徴収等の研修会の旅費となりますとの答弁で、ほかに質疑はなく、以上で終了。

続いて、議案第38号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はなく、続いて議案第42号「平成29年後期高齢者医療特別会計予算」について、執行部より説明を受け、質疑に入りましたが、税務課、市民課ともに質疑はなく、以上で市民部全ての質疑を終結しました。

続いて、企画部所管の審議に入りました。

初めは、議案第７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」、執行部から説明を受け、質疑に入りました。

委員から、美作市報道委員会、ケーブルテレビ放送番組審議会を廃止して、新たにつくるのか、新しい組織の概要についての質疑では、執行部から、報道委員会はなくなり、ケーブルテレビ放送番組審議会が広報審議会となるもので、機能的には統合を行い、できたものを審議してもらう。広報紙の発行責任は市が責任を持ち、委員の意見を受けて次の発行に生かしていくもの、報道委員としての毎月の報酬はなくなり、新しい審議会の開催は年一、二回程度の開催予定で、報酬は全体で５万円を計上している。任期については、現在の報道委員の任期は平成29年５月22日までで、新たな審議会は５月23日より施行するとしているとの答弁でした。ほかに質疑はなく、以上で終了。

続いて、議案第18号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、執行部から説明を受け、質

疑に入りました。

委員から、除雪機３台について、今年は大雪であったが、これで足りるのかとの質疑に、執行部から、今回上げているものは10年以上経過し老朽化が激しく、作業に支障があるとのことで更新をするものであるとの答弁。

委員から、体育施設整備について、もう少し説明をしてほしいとの質疑に、執行部から、平成29年度中に整備をすれば、30年度からは今の場所から美作市へ移ると聞いており、社会人の硬式野球チームが練習をするために防球ネット等の施設整備を行うものとの答弁。

委員から、小・中学校整備改修事業にトイレの洋式化について、整備に関する基準があるのかとの質疑に、執行部から、今回の小・中学校のトイレの整備については、各学校からの要望によるものであり、学校現場からいえば、洋式トイレは個人的に好き嫌いがある、学校長が状況を見て判断をしているとの答弁。

以上で質疑を終了し、続いて議案第19号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はなく、続いて議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）について」、執行部から説明を受け、質疑に入りました。

委員から、国際交流費の日本語教師の派遣はどうなっているのかとの質疑に、執行部から、３月８日から派遣できることになり、関西国際空港から出発する予定となっている、１年間の派遣を予定している。当初予算議決後、市内のほうに募集をかけたが、応募がなかった。教育委員会にも協力を願ったが、候補者が見当たらず、市内だけでは候補者が集まらないと判断し、市外、県外に募集をかけ、多くの応募者の中から候補者を決定した。派遣する方は東京在住の女性で、韓国の小学校で日本語を教えた経験があり、人物的にも問題ないと判断し、採用することにしたとの答弁。さらに委員から、今後は市内の方または関係のある方を派遣できるよう取り組んでいただきたいとの要望がありました。

以上で企画部所管の質疑を終了し、続いて総務部所管の質疑に移りました。

議案第４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」、執行部から説明を受け、質疑に入りましたが、質疑はなく、続いて議案第５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」、執行部から説明を受け、質疑に入りました。

委員から、この制度は、市議会議員選挙だけのものなのか、詳細な説明をとの質疑に、執行部から、今回については直近の身近な選挙から導入するということで、市議会議員選挙に特化して公営をさせていただくこととしております。選挙運動用自動車として指定をした場合に、それがレンタカー契約なのかハイヤー契約なのかということで上限を定めております。車に設置する器具は対象となりません。期間中については、告示日から土曜日までということになります。委員から、現実的に非常に矛盾していると思う、これまで警察への審査は、たしか３月29日前後にあったと思う。そのときに器具を屋根に装着して審査に行きます、その後審査に問題がなければ、器具を外して、車もお返しすることになるんですか、そういったことが現実的にできると思いますかとの質疑に、執行部から、警察での確認から選挙の告示までの期間があることから、議員の言われることはそのとおりと思いますが、現在基準として決まっている公費の対象となる期間が告示日から土曜日までということになっておりますとの答弁。さらに委員から、選挙運動用自動車の宣伝施設は、告示日以前に設置され、警察に届け出をして許可をもらう。この日にちは、例えば告示日の何日か前に器具を設置することで対応してきた。今回はなぜそれだけ早くに選挙カーの審査をしなければいけないのか、審査はそれほど時間のかかるものではないと思うので、10日程度も前から対応するのはなぜかを聞きたいとの質疑では、執行部から、説明不足で御迷惑をおかけしましたことをおわび申し上げます。再度警察へ確認をさせていただき、警察で調整をしていただいた結果では、３月28日を４月３日に、３月29日を４月４

日に変更すること、先ほどお手元に配付した資料のとおり、４月３日、４日で都合の悪い方は、別の日でも警察へ事前連絡をいただきましたら審査を受け付ける旨の確認をさせていただいておりますとの答弁。委員から、この内容を事前審査のときにしっかり伝えるようお願いしたいとの質疑では、執行部から、事前審査のときに連絡を行いますし、通知のほうも改めて変更の通知をさせていただくということで対応させていただきますとの答弁、さらに例えば３月28日に行った場合はどうなるのかとの質疑では、執行部から、事前に警察へ申し出ていただければ、４月３日、４日にこだわらず審査を受け付ける旨の確認をしておりますとの答弁。委員から、請求書または領収書は順番にこだわらなくていいのかとの質疑では、執行部から、請求書または領収書の順番は、ハイヤー契約はそのままです、レンタカー契約の場合は、まず自動車の借り上げ、２番目が運転手の雇用、３番目が燃料費の順番となりますとの答弁。

以上でほかに質疑がなく、議案第５号は終了しました。

続いて、議案第８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」、執行部から説明を受け、質疑に入りました。

委員から、これは、国、県などの法律が変わって行うものか、美作市独自のものなのかとの質疑では、執行部から、今回の条例改正については、上位法の改正に伴うものですとの答弁。委員から、美作市が率先していくことはよいことだと思うが、なかなか民間企業ではここまでのことは難しいだろうと思う。そういった意味で、美作市で取り組んでいくことは、一般の企業や団体に対しても、こういった制度があることを周知していただきたいとの要望でした。

以上で質疑を終了しました。

続いて、議案第21号「相互救済事業の委託について」、執行部から説明を受け、質疑に入りました。

委員から、もう少し詳しく説明をとの質疑に、執行部から、掛金が現在のものより3.6倍となることから、市有物件災害共済会へ加入先の変更をするもので、補償内容は現在と同様です。これは、全国の市町村で市のみのが加入するものとの答弁。

委員から、今年は雪害で大きな被害がありましたが、民間の建物関係の保険に入っているものもあるし、そうでないものもある。これについて、国、県、美作市として何か対策があるのかとの質疑に、執行部から、これから春になると被害の実態が明らかになると思うが、普通の家で二、三十万円の被害があるのではないかと思う。国においては、激甚災害を初めとするさまざまな立法があるが、今の状況では難しい。市としては、保険の加入促進においての助成等の実施についての議論を市民の反応を見ながら考えていかなければならない。今年の行政懇談会では、東粟倉や梶並の地域では問題の投げかけを行い、市民の反応を見ていこうと考えていますとの答弁。委員から、この増額は地震対応が新たに加わったということではないのか、また事業名で火災、風水害、落雷、その他となっているが、その他とはどのようなことを想定しているのかとの質疑では、執行部から、地震についてはもともと対象になっていません、今回の増額は、特例措置がなくなったことによるものです。その他については、物体の落下、車両の衝突、破壊行為、建物の爆発等でございます。以上でございますとの答弁、以上で質疑を終了。

続いて、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」について、執行部から説明を受け、初めに総務課所管分の質疑に移りましたが、質疑はなく、続いて財政課所管分では、委員から、利子割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金の減額は、消費税の税率改正ができなかったことによるものか、それともその他の要因によるものか。美作市公共施設整備基金への積み立てを行っているが、その内容は、また積立額が一定の水準に達しているので、その使い道も考えていただきたいとの質疑では、執行部から、地方消費税交付金の減額は、消費税の税率改正には関係ありません。利子割交付金の減額は、マ

イナス金利という予想外の金利低下、株式等譲渡所得割交付金及び地方消費税交付金の減額は、国の計画したとおりには経済活動が盛んにならなかったのではと類推しています。美作市公共施設整備基金は、今回かなり不用額が出た項目があり、その余剰に過疎対策事業債ソフト事業分の限度額超過分の財源7,500万円を加えて積み立てるものです。財政調整基金は、全国的に見ても積立額が目立つ状況になっており、今後は特定目的基金に積み立てたい。公共施設整備基金は、道路のほかに幅広く市民の利用する施設がございますので、非常に幅広く使える基金だと考えているとの答弁。さらに市長から、基金積み立てでなく、市債の繰上償還に充てることもできるが、メリットが少なくなってきている。そのため、特定目的基金の中で最も流用性の高いところで様子を見ようと思うとの答弁でした。委員から、業務に生かして使うことも考えていただきたいとの要望がありました。委員から、自動車取得税交付金について増額したのはどういった理由からかとの質疑では、執行部から、エコカー減税ということで、自動車取得税も軽減された期間が続きました。その後エコカー減税が緩和されたことにより税が戻ってきました。緩和されたことで自動車の取得が落ち込むのではないかと控え目に予算をしていましたとの答弁。

委員から、美作市公共施設整備基金は庁舎の耐震化にも利用できるのか、また美作市の財政が悪いと言われていることに対する説明をとの質疑では、執行部市長から、公共施設整備基金は、庁舎の耐震化にも使えます。美作市の財政が悪いと言われていますが、外からの目で見ても、類似団体と比較しても悪くない、一方で合併による算定がえの問題がある。財政推計では、平成31年度、平成32年度では収支は赤字とならないという試算になっているが、それに向けては少し余裕を持って運転していく必要がある。会計検査院や総務省でも財政調整基金が多いと言われているので、里山公園の財源を今後市民の福祉向上にも使っていく必要があり、来年度では3,000万円程度であるが、介護保険料の問題とかタクシー助成などに使っていこうということですとの答弁でした。

以上で質疑を終了。

続いて、危機管理室所管の質疑では、委員から、自主防災組織事業の関係で歳入予算が減額となっているが、それに伴い、歳出予算はどのようになっているのかとの質疑では、執行部から、県の補助対象事業として、当初は防災士養成と防災マップ作成事業として93万2,000円を計上し、その２分の１が県補助金として入ると見込んでいたが、県補助金対象としては、防災士養成事業の47万4,440円のみとなり、県補助金はその２分の１の23万7,000円となった。歳出の補助金の主な内容は、土のう用砂場、テント、発電機等で、自主防災組織への補助金は228万4,900円ですとの答弁、総務部所管分の質疑を全て終了。

以上で当委員会に付託された全議案の質疑を終了しました。

続いて、本会議において総務委員会に付託された議案について、討論、採決に入り、議案第４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」、議案第５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」、議案第７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」、議案第８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」、議案第10号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」、議案第18号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、議案第19号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」、議案第21号「相互救済事業の委託について」、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」の総務委員会所管分、議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」の総務委員会所管分、議案第26号「平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」、議案第27号「平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」、議案第30号「平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）」、議案第37号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」、

議案第38号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算」、議案第42号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」の16議案については、討論はなく、委員全員の賛成により可決されました。

以上、総務委員会委員長報告とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

ただいまから10分間休憩いたします。

午前10時56分　休憩

午前11時06分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、産業建設委員長報告を求めます。

谷本産業建設委員長。

５番（谷本　有造君）〔登壇〕

美作市議会産業建設委員会における審査の経過並びに結果について御報告を申し上げます。

本委員会に付託されました案件は、議案第１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」外17件であります。

これらの審査に当たりましては、執行部に説明を求め、慎重に審査をいたしました。審査の結果、議案第１号、議案第２号、議案第３号、議案第９号、議案第15号、議案第22号、議案第29号、議案第31号の８議案については、討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決すべきものと決定いたしました。

また、議案第11号、議案第16号、議案第17号、議案第25号、議案第28号、議案第32号、議案第36号、議案第39号、議案第43号、議案第45号の10議案については、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決すべきものと決定いたしました。

それでは、審査の過程において特に議論となった点について、順次御報告申し上げます。

まず、議案第１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」、及び議案第３号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）」では、委員より、指定管理者の選定までの経過と初年度指定管理料の根拠について質問があり、執行部より、指定管理者については公募を行い、現地説明会には３社が参加し、最終的には１社の申請を受け、選定委員会において候補者を決定した。また、初年度指定管理料の根拠については、両施設の過去３年間の赤字額からクアガーデン関係の経費などを差し引き、改善を見込んだ額を算出し、今後３年間の債務負担限度額を１億9,000万円と設定し、その３分の１の額を計上しているとの答弁がありました。

議案第２号「美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について」では、委員より、指定管理の物件の内容と指定管理者の団体の構成、指定管理料について質問があり、執行部より、物件については大芦高原キャンプ場であり、総面積約３ヘクタールで、管理棟、便所、炊飯棟などとともに、キャンプサイド合計で35区画ある、また構成員13名の団体である、指定管理料については０円であるとの答弁がありました。

議案第15号「美作市獣肉処理施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」では、委員より、指定管理になった場合の業務内容について質問があり、執行部より、指定管理になっても業務の内容の変更は考えていないとの答弁がありました。また、委員より、今後の獣肉処理施設への搬入頭数の見込みについて質問があり、執行部より、イノシシ、ニホンジカの捕獲頭数が減少傾向にあることから、施設への搬入頭数は減少すると思われるとの答弁がありました。

次に、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」では、委員より、東粟倉工房修繕補償金について質問があり、執行部より、東粟倉工房の屋根は老朽化が著しく、新会社より修繕をするよう要望されていたが、旧会社は精算中であったため、新会社が費用を負担し修繕工事を実施していた。旧会社の清算結了に伴い、建物が市の所有となったことから、この修繕に要した費用を補填するものであるとの答弁がありました。

ほかの委員より、青年就農給付金の減額補正は、農業での収益が上がらないために、新規就農者が離農しているのかとの質問があり、執行部より、減額の内訳は新規に交付を見込んでいた就農者のうち３名が申請に至らず、もう一名も申請時期がおくれ、半年分しか交付できなかった。新規就農者は５年後を目標とした就農計画をもとに農業経営を行っており、目標時には黒字経営となるよう各農家にお願いしているとの答弁がありました。

また、委員より、農作物鳥獣害防止対策防護柵設置事業で受益の少ない農地への取り組みについて質問があり、執行部より、市単独補助金補助率50％として、受益戸数３戸未満の特任事業を行っており、現場の状況によるが、受益の少ない農地でも対応できるとの答弁がありました。

議案第31号「平成28年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」では、委員より、まきボイラーの効果について質問があり、執行部より、１月末現在で昨年度と比較すると、約70万円の燃料費の削減となっているとの答弁がありました。また、委員より、施設利用者の苦情等の対応については、利用者の意向確認を密にするようにとの要望がありました。

議案第45号「平成29年度美作市下水道事業会計予算」では、委員より、処理場統合管路布設工事費と今後の統合計画について質問があり、執行部より、この費用は豊田処理区の統合費用であり、最大年度は平福処理区の統合を進める計画であるとの答弁がありました。また、委員より、下水道施設の統合による効果などを今後広く市民に知らせることも大切であるとの意見がありました。

以上、本委員会における審査の経過及び結果を御報告いたしましたが、このほかにも審査の過程でさまざまな意見が出されました。執行部におかれましては、こうした意見、要望を真摯に受けとめ、十分に考慮され事務事業の執行に当たられますようお願いいたしまして、産業建設委員会の方向を終わらせていただきます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

次に、予算審査特別委員長報告を求めます。

安藤予算審査特別委員長。

３番（安藤　　功君）〔登壇〕

失礼いたします。

それでは、予算審査特別委員会の委員長報告をさせていただきます。

去る３月14日午前10時より、市民センター３階大研修室におきまして、委員全員出席のもと、執行部から市長、副市長、政策審議監、教育長、各部長、関係職員が出席し、３月定例会において付託されました議案第33号「平成29年度美作市一般会計予算」、議案第34号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算」の２議案について慎重審査を行いました。

初めに、各分科会の委員長報告を受け、その後質疑、討論、採決を行いました。

主な質疑では、総務委員会分科会委員長の報告については、庁舎の耐震の500万円の関係について、また地域おこし協力隊の予算1,000万円の増額についての質疑があり、文教厚生委員会分科会委員長の報告については質疑はなく、産業建設委員会分科会委員長の報告については、荒廃農地等利活用促進交付金について

の質疑が行われました。

次に、討論、採決に入る前に、委員より、議案第33号「平成29年度美作市一般会計予算」について、２つの修正案が提出され、１つは、第１条第１項中の、歳入歳出予算の総額214億4,600万円を620万円減額し、214億3,980万円に修正し、第１条第２項中の第１表歳入歳出予算の歳入中の款10地方交付税、項１地方交付税を620万円減額し、歳入合計を214億3,980万円に、歳出中の款２総務費、項１総務管理費を620万円減額し、歳出合計を214億3,980万円に修正するものでございました。

もう一つは、第１条第１項の歳入歳出予算の総額はそのままで、第１条第２項中の第１表歳入歳出予算の歳出中の款２総務費、項１総務管理費を620万円減額し80万円に修正し、同じく款14予備費、項１予備費に620万円を増額し3,080万円に修正するものです。この２つの修正案に対する質疑はありませんでした。

次に、討論、採決に入り、まず議案第33号「美作市一般会計予算」の原案に対しては、委員より、十二分とは言わないが、ベターな予算として、この予算が美作市民を救い得る、あるいは建設的に発展していく、そういう意味での予算として生かされていくし、当然その目的のために執行される予算として賛成したいとの賛成討論がありました。次に、議案第33号の２つの修正案に対しては、それぞれ委員より、いつまでも補助金に頼ったような予算は納得できないので、修正案に賛成しますなどの賛成討論がございました。

討論を終結し、採決に入り、採決の結果、議案第33号の２つの修正案についてはいずれも賛成少数で否決となり、議案第33号「美作市一般会計予算」は、賛成多数により原案のとおり可決をされました。

次に、議案第34号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、討論、採決に入り、討論はなく、採決の結果、賛成多数により原案のとおり可決されました。

以上で予算審査特別委員会委員長報告とさせていただきます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

次に、議会改革特別委員長報告を求めます。

山本重行議会改革特別委員長。

１７番（山本　重行君）〔登壇〕

これより議会改革特別委員会の委員長報告を行います。

去る３月14日、予算審査特別委員会終了後、市民センター３階大研修室におきまして、委員１名欠席で議会改革特別委員会を開催し、本会議において付託された陳情５件、請願２件について審査をいたしましたので、その結果を報告いたします。

まず、陳情第１号「美作市議会議員の政務活動費の領収書等の議会ホームページでの公開等を求める陳情書」については、委員より、美作市議会では、現在収支報告書はホームページに掲載しており、領収書等は掲載していないが、情報公開を請求していただければ公開されるので、現段階ではこのままでいいのではないかとの意見があり、また委員より、全部公開するのが正しいと思うが、どこまで公開するのか線引きが難しいなどの意見がありました。討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、賛成少数により陳情第１号は不採択となりました。

次に、陳情第２号「議会の評価・議員の自己評価に関する陳情書」については、委員より、議員はそれぞれ自己評価を自分でされている、また市民の皆様がそれを評価されているので、殊さら必要はないと思いますとの意見がありました。そのほかに意見はなく、討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、賛成少数により陳情第２号は不採択となりました。

次に、陳情第３号「請願・陳情の受理期限周知徹底に関する陳情書」については、委員より意見はありま

せんでしたが、陳情の内容について、平成28年11月29日開催の全員協議会で協議の上、12月定例会に係る請願・陳情の受け付け分からホームページに受け付け期限を掲載しておりますので、本件については既に実施しているということで、陳情第３号については採択することに異議ありませんでしたので、採択となりました。

次に、陳情第４号「本会議における一般質問に関する陳情書」については、委員からは意見はありませんでしたが、本件についても、既に一問一答方式を採用しているということで、陳情第４号については、採択することに異議は有りませんでしたので、採択となりました。

次に、陳情第５号「交付を受けた政務調査費の再点検に関する陳情書」については、委員より意見はなく、討論に入りましたが、討論もなく、採決の結果、賛成少数により陳情第５号は不採択となりました。

続いて、請願の審査に入り、請願第１号「美作市ホームページ「借金時計」の表示に関する請願書」については、委員からの意見はなく、討論に入り、委員より、請願理由にもあるが、美作市もこういうことをしながら市民に財政について関心を持っていただきたいと思うので賛成しますとの賛成討論がありました。ほかに討論なく、採決の結果、賛成少数により請願第１号は不採択となりました。

次に、請願第２号「本会議及び各委員会のユーチューブ（ＹｏｕＴｕｂｅ）配信に関する請願書」については、委員より、インターネットを利用した取り組みを今後やっていく必要はあると思う、こういった取り組みは議会としていろいろなやり方を検討し、市民の方にお知らせをしていく必要があると思うので、今後は協議に委ねたいとの意見がありました。ほかに意見はなく、討論に入り、委員より、開かれた議会として必要なことだと思いますので賛成をします、また委員より、議会の中でどのような議論をされているのか市民になかなか伝わらない、一人でも多くの方に知っていただくことが大事であり、何らかの方法で伝えていくことが重要なことだろうと思うとの賛成があり、反対討論として、委員より、今回はユーチューブ配信に関する請願なので、このことに対しては賛成しかねるとの反対討論がありました。ほかに討論はなく、採決の結果、賛成少数により請願第２号は不採択となりました。

以上で議会改革特別委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

各常任委員長及び予算審査特別委員長、議会改革特別委員長からの審査結果の報告はただいまお聞きのとおりであります。

これより各常任委員長及び予算審査特別委員長、議会改革特別委員長の審査報告への質疑を行います。

まず、文教厚生委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで文教厚生委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、総務委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで総務委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、産業建設委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、これで産業建設委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、予算審査特別委員長報告に対する質疑ですが、委員会は議員全員で構成され審査を行っておりますので、質疑はないものと思います。よって、予算審査特別委員長報告に対する質疑を終了したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認め、予算審査特別委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、議会改革特別委員長報告に対する質疑ですが、委員会は議員全員で構成され審査を行っておりますので、質疑はないものと思います。よって、議会改革特別委員長報告に対する質疑を終了したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認め、議会改革特別委員長報告に対する質疑を終了いたします。

続きまして、討論、採決に移ります。

討論、採決は１議案ごとに行います。

初めに、同意第１号「監査委員の罷免について」、これより討論に入りますが、美作市議会申し合わせ事項により、人事案件の討論は省略することになっております。

お諮りをいたします。

本案についての討論を省略することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、同意第１号の討論は省略することに決定をいたしました。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は否決であります。

原案についての採決となります。

再度申し上げます。本案は、原案についての採決となります。

それでは、同意第１号「監査委員の罷免について」、賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって同意第１号は原案のとおり承認されました。

続きまして、議案第１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」、討論に入ります。

討論ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

１号議案について、反対の討論をしたいと思うんですが、指定しようとしている相手方が株式会社共立メンテナンスですけれども、両施設のコンサルとして、前年度年間1,180万円をかけて調査やあるいは提言をしておる会社です。いわば自分で内容を全部掌握をしたり、あるいはまたこれに対する提案などをしてきておる会社ですけれども、こういうのが通常設計士と請負業者とが同じ人だというのはどうも納得がいかない。また、この同社は、美作勝田の給食センターやあるいは放課後児童クラブの指定も受けておるわけです

が、その両方についても、いろいろな問題があるわけです。このような企業に対して、指定管理へ出していくというのは非常に問題があるというような感じがいたしております。したがいまして、この第１号議案については反対を表明したいと思います。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論はございますか。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

私も反対討論をさせていただきます。

これはいつだったか何年か前に、〔聴取不能〕市長ぐらいのときだったか業者の指定管理の話がいろいろと言うてきておりました。3,500万円ぐらいだといってというようなことをちょっと耳にしたことがございます。今回は東栗倉の愛の村パークを含めて6,300万円というような数字を計上しておりますけども、11番議員も言われましたけど、この試算根拠をもう少しきちっとしてもらわなんだら納得できない。それと、途中途中に実行予算を組むわけじゃね、会社というのは。6,000万円出したらええんなら、2,000万円か3,000万円残しておって、それで事業をやろうとするわけです。そうしたときに、あとは３年間計画で、その３年間の間に赤字でもやっちゃろうという人じゃなしに、企業というのは利益を目的と誰もがするわけですから、実行予算だけ残されて、あとはぼろぼろにされたんじゃ、それは武蔵先生もあの世で泣きょうるんじゃないかなというような感じがするわけです。もう少し、11番議員も言われましたけど、こんなものを１年間に1,180万円の金を指定管理じゃなしに、経営アドバイザーとして1,180万円の金を投資して、その結果がこうしたらよくなりますよというような、その見直しの説明もなしに、そこの会社に共立メンテナンスに指定管理というのは、これはどういうふうな関係でされたんか、その辺のところの説明については全然私は聞いておりません。

とりあえず、今まで先人たちが頑張ってきた施設と、最近きのうだったかたくさん車が来ておりました。とりあえず、この間も空手の選手とか剣道の選手とかがたくさん来ておりました。それで、そういうふうなところの風呂にしたって、今３人ぐらい待っておかにゃいけん、１人が洗うのに３人ぐらいが待ちようる、立ってじっと待ちようります、学生が。地元のもんも入ろうと思うても、地元の者が風呂に行っても、これは学生の貸し切りですから、できたらこの時間は御遠慮願いたいと。施設であって自由に使えないというような問題は、このような問題も全部クリアして、それからこれだったら今言ようる指定管理に出してもいいんじゃないかという話にせなんだら、今でもシャワーが全然使えんわけ。シャワーが使えんから、いつもだったら風呂が300円じゃけども、きょうは150円でよろしいというような形の中でやられておりますけども、とりあえずサービスをせにゃいけん施設が、そのような形の中で指定管理に出して、指定管理に出した会社が利益だけ上げてもろうて、あとはもう３年たったらいけんようになったら、はい、さようならというようなことをされたんでは、お客はよそへ逃げてしまう。逃げてしまうお客を戻すということになったら、大変な時間と労力、お金がかかるように思います。ですから、今まで1,180万円入れた金は何だったんならということと、それとその辺のところの見直しここを見直せというような、そういうような説明も全然聞いておりませんので、こういうふうな指定管理、無謀な指定管理については私は反対します。

先ほど11番議員も言いましたけれども、給食の問題、一番食の安全、それから教育の問題、そういうふう

なところまで指定管理に出すような美作市ですから、私はこういうふうなことについては絶対反対いたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論はありませんか。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

私は賛成討論をしたいと思います。

というのは、まず愛の村パークなんていうのは、生い立ちがあると思うんです。その生い立ちというのは、その当時は物すごく右肩上がりの景気対策でやられていた。そういうことからいうと、少々の赤字でも補填してやりゃあええんじゃという形の出発があったと思います。今になってバブルがはじけ、いわゆる緊縮予算で、実際に市民の目線から言うても無理じゃないかというような施設がだんだんだんだんあるわけです。しかし、私たちは努力しながらも、こういう施設というものは、そこの地域での知恵と勇気を持ってやられたという成果が財産として残っている、それを今の段階で私たちが切るというんでなしに、建設的に発展させていくということで、若干の市民の皆さんからいうと犠牲です、若干の犠牲は仕方がないと。そういうことからいうと、我々は本当に努力することは、管理運営の面でリスクがないかというようなことをしながらも、実際にはこの施設を管理者として任せていって、それで美作市がやり得るという条件をつくり出していくということが大事なんで、そういうことからいうと、私はこういう予算はどんどんというわけにはいかんけど、実際には目に余ることでなしに、必要最低限度の補償としてやっていくということが大事なんじゃないかというふうに思います。

そういう点では、この予算がここの施設を守り発展させ、そこの地域での活性化を生んでいくという点での予算であるということを思いながら、賛成討論といたします。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

安本議員。

４番（安本　博則君）

反対討論。

この武蔵とか愛の村は、もとを言えばある議員が代表質問か一般質問か忘れましたけど、３施設、愛の村、武蔵、それから雲海を閉めてはどうかというような質問をされました。そして、その後に27年度でしたか、共立メンテナンスに業務管理の指導を委託して、１年間やってみました。ところが、その１年間28年度の３月が終わらない段階で市長の表明の中に、９月いっぱいで閉めようと思うんだというようなことがありました。では、1,188万円もかけて、毎月二、三人の方が１日か２日来られて、いろんなことを調べて、その後について何の対策も打たないまま閉めるというのは、余りにも無謀過ぎる。その結果、３月末まで見て、そしてせめて半年、１年やってみた、だけど無理なんだと、だから閉めていくんだ、それを理解してほしいというんであれば私らもわかるけど、管理がまだ３月いっぱい終了してない間から閉めるという方向性を出してきた。そういうことについては、私は到底納得できないし、先ほど来２名の議員が発言したように、全てを共立メンテナンス、先ほど出た学校給食問題、放課後児童クラブ問題、そして今回の愛の村、武蔵の指定管理は、当然この業者は１年間愛の村、武蔵を見てきているから、内容はある程度わかっていると思う。ところが、当初説明では、３社が来たけど、最終的には１社だったから、これをヒアリングなり選定委員会でしたと。そして、選定委員会の中も、今ここで罷免の同意がされた代表監査委員が指定管理のメン

バーにおりましたけど、これは条例でも何でもないから選ぶ権利は市長にあると思うんですけど、その中でその人を抹消し、新たに民間の銀行関係者を入れたというようないきさつもあります。したがって、私は余りにも指定管理をする上で、内部で全てを指定管理の会議でやる、誰が考えても内部でやるんじゃなしに、第三者がほとんどのメンバーに、例えば５人おれば、３人、４人が部外者、内部でない、そして参考で担当部長、課長を呼んで説明を受ける、そして業者も説明を受ける、そういう中で選定しとけば私もわかるんですけど、そうじゃない身内で選定して、その中で決める、こういう疑問もありますので、今回この指定管理については私は賛成できないので、反対いたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

金谷議員。

１番（金谷　典子君）

私も反対の立場で討論いたします。

指定管理の業者につきまして、ふさわしいと思うところが全くありません。それで、今までのほかの議員が言われましたように、この３年間指定管理をして、こういう方針で必ずこういうふうにいくというようなことの説明もございませんので、内容についても全くわからない状態で指定管理を任せるということは、議員として責任上反対するしかございませんので、反対いたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

ほかの反対討論された方と同じようなことになりますけれども、１点だけ強調しておきます。

コンサルとして１年間やっていただきました。業者がどうのこうの個別のことは別にしまして、1,180万円ということでやっていただきました。それで、恐らくこれは３月末までのコンサルだと思うんですが、それに対しての結果が出るはずです、こうしたほうがいい、ああしたほうがいいと。そういう結果が出て初めてこの施設をどうしようかという考えが浮かんでくるのではないかと思います。そういった関係で、それが出ないままこれを指定管理に出すというのは私は納得できません。例えばこれの結果が出た、それでその結果に従って１年間同じようにやってみたけれども、この結果に対してこういうふうにやったけど、それでも成果が上がらなかった、それで指定管理に出すというのはこれはわかります。それはわかりますが、結果が出てない中で、これで指定管理に移行するというのは私は納得はできませんので、反対をいたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

万殿議員。

１５番（万殿　紘行君）

いろいろと議員の皆さんは意見があるようですけれども、この市内は、雲海も入るんですけれども、いろいろと各市町村が合併するときにこしらえてるんです、それで合併して、直営でやったり、第三セクターでやり、ええことならんから最終的にこういう方向に行っとんよ。へ理屈はなし。

以上。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）

私も愛の村パーク、それから武蔵の里については、一般質問も何回もしております。そういった中で、今先ほどから反対討論をされた方が何の報告もないということも言われました。確かに具体的な報告は私も聞いておりませんけれども、中にお風呂、クアガーデンを閉鎖したということも、これは共立メンテナンスが入られて管理アドバイザーとしての途中でしたけれども、これがあっては本当に大変なことになるというような判断のもとで、９月にはクアガーデンを閉鎖されたと思います、１つあります、それが。それから、愛の村パークにつきましては、愛の村元気プロジェクトチームといって、地域の地元の方がチームをこしらえて、そういった方たちと一緒に共立メンテナンスの方が協議をしながら、来年29年度に向けていろんなことを計画をされたり、切るところは切るというような本当に細かな相談を今されているように聞いております。現に29年度の予算の中でも、愛の村パークの中の宿泊施設をつくるというような予算も計上されておりましたので、先ほど反対された議員の中には、何の報告もない、何をしたんだというふうに言われますけども、そういうことはないというふうに思っております。しっかりと共立メンテナンスさんにこれからの計画を立てていただいて、立派な運営をしていただきたいというふうに思いますので、それを期待して、私は賛成討論といたします。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第１号「武蔵の里関連施設及び愛の村パークの指定管理者の指定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第１号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第２号「美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について」、討論に入ります。

討論ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

この２号議案についても、反対の立場で討論したいと思うんですが、この大芦高原キャンプ場の件については、指定しようとしている一般社団法人上山集楽代表西口和雄氏について異議があるわけではございません。むしろこの上山地域ではもっともっとしっかり頑張っていただいて、発展を願っておるところでございます。

しかしながら、ここで反対をしたいというのは、美作市の公の施設の指定管理の指定手続に関する条例というのがございます。その第２条で、市長は、指定管理者に公の施設の管理を行わせようとするときは、当該公の施設の指定管理者になろうとする法人その他団体を公募するものとするという規定がございます。しかしながら、この公募の方法に問題があったんではないかと、どのような公募をされたのかその辺がはっきりしておりませんし、１社しか公募がなかったというようなことは、この公募に問題があるというように私は思います。したがって、この案件については反対をいたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

私はこういう案件に対しては、疑問はいつも持っておるんです。しかし、公的に言うと、こういう施設を潰していく、公的な人が潰していくというのは私は賛成できんといつも思っております。大芦高原というのは、日本海がかつて見えるというぐらいに宣伝されようたところです、そういう点では魅力ある施設です。それを魅力を十分活用しておるかどうかという問題については、問題はあると思います。それは、あっこの前の道路の木が大きくなって、向こうが見えんというのを私はいつも感じております。そういうものをちゃんと施設として活用しながら、ちゃんとして残していく、大芦高原なんていうのは、英田地区の方々の本当の心のふるさとのような財産です。そういうものを私たちがそういう点で潰していくということでなしに、援助しながら、しかも知恵を出して銭がかからないような形でのそういう施設をつくり出していくと、魅力ある施設として、私たち美作市民が十分活用できるような施設に変えていく、そういうものとして位置づけていくということが大事だろうというふうに思います。そういう点では、なくするということより、発展的にやっていく、建設的にやっていくということを私は切に思いながら、賛成討論といたします。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

私も反対の立場から討論させていただきますけども、これを指定管理に出すどうのこうのというのは、今あそこに車をたくさんいただいている、西口さんがされようるここの何とかという会社じゃなくて、一般社団法人上山集楽というのはたくさん車をいただいておる。この前ちょっとした大きなマスコミから電話がございました。それで、今大阪で森友学園が大変にぎやかに毎日国会でも論議されようる。それで、そこの中に安倍総理の奥さんが岡山から２回にわたってヘリコプターで上山に２回も来られているというようなことも聞いております。それで、これも公費じゃろうか何じゃろうかというようなことも言ようりました。それよりか、あそこにいただいとる〔聴取不能〕は、写真で見る限りは今は全部見れるらしいです、パソコンか

何かでその集落の上を全部。そうしたら、あんだけ荒れてひどう大したことをしょうるようなことはないのに、何であんだけの大きな金を投資してもらえるんじゃろうかと、車をいただけるんじゃろうかというような一つの疑問を持っておるらしいです。そのようなマスコミのまた火種になって、ええことの火種になるんだったらええけども、その人との関係がどういうような形になったんか、この辺のところは私らが言わんでも私、知ったことはないんじゃけども、市長さんが一番よう知っとると思うんじゃけども、それの説明だけはきちっとこの委員会の中でされたんか、されてなかったんか。委員長の中でもそういうふうな説明もなかったし、我々も委員会へおって、その説明も聞いておりませんので、これについてはちょっと時間を置いたほうがええんじゃないかなということで反対をいたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第２号「美作市緑地等利用施設の指定管理者の指定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第２号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第３号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

安本議員。

４番（安本　博則君）

この議案第３号の債務負担行為の補正、これについては、先ほど第１号議案と関連がありますので、私は反対いたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

この３号議案については、債務負担行為の補正がございますが、武蔵の里関連施設及び愛の村パークの管理運営事業にかかわるものでございます。29年度から31年度の３年間で１億9,000万円となる債務負担行為を上げておるわけです。これは、先ほど４番議員も言われたように、さっきの第１号議案で反対したとおり、指定管理に問題があるということで反対をいたしておきます。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

私も先ほど反対しましたんで、関連しますので、これは反対させていただきます。

１億9,000万円のお金を債務負担行為で、あそこはお客が来まいがどうしようが、ここで債務負担で出しましょうというて言うたら出さにゃいけんわけじゃ。武蔵の里をぐしゃぐしゃにされてまで、この債務負担行為で１億9,000万円出すということについては、これは市民の血税があそこへ投入するわけですから、私はこれについては反対いたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

反対ばっかしで美作市が構成されとるというふうに見られたんでは私たちの立場はないんで、賛成討論を行っておきます。

確かに武蔵の里関連施設及び愛の村パーク管理運営事業費で債務負担行為が１億9,000万円あります。しかし、実際には施設としては３つぐらいはあるわけで、１施設に使う費用としてはまあ少数です。そういう意味では、私たちは何回も言いますが、公でつくり出したものをそこの場所で今の美作市議会が潰してしまうという点では、私は情けないと。知恵を出し、それからいろんなことをしながらも、国、県に対する呼びかけをしながらも、しかも地元の人たちと協力をしながら運営というものをちゃんとやっていく、その上に私たちが建設的にやっていければいいなというふうに思っております。そういうことを考えながら、こういうものに対する予算というものは、十分配慮しながらでありますが、やっていく。債務負担行為ですから、実際には銭は使っていくわけですけど、３年間ですから、そういう意味では十分施設を大事にしながら、施設をそういうことをしながらもきちっとやっていくということを考えながら賛成討論にしておきます。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第３号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第３号は委員長の報告どおり可決されました。

ただいまから１時まで休憩といたします。

午前11時56分　休憩

午後１時00分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

続きまして、議案第４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第４号「美作市情報公開条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第４号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」、討論に入ります。

討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第５号「美作市議会議員の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の制定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第５号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第６号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第６号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第７号「美作市広報審議会設置条例の制定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第７号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第８号「美作市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第８号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第９号「美作市特別会計条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

議案第９号ですが、美作市武蔵の里特別会計及び美作市愛の村パーク特別会計を29年４月１日から廃止するというものであります。これにつきましては、１号議案及び３号議案で反対をいたしております。その関連がございまして、この９号議案につきましても反対をせざるを得ないということでございます。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第９号「美作市特別会計条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第９号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第10号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第10号「美作市税条例等の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第10号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第11号「美作市資金の積立てに関する基金条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第11号「美作市資金の積立てに関する基金条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第11号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第12号「美作市英田就業改善センター設置条例の廃止について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第12号「美作市英田就業改善センター設置条例の廃止について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第12号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第13号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第13号「美作市英田創作館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第13号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第14号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第14号「美作市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第14号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第15号「美作市獣肉処理施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第15号「美作市獣肉処理施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第15号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第16号「美作市簡易水道事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第16号「美作市簡易水道事業の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第16号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第17号「市道路線の認定について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第17号「市道路線の認定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第17号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第18号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第18号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第18号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第19号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第19号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の変更について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第19号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第20号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第20号「権利擁護事業の事務の委託を受けることについて」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第20号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第21号「相互救済事業の委託について」、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第21号「相互救済事業の委託について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第21号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

議案第22号は一般会計の補正予算（第６号）ですが、反対をいたします。

中身は、社会福祉費のうち、臨時福祉給付金が１億1,000万円余りを補正されておるものの、全体では6,200万円余りが減額をされております。児童福祉費も2,100万円が減額となっておりますし、生活保護費については4,000万円の減額、保健衛生でも580万円が減であり、市民の福祉に関するものや農林関係の費用が１億円近い減額になっておるなどのことによりまして、私は補正予算に反対をいたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第22号「平成28年度美作市一般会計補正予算（第６号）」ついて、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第22号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」について、討論に入ります。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第23号「平成28年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第23号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第24号「平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第24号「平成28年度美作市介護保険特別会計補正予算（第３号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第24号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第25号「平成28年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第25号「平成28年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第25号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第26号「平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第26号「平成28年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第26号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第27号「平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第27号「平成28年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第27号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第28号「平成28年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第28号「平成28年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第28号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第29号「平成28年度美作市武蔵の里特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

議案第29号についてですが、内容を見ますと、事業収入が1,500万円減っております。そういうこともあって、一般会計からの繰り入れは480万円追加をして、総額では7,364万円が一般会計から支出されることになっております。このことについては、過去の事業運営についても、一般会計からの繰り入れが多過ぎるということで反対をしてきておりますので、本件についても反対せざるを得ないということです。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

反対の立場から討論をさせてもらいますけれども、やはり指定管理はこういうところを全然見ておらんのよ。共立メンテナンスに経営アドバイザーの1,180万円も出してとって、お客は全然来ん、これは１つだけで楽市楽座に290万円の赤字が出ておる。中身を見てみなさい、これは恐らく人件費ばっかしやろう。なぜこういうふうなやつを指摘せずに、ここへ補正予算を組まにゃいけんの。

それから、今までプールしようた人たちが４月まではずっと引き続いておるわけじゃから、あんた方が悪うしとって指定管理というのはもってのほかじゃねえか、これは。あんた方がめんでいきょうるんじゃがな、みんなを。指定管理出すんだったら、あんた方出しゃええんじゃ。こういうふうなべらぼうな補正予算を出いちゃいけん。きちっとした中で、努力した中で、お彼岸が20日は中日だった、お花でもどっどどっどとあそこへ皆買いに行かにゃいけんのじゃ、皆が。品薄じゃから、よその委託の人も置きゃあへん。あそこで働きょうる人は20万円から上の給料をもらようると評判になっとる、何ぼもらようるか知らんけど。それを２人も雇うて、お客は全然おらんのに。佐用の道の駅へ行ってみなさいよ、ガードマンが出て車の交通整理をしょうる。それこそ武蔵が泣きょうるわ、ほれで。指定管理に出すんだったら、共立メンテナンスに出すんだったら、あんた方を出いたほうがええぞ、武蔵の里を出いたり愛の村パークを出いたりするよりか、もう少しこの辺のところをきちっと説明をしてからせなんだら、市民に申しわけない。

以上。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第29号「平成28年度美作市武蔵の里特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第29号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第30号「平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第30号「平成28年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第30号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第31号「平成28年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

議案第31号ですが、「愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」、ここでも事業収入が731万円減少して、一般会計からの繰入金が500万円、繰入金を合わせて4,200万円となっておるものでございますが、いろいろまきボイラーなどの効果もこの関係では如実に効果を高めておるということにはならないというように思います。したがいまして、この愛の村パークについては反対をいたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第31号「平成28年度美作市愛の村パーク特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第31号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第32号「平成28年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第32号「平成28年度美作市水道事業会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第32号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第33号「平成29年度美作市一般会計予算」について、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

議案第33号でよろしいな、議案第33号につきましては、平成29年度一般会計予算ですが、この中に含まれておるのは、庁舎耐震化基本設計委託料という500万円が含まれております。これは、さきの議会でもいろいろ申し上げましたが、いわゆる庁舎を建てる基本が庁舎建設の市民委員会、ここに答申を出して決まったことがこの審議会にかけられることなく、現在の庁舎を耐震化してここを使うんだということが突然出てきたわけです。これに対する予算が500万円でございまして、この審議会というものが生かされていない、そのほかにもいろいろ市民からの要望などがありながら、こういうことを無視して進めておる。例えばメガソーラーの関係についても、地元が反対をしておるにもかかわらず、業者と協定を結んでしまったとか、こういうような問題もあります。

国際交流費の旅費の問題ですが、これも200万円近いものが組まれておりますし、男女共同参画費も対前年度比べましても14万2,000円減額となっておりますが、むしろ増額すべきではないかということでございます。

また、営業活動では、看護師養成学校整備費補助金として、これは３億2,383万2,000円というものが組まれております。教育施設等誘致促進事業としては700万円、そして特例債を使って対応されようとしておるわけですが、一般財源からは6,537万3,000円が出されようとしておるわけです。こういうことについても、地債でやる場合、特例債でやる場合、これらを返していくということで、将来返金しなければならないもの

でございますし、そしてまた欧州剣道チーム、剣道大会交流事業費というのが243万円組まれております。美作創生費の旅費は249万1,000円で、国際交流費と合わせると600万円余りになるわけですが、これらが事業効果があるということについては甚だ疑問があるということ。そして、美しい里山事業、ＮＯＤＡレーシングなど指定管理者委託問題など、多くの問題を含んでおる予算であります。したがいまして、私はこのたびの会計について賛成できるものではないということでございます。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

西元議員。

１０番（西元　進一君）

賛成討論をします。

私は、この29年度予算というのは、バランスのとれたよい予算であるというふうには感じております。

その中で二、三点、賛成のための討論をしたいというふうに思います。

まず、歳入です。

歳入は地方交付税でありますが99億4,000万円というぐらいな予算ができております。国庫支出金で15億4,146万円、県の支出金で12億6,285万4,000円、市税で、これは美作市民が血税として納めてもらうもんですが、29億1,180万円というふうになっております。こういう点では、非常に歳入にしても、国、県からもらった銭が多いとは言いながら、しかし美作市のように立ち行かないというようなそういう市民的なものがある中では、交付税に頼ったり県費に頼ったりすることが私は非常に大きな問題だろうと。そういう点では、この歳入に対する美作市民というのは大きな成果をおさめておるというふうに思います。

それから、歳出です。

歳出は、本当にバランスがとれておるというふうに思います。民生費が50億8,176万1,000円ですか、これはいわゆる民生ですから、生活のできるような予算配分がなされているというふうに思います。衛生費が18億3,252万9,000円、農林水産費で16億3,549万6,000円というふうになって、土木費が33億4,713万7,000円、教育費で20億6,228万1,000円、公債費が29億1,328万1,000円というふうになって、いわゆる公債費としては十何％という予算に対する公債ですから、そういう点では健全な目標値ができているというふうに思います。

美作市民は今、私たちが生活する上で市の予算というものがどういうふうに生きているかということは身をもって感じられるというふうに思います。そういう点では、美作市民に対する貢献ができる予算として生きているというふうに思います。私たち議員がこの予算をもって本当に市民の中に入り、市民とともに予算を十分開花できるような予算として生かしていくという点では、市民目線からいうと大きな成果のある予算であるというふうに思います。その点では、いわゆる建設的で活性化の予算として美作市民に生かされる予算として、私は賛成できるというふうに思って、賛成討論にさせていただきます。ありがとうございます。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

岩江議員。

１３番（岩江　正行君）

反対の討論をさせていただきます。

１点目は、この前の特別委員会でも申しましたけども、庁舎の問題、ここに500万円の耐震化の基本設計の委託料500万円の予算を計上しております。あなた方は、いつここの水没地域の改善できる説明を市民に

いつしたんじゃろうかと思って。これは、ここは水没地域じゃからだめだからと言うたのは、あんた方が言うたんです、副市長、安部副市長。あんたね、38災の湯郷からこの辺のところは全部浸水した、その当時の写真を皆さんに配って、ここは危険ですよ、危ないですよというて説明したんじゃ。その水没地域の改善もせずに、災害のときの司令塔が水没してはだめだから、高台に持っていかにゃいけんのんじゃと言いながら、それをいつ改善されたんなということが先です。あんた方の言うとおり、水没地域に市民の皆さんたくさん生活しておられるんだから、この問題を先に解決せなんだら、ここへまた庁舎を建て、庁舎が皆さんと同じように水没したら困るでしょう。河川改修して通水断面を十分とって、市民の安全・安心は一番に考えていかにゃいけん、これが１点。

それと、先ほど来総務委員長の報告にもありましたけど、里山の交付金は、あんた方はこがい言うとんじゃ。交付金がいただけたら、10アール当たりに２万6,000円か３万円ほどいただいたら、１年間で１億何ぼのお金が入るんだと、１億何ぼのお金が入る。そのお金は里山を管理するのにそのお金を入れたら、雇用の創出になるというて言うとんよ。いつから今度は福祉のお金にかわったん、これは。まあ、その場その場でようこれほどふらふら思いつきの説明ができるんじゃと思う。今回の当初予算を見てみなさい、前年に対して５億6,000万円の地方交付金が減額されとんでしょうが。あんた方が書いたつくった資料じゃろう。このしわ寄せがどこに行くですか。ええころの健全財政、健全財政と、何が健全財政なら。ベトナムやヨーロッパのほうやアメリカのほうに投資セミナーじゃどうのこうのといって行くんだったら、今までの市長さんは全部東京に少しでも交付金をお願いしたいというて通ようたんじゃ。何の努力をしてきたんなら、これは。とんでもない話じゃ、これは。

それと、看護養成学校の整備の補助金で８億2,383万2,000円を計上しておる。これは、生徒が来なんだらどないするん。一番初めは680人言うようたんで。これがこのような９月になったら360人になった。どないするんですか、これは、生徒が来なんだら。それと、私学の関係がまだこれからでしょう。その辺のところをよう肝に銘じて行政をやってもらわなんだら私は納得できません。

以上。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

安本議員。

４番（安本　博則君）

私もこの29年度予算には反対です。

今反対討論をされた方々のこともあります。ただし、まだ中には事業をする上で大事な予算もあるのはよく承知しております。だけど、私は先ほどの予算委員長の報告の中に減額修正という言葉だけで、じゃあ何を減額するんなというところが触れてなかったので、私が減額修正を出した本人といたしまして、皆さんにみまちゃんネルを見ておる皆さんに聞いてもらいたいと思います。

まず、ＮＯＤＡレーシングのことなんですけど、28年度より５年間1,000万円を出していく、そして５年後は交付税が１人当たり20万円か30万円が国から来る、そのうちの20万円を出していくというような説明で、28年度は予算を1,000万円組みました。それで、今回の29年度予算は、スポンサーがついたから700万円に減ってます。努力は認めます、だけどこのまま32年まで多額のお金をＮＯＤＡレーシングに入れていくと

いうのは、よく国がアメリカ人のことで思いやり予算と言いますけど、全く同じようなＮＯＤＡレーシングに対する思いやり予算にしか私は見えません。そして、32年まで待たなくても、29年度予算から１人当たり当初計画である20万円掛ける生徒の数、80万円というような修正を出したわけです。それでもし生徒が来れば、また補正予算で上げたらいいと思うんです。当初市長は30人来て、Ｆ１レーサーが出たらというような説明をされてます。その中で市民の税金をここにいつまでも入れていく、今でしたら一人頭250万円、それがあるんであれば、学校のエアコン問題、学校給食もろもろしようと思えばできるお金があると思うんです、計画を立ててすれば。そういうこともありますので、私はこの予算をそういうことが出てないということで反対といたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

鈴木議員。

１２番（鈴木　悦子君）

賛成の立場で討論いたします。

今年度の予算につきましては、大型予算そして市民密着型の予算の編成とバランスのとれた予算編成となっていると私は感じました。

まず、地方創生の事業ということで、スポーツ医療看護専門学校につきましては、この補助金につきましては、人口の増加、それから地域の活性化、そしてまた加えて保健福祉・医療の充実を図るための人材育成の拠点づくりの予算であるというふうに思いました。

２つ目の大きな予算としましては、安全・安心、就学前幼児教育の充実のための湯郷幼児園建設という予算であります。

そして、３つ目が安全・安心、環境に対応するための最終処分場の予算であります。これらは全て美作市の安全・安心、人口の増加、地域活性化、そして子どもたちの教育のための予算である、重要なものであるというふうに感じております。

そして、反面また声なき声に対応するために行政懇談会、ＰＴＡの懇談会、それから市民アンケート調査による結果により、市民密着型の予算が16項目にわたり大きく反映されて、市民に大きく反映されていると思います。こういった市民密着型の予算につきましては、それぞれきょうテレビを見ておられる市民の方も安心・安全だなと感じていただけるんじゃないかというふうに思います、内容がわかりましたら。

そういうふうなことから、大型予算そして市民密着型の予算でバランスのとれたきめ細やかな編成だというふうに私は思っております。賛成意見といたします。

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

萬代議員。

７番（萬代　師一君）

当然29年度当初予算でございますので、非常に大事な予算であろうかと思います。先ほども鈴木議員のほうから滋慶学園の事案も出てまいりまして、私もこの事業につきましては、非常に大賛成でございます。

ただ、看護師等養成学校整備補助金は本年度予算といたしまして８億2,383万2,000円が計上されております。こちらのほうは学校法人大阪滋慶学園の補助金でございますが、校舎建設に伴う入札の結果といたしましては、設計監理が2,419万2,000円、それから建設工事が８億9,964万円、合計といたしまして９億2,383万2,000円となっております。そのうち平成28年度の補助金額といたしまして１億円を差し引きました８億

2,383万2,000円が本年度予算当初予算のほうへ計上をされております。当初説明におきましては、鳥取市内で整備をされた同校の整備費を参考といたしまして、概算総事業費を15億円とし、その内訳は校舎建設を設計監理費が5,000万円、建設工事費が12億円、したがいまして校舎建設に伴う合計金額といたしましては12億5,000万円、そのうち10億円を上限として補助をするとの説明でありました。しかし、校舎建設に伴う事業費が、先ほど申しました９億2,383万2,000円ということで、上限の10億円以内であるとしまして、全額を補助することとなります。この補助のあり方につきましては、従来の説明とは異なっております。したがいまして、本予算を容認することはできませんので、反対の立場で討論に参加させていただきました。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結いたします。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第33号「平成29年度美作市一般会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第33号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第34号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

議案第34号につきましても、反対をしたいと思います。

歳入で国庫負担金、国庫補助金合わせまして１億円余り減額されております。もともとは国保会計は２分の１を国が負担金や補助金の格好で持っておったわけですけれども、この２分の１というのが消費税を上げた時点から、消費税は全て福祉のために使うということで進められておったわけですけれども、社会福祉費が非常に減らされて、国保の関係の税が高くなってきておるわけです。30年度から県下一つに統合されるわけですけれども、そういう中で基金が５億円を上回るものがあるわけですから、したがいましてこの国保税の一層の減額をすることができるのではないかというように思います。そういうことで、私はこの国保会計につきましても反対を表明しておきたいと思います。

議長（山本　雅彦君）

反対討論がありました、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第34号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第34号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第35号「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」について、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

この議案第35号につきましても、年金が下がり続ける中で、介護保険料が高過ぎる、生活ができないというような声が私どもが行ったアンケートの中でもしっかり要望が出ております。７億9,100万円を下げることについてあるわけですけれども、このことについても、保険料が高過ぎるということで反対をいたしておきます。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第35号「平成29年度美作市介護保険特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第35号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第36号「平成29年度美作市簡易水道特別会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第36号「平成29年度美作市簡易水道特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第36号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第37号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」について、討論に入ります。

ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

住宅新築資金等貸付事業特別会計予算ですけれども、貸付金の元利収入で見ましても、滞納が大幅に増加している中で、現年分132万3,000円が滞納繰越分として全額では615万円となっております。繰り越しの分のさらなる徴収努力が必要であるわけで、これは貸付金収入をもっと見込むべきだということで反対をいたします。

議長（山本　雅彦君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第37号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第37号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第38号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第38号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第38号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第39号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」について、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第39号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第39号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第40号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第40号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第41号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第41号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第41号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第42号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

本城議員。

１１番（本城　宏道君）

この議案第42号につきましても、議案第35号と同じように、アンケートに寄せられた回答を見ますと、保

険料が高過ぎるということで、何とかしてもらわなんだら生活もできんではないかというような意見が多数寄せられております。年金が下がる中で物価が上がって、非常に年金の中から強制的に天引きをされておるわけで、このことについても非常に怒りの声が寄せられております。そういうことで、この後期高齢者医療の特別会計についても反対をせざるを得ないなということでございます。

議長（山本　雅彦君）

反対討論がございました。

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第42号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第42号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第43号「平成29年度美作市水道事業会計予算」について、討論に入ります。

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第43号「平成29年度美作市水道事業会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第43号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第44号「平成29年度美作市病院事業会計予算」について、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第44号「平成29年度美作市病院事業会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第44号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第45号「平成29年度美作市下水道事業会計予算」について、討論に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

議案第45号「平成29年度美作市下水道事業会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第45号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、陳情第１号「美作市議会議員の政務活動費の領収書等の議会ホームページでの公開等を求める陳情書」について、討論に入ります。

なお、討論は原案に対してとなりますので、原案に対する賛否の討論をお願いします。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は不採択でありますので、原案についての採決となります。

再度申し上げます。本案は原案についての採決となります。

それでは、陳情第１号「美作市議会議員の政務活動費の領収書等の議会ホームページでの公開等を求める陳情書」について、原案のとおり採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成少数。よって、陳情第１号は不採択となりました。

続きまして、陳情第２号「議会の評価・議員の自己評価に関する陳情書」について、討論に入ります。

なお、討論は原案に対してとなりますので、原案に対する賛否の討論をお願いいたします。

討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は不採択でありますので、原案についての採決となります。

再度申し上げます。本案は原案についての採決となります。

それでは陳情第２号「議会の評価・議員の自己評価に関する陳情書」について、原案のとおり採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成少数。よって、陳情第２号は不採択となりました。

続きまして、陳情第３号「請願・陳情の受理期限周知徹底に関する陳情書」について、討論に入ります。

討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択です。

陳情第３号「請願・陳情の受理期限周知徹底に関する陳情書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、陳情第３号は委員長の報告どおり採択されました。

続きまして、陳情第４号「本会議における一般質問に関する陳情書」について、討論に入ります。

討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択であります。

陳情第４号「本会議における一般質問に関する陳情書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、陳情第４号は委員長の報告どおり採択されました。

続きまして、陳情第５号「交付を受けた政務調査費の再点検に関する陳情書」について、討論に入ります。

なお、討論は原案に対してとなりますので、原案に対する賛否の討論をお願いいたします。

討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は不採択でありますので、原案についての採決となります。

再度申し上げます。本案は原案についての採決となります。

それでは、陳情第５号「交付を受けた政務調査費の再点検に関する陳情書」について、原案のとおり採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成少数。よって、陳情第５号は不採択となりました。

続きまして、請願第１号「美作市ホームページ「借金時計」の表示に関する請願書」について、討論に入ります。

なお、討論は原案に対してとなりますので、原案に対する賛否の討論をお願いします。

討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は不採択でありますので、原案についての採決となります。

再度申し上げます。本案は原案についての採決となります。

それでは、請願第１号「美作市ホームページ「借金時計」の表示に関する請願書」について、原案のとおり採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成少数。よって、請願１号は不採択となりました。

続きまして、請願第２号「本会議及び各委員会のユーチューブ（ＹｏｕＴｕｂｅ）配信に関する請願書」について、討論に入ります。

なお、討論は原案に対してとなりますので、原案に対する賛否の討論をお願いします。

討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は不採択でありますので、原案についての採決となります。

再度申し上げます。本案は原案についての採決となります。

それでは、請願第２号「本会議及び各委員会のユーチューブ（ＹｏｕＴｕｂｅ）配信に関する請願書」について、原案のとおり採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立少数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成少数。よって、請願第２号は不採択となりました。

日程第２　　議会改革特別委員会委員長の報告について

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第２、「議会改革特別委員会委員長の報告について」を議題とし、議会改革特別委員長より報告をしたいとの申し出があります。

お諮りをいたします。

本件は申し出のとおり報告を受けることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。したがって、議会改革特別委員会委員長の報告を受けることに決定をいたしました。

山本重行議会改革特別委員会委員長。

１７番（山本　重行君）〔登壇〕

議会改革特別委員会の委員長報告を行います。

本特別委員会に付託された調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第110条の規定により報告いたします。

平成25年６月定例会において、議員発議により設置されました本特別委員会も任期中最後の定例会を迎えることとなり、最終の報告となります。

今定例会までに本特別委員会関連の会議は累計で19回開催され、美作市議会の改革に向けた諸課題について慎重審議してまいりました。

今任期中の主な成果及び結果については、まず平成25年９月25日に本特別委員会の調査項目としていた議会改革に関する諸問題についての調査研究に、行政全般について調査できる範囲を広げるため、行財政改革に関する諸問題についての調査研究、関連する議案等の審査の２項目を追加することとしました。

平成26年１月18日には、美作文化センターにおいて、総務省自治行政局地域政策課長内閣官房内閣参事官猿渡知之氏を講師にお招きし、地域の魅力を見つけて元気になろうと題して講演会を開催いたしました。

また、より多くの市民の方々に本会議を公開するために、みまちゃんネルの議会中継を平成27年３月定例会から、本会議の開催された夕方６時より再放送を行うことを決定し、皆様御存じのように、現在は本会議の中継とその当日に再放送を行っております。なお、臨時会については、その都度議会運営委員会で諮ることとなっております。

平成27年６月定例会では、議会改革特別委員会委員の定数変更についての議員発議が可決となり、本特別委員会は、全議員で構成することとなりました。

その後、それ以前から本特別委員会で議論されていた美作市議会基本条例について、４回にわたり特別委員会を開催し、慎重審議の結果、平成28年３月定例会での美作市議会基本条例の制定についての議員発議に至り、平成28年４月１日付施行となりました。また、基本条例施行に伴い、美作市のホームページ上において、新たに一般質問の通告一覧表並びに議案等に対する各議員の賛否状況等を情報公開することとなりました。

本年度に至っては２回特別委員会を開催し、議会の広報紙や議員定数などについて議論をいただき、今定例会会期中に最後の３回目の特別委員会においては、先ほど報告をしたとおりでございます。

最後になりますが、大変長期間にわたり各委員の皆様方におかれましては、美作市議会の改革に向け御理解、御協力また慎重なる審議をいただきまして、大変感謝を申し上げまして、議会改革特別委員会の最終の報告とさせていただきます。ありがとうございました。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

議会改革特別委員会委員長の報告が終わりました。

議会改革特別委員会は議員全員で構成され、調査を行っておりますので、質疑はないものと思います。よって、議会改革特別委員会委員長報告に対する質疑を終了したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。

なお、ただいまの議会改革特別委員会委員長報告において、委員会で調査中の事件について、調査終了の報告がありました。よって、議会改革特別委員会の調査は終了いたしました。

ただいまから10分間休憩いたします。

午後２時07分　休憩

午後２時17分　再開

議長（山本　雅彦君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第３　　美作市新庁舎整備特別委員会委員長の報告について

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第３、「美作市新庁舎整備特別委員会委員長の報告について」を議題とし、美作市新庁舎整備特別委員会委員長より報告をしたいとの申し出があります。

お諮りをいたします。

本件は申し出のとおり報告を受けることにしたいと思います、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。したがって、美作市新庁舎整備特別委員会委員長の報告を受けることに決定をいたしました。

山本重行美作市新庁舎整備特別委員会委員長。

１７番（山本　重行君）〔登壇〕

それでは、委員長報告を行います。

美作市新庁舎整備特別委員会に付託されました調査事件について、お手元に配付しております資料のとおり、会議規則第110条の規定により報告いたします。

平成27年12月定例会において、議員発議により設置されました美作市新庁舎整備特別委員会も美作市議会議員の任期が平成29年４月23日までであることから、本特別委員会に課せられた責務も任期満了に伴い、終了いたしますので、最終報告といたします。

平成28年第１回３月定例会にて上程された本特別委員会に付託された議案第１号「美作市役所の位置を定める条例の一部を改正する条例について」を審議するための会議を、今定例会までに累計５回開催いたしました。

執行部から示された案は、新庁舎の位置を中尾地内に変更するもので、採決に至るまでの概略を申し上げますと、３月18日の特別委員会の審議においては、購入しようとする土地の位置、地形、面積、予算、合併特例債の活用等の説明を受け、説明に対する質疑や交通の便について等の質疑を行い、継続審査となりました。

次に、４月14日の特別委員会においては、現地視察を行い、その後審議に入り、執行部から、ハザードマップによる浸水地域、ほかの候補地等の説明を受け、委員から、説明に対する質疑や駐車場の面積、隣地の承諾、林野駅へのアクセス等についての質疑があり、再び継続審査となりました。

次の５月９日の特別委員会では、執行部から、本庁の来庁時の交通手段アンケート結果の報告があり、それに対する質疑や周辺道路の改良、残土処理、有効利用面積、地盤、価格、現庁舎の借地料等の質疑がありましたが、引き続き継続審査となりました。

次の６月14日の特別委員会においては、執行部より提示された計画図面が地質調査等の根拠に基づいたものでないため、審議するに当たり、判断材料として信憑性が薄いものと判断し、執行部に対し、ボーリング調査を実施することを可決し、継続審査となりました。

次の８月19日の特別委員会においては、執行部から、ボーリング調査の結果報告を受け、盛り土の性質、厚さ、支持層などの説明を受けました。質疑では、ボーリング調査結果、庁舎建設費、それに伴う附帯工事等の概算、合併特例債の対象等についての質疑が行われた後、討論、採決に入り、採決の結果は各委員御存じのとおり、否決となりました。

最後に、各委員の皆様には、長期にわたり慎重審議をいただきましたことに感謝を申し上げ、美作市新庁舎整備特別委員会の最終報告とさせていただきます。ありがとうございました。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

美作市新庁舎整備特別委員会委員長の報告が終わりました。

美作市新庁舎整備特別委員会は、議員全員で構成され、調査を行っておりますので、質疑はないものと思います。よって、美作市新庁舎整備特別委員会委員長報告に対する質疑を終了いたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。

なお、ただいまの美作市新庁舎整備特別委員会委員長報告において、委員会で調査中の事件について、調査終了の報告がありました。よって、美作市新庁舎整備特別委員会の調査は終了いたしました。

日程第４　議案第４６号　「美作市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例について」
議案第４７号　「美作市消防団員の任免、報酬、服務等に関する条例の一部を改正する条例について」

議長（山本　雅彦君）

続きまして、日程第４、議案第46号「美作市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例について」を議題とし、副市長より提案説明を求めます。

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、ただいま上程されました議案第46号「美作市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例について」を御説明申し上げます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正における新教育長については特別職となりますが、具体的な事務執行を行うなど、その職責、職務内容に鑑み、現行どおり常勤で職務専念義務が課せられることが望ましいとされており、条例で具体的な勤務時間を特定することが求められるため、新教育長の服務に関し勤務時間等を定めるものでございます。

以上、議案につきまして、御説明を申し上げました。御審議のほどよろしくお願いいたしまして、提案説明とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案説明が終わりました。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、質疑を終了いたします。

本件は、美作市議会申し合わせ事項及び会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第46号は委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

これより討論を行います。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、採決に入ります。

議案第46号「美作市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例について」、本案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（山本　雅彦君）

賛成多数。よって、議案第46号は原案のとおり可決されました。

続きまして、議案第47号「美作市消防団員の任免、報酬、服務等に関する条例の一部を改正する条例について」を議題とし、副市長より提案説明を求めます。

副市長。

副市長（安部　　薫君）〔登壇〕

それでは、ただいま上程されました議案第47号「美作市消防団員の任免、報酬、服務等に関する条例の一部を改正する条例について」を御説明申し上げます。

近年減少傾向にある団員数の確保を図るため、現行では市内居住者または市内勤務者と限定している団員の資格要件を撤廃し、年齢18歳以上で健康な方であれば団員となれるよう、団員資格の見直しを行うために条例の一部を改正するものであります。

以上、議案につきまして御説明を申し上げました。御審議のほどよろしくお願いいたしまして、提案説明とさせていただきます。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

提案説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ございませんか。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

この件につきましては、これはほかの自治体でやっておったというようなことがあって、これをやられた

のでしょうか。そういうことがあれば、具体的な例がありましたら参考のために教えていただきたいんですが。

議長（山本　雅彦君）

危機管理監。

危機管理監（山本　和毅君）

失礼します。

他の自治体での状況ということでございますが、お答えをさせていただきます。

当市を除きます県内の14市のうち、今回上程しています内容と同様に、市内居住者または市内勤務を限定していない自治体というのは、総社市、真庭市、浅口市の３市でございます。また、津山市、赤磐市など５市では、任命権者の団長が特に必要と認めれば、市内居住者または市内勤務者を限定しないというふうにしております。

以上でございます。

議長（山本　雅彦君）

よろしいか。

他にございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、質疑を終了いたします。

本件は、美作市議会申し合わせ事項及び会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第47号は委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

これより討論を行います。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

議案第47号「美作市消防団員の任免、報酬、服務等に関する条例の一部を改正する条例について」、本案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（山本　雅彦君）

全員賛成。よって、議案第47号は可決されました。

以上で今議会の日程は全て終了いたしました。

よろしいか。

岡﨑議員。

９番（岡﨑　正裕君）

済みません、終わりになりまして。

私の委員長報告の中で間違いがございましたので、訂正をさせていただきたいと思います。

議案第12号でございますけれども、私が申し上げたのは、美作市英田就労改善センターと申し上げましたけれども、正しくは美作市英田就業改善センターでございますので、訂正をよろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

以上で日程は全て終了いたしました。

この際、萩原市長より御挨拶をお願いいたします。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

平成29年３月の定例会大変御苦労さまでございました。

閉会に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。

まずは、この間34日間でございますけども、長い間の熱心な御審議、心から御礼を申し上げます。

恒例によりまして、会期中の動きについて報告をさせていただきます。

まず、議会中に概略をお知らせしましたが、夏期特別巡回ラジオ体操みんなの体操会につきましては、ことしの８月19日の土曜日、会場は美作野球場ということで予定が確定をいたしました。既に小学校の児童の皆さんや教職員の方々を対象にしまして、ＮＰＯ法人全国体操連盟指導員による講習会などを開催され、次第に気分が盛り上がっておりますので、どうぞ当日御参集賜りますように心からお願いいたします。

次に、作東産業団地でございますけども、２月に企業立地調印を締結をいたしました株式会社横山基礎工事様の第５号地におきまして、去る３月13日に岡山第３工場の建設起工式が挙行いたしました。

また、あしたになりますけども、22日には日本フィルム工業様と４の１号地になりますけども、その件につきましての企業立地調印式を開催できる運びとなりました。したがいまして、もう99％以上が売れたということで、今月中には完売御礼の横断幕を団地近傍に掲示をさせていただくということになっておりますので、心から御礼を申し上げて報告といたします。

その次でございますけれども、市内の公立文化施設につきまして、その活性化と有効利用を図るため、美作市公立文化施設活性化委員会を設置をし、検討をお願いをいたしておりましたけれども、その委員会におきまして議論が重ねられるとともに、先進地等の視察を踏まえられた結果、答申として、文化ホール整備検討報告書というものがまとめられまして、３月14日に小坂委員長ほかほとんど全ての委員の方々が御参集のもとで、私のところに進達がございました。今後報告書の御意見を尊重しながら、公立文化施設の施設整備及び活性化の具体策を検討してまいりたいと考えております。

また、同じ３月14日でございますけども、株式会社ショウワコーポレーション様の野球部への美作市旗貸与式を開催いたしました。同社野球部は、平成29年度より本拠地を同社の本社のある美作市当市に移して、都市対抗野球大会等の全国大会出場などを目指されております。選手の皆様の当市への移住による人口増にもつながるものと期待をしております。

次に、３月17日には湯郷Ｂｅｌｌｅの選手並びにスタッフ全員の方々の当市への表敬訪問がございまして、大変にうれしく思いました。湯郷Ｂｅｌｌｅに関しましては、本議会においても、議員の皆様から御心配をいただいておりますけれども、亘新監督、加戸新キャプテンから今シーズンの開幕に当たり、ことし一年で１部リーグへの復帰を目指すということで、まさにＶ字回復へ向けての力強い決意表明もございましたけれども、チーム一丸となって戦っていかれるという感覚もその状況を見ながらつかまさせていただいたところでありまして、市といたしましても３月26日の開幕戦からしっかりと応援をしていきたい、あるいは選手の励みとなっていきたいというふうに考えてございます。

次に、特別支援学校の誘致につきまして、進展があったことにつきまして報告をいたします。

去る３月17日に開催されました学校法人日本体育大学の理事会におきまして、美作市の意向を踏まえて、美作市への進出を念頭に置いた議論を進めることが報告をされました。日体大として本格的に議論を進めていきたいという趣旨だと理解をしております。今後は国の動向や、あるいは国との関係を整理をしながら、プロジェクトチームを当市としても立ち上げるなど、日体大との協議を加速させ、より有利な財源で特別支援学校が設置ができるように、具体的に取り組んでまいりたいというように考えております。

さて、来月の市議会議員選挙につきましては、多くの議員の方々が引き続き立候補を予定されていると伺っております。どうかくれぐれも御自愛の上、御健闘をいただきますように心からお祈りを申し上げているところでございます。

一方、この議会をもって御勇退をされる議員の方々もおられますけれども、これまでの本市の発展に御尽力を賜りましたこと、心から御礼を申し上げたい、その気持ちでいっぱいであります。本当にありがとうございました。今後御在任中とかわることなく市政に御関心をお持ちをいただきまして、いろんな形でおつき合い並びにお力添えを頂戴できますように、心からお願いをいたしたいと思います。

以上、非常に簡単でございますけども、本議会閉会に当たりまして、お礼の意味を込めまして御挨拶をさせていただきました、どうもありがとうございました。〔降壇〕

議長（山本　雅彦君）

平成29年第１回３月美作市議会定例会の閉会に当たり、私からも一言御挨拶を申し上げます。

議員の皆様には２月16日の開会以来本日まで34日間にわたり、平成29年度予算を初めとする重要議案の御審議を賜りまして、ここに全ての日程を終了し、閉会の運びになりましたことに心から感謝を申し上げます。

執行部におかれましては、今議会で出されました数々の提言や意見に真摯に耳を傾けられ、よりよい市政への取り組みとしていただきたいと念願をいたします。

我々議員の任期もあと一月余りとなりました。この４年間、思いがけず道上市長が逝去されるというまことに残念な出来事もございました。そして、その後萩原新市長の誕生と大きな変化もあったわけでございます。しかし、時の流れは立ちどまることはありません。私たちに課せられた使命は、この美作市を住みよい町に、心豊かな、そして安心・安全で活気にあふれた町としていくことであります。

今期限りで議員を引退されます方々におかれましては、長きにわたり市政に尽くされたその功績に惜しみない拍手を送りたいと思います。去って去らずと申します、引き続き後に残る者たちに御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。そして、引き続き市政に参画を目指す方々におかれましては、御健闘と勝利をお祈りいたすものでございます。この４年間まことに御苦労さまでございました。また、この３年間なれない議長職の私に御協力、御助言をくださいましたこと、心より感謝を申し上げます、ありがとうございました。

お諮りをいたします。

今定例会の会議に付された事件は全て終了いたしました。よって、会議規則第７条の規定により、本日をもって閉会したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（山本　雅彦君）

異議なしと認めます。

以上をもって平成29年第１回３月美作市議会定例会を閉会といたします。

大変御苦労さまでございました。

午後２時38分　閉会

上記会議次第は事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するためにここに署名します。

平成29年３月21日

美作市議会議長　　山　本　雅　彦

会議録署名議員　　山　本　重　行

会議録署名議員　　金　谷　典　子

その他資料

代表質問【平成２９年第２回（３月）美作市定例会】

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
1	友和会 14番　小渕繁之	1.平成２９年３月美作市市長所信表明について	①美作市の人口動態について ②美作市財政状況について ③教育について ④平成２９年度一般会計予算について ⑤公共交通空白地域の交通弱者対策について ⑥美しい里山公園整備について ⑦市民の皆様の声なき声の市政への反映について ⑧安全で安心して暮らせる福祉の充実に関する事業について ⑨個性を伸ばす教育、文化、芸術の充実について ⑩地域産業の活性化と観光振興の充実について ⑪自然豊かな環境を活かした魅力ある地域づくりについて	市　　長	54

一般質問【平成２９年第２回（３月）美作市定例会】

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
1	６番　則本陽介	1.市民ファーストの行政推進について	①昨年実施された市民アンケート調査に基づく行政の推進について	市　　長 副 市 長 政策審議監 担当部長	72
		2.心停止現場における心肺蘇生の普及について	①心肺蘇生普及の取組について ②２４時間を通じてＡＥＤが使用可能な設置場所の選定と推進について	市　　長 副 市 長 教 育 長 政策審議監 担当部長	69
2	16番　日笠一成	1.「市民アンケート」の結果とその対応について	①住民の声を施策に反映させることを目的に行った「市民アンケート」結果の対応について	市　　長	76
		2.旧県立江見商業高等学校跡地等を活用した地域の活性化などの対策について	①学校法人日本体育大学の誘致（進出）計画の進捗状況と今後の取り組みのプロセスについて	市　　長	77
		3.安心・安全なまちづくりについて	①住民間の身近なトラブルを早期に解決するため、庁舎などを「仲裁」会場として無償提供する協定を、岡山弁護士会と締結された事の補足説明	市　　長	80
3	７番　萬代師一	1.残土処分場について	①残土処分場確保の取り組み状況と今後の方針について	市　　長 建設部長	81
		2.交通手段の確保について	①市内循環バス・デマンドバス・デマンドタクシーの現状と課題と今後の取り組みについて ②タクシー利用補助について ③高齢者ドライバーの現状と免許証自主返納の状況について	市　　長 市民部長	85
4	17番　山本重行	1.土居地区のメガソーラーについて	①土居地区のメガソーラーは現在、県・地元との関係はどのような状況か ②地元の反対運動をどのように理解されているのか	市　　長 担当部長	90
		2.過疎地域の交通便の確保について	①生活協同組合方式による交通便の確保の施策はどうなったか	市　　長 担当部長	92
		3.市長の新春のインタビューの内容について	①インタビューで言われている「高齢者の負担軽減」「子育て世代への支援」「障害者福祉の向上」の具体的な内容について	市　　長 担当部長	92
5	５番　谷本有造	1.市消防団について	①現状について（組織・活動・役割） ②今後について	市　　長	93
		2.交通安全対策について	①カーブミラー・ガードレール・白線等の現状について ②点検と要望について	市　　長	97
		3.市内バスについて	①現状と課題	市　　長	98
6	３番　安藤　功	1.２０２０年東京オリ・パラのホストタウンについて	①ベトナムを相手国としてホストタウンの登録がされたが具体的にどの様な取組を考えておられるか？ そしてそれは一過性のものでなく、将来のまちづくりに役立つような取組を考えられているか？	市　　長 担当部長	103

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		2.美作市の危機管理について	①地震や台風などの大きな災害に備えての車両運搬具や資機材等の燃料確保についての考えは？ ②大雪時や豪雪時の避難勧告もしくは避難、市民の安全確保をどの様に考えられているか？具体的なマニュアルが必要では？	市　長 担当部長 危機管理監	108
7	４番　安本博則	1.市有財産について	①財産管理の考え ②職務について	市　長 副市長 政策審議監 総合戦略監 危機管理監 各担当部長	117
		2.庁舎問題について	①建議書について	市　長	120
		3.保育園（所）の入園（所）について	①待機ゼロの取り組み	教育長	124
		4.土地取得について	①取得後の登記について	担当部長	126
		5.交通手段について	①免許証返納時の市の対応について ②デマンドバスの運行について	市民部長	127
		6.消防団の年末夜警について	①夜警日の短縮について ②時間短縮について	危機管理監	128
		7.入札について	①当初予算と補正予算の金額について	横山副市長	130
8	２番　重平直樹	1.湯郷ベルについて	①湯郷ベルの支援について	市　長 担当部長	132
9	８番　尾髙誉久	1.太陽光発電について	①美作市内に太陽光発電が設置されておりますが、この功罪についてお尋ねします	市　長 教育長 担当部長	135
		2.防災道路と学校施設について	①第一小学校の防災道路について ②第一小学校・北小学校の屋体について		140
		3.救急救命について	①救急救命に対応する小児科、産婦人科の手立ては無いか		142
		4.火葬場について	①美作地域の多数の皆さんが火葬場の新築を望んでおられます		144
		5.小さな拠点づくりについて	①この事業を進めて行く上で水洗トイレが不可欠です		145
１０	13番　岩江正行	1.農地保全と農業再生、儲かる農業と所得の安定について尋ねる	①需要と供給の法則 地域の気候、風土条件にあった農作物、市場において価格の安定した農作物の調査・研究はしているのか ②耕作放棄地の現状と原因究明と将来にむけての展望と課題について尋ねる	市　長 副市長 教育長 政策審議監 企画部長	150
		2.野田レーシングスクール施設運営等の補助金が適正に処理されているか 平成２９年度にむけて生徒の確保は十分か尋ねる	①施設運営補助金として設置後５年にわたり毎年限度額１，０００万円の補助金の支出を予定しているが目的外に流用していないか ②岡山国際サーキットの同サーキット内のミニコースを第三者の改修工事を実施しているが補助事業名は「モータースポーツ」振興発展を通じた体験型スポーツツーリズム確立事業ときいているが、青少年少女モータースポーツ振興会では補助金を流用することが可能なのか尋ねる	経済部長 総務部長 建設部長 危機管理監	163

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
			③野田レーシングスクール平成２９年度生徒募集について平成２７年、２８年度は生徒数が非常に少ないが経営不能に陥らないよう美作市としての生徒募集、支援の取組について尋ねる		
		３.海外出張の目的、費用対効果について尋ねる	①滞在費用、交通費、同行者人数、出張回数、滞在日数		169
１１	11番　本城宏道	１.市政について	①庁舎整備は市民委員会の建議を無視していないか ②外国人観光客はこの数年で国別にどの様に推移しているか ③欧州トップセールスの訪問先や事業効果をどの様に考えているか ④野田レーシングスクールの現状と市教委との関係はどうなっている ⑤メガソーラーについて、開発業者と実施協定を結んだが地元の反対をどうとらえているか ⑥雲海に関連して元市長を提訴しているが、現状と見通しについて ⑦雲海は、管理委託をしようとされているようだが、これ迄の経過を報告されたい	市　　長 担当部長	172
		２.農業問題について	①新規就農者の現状と支援策について問う ②農作物のブランドとしてのラベルはどうしているか そしてブランド作物の支援は具体的にどう推進しているのか ③森林行政について森林組合と充分連携が計られているか	市　　長 担当部長	182
		３.障がい者関連について	①「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」による条例制定は考えているのか	担当部長	186
		４.教育関連について	①美作型保幼小中連携教育推進事業をかかげているが、どの様にすすめているのか、保育と幼教とは異なるが、特に問題はないか	教 育 長	187
１２	12番　鈴木悦子	１.武蔵の里について	①宮本武蔵の生誕地である宿泊施設五輪坊が今のままでいいのでしょうか ②H２８.９でクアガーデンが閉館しました。地域の方々、周辺の方達も代替の風呂の要望が大変多いのですが、市のお考えをお尋ねします	市　　長 担当部長	189
		２.（仮）美作市スポーツ医療看護専門学校の学生寮について	①１２月議会で学生寮についてお尋ねしました。その後の進捗状況はどのようになっていますか ②市、商工会、民間の連携で学生寮をとの質問をしましたが、その後の経過をお尋ねします。		194
１３	15番　万殿紘行	１.昨年、各省庁への陳情の効果は	①昨年２月、市長と共に６人の議員で各省庁へ陳情 その効果　滋慶学園も含めて	市　　長	202
		２.都市公園事業について	①現在の状況及び２９年度の計画内容	市　　長	208
		３.男女共同参画について 残業、土、日の祭日出勤	①行政がかかわる団体及び役所関係　目標	市　　長	212

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		4.市内皆様の健康寿命のひきのばし	①平均寿命より男性、女性共１０才位短いと言われているが	市　　長	213
		5.雲海温泉について	①その後、どの様になっているのか	市　　長	216
		6.美作市内、文化財観光・剣道愛好家	①美作市内文化財の現状 ②美作市内文化財の有効活用	市　　長 教 育 長	217
		7.市内小、中学校での「いじめ」現状	①市内小、中学校「いじめ」について	教 育 長	221
		8.幼児教育について	①就学前の教育	教 育 長	219
１４	１番　金谷典子	1.美作市の情報管理について	①美作市情報セキュリティ対策の実施状況について ②個人情報の取り扱いと危機管理の観点からの情報セキュリティ対策の在り方について	市　　長 担当部長	223
		2.美作市の住民の移動手段について	①高齢者、出産後の母子、障がいのある方、等の移動手段について ②現在の市内バスについて	市　　長 担当部長	229
１５	10番　西元進一	1.庁舎建設について	①市民目線からの取り組み ②合併問題の観点からの取り組み ③世間が注目している問題を正面から取り上げる問題	市　　長 担当部長	232
		2.岡山道の延長問題	①岡山道の延長問題について		235
		3.監査委員の罷免について	①ブログ問題を中心にしているが、いつ頃気付いていたか ②監査委員の給料はどうなるのか		237
		4.学校給食無償化問題	①学校給食無償化問題への取り組みについて		239
		5.欧州へのトップセールスについて	①参加者の選考について		242
		6.湯郷ベル問題の現状と支援について	①湯郷ベル問題の現状と支援について		244
１６	９番　岡﨑正裕	1.臨時会の招集について	①臨時会はどのような場合に招集するのか、基本的な考え方	市　　長	246
		2.監査委員の罷免について 議案提出迄の経緯	①監査委員との話し合いは何回程度行ったのか	市　　長	249